京都府遺跡調査報告集

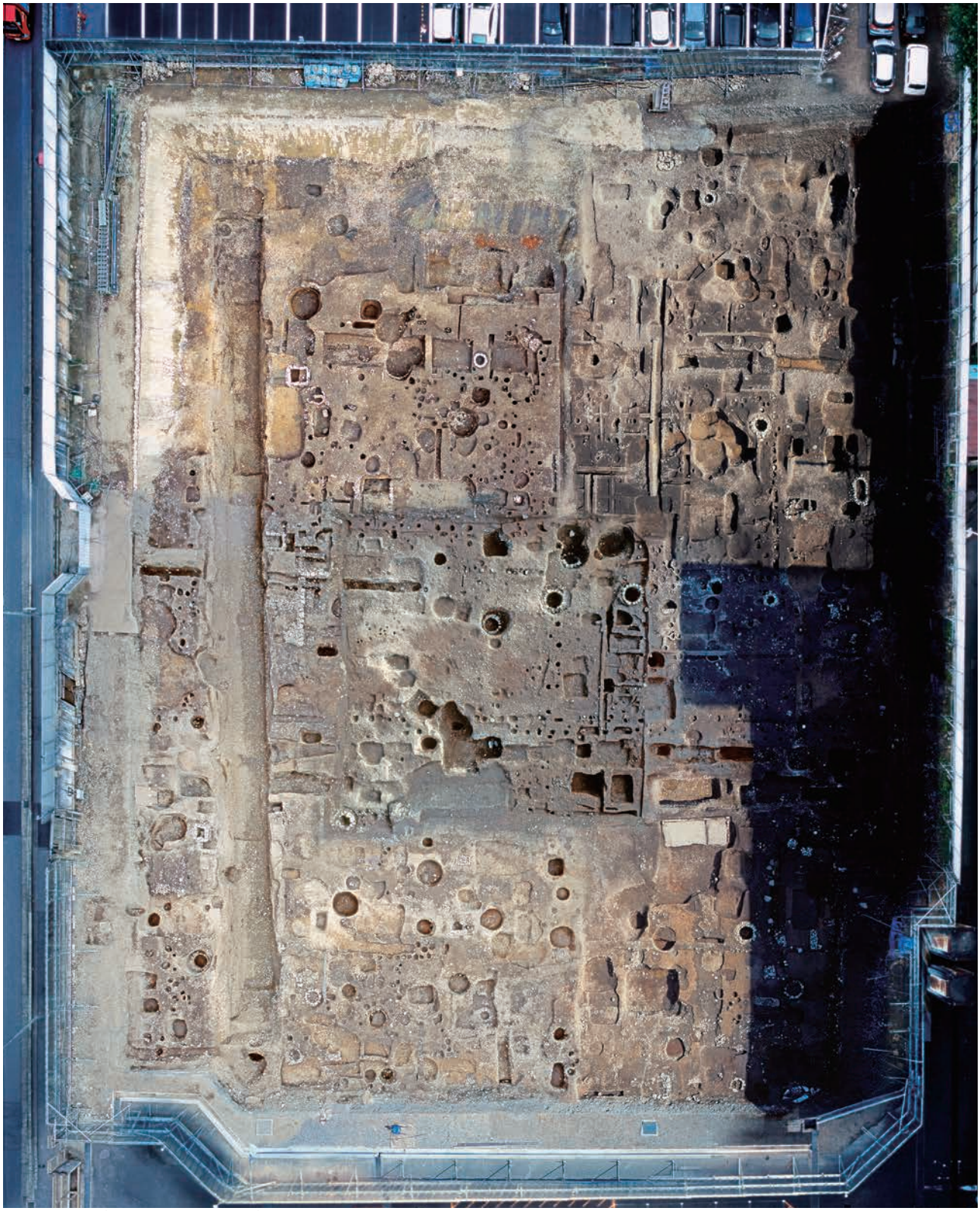
第176冊

平安京跡（左京一条三坊二町）

２０１８

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

巻頭図版１　平安京跡（左京一条三坊二町）



第３面全景（合成写真、左が北）

巻頭図版２　平安京跡（左京一条三坊二町）

堀Ａ全景（東から）

巻頭図版３　平安京跡（左京一条三坊二町）

南北土坑群（北から）

巻頭図版４　平安京跡（左京一条三坊二町）

第４面全景（合成写真、左が北）

序

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターは、昭和56年４月に設立されて以来、37年間にわたって京都府内の各地域に所在する埋蔵文化財の発掘調査を実施してまいりました。

これらの調査成果を広く府民の皆様方にお伝えし、我々の祖先の歩んできた跡を多くの方々に知っていただくよう努めることが責務だと考えております。

本書は、平成27・28年度に京都府警察本部の依頼を受けて実施した、平安京跡の発掘調査報告を収録したものです。本書を学術研究の資料として、また、地域の歴史や埋蔵文化財への関心と理解を深めるために、ご活用いただければ幸いです。

発掘調査を依頼された京都府警察本部をはじめ、京都市文化市民局などの各関係機関、ならびに調査にご参加、ご協力いただきました多くの皆様に厚くお礼申し上げます。

平成30年３月

公益財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター

理　事　長　　井　上　満　郎

例　　言

1．本書に収めた報告は下記のとおりである。

平安京跡

2．遺跡の所在地、調査期間、経費負担者及び報告の執筆者は下表のとおりである。

遺　跡　名	所　在　地	調査期間	経費負担者	執筆者
平安京跡	京都市上京区下長者町新町西入藪ノ内町 42 番地	平成 27 年 9 月 3 日～ 平成 28 年 3 月 17 日 平成 28 年 4 月 4 日～ 平成 29 年 1 月 6 日	京都府警察本部	中川和哉 引原茂治 岡﨑研一 綾部侑真 田原葉月

3．上記 1 事業 1 遺跡は本部事務所(向日市寺戸町)で整理・報告作業を実施した。作業については、調査担当者の指示のもと調査課企画調整係が協力して実施した。

4．本書で使用している座標は、世界測地系国土座標第Ⅵ座標系によっており、方位は座標の北をさす。また、国土地理院発行地形図の方位は経度の北をさす。

5．土層断面等の土色や出土遺物の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』を使用した。

6．本書の編集は、調査課調査担当者の編集原案をもとに、調査課企画調整係が行った。

7．現場写真は主として調査担当者が撮影し、遺物撮影は、主として調査課企画調整係主査田中彰が行った。

本 文 目 次

平安京跡(左京一条三坊二町)発掘調査報告

１．はじめに---------- 1
２．遺跡の位置と環境---------- 2
３．調査の方法---------- 8
４．調査の経過・概要----------10
５．遺構----------11
６．遺物----------110
７．まとめ----------170

挿 図 目 次

平安京跡(左京一条三坊二町)

第１図　調査地及び周辺調査位置図---------- 3
第２図　守護職上屋敷図---------- 7
第３図　調査地地区割り図---------- 8
第４図　１ｂ・１ｃ地区東壁断面図----------12
第５図　２ｂ地区北壁断面図----------14
第６図　１ｃ地区南壁断面図----------16
第７図　３ｂ地区南壁断面図----------17
第８図　３ａ地区西壁断面図----------18
第９図　第１面全体平面図(１)----------20
第10図　第１面全体平面図(２)----------21
第11図　第１面遺構実測図(１)----------22
第12図　第１面遺構実測図(２)----------23
第13図　第１面遺構実測図(３)----------24
第14図　第１面遺構実測図(４)----------25
第15図　第１面遺構実測図(５)----------26
第16図　第１面遺構実測図(６)----------27
第17図　第１面遺構実測図(７)----------29
第18図　第２面遺構実測図(１)----------30
第19図　第２面遺構実測図(２)----------31

第20図　第２面全体平面図（１）----32
第21図　第２面全体平面図（２）----33
第22図　第２面遺構実測図（３）----34
第23図　第２面遺構実測図（４）----35
第24図　第２面遺構実測図（５）----36
第25図　第２面遺構実測図（６）----38
第26図　第２面遺構実測図（７）----39
第27図　第２面遺構実測図（８）----41
第28図　第２面遺構実測図（９）----42
第29図　第２面遺構実測図(10)----44
第30図　第２面遺構実測図(11)----45
第31図　第２面遺構実測図(12)----46
第32図　第２面遺構実測図(13)----48
第33図　第２面遺構実測図(14)----52
第34図　第２面遺構実測図(15)----53
第35図　第２面遺構実測図(16)----54
第36図　第２面遺構実測図(17)----55
第37図　第２面遺構実測図(18)----56
第38図　第２面遺構実測図(19)----57
第39図　第２面遺構実測図(20)----58
第40図　第２面遺構実測図(21)----59
第41図　第２面遺構実測図(22)----60
第42図　第２面遺構実測図(23)----62
第43図　第２面遺構実測図(24)----63
第44図　第２面遺構実測図(25)----64
第45図　第２面遺構実測図(26)----65
第46図　第２面遺構実測図(27)----67
第47図　第２面遺構実測図(28)----68
第48図　第２面遺構実測図(29)----69
第49図　第３面全体平面図（１）----72
第50図　第３面全体平面図（２）----73
第51図　第３面遺構実測図（１）----74
第52図　第３面遺構実測図（２）----75
第53図　第３面遺構実測図（３）----76
第54図　第３面遺構実測図（４）----78

第55図　第３面遺構実測図（５）----79
第56図　第３面遺構実測図（６）----80
第57図　第３面遺構実測図（７）----81
第58図　第３面遺構実測図（８）----82
第59図　第３面遺構実測図（９）----83
第60図　第３面遺構実測図(10)----84
第61図　第３面遺構実測図(11)----85
第62図　第３面遺構実測図(12)----86
第63図　第３面遺構実測図(13)----87
第64図　第３面遺構実測図(14)----89
第65図　第３面遺構実測図(15)----90
第66図　第３面遺構実測図(16)----91
第67図　第３面遺構実測図(17)----92
第68図　第３面遺構実測図(18)----93
第69図　第３面遺構実測図(19)----94
第70図　第３面遺構実測図(20)----95
第71図　第４面全体平面図（１）----98
第72図　第４面全体平面図（２）----99
第73図　第４面遺構実測図（１）----100
第74図　第４面遺構実測図（２）----101
第75図　第４面遺構実測図（３）----102
第76図　第４面遺構実測図（４）----103
第77図　第４面遺構実測図（５）----104
第78図　第４面遺構実測図（６）----105
第79図　第４面遺構実測図（７）----106
第80図　第４面遺構実測図（８）----107
第81図　第４面遺構実測図（９）----108
第82図　第１面出土遺物実測図（１）----111
第83図　第１面出土遺物実測図（２）----112
第84図　第２面出土遺物実測図（１）----114
第85図　第２面出土遺物実測図（２）----115
第86図　第２面出土遺物実測図（３）----116
第87図　第２面出土遺物実測図（４）----118
第88図　第２面出土遺物実測図（５）----119
第89図　第２面出土遺物実測図（６）----120

第90図　第２面出土遺物実測図（７）----121
第91図　第２面出土遺物実測図（８）----122
第92図　第２面出土遺物実測図（９）----124
第93図　第２面出土遺物実測図(10)----126
第94図　第２面出土遺物実測図(11)----127
第95図　第２面出土遺物実測図(12)----128
第96図　第２面出土遺物実測図(13)----129
第97図　第２面出土遺物実測図(14)----130
第98図　第２面出土遺物実測図(15)----131
第99図　第２面出土遺物実測図(16)----132
第100図　第２面出土遺物実測図(17)----134
第101図　第３面出土遺物実測図（１）----136
第102図　第３面出土遺物実測図（２）----137
第103図　第３面出土遺物実測図（３）----138
第104図　第３面出土遺物実測図（４）----139
第105図　第３面出土遺物実測図（５）----140
第106図　第３面出土遺物実測図（６）----140
第107図　第３面出土遺物実測図（７）----141
第108図　第３面出土遺物実測図（８）----142
第109図　第３面出土遺物実測図（９）----144
第110図　第３面出土遺物実測図(10)----145
第111図　第３面出土遺物実測図(11)----146
第112図　第３面出土遺物実測図(12)----148
第113図　第４面出土遺物実測図（１）----150
第114図　第４面出土遺物実測図（２）----151
第115図　第４面出土遺物実測図（３）----152
第116図　第４面出土遺物実測図（４）----153
第117図　第４面出土遺物実測図（５）----154
第118図　第４面出土遺物実測図（６）----155
第119図　第４面出土遺物実測図（７）----157
第120図　第４面出土遺物実測図（８）----158
第121図　第４面出土遺物実測図（９）----159
第122図　瓦実測図（１）----160
第123図　瓦実測図（２）----161

第124図　瓦実測図（３）----162
第125図　瓦実測図（４）----163
第126図　瓦実測図（５）----164
第127図　鉄製品実測図----165
第128図　青銅製品実測図----166
第129図　石製品実測図----166
第130図　石造物実測図----167
第131図　銭貨実測図----169
第132図　遺構変遷図（１）----171
第133図　遺構変遷図（２）----172
第134図　金箔瓦出土地点分布図----173
第135図　上屋敷建物復原図----175
第136図　惣構概略図----176
第137図　「上京の構え跡概略図」----177

付 表 目 次

平安京跡（左京一条三坊二町）

付表１　周辺の調査事例一覧---- 4
付表２　南北土坑群規模一覧表----50
付表３　調査地周辺堀一覧表----177
付表４　土器観察表----181
付表５　鉄製品観察表----212
付表６　鉄・銅製品観察表----214
付表７　石製品観察表----215
付表８　銭貨観察表----215

図 版 目 次

平安京跡（左京一条三坊二町）

巻頭図版１　第３面全景（合成写真、左が北）
巻頭図版２　堀Ａ全景（東から）
巻頭図版３　南北土坑群（北から）

巻頭図版４　第４面全景（合成写真、左が北）

平安京跡（左京一条三坊二町）

図版第１　(1)第１面１ｂ地区建物ＳＢ1b01全景（北から）
(2)第１面１ｂ地区建物ＳＢ1b01完掘状況全景（北から）
図版第２　(1)第１面３ｂ地区礎石据付穴群全景（東から）
(2)第１面３ｂ地区溝ＳＤ3b02全景（東から）
図版第３　(1)第１面２ｂ地区礎石据付穴列ＳＡ2b03・06全景（北から）
(2)第１面２ｂ地区礎石据付穴ＳＡ2b03・06全景（東から）
図版第４　(1)第１面３ａ地区ＳＢ3a59全景（南東から）
(2)第１面１ａ地区上屋敷全景（東から）
(3)第１面２ａ地区上屋敷全景（北から）
図版第５　(1)第１面礎石据付穴ＳＰ1b69（西から）
(2)第１面礎石据付穴ＳＰ1b66（西から）
(3)第１面礎石据付穴ＳＰ1b65（西から）
図版第６　(1)第１面礎石据付穴ＳＰ1b01（西から）
(2)第１面礎石据付穴ＳＰ1b03（西から）
(3)第１面礎石据付穴ＳＰ1b05（西から）
図版第７　(1)第１面礎石据付穴ＳＰ1b06（東から）
(2)第１面礎石据付穴ＳＰ1b07（東から）
(3)第１面礎石据付穴ＳＰ1b88（東から）
図版第８　(1)第１面礎石据付穴ＳＰ1a13（北から）
(2)第１面礎石据付穴ＳＰ2b07（南から）
(3)第１面礎石据付穴ＳＰ2b03（南から）
図版第９　(1)第１面礎石据付穴ＳＰ3a65（東から）
(2)第１面礎石据付穴ＳＰ3a63（東から）
(3)第１面礎石据付穴ＳＰ3a60（東から）
図版第10　(1)１ｂ地区東壁断面（北西から）
(2)２ｂ地区北壁断面（南西から）
図版第11　(1)２ｂ地区北壁断面（南西から）
(2)１ｃ地区東壁断面（西から）
図版第12　(1)１ｃ地区南壁断面（北から）
(2)１ｃ地区南壁断面（北から）
図版第13　(1)３ｂ地区南壁断面（北東から）
(2)３ａ地区西壁断面（東から）

図版第14　(1)第２面１ｂ地区全景(南から)
(2)第２面１ｂ地区全景(南東から)
図版第15　(1)第２面１ｂ地区全景(南西から)
(2)第２面３ａ地区全景(北から)
図版第16　(1)第２面柱穴列ＳＡ2a194(東から)
(2)第２面柱穴列ＳＡ2a661(南から)
図版第17　(1)第２面柱穴列ＳＡ2a37(北から)
(2)第２面柱穴列ＳＡ2a37(南東から)
(3)第２面柱穴列ＳＡ2a17(西から)
図版第18　(1)第２面石列ＳＸ1a107・63(南西から)
(2)第２面石列ＳＸ1a107・63(西から)
図版第19　(1)第２面土坑ＳＫ1a57(南から)
(2)第２面土坑ＳＫ1a57(南東から)
(3)第２面土坑ＳＫ1a57・石列ＳＸ1a107(南東から)
図版第20　(1)第２面土坑ＳＫ1a51(南西から)
(2)第２面石列ＳＸ1a107(南東から)
(3)第２面土坑ＳＫ1a57・石列ＳＸ1a107(西から)
図版第21　(1)第２面井戸ＳＥ2a77半掘状況(南東から)
(2)第２面井戸ＳＥ2a77(北から)
(3)第２面井戸ＳＥ2b276(北から)
図版第22　(1)第２面井戸ＳＥ3b129(南から)
(2)第２面井戸ＳＥ3b129(南から)
(3)第２面井戸ＳＥ1b145(東から)
図版第23　(1)第２面石室ＳＫ2b302検出状況(北から)
(2)第２面石室ＳＫ2b302堆積状況(北から)
(3)第２面石室ＳＫ2b302(西から)
図版第24　(1)第２面井戸ＳＥ2a57半掘状況(北から)
(2)第２面井戸ＳＥ2a57(北から)
(3)第２面石室ＳＫ3b676(南から)
図版第25　(1)第２面石室ＳＫ3a268・272半掘状況(西から)
(2)第２面石室ＳＫ3a268・272(西から)
(3)第２面集石遺構ＳＸ3b55(東から)
図版第26　(1)第２面集石遺構ＳＸ3b55半掘状況(北から)
(2)第２面土坑ＳＫ3b26(北から)
(3)第２面土坑ＳＫ3b26半掘状況(北から)

図版第27　(1)第２面土坑ＳＫ2a157・241堆積状況(東から)
(2)第２面土坑ＳＫ2a157断面(東から)
(3)第２面土坑ＳＫ2a157(東から)
図版第28　(1)第２面集石遺構ＳＸ3a165・198～200・202、石室ＳＫ3a201、
土坑ＳＫ3a192(南から)
(2)第２面集石遺構ＳＸ3a199、石室ＳＫ3a201(西から)
(3)第２面集石遺構ＳＸ3a199、石室ＳＫ3a201(北から)
図版第29　(1)第２面集石遺構ＳＸ3a200(南から)
(2)第２面集石遺構ＳＸ3a202半掘状況(西から)
(3)第２面集石遺構ＳＸ3a198(西から)
図版第30　(1)第２面集石遺構ＳＸ3a165(南から)
(2)第２面土坑ＳＫ3a192(北から)
(3)第２面土坑ＳＫ3a192半掘状況(東から)
図版第31　(1)第２面土坑ＳＫ3a192完掘状況(北から)
(2)第２面土坑ＳＫ1b187(北から)
(3)第２面土坑ＳＫ1b188(北から)
図版第32　(1)第２面土坑ＳＫ2b369断面(南西から)
(2)第２面土坑ＳＫ2b369断面(西から)
(3)第２面土坑ＳＫ2b369完掘状況(西から)
図版第33　(1)第２面集石遺構ＳＸ1b391(北から)
(2)第２面土坑ＳK2b311(北から)
(3)第２面土坑ＳK2b311獣骨出土状況(北から)
図版第34　(1)第２面土坑ＳＫ2b280遺物出土状況(東から)
(2)第２面土坑ＳＫ2b339(西から)
(3)第２面集石遺構ＳＸ2a230・231(南西から)
図版第35　(1)第２面土坑ＳＫ3a450遺物出土状況(北から)
(2)第２面柱穴ＳＰ2a17遺物出土状況(南東から)
図版第36　(1)第２面土坑ＳＫ1c13遺物出土状況(西から)
(2)第２面土坑ＳＫ1c13遺物出土状況(北から)
図版第37　(1)第２面土坑ＳＫ1b436・481・493・494(西から)
(2)第２面土坑ＳＫ1b436断面(東から)
(3)第２面土坑ＳＫ1b460断面(南から)
図版第38　(1)第２面土坑ＳＫ1b481遺物出土状況(東から)
(2)第２面土坑ＳＫ1b481遺物出土状況(東から)
(3)第２面土坑ＳＫ1b494遺物出土状況(西から)

図版第39　(1)第２面土坑ＳＫ1a55(北から)
(2)第２面土坑ＳＫ1a55遺物出土状況(北から)
(3)第２面土坑ＳＫ1b151(西から)
図版第40　(1)第２面土坑ＳＫ1b151遺物出土状況(西から)
(2)第２面土坑ＳＫ2b173断面(南西から)
(3)第２面土坑ＳＫ2b173断面(北から)
図版第41　(1)第２面石室ＳＫ1c34、土坑ＳＫ1c126(南から)
(2)第２面石室ＳＫ1c34遺物出土状況(東から)
(3)第２面土坑ＳＫ1c126遺物出土状況(東から)
図版第42　(1)第２面土坑ＳＫ3b32半掘状況(西から)
(2)第２面土坑ＳＫ3b32半掘状況(南東から)
(3)第２面土坑ＳＫ3b32石材出土状況(南東から)
図版第43　(1)第２面土坑ＳＫ3b32(西から)
(2)第２面土坑ＳＫ3b32断面(東から)
(3)第２面土坑ＳＫ3b32完掘状況(西から)
図版第44　(1)第２面土坑ＳＫ3b85断ち割り断面(南東から)
(2)第２面土坑ＳＫ3b85(東から)
(3)第２面土坑ＳＫ3b147鉄製品出土状況(南から)
図版第45　(1)第２面土坑ＳＫ3b147鉄製品出土状況(南から)
(2)第２面集石遺構ＳＸ3b128(西から)
(3)第２面集石遺構ＳＸ3b128半掘状況(東から)
図版第46　(1)第２面１ｃ地区南北土坑群全景(北から)
(2)第２面南北土坑ＳＫ203－３・4断面(北西から)
図版第47　(1)第２面南北土坑ＳＫ203－３・4断面(北西から)
(2)第２面南北土坑ＳＫ1c20断面(南西から)
図版第48　(1)第２面南北土坑ＳＫ1b152・479断面(北から)
(2)第２面南北土坑ＳＫ1c155・261断面(北東から)
図版第49　(1)第２面南北土坑ＳＫ1b479(北から)
(2)第２面南北土坑ＳＫ1c175断面(北から)
図版第50　(1)第２面南北土坑ＳＫ1c08断面(南から)
(2)第２面南北土坑ＳＫ1c08(南から)
図版第51　(1)第２面土坑ＳＫ2b288～290(北西から)
(2)第２面土坑ＳＫ2b288断面(北から)
図版第52　(1)第２面土坑ＳＫ2b289断面(北から)
(2)第２面土坑ＳＫ2b290断面(北から)

図版第53　(1)第３面調査地北側全景(南西から)
(2)第３面調査地北側全景(西から)
図版第54　(1)第３面堀Ａ全景(東から)
(2)第３面堀Ａ全景(西から)
図版第55　(1)第３面堀Ａ　ａ－ａ’断面(東から)
(2)第３面堀Ａ　ｃ－ｃ’断面(東から)
図版第56　(1)第３面堀Ａ　ａ－ａ’断面下部(東から)
(2)第３面堀Ａ　ｂ－ｂ’断面(東から)
図版第57　(1)第３面堀Ａ全景(東から)
(2)第３面堀Ａ(東から)
図版第58　(1)第３面堀Ｂ北側(南から)
(2)第３面堀Ｂ北側完掘状況(北から)
図版第59　(1)第３面堀Ｂ　ｉ－ｉ’断面(北から)
(2)第３面堀Ｂ　ｈ－ｈ’断面(南から)
図版第60　(1)第３面１ｃ・２ｂ地区全景(北東から)
(2)第３面１ｃ・２ｂ地区全景(北西から)
図版第61　(1)第３面３ａ・３ｂ地区全景(南から)
(2)第３面１ｃ・２ｂ地区全景(北西から)
図版第62　(1)第３面３ａ全景(北から)
(2)第３面３ａ全景(西から)
図版第63　(1)第３面建物ＳＢ2b206(北西から)
(2)第３面建物ＳＢ2b206(東から)
図版第64　(1)第３面柱穴ＳＰ2b211(南から)
(2)第３面柱穴ＳＰ2b210(南から)
(3)第３面柱穴ＳＰ2b212(南から)
図版第65　(1)第３面柱穴ＳＰ2b209(南東から)
(2)第３面柱穴ＳＰ2b208(東から)
(3)第３面柱穴ＳＰ2b207(東から)
図版第66　(1)第３面柱穴列ＳＡ1c341(南から)
(2)第３面柱穴列ＳＡ2b640(西から)
図版第67　(1)第３面柱穴列ＳＡ1b341半掘状況(南西から)
(2)第３面柱穴列ＳＡ1b341半掘状況(西から)
(3)第３面柱穴列ＳＡ1b341断面(西から)
図版第68　(1)第３面柱穴列ＳＡ1b341断面(南から)
(2)第３面柱穴列ＳＡ1b341断面(南から)

(3)第３面柱穴列ＳＡ1b341(南から)
図版第69　(1)第３面柱穴列ＳＡ1b341断面(北から)
(2)第３面柱穴列ＳＡ1b341(南から)
(3)第３面柱穴列ＳＡ1b341全景(南から)
図版第70　(1)第３・４面２ｂ地区柱穴群(南東から)
(2)第３・４面２ｂ地区柱穴群(北から)
図版第71　(1)第３面溝ＳＤ3b369(東から)
(2)第３面溝ＳＤ3b369断面(東から)
図版第72　(1)第３面溝ＳＤ2b522(北から)
(2)第３面溝ＳＤ2b522、柱穴列ＳＡ2b640(西から)
図版第73　(1)第３面溝ＳＤ2b522断面(北東から)
(2)第３面溝ＳＤ2b522断面(北東から)
(3)第３面井戸ＳＥ1c515(南から)
図版第74　(1)第３面井戸ＳＥ1b219(南東から)
(2)第３面井戸ＳＥ1b219(東から)
(3)第３面井戸ＳＥ1b219断ち割り状況(南東から)
図版第75　(1)第３面井戸ＳＥ1b211半掘状況(北西から)
(2)第３面井戸ＳＥ1b211半掘状況(東から)
(3)第３面井戸ＳＥ1b211(東から)
図版第76　(1)第３面井戸ＳＥ1b211(東から)
(2)第３面井戸ＳＥ1b211断ち割り断面(東から)
(3)第３面井戸ＳＥ2b476(西から)
図版第77　(1)第３面井戸ＳＥ3a493半掘状況(西から)
(2)第３面井戸ＳＥ3a493(南西から)
(3)第３面井戸ＳＥ3a493(北から)
図版第78　(1)第３面集石遺構ＳＸ2a472・515(北東から)
(2)第３面集石遺構ＳＸ2a515(東から)
(3)第３面集石遺構ＳＸ2a515半掘状況(東から)
図版第79　(1)第３面集石遺構ＳＸ2a472(北東から)
(2)第３面集石遺構ＳＸ2a472断面(東から)
(3)第３面集石遺構ＳＸ2a425断ち割り状況(北から)
図版第80　(1)第３面集石遺構ＳＸ2a254検出状況(北東から)
(2)第３面集石遺構ＳＸ2a254検出状況(北から)
(3)第３面集石遺構ＳＸ2a254検出状況(北西から)
図版第81　(1)第３面集石遺構ＳＸ2a254(北から)

(2)第３面集石遺構ＳＸ2a254半掘状況(北西から)
(3)第３面集石遺構ＳＸ2a254半掘状況(北から)
図版第82　(1)第３面土坑ＳＫ2b280断面(東から)
(2)第３面土坑ＳＫ2b280遺物出土状況(東から)
(3)第３面土坑ＳＫ2b397遺物出土状況(南東から)
図版第83　(1)第３面土坑ＳＫ3b344遺物出土状況(東から)
(2)第３面土坑ＳＫ3b344遺物出土状況(東から)
(3)第３面土坑ＳＫ2b414(南から)
図版第84　(1)第３面土坑ＳＫ1a62(南から)
(2)第３面土坑ＳＫ2a716(北西から)
図版第85　(1)第４面土坑ＳＫ3a772遺物出土状況(西から)
(2)第４面土坑ＳＫ3a772遺物出土状況(西から)
(3)第４面土坑ＳＫ3a772遺物出土状況(東から)
図版第86　(1)第４面溝ＳＤ1b660全景(西から)
(2)第４面１ｃ地区及び溝ＳＤ1b660全景(北から)
図版第87　(1)第４面石列ＳＸ2b446、土坑ＳＫ2b259(北から)
(2)第４面石列ＳＸ2b446、土坑ＳＫ2b259(北から)
図版第88　(1)第４面石列ＳＸ2b446(南西から)
(2)第４面石列ＳＸ2b446(西から)
(3)第４面石列ＳＸ2b446(西から)
図版第89　(1)第４面土坑ＳＫ2b259堆積状況(南東から)
(2)第４面土坑ＳＫ2b259堆積状況(北東から)
図版第90　(1)第４面溝ＳＤ2a481遺物出土状況(南から)
(2)第４面溝ＳＤ2a481(南から)
図版第91　(1)第４面溝ＳＤ2a481断面(北から)
(2)第４面溝ＳＤ2a481断面(北から)
(3)第４面溝ＳＤ2a481遺物出土状況(北から)
図版第92　(1)第４面溝ＳＤ2a481遺物出土状況(北から)
(2)第４面溝ＳＤ2a481遺物出土状況(西から)
(3)第４面溝ＳＤ2a481断面(北から)
図版第93　(1)第４面３ｂ地区溝ＳＤ1b660(東から)
(2)第４面３ｂ地区溝ＳＤ1b660(北から)
図版第94　(1)第４面２ｂ地区溝ＳＤ1b660(東から)
(2)第４面２ｂ地区溝ＳＤ1b660(西から)
図版第95　(1)第４面溝ＳＤ1b660断面(東から)

(2)第４面溝ＳＤ1b660断面(東から)
図版第96　(1)第４面溝ＳＤ1b660断面(東から)
(2)第４面溝ＳＤ1b660断面(東から)
(3)第４面溝ＳＤ1b660断面(西から)
図版第97　(1)第４面井戸ＳＥ2b616(北東から)
(2)第４面井戸ＳＥ2b616(南から)
図版第98　(1)第４面井戸ＳＥ2b616断面(南東から)
(2)第４面井戸ＳＥ2b616断面(北西から)
(3)第４面井戸ＳＥ2b616下層断面(南から)
図版第99　(1)第４面土坑ＳＫ3b463遺物出土状況(南から)
(2)第４面土坑ＳＫ3b463断面(南から)
(3)第４面土坑ＳＫ3b486断面(南から)
図版第100 (1)第４面土坑ＳＫ2b442(北から)
(2)第４面土坑ＳＫ2b442遺物出土状況(南から)
(3)第４面土坑ＳＫ2b442遺物出土状況(西から)
図版第101 (1)第４面土坑ＳＫ2b442(西から)
(2)第４面土坑ＳＫ2b567(南から)
(3)第４面土坑ＳＫ2b567(北から)
図版第102 (1)第４面土坑ＳＫ2b720遺物出土状況(南東から)
(2)第４面土坑ＳＫ2b720遺物出土状況(北西から)
(3)第４面土坑ＳＫ2b720遺物出土状況(北から)
図版第103 (1)第４面土坑ＳＫ2b566遺物出土状況(西から)
(2)第４面土坑ＳＫ2b566遺物出土状況(南から)
(3)第４面土坑ＳＫ2b566(南から)
図版第104 (1)第４面３ａ地区全景(東から)
(2)第４面柱穴列ＳＡ3a872(西から)
図版第105 (1)第４面３ａ地区北西部(南西から)
(2)第４面溝ＳＤ3a822断面(北西から)
図版第106 (1)第４面溝ＳＤ3a868断面(南西から)
(2)第４面溝ＳＤ3a868・890(東から)
図版第107 出土遺物１
図版第108 出土遺物２
図版第109 出土遺物３
図版第110 出土遺物４
図版第111 出土遺物５

図版第112 出土遺物６
図版第113 出土遺物７
図版第114 出土遺物８
出土遺物９

平安京跡（左京一条三坊二町）発掘調査報告

１．はじめに

本発掘調査は京都府警察本部新庁舎建設工事に伴って、京都府警察本部の依頼を受けて実施した。現在の京都府警察本部は昭和２年に建てられた歴史的建造物であるが、老朽化が目立つことと、周辺の警察関連建物の中に耐震基準を満たさないものがあることから、京都府警察本部の北側約100mにある京都府警察中立売署跡地に諸施設を統合した地上６階建ての新庁舎を建設することとなった。

調査地点は新町通と下長者町通に面した角地で、平安京では左京一条三坊二町にあたり、江戸時代末には京都守護職上屋敷が築かれた。

発掘調査に際しては、既存建物の解体や、残土置き場の確保のため地区ごとに随時調査を実施した。現地調査は平成27年度から平成28年度の２か年にわたり実施し、その際４面の遺構検出面を認識し、平安時代から近世までの多くの遺構を検出した。発掘調査で出土した土器類、金属製品、石製品などは整理箱約1,200箱を数える。

調査においては現地発掘調査を先行して実施し、そののち平成28・29年度には出土遺物の理化学処理と化学分析を行い、平成29年度は整理報告作業を本格的に実施した。

なお、調査に係る経費は京都府警察本部が全額負担した。

現地発掘調査及び整理作業時には、地元滋野学区自治連合会及び薮之内町町内会、京都府教育委員会、京都市文化財保護課、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、京都府上京警察署、鋤柄俊夫、山田邦和、高橋康夫、樂吉左衛門、木立雅朗、馬瀬智光、梶山博史、岡泰正、山田慎一、森田安一郎、山本雅和、井上満郎、菱田哲郎、上原真人、日向進、松尾信裕、松本百合子、小田木富慈美、森毅、畑中英二、登谷伸宏、伊野近富（順不同・敬称略）のご協力とご指導を得た。記してお礼申し上げたい。

（岡崎研一）

〔調査体制等〕

平成27年度調査

現地調査責任者	調査課長	有井広幸
調査担当者	調査課第２係長	中川和哉
	同　主査	岡崎研一・黒坪一樹
	同　調査員	綾部侑真・渡邉拓也・田原葉月
調査場所	京都市上京区下長者町通新町西入藪ノ内町42番地	
調査期間	平成27年９月３日～平成28年３月17日	
調査面積	2,200㎡	

平成28年度調査

現地調査責任者	調査課長	森　正
調査担当者	調査課第２係長	中川和哉
	同　主　査	岡﨑研一
	同　副主査	引原茂治・竹原一彦
	同　調査員	綾部侑真・田原葉月・清水早織・武本典子
調査場所	京都市上京区下長者町通新町西入藪ノ内町42番地	
調査期間	平成28年４月４日～平成29年１月６日	
調査面積	3,360㎡	

平成29年度（整理等）

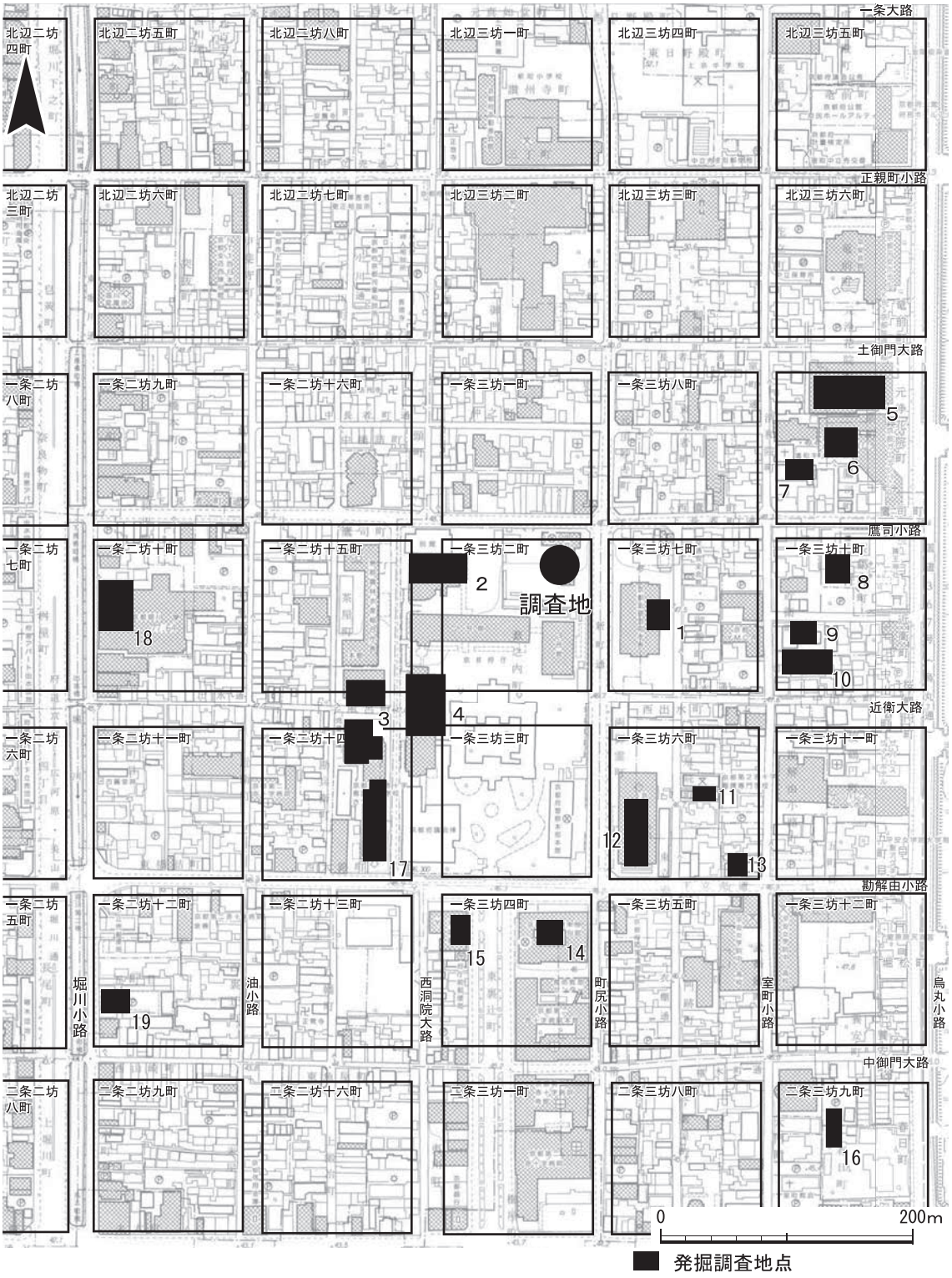
整理等責任者	調査課長	小池　寛
整理等担当者	調査課課長補佐兼第２係長	中川和哉
	同　副主査	引原茂治・岡﨑研一
	同　主　任	綾部侑真
	同　調査員	田原葉月

２．遺跡の位置と環境

１）遺跡の位置と地理的環境

調査地は、北は下長者町通、東は新町通、西は西洞院通、南は下立売通に囲まれる藪之内町内にある。現在の京都府庁北側に位置し、旧中立売警察署の跡地である。

調査地点は断層によって形成された京都市を中心に広がる京都盆地内にある。京都盆地は東・西・北を山に囲まれ、北東の比叡山と北西の愛宕山はランドマークであるとともに信仰の対象となっている。盆地内は北に向かい平坦部の標高が上がり、南には現在埋め立てによって現存しないが、京都府最大の淡水湖巨椋池があった。『日本後紀』によると桓武天皇は平安遷都時に地形が城のようであるとのことから、山背国から山城国に名前を変えるよう命じている。盆地中央部は比較的平坦で永らく日本の都として機能した。盆地内には東から桂川・御室川・紙屋川・鴨川と４つの河川が通り、それぞれが扇状地を形成している。鴨川は古来洪水を引き起こす河川で、平安京左京域は鴨川によって形成された扇状地上に展開する。調査地もこの鴨川の扇状地上にあたり、石田志郎による(注1)と、洪積世に離水した低段丘面にあたる。調査地ではチャートや頁岩を含む鴨川の扇状地由来の硬い礫層を地盤とし、聚楽土と呼ばれる黄褐色の粘土層が部分的に堆積している。礫層と黄褐色粘土層の層理面は凹凸があり、遺構検出面において礫層が露出している部分があった。聚楽土は豊臣秀吉が造営した聚楽第周辺でとれる粘土質の土の総称で、日本建築の壁土や楽焼の粘土として使用される。



第１図　調査地及び周辺調査位置図(1/5,000)

付表１　周辺の調査事例一覧

No.	調査地	調査概要	文献
1	左京一条三坊七町	平安時代末～鎌倉時代の礎石柱建物・柵列 室町・江戸時代の井戸・土坑など	鳥羽離宮跡調査研究所 『埋蔵文化財概報集』（1976）
2	左京一条三坊二町	平安時代～江戸時代の各時代の西洞院大路西側溝 金箔瓦・近世初頭の国産・輸入陶磁器出土	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター（1991） 『京都府遺跡調査概報』第 45 冊
3	左京一条二坊 （茶屋四郎次郎邸跡）	平安～室町時代のピット群 近世の井戸・石列・石垣・土坑など 中世の青磁・白磁　近世初頭の国産・輸入陶磁器出土	（財）京都市埋蔵文化財研究所（1987） 『昭和 59 年度京都市埋蔵文化財調査概要』
4	左京一条三坊二・三町 左京一条二坊十四・十五町	平安～江戸時代各時代の近衛大路路面・北側溝・南側溝 室町～江戸時代各時代の西洞院大路路面・東側溝・西側溝 重圏軒丸瓦・桐紋金箔方形瓦・華南三彩盤	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター（1989） 『京都府遺跡調査概報』第 33 冊
5	左京一条三坊九町	平安後期～末の土御門大路の路面・南側溝　宅地内の区割り溝 越州窯製青磁椀（毛彫文様）出土	（財）古代学協会（1983） 『平安京跡研究調査報告』第 10 輯
6	〃	平安時代の宅地割りの溝　中期～後期の溝・土坑・柱穴・東西溝 戦国時代の堀　室町後半～安土・桃山時代の土坑・井戸・石室	（財）京都市埋蔵文化財研究所（1989） 『昭和 61 年度京都市埋蔵文化財調査概要』
7	〃	戦国時代～桃山時代の土坑・井戸・石室・石組遺構・溝 平安時代の溝２条・柵列　鉄や鉄滓、坩堝が石組遺構・石室より出土	（財）京都市埋蔵文化財研究所（1989） 『昭和 61 年度京都市埋蔵文化財調査概要』
8	左京一条三坊十町	江戸時代前期以前の遺構はなし	花園大学考古学研究室（1976） 京都市護王神社境内の発掘調査概報－江戸時代遺跡の考古学的調査－』
9	左京一条三坊十町	平安時代中期の溝　室町～江戸時代の遺構群 10 世紀の溝から土師器・須恵器・灰釉・緑釉陶器・白磁・青磁出土	京都市編（1983） 『史料京都の歴史』第二巻　考古
10	左京一条三坊十町 （旧二条城跡）	平安時代の溝・土坑・建物跡　室町～江戸時代の石室・土坑・井戸 土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・輸入陶磁器・瓦類	（財）京都市埋蔵文化財研究所（2013） 『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』2012-13
11	左京一条三坊六町	江戸時代の土坑・井戸 室町時代の土坑・溝・ピット群。桃山時代の金箔巴紋軒丸瓦出土	（財）京都市埋蔵文化財研究所（1981） 『昭和 56 年度京都市埋蔵文化財調査概要』（発掘調査編）
12	左京一条三坊六町	安土・桃山時代の斜め方向の堀・南北方向の堀	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 1994 年 『京都府遺跡調査概報』第 59 冊
13	〃	桃山時代の旧二条城の濠跡 平安～近世の井戸・柱穴群	古代文化調査会（2012） 現地説明会資料
14	左京一条三坊四町 （修理職）	平安時代の南北方向の柵列	京都府教育委員会（1974） 『埋蔵文化財発掘調査概報』
15	左京一条二坊十三町	平安前期の土坑・中期の井戸　室町時代の井戸・柱穴・土坑 安土・桃山時代の庭園施設とみられる池。それにとりつく流路２条。楽焼が１点出土。 江戸時代の東西・南北の敷地境を示す柱列。	（財）京都市埋蔵文化財研究所（1998） 『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報』
16	左京一条三坊九町	旧二条城の濠　東西方向の柱列	古代文化調査会（2016） 現地説明会資料
17	左京一条二坊十四町 （左獄・囚獄司）	平安時代の掘立柱建物・井戸・土坑。富寿神宝出土 安土・桃山時代の中国製男子像。江戸時代の町境の区割り	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター（1995） 『京都府遺跡調査概報』第 63 冊
18	左京一条二坊十町	近世の掘立柱建物・井戸・土坑・漆喰溝 中世の土坑	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター（1993） 『京都府遺跡調査概報』第 52 冊
19	左京一条二坊十二町	平安中期～後期の土坑・大型の方形縦板横桟組井戸 室町時代の井戸　礎石建物・宅地割りの東西柵 平安時代の井戸から白磁が目立って出土	（財）京都市埋蔵文化財研究所（2004） 『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報』

２）歴史的環境（周辺の調査）

①縄文時代～古墳時代

縄文時代の遺跡は京都市内では比叡山山麓の北白川遺跡群が有名であるが、調査地の北側の内膳町遺跡や南西側の二条城北遺跡では縄文土器が出土している。また両遺跡では弥生時代の遺物も出土しており、調査地周辺で弥生時代や古墳時代の土器片がごく少量出土するが、その実態は明らかになっていない。

②平安～鎌倉時代

調査地周辺は左京域に含まれ、大内裏の東側の区画にあたる。この二条以北の左京域には、各役所に仕えた下級役人や地方から徴用された人々の宿泊場所である諸司厨町や離宮、貴族の邸宅が設けられていた。調査地は平安京の条坊では北側を鷹司小路、西側を西洞院大路、南側を近衛大路、東側を町尻小路に四方を区画された左京一条三坊二町の北東部にあたる。この場所は、左京一条三坊一・二・七・八町の方二町の規模を持つ左衛門府の厨町である左衛門町があったとされ、近衛大路を挟んだ南の左京一条三坊三～六町には平安京の諸施設の修理を担当する修理職の厨町である修理職町があった。

大内裏東側の景観も安貞元（1227）年に土御門町から出火した火事によって大内裏の建物が焼失し、そののち建て直されることはなかったため、景観が一変することとなった。

③室町時代

永和３（1377）年、３代将軍足利義満は、柳原小路・北小路・烏丸小路・室町小路に囲まれた場所に「花の御所」を造営した。花の御所の南に位置する三条坊門殿と交互に使用され、八代将軍・義政まで将軍邸となった。明徳３（1392）年、南北両朝の合体にともない、それまで北朝の皇居であった東洞院土御門殿が正式に内裏となり、これが現在の京都御所に繋がる。これにより、上京は政治の中心地として復活し、武家屋敷や公家邸宅が近辺に集中していく。特に花の御所周辺には、一色・細川・畠山などの有力大名が邸宅を構えた。また、至徳元（1384）年には、七重の塔をもつ相国寺が花の御所の東側に造営された。

応仁元（1467）年から始まる応仁・文明の乱以降、度重なる戦乱によって、平安京は都市部を縮小し、上京と下京に分かれ、それぞれが堀や木戸・釘貫などの防御施設に囲われており、上京と下京は室町通によって結ばれていた。

永禄７（1564）年に勘解由小路室町の管領斯波義将の屋敷跡に足利義輝の邸宅、武衛陣が造営されるが、永禄８（1565）年に三好義継、松永久秀により襲撃され焼失した。永禄12（1569）年、織田信長によって武衛陣跡に足利義昭の居城である旧二条城が規模を拡大して造営される。今回の調査地の南西側に位置する左京一条三坊六町の調査（第１図12）で、旧二条城の堀の可能性がある遺構を検出している。元亀４（1573）年、織田信長による上京焼き討ち後、足利義昭が河内へ追放されたことにより室町幕府は消滅した。

④安土・桃山時代

天正10（1582）年、織田信長が明智光秀の謀反により、本能寺で倒れた後、実権を握った豊臣秀

吉によって、応仁・文明の乱以降、荒廃していた都市部が再興されていくことになる。

天正14(1586)年には、豊臣秀吉によって西洞院通の西側に聚楽第の造営が始まる。聚楽第の周りには大名屋敷が配され、調査地周辺にも大名屋敷が立ち並んでいたと考えられている。発掘調査によって屋敷の屋根を飾った金箔瓦が出土している。天正19(1591)年には、御土居の造営が開始される。

このような大規模な造営事業とともに、市中の地割の改編も実施した。寺町から高倉、堀川以西、押小路以南の地域に半町ごとに南北の小路を通した。これにより、平安京以来の「碁盤の目」の正方形の町割りの中心に小路が通され、より多くの家や商店を道路に面して建てられるようになった。

文禄元(1592)年に伏見(指月)城の造営が始まると、完成した文禄３(1594)年に、秀吉は伏見城に移ることになる。秀吉は甥の英次に関白職と聚楽第を譲るが、しだいに不仲になり、秀吉は秀次を自害させる。文禄４(1595)年、秀次の死後に聚楽第は破却される。聚楽第の東に配されていた大名屋敷も、伏見へ移転し、商人などの町人が暮らす居住空間になったと考えられる。

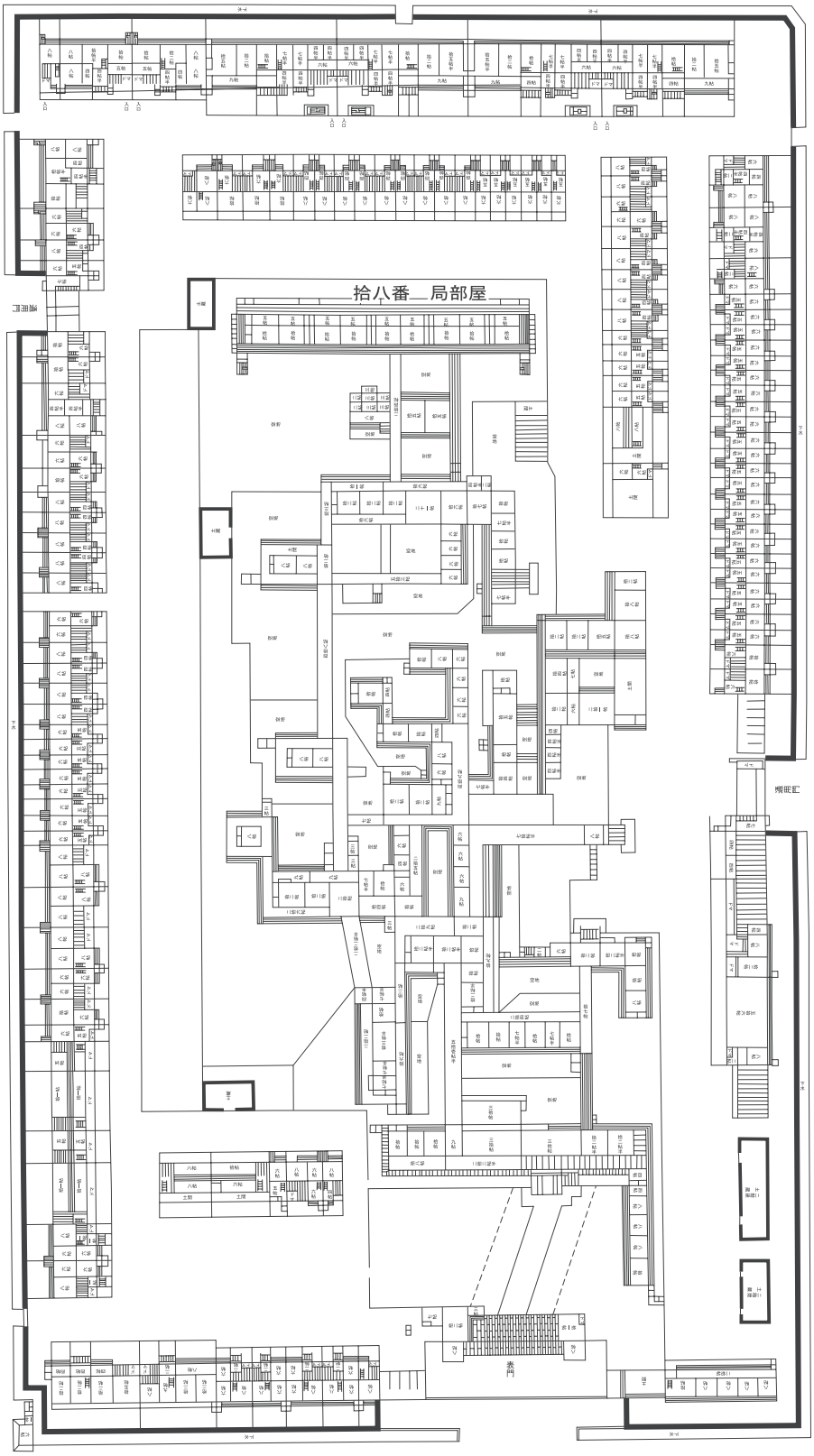
⑤江戸時代

京都の政治的中心は二条城の北側の江戸幕府によって設けられた京都所司代に移る。調査地の位置する左京一条三坊二町の町割りは、寛永14(1637)年の「洛中絵図」では東西南北に４分割され、調査区は下長石町と上総町に含まれる。調査地内には貞享２(1685)年刊の『京羽二重』及び宝永２(1705)年刊の『京羽二重(寶永板)』によると仙台藩の呉服所である大文字屋宇右衛門が店舗を構えていた。また、『京羽二重(寶永板)』では長崎糸割符年寄りである長崎屋忠七が、宝暦４(1751)年刊の『京羽二重織留大全』では長崎糸割符商人である江原忠七がいた。長崎屋忠七は寶永通寶の鋳造を請け負った商人の一人として知られている。江原忠七は屋号を銭屋とも呼ばれており、代の異なる店主の可能性がある。また、調査地西側に位置する左京一条二坊十五町には宝永の大火以後、茶屋四朗次郎の邸宅が移ってくるなど、商人など富裕層による土地利用も行われていた。

江戸時代の京都市中は大きな火災が多く、調査地付近では、元和の大火(1620)、宝永の大火(1673)、天明の大火(1788)、嘉永の大火(1854)の少なくとも４度の火災による延焼を受けているとされる。この他に、禁門の変(1864)により周辺が焼けたとされるが、調査地では火災の痕跡を確認することはできなかったため、延焼は及んでいないと考えられる。

⑥江戸時代末

文久２(1862)年に会津藩主松平容保は、幕府の弱体化から悪化する京都市内の治安維持、禁裏の警護などのために新設された京都守護職に就き、京都所司代・京都町奉行所・京都見廻組・新選組を配下に収めた。容保は藩兵千人を１年交代で京都に在住させた。松平容保は金戒光明寺を拠点として京都守護職の職務にあたり、藩兵は複数の宿舎で居住していた。幕府はこれまであった多くの町を買い上げ現在の薮之内町とし、京都守護御用屋敷用地とした。屋敷は文久３(1863)年末までに完成したが、松平容保は守護職御用屋敷に常駐せず、金戒光明寺をはじめとする複数



第２図　守護職上屋敷図
（「守護職上屋舗絵図」『大工頭中井家建築指図集』・『京都の歴史７』を元に作成）

の仮館で政務にあたった。絵図によれば、南に大きな門を持ち、敷地中央部には守護職や重臣たちの御殿がありその周りには２階建ての長屋風建物が配置されている。慶応３(1867)年12月の王政復古号令をもって京都守護職が廃止される。当該地の守護職上屋敷も廃止され、慶応４ (1868)年４月には京都裁判所となり、その後、軍務官・京都府庁・中学校と変遷をたどり、明治18(1885) 年再び京都府庁が現在の敷地に戻り、調査地には中立売警察署が建てられた。

なお、中立売警察署は2007年に廃止されている。

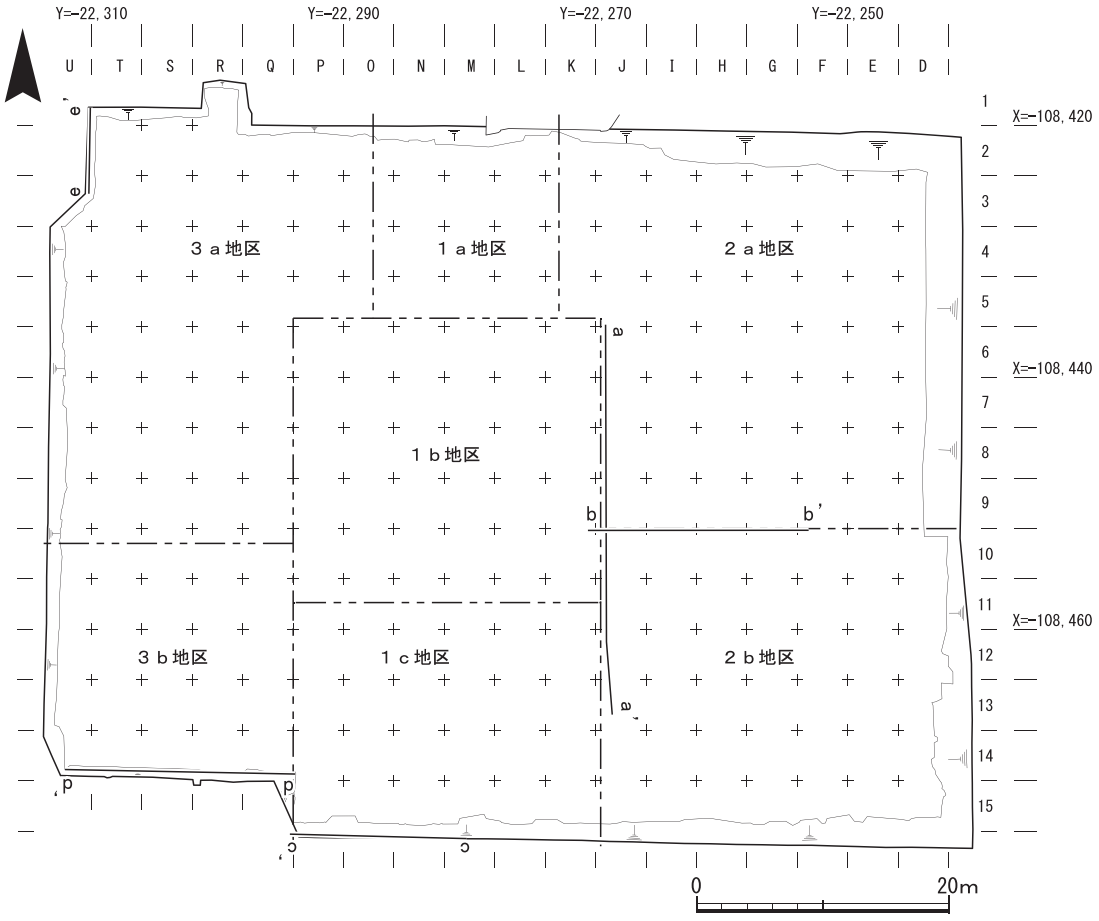
（中川和哉・田原葉月）

３．調 査 の 方 法

１)地区割りの設定について

発掘調査は、工事の工程や土置場の関係から、調査地を７分割して実施した(第３図)。大きく東西に３分割し、中央を１地区、東側を２地区、西側を３地区とした。また、それぞれの地区にアルファベットの小文字を北側から付与し、枝番号とした。１地区は１ａ・１ｂ・１ｃ、２地区は２ａ・２ｂ、３地区は３ａ・３ｂとなる。

また、調査対象範囲を国土座標(世界測地系)の座標値を基準に、東西・南北列を４ｍ単位に分割し、１辺４ｍの正方形区割りを設定し、遺構の把握、遺物の取り上げを行った。東西軸は東か



第３図　調査地地区割り図

ら大文字のアルファベット、南北軸は北から数字で呼称し、地区名はその組み合わせで呼称する。その際、南北・東西の順で表記する（例：６－Ｈ区、14－Ｉ区）。

２）調査の方法について

調査地内に基準点をＧＰＳを用いて設置し、調査区を設定した。

調査にあたっては、遺構検出面直上まで重機による掘削を行い、その後人力により包含層の掘削、精査作業を実施し、遺構の検出を行った。第３遺構面より下層の遺構については、遺構が密集し明瞭な包含層を持たないため、４ｍの区割りを基本として人力にて遺構面の掘り下げを行い、順次遺構の検出・掘削作業を行った。調査の進行に伴い、必要に応じて記録図面作成・記録写真撮影を実施した。遺構の図化作業にあたっては、周辺の調査事例から遺構数が膨大になることが予想され、図化作業の簡略化を図るために、トータルステーション測量とともにオルソ画像による平面図作成を行った。調査地全体の平面図については、縮尺１/20・１/50で作成を行った。個別の遺構図面は基本的に縮尺１/20で作成し、遺物出土状況など必要に応じて縮尺１/10ないしは１/５で作成した。

３）遺構番号について

遺構番号は、調査の進捗に伴って地区ごとに通し番号を付与した。

また、遺構掘削の過程で種類を特定できたものからＳＫ・ＳＸなどの名称を付与した。使用した略号は、建物：ＳＢ、柱穴列・礎石据付穴列：ＳＡ、柱穴・礎石据付穴：ＳＰ、土坑：ＳＫ、井戸：ＳＥ、溝：ＳＤ、不明遺構・その他：ＳＸである。

遺構数が膨大であり、遺構番号の重複を防ぐため、略号と遺構番号の間に検出した地区名を表記する（例：ＳＫ3b242・ＳＸ1a200）。また、建物跡や柱穴列などは、構成する柱穴のうち、最も小さい遺構番号を建物・柱穴列番号とした。

４）報告書作成について

平成29年度は、平成27・28年度の調査で出土した遺物の整理作業ならびに、報告書の作成作業を実施した。

出土遺物の整理作業は、平成27年度から調査と並行して台帳登録・洗浄作業などの基礎的な作業については実施しており、平成29年度は台帳登録・洗浄作業を継続するとともに、注記・接合作業を実施した。また、注記の終了した遺物から報告に必要な遺物を抽出し、実測・拓本を実施した。実測を行ったものについては、遺物図面版下作成・トレース作業を実施し、併せて遺物観察表を作成した。報告書掲載遺物のうち、復元可能なものについては、石膏による復元を実施した。復元した資料及び破片資料の写真撮影を行い、遺物写真図版として掲載した。

また、遺構図の版下作成作業を行い、トレース作業を実施した。オルソ測量にて図化した遺構については、成果品をそのまま引用した。遺構図の作成は、調査地全体図を縮尺１/300で作成した。個別の遺構平面図については、柱穴列・溝などを縮尺１/200で、土坑や井戸は縮尺１/40または１/50で、遺物出土状況図は１/20でそれぞれ作成することを基本とした。

（綾部侑真）

４．調 査 の 経 過 ・ 概 要

１）調査の経過

①平成27年度の調査

平成27年９月３日から現地調査に着手した。調査対象地の中央に位置する１ｂ地区から調査を開始した。地表下50cmで嘉永７（1854）年の大火に伴う火災層を確認し、その上面で幕末の京都守護職上屋敷に伴う遺構が検出されたため、この面を第１面として調査を実施することとなった。その後、解体工事の進捗に伴い１ｃ・２ｂ地区の調査を11月９日から開始した。工事が終了したのちは、３ｂ地区の調査を実施した。３ｂ地区では、第１面で遺構の残りがよく、京都府教育委員会との協議の結果、現地公開を実施するため、遺構の一部を埋め戻したのちその南側を先行して掘削し下層の調査を進めることとなった。平成28年２月16日からは３ａ地区の調査を開始し、合わせて埋め戻した３ｂ地区の遺構の再検出を実施した。

１ｂ地区は重機による埋め戻し作業を実施し、平成28年１月14日には調査を終了した。残る１ｃ・２ｂ・３ａ・３ｂ地区については、次年度へ調査を継続することとし、３月17日に調査を終了した。遺構面の全体写真撮影については、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影作業を２回実施した。

調査期間中、平成27年11月４・５日の２日間、職場体験事業の一環として京都市立藤森中学校の生徒３名が発掘調査に参加した。

②平成28年度の調査

平成28年４月４日から調査を開始した。前年度から１ｃ・２ｂ・３ａ・３ｂ地区の調査を継続して実施した。１ｃ・２ｂ地区は全景写真撮影を行い、６月末日には重機による埋め戻し作業を実施し、調査を終了した。埋め戻し作業に合わせて、７月５日から１ａ・２ａ地区の掘削作業を開始した。第３面では１～３ａ地区に跨って、大規模な堀を検出した。深さが３ｍ近くになるため、重機を使用しながら掘削作業を実施し、掘削作業終了後は単管パイプによる柵と仮設橋を設置し、転落防止措置とした。第３面の調査終了後は、堀を先行して埋め戻し、第４面の調査を実施した。第４面の調査終了後、12月28日には埋め戻し作業を完了し、平成29年１月６日にすべて作業を終了した。各遺構面での全体写真撮影については、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影作業を４回実施した。

調査期間中、２度の現地公開を実施した。合わせて、公開日の前日には府庁と府警本部職員を対象とした現地公開を実施した。１度目は平成28年４月27日・29日に実施し、27日は307人、29日は413人の参加を得た。２度目は11月18･19日に実施し、18日は200人、19日は590人の参加を得た。

９月１日は、世界考古学会議ＷＡＣ－８に伴い、研究職員を対象として現地調査の公開を実施した。平成28年８月４日には、京都府立園部高等学校附属中学校の生徒たちが授業の一環として訪れた。

（綾部侑真）

５．遺 構

１）基本層序（第４～８図）

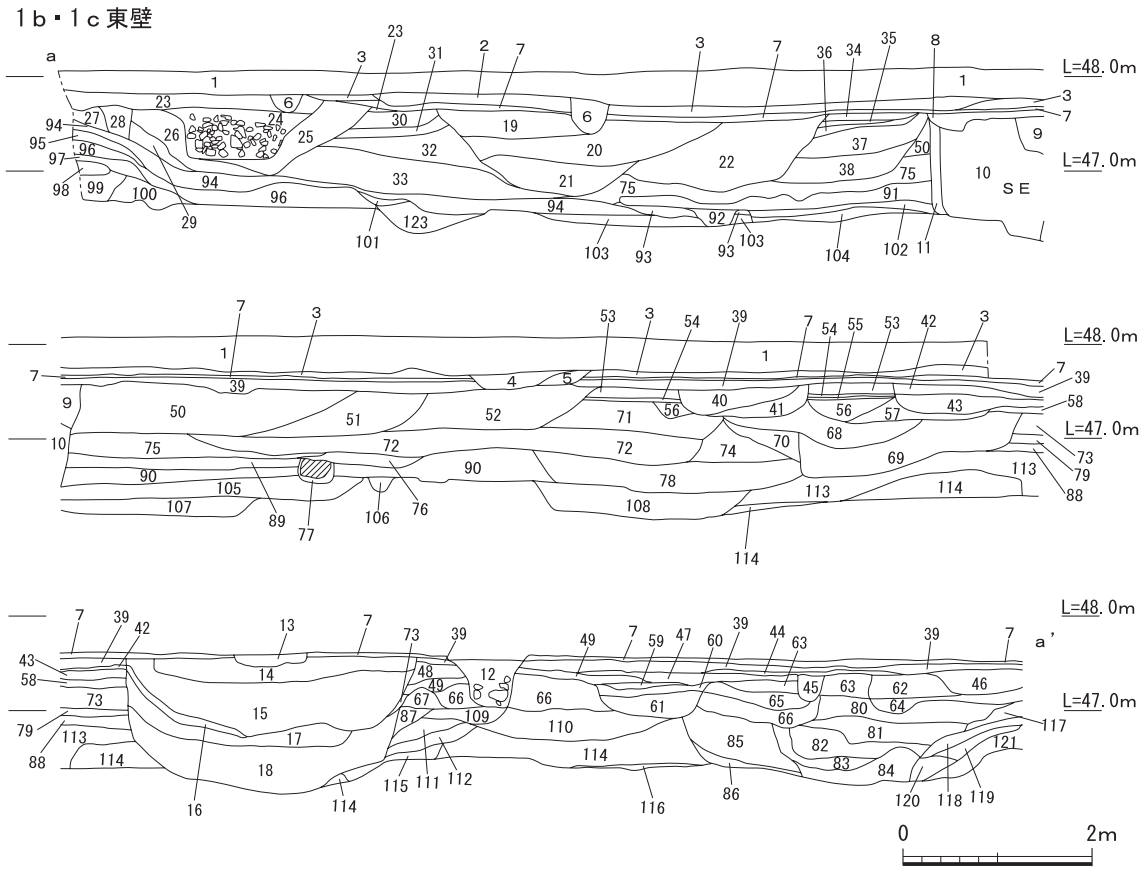
地区ごとに壁面を精査したが、時代の異なる後世の攪乱で大きく削平を受けており、堆積状況が良好に認められる箇所が少なかった。特に調査地北側から北東側については、旧中立売署建物で大きく削平され基盤層まで本来の地層が残っていなかった。比較的堆積層の残りがよかった１ｂ・１ｃ地区の東壁と１ｃ地区南壁の一部、３ｂ地区の南壁と２ｂ地区北壁、３ａ地区の西壁で記録を取った。上記断面以外に小規模な畦を任意あるいは小地区のメッシュに沿って設定するなどして調査を進めた。江戸時代以降の堆積層は、ブロック状に土を含むほか、数回にわたる火災のためか焼土や炭なども多く混入しており、土色が淡い赤色系を帯びる堆積層も確認できた。また整地が繰り返されたためか堆積層も厚い。こうした江戸時代堆積層の上部において整地層を確認し、第１面とした。中世以前の堆積層は褐色系の堆積となり、基盤層に近づくほど土色は暗色になった。下の遺構検出面に行くほど間層が薄く、部分的に間層がないところなどがあり、重複した柱穴や溝や土坑などの遺構認識が困難であった。このような状況が第２遺構面から確認できた。

第１面は、江戸時代末期の遺構検出面である。現地表面から0.5m付近に整地層があり、その上面を遺構検出面とした。１ｂ地区では標高約47.6mの浅黄色砂質土層（第４図７層）上面が遺構検出面で、単色の土が用いられていた。２ｂ地区では、浅黄色砂質土が残されておらず、黒褐色粗粒砂層（第５図16層）下から遺構が検出された。３ａ地区では、標高約47.9mの明治期以降の地層と考えられる石炭ガラ層（第８図７層）除去後に遺構を検出した。浅黄色砂質土は残されておらず、その下に堆積する第４図39層と同じように焼土を含む暗褐色極細粒砂層（第８図11層）がある。焼土は嘉永七（1859）年の火災に伴うものと考えられ、火災以降の整地層と考えられる。３ｂ地区では標高約47.6mの明黄褐色細粒砂層（第７図４層）上面で遺構を検出した。

第２面は安土・桃山～江戸時代前半の遺構検出面である。天明の大火（1788年）による焼土層を目安に重機による掘削を行い、調査を進めた。明確に焼土層を確認したのは１ｃ地区の南壁で、標高約46.9mを測る。焼土層から10数cm下で黄褐色シルト質細粒砂層（第６図44層）が確認でき、整地層と考えられる。２ｂ地区北壁のにぶい黄褐色細砂層（第５図65層）も同じ地層とみなした。これらの整地層はその下にある南北土坑群の分布と一致し、土坑掘削後の埋め戻しに伴う整地と考えられる。整地土除去後、安土・桃山～江戸時代前半の遺構が確認できた。

３ｂ地区から、南北土坑の検出面として標高約46.8mから固められたにぶい黄褐色細粒砂層（第７図26層）を広い範囲で確認したが、このような整地面は、他の地区からは認められなかった。発掘調査ではこの黄褐色細粒砂層上面で遺構検出作業し、除去後再び遺構検出作業を行った。調査地北側では南北土坑群の検出面は標高約47.2mとなり、本報告では同一遺構面として報告する。調査地中央である１ｂ地区では、これら整地層がなく標高約46.8mの第３遺構面と同じ面から同時期の遺構を検出した。この時期の遺構検出面は、標高47.2～46.8mで南へ緩やかに標高が下がる。

後述するように、南北土坑群の埋土は炭層や灰層などが薄層で積み重なり多量の遺物を含んで

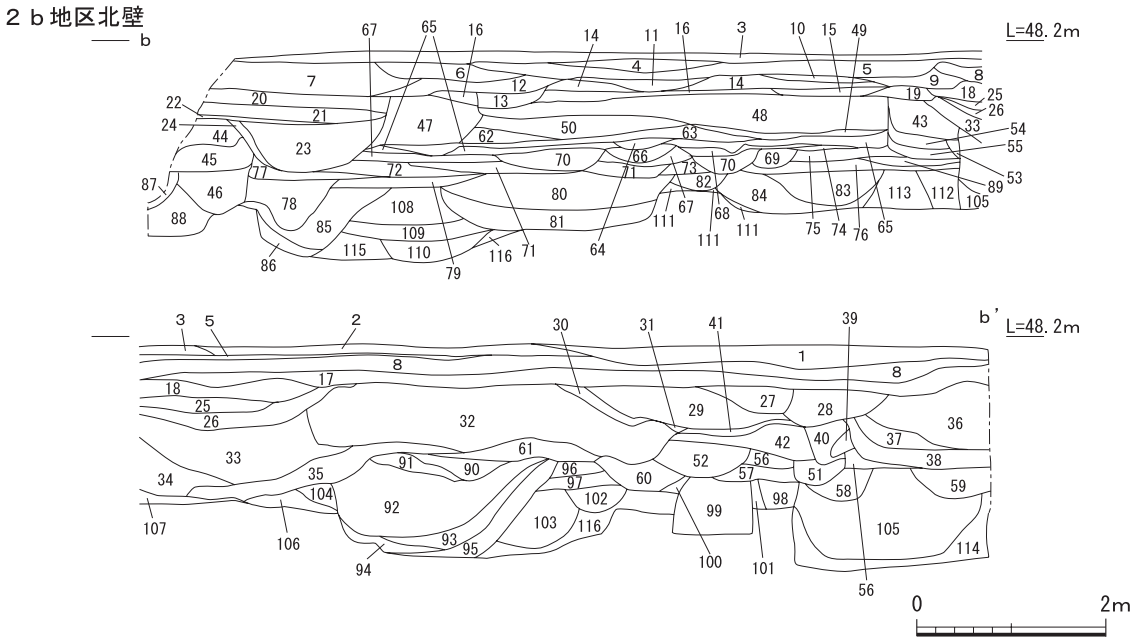


1．表土
2．オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉土
3．黒色〈2.5Y 2/1〉土（石炭ガラ混じる）
4．灰オリーブ色〈5Y 4/2〉土
（径５cm前後の石を含む、コンクリート混じる）
5．灰オリーブ色〈5Y 5/3〉土
6．撹乱
7．浅黄色〈2.5Y 7/4〉細粒砂（径３cm前後の石を含む）
8．オリーブ褐色〈2.5Y 4/4〉土
9．明黄褐色〈10YR 6/6〉土（径２cm前後の石を多く含む）
10．灰褐色〈7.5YR 5/2〉粘質土（径２cm前後の石を多く含む）
11．オリーブ褐色〈2.5Y 4/4〉土（やや粘質、極細粒砂を含む）
12．撹乱
13．黄褐色〈2.5Y 5/4〉土（レンガ、コンクリート片含む）
14．暗褐色〈10YR 3/4〉極細砂（焼土、瓦片多く含む）
15．暗褐色〈10YR 3/5〉細砂質極細砂（径１～20cmの石を多く含む）
16．黒褐色〈7.5YR 3/1〉細砂（炭化物とは異なる）
17．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉シルト混じる細粒砂
（径１～５cmの石を含む）
18．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト混じる極細粒砂
（径１～３cmの石を含む、炭化物多く混じる）
19．オリーブ褐色〈2.5Y 4/4〉土
20．暗褐色〈10YR 3/3〉土（拳大の礫含む）
21．黒褐色〈10YR 3/2〉土（径３～10cmの石を多く含む）
22．黒褐色〈2.5Y 3/1〉土（礫や瓦を多く混じる）
23．暗赤褐色〈5YR 3/2〉土
24．暗渠
25．赤褐色〈5YR 4/8〉土（焼土混じる）
26．浅黄色〈2.5Y 7/4〉土
27．明黄褐色〈2.5Y 7/6〉細粒砂
28．橙色〈5YR 6/6〉土
29．暗オリーブ色〈2.5Y 3/3〉極細粒砂
30．褐色〈10YR 4/4〉極細粒砂
31．オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉土（礫多数と瓦混じる）
32．暗褐色〈7.5YR 3/4〉土（径３cm前後の石を多く含む）
33．黒褐色〈7.5YR 2/2〉土
（炭混入、径15～20cmの石を含む、瓦混じる）
34．赤褐色〈2.5YR 4/8〉土（焼土少し混じる）
35．明黄褐色〈10YR 6/6〉土（整地土）
36．黄褐色〈10YR 5/6〉土（整地土）
37．褐色〈10YR 4/4〉土
（径５cm前後の石を含む、一部炭混じる）
38．黒褐色〈10YR 3/2〉土（瓦を多く混じる）
39．橙色〈5YR 7/8〉土（焼土混じる）
40．黄褐色〈2.5Y 5/3〉土
41．オリーブ褐色〈2.5Y 4/4〉極細粒砂
42．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉土（径３cm未満の細かい礫を含む）
43．橙色〈5YR 6/6〉土（焼土少し混じる）
44．橙色〈5YR 7/8〉土

第４図　１ｂ・１ｃ地区東壁断面図

１ｂ・１ｃ地区東壁断面図（ａ－ａ’）土色

45. にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉シルト混じる極細粒砂
46. 褐色〈10YR 4/4〉極細粒砂（径３cm前後の石を含む）
47. 暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂（焼土片混じる）
48. 橙色〈5YR 6/6〉土（焼土少し混じる）
49. 黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径１cm大の石を含む）
50. オリーブ褐色〈2.5Y 4/4〉土
（径20cm前後の石を多く含む）
51. 暗オリーブ色〈7.5Y 4/3〉細粒粒砂
（拳大の礫を含む）
52. オリーブ色〈5Y 5/4〉土
（径10cm前後の石を多く含む）
53. 灰オリーブ色〈5Y 5/2〉土
54. 浅黄橙色〈10YR 8/4〉土
55. 褐灰色〈10YR 4/1〉土（整地土）
56. 暗オリーブ色〈5Y 4/3〉土
57. 明黄褐色〈2.5Y 7/6〉極細粒砂
58. 黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径１cm大の石を含む）
59. 黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（貝殻混じる）
60. 暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉細粒砂（細礫混じる）
61. 黒褐色〈2.5YR 3/2〉極細粒砂
（径0.5cm前後の石を含む）
62. 暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉極細粒砂
（径１～５cmの石含む）
63. オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉細粒砂
64. にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉極細粒砂
65. 褐色〈10YR 4/4〉細粒砂（炭化物・貝殻混じる）
66. にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉極細粒砂
67. 暗褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径３～５cmの石を多く含む）
68. にぶい黄色〈2.5Y 6/4〉粗粒砂（人頭大の石を多く含む）
69. 暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉中粒砂
（径20cm弱の礫多く含む）
70. 暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉中粒砂
71. オリーブ色〈5Y 5/4〉土（拳大の礫多く含む）
72. オリーブ褐色〈2.5Y 4/4〉極細粒砂
73. 黒褐色〈2.5YR 3/2〉極細粒砂（炭化物多く混じる）
74. オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉土
75. オリーブ褐色〈2.5Y 4/4〉中粒砂
76. オリーブ褐色〈2.5Y 4/4〉土
77. 灰オリーブ色〈5Y 4/2〉土
（径５cm前後の石を含む、瓦多く混じる）
78. 灰オリーブ色〈5Y 4/2〉土
（径５cm前後の石を含む、瓦多く混じる）
79. 暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂（炭化物多く混じる）
80. にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉極細粒砂
（径１～５cmの石を含む）
81. 暗褐色〈10YR 3/4〉極細粒砂（焼土多く混じる）
82. 暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂
（径１～10cmの石を含む・瓦多く混じる）
83. 黒色〈10YR 2/1〉シルト混じる極細粒砂
（径0.5～１cmの石を多く含む、炭化物混じる）
84. 黒色〈2.5Y 2/1〉有機物混じる極細粒砂
（径３～５cmの石を多く含む）
85. 黄褐色〈10YR 5/8〉粘土
（径１～10cmの石を含む）
86. 黒色〈2.5Y 2/1〉土（炭多く混じる）
87. 暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂
（径0.5cm前後の石を含む）
88. 暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂（炭化物多く混じる）
89. オリーブ褐色〈2.5Y 4/4〉土
90. 灰黄褐色〈10YR 4/2〉土
91. にぶい黄橙色〈10YR 6/4〉細粒砂
92. オリーブ黒色〈5Y 3/2〉土
（拳大の礫を多く含む）
93. 炭層
94. 炭層（江戸時代の大きな攪乱）
95. 明黄褐色〈10YR 7/6〉土
96. 浅黄色〈10YR 8/4〉土
（径５～６cmの石を多く含む）
97. オリーブ褐色〈2.5Y 4/4〉土
98. 暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉土
99. 黒褐色〈2.5Y 3/2〉土
（径10cm前後の石を多く含む）
100. 黄灰色〈2.5Y 4/1〉シルト含む細粒砂
101. 炭層
102. 炭層
103. 暗オリーブ色〈5Y 4/3〉シルト含む細粒砂
104. 暗オリーブ色〈2.5Y 3/3〉極細粒砂
105. 暗褐色〈7.5YR 3/3〉土
（径20cm前後の石を少し含む）
106. オリーブ黒色〈5Y 3/2〉土
107. 黒褐色〈2.5Y 3/1〉シルト含む細粒砂
108. 黒褐色〈10YR 2/2〉土
（明黄褐色〈10YR 6/6〉土・径５cm前後の石を少し含む）
109. 黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径１～５cmの石を含む）
110. 黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト混じる極細粒砂
111. 黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
112. 灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト混じる極細粒砂
113. 黒褐色〈2.5YR 3/2〉土
114. 黒褐色〈10YR 2/3〉シルト混じる極細粒砂
115. 黒褐色〈10YR 3/2〉土（シルト）
116. 黒褐色〈2.5Y 3/2〉土（炭化物多く混じる）
117. 黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂
（径0.5～1cmの石を含む）
118. 明黄褐色〈10YR 5/8〉土（粘土ブロック）
119. 暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉細粒砂
（径0.5～１cmの石を多く含む）
120. 黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径0.5～３cmの石を多く含む）
121. 黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂
（径0.5cm前後の石を含む）



1．黄褐色〈2.5Y 5/3〉粗粒砂（径５～10cmの石を含む）
2．黒褐色〈2.5Y 3/2〉粗粒砂（径３～７cmの石を含む）
3．表土
4．黒褐色〈10YR 3/1〉粗粒砂（攪乱、レンガ混じる）
5．浅黄色〈2.5Y 7/4〉砂層（攪乱、工事の際の真砂土）
6．暗褐色〈10YR 3/4〉粗粒砂（攪乱）
7．暗褐色〈10YR 3/3〉礫層
8．黒色〈2.5Y 2/1〉粗粒砂（炭混じる）
9．浅黄橙色〈10YR 8/3〉細粒砂（径３～15cmの石を含む、礫層）
10．灰黄褐色〈10YR 4/2〉粗粒砂
（径５cm前後の石を含む、炭混じる）
11．黒褐色〈10YR 3/1〉粗粒砂（石炭ガラ混じる）
12．黒褐色〈10YR 3/1〉粗粒砂
13．黒褐色〈2.5Y 3/1〉砂層
14．黒褐色〈10YR 2/2〉細粒砂
（径５cm前後の石を含む、炭・焼土混じる）
15．黒褐色〈10YR 3/2〉礫層（炭混じる）
16．黒褐色〈10YR 3/1〉粗粒砂（下半に石炭ガラを敷く・整地層）
17．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉粗粒砂
（炭・径５～10cmの石を含む、焼土混じる）
18．黒褐色〈7.5YR 3/1〉粗粒砂（径３～15cmの石を含む）
19．黄褐色〈10YR 5/6〉細粒砂
（炭混じる、径２～５cmの石を含む）
20．黒褐色〈10YR 3/1〉シルト質細粒砂
21．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂（径８cm前後の石を含む）
22．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉シルト質極細粒砂
（径３cm前後の石を含む）
23．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト質極細粒砂
24．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト質極細粒砂
25．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉細粒砂
（径２～５cmの石を含む、炭混じる）
26．黄褐色〈10YR 5/6〉粗粒砂（径１～10cmの石を含む）
27．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉粗粒砂（径３～10cmの石を含む）
28．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉粗粒砂（炭多く混じる）
29．オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉砂礫（径２～10cmの石を含む）
30．オリーブ褐色〈2.5Y 4/4〉砂礫
31．オリーブ褐色〈2.5Y 4/4〉砂礫
32．褐色〈10YR 4/4〉粗粒砂砂礫層（径５～15cmの石を含む）
33．褐色〈10YR4/6〉細粒砂（径１～５cmの石を含む）
34．灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂（径３～10cmの石を含む）
35．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（炭混じる、径５～10cmの石を含む）
36．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂（瓦・土器混じる）
37．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉粗粒砂（染付含む）
38．黒褐色〈2.5Y 3/2〉細粒砂
39．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉細粒砂（炭含む）
40．オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉粗粒砂
41．黄褐色〈10YR 5/6〉粗粒砂
42．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト含む細粒砂
43．褐色〈10YR 4/4〉極細粒砂
44．暗褐色〈10YR 3/3〉礫層
45．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉粗粒砂
46．黒褐色〈10YR 3/1〉細粒砂（径５cm前後の石を含む、炭混じる）
47．褐色〈10YR 4/4〉礫層
48．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉礫層
49．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
50．灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂（径６cm前後の石を含む）
51．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（土師器片含む）
52．黒褐色〈10YR 2/3〉細粒砂（炭・土師器片含む）
53．黒褐色〈2.5Y 3/2〉細粒砂
54．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉細粒砂（径１～２cmの礫含む）
55．灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂
56．黒褐色〈10YR 3/1〉細粒砂（炭・土師器片含む）
57．黒褐色〈10YR 2/3〉細粒砂（土師器片含む）
58．灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂（炭・径２～５cmの石を含む）
59．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（土師片含む）
60．黒褐色〈10YR 3/1〉細粒砂（炭・土師器片含む）
61．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（炭含む）
62．褐色〈10YR 4/4〉礫層

第５図　２ｂ地区北壁断面図

２ｂ地区北壁断面図（ｂ－ｂ’）土色

63. 暗褐色〈10YR 3/4〉シルト質細粒砂
64. 暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
65. にぶい黄褐色〈10YR 5/4〉細粒砂（安土桃山時代包含層か）
66. 灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂
67. 黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂
68. 黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂
69. 黒褐色〈10YR 2/2〉シルト質細粒砂（炭・土師器片含む）
70. 暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（土師器片含む）
71. 黒褐色〈10YR 3/2〉シルト含む細粒砂
（炭・土師器片含む、鎌倉～室町包含層）
72. 暗褐色〈10YR 3/4〉シルト質細粒砂（鎌倉～室町包含層）
73. 黒褐色〈10YR 3/2〉シルト含む細粒砂（鎌倉～室町包含層）
74. 褐色〈10YR 4/6〉極細粒砂
75. 暗褐色〈10YR 3/3〉シルト含む細粒砂
（炭・土師器片含む→室町包含層）
76. 黒褐色〈10YR 3/2〉シルト含む細粒砂（鎌倉～室町包含層）
77. 黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂
78. にぶい黄褐色〈10YR 4/2〉シルト質極細粒砂
79. 暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂
80. 黒褐色〈10YR 3/2〉礫層細粒砂（径５～17cmの礫多く含む）
81. 黒褐色〈10YR 3/1〉シルト質極細粒砂
82. 暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂（炭・土師器片含む）
83. 灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂（炭・土師器多く含む）
84. 黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂（炭・土師器片含む）
85. 黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質極細粒砂
86. 黒褐色〈10YR 3/1〉シルト
87. 灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂（瓦混じる）
88. 黒褐色〈10YR 3/1〉シルト質極細粒砂（炭・焼土混じる）
89. 暗褐色〈10YR 3/3〉シルト含む細粒砂（土師器片含む）
90. 褐色〈10YR 4/2〉シルト含む細粒砂
91. 黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂（土師器片含む）
92. にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉細粒砂（炭・土師器片含む）
93. 灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト含む細粒砂
94. 黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂（径３～７cmの礫含）
95. にぶい黄褐色〈10YR4/3〉シルト含む細粒砂
（径５cm前後の石を含む、炭・土師器片混じる）
96. 黒褐色〈10YR 2/3〉細粒砂（炭・土師器片含む）
97. 121. 暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
（径５～７cmの礫含む）
98. 黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂（土師器片含む）
99. 暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（炭・土師器片含む）
100. 灰黄褐色〈10YR 4/2〉極細粒砂（炭・土師器片含む）
101. 暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉細粒砂
102. 暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（炭・土師器片含む）
103. 黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂
104. 褐色〈10YR 3/4〉細粒砂（炭・土師器片含む）
105. 黒褐色〈7.5YR 2/2〉細粒砂（炭・土師器片含む）
106. 黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂（土師器片含む）
107. 黒褐色〈10YR 3/2〉シルト含む細粒砂
108. 暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂
109. 黒褐色〈10YR 3/1〉シルト質極細粒砂
110. 黒褐色〈10YR 2/2〉シルト質極細粒砂
111. 黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂
112. 黒褐色〈10YR 3/1〉細粒砂（土師器片含む）
113. 黒褐色〈10YR 3/1〉シルト質（炭・土師器片含む
114. 灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂やや粘質（炭・土師器片含む）
115. 黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質極細粒砂（土師器片含む）
116. 黄褐色〈10YR 5/6〉シルト質極細粒砂（ベースか）

いた。これらの土坑は元和６(1620)年の火災に伴う廃棄土坑と考えられる。土坑上面で検出した整地層は火災以後の整地、土坑検出面の整地土はそれ以前の整地土と考えられる。

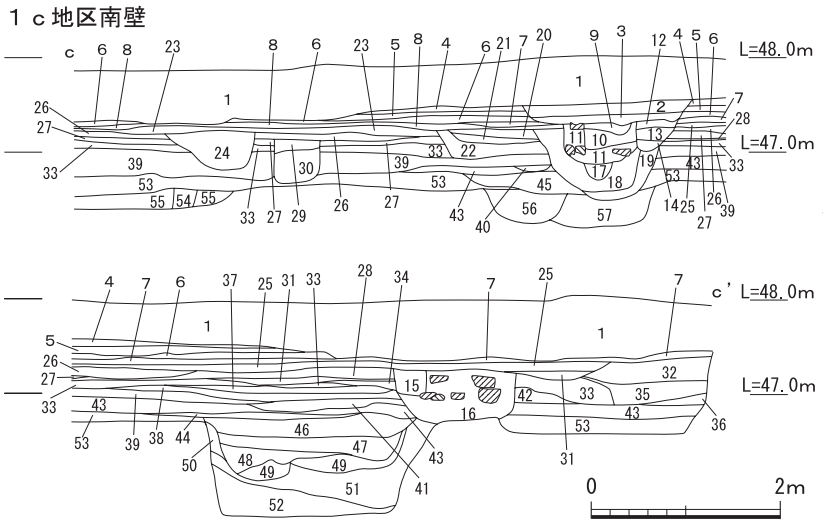
第３面は、室町時代の遺構検出面である。この時期の層は、３ａ地区西壁の灰黄褐色シルト質極細砂層(第８図51層)やにぶい黄褐色細粒砂層(第８図61層)で、３ｂ地区南壁の暗褐色細粒砂層(第７図34層)や黒褐色細粒砂層(第７図37層)で、第２面からおおむね0.2mほど間層を挟む。

東側は２ｂ地区北壁の暗褐色シルト質細粒砂層(第５図72層)・黒褐色シルト含む細粒砂層(第５図71・73・76層)がこの時期の包含層となり、これら包含層の下面が遺構検出面である。東方ほど遺構検出面が第２面から深くなる。この第３面から堀Ａや堀Ｂを検出した。

第４面は、平安時代から鎌倉時代の遺構面である。調査地西側では第３面から0.2m低く、東側ほど低くなり、第３面から0.3mほど下がる。標高が一番低い部分で約46.4mとなる。この時期の遺構は、基盤層である礫混じりの明黄褐色土や礫層、その上を被覆する遺物を含まない暗褐色土を掘り込む状態で検出した。

このように２面ではほぼ平坦であったのに対し、３・４面では調査地東側が東へ傾斜することが判明した。

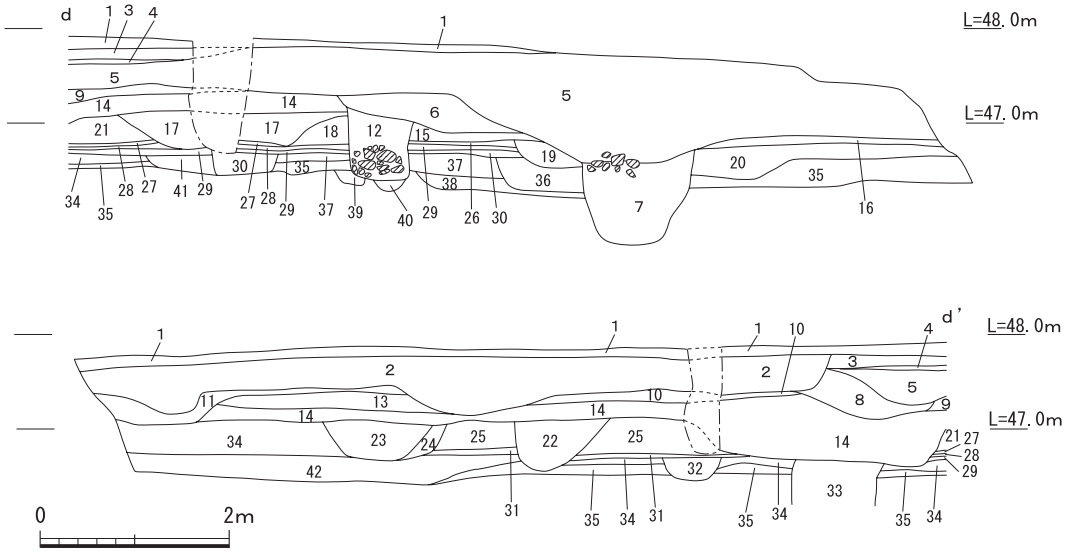
なお、調査地中央の１ｂ地区では第４面付近まで近現代の攪乱が及んでおり、第２～４面をほぼ同一面で調査することとなった。（岡崎研一）



1．表土
2．黒褐色〈2.5Y 3/1〉極細粒砂
（径５cm前後の石を含む、
炭少し混じる）
3．黄灰色〈2.5Y 4/1〉
粗粒砂混じる極細粒砂
4．黒褐色〈2.5Y 3/2〉
シルト混じる中粒砂
（径１～２cmの石を含む）
5．褐灰色〈10YR 5/1〉
シルト混じる中粒砂
（炭混じる）
6．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉中粒砂
（径３～４cmの石を含む）
7．黒褐色〈10YR 3/2〉中粒砂
（径１～２cmの石を含む）
8．焼土（嘉永７年の大火）
9．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉極細粒砂（炭・焼土混じる）
10．褐灰色〈10YR 4/1〉中粒砂
（径３～４cmの石を含む、炭混じる）
11．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉極細粒砂
（径２～３cmの石を含む、炭混じる）
12．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉極細粒砂
（炭・焼土やや混じる）
13．灰黄褐色〈10YR 4/2〉粗粒砂混じる極細粒砂（炭少し混じる）
14．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉極細粒砂（径４～５cmの石を含む）
15．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉シルト質極細粒砂
（径５cm前後の石を多く含む）
16．撹乱
17．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉中粒砂（径２～３cmの石を含む）
18．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉シルト混じる極細粒砂
（炭混じる）
19．オリーブ黒色〈5Y 3/1〉シルト混じる粗粒砂
（径10cm前後の石を含む、炭混じる）
20．黄灰色〈2.5Y 5/1〉中粒砂含む極細粒砂（径１～20cmの石を含む）
21．黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト混じる粗粒砂
（径３～４cmの石を含む、焼土・炭少し混じる）
22．暗オリーブ色〈5Y 4/2〉極細粒砂（焼土混じる）
23．焼土（安政の大火か）
24．黒褐色〈10YR 3/1〉中粒砂（径３～15cm前後の石を多く含む）
25．黄褐色〈2.5Y 5/3〉砂質土
26．褐灰色〈10YR 4/1〉極細粒砂
（径３～４cmの石を含む、固くしまっている）
27．黒褐色〈2.5Y 3/1〉極細粒砂
（径２～５cmの石を多く含む）
28．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉中粒砂
（径５cm前後の石を多く含む）
29．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉極細粒砂
（径２cm前後の石を含む、瓦・焼土を含む）
30．オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉極細粒砂
（径１cm前後の石を含む、焼土混じる）
31．黄灰色〈2.5Y 4/1〉シルト混じる極細粒砂
（1.5～２cmの石を多く含む、固くしまる）
32．灰オリーブ色〈2.5Y 4/2〉シルト質極細粒砂
（径２～３cmの石を含む、焼土・炭混じる）
33．焼土（天明の焼土か）
34．灰色〈5Y 4/1〉細粒砂
35．暗灰黄色〈2.5Y 5/2〉極細粒砂（径１～２cmの石を多く含む）
36．オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉シルト質細粒砂
37．黄褐色〈2.5Y 5/4〉シルト質細粒砂
（径１～２cmの石を多く含む）
38．にぶい黄色〈2.5Y 6/4〉細粒砂（径３～５cmの石を含む）
39．明黄褐色〈2.5Y 7/6〉シルト混じる極細粒砂
（径２～３cmの石を含む）
40．浅黄色〈5Y 7/4〉シルト質細粒砂（径１cm前後の石を含む）
41．焼土（江戸以前の焼土か）
42．オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉シルト混じる極細粒砂
（径１～２cmの石を多く含む）
43．オリーブ黒色〈5Y 3/2〉極細粒砂（焼土・炭を少し混じる）
44．黄褐色〈2.5Y 5/4〉シルト質細粒砂
（整地面、固くしまっている・江戸時代の整地層）
45．灰色〈5Y 4/1〉シルト混じる極細粒砂
（径２～３cmの石を含む、土師器片混じる）
46．黄褐色〈10YR 5/6〉シルト混じる中粒砂
（径２cm前後の石を多く含む、礫層に近い）
47．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉シルト混じる中粒砂
（径１～２cmの石を多く含む）
48．暗オリーブ色〈5Y 4/3〉中粒砂（炭・貝殻混じる）
49．灰オリーブ色〈5Y 4/2〉シルト混じる極細粒砂
（径１cm前後の石を含む、炭混じる）
50．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト質細粒砂（１cm前後の石を含む）
51．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉シルト混じる極細粒砂（土師皿片混じる）
52．黒褐色〈2.5Y 3/1〉粗粒砂（土師皿片混じる、炭多く混じる）
53．黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト質細粒砂（土師器片多く混じる）
54．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト混じる極細粒砂
55．灰オリーブ色〈5Y 4/2〉シルト混じる粗粒砂
（径７cm前後の石を含む）
56．灰オリーブ色〈5Y 4/2〉シルト混じる粗粒砂
（径７～10cmの石を含む）
57．炭層

第６図　１ｃ地区南壁断面図

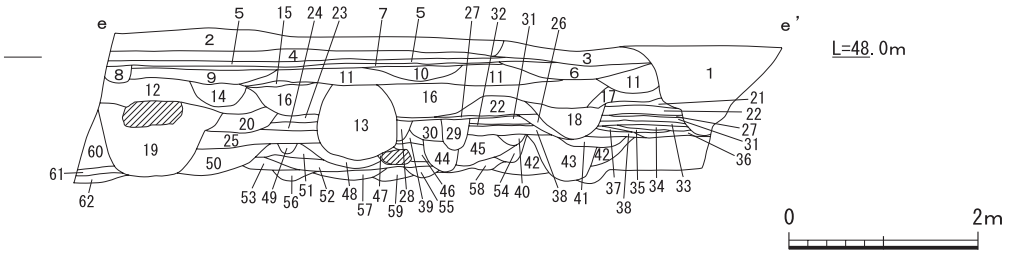
３ｂ地区南壁



1．表土
2．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂
3．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂（炭・礫・コンクリート含む）
4．明黄褐色〈10YR 7/6〉細粒砂（炭混じる）
5．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
6．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（炭・焼土混じる）
7．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂（径20cm前後の石を多く含む）
8．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂
（径２～５cmの石を含む、土師器片・瓦片多く混じる）
9．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂
（焼土・炭混じる、土師器片多く含む）
10．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
（径２～５cmの石を含む、土師器片・瓦片多く混じる）
11．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂
（径２～５cmの石を含む、土師器片・瓦片多く混じる）
12．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
13．暗オリーブ褐色〈2.5YR 3/3〉粗粒砂混じる細粒砂
14．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂混じる細粒砂
（径0.5cm前後の石を含む、土師器片・炭混じる）
15．褐色〈10YR 4/4〉細粒砂
（径１～５cmの石含む、土師器片混じる）
16．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
（径３cm前後の石を含む、土師器片・炭混じる）
17．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂
（径10cm前後の石を含む、土師器片混じる）
18．褐色〈10YR 4/4〉粗粒砂
（径５cm前後の石を多く含む、炭混じる）
19．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂混じる細粒砂（土師器細片混じる）
20．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
（径10cm前後の石を多く含む、土師器片・炭混じる）
21．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂（径５～10cmの石を含む）
22．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂（径５～10cmの石を多く含む）
23．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる粗粒砂
（径10cm前後の石を含む、土師器片・炭多く含む）
24．黒褐色〈10YR 2/2〉シルト混じる粗粒砂
（径10cm前後の石を含む、土師器片・炭多く含む）
25．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂混じる細粒砂
（径0.5cm前後の石を含む、土師器片・炭混じる）
26．にぶい黄褐色〈10YR 5/3〉細粒砂
（径２cm前後の石を多く含む）
27．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（径２cm前後の石を多く含む）
28．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂
（径２cm前後の石を含む、炭混じる）
29．黄褐色〈10YR 5/6〉細粒砂
（径２cm前後の石を含む、炭混じる）
30．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（径２～３cmの石を含む）
31．にぶい黄褐色〈10YR 5/4〉シルト混じる細粒砂
32．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂（径２cm前後の石を含む）
33．黒褐色〈10YR 2/3〉シルト混じる粗粒砂
（土師器片・径５cm前後の石を含む）
34．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
（径５cm前後の石を含む、土師器片少し混じる）
35．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂
（径３～20cmの石を含む、土師器片・炭混じる）
36．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂
（径２～５cmの石を含む、土師器片混じる）
37．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
（径１～６cmの石・炭混じる、土師器片を多く含む）
38．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（径１～２cmの石を含む）
39．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト混じる細粒砂
40．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト混じる細粒砂
（土師器細片混じる）
41．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる細粒砂
（径５cm前後の石を含む、土師器片多く混じる）
42．黒褐色〈10YR 3/1〉シルト質細粒砂
（径0.5cm前後の石を含む、土師器細片混じる）

第７図　３ｂ地区南壁断面図

３ａ地区西壁



1．攪乱、真砂土、砕石混じる
2．砕石
3．攪乱、砕石、礫混じる
4．旧表土
5．礫層
6．攪乱（石炭ガラ混じる）
7．石炭ガラ
8．土管
9．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂（土師器皿片・瓦片含む）
10．黒褐色〈10YR 2/3〉細粒砂（土師器皿片・瓦片含む）
11．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂
嘉永７年の焼土か（赤褐色〈2.5YR 4/6〉・炭を多く含む）
上面は上屋敷面
12．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂
13．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂（甕掘形埋土）
14．暗褐色〈10YR 3/4〉極細粒砂（径10～20cmの石を多く含む）
15．にぶい黄褐色〈10YR 5/4〉極細粒砂（大火後の整地か）
16．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉細粒砂（径３～５cmの石を少し含む、焼土・炭を多く含む、天明の大火か）
17．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉細粒砂
（細礫・径５cm前後の石を多く含む）
18．暗褐色〈10YR 3/4〉シルト混じる極細粒砂
（径５cm前後の石を少し含む）
19．褐色〈10YR 4/4〉細粒砂（井戸掘形埋土）
20．褐色〈10YR 4/4〉細粒砂
（径３～５cmの石を少し含む、径５～10cmの石が堆積する）
21．暗褐色〈10YR 3/4〉極細粒砂（炭を少し含む）
22．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉極細粒砂
（明黄褐色〈10YR 6/6〉粘土が径２cm前後のブロックで入る）
23．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂
24．黒褐色〈10YR 3/2〉粗礫（径３～５cmの石を多く含む）
25．暗褐色〈10YR 3/4〉極細粒砂（14～15cの包含層か）
26．褐色〈10YR 4/4〉シルト混じる極細粒砂
（径５～10cmの石を多く含む）
27．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉シルト混じる極細粒砂
（径２～３cmの石を少し含む）
28．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉細粒砂
29．灰黄褐色〈10YR 4/2〉極細粒砂（径３～10cmの石を多く含む）
30．褐色〈10YR 4/4〉極細粒砂（径３～20cmの石を少し含む）
31．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト混じる極細粒砂（径３cm前後の石を少し含む、土師器皿片を多く含む）
32．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉細粒砂（34層と似る）
33．褐色〈10YR 4/4〉シルト混じる極細粒砂
（径１～３cmの石・土師器皿片を多く含む）
34．にぶい黄褐色〈10YR 5/4〉細粒砂（32層と似る）
35．灰黄褐色〈10YR 4/2〉極細粒砂（径３～５cmの石を多く含む）
36．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂（径３～５cmの石を多く含む）
37．にぶい黄褐色〈10YR 3/4〉シルト混じる極細粒砂
（径１～２cmの石多く含む）
38．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径３～５cmの石を多く含む）
39．暗オリーブ色〈2.5Y 3/3〉シルト混じる極細粒砂
40．暗オリーブ色〈2.5Y 3/3〉極細粒砂（径５cm前後の石を含む）
41．黒褐色〈2.5Y 3/2〉細粒砂（ＳＤ３a822埋土か）
42．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂（ＳＤ３a868埋土か）
43．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト混じる細粒砂
（径５cm前後の石を少し含む）
44．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂（径１～２cmの石を少し含む）
45．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂（径３～５cmの石を少し含む）
46．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉細粒砂（径３cm前後の石を含む）
47．黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト混じる極細粒砂
48．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径５cm前後の石を少し含む）
49．暗褐色〈10YR 3/4〉シルト混じる極細粒砂
（径0.5cm前後の石を含む）
50．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂（径５～10cmの石を含む）
51．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト質極細粒砂
（径0.5cm前後の石を少し含む）
52．にぶい黄褐色〈10YR 5/3〉シルト質極細粒砂
（径10～15cmの石を多く含む）
53．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉極細粒砂（土師皿片多く含む）
54．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質極細粒砂
55．灰黄褐色〈10YR 4/2〉極細粒砂
56．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト含む極細粒砂
57．にぶい黄褐色〈10YR 5/4〉シルト質極細粒砂
（径３～５cmの石を含む）
58．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト含む極細粒砂（土師器皿片含む）
59．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉シルト含む極細粒砂
（径３～５cmの石を含む）
60．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂
61．にぶい黄褐色〈10YR 5/4〉細粒砂
62．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト含む極細粒砂

第８図　３ａ地区西壁断面図

２）第１面の遺構

第１面は江戸時代末期（19世紀後半）の遺構検出面である。現地表下約0.50～0.70mに設定できる人工的に築固められた安定面と良好な遺構を検出した。現在の京都府庁敷地内は明治時代以降も繰り返し国や京都府の様々な施設として利用されてきたため建物建設等に伴い削平を受け、これまでの周辺調査では確認できなかった遺構面である。遺構検出面である整地土層には、嘉永７（1853）年に起きた大宮御所内から出火した火災によって形成されたと考えられる焼土塊が多く含まれている。こうしたことから、遺構検出面の整地層は嘉永７（1853）年の火災から近い時期に造成されたもので、京都守護職上屋敷建造に伴う整地と考えられる。

遺構面の多くは、明治以降に建てられた京都中学校や、旧京都府庁の建物建築による削平を大きく受けている。特に、調査地北東に位置する旧中立売署の建物基礎は基盤層まで及んでおり、遺構面は残存していなかった。建物の影響が少なかった調査地西側を中心に、建物跡２棟・溝１条・井戸１基のほか、礎石据付穴・土坑などを検出した。遺物は、国産陶磁器・輸入陶磁器・ガラス製品・瓦などが出土した。

（１）建物

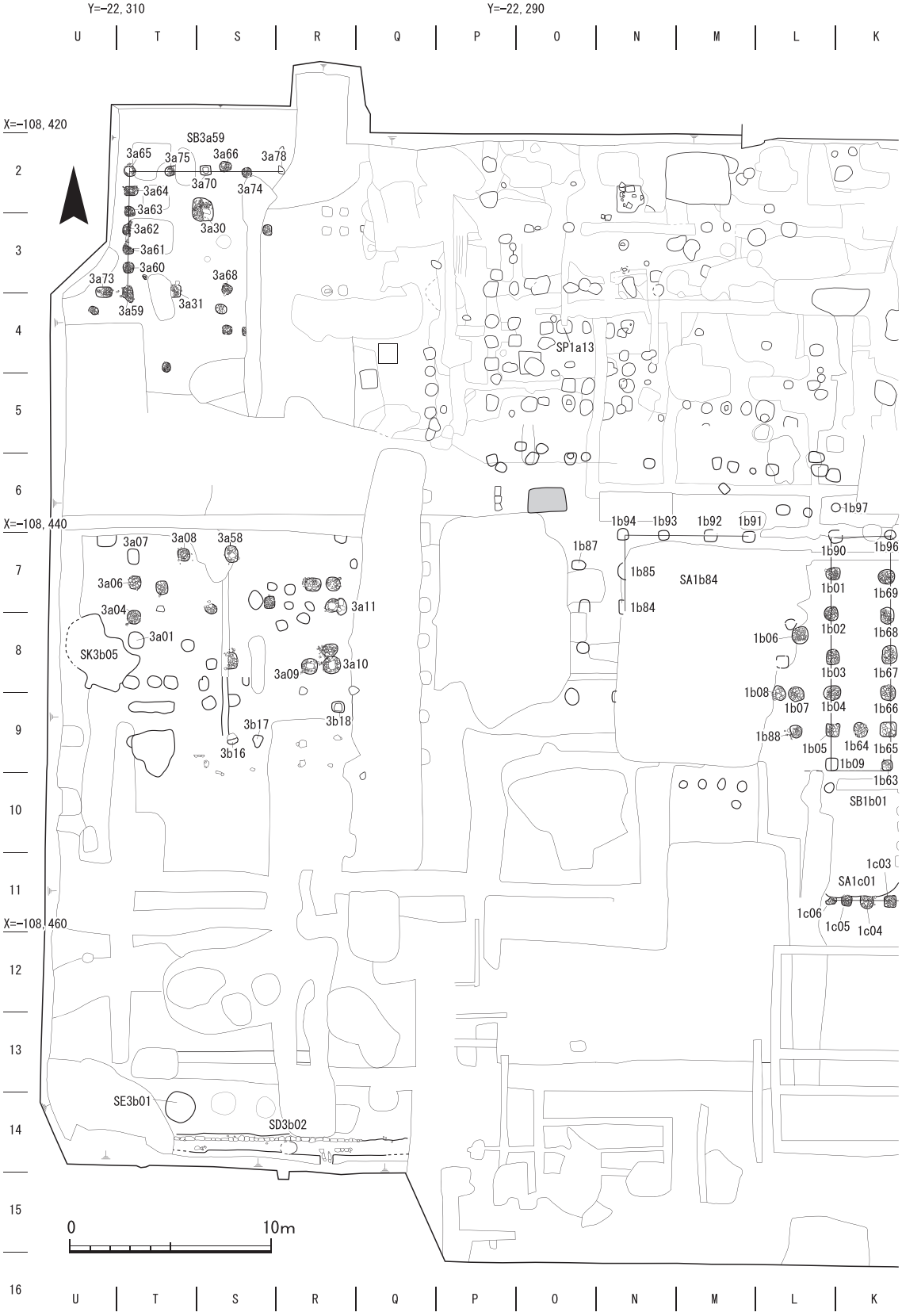
建物ＳＢ1b01（第10～12図）　調査地中央部（７～９－Ｋ・Ｌ区）で検出した礎石立建物跡である。礎石はすべて残存しておらず、方形の掘形内に0.10～0.20m大の礫が隙間なく充填されていた。遺構検出面が後世の攪乱によって大きく棄損されている部分が多かったことから、遺構の残りが悪く南北６間、東西２間分のみを検出した。主軸は北で１度程度東に振る。柱間の距離については礎石が現存しないため不明であるが、ＳＰ1b63・65～69・96で構成される東の南北列は両端の礎石据付穴の掘形の中心間距離が11.52mを測り、柱間が等間隔であるならば約1.92mとなる。

ＳＰ1b01～05・09・90で構成される南北列は北端のＳＰ1b90の規模は不明であるが、ＳＰ1b96の中軸から建物主軸と直行する東で１°程度南に振る軸線上で掘形の中心部を推定すると、中心間距離が11.53mを測り、柱間が等間であるならば約1.92mとなる。実際の礎石据付け穴の中心間距離は、1.75～2.17mであるが、南北方向1.92m等間で上屋を設計しても礎石据付穴内に柱は収まる。２つの南北方向の柱列間距離は北端で2.74m、南で2.72mである。

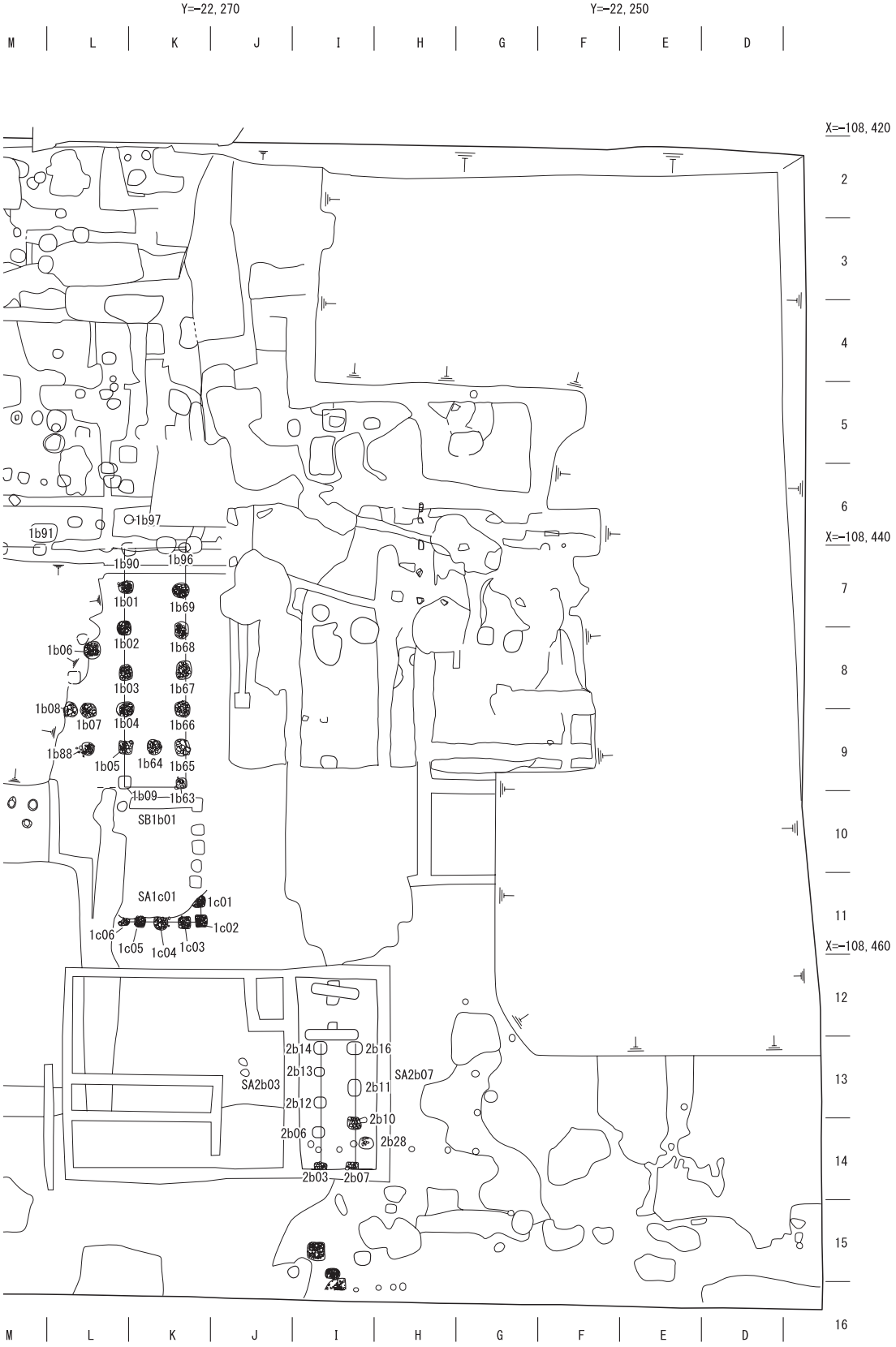
柱列間にあるＳＰ1b64はＳＰ1b05との中心間距離が1.41m、ＳＰ1b65とは1.34mでほぼ等距離である。

ＳＰ1b06・07・88からなる南北方向の礎石据付穴の主軸方向は他の南北列の据え付け穴と同じである。掘形中心間距離はＳＰ1b06とＳＰ1b07間が2.96mでＳＰ1b07とＳＰ1b88間は1.88mである。ＳＰ1b07とＳＰ1b88間は他の掘形の南北方向の中心間距離とほぼ同じであるが、ＳＰ1b06は規格が異なる。ＳＰ1b08はＳＰ1b04と掘形中心間距離が2.66mである。

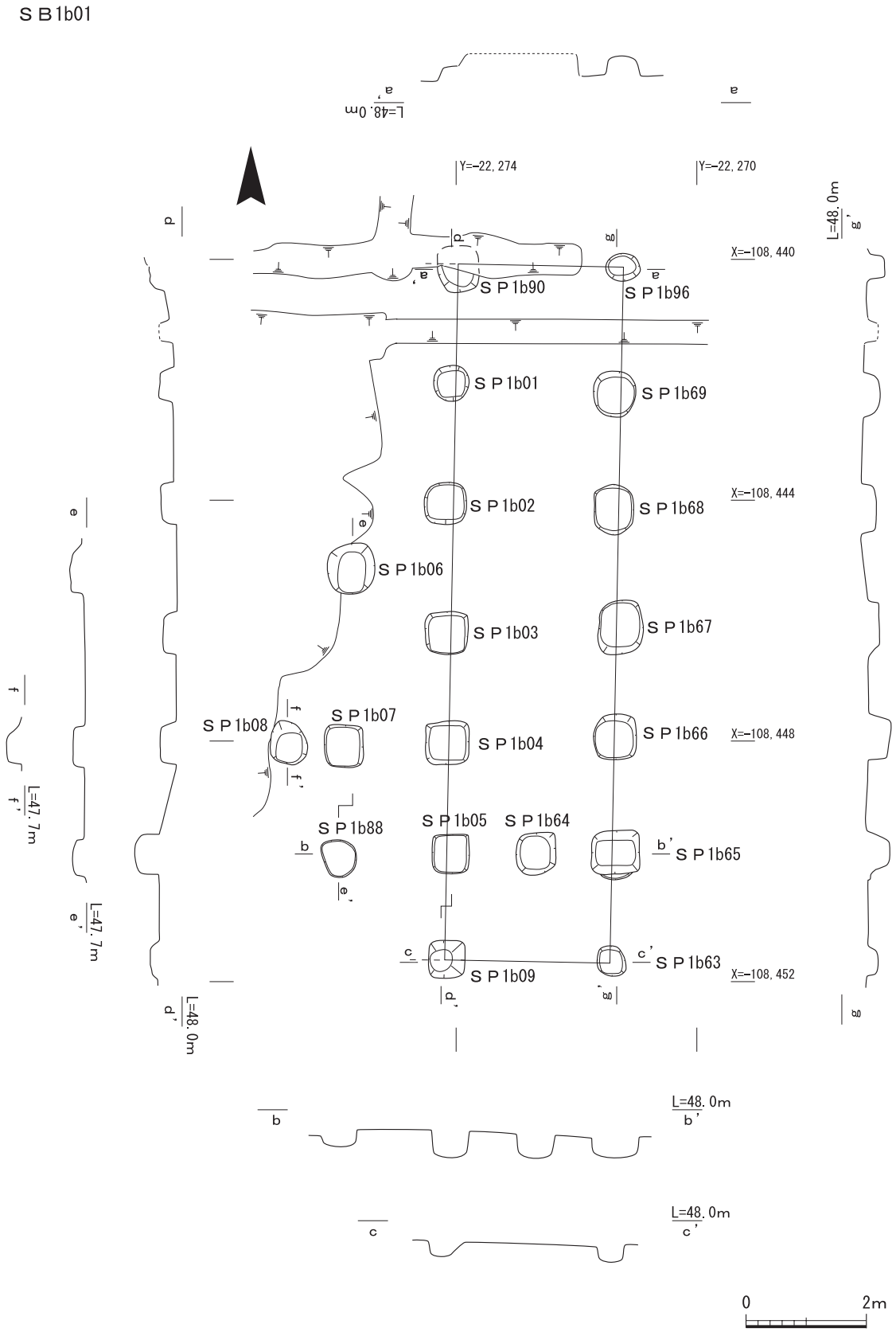
これらのことから、ＳＰ1b06・07・88以外の礎石据付穴から１つの建物に復原できる可能性がある。ＳＰ1b64は他の柱とも近く、同じように多くの根石が込められていたことから、束柱などの基礎ではないとも考えられ、他の建物の一部である可能性もある。このＳＢ1b01と組み合わなかった掘形も規格に類似点がある事から、建て替えなどの影響とも想定できる。



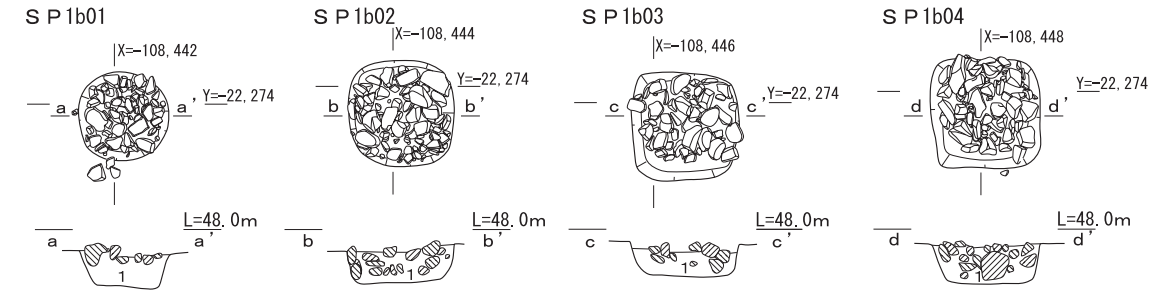
第９図　第１面全体平面図（１）



第10図　第１面全体平面図（２）



第11図　第１面遺構実測図（１）

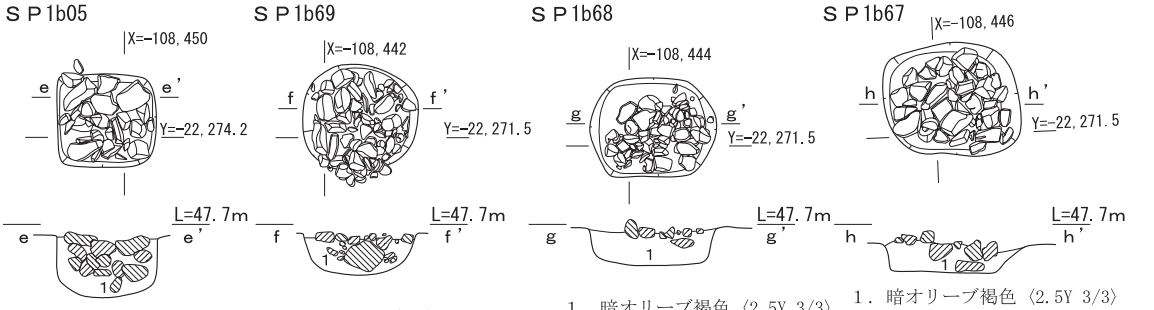


１．黒褐色〈2.5Y 3/1〉
粗粒砂混じる中粒砂
（径10cm前後の石を含む）

１．黒褐色〈10YR 3/2〉
中粒砂（径３～10cmの石を多く含む）

１．明灰黄色〈2.5Y 4/2〉
中粒砂（径10cm前後の石を含む）

１．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉
中粒砂（径８～20cmの石を多く含む）

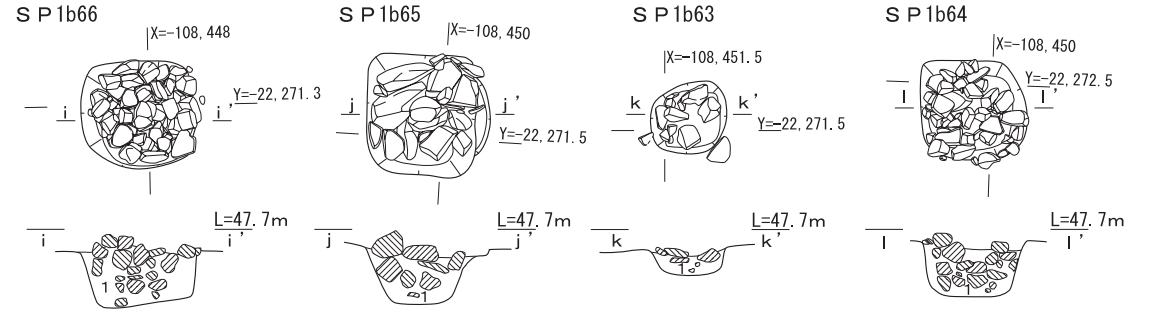


１．黒褐色〈2.5Y 3/2〉
中粒砂（径３～20cmの石を多く含む）

１．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉
中粒砂（径10～30cmの石を多く含む）

１．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉
中粒砂（径３～20cmの石を含む）

１．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉
中粒砂（径６～15cmの石を含む）

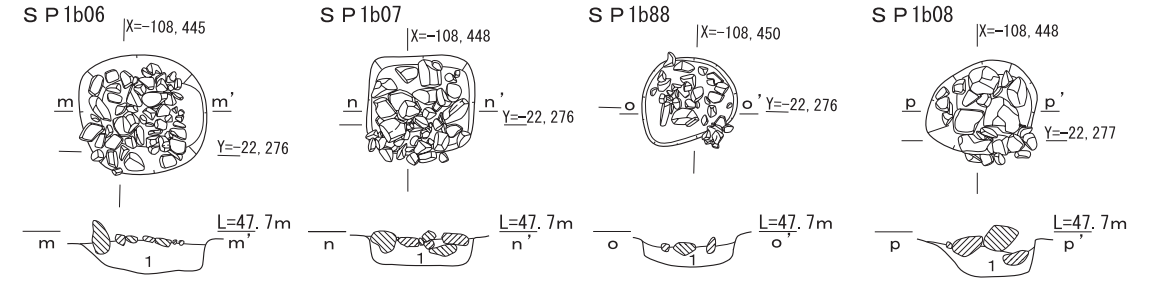


１．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉
中粒砂（径８～15cmの石を多く含む）

１．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉
中粒砂（径10～20cmの石を多く含む）

１．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉
中粒砂（径２～15cmの石を含む）

１．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉
中粒砂（径６～15cmの石を多く含む）



１．黒褐色〈2.5Y 3/2〉
中粒砂（径３～20cmの石を含む）

１．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉
粗粒砂（径10～20cmの石を多く含む）

１．黒褐色〈10YR 2/2〉
粗粒砂（径10cm前後の石を含む、炭混じる）

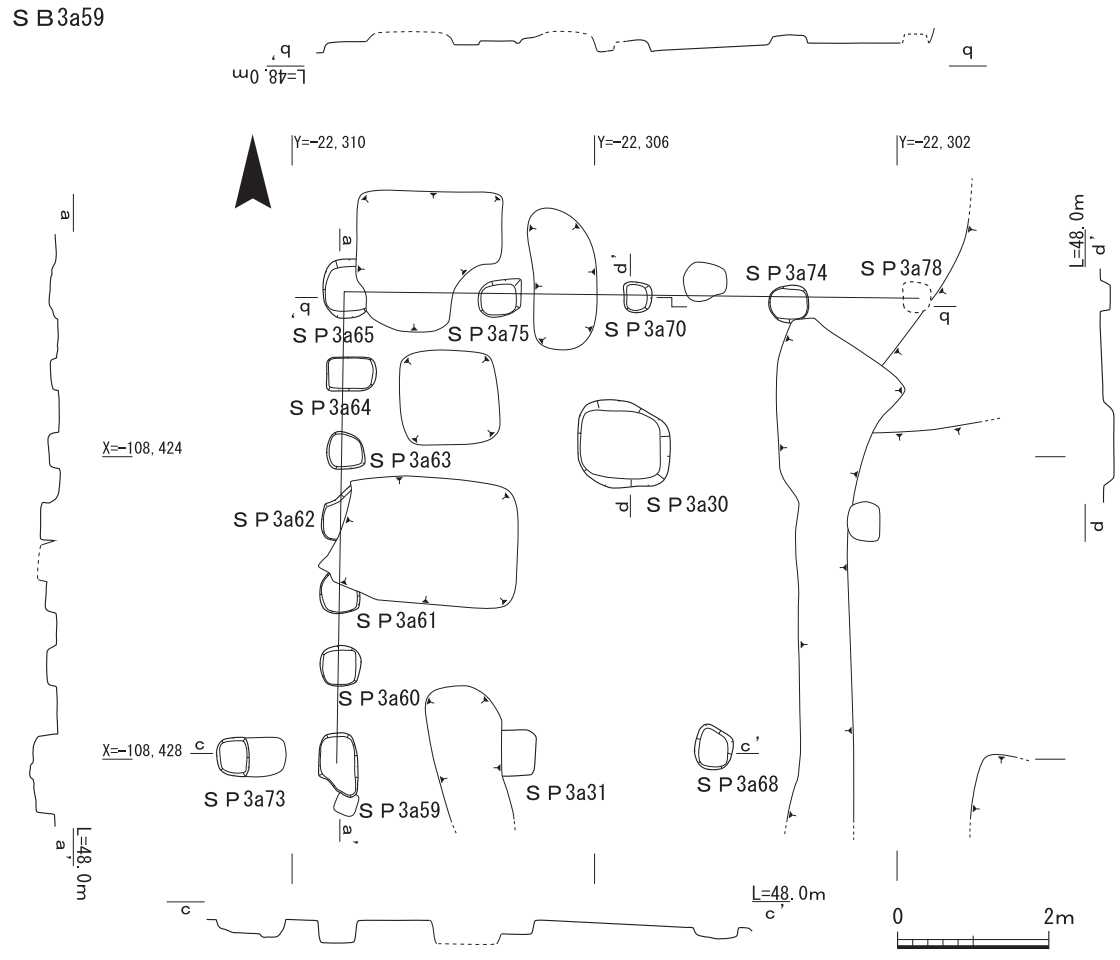
１．黒褐色〈2.5Y 3/2〉
中粒砂（径15～20cmの石を多く含む）

第12図　第１面遺構実測図（２）

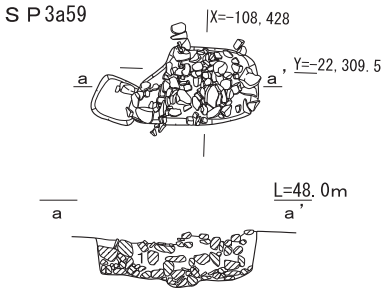
建物ＳＢ3a59（第9・13・14図）　調査地北西隅（２～４－Ｒ～Ｔ区）で検出した「Ｌ」字状を呈した礎石据付穴を検出したためＳＢ3a59とした。南北６間、東西４間分を検出した。掘形の平面形はすべて隅丸方形を呈し、掘形内には根石と考えられる0.1m大の礫が多量に詰め込まれていた。中央部分は後世の削平により柱穴を確認することはできなかった。

掘形列はＳＰ3a65の礎石心からＳＰ3a59の掘形の中心までの距離が6.11mを測るが、この軸線上にその他５つの礎石据付穴が確認できる。等間隔であれば柱間は約１mである。それぞれの中心間距離はＳＰ3a59とＳＰ3a65が1.07m、ＳＰ3a65とＳＰ3a64が0.91m、ＳＰ3a64とＳＰ3a63が0.97m、ＳＰ3a63とＳＰ3a62が0.91m、ＳＰ3a62とＳＰ3a61が1.0m、ＳＰ3a61とＳＰ3a60が0.95m、ＳＰ3a60とＳＰ3a59が1.18mであるが、柱間隔を１mで復原しても掘形内には収まる。主軸は北で東に１°振る。

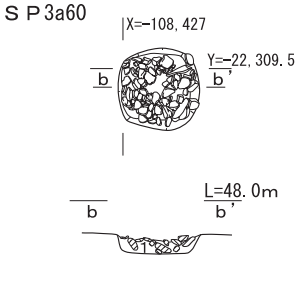
ＳＰ3a65・75・70・74・78からなる北側の東西方向の礎石据付穴は、ＳＰ3a65と礎石からなるＳＰ3a78の距離が7.6mであり柱間を等間隔で割ると1.9mになる。ＳＰ3a65の礎石中心とＳＰ3a75礎石据付穴中心との距離は2.09m、ＳＰ3a75掘形の中心とＳＰ3a70の礎石中心間の距離は1.74m、ＳＰ3a70の礎石とＳＰ3a74掘形の中心間距離は2.06m、ＳＰ3a74掘形とＳＰ３a78礎石の中



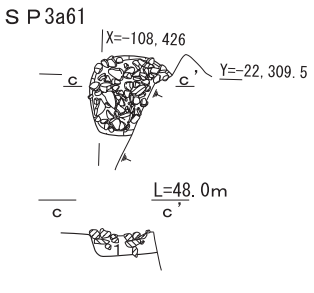
第13図　第１面遺構実測図（３）



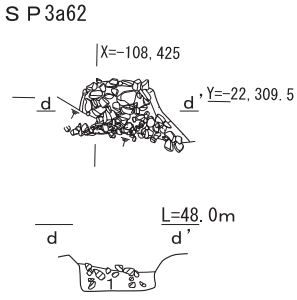
1．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト含む細粒砂
（径 10cm 前後の石を多く含む）



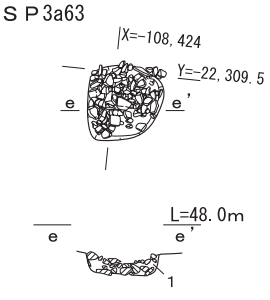
1．黒褐色〈10YR 3/2〉
粗粒砂混じる細粒砂
（径 10 ～ 15cm の石を多く含む）



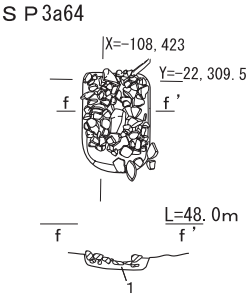
1．暗褐色〈10YR 3/3〉
粗粒砂混じる細粒砂
（径 10cm 前後の石を多く含む）



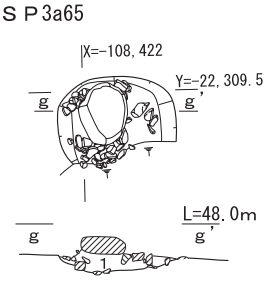
1．黒褐色〈10YR 3/2〉
粗粒砂混じる細粒砂
（径 10cm 前後の石を多く含む）



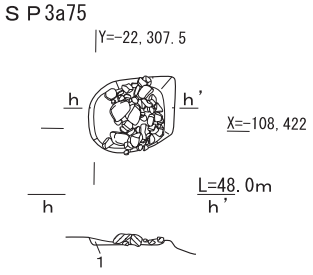
1．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂
（径 10cm 前後の石を多く含む）



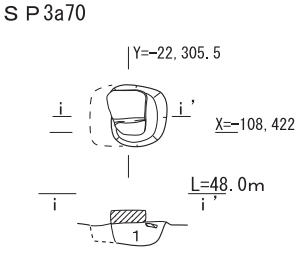
1．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂
（径 10cm 前後の石を多く含む）



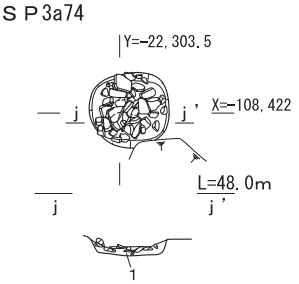
1．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂
（径 10cm 前後の石を含む）



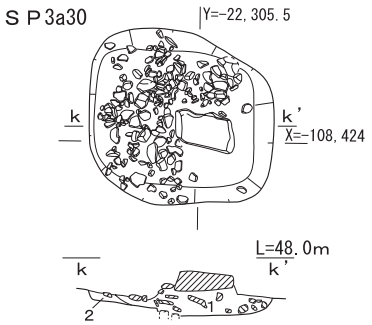
1．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト含む細粒砂
（径 10cm 前後の石を含む）



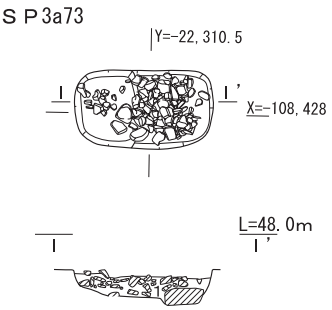
1．暗褐色〈10YR 3/3〉
粗粒砂混じる細粒砂
（焼土・炭・陶器片混じる）



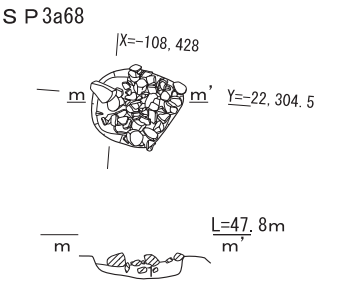
1．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト含む細粒砂
（径 10cm 前後の石を含む）



1．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト含む細粒砂
（径 10 ～ 20cm の石を含む、
土器片多く含む）
2．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト含む細粒砂
（焼土混じる）



1．黒褐色〈10YR 3/2〉
粗粒砂混じる細粒砂
（径 4 ～ 10cm の石を多く含む）



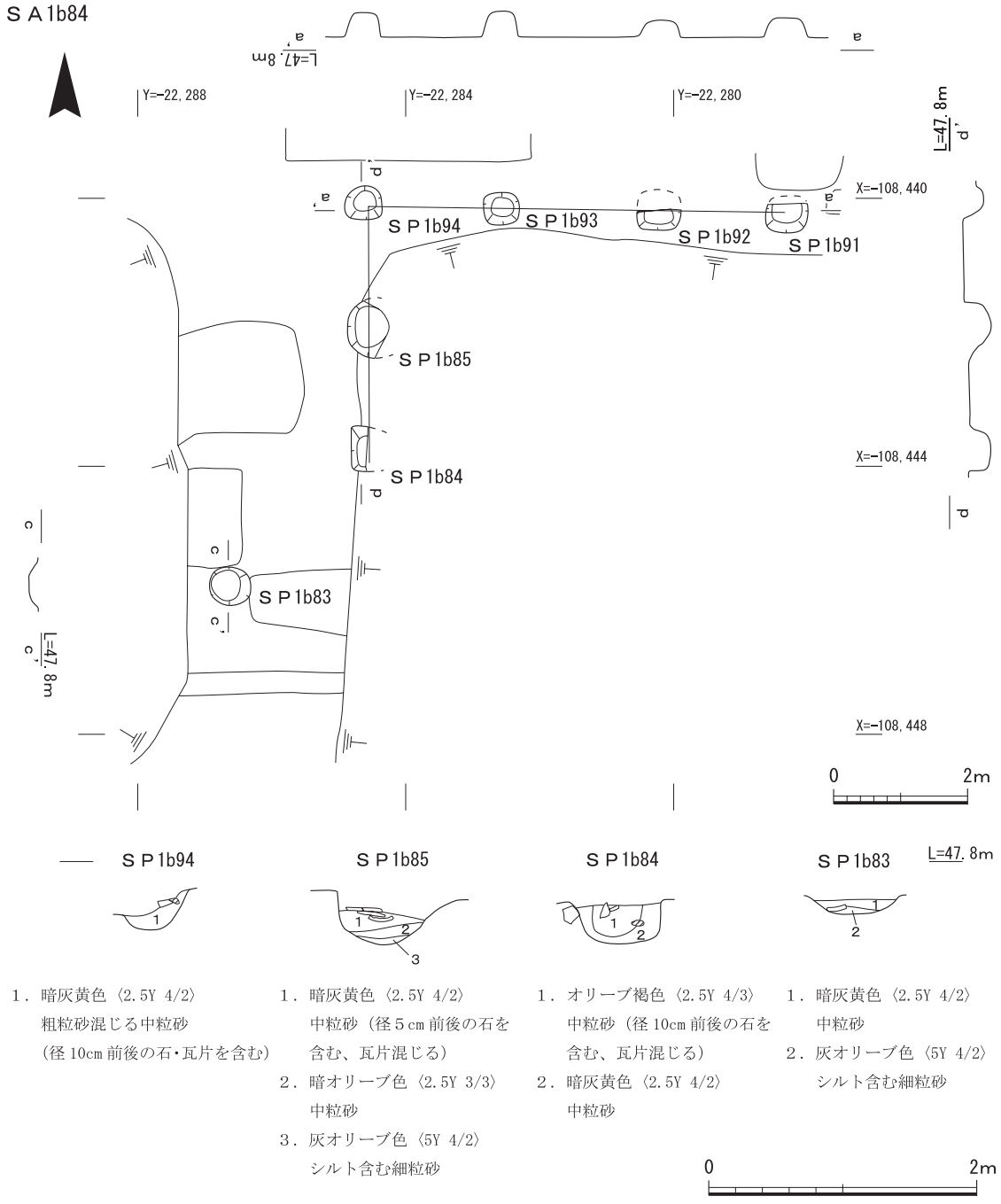
1．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト含む細粒砂
（径 10 ～ 30cm の石を多く含む）

第14図　第１面遺構実測図（４）

心間距離は1.70mである。ＳＰ3a70とＳＰ３a78はいずれも礎石が確認できるが根石の量が少なく他の礎石据付穴に比べ小さい。ＳＰ3a30は大きな根石を持つ礎石据付穴であるが、南東部分には根石がない範囲があり、そこには礎石と思われる石がある。根石の範囲の規模はＳＰ3a70と類似しており、南北の建物計画軸にも載ることから、礎石据付穴が重複している可能性がある。

ＳＰ3a59・31・68からなる建物南側の東西礎石据付穴は、建物の北側とは柱間隔が異なっている。ＳＰ3a59とＳＰ3a31の中心間距離は2.28m、ＳＰ3a31とＳＰ3a68の中心間距離は2.65mを測るが、2.46mの等間隔に復原しても掘形内には収まる。

ＳＰ3a70掘形内には、長軸0.3m、短軸0.26mの礎石が認められる。礎石上面の標高は47.75mで



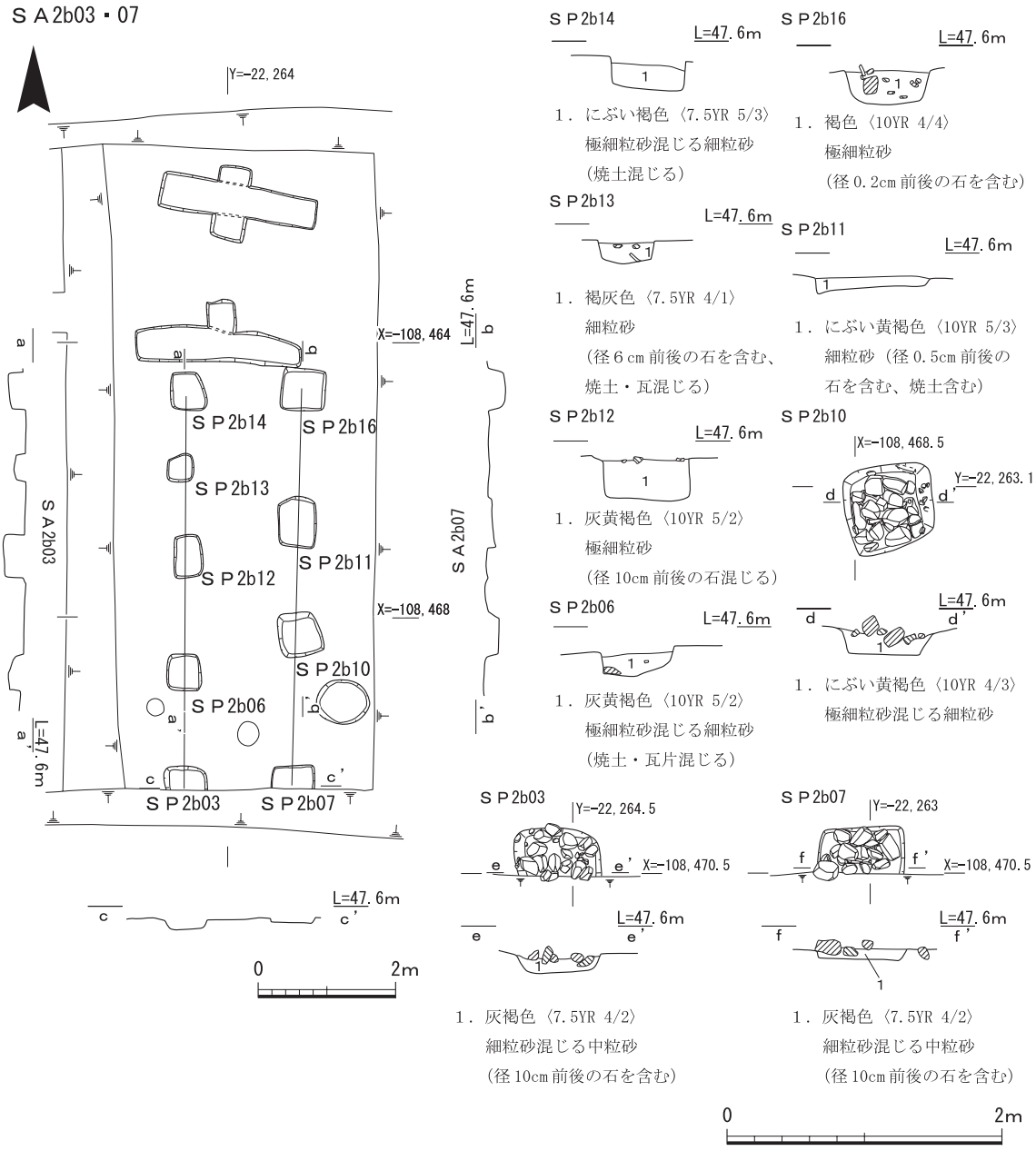
第15図　第１面遺構実測図（５）

ある。建物南辺の西延長部分にある礎石据付穴は断面や根石の集中状況からみると、同程度の掘形が東西に接しているようにも解釈できる。

（２）礎石据付穴列

礎石据付穴列ＳＡ1b84（第９・15図） 調査地の東（７－Ｍ・Ｎ区）で検出した「Ｌ」字状に曲がる柱列で、ＳＢ1b01と組み合い１つの建物になる可能性もあるが、後世の攪乱により遺構面が多くの部分で存在していなかったため確定できなかった。

東西方向の礎石据付穴の中心間距離はＳＰ1a94とＳＰ1a93が2.07m、ＳＰ1a93とＳＰ1a92が2.35m、ＳＰ1a92とＳＰ1a91が1.92mと間隔が揃わないが、平均の柱間である2.12mで柱跡を復原すると掘形内に柱は収まる。



第16図　第１面遺構実測図（６）

南北方向の礎石据付穴の中心間距離はＳＰ1b84とＳＰ1a85が1.82m、ＳＰ1a85とＳＰ1a94が1.85mでほぼ等間隔である。主軸は真北に近い。

ＳＰ1b85では、掘形埋土から多量の平瓦片が重なり合って出土した。

礎石据付穴列ＳＡ1c01（第10図）　調査区中央南部（11－Ｋ・Ｌ区）で「Ｌ」字状に検出したＳＰ1c01～06の６基からなる礎石据付穴列である。いずれも根石が掘形いっぱいに充填されており、礎石が載っていたものと推定できる。掘形の中心間距離は南北方向のＳＰ1c01とＳＰ1c02が0.96m、東西方向のＳＰ1c02とＳＰ1c03が0.78m、ＳＰ1c03とＳＰ1c04が0.98m、ＳＰ1c04とＳＰ1c05が1.18m、ＳＰ1c05とＳＰ1c06が0.86mである。平均の中心間距離は0.95mで掘形内には柱が収まる。

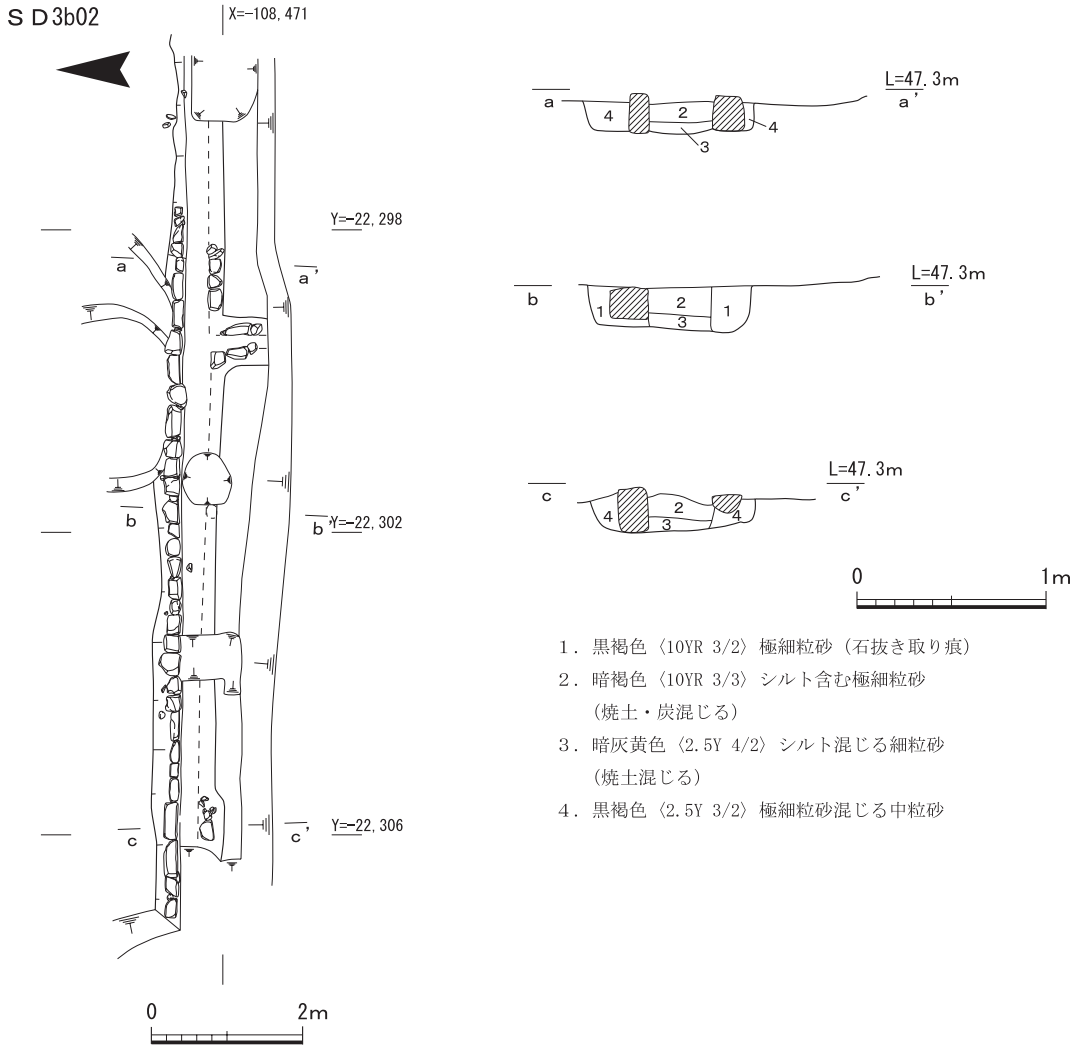
礎石据付穴列ＳＡ2b03（第16図）　調査地南東部（13・14－Ｉ区）で検出した南北に５基並ぶ隅丸方形の掘形列である。ＳＰ2b03以外の掘形からは根石がまとまって発見されていないため、礎石据付穴かどうかは不明である。掘形の中心間距離はＳＰ2b14とＳＰ2b13が1.1m、ＳＰ2b13とＳＰ2b12が1.3m、ＳＰ2b12とＳＰ2b06が1.67m、ＳＰ2b06とＳＰ2b03が1.67mで、平均値である1.435mで柱間を計算すると掘形内に収まらないものもある。主軸はほぼ真北である。隣り合わせにある礎石据付穴列ＳＡ2b07とは中心軸間の距離が北端で1.65m、南端で1.55mであるが、柱列が平行と仮定しても掘形内には柱は収まる。

礎石据付穴列ＳＡ2b07（第16図）　調査地南東部（13・14－Ｉ区）で検出した。ＳＡ2b03に並行して南北に４基並ぶ。掘形の中心間距離はＳＰ2b16とＳＰ2b11が1.95m、ＳＰ2b11とＳＰ2b10が1.62m、ＳＰ2b10とＳＰ2b07が2.35mで、平均値である1.97mで柱間を計算すると掘形内に収まる。主軸はほぼ真北である。

礎石据付穴群ＳＰ3a07ほか（第10図）　調査地西部中央（６～９－Ｒ～Ｕ区）には礎石据付穴と考えられる根石の充填された掘形が多数認められる。ＳＰ3a01・04・06～08・58からなる「Ｌ」字状の掘形列が確認できるが、多くは掘形間が近接するものや、軸が揃わないものが多い。ＳＰ3a58・09～11、3b16・17・18では礎石を検出している。掘形または礎石中心間距離はＳＰ3a58とＳＰ3a08が2.6m、ＳＰ3a08とＳＰ3a07が2.76m、ＳＰ3a07とＳＰ3a06が1.48m、ＳＰ3a06とＳＰ3a04が1.94m、ＳＰ3a04とＳＰ3a01が1.25mである。

（４）溝

溝ＳＤ3b02（第17図）　調査地南西隅（14－Ｑ～Ｔ区）で検出した真東西方向を主軸とする石組みの溝である。側壁は花崗岩の切石を主体とする石積みで、内側に平坦面を向けており、１段分のみが残存していた。石材は大きなもので長辺約0.40m、短辺は約0.15mのものが使用され、長方形を呈した石を長辺側が溝内に面するよう配置したものが多い。南側の石材は東西両端で３石ずつ検出したが、中央部分の石材は後世の攪乱によって失われていた。掘形検出長から溝は約11.5m以上あり、溝の幅は両側の石材が残っている部分で0.3m、深さは0.15～0.20m、掘形の幅0.80mを測る。中央付近では南に溝が分岐しており、溝が続くと考えられるが、調査区外のため0.50m分のみ検出した。溝幅も0.2m以下で狭くなると考えられる。



第17図　第１面遺構実測図（７）

（５）井戸

井戸ＳＥ3b01（第９図）　調査地南西隅（14－Ｔ区）で検出した花崗岩を用いた割石組みの井戸である。石材は、小口平坦面を内側に向け、長袖を外側に放射状に配置している。また、石材間は漆喰で隙間が埋められている。直径約２ｍ、深さ約２ｍを測る。

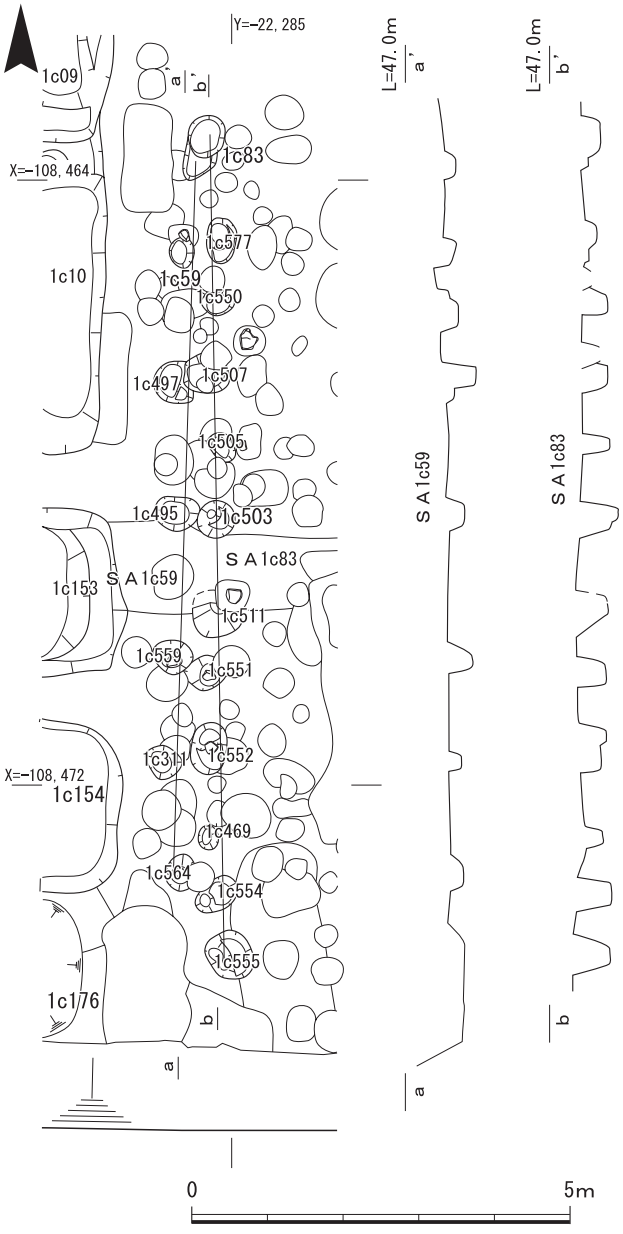
（中川和哉・田原葉月）

３）第２面の遺構

第２面はおよそ桃山時代～江戸時代前半（16世紀後半～17世紀前半）の遺構面である。調査地の西側では、17世紀初頭頃とみられる整地層を検出した。遺構としては、井戸・集石遺構・土坑などを検出した。調査地の中央よりやや西側では、調査地を縦断する形で南北に連続して掘られた土坑群（ＳＫ1b200・1b203・1b152など）を検出した。柱穴は、調査地全体で多く検出したが、建物として復原できたものはない。遺物では、土師器・瓦質土器・陶磁器・瓦・金属製品・石仏などが出土した。大名屋敷に伴うと考えられる金箔瓦も出土している。

（１）柱穴列

柱穴列ＳＡ1a76（第20図）　調査地の北側、中央より西寄り（２～11－Ｎ区）で検出した。南北方向の柱穴列である。後述する南北土坑群の約２ｍ東に位置する。全長約30ｍを測る。柱穴は23基を確認した。柱穴間の距離は1.0～2.0ｍと一定ではないが、同一軸上に載る柱として認識できる。柱穴は、平面円形を呈し、径0.4～0.6ｍ、深さ0.1～0.4ｍを測る。主軸方向は真北を向く。北側の一部が布掘り状になっている（ＳＤ1a56）。その規模は、長さ約4.9ｍ、幅約0.7ｍ、深さ約0.3ｍを測る。布掘りの底で径約0.4ｍ、深さ約0.2ｍの柱穴が４基確認できた。



第18図　第２面遺構実測図（１）

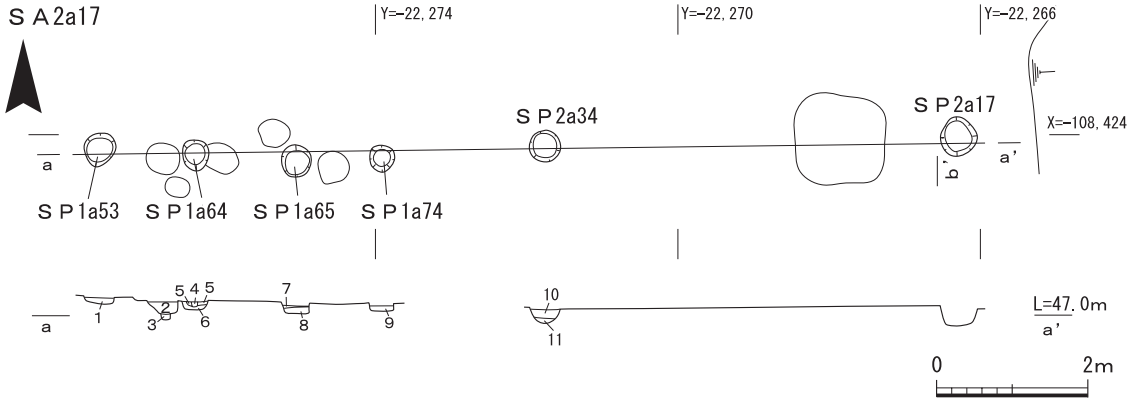
柱穴列ＳＡ1b214（第20図）　調査地の中央より西寄り（６～11－Ｎ区）で検出した。後述する南北土坑群の約１ｍ東に位置する南北方向の柱穴列である。全長約18.2ｍを測る。柱穴は14基を確認した。柱穴間の距離は0.6～1.3ｍと一定ではないが、列として確認できた。柱穴の規模は、径0.4～0.6ｍ、深さ0.1～0.4ｍを測る。主軸方向は真北を向く。

柱穴列ＳＡ1c59（第18・20図）　調査地の南側、中央より西寄り（12～15－Ｎ区）で検出した。後述する南北土坑群の東約1.5ｍに位置する南北方向の柱穴列である。全長約9.3ｍを測る。柱穴は８基を確認した。柱穴間の距離は、0.7～

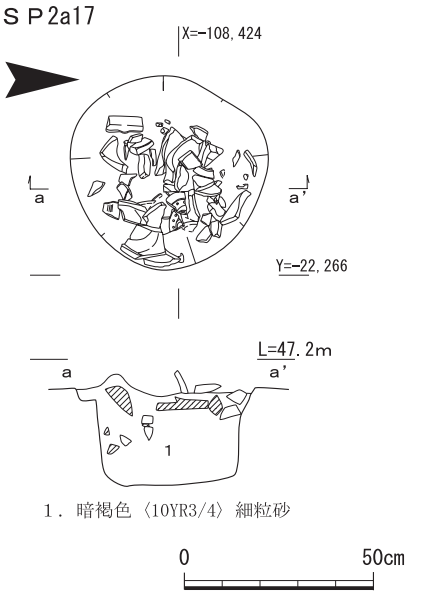
1.8mと一定ではないが、列として確認できた。柱穴の規模は、径0.2～0.5m、深さ0.15～0.4mを測る。主軸方向は、北に対して東に1°振る。

柱穴列ＳＡ1c83（第18・20図）　調査地の南側、中央より西寄り（12～15－Ｎ区）で検出した。後述する南北土坑群の東約２mに位置する南北方向の柱穴列である。全長約10.9mを測る。柱穴は12基を確認した。柱穴間の距離は、0.7～1.2mと一定ではないが、列として確認できた。柱穴の規模は、径0.2～0.7m、深さ0.15～0.5mを測る。主軸方向は、北に対して東に1°振る。

柱穴列ＳＡ2a17（第19・21図）　調査地の北側（２－Ｊ～Ｌ区）で検出した東西方向の柱穴列である。第３面で検出した堀Ａの北側に位置し、１ａ・２ｂ地区にまたがる。検出長は11.4mを測る。６基の柱穴を検出したが、柱間距離からその規模は10間以上になるとみられる。柱間距離は、1.2～1.3mを測る。柱穴列の主軸は真東に向く。各柱穴の掘形は平面円形を呈し、規模は直径0.3～0.5m、深さ0.1～0.3mである。埋土は褐色やにぶい黄褐色･暗褐色のシルト質細粒砂･細粒砂で、柱痕は確認できなかった。ＳＰ2a17は柱穴列の東端に位置する柱穴である。掘形の規模は柱穴列の中で最も大きく、直径0.5m、深さ0.27mを測る。埋土は暗褐色の細粒砂で、掘形内に金箔瓦を含む多くの瓦を充填する。金箔瓦には桐文の飾り瓦や、塀に使用されたと考えられる小型の軒丸

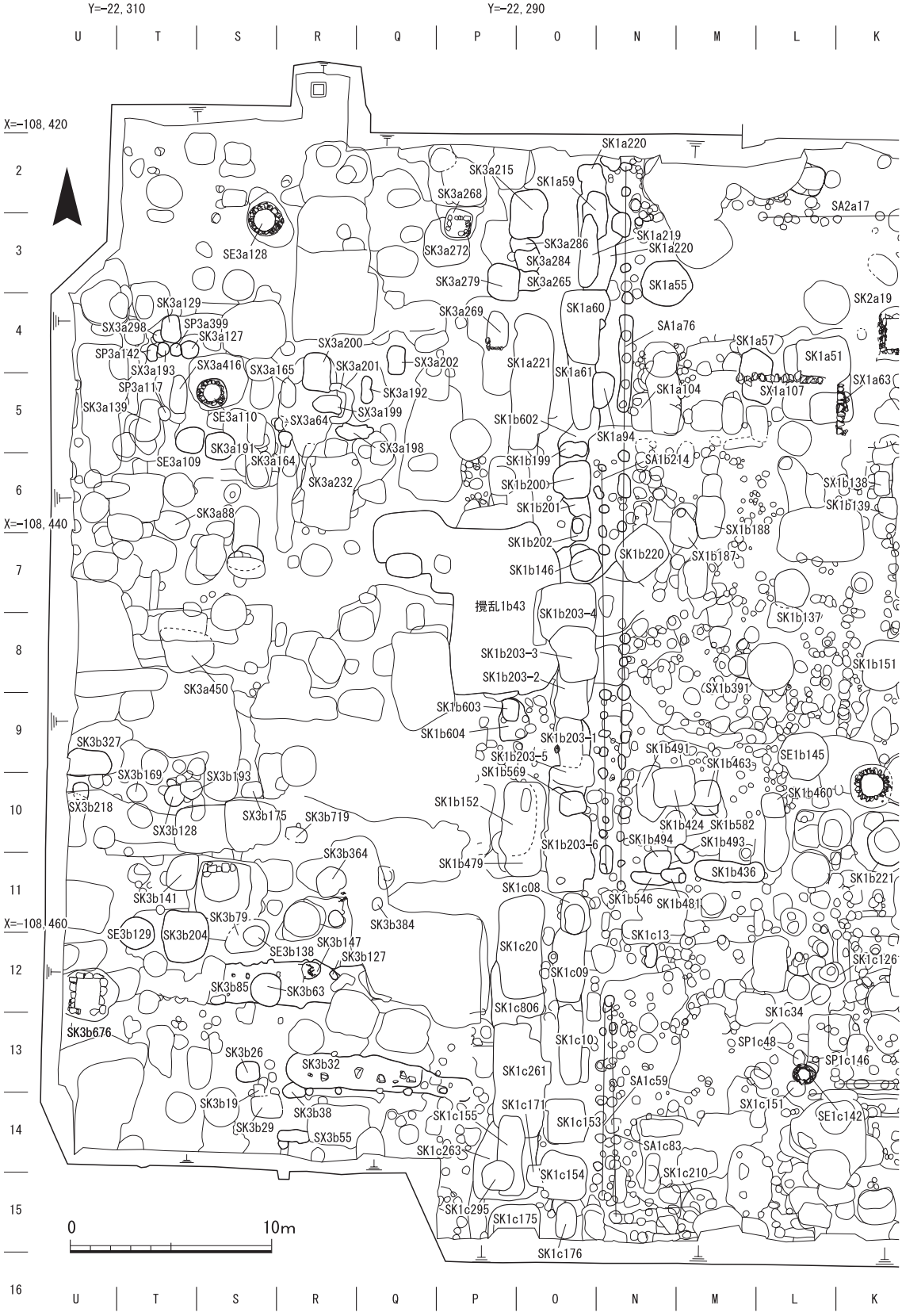


1．褐色〈10YR 4/6〉シルト質細粒砂
2．にぶい黄褐色〈10YR 5/4〉シルト質細粒砂
3．褐色〈10YR 4/6〉シルト質細粒砂
4．明黄褐色〈10YR 6/6〉シルト質細粒砂
5．にぶい黄褐色〈10YR 5/4〉シルト質細粒砂
6．褐色〈10YR 5/4〉シルト質細粒砂
7．黄褐色〈10YR 5/6〉シルト質細粒砂
8．褐色〈10YR 4/6〉シルト質細粒砂
9．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉シルト質細粒砂
10．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉細粒砂（径１～３㎝の石混じる）
11．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（ブロック状にシルト質粘土混じる）

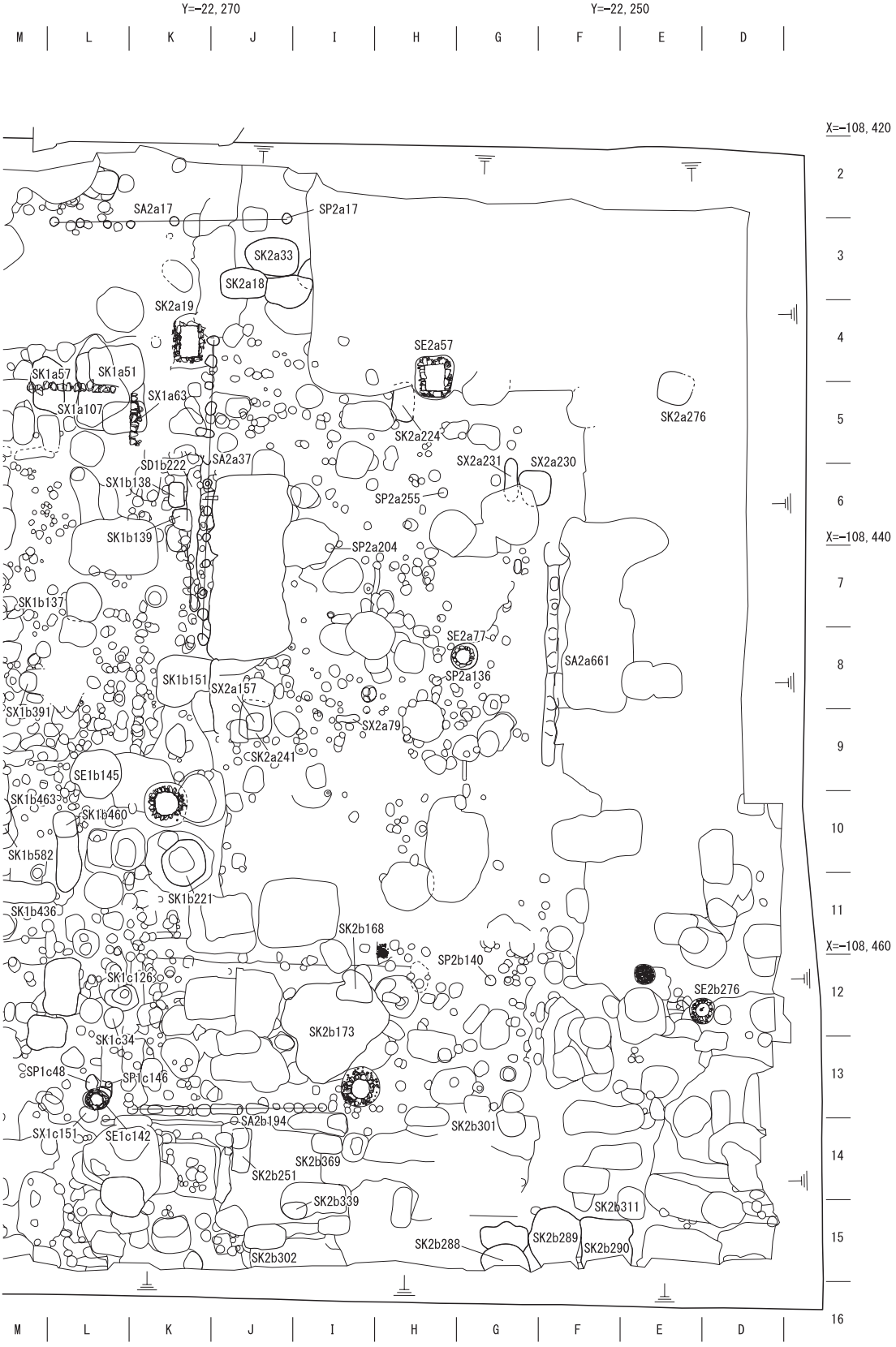


1．暗褐色〈10YR3/4〉細粒砂

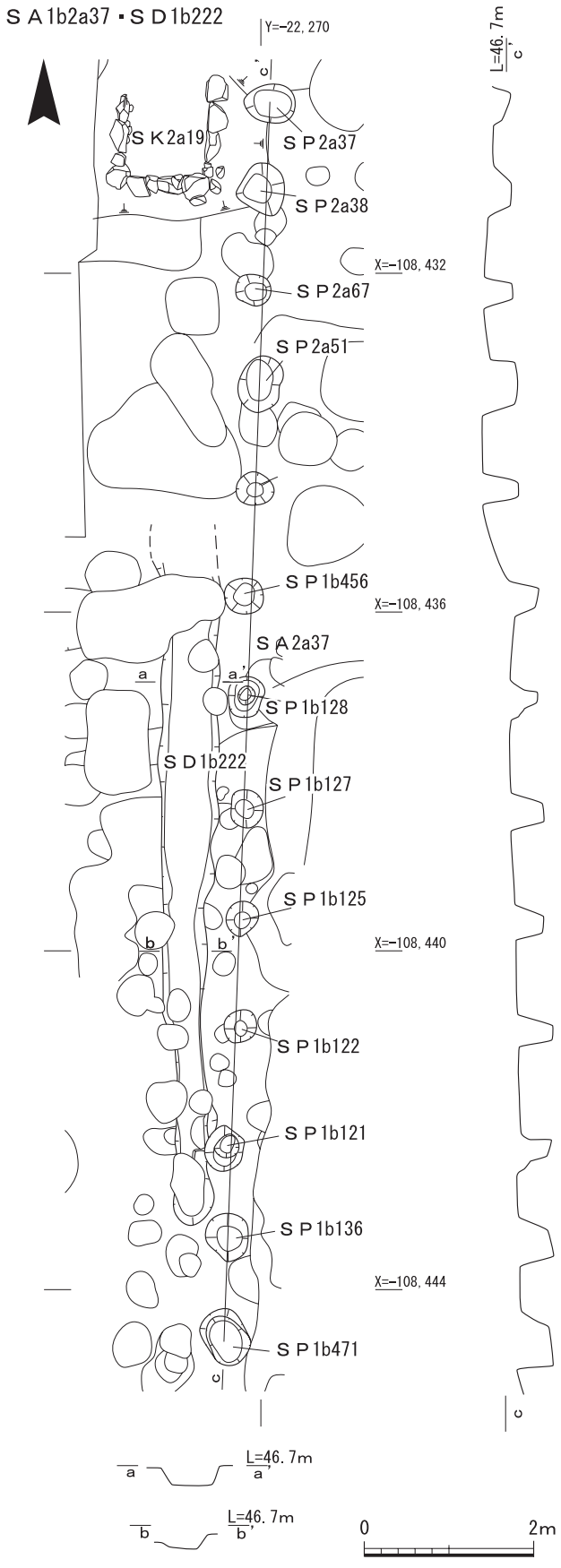
第19図　第２面遺構実測図（２）



第20図　第２面全体平面図（１）



第21図　第２面全体平面図（２）



第22図　第２面遺構実測図（３）

瓦などが出土した（第124図）。柱穴列ではＳＰ1a53からも金箔瓦の破片が出土している。

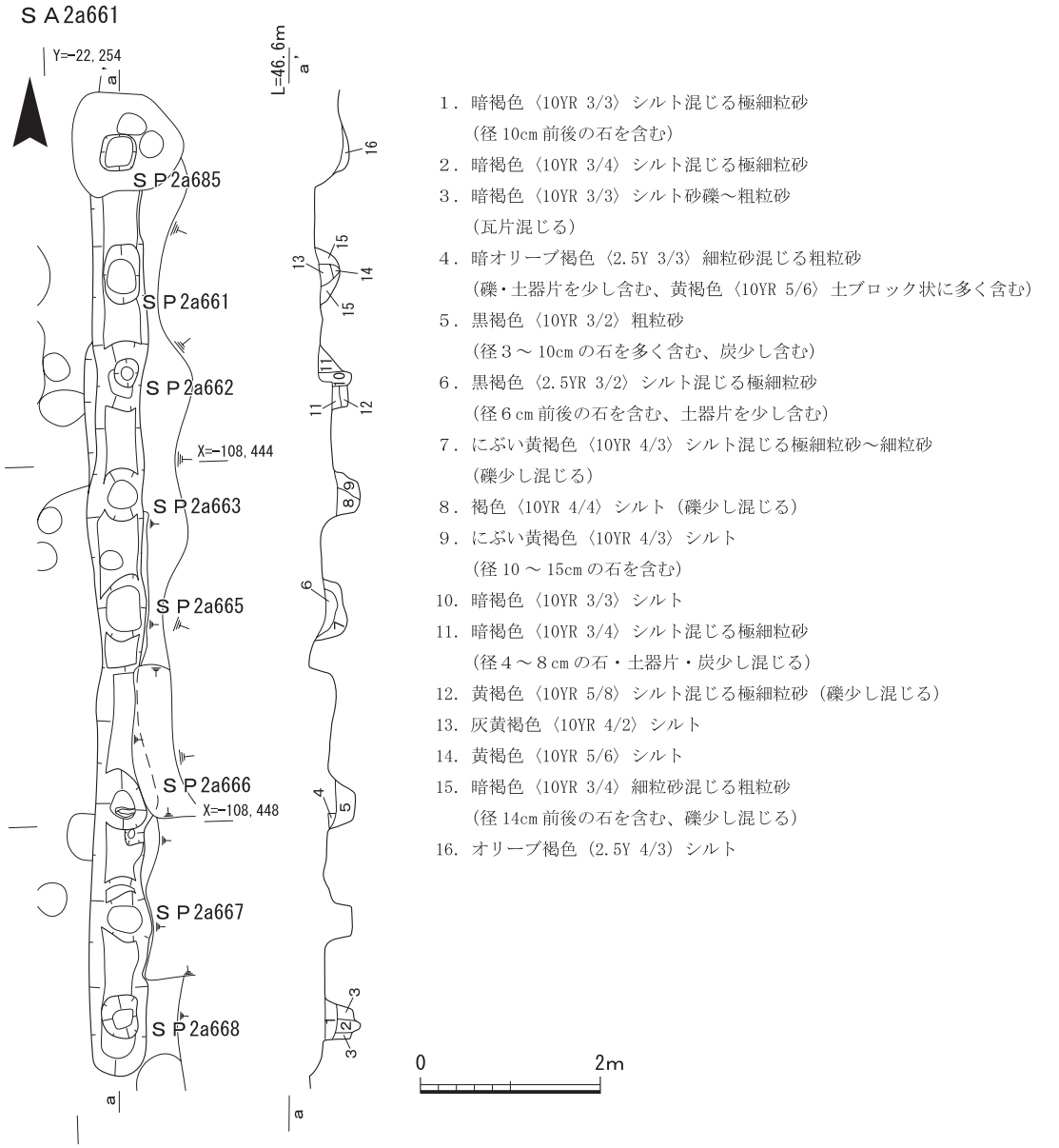
柱穴列ＳＡ2a37（第21・22図）　調査地の北側中央寄り（４～８－Ｊ区）で検出した南北方向の柱穴列である。12間分を検出した。検出長は14.8m、柱間距離は１～1.4mを測る。主軸は北に対して東に２°振る。各柱穴の掘形は、直径0.44～0.5m、深さ0.4～0.5mを測り、平面は円形を呈するものが多い。

柱穴列ＳＡ2a661（第21・23図）　調査地の東側（７～９－Ｆ・Ｇ区）で検出した南北方向の柱穴列である。第３面で検出した堀Ｂの2.6m東に位置する。南北方向の布掘り掘形の柱穴列で、塀跡と考えられる。北端は後世の攪乱によって削平される。布掘り掘形の規模は長さ10.4m以上、幅0.4～0.6m、深さ0.2mを測る。その底面で柱穴は８基を確認した。多くの柱間は1.2mであるが、ＳＰ2a666・665間はやや広くなり2.2mを測る。この間にもう１基柱穴があった可能性が考えられる。主軸方向は北に対して東に２°振る。各柱穴の掘形の平面は隅丸方形で、規模は長辺0.5～0.8m、短辺0.4～0.5mを測り、布掘り底部から0.4m程度を掘りこむ。掘形の埋土は暗褐色のシルト混じる極細粒砂や粗粒砂である。ＳＰ2a661・662・663・668は柱痕を確認した。柱痕の規模は0.18～0.2m大の円形で、埋土は暗褐色のシルトや極細粒砂である。遺物は、ＳＰ2a666から鬼瓦が出土した。遺構時期は16世紀末頃とみられる。

柱穴列ＳＡ2b194（第21・24図）　調査地の南東部（13－Ｉ～Ｋ区）で検出した東西方向の一部布掘り構造をもつ柱穴列である。検出した規模は、長さ約9.9m、幅約0.44m、深さ0.1～0.3mを測る。主軸方向は、東で北に２°振る。布掘り部分は東方ほど削平を受けており、消失していると考えられる。残存する布掘り掘形の規模は、長さ約6.2m、幅約0.4m、深さ約0.1mを測る。14基の柱穴を確認したが、ＳＰ1c201の断面に見られるように、同じ場所での建替が認められる。近接した柱穴を別の時期のものと考えると。柱間距離は1.0～1.2mになる。柱穴の規模は、径約0.3～0.6m、深さ約0.2～0.3mを測る。布掘り部の埋土は、灰黄色極細粒砂や黄褐色極細粒砂である。柱穴の埋土は、暗灰黄色極細粒砂や暗褐色極細粒砂である。ＳＰ1c208・198・195から、径約0.2mの柱痕を確認した。また、多くの柱穴で礎板に用いられた石を確認した。

（２）柱穴

柱穴ＳＰ2a136（第21図）　調査区の東側（８－Ｈ区）で検出した。掘形は直径約0.4mを測る。



第23図　第２面遺構実測図（４）

掘形平面は円形を呈する。掘形中央よりやや南で直径約0.2mの柱痕を確認した。掘形埋土は黒褐色粗粒砂混じる中粒砂である。柱痕埋土は0.1～0.15m大の石が多量に含まれていた。

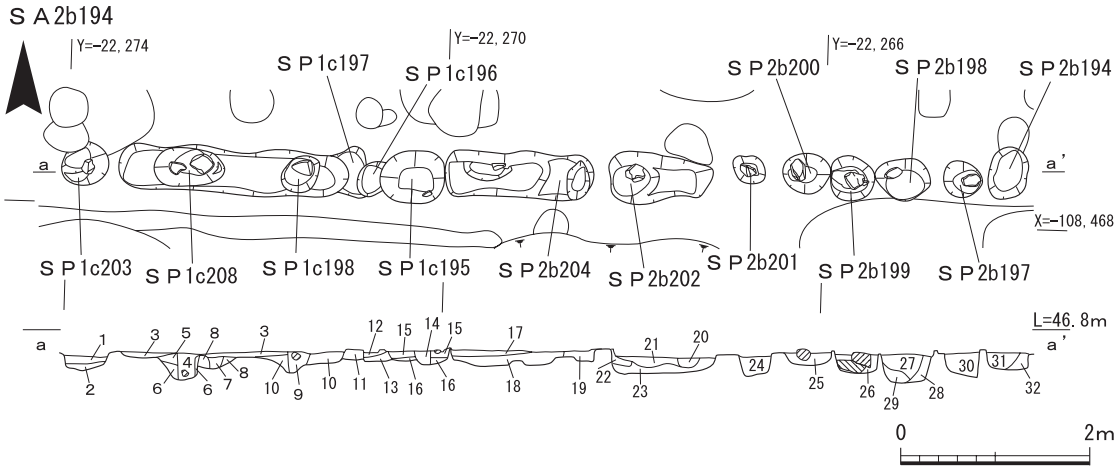
柱穴ＳＰ2a204（第21図）　調査区の北東部（７－Ｉ区）で検出した。掘形は直径約0.40mを測る。掘形平面は円形を呈する。掘形の中央で直径約0.1mの柱痕を確認した。掘形埋土は灰黄色細粒砂である。

柱穴ＳＰ2a255（第21図）　調査区の北東部（６－Ｈ区）で検出した。掘形は直径約0.5mを測る。掘形平面は円形を呈する。掘形の中央よりやや北で約0.2mの柱痕を検出した。掘形埋土は黒褐色粗粒砂混じる細粒砂で、径0.1～0.15mの石が混じる。柱痕は黒褐色中粒砂である。

柱穴ＳＰ3a117・142・399（第20・29図）　調査地北西部に位置するＳＫ3a129南側（４－Ｔ区）から検出した。平面は円形を呈し、径0.6～0.8m、深さ0.1～0.4mを測る。

（３）石室

石室ＳＫ1c34（第21・25図）　調査地の南側中央付近（12－Ｌ区）で検出した石室である。後述



1．灰黄褐色〈10YR 6/2〉極細粒砂
（径３cm前後の石を含む）
2．暗灰黄色〈2.5Y 5/2〉シルト質極細粒砂
3．灰黄色〈2.5Y 6/2〉シルト質極細粒砂
4．灰褐色〈7.5YR 6/2〉極細粒砂
（径0.2cm前後の石を含む）
5．灰褐色〈7.5YR 5/2〉シルト質極細粒砂
（径0.8cm前後の石を含む）
6．灰オリーブ色〈5Y 7/2〉
シルト質極細粒砂
7．灰黄褐色〈10YR 5/2〉シルト質極細粒砂
（径１～２cm前後の石を含む）
8．褐灰色〈7.5YR 5/1〉シルト質極細粒砂
9．褐灰色〈10YR 6/1〉極細粒砂
（径５cm前後の石を含む）
10．暗灰黄色〈2.5Y 5/2〉極細粒砂
（径１～２cm前後の石を含む）
11．灰褐色〈2.5YR 6/2〉極細粒砂
（径２～４cm前後の石を含む）
12．にぶい褐色〈7.5YR 6/3〉細粒砂
（径３cm前後の石を含む）
13．灰黄色〈2.5Y 6/2〉シルト質極細粒砂
14．暗灰黄色〈2.5Y 5/2〉極細粒砂
15．灰黄褐色〈10YR 6/2〉極細粒砂
（径３cm前後の石を含む）
16．黄灰色〈2.5Y 4/1〉極細粒砂
17．黄褐色〈2.5Y 5/4〉極細粒砂
（径２cm前後の石を含む）
18．灰オリーブ色〈5Y 6/2〉極細粒砂
（径0.5cm前後の石を含む）
19．灰黄色〈2.5Y 6/2〉シルト質極細粒砂
20．暗褐色〈10YR 3/4〉極細粒砂
（径３cm前後の石を含む）
21．黒褐色〈10YR 2/3〉シルト質極細粒砂
22．極暗褐色〈7.5YR 2/3〉
シルト質極細粒砂
（径0.5cm前後の石を含む）
23．暗褐色〈7.5YR 2/2〉
シルト質極細粒砂
（径２～３cmの石を含む）
24．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂
25．極暗褐色〈7.5YR 2/3〉極細粒砂
（径５cm前後の石を含む）
26．褐色〈10YR 3/4〉極細粒砂
27．黒褐色〈10YR 2/3〉シルト質極細粒砂
28．明褐色〈10YR 2/3〉極細粒砂
（径0.3cm前後の石を含む）
29．極暗褐色〈7.5YR 2/3〉極細粒砂
30．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂～極細粒砂
（径５～７cmの石を含む）
31．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂
（径３～５cmの石を含む）
32．褐色〈10YR 4/6〉極細粒砂

第24図　第２面遺構実測図（５）

するＳＫ1c126の南側に位置する。掘形規模は西側が削平されており不明である。掘形内に0.1～0.3m大の石を方形に積み上げる。石組みは東側のみが残存していた。石組みの下にも深さ0.6mの素掘りの土坑がある。土坑の形状から石組みは南北に長い長方形であったと考えられる。内法は短軸0.8mで、石組みの高さは0.7mを測る。

石室ＳＫ3a201（第20・30図）　調査地の北西側（５－Ｒ区）で検出した石室である。北側の一部をＳＸ3a200によって削平される。平面は長方形を呈する素掘りのＳＫ3a199の東側肩部に、0.1～0.3mの自然石が１段で、「コ」の字状に並ぶ。西側は削平を受けて石が残存していなかったが、土坑周囲に方形に並んでいたものと考えられる。石列に伴う掘形は確認できなかった。中央の土坑の規模は、東西1.95m、南北1.36m、深さ1.1mを測る。埋土は炭化物の混じる灰黄褐色のシルト質細粒砂である。

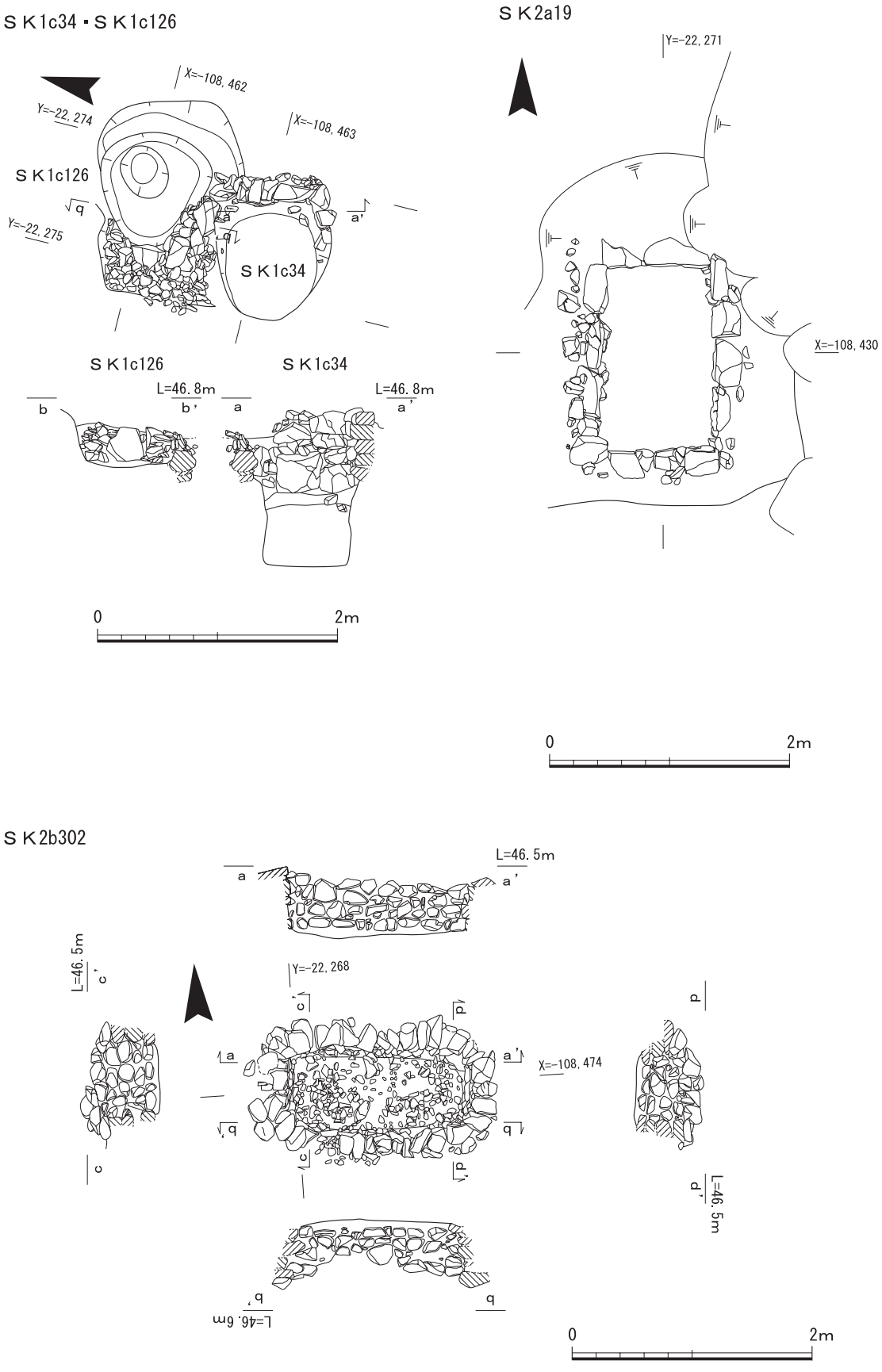
石室ＳＫ2a19（第21・25図）　調査地の北側中央よりやや東側（４－Ｋ区）で検出した石室である。堀Ａの南側に位置し、これを削平して構築されている。0.2～0.5m大の石を平らな面を内側に向けて、方形に石組みする。内法は南北1.5m、東西0.9mを測る。掘形は石組みの外形とほぼ同じで輪郭は不明瞭であった。掘形の埋土はにぶい黄褐色の砂礫層である。石組み内からは17世紀前半頃の遺物が出土した。

石室ＳＫ2b302（第21・25図）　調査地の南側、中央よりやや東側（15－Ｊ区）で検出した石室である。0.1～0.25m大の自然石を隅丸方形に積み上げる。掘形の平面は東西方向に長い楕円形で、規模は南北1.26m、東西2.0m、深さ0.6mを測る。主軸方向は、西に対して北に３°振る。内法は東西1.5m、南北0.6m、深さ0.5mを測る。掘形の底部には0.05m程度の石が全体に広がる。埋土は黒褐色や暗灰黄色のシルト質極細粒砂である。

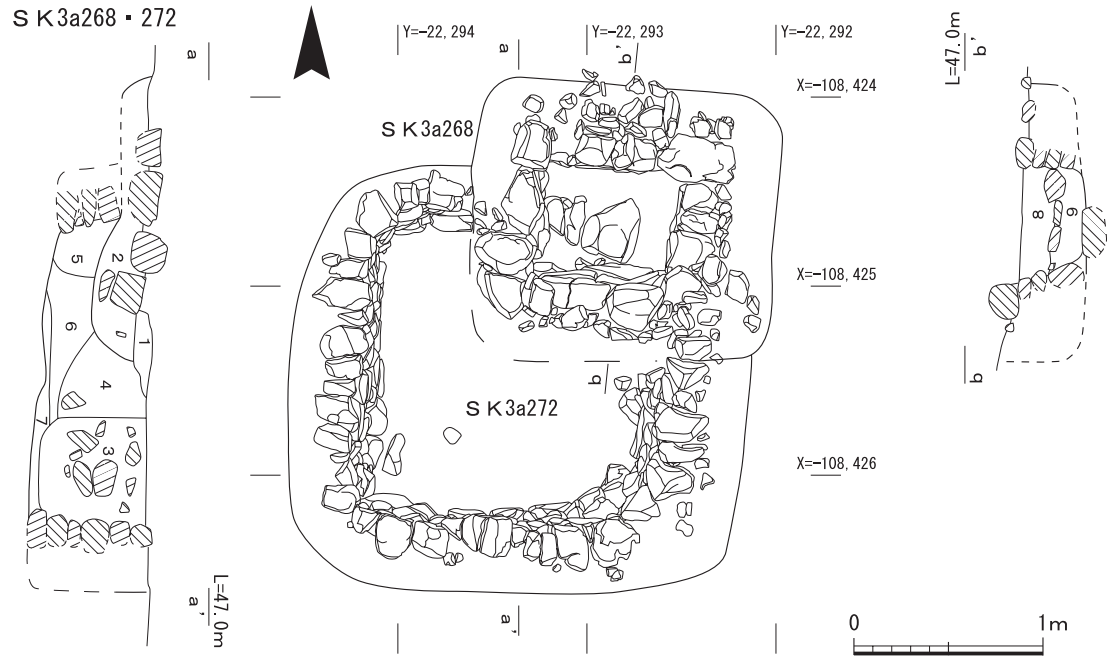
石室ＳＫ3a268（第20・26図）　調査地の北側（２・３－Ｐ区）で検出した石室である。0.2～0.4m大の川原石を方形に積み上げたもので、内法は東西0.7m、南北0.6mを測る。掘形の平面形は方形で、規模は南北1.3m、東西1.6m、深さ0.35mを測る。後述するＳＫ3a272を削平して構築されており、底部中央にはＳK3a272北東の石組みが位置し、床面として利用している。石組み内の埋土は２層に分かれ、上層がにぶい黄褐色の細粒砂が混じるシルト、下層が暗褐色のシルト質細粒砂である。掘形の埋土は、灰黄褐色のシルト混じる細粒砂である。17世紀前半頃の遺物が出土した。

石室ＳＫ3a269（第20・26図）　調査地の北西部（４－Ｐ区）で検出した。第３面で検出した堀Ａの南肩に位置する。南北方向に細長い隅丸長方形の土坑南辺上部に0.2～0.3m大の石を巡らせる。北辺は、0.1～0.4m大の石を高さ1.3mに積み上げる。北側は堀Ａの埋土を掘削しており壁面が軟弱であったために、崩落防止のため北側のみに石積みを構築したと考えられる。土坑の規模は、南北約1.7m、東西約１m、深さ約1.5mである。

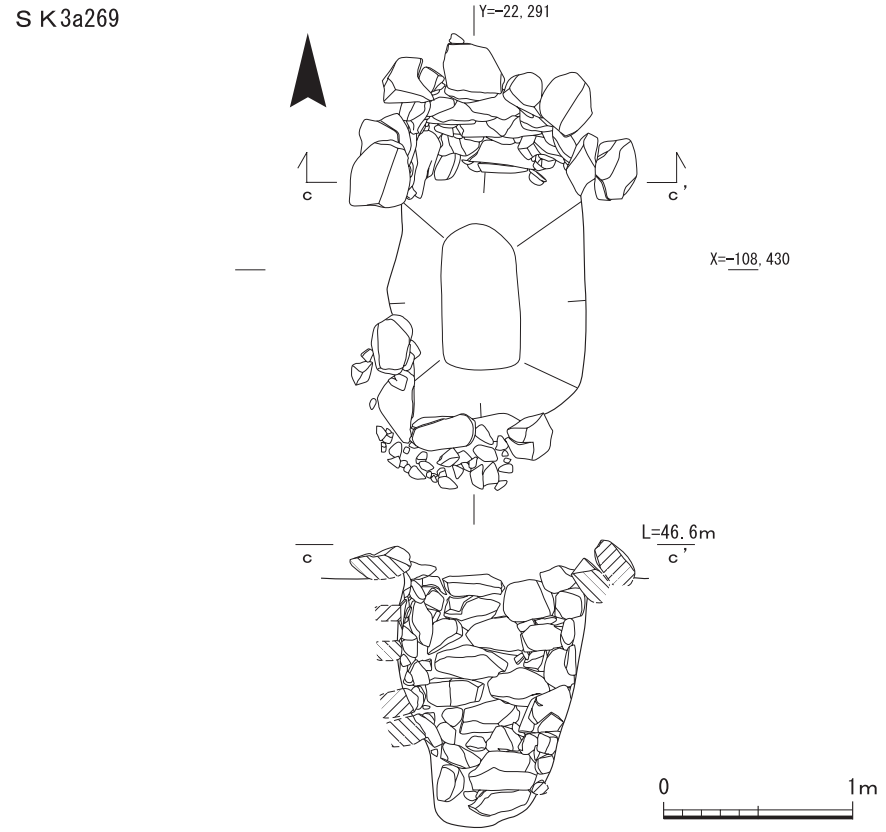
石室ＳＫ3a272（第20・26図）　調査地の北側（３－Ｐ・Ｑ区）で検出した石室である。南東部を上述のＳK3a268によって中位付近まで削平される。0.15～0.3m大の川原石を方形に積み上げた石室で、内法は東西1.5m、南北1.5mの正方形を呈する。掘形の平面は方形で、規模は南北2.25



第25図　第２面遺構実測図（６）



1．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂（炭少量含む）
2．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト混じる細粒砂
（瓦や径２～３㎝の石混じる）
3．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂混じるシルト（径20cm前後の石を含む）
4．褐色〈10YR 4/3〉細粒砂（明黄褐色〈10YR 6/8〉土少量混じる、
径２～３㎝の石含む）
5．黒褐色〈10YR 3/2〉中粒砂混じるシルト（径５～10cmの石混じる）
6．褐色〈10YR 4/3〉細粒砂混じるシルト
（径３～５㎝の石含む）
7．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂・中粒砂混じるシルト
（径１㎝の小石・炭少量混じる）
8．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉シルト質細粒砂
（径１～５㎝の石・土師器片混じる）
9．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト質細粒砂（径５㎝前後の石含む）



第26図　第２面遺構実測図（７）

m、東西2.4m、深さ0.6mを測る。埋土は褐色や黒褐色のシルトである。17世紀前半頃の遺物が出土した。

石室ＳＫ3b676（第20図）　調査地の南西部、西壁付近（12－Ｕ区）で検出した石室である。検出した掘形は平面隅丸方形を呈し、南北2.5m、東西2.0m、深さ0.8mを測る。掘形内に0.28～0.4m大の石を長方形に積み上げる。内法は南北1.5m、東西1.2mを測る。

（4）井戸

井戸ＳＥ1b145（第20・27図）　調査地の中央（９・10－Ｌ区）で検出した。掘形は平面不整形な円形を呈し、径約2.4m、深さ約1.6mを測る。掘形内に0.1～0.3m大の自然石を円形に組み上げる。自然石の平滑面を内側に揃える形で、小口積みで積まれている。裏込め土には、２～５cm大の小石を多く含む。井戸の内法は径約1.3mで、石は掘形の底から積まれていた。

井戸ＳＥ1c142（第20・27図）　調査地の南側中央付近（13－Ｌ区）で検出した石組井戸である。ＳＸ1c151の北東に位置する。掘形の平面は楕円形を呈し、規模は長軸1.2m、短軸0.9mを測る。石組みは0.1～0.3m大の自然石を円形に組み上げ、内径は1.5mを測る。

井戸ＳＥ2a57（第21・27図）　調査地の北東（４・５－Ｈ区）で検出した石組井戸である。掘形北側は後世の攪乱によって削平される。検出した掘形は南北1.8m以上、東西1.4mの方形を呈する。石組みは0.2～0.3m大の石を方形に積み上げ、内法は南北1.0m、東西0.7mを測る。石組み内の埋土は褐色やにぶい黄褐色のシルト質極細粒砂で、赤褐色の焼土を多く含んでいる。0.6mまで人力で掘削を行い、その後重機で下層の確認を行った。その結果、検出面から2.5mまで石組みが続いており、井戸と判断した。

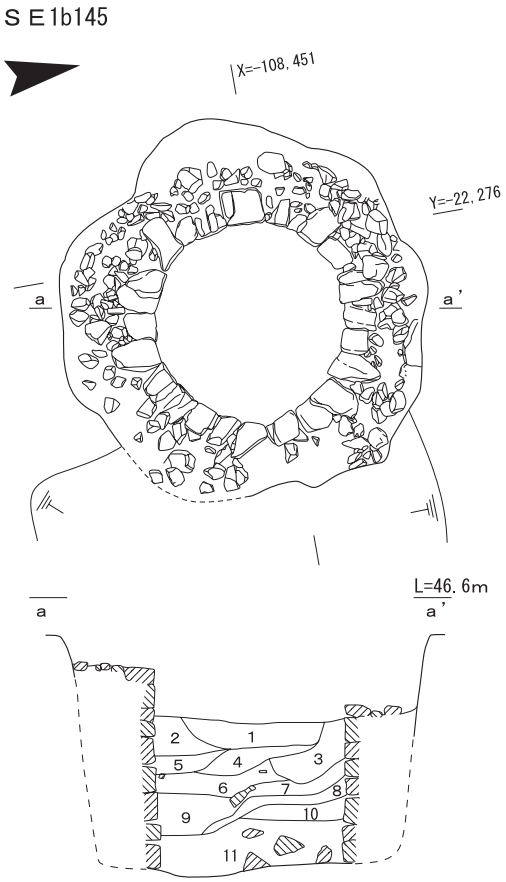
井戸ＳＥ2a77（第21・28図）　調査地の中央付近東側（８－Ｇ・Ｈ区）で検出した石組井戸である。第３面堀Ｂ埋没後に掘られる。掘形の平面は円形を呈し、規模は直径1.3m、深さ0.6mを測る。石組みは0.2～0.35m大の石を円形に組み上げ、内径は0.7mを測る。掘形の埋土は暗褐色の粗粒砂混じる細粒砂である。

井戸ＳＥ2b276（第21・28図）　調査地の南東側（10・11－Ｈ区）で検出した石組井戸である。掘形の平面は円形で、規模は直径1.2mを測る。石組みは0.1～0.2m大の石を円形に組み上げ、内径は0.65mを測る。

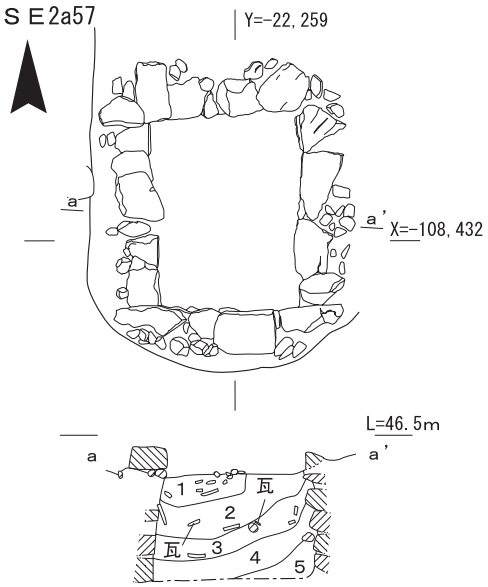
井戸ＳＥ3a109（第20・28図）　調査地の北西部（５－Ｓ・Ｔ区）で検出した。掘形は東西方向に長い楕円形を呈し、南北1.25m、東西1.45m、深さ約0.5mである。掘形に沿って自然石を巡らせ、３石ほど積まれていた。その内法は径約0.8mを測り、石が掘形の底から組まれていた。

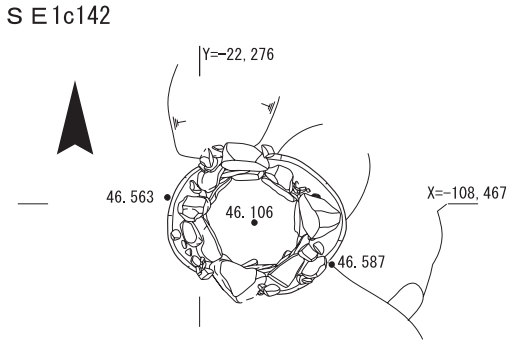
井戸ＳＥ3a110（第20・28図）　調査地の北西（５－Ｓ区）で検出した石組井戸である。ＳＸ3a200の西側に位置する。掘形の平面は円形を呈し、直径1.1mを測る。石組みは0.03～0.2m大の石を円形に組み上げており、内法は径0.9mを測る。

井戸ＳＥ3a128（第20・28図）　調査地の北西（２・３－Ｒ・Ｓ区）で検出した石組井戸である。ＳＥ3a110の北側に位置する。掘形の平面はやや不定形な円形を呈し、規模は長軸1.75m、短軸1.7mを測る。石組みは0.2～0.4m大の自然石を円形に組み上げ、内径は1.1mを測る。



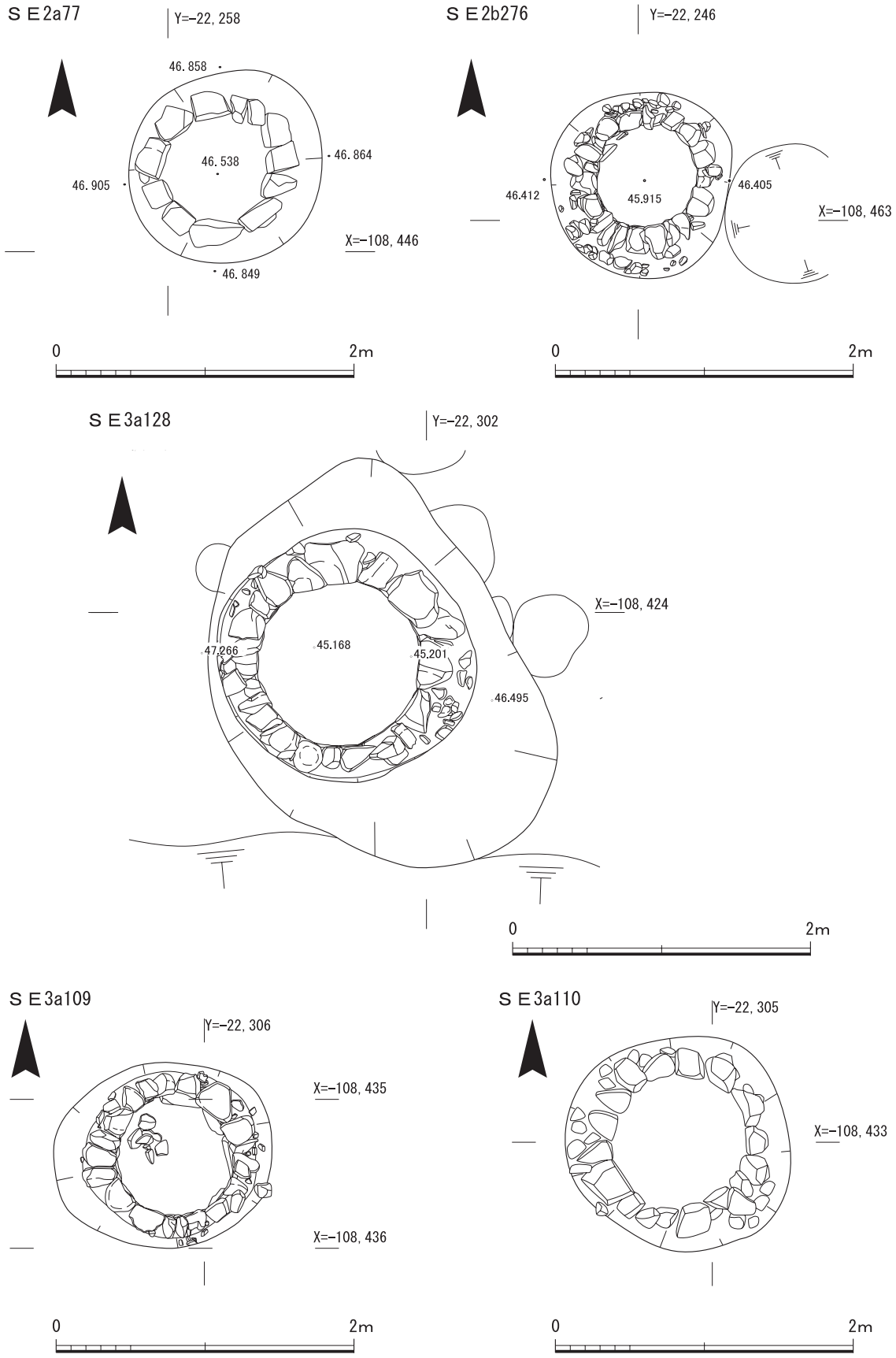
1．黒褐色〈2.5Y 3/2〉粗粒砂
（径10㎝前後の石を含む）
2．オリーブ黒色〈5Y 3/2〉シルト含む細粒砂
3．暗褐色〈10YR 3/4〉極細粒砂
4．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト（炭混じる）
5．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉細粒砂
6．黒褐色〈10YR 2/2〉細粒砂
（明褐色〈2.5Y 6/6〉をブロック状に入る）
7．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト質細粒砂
8．黒色〈10YR 2/1〉炭化物層
9．灰オリーブ〈5Y 4/2〉粗粒砂
（径6㎝前後の石を含む）
10．黒褐色〈2.5Y 3/1〉シルト含む細粒砂
11．暗オリーブ〈5Y 4/3〉中粒砂
（径20㎝前後の石を含む）





1．にぶい黄褐色〈10YR4/3〉シルト質極細粒砂
（焼土　赤褐色〈5YR4/8〉炭混じる）
2．褐色〈10YR4/4〉極細粒砂質
（黄褐色〈10YR5/6〉シルトブロック状に入る、
焼土　赤褐色〈5YR4/8〉、炭含む、瓦片混じる）
3．褐色〈10YR4/4〉シルト質極細粒砂
（黄褐色〈10YR5/6〉ブロック状に入る、炭混じる、瓦片含む）
4．暗褐色〈10YR3/4〉細粒砂混じる極細粒砂質シルト
（焼土・赤褐色〈5YR4/8〉含む、炭少し混じる）
5．褐色〈10YR4/4〉極細粒砂粒質シルト
（焼土・赤褐色〈5YR4/8〉混じる）

第27図　第２面遺構実測図（８）



第28図　第２面遺構実測図（９）

井戸ＳＥ3b129（第20図）　調査地の南西部（11・12－Ｔ区）で検出した。掘形の平面は円形を呈し、規模は、径約1.7m、深さ約1.1mを測る。

井戸ＳＥ3b138（第20図）　調査区の南西部（11・12－Ｓ区）で検出した。ＳＸ3b124の南東に位置する。上面はＳＸ3b79に削平されていた。掘形は直径約1.1mを測り、掘形の平面は円形を呈する。掘形埋土は黒褐色中粒砂である。

（５）集石遺構

集石遺構ＳＸ1b138（第21・29図）　調査地の中央部（６－Ｋ区）で検出した。ＳＫ1b139の北側に位置する集石遺構である。平面は隅丸方形を呈し、その規模は南北1.2m、東西0.8m、深さ約0.2mを測る。埋土は、径２～20cm大の石が多量に混じる黒褐色粘土である。

集石遺構ＳＸ1b391（第20・29図）　調査地の中央よりやや南東（８－Ｍ区）で検出した集石遺構である。第３面のＳＥ1b219の西側に位置する。掘形の平面は方形を呈し、規模は長軸1.0m、短軸0.84m、深さ0.35mを測る。埋土は黒褐色の極細粒砂で、0.1～0.15mの自然石が充填される。礎石据付用の根石の可能性が考えられる。

集石遺構ＳＸ1c151（第20・29図）　調査地の南側中央付近（13－Ｌ区）で検出した集石遺構である。ＳＥ1c142によって北東を削平される。掘形の平面は方形を呈し、規模は長軸0.9m、短軸0.75m、深さは0.32mを測る。埋土は暗オリーブ褐色の極細粒砂で、0.05～0.1mの自然石が充填される。礎石据付用の根石と考えられる。

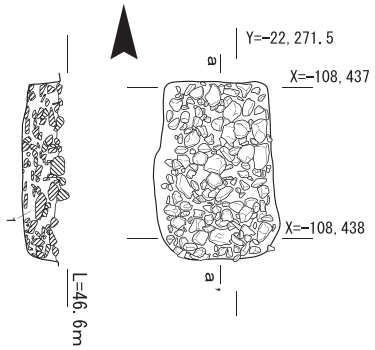
集石遺構ＳＸ2a79（第21・31図）　調査地の東側中央付近（９－Ｉ区）で検出した。掘形の平面は東西に長い楕円形を呈し、規模は南北0.3～0.34m、東西1.2m、深さ0.2mを測る。埋土は灰黄褐色のシルト含む細粒砂で0.04～0.16m大の石を充填する。埋土上面から石仏の破片（石８）が上を向いた状態で出土した。

集石遺構ＳＸ2a157（第21・31図）　調査地の東側中央付近（９－Ｊ区）で検出した。ＳＫ2a241と重複しており、ＳＫ2a241によって上層を削平される。上層のＳＫ2a241の掘形の平面は方形を呈するとみられ、規模は南北1.8m以上、東西1.58m、深さ0.1～0.2mを測る。１～３層がＳＫ2a241の埋土である。褐灰色の極細粒砂や灰黄褐色のシルト混じる細粒砂で、炭化物を多く含む。ＳＸ2a157の平面は方形を呈し、規模は東西0.78m、南北0.7～1.36m、深さ0.35mを測る。埋土はオリーブ黒色の粘土で、上層には0.01～0.16m大、下層には0.4m大の石が入れられる。下層からは石仏（石10）が伏せられた状態で出土した。

集石遺構ＳＸ2a230（第21図）　調査地の北東部（６－Ｆ・Ｇ区）で検出した集石遺構である。ＳＸ2a231の東側に位置する。南西を後世の攪乱によって削平される。掘形の平面は方形を呈し、規模は南北1.7m、東西1.57m、深さ1.4mを測る。掘形内に0.05～0.2m大の石が充填される。

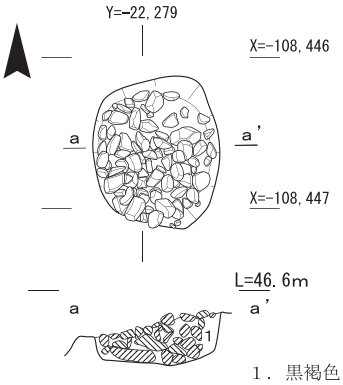
集石遺構ＳＸ2a231（第21図）　調査地の北東部（５・６－Ｇ区）で検出した集石遺構である。ＳＸ2a230の西側に位置する。南側を攪乱によって削平される。掘形の平面は南北に長い楕円形を呈するとみられ、規模は南北1.4m以上、東西0.6m、深さ1.4mを測る。掘形内に0.05～0.1m大の石が充填される。掘形底部付近から金箔瓦が出土した。

ＳＸ1b138



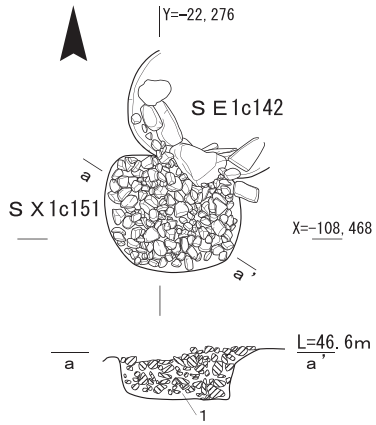
1．黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト混じる粘土
（径２～20cmの石を多く混じる、
明黄褐色〈10YR 6/6〉土斑に入る）

ＳＸ1b391



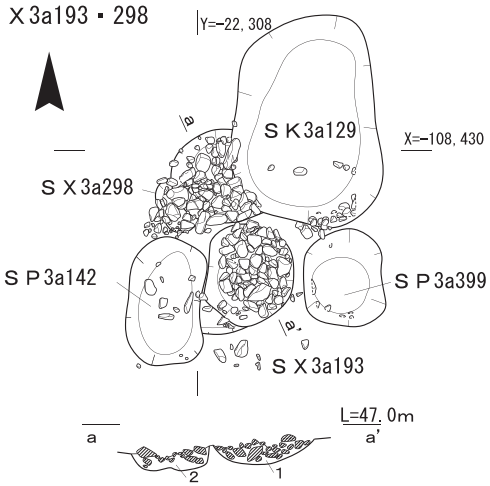
1．黒褐色〈2.5Y 3/2〉
シルト質極細粒砂

ＳＸ1c151



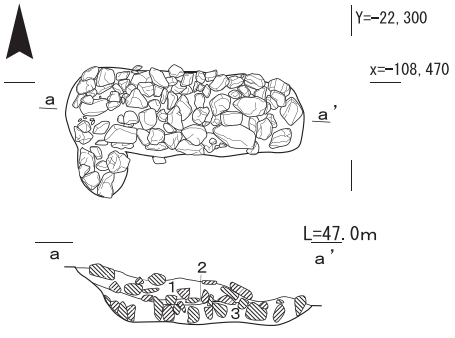
1．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉シルト質極細粒砂
（径５～16cmの石を多く含む）

ＳＸ3a193・298



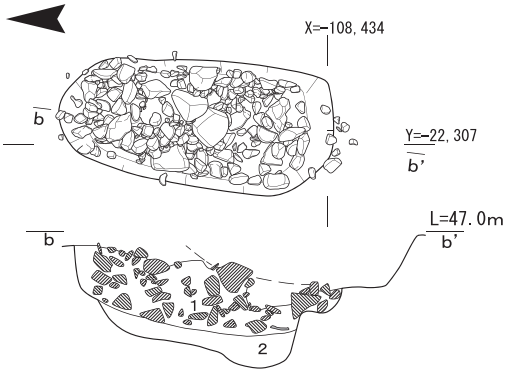
1．暗褐色〈10YR3/4〉細粒砂
（礫層 、径４～15cmの石を多く含む）
2．暗褐色〈10YR3/3〉細粒砂
（径３～15cmの石を多く含む）

ＳＸ3b55



1．灰黄褐色〈10YR 5/2〉細粒砂（径0.5cm前後の石を含む）
2．橙色〈10YR 6/3〉シルト含む極細粒砂
3．黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂（径10cm前後の石を多く含む）

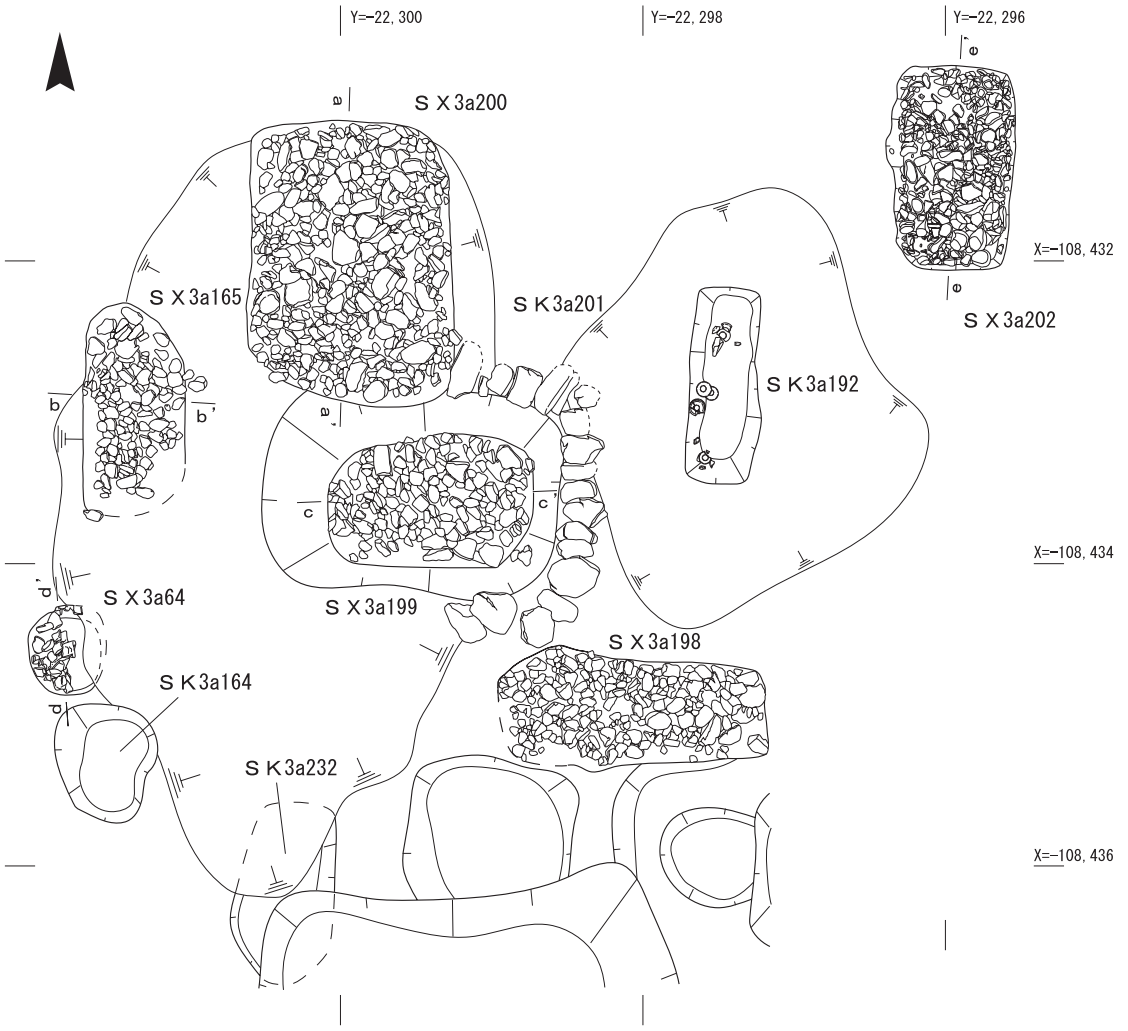
ＳＸ3a416

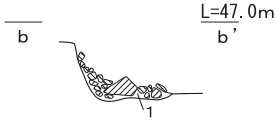


1．にぶい黄褐色〈10YR4/3〉細粒砂
（径10～20cmの石を多く含む、土師器細片混じる）
2．黒褐色〈10YR3/2〉シルト質細粒砂（炭混じる）

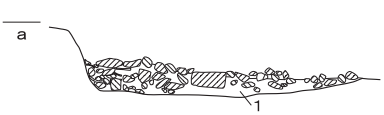
第29図　第２面遺構実測図(10)

ＳＸ3a64・165・198 ～ 202、ＳＫ3a164・232



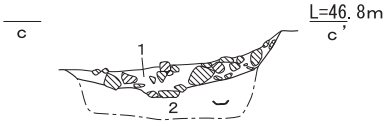


1．黒褐色〈10YR 3/2〉中粒砂（径３～ 20cm の石を含む）

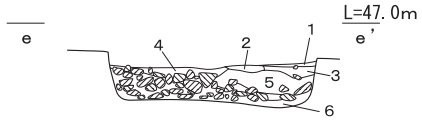


1．黒褐色〈10YR 3/2〉中粒砂（径３～ 20cm の石を含む）

1．黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂
（径 0.5 ～ 10cm の石を多く含む）



1．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト質中粒砂
（径３～ 20cm の石を多く含む）
2．灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂混じるシルト質中粒砂
（炭・土師器皿混じる）

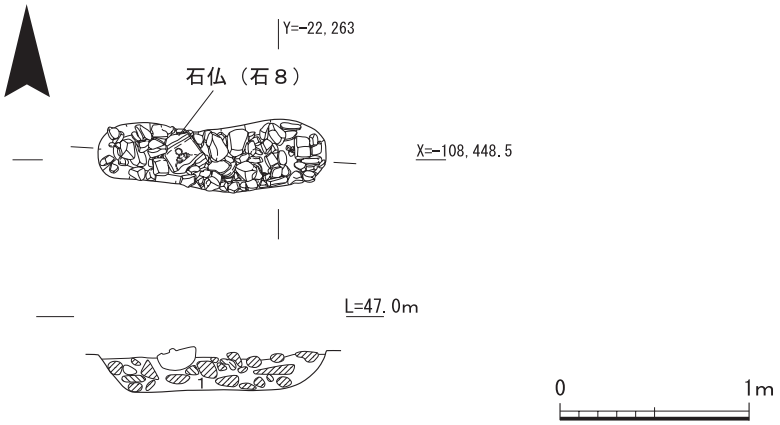


1．明赤褐色〈5YR5/6〉シルト質細粒砂（焼土）
2．明黄褐色〈10YR6/6〉シルト質細粒砂
3．暗褐色〈10YR3/3〉極細粒砂（炭多く含む）
4．暗褐色〈10YR3/3〉極細粒砂（径 0.5cm 前後の石を含む）
5．黒褐色〈10YR3/2〉細粒砂（焼土・炭が混じる）
6．暗褐色〈10YR3/3〉細粒砂（礫層）

0　1m

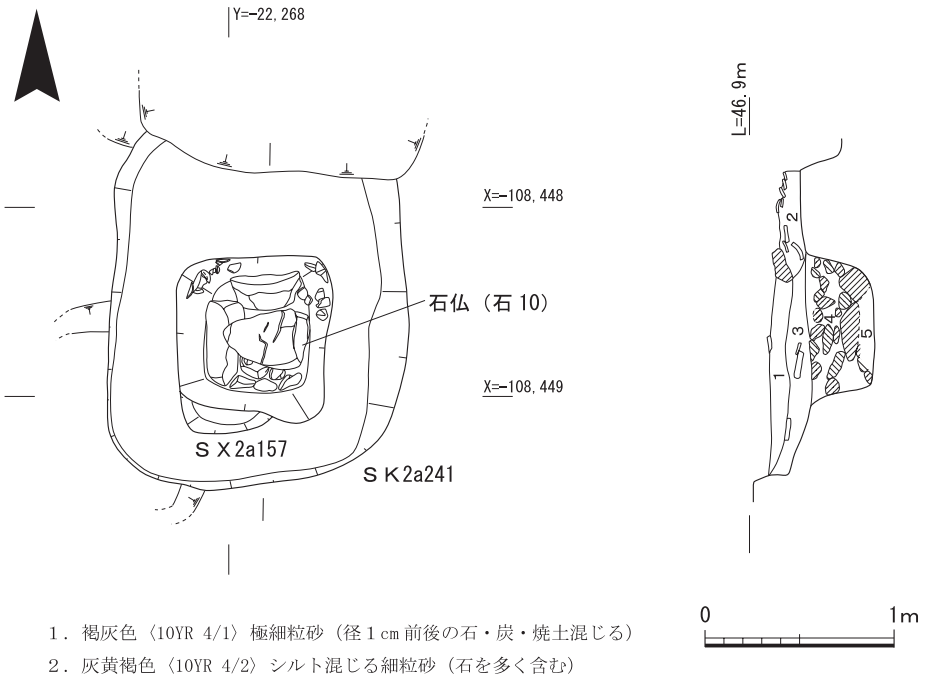
第30図　第２面遺構実測図(11)

ＳＸ2a79



１．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト混じる細粒砂（径５cm前後の石を多く含む）

ＳＫ2a241・ＳＸ2a157



１．褐灰色〈10YR 4/1〉極細粒砂（径１cm前後の石・炭・焼土混じる）
２．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト混じる細粒砂（石を多く含む）
３．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト混じる極細粒砂（炭・瓦混じる）
４．礫層（鉄分含む）
５．オリーブ黒色〈5Y 3/1〉粘土

第31図　第２面遺構実測図(12)

集石遺構ＳＸ3a64（第20・30図）　調査地の北西部（５－Ｒ区）から検出した集石遺構である。掘形の平面は隅丸方形または楕円形を呈し、規模は径約0.6m、深さ約0.25mを測る。埋土は、0.5～10cm大の石を多く含む黒褐色極細粒砂である。

集石遺構ＳＸ3a165（第20・30図）　調査地の北西部（５－Ｒ区）で検出した集石遺構である。ＳＸ3a200の西側に位置する。南側を後世の攪乱によって削平される。掘形の平面は方形を呈するとみられ、規模は南北1.4m以上、東西0.7m、深さ0.4mを測る。埋土は黒褐色の中粒砂で0.03～0.2m大の石が充填される。

集石遺構ＳＸ3a198（第20・30図）　調査地北西部（５－Ｒ区）で検出した、東西方向に長い集石遺構である。規模は、南北0.7m、東西1.9m、深さ約0.25mを測る。埋土は、３～20cm大の石を多く含む黒褐色中粒砂であった。

集石遺構ＳＸ3a199（第20・30図）　調査地の北西（５－Ｒ区）で検出した集石遺構である。ＳＸ3a200の南側に位置する。掘形の平面は東西に長い長方形を呈し、規模は南北1.4m、東西2.0m、深さ0.3mを測る。埋土は灰黄褐色のシルト質細粒砂で、0.05～0.2m大の石が充填される。

集石遺構ＳＸ3a200（第20・30図）　調査地の中央より西側（４・５－Ｒ区）で検出した集石遺構である。ＳＸ3a199埋没後に築かれた。掘形の平面は隅丸方形を呈し、その規模は南北1.8m、東西1.3m、深さ0.4mを測る。埋土は黒褐色の中粒砂で、0.03～0.3m大の石が充填される。

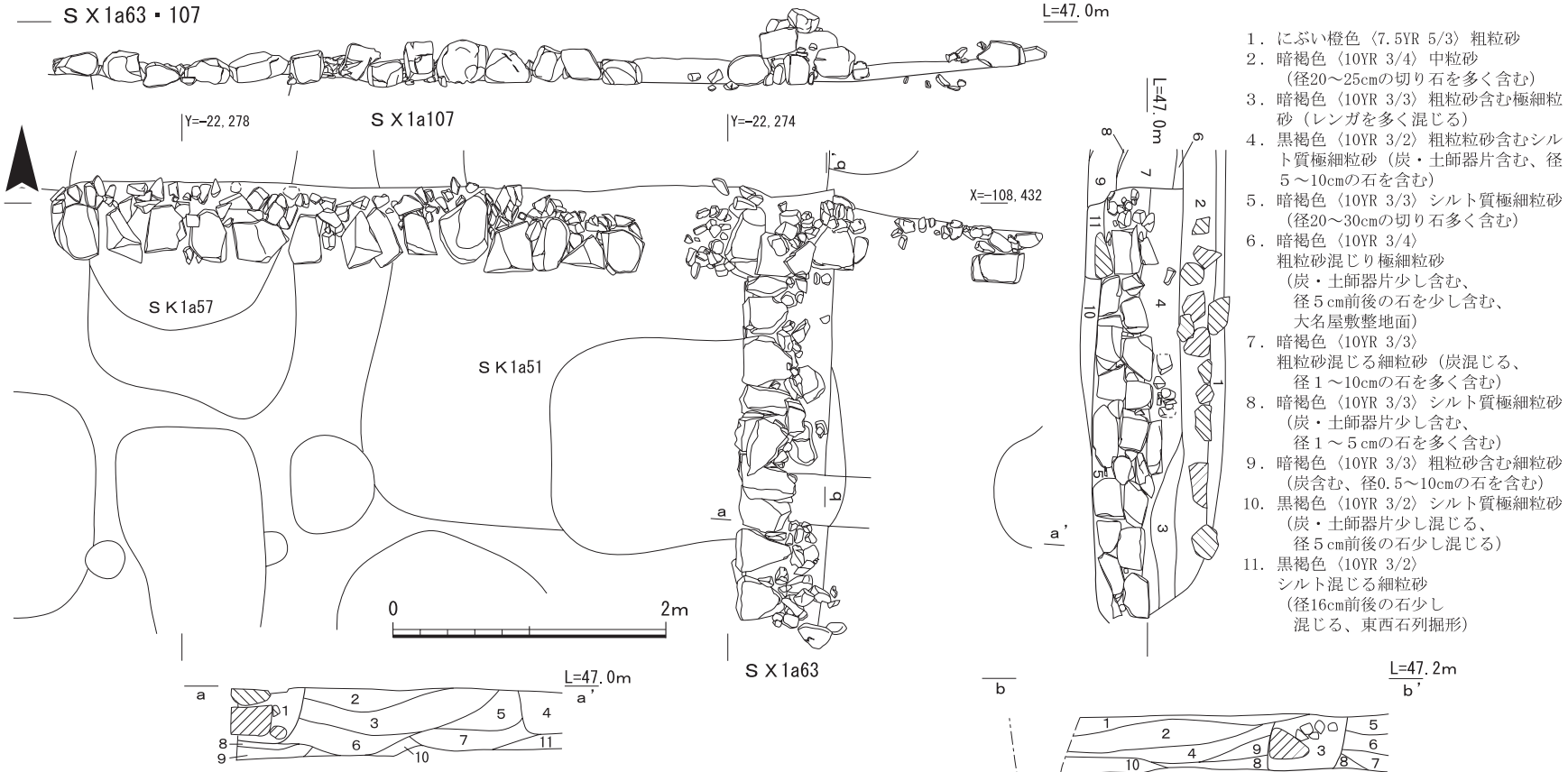
集石遺構ＳＸ3a202（第20・30図）　調査地北西（４－Ｑ区）で検出した集石遺構である。ＳＸ3a200の東側に位置する。掘形の平面は長方形を呈し、南北1.35m、東西0.8m、深さ0.3mを測る。掘形底部には黒褐色の細粒砂が堆積し、0.04～0.1m大の石が充填される。

集石遺構ＳＸ3a298・193（第20・29図）　調査地北西部（４－Ｔ区）で検出した。ＳＫ3a129の西側に位置する。掘形の平面は円形を呈し、規模は径約0.6m、深さ約0.1mを測る。埋土は、２～15cm大の礫を多く含む暗褐色細粒砂であった。

集石遺構ＳＸ3a416（第20・29図）　調査地北西部（５－Ｔ区）で検出した、南北方向に長い集石遺構である。掘形の平面は歪な楕円形を呈し、規模は南北1.8m、東西0.86m、深さ0.85mを測る。埋土は２層に分層でき、上層は２～24cm大の礫を多量に含むにぶい黄褐色細粒砂で、下層は炭化物の混じる黒褐色シルト質細粒砂である。２層は全く異なる土質であることから、下層は別遺構の埋土の可能性がある。ＳＸ3a416埋没後に重複してＳＫ3a156が掘られたことから、ＳＸ3a416南側には礫の堆積は見られなかった。

集石遺構ＳＸ3b55（第20・29図）　調査地南西部（14－Ｒ区）で検出した、東西方向に長い集石遺構である。掘形の平面は隅丸長方形を呈し、規模は、南北約0.6m、東西約1.55m、深さ約0.35mを測る。南西部は円形に突出し、その径は約0.3mを測る。埋土は、灰黄褐色細粒砂や黒褐色極細粒砂で、５～30cm大の石が多量に入る。

集石遺構ＳＸ3b128（第20図）　調査地の西側中央よりやや南（10－Ｔ区）で検出した土坑である。東側をＳＸ3b193によって削平される。掘形の平面は円形を呈するとみられ、規模は長軸1.0m以上、短軸0.98m、深さ0.4mを測る。0.05～0.45m大の石を充填する。



1．にぶい橙色〈7.5YR 5/3〉粗粒砂
2．暗褐色〈10YR 3/4〉中粒砂
（径20～25cmの切り石を多く含む）
3．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂含む極細粒砂（レンガを多く混じる）
4．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒粒砂含むシルト質極細粒砂（炭・土師器片含む、径５～10cmの石を含む）
5．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト質極細粒砂（径20～30cmの切り石多く含む）
6．暗褐色〈10YR 3/4〉粗粒砂混じり極細粒砂（炭・土師器片少し含む、径５cm前後の石を少し含む、大名屋敷整地面）
7．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂混じる細粒砂（炭混じる、径１～10cmの石を多く含む）
8．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト質極細粒砂（炭・土師器片少し含む、径１～５cmの石を多く含む）
9．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂含む細粒砂（炭含む、径0.5～10cmの石を含む）
10．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質極細粒砂（炭・土師器片少し混じる、径５cm前後の石少し混じる）
11．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる細粒砂（径16cm前後の石少し混じる、東西石列掘形）

1．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる細粒砂（径10cm前後の石を含む）
2．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト質極細粒砂（径１cm前後の石・炭混じる）
3．暗褐色〈10YR 3/4〉シルト混じる中粒砂（径１～２cmの石多く混じる）
4．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉中粒砂（径２～５cmの石混じる。炭含む）
5．黒褐色〈10YR 3/2〉中粒砂混じるシルト（径２～５cmの石・土師器片混じる）
6．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂混じるシルト（径１～10cmの石含む）
7．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト質極細粒砂（径２cm前後の石混じる、土師器片・炭少し混じる）
8．灰黄褐色〈10YR 4/2〉粗粒砂混じる細粒砂（焼土混じる）
9．褐灰色〈10YR 4/1〉シルト質中粒砂（炭混じる）
10．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質細粒砂（径５cm前後の石少し混じる）
11．黒褐色〈10YR 2/2〉シルト質中粒砂（径１～２cmの石・土師器片混じる）

1．黄褐色〈2.5Y 5/4〉細粒砂（炭・径１cm以下の石混じる、南北石列掘形）
2．暗褐色〈10YR 5/4〉細粒砂（土師器片含む、径７～17cmの石混じる、南北石列掘形）
3．オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉細粒砂（径７～29cmの石混じる、東西石列掘形）
4．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂（土師器片含む、径２～５cmの石混じる）
5．にぶい黄褐色〈10YR 5/4〉細粒砂（径３～６cmの石混じる）
6．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（径４～７cmの石混じる）
7．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト含む細粒砂
8．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉シルト含む細粒砂（土師器片少し含む）
9．オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉細粒砂（径５～９cmの石混じる）
10．黒褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（径４～８cmの石少し混じる）

第32図　第２面遺構実測図(13)

集石遺構群ＳＸ3b169・175・193・218（第20図）　調査地西側の３ａ地区と３ｂ地区境（10－Ｓ～Ｕ区）で検出した集石土坑群である。４基の土坑が東西方向に並ぶ形で検出した。平面は円形を呈し、その規模は径1.0～1.1m、深さ0.1～0.5mを測る。これらの土坑は一定間隔で並んでおり、その柱穴間の距離は、約2.4mを測る。掘形内には、１～20cm大の石が多量に確認できた。周辺に対応する集石遺構はなかったが、礎石立ち建物の基礎になる可能性も考えられる。

（６）石列

石列ＳＸ1a107（第20・32図）　調査地の北側（５－Ｌ・Ｍ区）で検出した石列である。１ａ地区の南側に位置する。ＳＫ1a51・63の上層で検出した。東西方向の石列で、検出長は7.25m、幅0.4～0.65mを測る。0.3～0.4m大の自然石が一段で直線的に並ぶ。南側に面を向けるが、丸い石もありやや不揃いである。石列の主軸は東に対して南に２°振る。北側には裏込めには0.1～0.3m大の石を使用する。埋土はオリーブ褐色の細粒砂である。

（７）石積

石積ＳＸ1a63（第20・32図）　調査地の北側（５－Ｋ区）で検出した南北方向の石積である。１ａ地区の南側に位置する。規模は、検出長3.1mで、掘形を含む幅は0.7mを測る。0.3～0.4m大の割石を東側に平らな面を向けて小口積みで組み上げる。上層は後世の攪乱によって削平されており、２段分が残存していた。高さは、0.3～0.5mを測る。中央よりやや南側では１石のみ３段目に載っており、当初は３段以上に構築されていたと考えられる。掘形の埋土は、黒褐色のシルト混じる細粒砂で、裏込めに0.05～0.15m大の石を用いる。北端はＳＸ1a107と接続しており、１段目にＳＸ1a107の石を利用している。その際、ＳＸ1a107の石は石積の東面を起点として積まれ、石積みの石がＳＸ1a107の石に載っていることから、ＳＸ1a107の埋没後に石積が構築されたと考えられるが、ＳＸ1a107の一部を利用したと考えられる。遺構時期は遺構の重複関係などから、17世紀代と推定される。

（８）土坑

南北土坑群ＳＫ1a59～61・94・219～221、1b146・152・199～202・203・479・559・569・602～604、1c08～10・20・153～155・171・175・176・261・263・295・806、3a215・265・279・284・286（第20・33～35図）　調査地中央よりやや西寄り（Ｏ・Ｐ－10～15区）で、調査地を南北に縦断して２列の規模の大きな土坑群を検出した。検出長は南北約54.5mを測る。東側で合計27基、西側で合計17基の、合わせて44基の土坑を確認した。これらの規模はさまざまで、平面形も円形、隅丸方形、長方形と多様である。また、土坑は互いに重複していることが判明した。深さも土坑によって異なり、概して北側の土坑は浅く、南側の土坑は深さが1.0～1.5mと深い。土坑の断面が逆台形状を呈するものが多い。各土坑の規模は付表２にまとめた。

検出した土坑群の７か所で、主軸方向や土坑に直交するように畦を設定して、断面観察を行った（第36～38図）。その他の土坑についても土層の観察を行いながら掘削を進めたが、いずれの土坑においても、おおむね同じような堆積状況が確認できた。土層の堆積状況の概要は以下のとおりである。まず、基本的に、黄褐色土と炭化物層と黒褐色中粒砂ないし極細粒砂の互層で堆積し

付表２　南北土坑群規模一覧表

（）は検出長

遺構名	地区名	規模			備考
		長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	
SK 1a219	３－O・N	3.60	1.00	0.70	
SK 1a59	２・３－O・N	2.40	1.20	0.60	
SK 1a220	２・３－O・N	(6.20)	2.30	0.40	
SK 1a60	３・４－O・N	3.30	2.50	1.00	
SK 1a61	４・５－O	3.70	1.40	0.80	
SK 1a94	５－O・N	1.80	1.10	1.20	
SK 1b199	５・６－O	0.80	1.40	0.30	
SK 1b602	５・６－O・N	(3.00)	1.50	0.35	
SK 1b200	６－O	1.90	1.80	0.70	個別断面図有り
SK 1b201	６－O	1.30	0.90	0.20	
SK 1b202	６・７－O	1.30	0.90	0.30	
SK 1b146	７－O	1.70	1.50	1.50	個別断面図有り
SK 1b203-4	８－O	5.80	2.80	2.20	個別断面図有り
SK 1b203-3	８－O	2.80	2.40	2.20	個別断面図有り
SK 1b559	８－N	2.10	(1.50)	0.30	
SK 1b203-2	８・９－O	(2.60)	1.70	0.50	個別断面図有り
SK 1b203-1	９－O	(2.40)	1.20	0.70	個別断面図有り
SK 1b203-5	９・10－O	2.20	1.60	0.60	個別断面図有り
SK 1b569	10－O	1.40	1.20	1.35	個別断面図有り
SK 1b203-6	10・11－O	5.50	2.45	0.75	個別断面図有り
SK 1c08	11－O	2.10	1.50	1.00	
SK 1c09	12－O	3.70	1.60	0.60	
SK 1c10	13－O	4.00	1.25	1.05	
SK 1c153	14－O	2.05	2.20	1.10	
SK 1c154	14・15－O	2.45	2.30	1.60	個別断面図有り
SK 1c171	14・15－O	1.10	1.00	0.57	
SK 1c176	15－O	1.80	1.05	0.90	
SK 3a215	２・３－O・P	2.40	1.90	1.30	
SK 3a286	３－O・P	1.30	0.60	0.60	
SK 3a284	３－O・P	1.30	1.20	0.30	
SK 3a265	３－O・P	(1.10)	1.00	0.50	
SK 3a279	３・４－O・P	1.85	1.60	0.20	
SK 1a221	４・５－O・P	6.80	2.20	1.40	
SK 1b603	９－O・P	1.10	0.80	0.40	
SK 1b604	９－O・P	2.10	1.50	0.20	
SK 1b152	10・11－O・P	4.70	2.50	1.55	個別断面図有り
SK 1b479	10・11－O・P	(3.60)	(1.60)	1.20	個別断面図有り
SK 1c20	11・12－O・P	5.20	2.40	1.70	個別断面図有り
SK 1c806	12・13－O・P	4.10	2.60	0.90	
SK 1c261	13・14－O・P	5.70	2.90	1.05	個別断面図有り
SK 1c155	14・15－O・P	4.05	1.30	1.65	個別断面図有り
SK 1c295	14・15－P	1.60	1.50	1.55	
SK 1c263	14・15－O・P	(4.00)	3.25	0.90	
SK 1c175	15－O・P	2.60	(1.70)	1.05	

ていた。個々の堆積土の厚さは薄く、複数層が確認できた。焼土などの堆積は認められなかったが、多量の陶磁器類や土器類が層位に関係なく出土した。このような堆積状況や遺物の出土状況から、火災などの片付けのために掘削され焼去したゴミとともに破損した陶磁器類を投棄した土坑と考えられる。また、調査地南側では、土坑の埋没後にその上面に厚さ約５cm前後の薄い層を５～７層ほど固く突き固めていたことが判明した。土坑内の埋土の軟弱さによる地盤沈下を防止するために行われた整地層と考えられる。

次に断面図を作成した土坑を中心に概要を述べることとする。

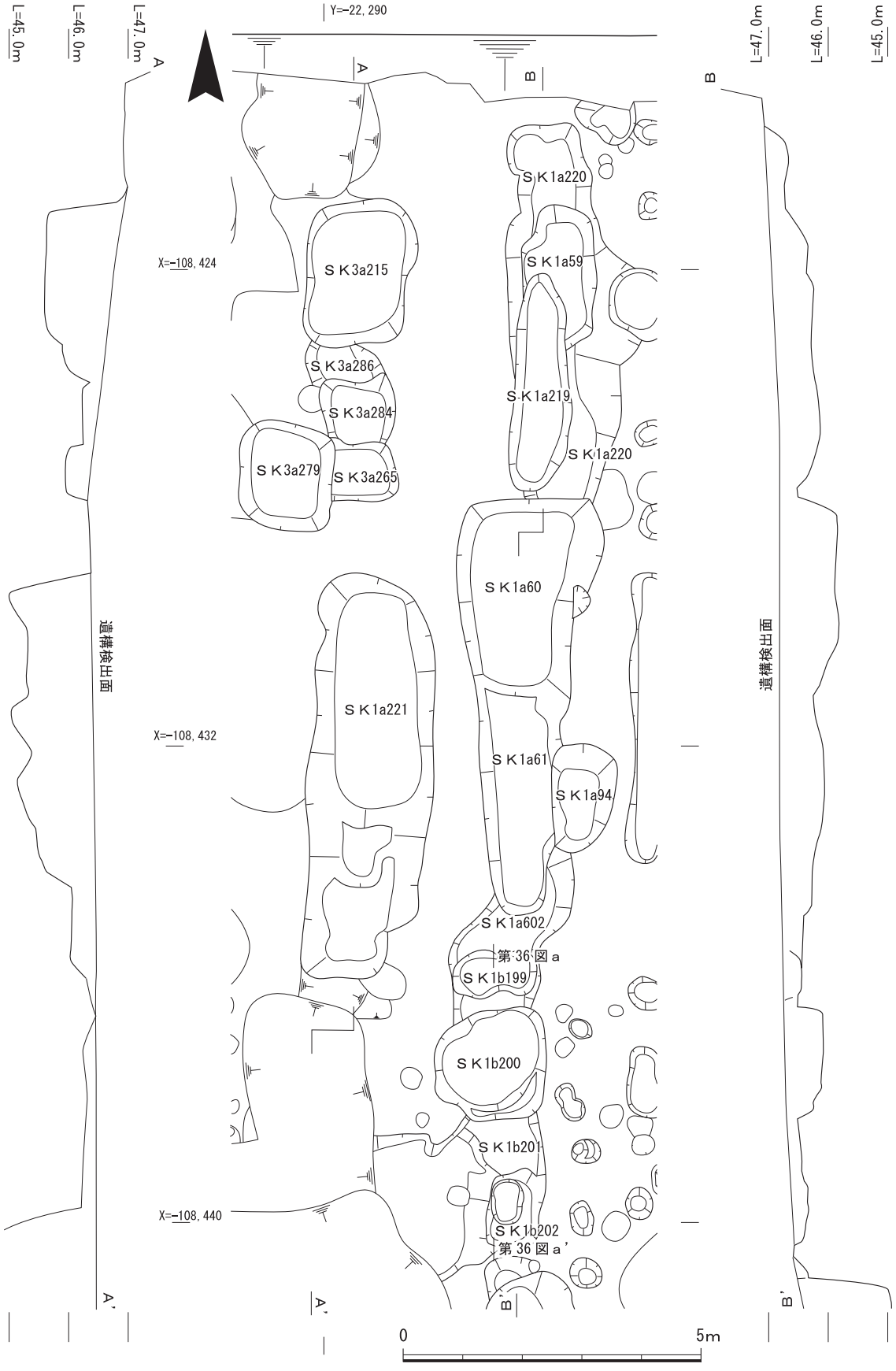
南部に比べて深さの浅い土坑が続く東側の北寄りでＳＫ1b200を検出した。土坑底には黒褐色細粒砂や暗灰黄色中粒砂が薄く堆積していた。遺物は出土しなかった。その南約４ｍに位置するＳＫ1b146は、平面は円形を呈し、埋土中位の黒褐色中粒砂から金箔瓦片が出土した。

東側中央付近で検出したＳＫ1b203は、当初は南北長15.4ｍを測る非常に細長い土坑として検出した。ＳＫ1b203の南半分上面には、上述の整地層と思われる黄褐色土が固く敷き詰められた状態で検出した。この黄褐色土層を除去し精査を行ったところ、６基の土坑が重複することがわかったため、枝番号を付して調査を進めることとした。土層の断面観察の結果、1b203-3→1b203-4→203-2・203-6→203-1の順に掘削されたことを確認した。ＳＫ1b203-4を掘削する際には、ＳＫ1b203-3の北壁を大きく削平して埋めていた。また、ＳＫ1b203-6では、北端の底部に平面形が隅丸方形で東西1.4m、南北1.2m、深さ約0.3mの落ち込みを確認した。これをＳＫ1b569としたが、堆積状況から同時期の遺構と判断した。また、堆積土を観察すると、黄褐色系の土の中に、互層状態で９・22・26・27・29層の炭ないし炭化物層や、10・13層の炭が多く混じる黄褐色系の土、７・11・12・17・23層などの黒褐色極細粒砂ないし中粒砂が堆積していた。

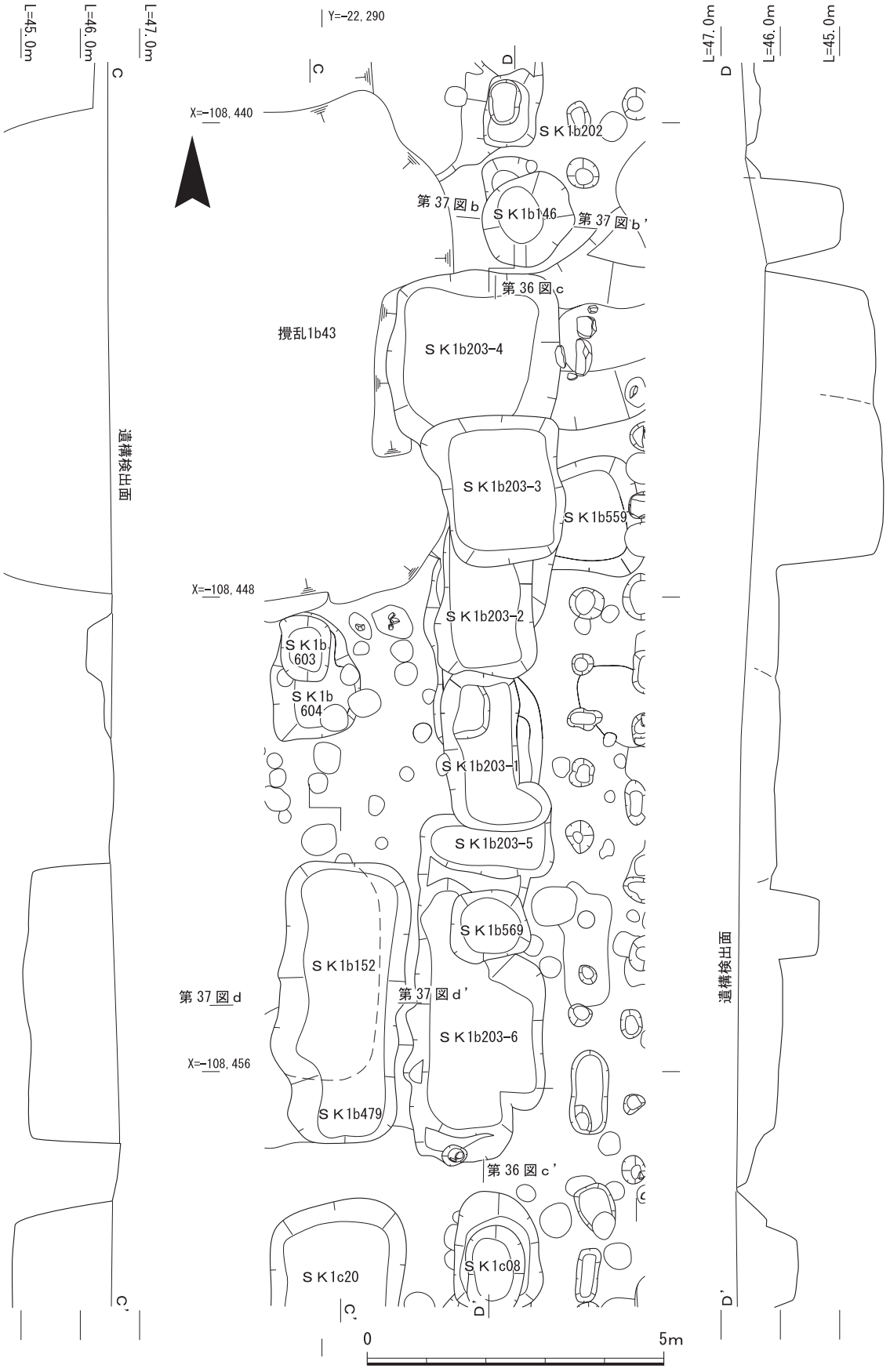
西側中央付近、ＳＫ1b203-6の西側でＳＫ1b152を検出した。平面は隅丸長方形を呈し、主軸方向に直交して半掘し、断面観察を行った。その結果、２基の土坑が重複していることが確認できた。先行する土坑をＳＫ1b479とした（第37図16～27層）。ＳＫ1b479は断面箱形を呈し、東壁がオーバーハング状になっていた。ＳＫ1b479の埋没後に掘削されたＳＫ1b152（第37図１～15層）は、ＳＫ1b479の西壁に沿って掘られ、断面「Ｕ」字形を呈する。両土坑の堆積断面を観察すると、ＳＫ1b479には20・23層に炭化物層が、16・17・21・22・24～26層に炭化物が混じる土が堆積していた。一方、ＳＫ1b152には９・11・13層に炭化物層が、３・４層に焼土が認められた。７・12層からは土師器片などの遺物が出土している。ＳＫ1b203と同じような堆積状況が認められた。

ＳＫ1b152の南約２ｍにＳＫ1c20を検出した。北半の堆積状況を観察した。３・５・11・14層に炭化物が堆積しており、３層には土師器片が混入していた。

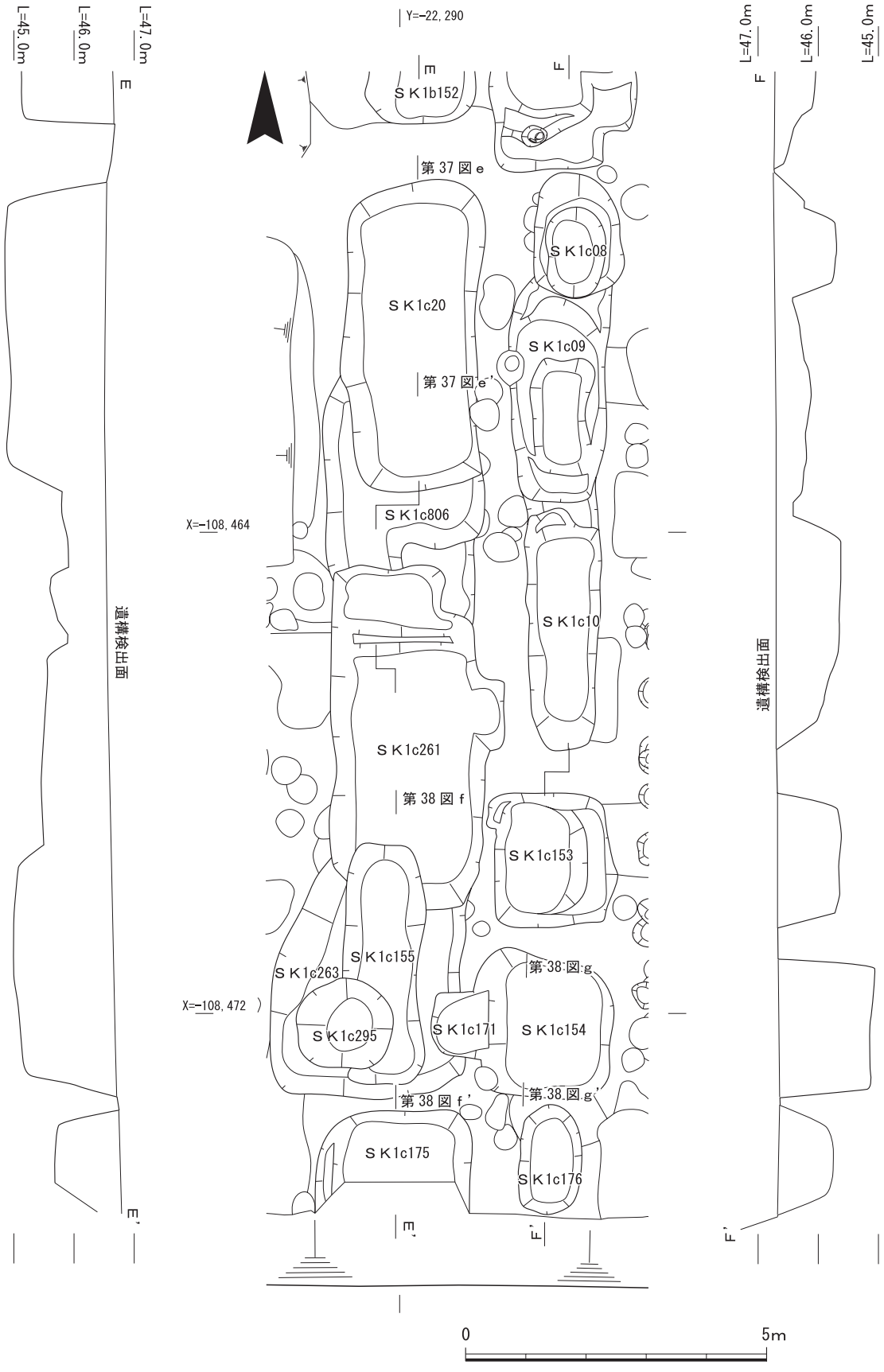
南部では、西側のＳＫ1c261南半からＳＫ1c155にかけての堆積断面を観察した。ＳＫ1c261は、全体に石混じりの層が認められたが、30・38層に炭化物が、36層には炭混じりの褐灰色極細粒砂が堆積していた。ＳＫ1c155は、ＳＫ1c261埋没後に断面逆台形に掘られていた。５・11・14・19・24・26層に炭化物が認められ、黄褐色系の土と互層になった状態を確認した。なお、１～７層までは土坑上部を固めるための整地層と考えられる。



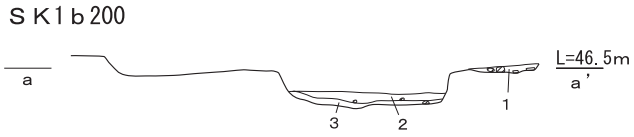
第33図　第２面遺構実測図(14)



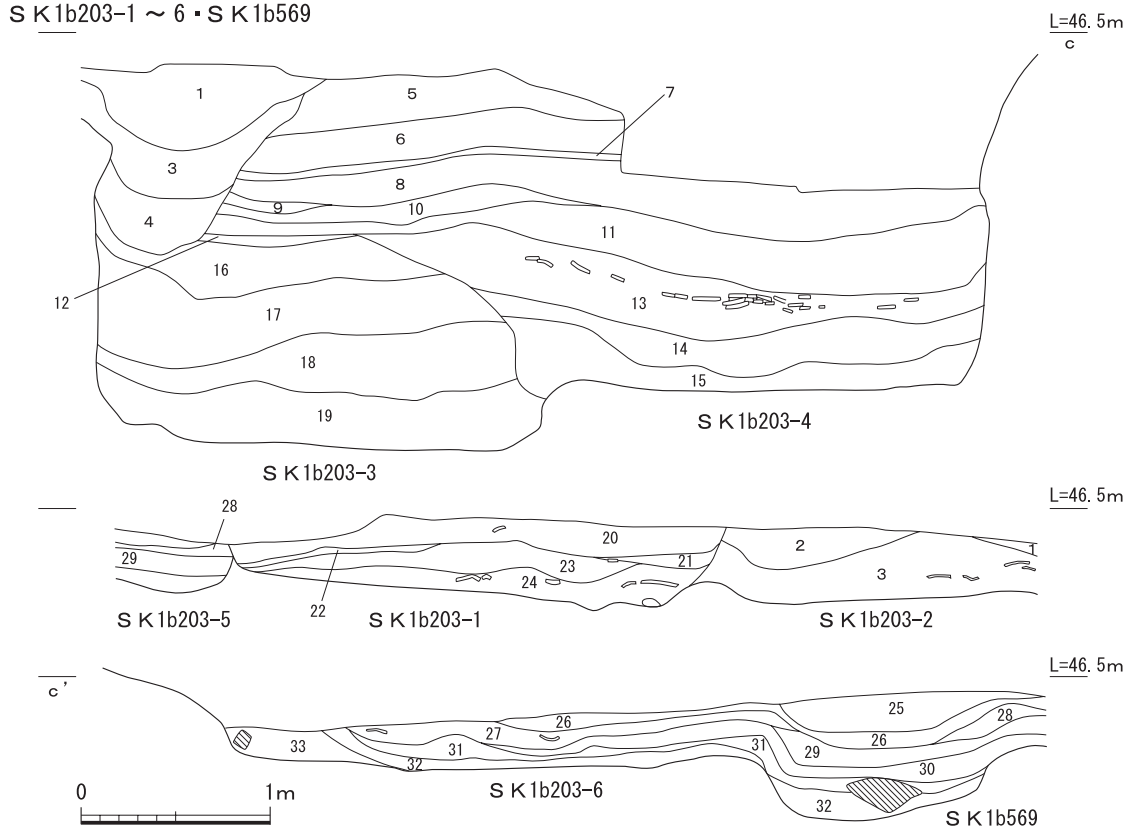
第34図　第２面遺構実測図(15)



第35図　第２面遺構実測図(16)



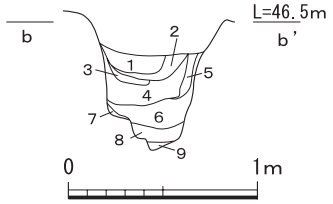
1. オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉粗粒砂
（径５cm前後の石を含む、瓦混じる）
２．黒褐色〈2.5Y 3/2〉粗粒砂混じる細粒砂
（径３cm前後の石を含む）
３．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉中粒砂



１．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉極細粒砂（径0.５～３cmの石を含む）
２．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉極細粒砂（径0.５～１cmの石を含む）
３．黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂（径0.５～３cmの石を含む）
４．灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂（径0.５～１cmの石を含む）
５．オリーブ褐色〈2.5Y 4/4〉細粒砂（径１～３cmの石を含む）
６．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉細粒砂（径0.５～10cmの石を含む）
７．黒褐色〈2.5Y 3/2〉極細粒砂
（径0.５～１cmの石を含む、炭混じる）
８．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉シルト混じる細粒砂
（径0.５～２cmの石を含む）
９．炭層
10．褐色〈10YR 4/6〉極細粒砂（炭混じる）
11．黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径0.５～５cmの石を含む）
12．黒褐色〈2.5Y 3/2〉中粒砂（径0.5cm前後の石を含む）
13．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉シルト混じる極細粒砂
（炭多く混じる）
14．褐色〈10YR 4/4〉シルト混じる極細粒砂
15．黒色〈10YR 2/1〉極細粒砂（炭混じる）
16．灰黄褐色〈10YR 4/2〉極細粒砂（径0.５～５cmの石を含む）
17．黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂（炭混じる）
18．褐色〈10YR 4/4〉シルト混じる極細粒砂
19．黒色〈10YR 2/1〉極細粒砂（炭混じる）
20．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉極細粒砂
（径0.５～３cmの石を含む）
21．褐色〈7.5YR 4/3〉極細粒砂
22．黒色〈2.5Y 2/1〉炭層
23．黒褐色〈2.5Y 3/2〉極細粒砂
24．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト混じる極細粒砂
25．黒色〈10YR 2/2〉シルト質細粒砂
（径３cm前後の石を含む、炭混じる）
26．黒色〈2.5Y 2/1〉炭層
27．黒褐色〈2.5Y 3/1〉シルト混じる極細粒砂（炭混じる）
28．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉シルト混じる中粒砂含む極細粒砂
（炭混じる）
29．黒褐色〈2.5Y 3/1〉シルト混じる極細粒砂
（径５cm前後の石を含む、炭混じる）
30．オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉中粒砂含む極細粒砂
31．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト混じる極細粒砂
（径５～８cmの石を含む）
32．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉極細粒砂含む中粒砂
33．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉
シルト混じる中粒砂含む極細粒砂
（径10cm前後の石を含む）

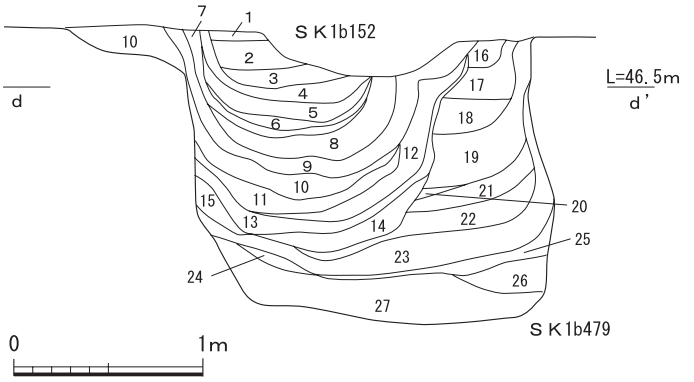
第36図　第２面遺構実測図(17)

ＳＫ1b146



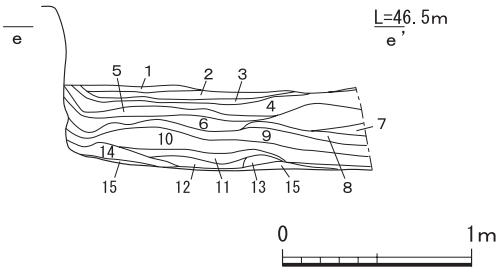
1．炭層
2．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉粗粒砂、中粒砂
3．暗褐色〈10YR 3/4〉極細粒砂
4．黒褐色〈2.5Y 3/1〉中粒砂
（金箔瓦出土）
5．炭層
6．オリーブ黒色〈5Y 3/1〉
シルト混じる細粒砂
7．オリーブ黒色〈5Y 3/2〉細粒砂
8．黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト混じる細粒砂
9．オリーブ黒色〈5Y 3/2〉細粒砂

ＳＫ1b152・479



1．黒褐色〈10YR 3/1〉中粒砂
（炭・土師器片少し混じる）
2．オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉極細粒砂
3．黒褐色〈7.5YR 3/2〉シルト質中粒砂
（炭・焼土混じる）
4．褐色〈10YR 4/4〉シルト質中粒砂
（炭・焼土混じる）
5．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉中粒砂
（径２～３cmの石を含む、貝殻・炭含む）
6．明褐色〈7.5YR 5/6〉極細粒砂
（径２cm前後の石を含む、炭混じる）
7．黒褐色〈10YR 3/1〉シルト質中粒砂
（径５cm前後の石を含む、土師器片混じる）
8．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉中粒砂（径７cm前後の石を含む）
9．炭層
10．黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト質極細粒砂（炭混じる）
11．炭層
12．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉中粒砂含む極細粒砂
（土師器皿等遺物を含む）
13．炭層
14．黒褐色〈10YR 3/1〉中粒砂含む極細粒砂
（土師器皿・陶器片・炭混じる）
15．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト質細粒砂
（径２cm前後の石を多く含む）
16．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉極細粒砂
（径５cm前後の石を含む、炭混じる）
17．褐色〈10YR 4/4〉シルト質細粒砂
（径２～３cmの石を含む、炭・焼土混じる）
18．黄褐色〈2.5Y 5/4〉中粒砂（径２cm前後の石を含む）
19．オリーブ褐色〈2.5Y 4/4〉シルト質極細粒砂
（径３～４cmの石を含む）
20．炭層
21．黒褐色〈10YR 3/1〉中粒砂含む極細粒砂（炭混じる）
22．黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト質極細粒砂（貝殻・炭混じる）
23．炭層
24．灰白色〈7.5Y 8/1〉シルト質細粒砂（炭混じる）
25．黒褐色〈2.5Y 3/2〉中粒砂含む極細粒砂
（土師器片・炭混じる）
26．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉シルト質極細粒砂
（炭少し混じる）
27．黄褐色〈2.5Y 5/3〉極細粒砂（径５cm前後の石を含む）

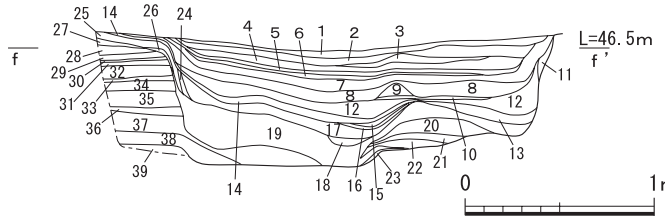
ＳＫ1c20



1．灰白色〈10YR 8/2〉細粒砂（径１～５cmの石を含む）
2．にぶい黄橙色〈10YR 6/3〉細粒砂（径３～５cmの石を含む）
3．炭層（土師器片含む）
4．にぶい黄橙色〈10YR 7/3〉極細粒砂（径２～４cmの石を含む）
5．炭層
6．灰黄色〈2.5Y 6/2〉極細粒砂（径１～４cmの石を含む）
7．にぶい黄橙色〈10YR 6/3〉細粒砂（径５cm前後の石を含む）
8．灰黄褐色〈10YR 6/2〉極細粒砂
（径0.5cm前後の石を含む、炭少し混じる）
9．にぶい黄橙色〈10YR 7/4〉極細粒砂（炭混じる）
10．灰黄色〈2.5Y 7/2〉細粒砂～極細粒砂
11．炭層
12．黄灰色〈2.5Y 4/1〉シルト混じる極細粒砂
13．灰白色〈10YR 8/2〉シルト混じる細粒砂（炭含む）
14．炭層
15．明黄褐色〈10YR 7/6〉中粒砂～細粒砂（径１cm前後の石を含む）

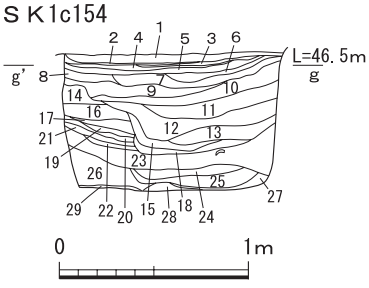
第37図　第２面遺構実測図(18)

SK1c155



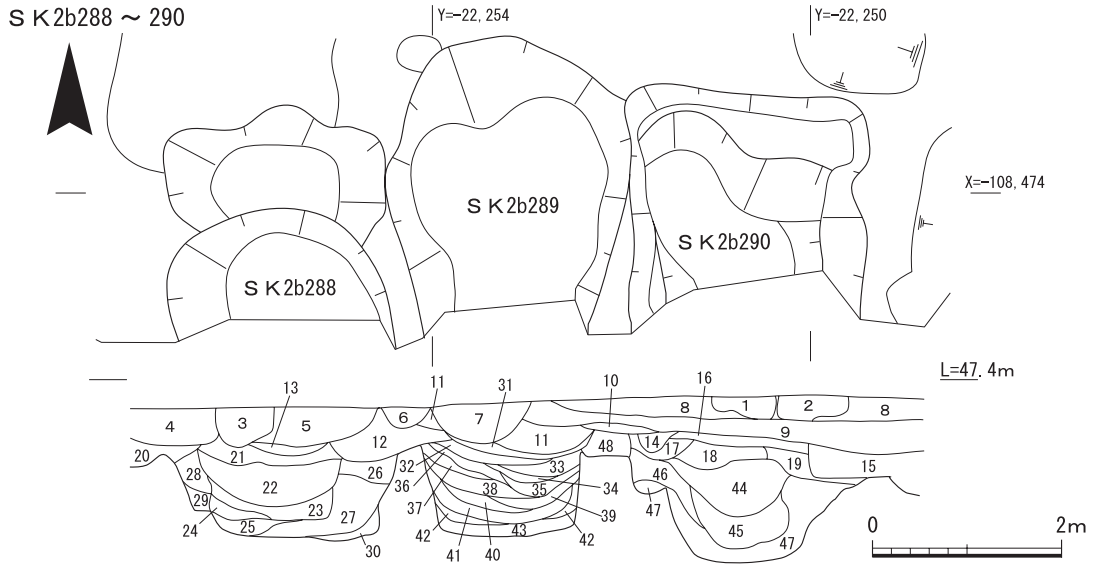
1．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉極細粒砂
（径３～５cmの石を含む、炭混じる）
2．褐灰色〈10YR 4/1〉中粒砂、極細粒砂
（径５cm前後の石を含む）
3．黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト混じる中粒砂
（径３cm前後の石を含む）
4．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉シルト混じる極細粒砂
（径２cm前後の石を多く含む）
5．炭層（径２～３cmの石を含む）
6．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉シルト混じる極細粒砂
7．灰オリーブ色〈5Y 4/2〉シルト混じる中粒砂
（径７～８cmの石を多く含む）
8．オリーブ黒色〈5Y 3/2〉極細粒砂
（径３～５cmの石を含む、土師器片等混じる）
9．淡黄色〈2.5Y 7/3〉極細粒砂
（径３～５cmの石を含む）
10．にぶい黄橙色〈10YR 7/3〉
シルト混じる極細粒砂（径２～３cmの石を含む）
11．炭層
12．褐灰色〈10YR 6/1〉細粒砂～極細粒砂
（径４～７cmの石を含む）
13．淡黄色〈2.5Y 7/3〉シルト混じる極細粒砂
（径１～２cmの石を含む）
14．炭層
15．灰黄褐色〈10YR 6/2〉シルト混じる極細粒砂
16．灰黄褐色〈10YR 6/2〉炭層
17．にぶい黄橙色〈10YR 7/1〉
シルト混じる極細粒砂（径１cm前後の石を含む）
18．褐灰色〈10YR 4/1〉シルト混じる極細粒砂
19．炭層
20．淡黄色〈2.5Y 7/3〉シルト混じる細粒砂（径３cm前後の石を含む）
21．灰色〈5Y 5/1〉シルト混じる極細粒砂（径0.3cm前後の石を含む）
22．にぶい黄橙色〈10YR 7/3〉シルト混じる極細粒砂（径３～５cmの石を含む）
23．灰黄色〈2.5Y 6/2〉極細粒砂（径0.5～１cmの石を含む）
24．炭層
25．にぶい黄橙色〈2.5YR 7/2〉極細粒砂（径0.5cm前後の石を含む）
26．炭層
27．橙灰色〈10YR 6/1〉極細粒砂（径0.3～0.5cmの石を含む）
28．淡黄橙色〈10YR 8/4〉極細粒砂（径３～５cmの石を含む）
29．灰黄色〈2.5Y 7/2〉細粒砂（径１cm前後の石を含む）
30．炭層
31．黄橙色〈10YR 8/6〉極細粒砂
32．灰黄色〈2.5Y 7/2〉中粒砂～細粒砂（径２～３cmの石を含む）
33．淡黄色〈2.5Y 7/3〉極細粒砂（径0.2～0.5cmの石を含む）
34．灰黄色〈2.5Y 6/2〉中粒砂（径１～２cmの石を含む）
35．灰黄褐色〈10YR 6/2〉シルト混じる極細粒砂（径２cm前後石を含む）
36．褐灰色〈10YR 5/1〉シルト混じる極細粒砂（径0.5cm前後の石・
明黄褐色〈10YR 7/6〉極細粒砂・炭を少し含む）
37．灰オリーブ色〈5Y 6/2〉シルト混じる極細粒砂（径１～２cmの石を含む）
38．炭層
39．明黄褐色〈2.5Y 7/6〉中粒砂～細粒砂（径0.5cm前後の石を含む）

SK1c154



1．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉極細粒砂（径３～５cmの石・炭・貝殻混じる）
2．オリーブ褐色〈2.5Y 4/6〉中粒砂（径1cm前後の石を含む，しめ固めている）
3．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉極細粒砂（径1cm前後の石を多く含む，しめ固めている）
4．オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉中粒砂混じる極細粒砂
5．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉シルト混じる中粒砂（径４～５cmの石を多く含む）
6．灰黄褐色〈10YR 4/2〉砂質混じる中粒砂（径２～３cmの石を含む）
7．黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト混じる中粒砂（径４～５cmの石を含む）
8．オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉シルト・中粒砂混じる細粒砂
9．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉シルト・中粒砂細粒砂（炭・径１～２cmの石を含む）
10．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉中粒砂混じる砂質（径３～５cmの石を含む）
11．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト・極細粒砂混じる細粒砂（径５cm前後の石を含む、炭混じる）
12．オリーブ褐色〈2.5Y 4/4〉シルト混じる中粒砂
（径３～５cmの石を含む）
13．黄褐色〈2.5Y 5/6〉シルト混じる中粒砂
14．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト・炭混じる中粒砂
（径1cm前後の石を含む）
15．黒褐色〈10YR 2/2〉極細粒砂（腐食土）
16．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉中粒砂（径４～５cmの石含む）
17．オリーブ褐色〈2.5Y 4/4〉中粒砂混じるシルト
（径２～３cmの石含む）
18．オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉シルト・中粒砂混じる細粒砂
19．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト・中粒砂混じる細粒砂
（径１cm前後の石を含む）
20．褐色〈7.5YR 4/4〉焼土（径１cm前後の石を含む、炭混じる）
21．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉シルト混じる中粒砂
（径１～２cmの石を含む）
22．黒褐色〈2.5Y 3/2〉炭層
23．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉シルト・極細粒砂混じる細粒砂
（径３～５cmの石含む）
24．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト混じる中粒砂（径５cm前後の石を多く含む）
25．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉シルト混じる中粒砂
（径７～10cmの石を多く含む）
26．灰黄褐色〈10YR 4/2〉中粒砂（径８～10cmの石を多く含む）
27．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉中粒砂（極細粒砂混じる、径５cm前後の石を含む）
28．オリーブ褐色〈2.5Y 4/4〉シルト混じる極細粒砂（径３cm前後の石含む）
29．黒色〈10YR 1.7/1〉炭層

第38図　第２面遺構実測図(19)



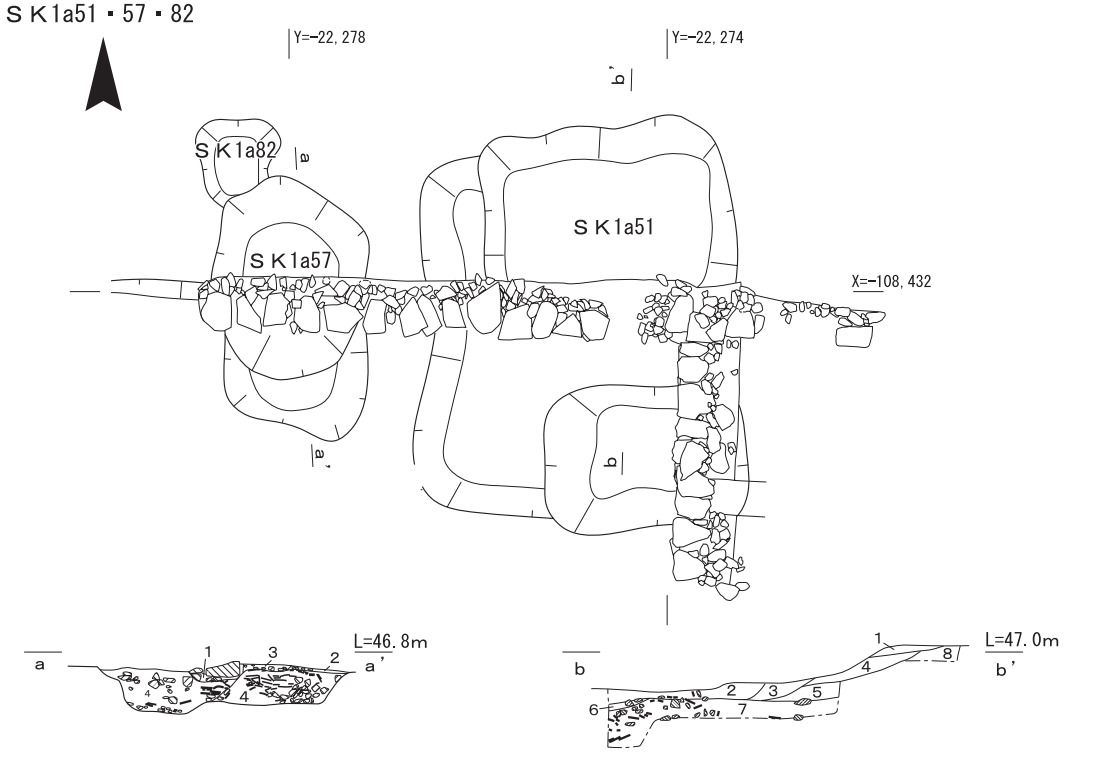
1．コンクリ基礎
2．コンクリ基礎
3．にぶい褐色〈7.5YR 6/3〉シルト質細粒砂
（径１～３cmの石を含む）
4．灰黄褐色〈10YR 6/2〉シルト質細粒砂
（径0.5～１cmの石を含む、瓦片多く含む）
5．灰黄褐色〈10YR 6/2〉シルト質極細粒砂
（径１～２cmの石を含む）
6．にぶい黄橙色〈10YR 6/3〉シルト質細粒砂
（径１～３cmの石を含む）
7．灰黄褐色〈10YR 5/2〉細粒砂（径３cm前後の石を含む）
8．灰黄褐色〈10YR 6/2〉細粒砂～極細粒砂
9．にぶい黄褐色〈10YR 5/4〉極細粒砂
（径１cm前後の石を含む）
10．にぶい橙色〈7.5YR 7/4〉細粒砂
11．にぶい黄橙色〈10YR 6/4〉細粒砂～極細粒砂
（径0.5～２cmの石を含む）
12．にぶい黄色〈2.5Y 6/3〉シルト質細粒砂
（径１～４cmの石を含む）
13．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト質極細粒砂
14．にぶい黄橙色〈10YR 6/3〉細粒砂～極細粒砂
（径１～２cmの石を含む）
15．灰色〈5Y 5/1〉細粒砂（径２cm前後の石を含む）
16．灰黄褐色〈10YR 6/2〉細粒砂
（径１cm前後の石を含む、他より固くしまる）
17．灰黄色〈2.5Y 6/2〉シルト含む極細粒砂
（径0.5cm前後の石含む、黄褐色〈2.5Y 4/1〉）
18．炭、灰黄色〈2.5Y 6/2〉シルト質極細粒砂少し含む
19．灰黄色〈2.5Y 6/2〉シルト質極細粒砂
（径２～５cmの石を含む）
20．灰黄色〈10YR 6/2〉細粒砂（径0.2～0.5cmの石を含む）
21．灰黄色〈2.5Y 6/2〉細粒砂（径0.2～0.5cmの石を含む）
22．暗灰黄色〈2.5Y 5/2〉シルト質細粒砂
（径１～３cmの石を含む）
23．にぶい黄橙色〈10YR 7/3〉極細粒砂
（径0.5～１cmの石含む）
24．黄橙色〈10YR 8/6〉シルト質極細粒砂
（径0.3cm前後の石を含む、焼土含む）
25．灰黄褐色〈10YR 6/2〉シルト質極細粒砂
（径0.5cm前後の石含む、浅黄橙色〈10YR 8/4〉極細粒砂混じる）
26．灰黄褐色〈10YR 5/2〉シルト質細粒砂（径0.3～0.5cmの石を含む）
27．にぶい黄橙色〈10YR 6/3〉シルト質極細粒砂（径0.3cmの石を含む）
28．灰褐色〈10YR 5/2〉シルト質極細粒砂
（径２cm前後の石を含む、炭を少し含む）
29．にぶい黄褐色〈2.5Y 6/3〉シルト質極細粒砂（径0.5cmの石を含む）
30．にぶい黄褐色〈10YR 5/3〉シルト質極細粒砂（径0.5cmの石を含む）
31．灰黄褐色〈10YR 6/2〉極細粒砂（径１～２cmの石を含む）
32．にぶい褐色〈2.5Y 5/3〉シルト混じる極細粒砂
（径１cm前後の石を含む）
33．にぶい黄橙色〈10YR 6/3〉シルト混じる極細粒砂
（径２cm前後の石を含む）
34．灰黄褐色〈10YR 6/2〉極細粒砂（炭含む）
35．灰黄褐色〈10YR 6/3〉シルト質極細粒砂
（径0.3～0.5cmの石を含む、炭を多く含む）
36．にぶい黄橙色〈10YR 7/4〉極細粒砂（径１～２cmの石を含む）
37．灰色〈5Y 5/1〉シルト質極細粒砂（、径１cm前後の石を含む）
38．灰黄褐色〈10YR 6/2〉シルト混じる極細粒砂（径0.5～２cmの石を含む）
39．にぶい黄橙色〈10YR 7/4〉シルト混じる極細粒砂
（径３cm前後の石を含む）
40．炭層
41．浅黄色〈2.5Y 7/3〉シルト質極細粒砂
42．暗灰黄色〈2.5Y 5/2〉シルト質極細粒砂（径0.3cm前後の石を含む）
43．灰黄色〈2.5Y 6/2〉シルト質極細粒砂（径１cm前後の石を含む）
44．にぶい黄橙色〈10YR 7/4〉シルト質極細粒砂（径１cm前後の石を含む）
45．褐灰色〈7.5YR 5/1〉シルト含む極細粒砂（炭少し含む）
46．褐灰色〈10YR 5/1〉極細粒砂（径0.5～１cmの石と
にぶい黄褐色〈10YR 7/4〉シルト質極細粒砂を含む）
47．褐灰色〈10YR 5/1〉シルト質極細粒砂（径0.3cm前後の石を含む）
48．灰黄褐色〈10YR 6/2〉細粒砂

第39図　第２面遺構実測図(20)

また、東側のＳＫ1c154は、平面隅丸方形の土坑である。西壁は、オーバーハングするようにＳＫ1c171が存在した。南北方向での堆積状況を観察した。17・19～22層と12・13・15層の堆積状況から、一度掘り直しが行われたと考えられる。22・29層に炭化物が、９・20層には炭化物が混じる土が堆積していた。なお、１～５層までは、ＳＫ1c155と同じく土坑埋め戻しに伴う整地層と考えられる。

土坑ＳＫ1a51（第20・40図）　調査地の北側（５－Ｌ・Ｍ区）で検出した土坑である。ＳＫ1a57の東側に位置し、ＳＸ1a107の下層で検出した。掘形は歪んだ方形を呈し、規模は南北4.1m、東西3.1～3.5m、深さ0.6mを測る。埋土は上層に暗褐色の粗粒砂・暗褐色の細粒砂が堆積し、下層にはにぶい黄褐色は灰黄褐色のシルト混じる細粒砂が堆積する。６・７層には大量の瓦が出土しており、廃棄土坑と考えられる。上層の２・３層はＳＸ1a107の掘形埋土とみられる。

土坑ＳＫ1a55（第20・41図）　調査地の北側中央付近（３・４～Ｎ区）で検出した土坑で、掘形

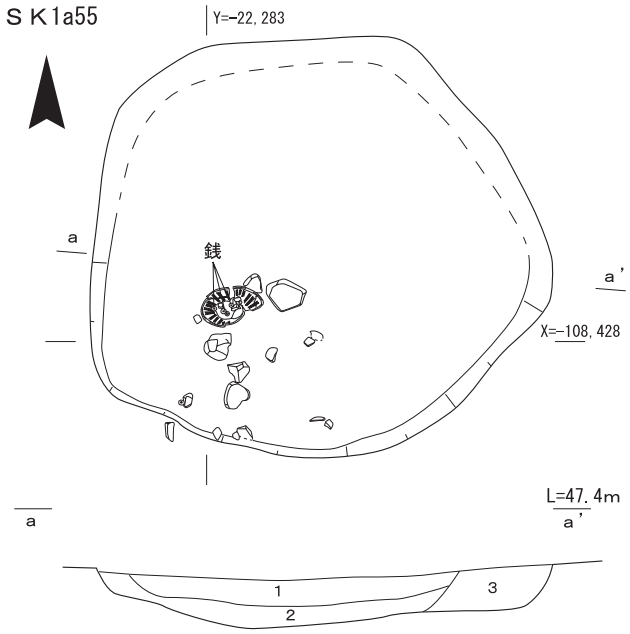


1．オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉細粒砂
（径７～29cmの石混じる）
2．にぶい黄褐色〈10YR 5/4〉細粒砂
3．褐色〈10YR 4/4〉中粒砂
（径３～12cmの石混じる、少量混じる）
4．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉シルト質細粒砂
（径５～10cmの石混じる、瓦多量に混じる）

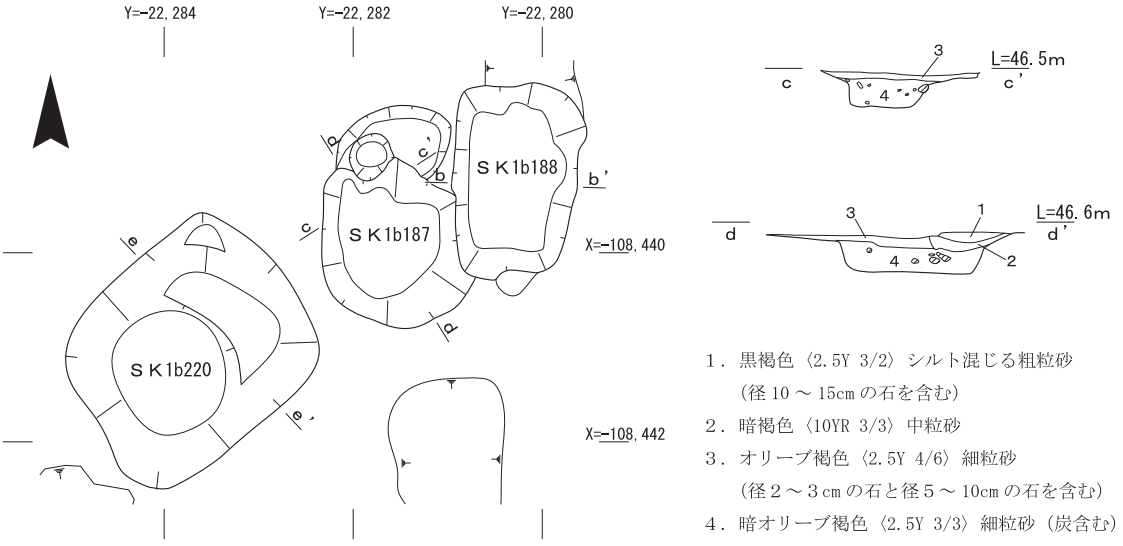
1．褐色〈10YR 4/4〉粗粒砂（径５cm前後の石含む、堅くしまる）
2．暗褐色〈10YR 3/3〉中粒砂混じる細粒砂
（径１cm前後の石混じる）
3．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂混じる細粒砂
（炭混じる、径１～10cmの石多く含む）
4．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト質極細粒砂
（炭・土師器片少し含む、径１～５cmの石多く含む）
5．にぶい褐色〈10YR 4/3〉細粒砂
6．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉細粒砂（径１cm前後の石含む）
7．灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂
8．暗褐色〈10YR 3/4〉砂質混じる細粒砂
（径３cm前後の石含む）

0　2m

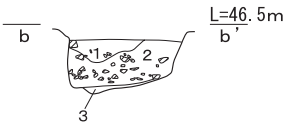
第40図　第２面遺構実測図(21)



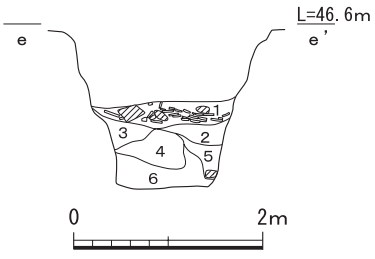
1．黒褐色〈10YR 3/1〉シルト混じる細粒砂
（径３～５cmの石・炭やや多く混じる）
2．褐灰色〈10YR 4/1〉シルト質細粒砂
（径２cm前後の石混じる）
3．灰黄褐色〈10YR 4/2〉中粒砂混じる細粒砂
（土師器片少量混じる）



1．黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト混じる粗粒砂
（径10～15cmの石を含む）
2．暗褐色〈10YR 3/3〉中粒砂
3．オリーブ褐色〈2.5Y 4/6〉細粒砂
（径２～３cmの石と径５～10cmの石を含む）
4．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉細粒砂（炭含む）



1．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉シルト含む極細粒砂
2．黒褐色〈7.5Y 3/1〉シルト含む粗粒砂
（径10cm前後の石を含む）
3．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉シルト混じる細粒砂
（径10cm前後の石を多く含む）



1．黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト混じる粗粒砂
（径10～15cmの石を含む）
2．暗褐色〈10YR 3/3〉中粒砂
3．オリーブ褐色〈2.5Y 4/6〉細粒砂
（径２～３cmの石と径５～10cmの石を含む）
4．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉細粒砂（炭含む）
5．黒褐色〈10YR 2/3〉中粒砂（径２～３cmの石を多く含む）
6．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉シルト混じる細粒砂（炭含む）

第41図　第２面遺構実測図(22)

の平面は不定形を呈する。規模は南北2.2m、東西2.42m、深さ0.2mを測る。埋土は上層が黒褐色のシルト混じる細粒砂、下層が褐灰色のシルト質細粒砂で、東側には灰黄褐色の細粒砂が堆積する。掘形の中央よりやや南西で信楽焼摺鉢が出土し、その中には銭貨約10枚が納められていた。

土坑ＳＫ1a57（第20・40図）　調査地の北側（４－Ｌ・Ｍ区）で検出した土坑である。ＳＸ1a107の下層に位置する。掘形の平面は不定形な隅丸方形を呈し、規模は南北3.4m、東西1.6m、深さ0.5mを測る。埋土はにぶい黄褐色のシルト質細粒砂である。埋土中には0.05～0.1m大の石の他、瓦を多く含む。

土坑ＳＫ1b137（第20・42図）　調査地中央（７－Ｌ区）で検出した、南北方向にやや細長い楕円形の土坑である。南西部を後世の攪乱によって削平されていた。南北方向の検出長1.9m、東西長1.75m、深さ約0.3mを測る。土坑内埋土の暗灰黄色砂質土から金箔瓦片が出土した。

土坑ＳＫ1b139（第21・43図）　調査地中央（６・７－Ｋ区）で検出した土坑である。掘形の平面は不明である。検出した規模は、南北約1.8m、東西約1.2m、深さ約0.1mを測る。埋土は、おもに上層には0.5～２cm大の石が混じる暗褐色極細粒砂で、下層はにぶい黄褐色極細粒砂である。

土坑ＳＫ1b151（第21・42図）　調査地の中央よりやや東側（８－Ｋ区）で検出した土坑である。平面は南東角の凹む長方形を呈し、規模は南北2.6m、東西2.3m、深さ1.5mを測る。土坑の埋土は黄褐色の礫混じるシルト質粗粒砂である。土坑東側に南北2.5m、東西1.0m、深さ0.05mのテラス状の浅い落ち込みを確認した。このテラス部分からは土坑の東肩に沿い、２基の石造物が南北方向に並んで出土した。北側の石は角の丸い角柱形で１辺0.2m、長さは0.75mを測る。南側は題目塔である。断面は短軸0.2m、長軸0.23mで、高さは0.72mを測る。４面を１段彫り下げ額をつくり、その内側に題目を刻む。題目は４面に刻まれる。頂部と底部には丸枘がつく。紀年は確認できなかった。テラス部分の埋土は暗褐色の細粒砂で石造物の東側には0.1～0.5mの石を充填する。土坑から17世紀前半頃の遺物が出土した。

土坑ＳＫ1b187（第20図）　調査地中央（６・７－Ｍ・Ｎ区）でＳＫ1b188と重複して検出した土坑である。平面は不整形な楕円形を呈し、その規模は南北1.9m、東西1.2m、深さ約0.4mを測る。断面は台形である。埋土の大半は、炭を含む暗オリーブ褐色細粒砂である。

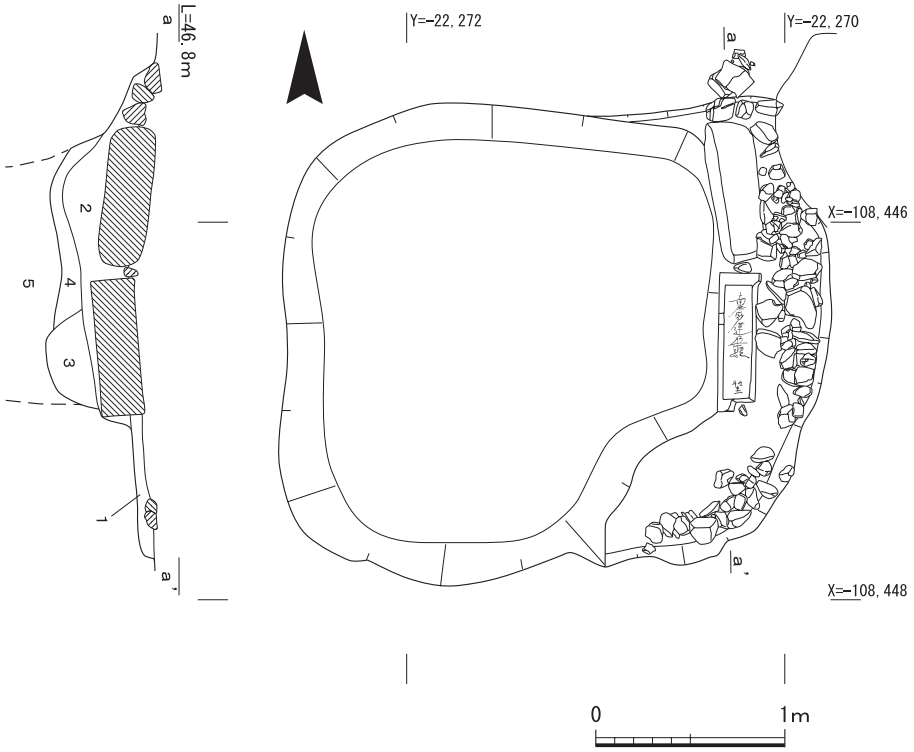
土坑ＳＫ1b188（第20図）　調査地中央（６・７－Ｍ区）で検出した土坑である。ＳＫ1b187を削平している。平面は南北方向に長い隅丸方形を呈し、その規模は南北2.0m、東西1.4m、深さ約0.7mを測る。断面は逆台形を呈する。埋土の大半は、径10cm前後の石を含む黒褐色粗粒砂である。

土坑ＳＫ1b220（第20・41図）　調査地中央（７－Ｎ区）で検出した。平面は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸約３m、短軸２mを測る。掘形底部は南西側が深くなり、深さは北東で１m、南西で1.8mを測る。南西側の埋土中位に堆積する埋土には、5.0～15.0cm大の石を多く含む。

土坑ＳＫ1b221（第21図）　調査地中央（10・11－Ｋ区）で検出した土坑である。平面は歪な円形を呈し、規模は、径約2.2m、深さ約1.2mを測る。陶器の香合が出土しており、遺構年代は18世紀後半頃と考えられる。

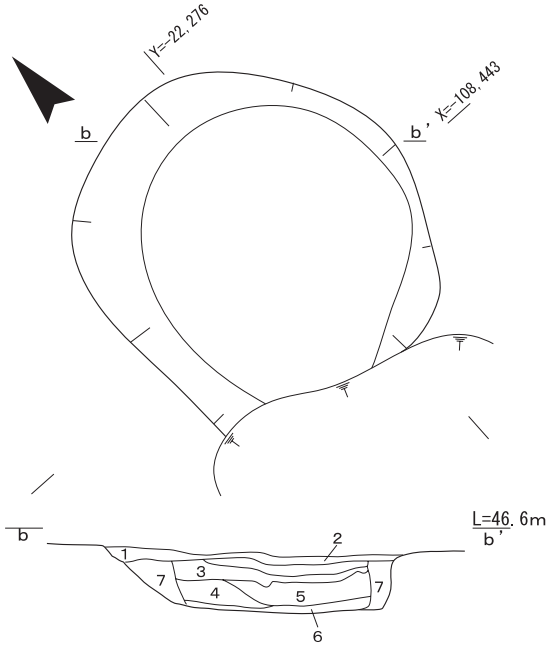
土坑ＳＫ1b424（第20・44図）　調査地中央（10－Ｍ・Ｎ）で検出した、平面は隅丸方形を呈す

ＳＫ1b151



1．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
2．オリーブ黒色〈5Y 3/2〉シルト含む中粒砂
（径２～20cmの石を含む）
3．黒褐色〈2.5Y 3/2〉細粒砂含む中粒砂
4．黄褐色〈10YR 5/6〉礫混じるシルト質粗粒砂
5．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉粗粒砂
（径３cm前後の石を多く含む）

ＳＫ1b137



1．灰オリーブ色〈7.5Y 4/2〉中粒砂
2．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉細粒砂
（にぶい黄橙色〈10YR 6/4〉シルトがブロック状に入る、灰が混じっている）
3．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉極細粒砂
4．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉砂質土（金箔瓦出土）
5．オリーブ褐色〈2.5Y 4/4〉シルト質極細粒砂
6．暗褐色〈10YR 3/4〉シルト質極細粒砂
7．黒褐色〈2.5Y 3/2〉粗粒砂（径２cm前後の石を含む）

第42図　第２面遺構実測図(23)

る土坑である。その規模は、一辺約２ｍ、深さ約0.6ｍである。断面は逆台形で、埋土の下半は黒褐色極細粒砂や黒褐色シルト混じる極細粒砂である。

土坑ＳＫ1b436（第20・44図）　調査地中央（11－Ｍ・Ｎ区）で検出した東西方向に長い土坑である。掘形の平面は楕円形を呈し、規模は南北１ｍ、東西3.5ｍ、深さ約0.3ｍを測る。断面は「Ｕ」字形で、土坑底や壁面は凹凸をなす。

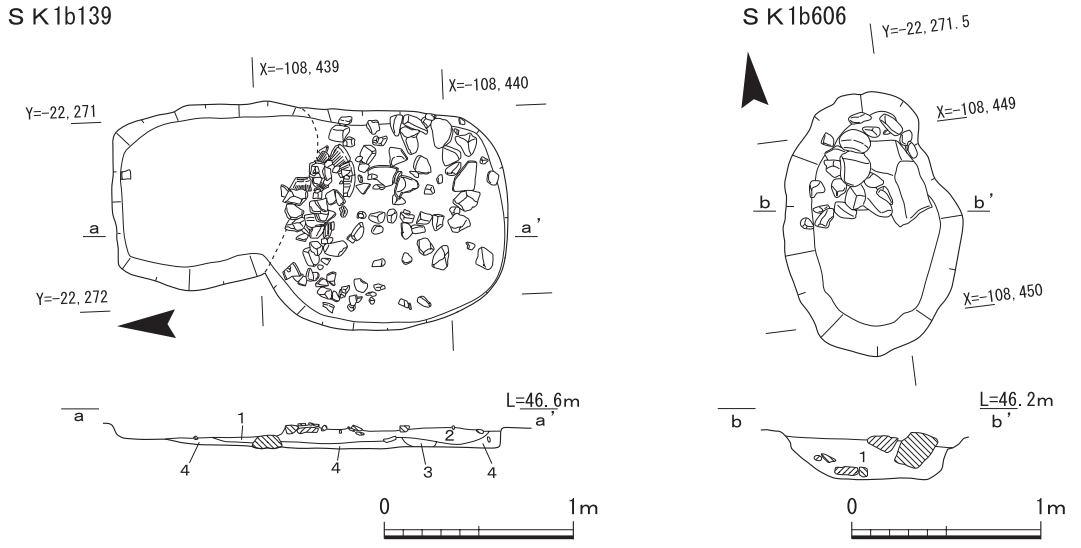
土坑ＳＫ1b463（第20・44図）　調査地中央（10－Ｍ区）で検出した平面隅丸方形の土坑である。土坑西側をＳＫ1b424により削平され、ＳＫ1b582と重複する形で検出した。規模は、南北1.92ｍ、東西検出長1.43ｍ、深さ約0.32ｍを測る。埋土の上層は黒褐色系土で、下層は褐色系粘質土である。

土坑ＳＫ1b481（第20・44図）　調査地中央（11－Ｍ・Ｎ区）でＳＫ1b546と重複して検出した、東西方向に長い楕円形の土坑である。南北0.7ｍ、東西1.22ｍ、深さ約0.12ｍを測る。埋土は、黒褐色土や暗褐色土である。

土坑ＳＫ1b491（第20・44図）　調査地中央（９・10－Ｎ区）でＳＫ1b424に削平された形で検出した、南北方向に長い楕円形の土坑である。南北2.8ｍ、東西1.4ｍ、深さ約0.1ｍを測る。

土坑ＳＫ1b493（第20・44図）　調査地中央（10・11－Ｍ区）で検出した、平面不定形な土坑である。掘形の規模は長軸１ｍ、短軸0.7ｍ、深さ約0.18ｍを測る。

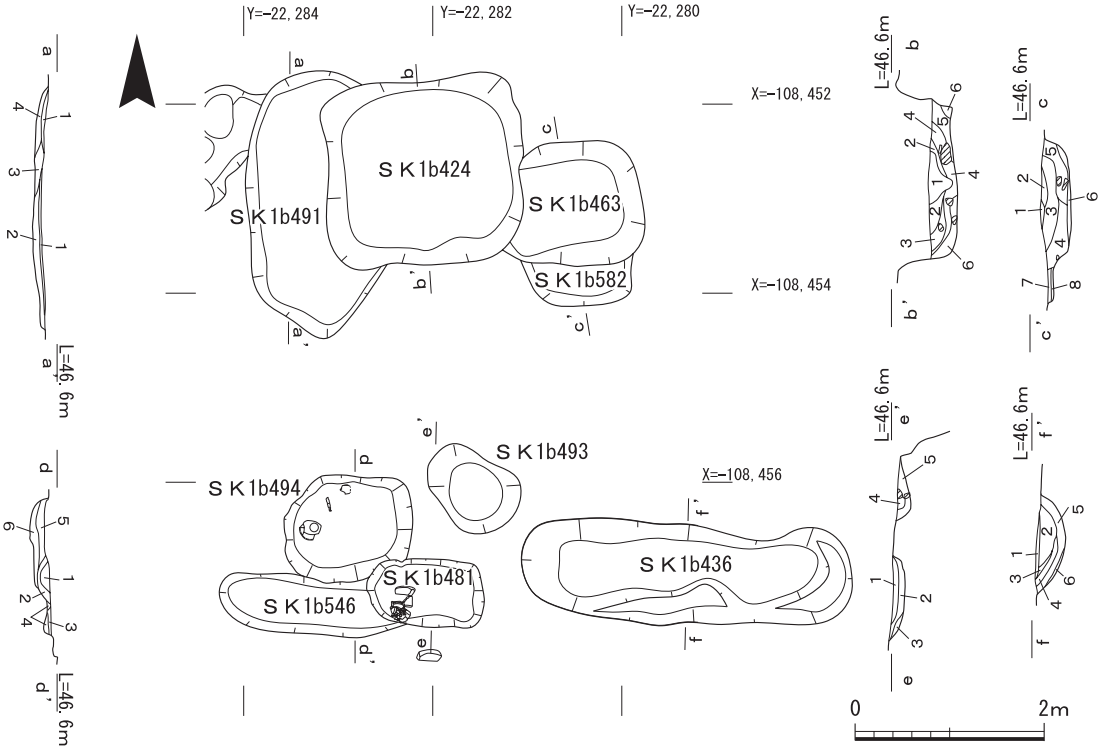
土坑ＳＫ1b494（第20・44図）　調査地中央（11－Ｎ区）で検出した土坑である。土坑南東部をＳＫ1b481によって削平されていた。やや東西方向に長い隅丸方形で、規模は南北1.2ｍ、東西1.4ｍ、深さ約0.2ｍを測る。埋土は、上層が黒褐色極細粒砂で鉄器片が出土した。下層はオリーブ黒色極細粒砂である。



１．にぶい黄褐色〈10YR 5/3〉細粒砂（径０.５～１㎝の石を含む）
２．暗褐色〈10YR 3/4〉中粒砂混じる極細粒砂
（径０.５～２㎝の石を含む、炭多く混じる）
３．黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂（径０.5㎝前後の石を含む）
４．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉極細粒砂

１．にぶい黄褐色〈10YR 5/4〉極細粒砂
（径０.５～50㎝の石を含む）

第43図　第２面遺構実測図(24)



ａ－ａ’
1．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト混じる細粒砂
2．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂（炭・土器片混じる）
3．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト含む細粒砂（炭・土器片混じる）
4．黒褐色〈10YR 2/3〉シルト含む細粒砂（炭少し混じる）

ｂ－ｂ’
1．黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト混じる中粒砂（径３cm前後の石を含む）
2．黄褐色〈2.5Y 5/4〉シルト混じる中粒砂
3．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉シルト混じる極細粒砂
（径１～２cmの石を含む）
4．黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径２cm前後の石を含む）
5．黒褐色〈10YR 2/2〉シルト混じる極細粒砂
6．黒褐色〈2.5Y 3/1〉シルト混じる極細粒砂（炭混じる）

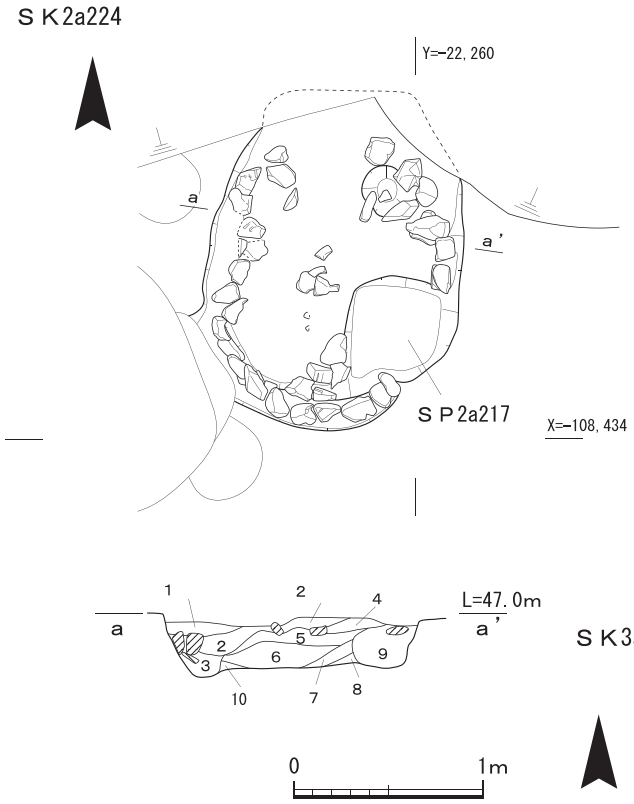
ｃ－ｃ’
1．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト混じる細粒砂
2．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる細粒砂
3．黒褐色〈10YR 3/1〉シルト混じる細粒砂（炭多く混じる）
4．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト混じる細粒砂
（径１～４cmの石を含む、黄褐色〈10YR 5/6〉ブロック）
5．褐色〈10YR 4/6〉シルト混じる細粒砂（径10cm前後の石を含む）
6．黄褐色〈10YR 5/6〉シルト混じる細粒砂
7．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる細粒砂
8．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト混じる細粒砂

ｄ－ｄ’
1．黒褐色〈10YR 3/2〉中粒砂（土師器片・炭混じる）
2．黒褐色〈10YR 2/2〉シルト混じる極細粒砂（炭多く混じる）
3．炭層
4．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉シルト混じる極細粒砂
5．黒褐色〈2.5Y 3/1〉シルト混じる極細粒砂
（土師器片・炭混じる）
6．オリーブ黒色〈5Y 3/1〉シルト混じる極細粒砂
（瓦・炭混じる）

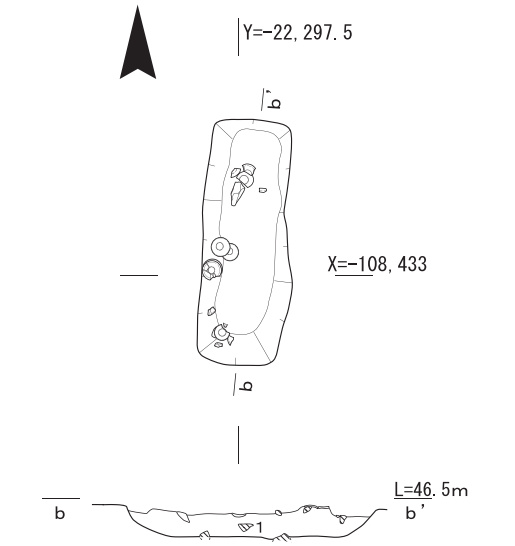
ｅ－ｅ’
1．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂（炭混じる）
2．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
3．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト混じる極細粒砂
4．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト混じる極細粒砂
5．暗褐色〈10YR 3/4〉シルト混じる極細粒砂
（黄褐色〈10YR 5/6〉砂泥のブロック片混じる）

ｆ－ｆ’
1．灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂質シルト
（土器片・炭混じる）
2．褐灰色〈10YR 4/1〉細粒砂質シルト
（土器片・炭少し混じる）
3．灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂質シルト
（炭混じる）
4．黒褐色〈10YR 3/1〉シルト混じる細粒砂
5．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト混じる細粒砂
（炭多く混じる）
6．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂

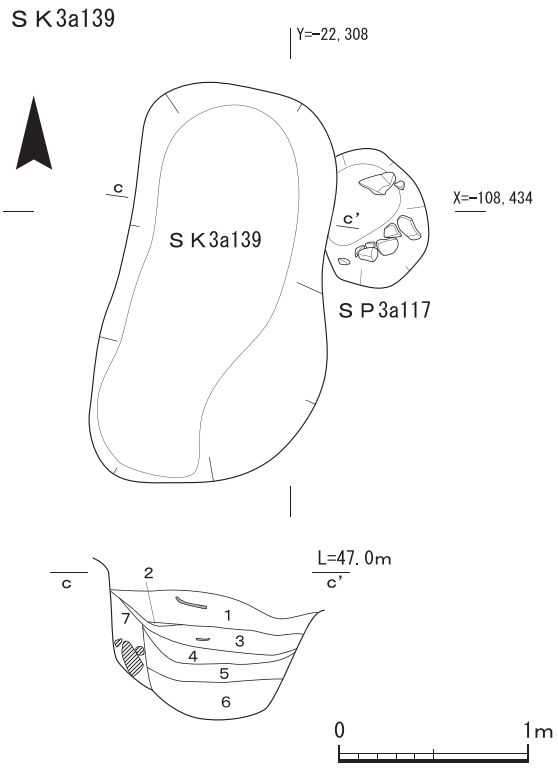
第44図　第２面遺構実測図(25)



1．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉中粒砂
（炭少し混じる）
2．褐色〈10YR 4/4〉中粒砂
（土師器片・炭混じる）
3．褐色〈10YR 4/4〉細粒砂
（赤褐色〈5YR 4/8〉焼土混じる）
4．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂
（赤褐色〈5YR 4/8〉焼土混じる、径５～８㎝の石を含む）
5．炭層
6．褐色〈10YR 4/4〉中粒砂
（褐色〈7.5Y 4/4〉焼土混じる）
7．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂（炭多く混じる）
8．褐色〈10YR 4/4〉粗粒砂混じる細粒砂
9．にぶい黄褐色〈10YR 5/3〉中粒砂
10．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂



1．灰黄褐色〈10YR4/2〉シルト質細粒砂
（径５～10㎝の石混じる）



1．にぶい黄褐色〈10YR4/3〉細粒砂
（炭・焼土多く含む、土師皿片少し混じる）
2．にぶい黄褐色〈10YR5/4〉シルト質細粒砂
（土師皿片混じる、炭多く含む）
3．灰黄褐色〈10YR4/2〉シルト質細粒砂
（土師皿片混じる、炭多く含む）
4．黒褐色〈10YR3/2〉シルト（炭混じる、径２㎝前後の石混じる）
5．暗褐色〈10YR3/3〉シルト質細粒砂（炭少し混じる）
6．灰黄褐色〈10YR4/2〉シルト（炭混じる、径２㎝前後の石混じる）
7．明黄褐色〈10YR6/6〉細粒砂

第45図　第２面遺構実測図(26)

土坑ＳＫ1b546（第20・44図）　調査地中央（11－Ｎ区）で検出した東西方向に長い楕円形の土坑である。東側をＳＫ1b481に削平される。南北0.6m、東西２.0m、深さ約0.1mを測る。埋土は、上層が炭化物層で、下層が暗灰黄色極細粒砂である。

土坑ＳＫ1b582（第20･44図）　調査地中央（10－M区）で検出した、平面隅丸方形の土坑である。北側をＳＫ1b463に削平され、検出した規模は南北0.5m、東西1.2m、深さ約0.1mを測る。埋土は、暗褐色土や黒褐色土である。

土坑ＳＫ1b606（第21・43図）　調査地中央（９－Ｋ区）で検出した、南北方向に長い平面楕円形の土坑である。その規模は、南北1.6m、東西1.0m、深さ約0.28mを測る。埋土は、0.5～50cm大の石を含むにぶい黄褐色極細粒砂である。

土坑ＳＫ1c13（第20図）　調査地の中央南側（12－Ｎ区）で検出した土坑である。掘形の平面は西側の歪む南北に長い楕円形を呈し、規模は南北1.2m、東西0.57m、深さ0.1mを測る。埋土は炭化物を含む暗褐色の極細粒砂である。完形品を含む土師器皿が多数出土した。

土坑ＳＫ1c126（第20・25図）　調査地中央南側（12－Ｌ区）で検出した土坑である。南西部をＳＫ1c34に掘削されていた。東西方向に二段掘りの土坑である。上段の規模は、南北約1.2m、東西約1.75m、深さ約0.5mを測る。土坑北寄りに下段の掘り込みが認められた。下段の規模は、南北0.87m、東西0.95m、深さ約0.35mである。その底面から径約0.4m、深さ約0.12mの柱穴を検出した。これは、別の遺構の可能性が高いが、断面から確認できなかった。犬走り状の平坦面の西側に、５～30cm大の石を敷き詰める。この犬走り状の平坦面とＳＫ1c34の石組み底の標高が46.2mと同じであり、その平坦面に石組みされ、切り合い関係が認められなかったことから、同時期の遺構と考えられる。

土坑ＳＫ2a224（第21・45図）　調査地の北東部（５－Ｈ区）で検出した土坑である。北側を攪乱によって削平される。掘形の平面は長方形を呈するとみられ、規模は南北1.8m以上、東西1.35m、深さ0.28mを測る。掘形に沿って0.1～0.2m大の石が方形に並ぶ。埋土は褐色や暗褐色の中粒砂～細粒砂で、炭化物や赤褐色の焼土が混じる。

土坑ＳＫ2b173（第21図）　調査地の南東部（12－Ｉ・Ｊ区）で検出した土坑である。掘形の平面は不定形で、長軸5.5m、短軸4.3m、深さは1.4mを測る。掘形壁面は一部がオーバーハング気味であり、底部は凹凸がある。土坑周囲の基盤層は、黄褐色の粘土が調査範囲内で最も厚く堆積する。いわゆる聚楽土で土取りの土坑の可能性が考えられる。時期は17世紀初頭と想定される。

土坑ＳＫ２ｂ369（第21図）　調査地の南東、南壁付近（14－Ｉ区）で検出した土坑である。掘形は東西に長い平面は隅丸方形を呈し、長軸1.2m、短軸0.9m、深さ1.2mを測る。埋土は黒褐色や暗オリーブ褐色の細粒砂である。

土坑ＳＫ3a129（第20･29図）　調査地北西部（４－Ｔ区）で検出した、南北方向に細長い土坑で、ＳＸ3a298と重複して検出した。土坑の規模は、南北約1.4m、東西約１m、深さ約0.2mを測る。

土坑ＳＫ3a139（第20・45図）　調査地北西部（５－Ｔ区）で検出した、南北方向に長い土坑である。平面は隅丸方形を呈し、規模は南北2.1m、東西１m、深さ約0.85mを測る。埋土は、黄褐

色系シルト質細粒砂などである。埋土内から、瓦片や土師器片が出土した。

土坑ＳＫ3a164（第20・30図）　調査地北西部（５－Ｒ区）で検出した、小規模な土坑である。その規模は、長軸0.75m、短軸0.65m、深さ約0.2mを測る。

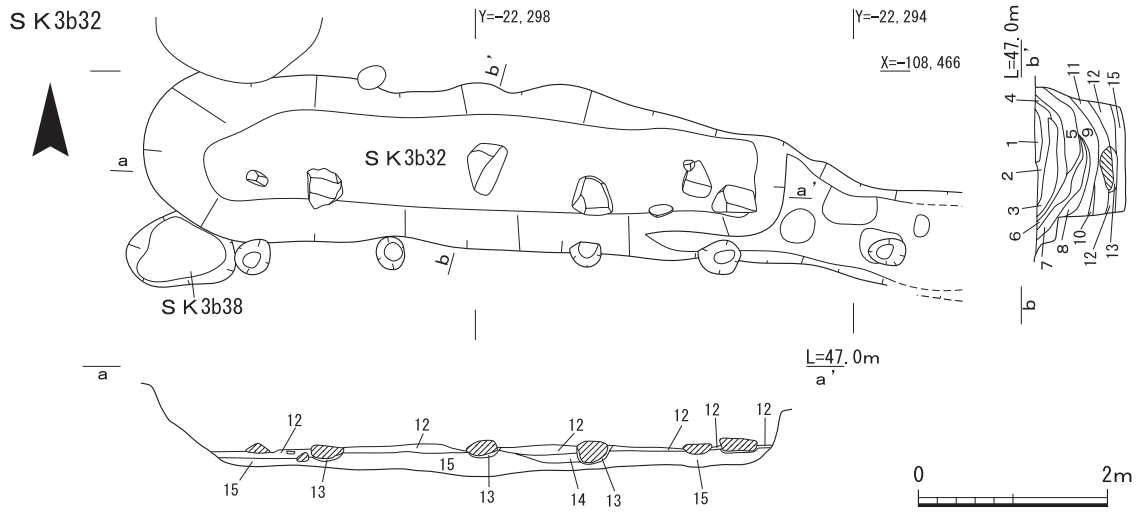
土坑ＳＫ3a191（第20図）　調査地北西部（５・６－Ｓ区）で検出した円形の土坑である。土坑の規模は、径約1.4m、深さ約1.1mを測る。

土坑ＳＫ3a192（第20・30・45図）　調査地の北西部（４・５－Ｑ区）で検出した土坑である。ＳＸ3a199の東側に位置する。掘形の平面は南北に長い長方形を呈し、規模は南北1.3m、東西0.34～0.38m、深さ0.16mを測る。埋土はシルト質細粒砂である。完形品を含む土師器皿が出土した。

土坑ＳＫ3a232（第20・30図）　調査地北西部（５・６－Ｒ区）で検出した土坑である。北側と南側を攪乱などによって削平されており、全容については不明である。南北1.2m、東西0.7m、深さ約0.1mを測る。

土坑ＳＫ3a450（第20図）　調査地の西側中央付近（８－Ｓ・Ｔ区）で検出した土坑である。掘形の平面は不定形で、規模は南北2.1m、東西2.5m、深さ0.6mを測る。完形品を含む土師器皿が多数出土した。遺構時期は16世紀末頃と想定される。

土坑ＳＫ3b19（第20・47図）　調査地南西部（14－Ｓ区）で検出した土坑である。ＳＫ3b29と重複して検出した。規模は、南北0.6m、東西0.52m、深さ約0.25mを測る。埋土は暗オリーブ褐色



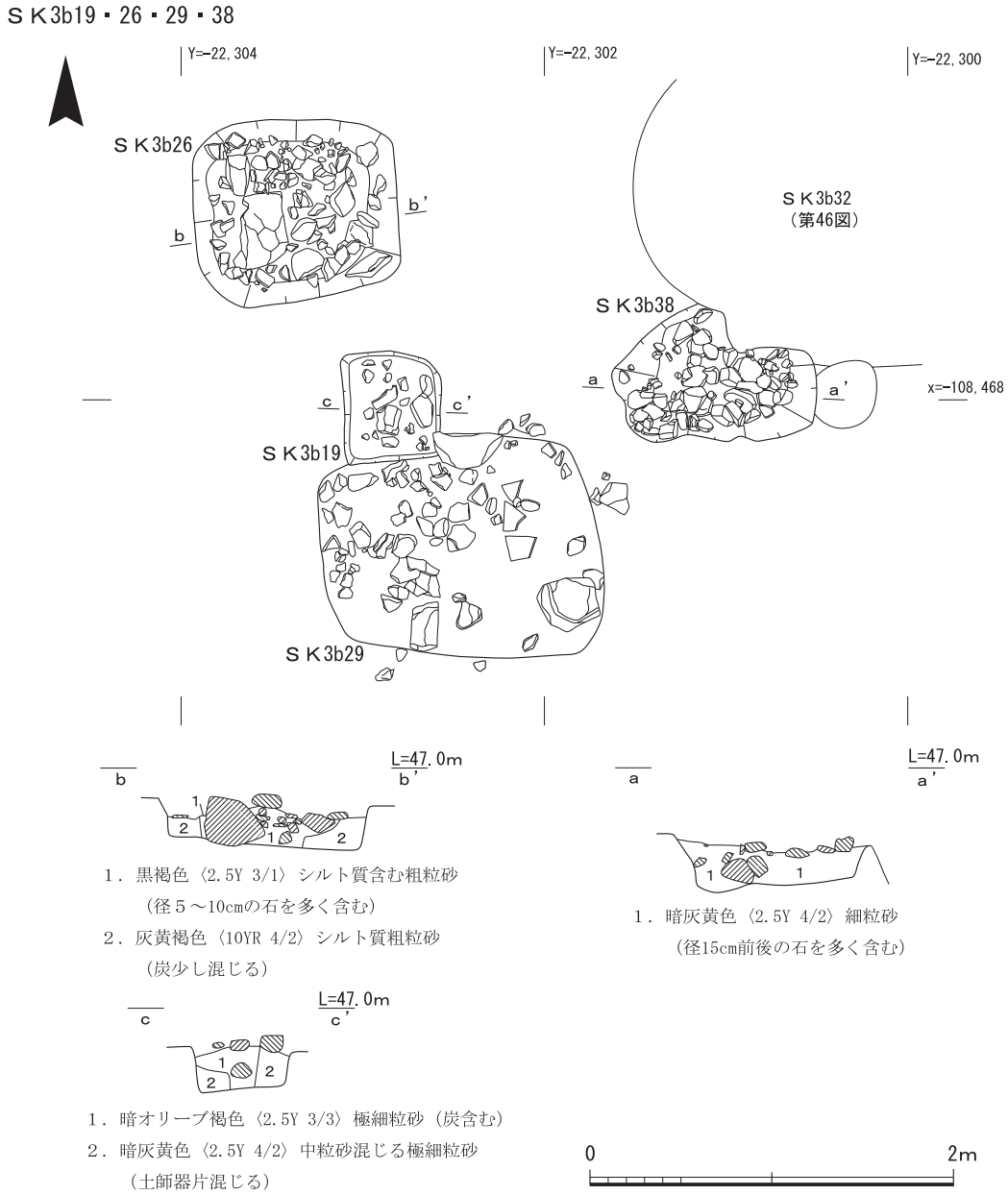
1．黄橙色〈10YR 7/8〉極細粒砂（固くしまる）
2．黒褐色〈10YR 2/2〉シルト質極細粒砂
（径１～２cmの石を含む、炭・土師器片混じる）
3．にぶい黄褐色〈10YR 5/4〉中粒砂（径２cm前後の石を含む）
4．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質中粒砂（炭混じる）
5．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト質細粒砂
（径１～２cmの石を多く含む）
6．黒褐色〈7.5YR 3/1〉シルト質極細粒砂
（径１cm前後の石を少し含む）
7．黒褐色〈10YR 2/5〉中粒砂（径２cm前後の石を含む）
8．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉シルト質中粒砂（瓦片混じる）
9．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト（径１～２cmの石を多く含む）
10．暗褐色〈10YR 3/4〉シルト質細粒砂
11．灰褐色〈10YR 4/2〉シルト質極細粒砂（径１cm前後の石を多く含む）
12．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト質極細粒砂
（径１～５cmの石を多く含む）
13．黒褐色〈2.5YR 3/2〉シルト質細粒砂（径３～５cmの石を多く含む）
14．炭層
15．にぶい黄褐色〈10YR 6/4〉シルト質極細粒砂
（径３～５cmの石を多く含む）

第46図　第２面遺構実測図(27)

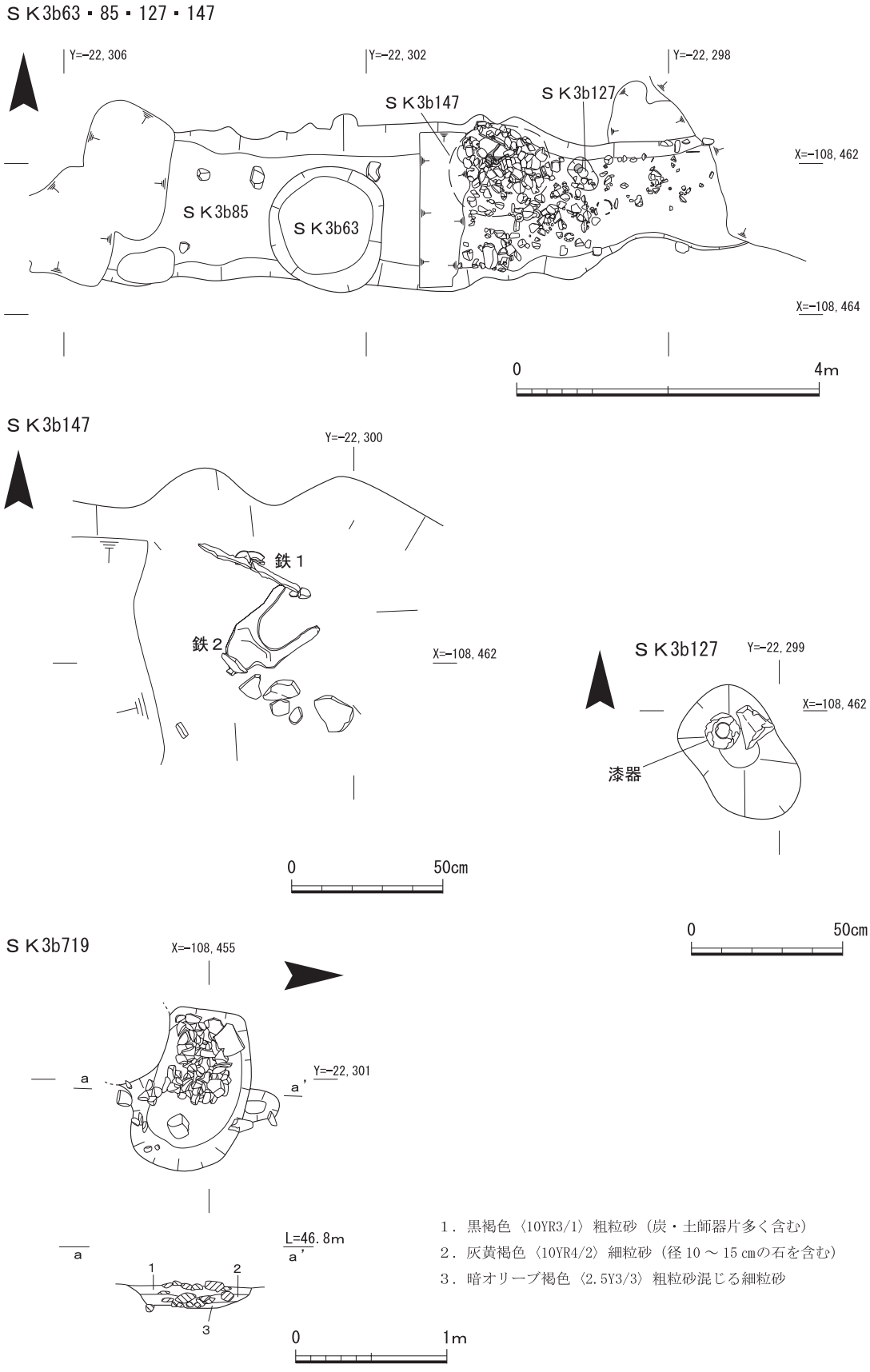
の極細粒砂、暗灰黄色のシルト混じる極細粒砂である。埋土には0.08～0.2m大の石を含む。

土坑ＳＫ3b26（第20・47図）　調査地南西部（13－Ｓ区）で検出した土坑である。黄褐色の整地面を掘り込んで検出した。掘形の平面は隅丸方形を呈し、規模は南北1.0m、東西1.1m、深さ約0.2mを測る。土坑内には0.1～0.4m大の石が入れられる。外側に位置する石は0.1～0.15mで、掘形壁面に沿い方形に並ぶ。その内側南西部には１辺0.4m大の石が置かれる。石を含む埋土は黒褐色のシルト含む粗粒砂で、その下層には灰黄褐色のシルト質粗が堆積する。石の含有は密ではないものの、規則的な石の配置がみえることから、根石据付穴の可能性が考えられる。

土坑ＳＫ3b29（第20・47図）　調査地南西部（14－Ｒ・Ｓ区）で検出した土坑である。黄褐色土の整地面を掘り込んで検出した。ＳＫ3b19と重複する。平面不定形で、規模は南北1.2m、東西1.5mを測る。埋土は、５～36cm大の石を含む暗灰黄色細粒砂である。



第47図　第２面遺構実測図(28)



第48図　第２面遺構実測図(29)

土坑ＳＫ3b32（第20・46図）　調査地南西部（13－Ｐ～Ｒ区）で検出した、東西方向に長い掘形をもつ土坑である。規模は、南北約1.8m、東西約6.8m、深さ約0.9mを測る。主軸方向は、東で2°南に振る。南北方向の断面形は、逆台形を呈し、壁面は急斜面で下がる。堆積断面を見ると、黒褐色・暗褐色・黄褐色系の層が幾重にも「Ｕ」字形に堆積しており、中には炭化物が混じる層もある。土坑下層には、黒褐色土や炭化物、にぶい黄褐色土が厚さ約0.2mで水平に堆積しており、その上に0.2～0.6m大の石を置く。石の大半は平坦面を上向きに据えられる。石の平坦面は、標高約46.2mで、遺構検出面から約0.7m下がる。このような構造から、塀などの建造物の基礎と考えられる。

土坑ＳＫ3b38（第20・47図）　調査地南西部（13・14－Ｒ区）で検出した、東西方向に長い土坑である。北東部をＳＸ3b32によって削平される。規模は、南北0.7m、東西1.1m、深さ約0.34mを測る。埋土は、径約15cm大の石を多く含む暗灰黄色細粒砂である。

土坑ＳＫ3b63（第20・48図）　調査地南西部（12－Ｓ区）で検出した、円形の土坑である。ＳＫ3b85と重複して検出した。規模は、径約0.8m、深さ約1.5mを測る。

土坑ＳＫ3b85（第20・48図）　調査地の南西（12－Ｒ・Ｓ区）で検出した溝状の土坑である。中央の一部をＳＫ3b63によって削平される。掘形の平面は東西に長い不定形を呈する。規模は、南北1.28～2.24m、東西8.2m、深さ0.65mを測る。主軸はほぼ真東を向く。東西端は攪乱によって削平され確認できなかった。土坑中央より東側の底部付近には0.08～0.32m大の石を多く含む。そのうち中央北側では石が重なり合っており、ＳＫ3b147として報告する。

土坑ＳＫ3b127（第20・48図）　調査地の南西（12－Ｒ区）、ＳＫ3b85の底部で検出した土坑で、掘形の平面は楕円形を呈し、規模は長軸0.44m、短軸0.27m、深さ0.25mを測る。遺物は、漆器椀が出土した。漆器椀は口径約13cmである。漆の被膜のみが遺存し、取り上げは不可能であった。

土坑ＳＫ3b147（第20・48図）　調査地の南西（12－Ｒ区）で検出した土坑である。ＳＫ3b85の底部中央北側に位置する。0.08～0.2m大の石が、直径1.2mの範囲にまとまる。集石に伴う明確な掘形は確認できなかったが、石除去後に直径0.8m、深さ0.1mの落ち込みを確認しＳＫ3b85と別遺構と判断した。石の除去後、底部から鉄刀（鉄１）・鋤先（鉄２）が出土した（第127図）。また、石の中には石仏が１基含まれる。

土坑ＳＫ3b141（第20図）　調査地南西部のＳＫ3b204北方約３m（11－Ｔ区）で検出した土坑である。平面は隅丸方形を呈し、一辺約1.8m、深さ約0.8mを測る。

土坑ＳＫ3b204（第20図）　調査地南西部（11・12－Ｓ・Ｔ区）で検出した土坑である。平面は隅丸方形を呈し、その規模は一辺2.5m、深さ約1.8mを測る。

土坑ＳＫ3b384（第20図）　調査地南西部（11－Ｑ区）で検出した土坑である。平面は円形を呈し、径約0.5m、深さ約0.2mを測る。

土坑ＳＫ3b719（第20・48図）　調査地の西側、中央よりやや南（10－Ｒ区）で検出した土坑で、掘形の平面は長方形を呈し、規模は長軸1.08m、短軸0.7m、深さ0.14mを測る。埋土は３層に分かれ、上層は炭化物を多く含む黒褐色の粗粒砂、中層は灰黄褐色の細粒砂、下層は粗粒砂混じる細粒砂である。掘形中央付近に0.03～0.2m大の石を充填する。　（岡崎研一）

４）第３面の遺構

第３面はおよそ室町時代～安土･桃山時代（14世紀後葉～16世紀中葉）の遺構面である。柱穴列･柱穴・溝・井戸・集石・土坑などを検出した。調査地の北側では東西方向の大規模な堀を検出した。遺物は、土師器・瓦質土器・陶磁器・瓦・石製品などが出土した。

（１）堀

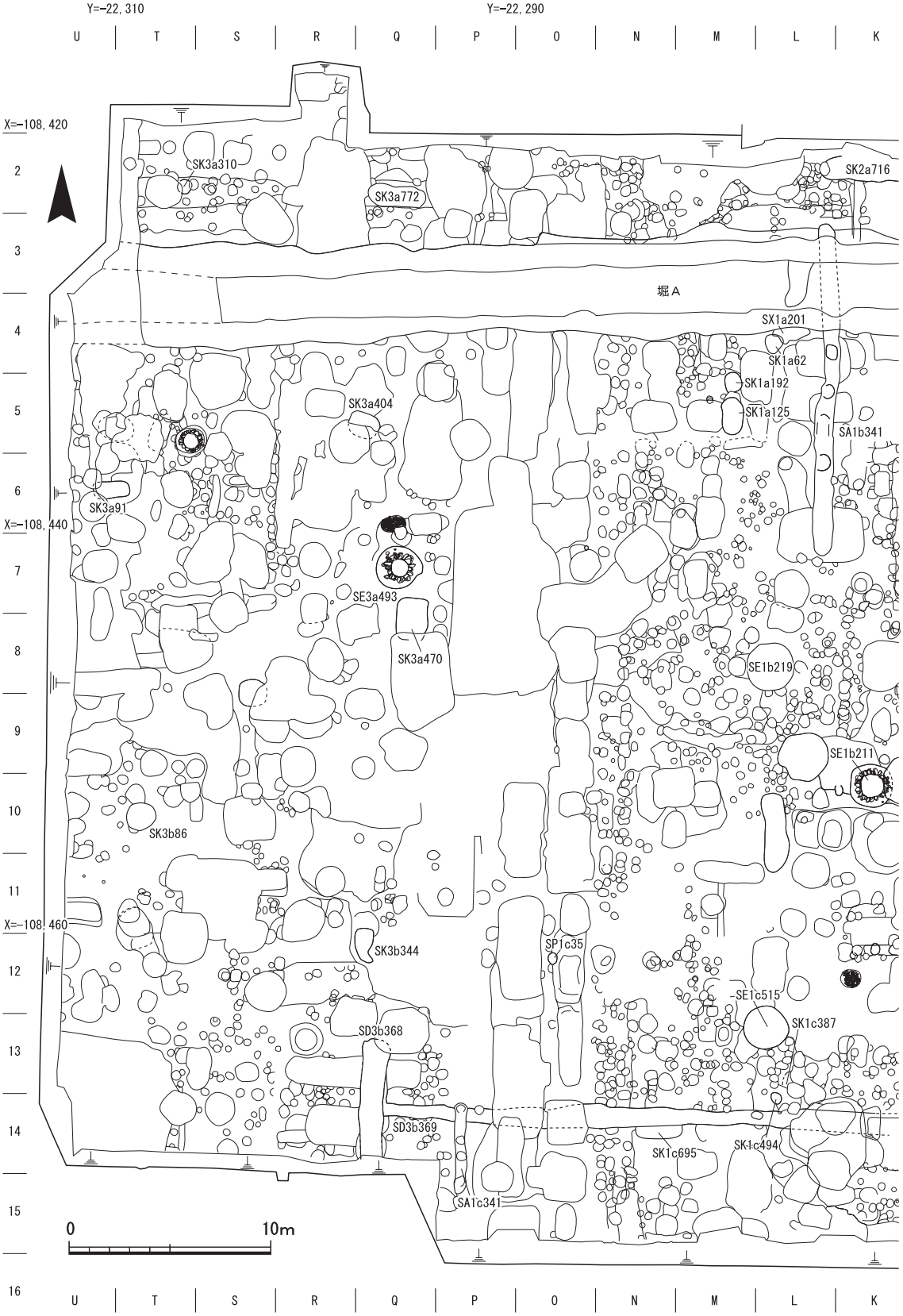
堀A（第49～54図）　調査地北側（３・４－Ｄ～Ｕ区）で検出した堀である。東側は現代の攪乱によって上層を大きく削平される。東壁から西壁まで、調査地を東西に横断し、検出長は68.0ｍを測る。東西端はそれぞれ調査地外へと延びる。堀の規模は、検出幅4.4～5.5ｍ、底部幅1.7～2.6ｍ、深さは検出面から2.6～3.2ｍを測り、断面は逆台形を呈する。堀の主軸はわずかに西に傾いており、東に対して北に1.5°振る。堀の底部は凹凸があり、東端で標高43.6ｍ、西端で標高43.8ｍであるが、Ｙ＝－22,265付近では標高44.4ｍになる。

調査にあたり、４か所に畦を設定し、横断面を観察した。そのうち、３か所を掲載する。堆積の状況は確認した４地点において同一性が認められたため、溝の堆積土が最もよく観察できたａ－ａ’間を中心に報告する。堀の肩部は後世の遺構によって削平を受けており、造成当初の肩部は確認できないが、５層が堀造成時の遺構面にあたる。31層より下層が堀の堆積土である。堀の堆積土は大きく３層に大別される。第１層は31～53層で、砂礫層で構成される。31～47層はにぶい褐色やにぶい褐色の比較的細かな粗粒砂や礫が堆積し、48～50・53層には１～10cm大の石が堆積する。31～47層は北側肩部から南側底部へ向かって傾斜して堆積しており、堀の北側から土砂を入れ埋めたとみられる。その際、高い位置から土砂を入れることになるため、粒子の細かなものが上層に、大きな粒子のものが下層に堆積したと考えられる。51・52層は灰黄褐色やにぶい褐色の砂礫層であるが、31～47層とは異なる方向に堆積しており、崩落土の可能性が考えられる。第１層の砂礫は基盤層に由来するとみられる。

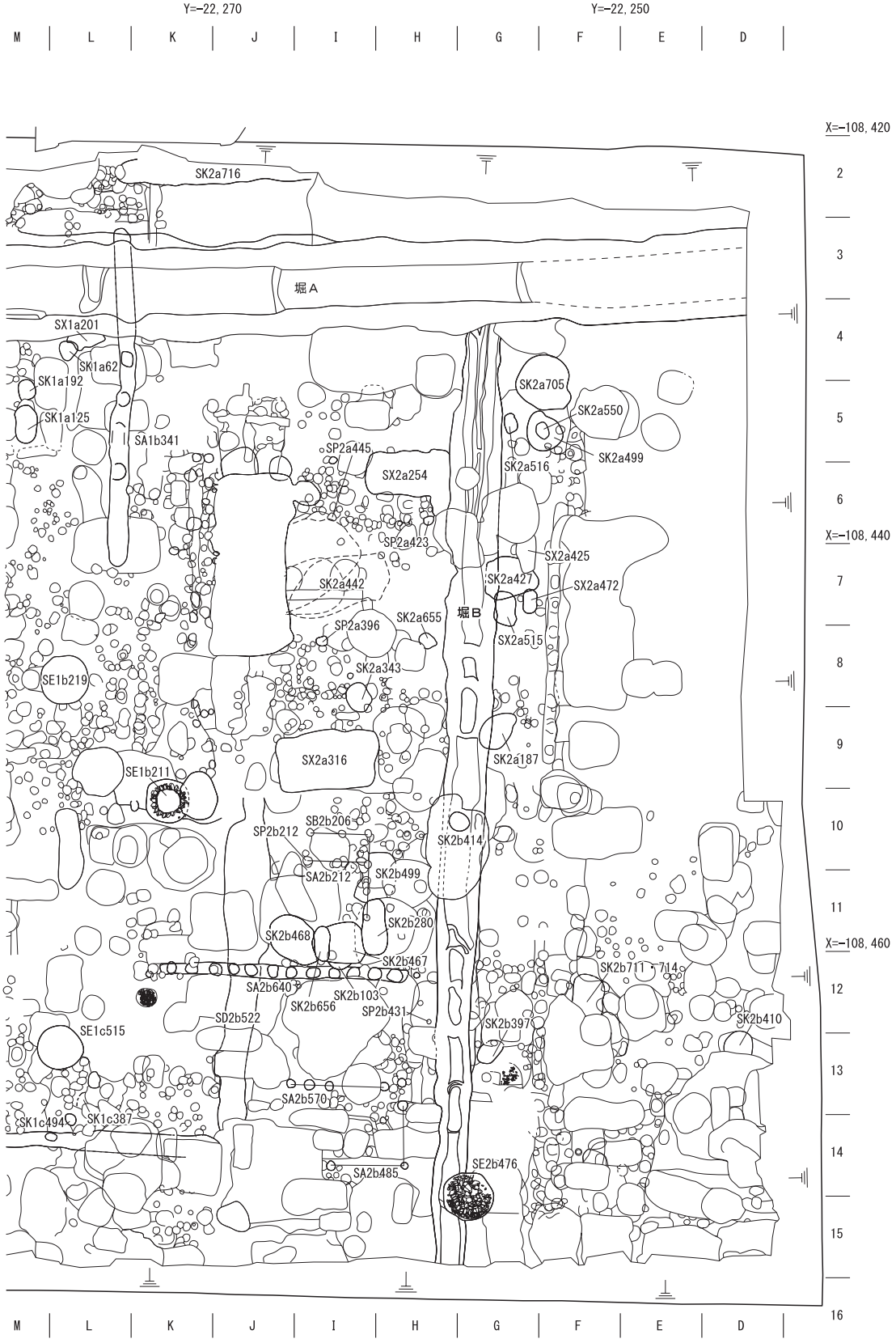
また、埋土の堆積が一定方向であることから、堀掘削時に発生した土砂を盛って堀北側に土塁を構築し、埋め戻し時にはその土塁を崩した土を用いて埋めたと想定される。第２層は54層が相当し、灰黄褐色の粘土が堆積する。雨水によって、壁面から流出した粘土が堆積したとみられ、堀の機能時に堆積したと考えられる。粘土のみで構成されており、ラミナ堆積は確認できなかった。第３層は55～58層が相当する。黒褐色や暗褐色のシルトの混じる砂礫層である。調査地の基盤層に由来し、壁面の崩落土と考えられる。遺物は出土しておらず、堀造成後比較的すぐに崩落したと考えられる。

ｂ－ｂ’間は上層を第２面で検出した南北土坑群によって削平される。75層まで南北土坑群の埋土で、76層から下層が堀Ａの堆積土である。98層が第２層にあたる。ｃ－ｃ’間では第２層にあたる粘土質の堆積土を確認できなかった。

遺物の出土量は少なく、堀全体から遺物整理箱にして３箱が出土した（第101図）。第１層からは、16世紀第４四半期の様相を示す土師器皿が出土した。第２層から出土した遺物より新しい時期の製品は出土しておらず、平安時代から室町時代にかけての土師器・輸入陶磁器が中心である。



第49図　第３面全体平面図（１）

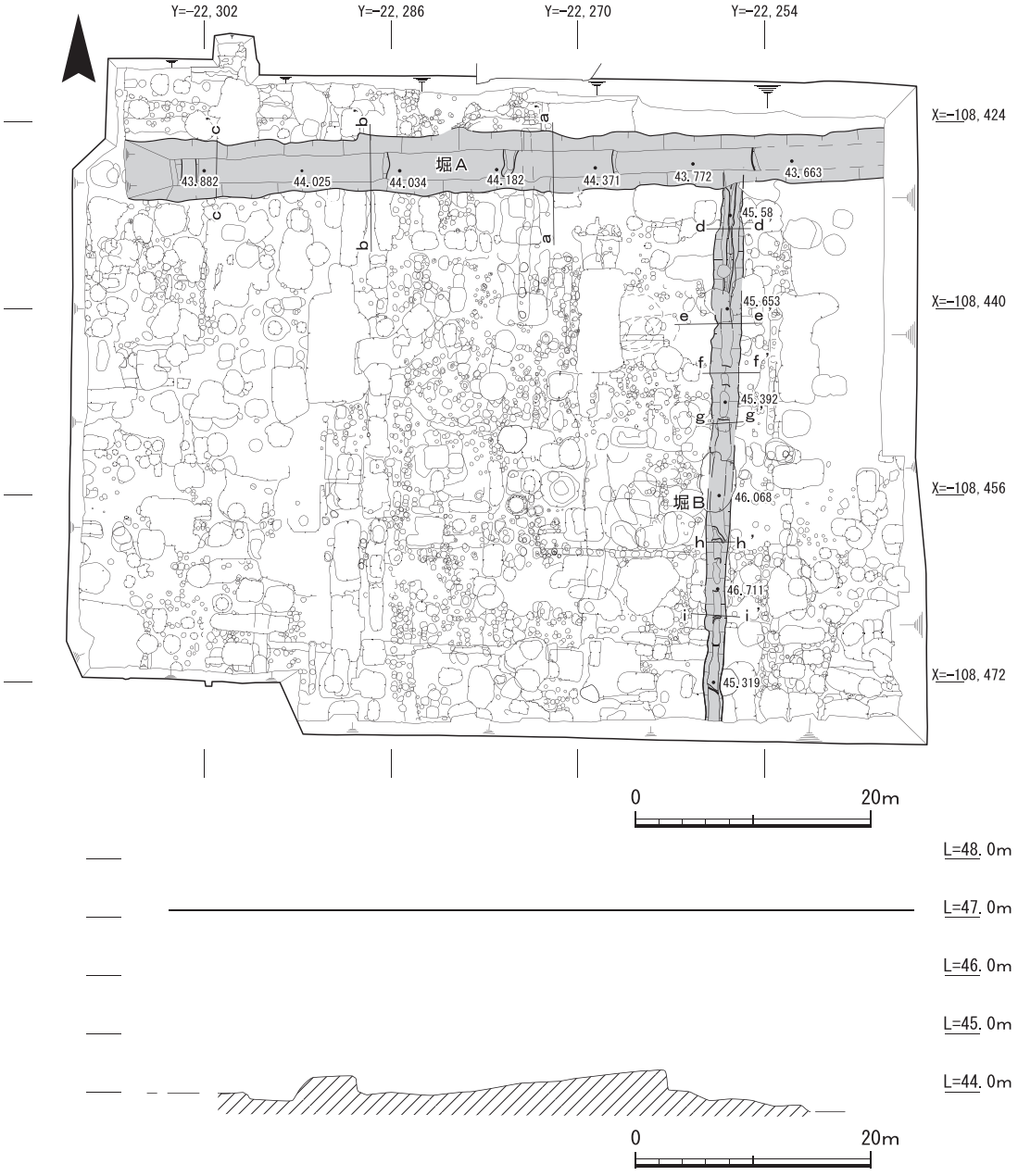


第50図　第３面全体平面図（２）

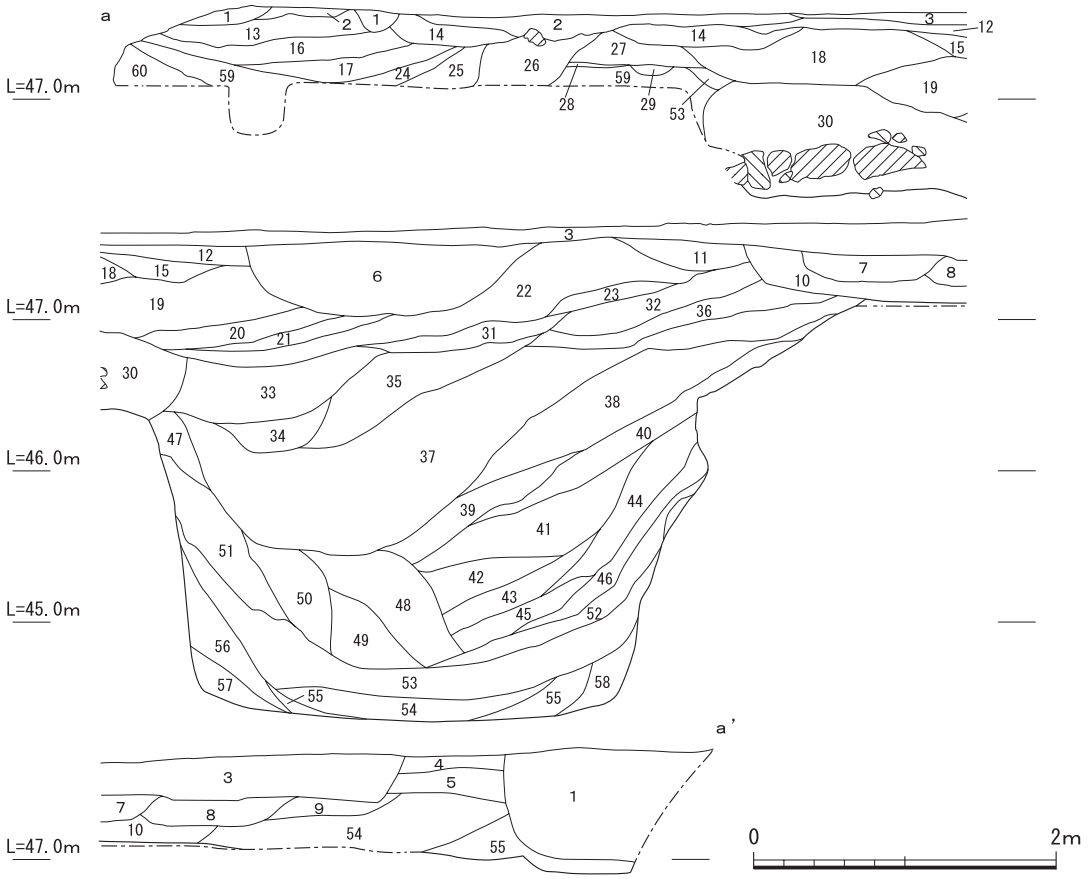
堀の造成時期は不明であるが、遺物から16世紀第４四半期頃には堀が機能していたと考えられる。埋没時期は、第１層中に16世紀末頃の遺物を含まないことや、堀埋没後に掘られたＳＫ2a81から大名屋敷に伴うと考えられる金箔瓦が出土していることなどから、大名屋敷築造時には埋没していたとみられる。

堀Ｂ（第50・51図）　調査地東側（４～15－Ｇ・Ｈ区）で検出した堀である。堀Ａから調査地南壁まで南北方向に直線的に延び、検出長は46mを測る。南端は調査地外へと延びる。北端は堀Ａと重なり合うが、新旧関係は確認できなかった。堀Ａよりも北側では確認できず、堀Ａ内で途切れると考えられる。規模は幅1.3～2.5m、深さ1.7～2.25mを測る。主軸方向は北に対して２°東に振る。

断面の形状及び堆積状況は、堀の北側・中央・南側でそれぞれ異なる（第55～57図）。

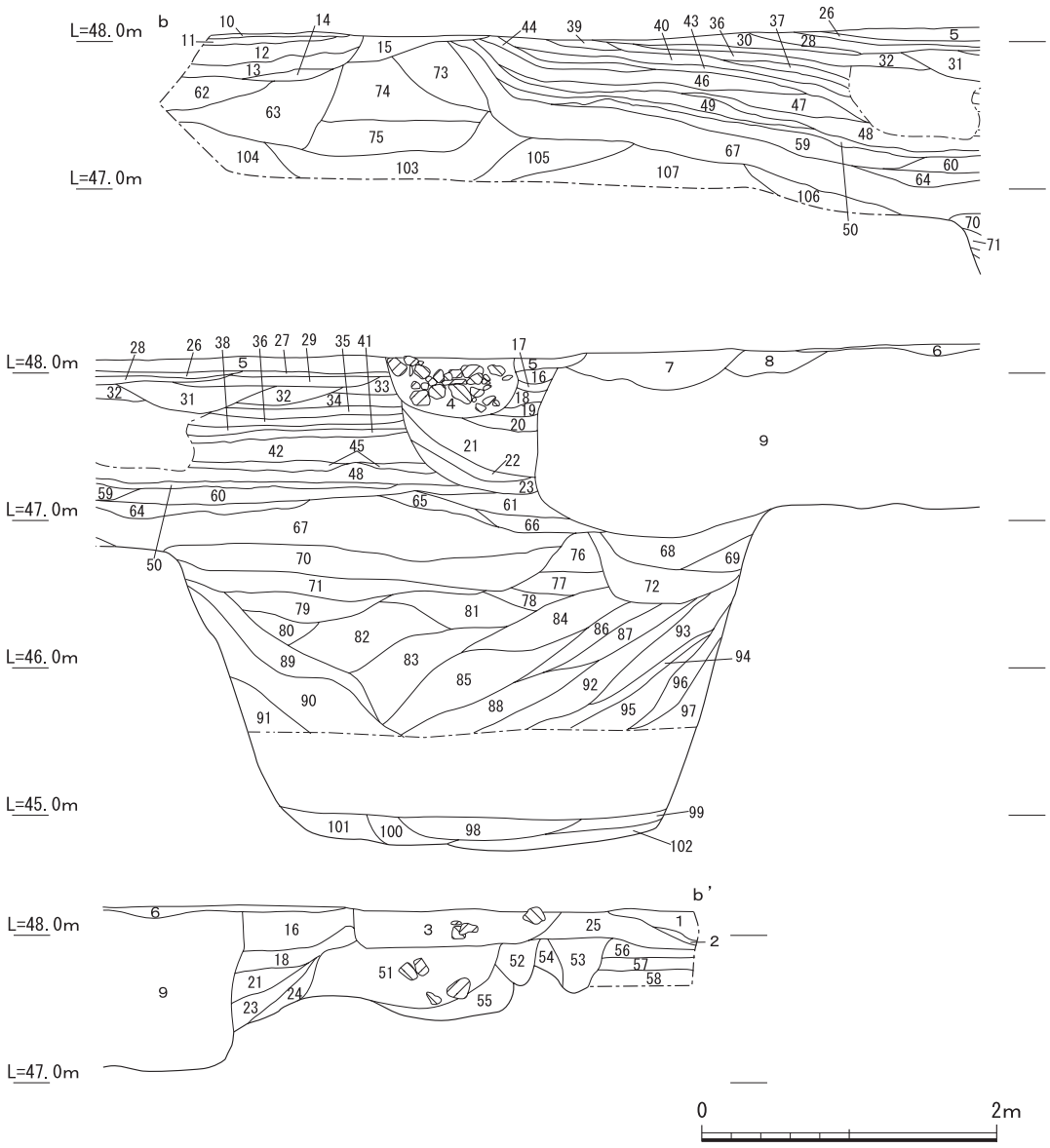


第51図　第３面遺構実測図（１）



1．橙色〈2.5YR 7/6〉粗粒砂
（径５～８cmの石を少し含む、焼土含む）
2．褐灰色〈5YR 4/1〉細粒砂
（径２～５cmの石を多く含む）
3．にぶい橙色〈7.5YR 7/4〉細粒砂
（径３～10cmの石を含む）
4．褐灰色〈10YR 5/1〉粗粒砂
5．淡赤橙色〈2.5YR 7/4〉砂礫
6．灰褐色〈5YR 6/2〉粗粒砂
（径５～10cmの石を含む）
7．灰褐色〈7.5YR 6/2〉粗粒砂
8．にぶい橙色〈7.5YR 7/3〉粗粒砂
9．明褐灰色〈7.5YR 7/2〉粗粒砂
10．褐灰色〈5YR 6/1〉細粒砂
11．褐灰色〈5YR 5/1〉細粒砂
12．黒褐色〈5YR 3/1〉シルト質細粒砂
13．褐灰色〈7.5YR 4/1〉細粒砂
14．橙色〈7.5YR 7/6〉粗粒砂
（径５～10cmの石を含む）
15．褐灰色〈7.5YR 5/1〉細粒砂
（径５cm前後の石を含む）
16．褐灰色〈10YR 4/1〉粗粒砂
17．赤灰色〈2.5YR 4/1〉粗粒砂
18．褐灰色〈5YR 5/1〉粗粒砂
（径５～８cmの石を含む）
19．明褐灰色〈5YR 7/2〉粗粒砂
（径５～12cmの石を含む）
20．黒褐色〈7.5YR 3/1〉粗粒砂
21．褐灰色〈10YR 4/1〉粗粒砂
22．灰褐色〈5YR 5/2〉粗粒砂
（径５cm前後の石含む）
23．にぶい橙色〈5YR 6/4〉粗粒砂
24．にぶい橙色〈5YR 6/4〉粗粒砂
（径３cm前後の石を含む）
25．にぶい橙色〈5YR 4/3〉粗粒砂
26．褐灰色〈7.5YR 4/1〉粗粒砂
27．赤灰色〈2.5YR 5/1〉粗粒砂
（径２～３cmの石を含む）
28．橙色〈5YR 7/6〉粗粒砂
29．橙色〈5YR 6/6〉粗粒砂
30．にぶい橙色〈7.5YR 6/4〉
シルト質細粒砂
31．灰黄褐色〈10YR 6/2〉粗粒砂
32．褐灰色〈5YR 4/1〉粗粒砂
（径５cm前後の石を多く含む）
33．にぶい黄橙色〈10YR 7/3〉粗粒砂
34．明黄褐色〈10YR 7/6〉粗粒砂
35．褐灰色〈10YR 5/1〉粗粒砂
（径５cm前後の石を多く含む）
36．褐灰色〈7.5YR 5/1〉粗粒砂
37．にぶい橙色〈7.5YR 6/4〉粗粒砂
（径５～10cmの石を含む）
38．にぶい褐色〈7.5YR 6/3〉粗粒砂
39．にぶい褐色〈5YR 6/3〉砂礫
40．にぶい橙色〈5YR 6/4〉砂礫
41．にぶい橙色〈5YR 7/3〉砂礫
42．にぶい橙色〈7.5YR 6/4〉砂礫
43．灰褐色〈5YR 5/2〉砂礫
44．にぶい黄褐色〈10YR 5/3〉砂礫
45．にぶい黄褐色〈10YR 5/3〉砂礫
46．にぶい褐色〈7.5YR 6/3〉砂礫
47．にぶい褐色〈7.5YR 6/3〉粗粒砂
48．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉砂礫
（径１～10cmの礫層）
49．灰黄褐色〈10YR 5/2〉礫層
50．褐灰色〈5YR 5/1〉礫層
51．灰黄褐色〈10YR 5/2〉礫層
52．灰褐色〈7.5YR 6/2〉礫層
53．にぶい黄褐色〈10YR 5/3〉礫層
54．灰黄褐色〈10YR 4/2〉粘土
55．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト含む礫
（径５～10cmの石を多く含む）
56．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト含む粗粒砂
57．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト混じる礫
（径0.5cmの礫層）
58．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト混じる粗粒砂
59．灰黄褐色〈10YR 4/2〉粗粒砂
60．黒褐色〈10YR 3/1〉粗粒砂（小石含む）

第52図　第３面遺構実測図（２）



. にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉細粒砂
（径２～５cmの石を少し含む）
. 褐色〈10YR 4/4〉細粒砂
. 褐色〈10YR 4/6〉細粒砂（径10cm前後の石を少し含む）
. 褐灰色〈5YR 6/1〉細粒砂（径４～14cmの石を多く含む）
. 赤色〈10R 5/6〉粗粒砂
. にぶい橙色〈7.5YR 7/4〉粗粒砂
. 褐灰色〈10YR 5/1〉粗粒砂（径６～10cmの石を含む）
. 黄橙色〈7.5YR 8/8〉粘土
. 淡黄色〈2.5Y 8/4〉粗粒砂
（径５～15cmの石を多くに含む、漆喰含む）
. 灰黄褐色〈10YR 6/2〉粗粒砂
. 褐灰色〈10YR 6/1〉粗粒砂
. 褐灰色〈7.5YR 6/1〉粗粒砂
. 黄灰色〈2.5Y 4/1〉粗粒砂（炭混じる）
. にぶい黄色〈2.5Y 6/3〉砂礫（径５cm前後の石を含む）
. 灰黄褐色〈10YR 6/2〉細粒砂（径３cm前後の石を含む）
16. 黄灰色〈2.5Y 6/1〉細粒砂（径５cm前後の石を含む）
17. 灰色〈5Y 4/1〉砂礫
18. 明赤褐色〈2.5YR 5/6〉細粒砂
19. にぶい橙色〈7.5YR 6/4〉砂礫
20. にぶい黄橙色〈10YR 7/3〉砂礫
21. 明褐灰色〈7.5YR 7/2〉砂礫（炭少し含む）
22. にぶい褐色〈7.5YR 6/3〉細粒砂（炭多く含む）
23. 黒褐色〈7.5YR 3/1〉細粒砂（炭多く含む）
24. 灰黄褐色〈10YR 6/2〉細粒砂
25. 暗褐色〈10YR 3/3〉シルト混じる細粒砂（径３cm前後の石を少し含む
26. 褐灰色〈7.5YR 5/1〉砂礫
27. 褐灰色〈7.5YR 6/1〉砂礫
28. にぶい褐色〈7.5YR 6/3〉細粒砂
29. 褐灰色〈5YR 6/1〉細粒砂
30. 明褐灰色〈5YR 7/2〉粗粒砂
31. 褐灰色〈5YR 5/1〉細粒砂
32. 明褐灰色〈5YR 7/2〉細粒砂（径５cm前後の石を含む）

第53図　第３面遺構実測図（３）

堀A断面図（２）土色

33. 明褐灰色〈7.5YR 7/1〉礫含む細粒砂
34. 褐灰色〈7.5YR 6/1〉粗粒砂
35. にぶい黄橙色〈10YR 7/3〉砂礫
36. 灰黄色〈2.5Y 7/2〉砂礫
37. にぶい黄橙色〈10YR 6/4〉砂礫
38. にぶい黄橙色〈10YR 7/3〉砂礫
39. 褐灰色〈7.5YR 6/1〉砂礫
40. にぶい橙色〈7.5YR 7/3〉砂礫
41. 浅黄橙色〈7.5YR 8/3〉砂礫
42. にぶい橙色〈7.5YR 7/4〉砂礫
43. 黒褐色〈7.5YR 3/1〉砂礫（炭混じる）
44. 橙色〈7.5YR 7/6〉砂礫
45. 黒褐色〈7.5YR 3/1〉砂礫（炭混じる）
46. 褐灰色〈5YR 6/1〉細粒砂礫
47. 褐灰色〈10YR 6/1〉細粒砂礫
48. 浅黄色〈2.5Y 7/3〉砂礫
49. 黄灰色〈2.5Y 6/1〉砂礫〈径５cm 前後の石を含む〉
50. 灰色〈N/0〉粘質土
51. 暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（径３～ 10cm の石中量含む）
52. 黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
53. 黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂
54. 暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂
55. 暗褐色〈10YR 3/3〉シルト混じる極細粒砂
（径 0.５～１cm の石を少し含む）
56. 黒褐色〈10YR 2/2〉シルト質極細粒砂（地山）
57. 黒褐色〈10YR 2/2〉細石混じる細粒砂（地山）
58. 褐色〈10YR 4/6〉極細粒砂混じるシルト（地山（聚楽土））
59. 浅黄橙色〈10YR 8/4〉礫層
60. にぶい黄橙色〈10YR 7/2〉礫層
61. 灰黄色〈2.5Y 6/2〉砂礫
62. 赤灰色〈2.5YR 5/1〉シルト混じる粗粒砂
63. 赤灰色〈2.5YR 5/1〉砂礫
64. 黒褐色〈10YR 3/1〉礫層（炭混じる）
65. 褐灰色〈10YR 4/1〉礫層（炭混じる）
66. 黒褐色〈10YR 3/1〉礫層（炭混じる）
67. 褐灰色〈10YR 5/1〉砂礫（炭混じる）
68. にぶい赤褐色〈5YR 5/3〉細粒砂礫
69. 褐灰色〈5YR 6/1〉細粒砂礫
70. にぶい橙色〈7.5YR 7/3〉細粒砂
71. 灰褐色〈7.5YR 6/2〉細粒砂
72. 黒褐色〈7.5YR 3/1〉細粒砂礫（炭混じる）
73. 褐灰色〈10YR 5/1〉細粒砂（径２cm 前後の石含む）
74. 褐灰色〈7.5YR 5/1〉細粒砂（径８cm 前後の石含む）
75. 灰黄色〈2.5Y 6/2〉砂礫
76. 赤灰色〈2.5YR 6/1〉細粒砂礫
77. 灰赤色〈2.5YR 5/2〉砂礫（径 10cm 前後の石含む）
78. 赤灰色〈10R 6/1〉細粒砂礫
79. 褐灰色〈7.5YR 6/1〉細粒砂
80. 灰赤色〈2.5YR 6/2〉細粒砂
81. 灰赤色〈10R 6/2〉礫層
82. 赤褐色〈10R 5/3〉礫層
83. 灰赤色〈2.5YR 5/2〉礫層
84. 灰褐色〈5YR 6/2〉極細粒砂
85. 褐灰色〈5YR 5/1〉礫層
86. 灰赤色〈10R 6/2〉細粒砂含む礫
87. にぶい赤橙色〈10R 6/4〉細粒砂含む礫
88. 赤灰色〈2.5YR 6/1〉細礫
89. 灰赤色〈2.5YR 5/2〉砂礫
90. 灰赤色〈10R 5/2〉砂礫
91. にぶい赤褐色〈2.5YR 5/3〉砂礫
92. 灰赤色〈2.5YR 5/2〉粗粒砂（小石含む）
93. 灰褐色〈5YR 5/2〉粗粒砂（小石含む）
94. 褐灰色〈5YR 4/1〉粗粒砂（小石含む）
95. 灰褐色〈7.5YR 6/2〉細粒砂
96. 褐灰色〈10YR 4/1〉粗粒砂（径３cm 前後の石を含む）
97. 灰褐色〈5YR 5/2〉粗粒砂（小石含む）
98. 黒褐色〈10YR 2/3〉粘質土（径５～ 15cm の石を多く含む）
99. 暗褐色〈10YR 3/4〉シルト含む細粒砂
100. 暗褐色〈10YR 3/3〉粒砂
101. 褐色〈10YR 4/4〉粗粒砂（径３～ 10cm の石混じる）
102. 褐色〈10YR 4/6〉細粒砂（粗粒砂混じる）
103. 褐灰色〈5YR 6/1〉粗粒砂
104. にぶい黄橙色〈10YR 7/3〉礫層
105. 褐灰色〈10YR 5/1〉粗粒砂
106. 灰黄褐色〈10YR 5/2〉粗粒砂
107. 明褐灰色〈7.5YR 7/2〉粗粒砂

Ｘ＝－108,440より北側では、堀の底部は平坦で、底部幅1.0～1.4ｍを測るが、底部中央を溝状に掘り下げ断面は「逆凸」字状を呈する（ｄ－ｄ’）。埋土は、上層に褐色の極細粒砂含む細粒砂（２層）・暗褐色の礫含む極細粒砂（３層）、中層に黒褐色の粗礫多く含む極細粒砂（第６層）、下層に暗褐色の極細粒砂（12層）などがリング状に堆積する。堀底部に掘られた溝状の落ち込みは幅0.4～0.6ｍ、深さ0.3～0.4ｍを測り、長さ9.2ｍを検出した。埋土は暗オリーブ褐色の細粒砂（13層）である。

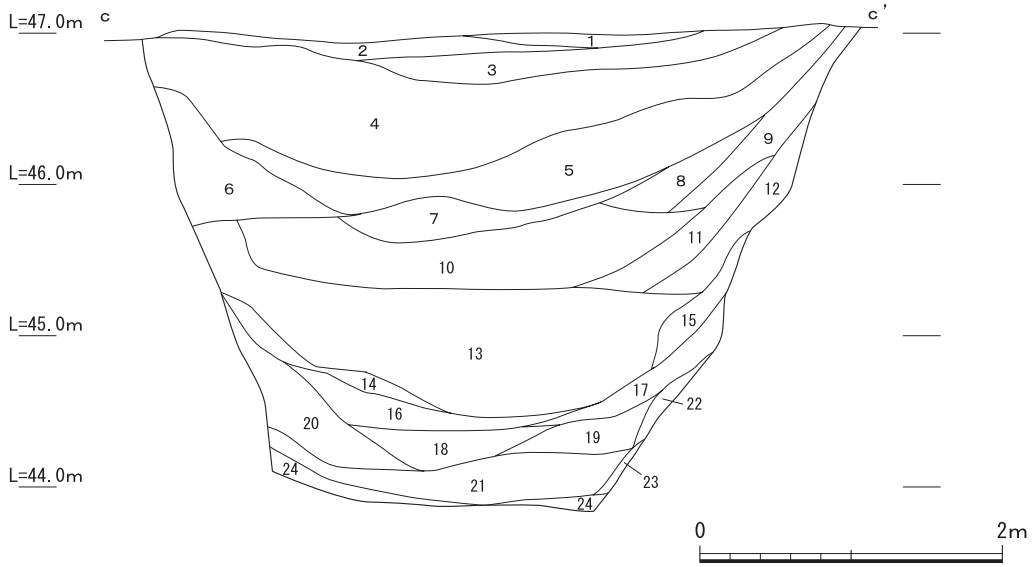
Ｘ＝－108,440～－108,456付近では、堀の断面は「Ｕ」字形を呈する。埋土は上層に黒褐色の粗砂混じる細粒砂、下層に黒褐色のシルト質細粒砂が堆積する。Ｘ＝－108,448付近は底部から0.35ｍを掘り下げ、褐色のシルト質細粒砂が堆積する（ｇ－ｇ’間10層）。

南側の断面ｈ－ｈ’からＸ＝－108,468間では深さが最も深くなり、深いところで2.25ｍを測る。Ｘ＝－108,468より南では浅くなり、深さは0.7ｍになる。ｈ－ｈ’では底部付近は壁面がせり出し、断面は杵形を呈する。埋土は堀北側の埋土と比較して粒子が大きく、上層・中層は暗褐色や黒褐色の細粒砂～中流砂が堆積し、下層には１～20cmの石を多く含む灰黄褐色や暗褐色の砂礫が堆積する（９～13層）。浅くなる南側では、断面は逆台形を呈する（ｉ－ｉ’）。埋土は暗褐色や黒褐色の極細粒砂～細粒砂で、比較的粒子の細かい層と、３～10cm大の石を多く含む層が交互に堆積する。

遺物は、土師器皿・瓦質土器の他、土師質の丸底小鉢が出土した。

（２）建物

建物ＳＢ2b206（第50・58図）　調査地の南東（10・11－Ⅰ区）で検出した掘立柱建物である。建物の規模は南北３間（4.2ｍ）、東西２間（2.44ｍ）を測る。柱間距離は南北1.3～1.5ｍ、東西1.4～



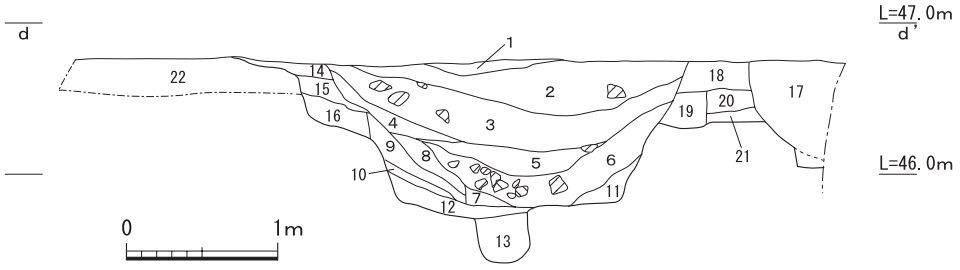
1．暗褐色〈10YR 3/4〉粗粒砂（径３cm前後の石混じる）
2．明黄褐色〈10YR 7/6〉粗粒砂（径１～２cmの石混じる）
3．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉粗粒砂
（径３cm前後の石を多く含む）
4．暗褐色〈10YR 3/4〉細礫（径３～５cmの石を
多く含む）
5．褐色〈10YR 4/4〉粗粒砂含む中粒砂
（径0.5～３cmの石を多く含む）
6．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉細粒砂混じる粗粒砂
（径0.5～10cm前後の石混じる）
7．暗褐色〈10YR 3/4〉粗粒砂（径0.5～２cmの石を多く含む）
8．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂
（径0.5～１cmの石を含む）
9．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂
（径0.5～３cmの石混じる）
10．礫層（径１～10cm）
11．灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂（径１cm前後の石を含む）
12．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂
（径１cm前後の石を含む）
13．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉径５～15cmの礫層
14．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂混じるシルト
（土師器細片少し混じる）
15．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂混じる細粒砂
（径５cm前後の石少し混じる）
16．黒褐色〈10YR 3/1〉粗粒砂混じる粘土
17．黒褐色〈10YR 3/1〉シルト混じる粘土
18．暗褐色〈10YR 3/3〉巨礫層（地山崩落）
19．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト混じる粗粒砂
（径10～15cmの石を含む）
20．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト含む細粒砂
（径10～15cmの石含む）
21．暗褐色〈10YR 3/3〉細～巨礫層
（径５～15cmの石を含む）地山崩落か
22．暗褐色〈10YR 3/4〉シルト混じる中粒砂
23．暗褐色〈10YR 3/3〉極粗礫
24．暗褐色〈10YR 3/3〉１～２cmの礫層

第54図　第３面遺構実測図（４）

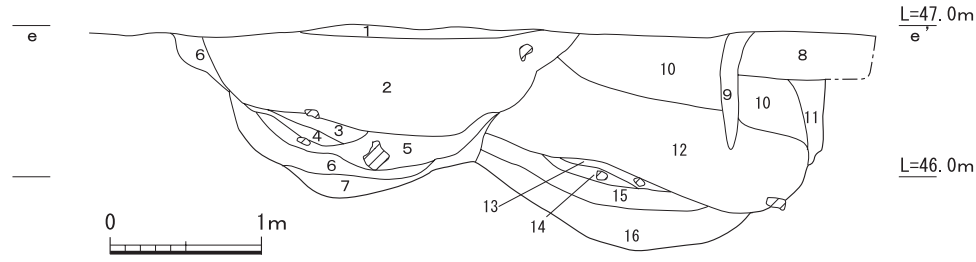
1.6mを測る。柱穴の掘形は円形を呈し、規模は直径0.32～0.36m、深さ0.22～0.64mを測る。建物主軸は真北を向く。掘形の埋土は、暗褐色や黒褐色のシルト混じる極細粒砂・シルト質極細粒砂である。ＳＰ2b207～209、211で柱痕を確認した。柱痕の埋土は、にぶい黄褐色や黒褐色のシルト混じる極細粒砂である。

（３）柱穴列

柱穴列ＳＡ1b341（第50・60図）　調査地北側中央よりやや東（３～７－Ｌ区）で検出した南北方向の柱穴列である。布掘りの掘形を持つ柱穴列で、塀跡と考えられる。掘形の規模は、長さ17m、幅0.7～1.0m、深さは0.8～1.0mを測る。北側の一部は堀Ａによって削平され、消失している。柱穴は６基を確認した。柱穴は掘形底部から直径0.7～0.8mの円形に、0.2m程度を掘り下げ、柱間距離は1.6～2.0mを測る。柱穴の主軸方向は北に対して東に８°振る。掘形の埋土はオリーブ褐

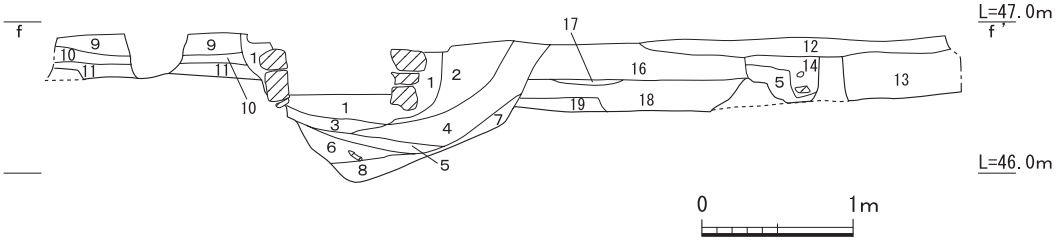


1．褐色〈10YR 4/4〉極細粒砂（径１～２㎝の石を含む）
2．褐色〈10YR 4/6〉極細粒砂含む細粒砂（径２～10㎝の石を含む）
3．暗褐色〈10YR 3/3〉礫含む極細粒砂（径２～５㎝の石を含む）
4．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉礫層極細粒砂含む礫
（第５層と近いが礫を多く含む）
5．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉シルト含む極細粒砂
（径１～２㎝の石を少し含む）
6．黒褐色〈10YR 3/2〉粗礫多く含む極細粒砂
（径２～10㎝の石を多く含む、極細粒砂は下半に多く堆積）
7．黒褐色〈10YR 2/3〉シルト混じる極細粒砂（ブロック状に堆積）
8．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト混じる極細粒砂（径１㎝前後の石を含む）
9．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉極細粒砂
10．褐色〈7.5YR 4/4〉粗礫（径１～２㎝の礫層）
11．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉極細粒砂（径５～10㎝の石を少し含む）
12．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂
13．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉細粒砂
（径５～10㎝の石を含む）
14．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂
15．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（15・16層は溝Ｂと別遺構か）
16．暗褐色〈10YR 3/4〉極細粒砂（焼土片混じる）
17．暗褐色〈10YR 3/4〉極細粒砂（別遺構）
18．暗褐色〈10YR 3/4〉極細粒砂（土師片多く混じる）
19．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂（焼土片少し含む）
20．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂
21．褐色〈10YR 4/6〉極細粒砂
22．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉シルト混じる極細粒砂

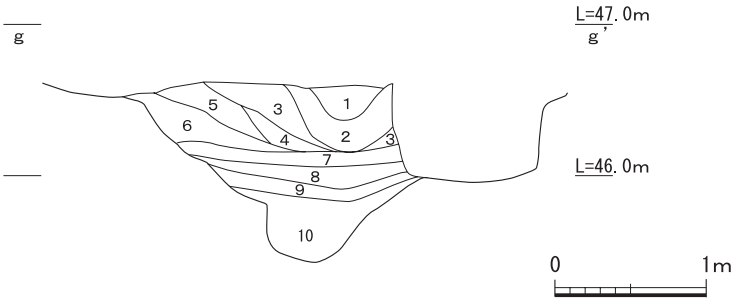


1．褐色〈10YR 4/4〉細粒砂
（径２～４㎝の石を含む、土師器片混じる）
2．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂
（径２㎝前後の石を含む、土師器片混じる）
3．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（土師器片混じる）
4．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂
（径３㎝前後の石を含む、土師器片混じる）
5．黒褐色〈10YR 2/3〉細粒砂
（径２～20㎝の石を含む、土師器片混じる）
6．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（土師器片・炭・陶磁器混じる）
7．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂
（径２～４㎝の石を含む、土師器片・炭混じる）
8．褐色〈10YR 4/4〉細粒砂（土師器片・炭混じる）
9．褐色〈10YR 4/6〉細粒砂（径２～５㎝の石を含む）
10．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト質細粒砂
（径10㎝前後の石を含む、土師器片・炭混じる）
11．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂（土師器片混じる）
12．黒褐色〈10YR 2/3〉細粒砂
（径４～８㎝の石混じる、土師器片・炭混じる）
13．褐色〈10YR 4/4〉細粒砂（明黄褐色〈10YR 6/6〉混じる、
径８㎝前後の石を含む　土師器片混じる）
14．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
15．黒褐色〈10YR 2/3〉細粒砂
（黄褐色〈10YR 5/8〉混じる、径３～７㎝の石を含む）
16．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（黄褐色〈10YR 5/8〉混じる、
径２～８㎝の石を含む、土師器片・炭混じる）

第55図　第３面遺構実測図（５）

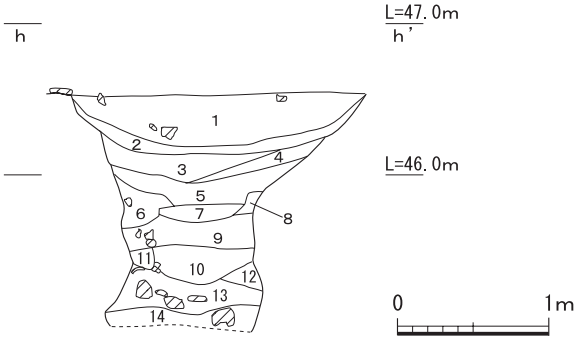


1．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂混じる細粒砂
（径0.5cm前後の石を多く含む、土師器片含む）
2．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂混じる細粒砂
（土師器片多く混じる、径0.5～２cmの石を多く含む）
3．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂混じるシルト質細粒砂
（炭・土師器片少し混じる、
径0.5cm前後の石を少し含む）
4．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質細粒砂
（炭少し混じる、土師器片多く混じる、
径0.5～２cmの石含む）
5．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質細粒砂
（炭・土師器片少し混じる、
径0.5cm前後の石を少し含む）
6．黒褐色〈2.5YR 3/2〉シルト質細粒砂
（土師器片少し混じる、径10cm前後の石を少し含む）
7．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
（炭少し混じる、土師器片多く混じる）
8．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質細粒砂
（径0.5～２cmの石を多く含む）
9．黒褐色〈2.5YR 3/2〉粗粒砂混じる細粒砂
（炭・土師器片少し混じる、
径１～２cmの石含む）
10．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂混じる細粒砂
（炭・土師器片少し混じる、
径２cm前後の石を少し含む）
11．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質細粒砂
（土師器片少し混じる、炭混じる、
径0.5～２cmの石を少し含む）
12．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂混じる細粒砂
（炭少し混じる、土師器片混じる、
径１～２cmの石を少し含む）
13．暗褐色〈10YR 3/4〉粗粒砂混じる細粒砂
（炭・土師器片混じる）
14．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂混じる細粒砂
（炭・土師器片混じる、
径５～10cmの石を少し含む）
15．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂混じる細粒砂
（炭・土師器片混じる、
径0.5cmの石を少し含む）
16．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂混じる細粒砂
（炭混じる、土師器片多く混じる、
径0.5～１cmの石を少し含む）
17．黒褐色〈10YR 2/3〉粗粒砂混じる細粒砂
（炭・土師器片混じる、
径1.5cmの石を少し含む）
18．極暗褐色〈7.5YR 2/3〉粗粒砂混じるシルト質細粒砂
（炭混じる、土師器片多く混じる、
径５cm前後の石を少し含む）
19．黒褐色〈7.5YR 3/2〉シルト含む細粒砂
（土師器片混じる、径２cm前後の石を少し含む）

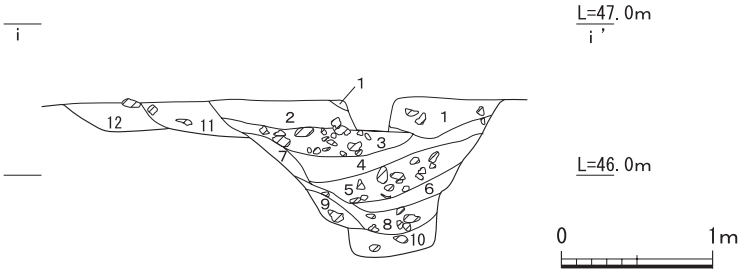


1．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂混じるシルト質細粒砂
（土師器片・炭少し混じる、径３～10cmの石を含む）
2．暗褐色〈10YR 3/4〉シルト質細粒砂
（土師器片少し混じる、径0.5～２cmの石を少し含む）
3．黒褐色〈10YR 2/3〉細粒砂
（土師器片少し混じる）
4．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂
（土師器片少し混じる）
5．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂混じるシルト質細粒砂
（土師器片・炭含む、径1.5～４cmの石を少し含む）
6．極暗褐色〈7.5YR 2/3〉シルト質細粒
（土師器片少し混じる）
7．暗褐色〈7.5YR 3/3〉粗粒砂混じる細粒砂
（径１～５cmの石を少し含む）
8．黒褐色〈7.5YR 3/2〉シルト質細粒砂
（土師器片少し混じる、径0.5～４cmの石を少し含む）
9．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト質細粒砂
（土師器片・炭少し混じる、
径0.5～３cmの石を含む）
10．褐色〈10YR 4/6〉シルト質細粒砂
（径0.3～12cmの石を多く含む）

第56図　第３面遺構実測図（６）



1．暗褐色〈10YR3/3〉細粒砂（径0.5～20cmの石を含む）
2．暗褐色〈10YR 3/4〉粗粒砂含む細粒砂
3．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂含む細粒砂（径５～15cm礫層）
4．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉極細粒砂（径0.5～２cmの石を含む）
5．褐色〈10YR 4/4〉細粒砂（径0.5～10cm礫層）
6．黒褐色〈10YR 2/2〉中粒砂混じる細粒砂
7．暗褐色〈10YR 3/3〉中粒砂混じる細粒砂（径５～10cm礫層）
8．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂
9．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂（径１～20cm礫層）
10．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（径５～10cmの石を含む）
11．灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂（径0.5～１cmの石を含む）
12．灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂（径0.5～１cmの石を含む）
13．黒褐色〈10YR 2/3〉細粒砂（径５～10cmの石を含む）
14．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂



1．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂
（径３cm前後の石を含む）
2．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂
（径３cm前後の石を少し含む）
3．黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂
（径３～15cmの礫層を含む）
4．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂
5．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂（0.5～10cmの石を多く含む）
6．褐色〈10YR 4/4〉礫層（地山崩落土）
7．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂含む極細粒砂
8．黒褐色〈10YR 2/2〉シルト混じる極細粒砂
（径３～10cmの石を多く含む）
9．黒褐色〈10YR 2/2〉細粒砂
10．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂混じるシルト質極細粒砂
（径５～10cmの石を含む）
11．暗褐色〈10YR 3/4〉礫混じる細粒砂
12．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂

第57図　第３面遺構実測図（７）

色の細粒砂や黒褐色の粗粒砂などが水平に堆積する。掘形底部にはにぶい黄褐色のシルト質中粒砂が堆積する。柱穴の埋土は暗灰黄色の中粒砂、にぶい黄褐色の極細粒砂である。柱痕は南端から２基目の柱穴でのみ確認できた。柱痕は直径0.2mの円形を呈し、埋土は黒褐色のシルト混じる極細粒砂である。

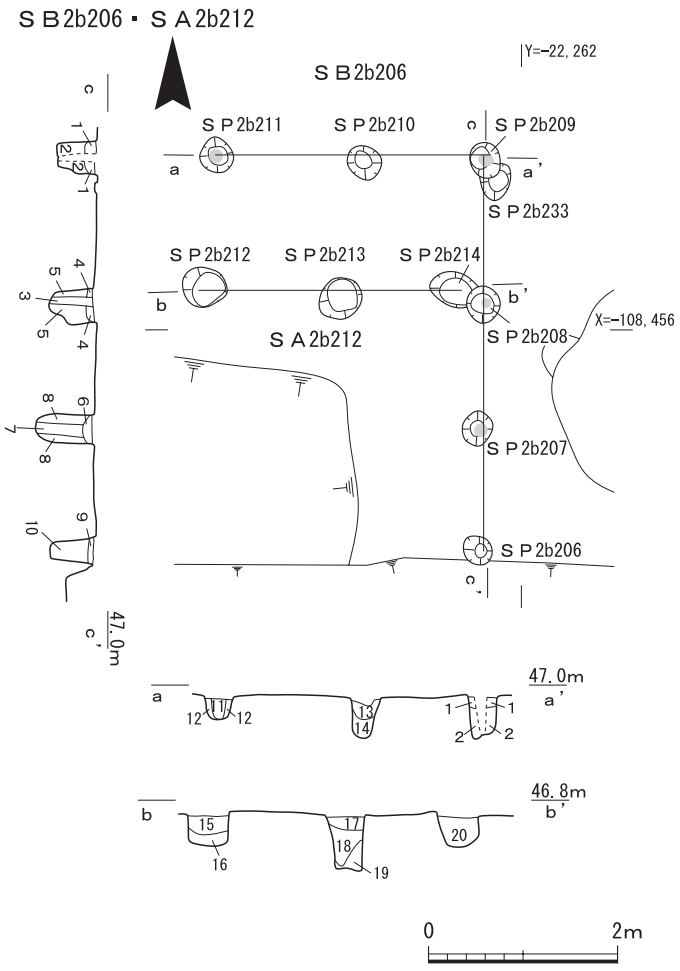
柱穴列ＳＡ2b212（第50・58図）　調査地の南東（10－Ⅰ区）で検出した柱穴列である。東西方向の柱穴列で、東西２間（2.6m）分を検出した。東端に位置するＳＰ2b213はＳＢ2b206のＳＰ2b208によって東側の一部を削平される。柱間距離は、ＳＰ2b212・213間で1.4m、ＳＰ2b213・214間で1.2mを測る。主軸はほぼ真東を向く。ＳＰ2b212・213の掘形の平面は円形で、規模は、ＳＰ2b212が直径0.44m、深さ0.36m、ＳＰ2b213が直径0.44m、深さ0.6mを測る。ＳＰ2b214の掘形の平面は楕円形を呈し、規模は長軸0.4m以上、短軸0.36m、深さ0.4mを測る。

柱穴列ＳＡ2b485（第50・59図）　調査地の南東（13・14－Ｈ・Ⅰ区）で検出した柱穴列である。

ＳＡ2b570の南東で、堀Ｂの西側に位置する。南北１間(3.0m)以上、東西１間(3.6m)以上を測る。各柱穴の掘形の平面は円形を呈し、規模は直径0.36～0.4m、深さ0.2～0.3mを測る。掘形底部には、0.1～0.3m大の石が面を上に向けて置かれる。

柱穴列ＳＡ2b570(第50・59図)　調査地の南東(13－Ｈ～Ｊ区)で検出した東西方向の柱穴列である。検出長は４間(4.7m)以上を測る。柱間距離は、ＳＰ2b619・570・576間は1.0m、ＳＰ2b576・586間は2.7mを測る。柱穴の掘形の平面は円形を呈し、直径0.4～0.48m、深さ0.28～0.5mを測る。ＳＰ2b576・586間にはＳＰ2b196が存在するが、ＳＰ2b576との柱間距離は0.5mと短く、掘形規模も直径0.36、深さ0.19mで他と比較して小さい。各柱穴の掘形埋土は、黒褐色や暗褐色のシルト混じる極細粒砂や極細粒砂で、柱痕は確認できなかった。ＳＰ2b570以外は掘形底部に0.2m大の石が平らな面を上に向けた状態で出土した。礎板石と考えられる。

柱穴列ＳＡ2b640(第50・61図)　調査地南側中央よりやや東寄り(12－Ｈ～Ｋ区)で検出した柱穴列である。１ｃ・２ｂ地区にまたがる。東西方向の布掘り掘形の柱穴列で、塀跡と考えられる。掘形の規模は幅0.6～0.8m、深さ0.3mで、検出長は12.6mを測る。柱穴は13基を確認した。柱穴は掘形底部から0.2～0.5mを掘り下げる。柱間距離は1.0～1.2mで、主軸方向はほぼ真東を向



1．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂（シルト混じる）
2．黒褐色〈10YR 3/2〉土
(シルト質、径0.5～1cmの石を含む)
3．黒褐色〈10YR 3/2〉と褐色〈10YR 4/6〉シルト
4．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂
(シルト質、径0.5～1cmの石を含む)
5．暗褐色〈10YR 3/4〉極細粒砂
(シルト質、径0.5～1cmの石を含む)
6．褐色〈10YR 4/6〉粘質土（シルト混じる）
7．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉極細粒砂
(シルト混じる)
8．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂（シルト混じる）
9．暗褐色〈10YR 3/3〉土
(シルト混じる、径0.5cm前後の石を含む)
10．暗褐色〈10YR 3/4〉細礫
(シルト質、径0.5～1cmの石を含む)
11．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂（シルト混じる）
12．黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂
(シルト混じる、径0.5～1cmの石を含む)
13．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂（シルト混じる）
14．黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂（シルト混じる）
15．にぶい黄橙色〈10YR 6/3〉極細粒砂
(シルト混じる、径0.3cm前後の石を含む)
16．灰黄褐色〈10YR 4/2〉極細粒砂
(シルト混じる、径0.5cm前後の石を含む)
17．灰黄褐色〈10YR 5/2〉極細粒砂
(径0.5cm前後の石を含む)
18．灰黄褐色〈10YR 4/2〉極細粒砂（シルト混じる）
19．明褐色〈7.5YR 5/6〉極細粒砂（シルト混じる）
20．灰黄褐色〈10YR 5/2〉極細粒砂
(径1～3cmの石を含む)

第58図　第３面遺構実測図(８)

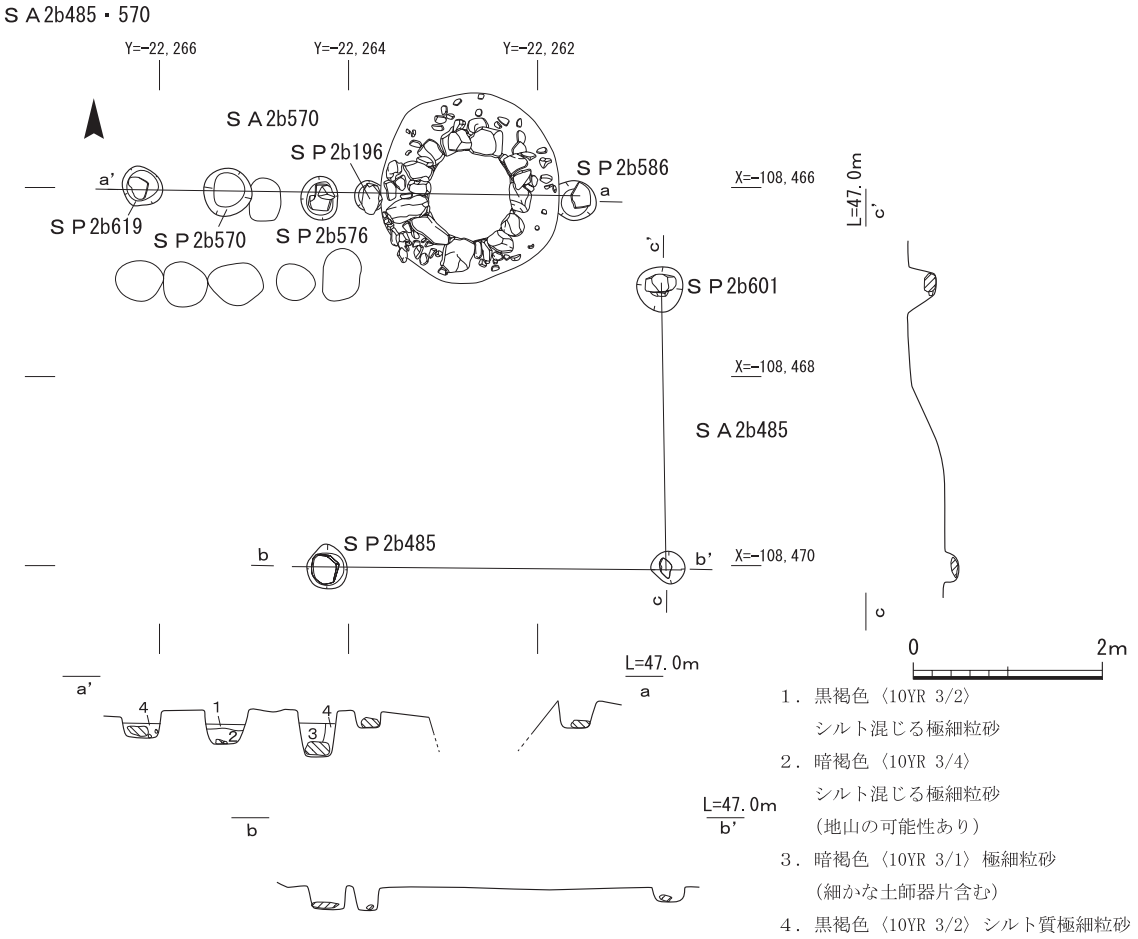
く。柱穴の埋土は黒褐色や暗褐色の極細粒砂、細粒砂である。ＳＰ2b643で柱痕を検出した。柱痕は直径0.1ｍの円形で、埋土は黒褐色の極細粒砂である。ＳＰ2b644・641の底部付近から0.1ｍ大の石が出土しており、礎板石と考えられる。

（４）柱穴・ピット

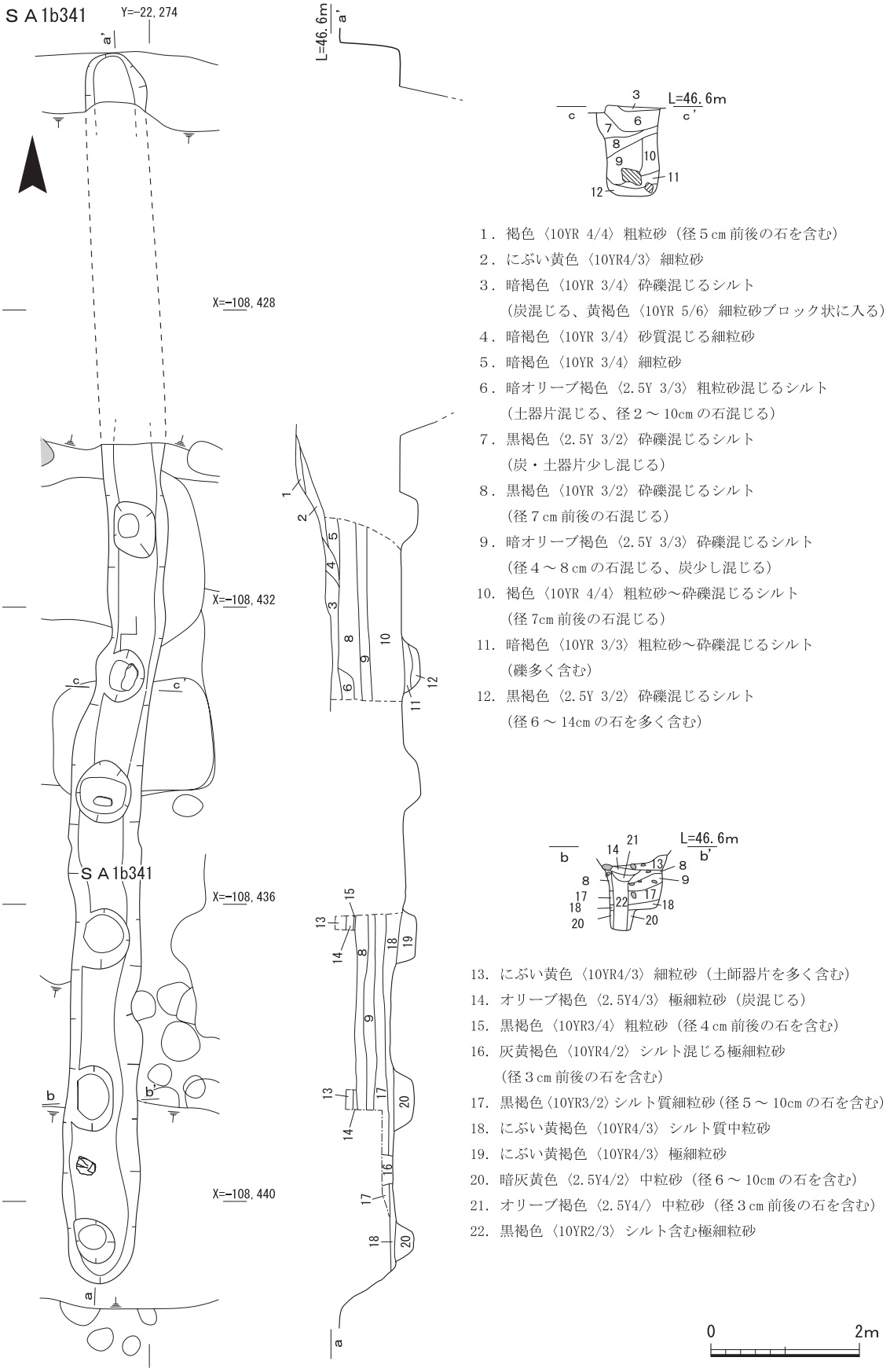
柱穴ＳＰ1c35（第49図）　調査地の南側（12－Ｏ区）で検出した。第２面で検出した南北土坑群の東西列の間に位置する。掘形の東側は後世の攪乱によって削平される。掘形の平面は円形を呈するとみられ、その規模は直径0.4ｍ、深さ0.35ｍを測る。埋土は上層が黒褐色のシルト質極細粒砂、下層がオリーブ黒色のシルト質中粒砂である。掘形底部の北側を直径0.2ｍの円形に0.05ｍ掘り下げる。その中から、土師器皿２枚が出土した。１枚は正位置で据えられ、もう１枚はそれに被さるように裏返しで置かれる。内容物は確認できなかったが、地鎮祭祀に伴うものと考えられる。

柱穴ＳＰ2a396（第50図）　調査区の南西（８－Ｉ区）で確認した。掘形は直径約0.6ｍを測る。掘形の平面はやや歪な隅丸方形を呈する。掘形中央で直径約0.1ｍの柱痕を検出した。掘形埋土は黒褐色細粒砂である。柱痕は直径0.1ｍの石を含む灰黄色粗粒砂である。

柱穴ＳＰ2a423（第50図）　調査区の中央付近（６－Ｈ区）で検出した。掘形は直径0.4ｍを測る。掘形の平面は隅丸方形を呈する。掘形中央より西で礎石と思われる約0.2ｍの石を検出した。掘形埋土は中粒砂が混じる黒褐色細粒砂で径0.3ｍの石・炭化物・焼土が混じる。



第59図　第３面遺構実測図（９）

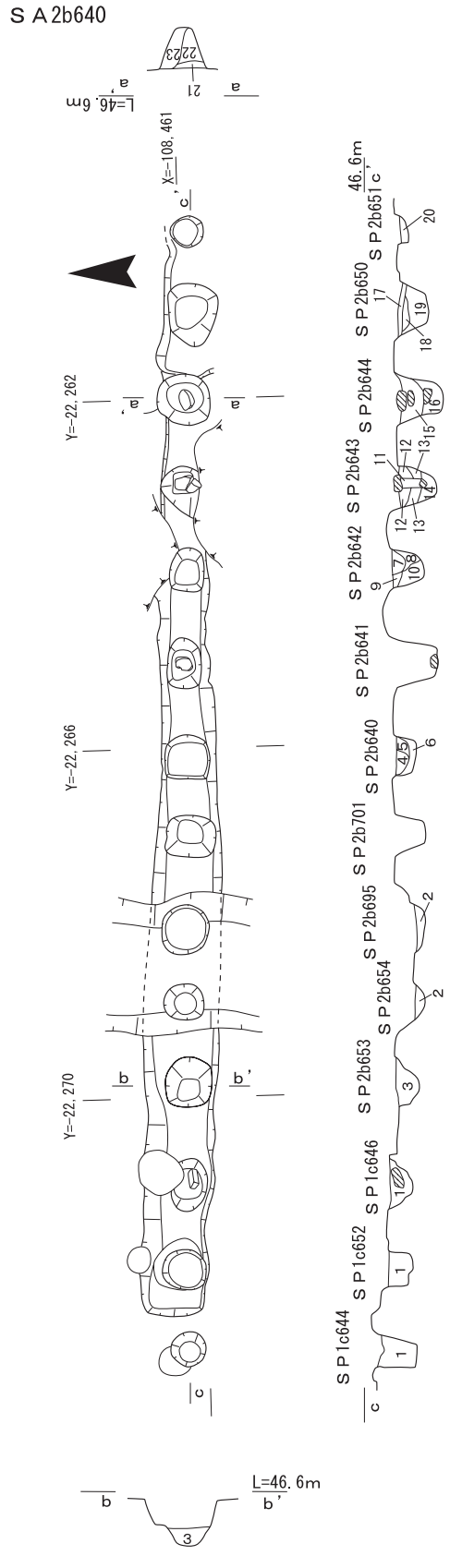


1．褐色〈10YR 4/4〉粗粒砂（径５cm 前後の石を含む）
2．にぶい黄色〈10YR4/3〉細粒砂
3．暗褐色〈10YR 3/4〉砕礫混じるシルト
（炭混じる、黄褐色〈10YR 5/6〉細粒砂ブロック状に入る）
4．暗褐色〈10YR 3/4〉砂質混じる細粒砂
5．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂
6．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉粗粒砂混じるシルト
（土器片混じる、径２～ 10cm の石混じる）
7．黒褐色〈2.5Y 3/2〉砕礫混じるシルト
（炭・土器片少し混じる）
8．黒褐色〈10YR 3/2〉砕礫混じるシルト
（径７cm 前後の石混じる）
9．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉砕礫混じるシルト
（径４～８cm の石混じる、炭少し混じる）
10．褐色〈10YR 4/4〉粗粒砂～砕礫混じるシルト
（径 7cm 前後の石混じる）
11．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂～砕礫混じるシルト
（礫多く含む）
12．黒褐色〈2.5Y 3/2〉砕礫混じるシルト
（径６～ 14cm の石を多く含む）

13．にぶい黄色〈10YR4/3〉細粒砂（土師器片を多く含む）
14．オリーブ褐色〈2.5Y4/3〉極細粒砂（炭混じる）
15．黒褐色〈10YR3/4〉粗粒砂（径４cm 前後の石を含む）
16．灰黄褐色〈10YR4/2〉シルト混じる極細粒砂
（径３cm 前後の石を含む）
17．黒褐色〈10YR3/2〉シルト質細粒砂（径５～ 10cm の石を含む）
18．にぶい黄褐色〈10YR4/3〉シルト質中粒砂
19．にぶい黄褐色〈10YR4/3〉極細粒砂
20．暗灰黄色〈2.5Y4/2〉中粒砂（径６～ 10cm の石を含む）
21．オリーブ褐色〈2.5Y4/〉中粒砂（径３cm 前後の石を含む）
22．黒褐色〈10YR2/3〉シルト含む極細粒砂

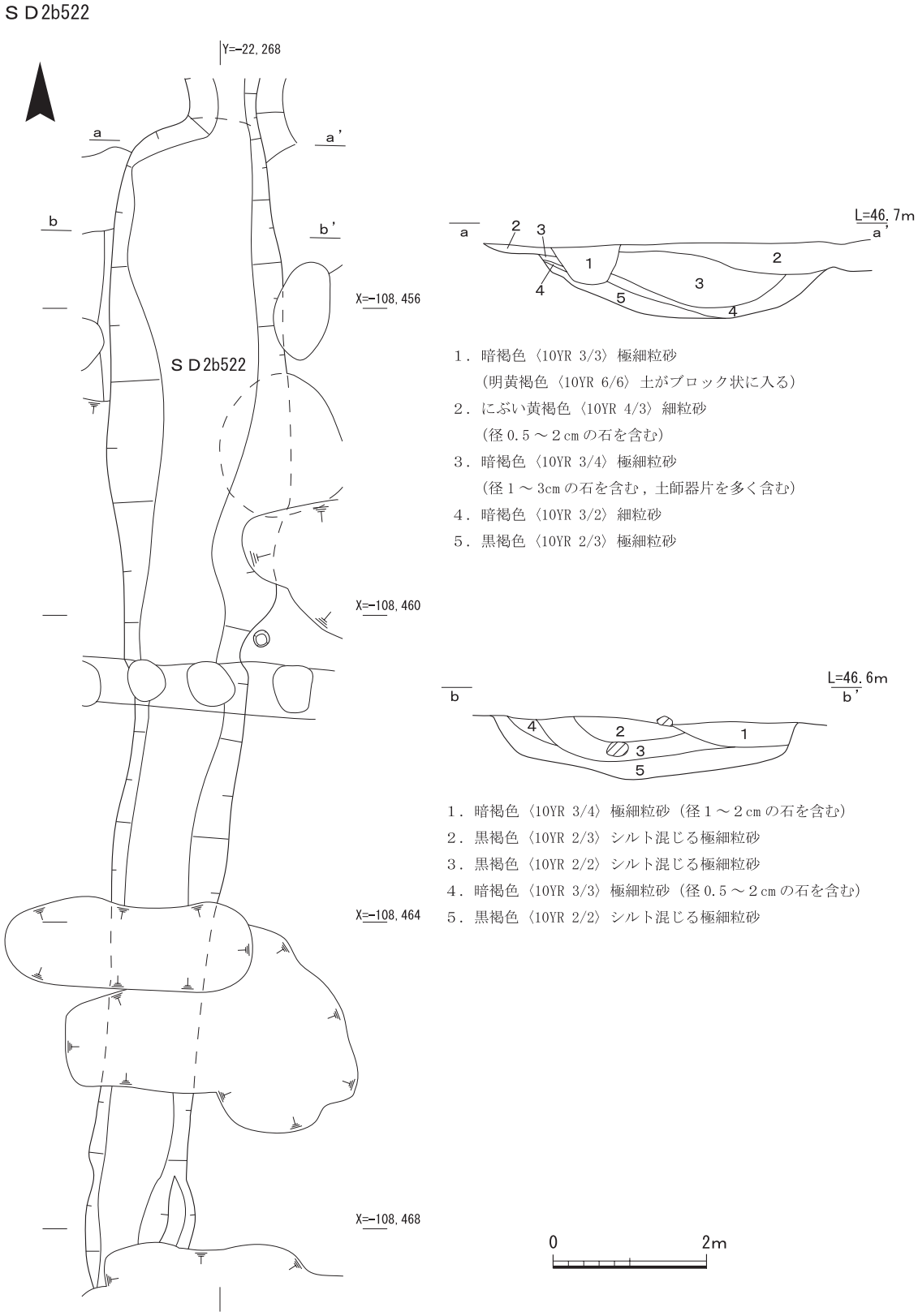
0　2m

第60図　第３面遺構実測図(10)



1．暗灰黄色〈2.5Y 4/2〉シルト質細粒砂
2．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質極細粒砂
（径３cm 前後の石を含む）
3．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂混じるシルト含む細粒砂
4．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト含む細粒砂（土師器片含む）
5．暗褐色〈10YR 2/3〉シルト含む細粒砂
（径３～５cm の石を含む）
6．黒褐色〈10YR 2/2〉シルト質細粒砂
7．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
（径１～３cm の石を少し含む、土師器片含む）
8．黒褐色〈7.5YR 3/2〉シルト含む細粒砂
9．暗褐色〈10YR 3/4〉シルト含む細粒砂（土師器片含む）
10．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト含む細粒砂（土師器片含む）
11．黒褐色〈10YR 2/2〉シルト混じる極細粒砂
（径１cm 前後の石を含む）
12．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
（径２cm 前後の石と土師器片を含む）
13．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径４cm 前後の石と土師器片・炭を含む）
14．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径１cm 前後の石と土師器片を含む）
15．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト含む細粒砂
（径 18 ～ 25cm の石を含む）
16．黒褐色〈10YR 2/3〉シルト含む細粒砂
（径 10 ～ 17cm の石を含む）
17．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト混じる極細粒砂
（径１～５cm の石を含む）
18．にぶい黄褐色〈10YR 5/4〉シルト質細粒砂
19．黒褐色〈10YR 2/3〉シルト混じる極細粒砂
（径 13 ～ 15cm の石を含む）
20．黒褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂（径５cm 前後の石を含む）
21．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂混じる極細粒砂
22．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉細粒砂
（黒褐色〈10YR 3/2〉土が斑に入る）
23．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉細粒砂

第61図　第３面遺構実測図(11)



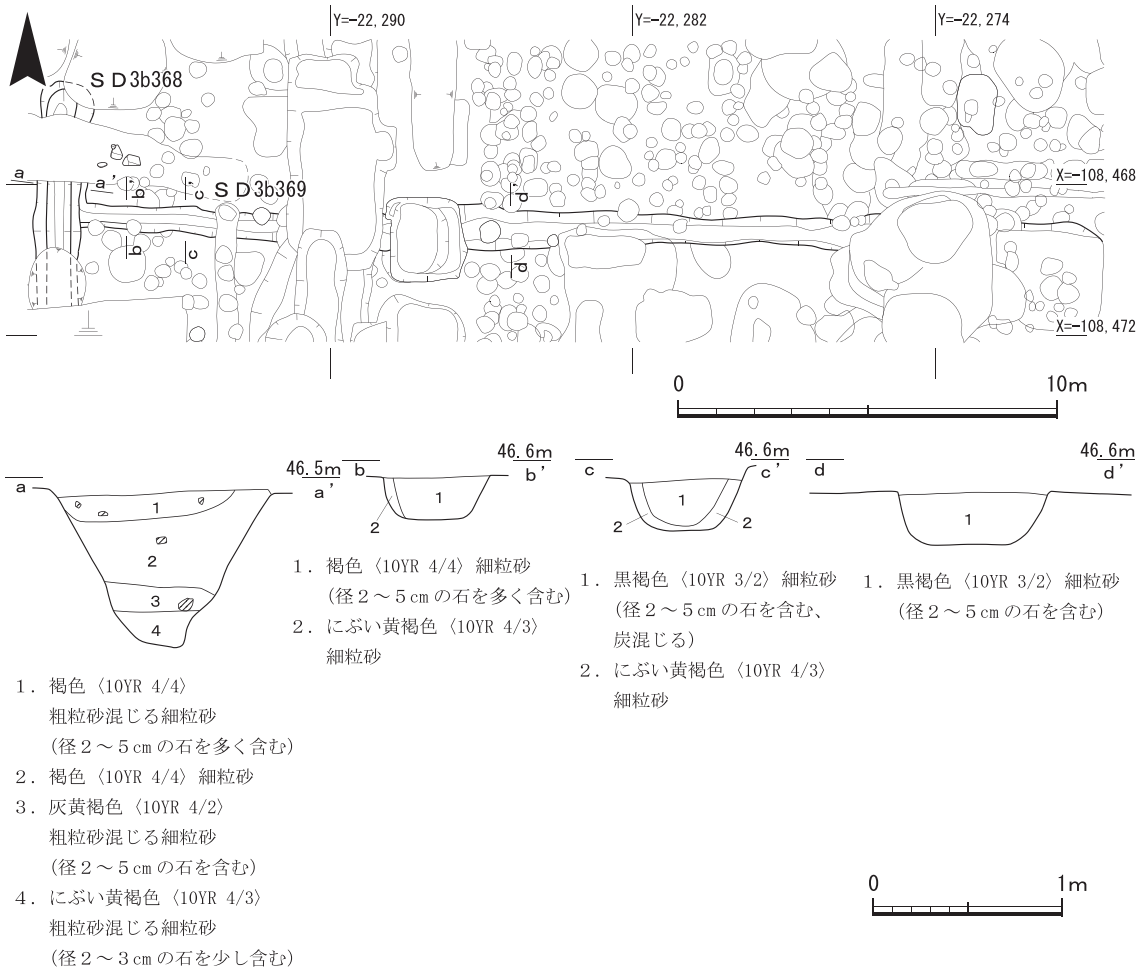
第62図　第３面遺構実測図(12)

（５）溝

溝ＳＤ2b522（第50・62図）　調査地の南側中央よりやや東寄り（10～14－Ｊ区）で検出した南北方向の溝である。北側でＳＤ2a481を削平する。複数の土坑と重複関係にあり、輪郭は不明瞭である。規模は、幅0.7～1.1m、深さ0.3mで、検出長は7.3mを測る。溝の断面は「Ｕ」字形で、埋土は黒褐色や暗褐色の極細粒砂･黒褐色のシルト混じる極細粒砂である。遺物は、土師器の他、「寛平大寶」が出土した。

溝ＳＤ3b368（第49・63図）　調査地の南西（13・14－Ｑ区）で検出した南北溝である。ＳＤ3b369を削平して掘られる。南側は調査地外へと延びる。規模は幅1.1～1.4m、深さ0.7mで、検出長は7.0mを測る。主軸方向は真北を向く。溝は底部が細くなり、断面は「Ｖ」字形を呈する。埋土は下層に灰黄褐色やにぶい黄褐色の細粒砂が堆積し、上層には褐色の細粒砂が堆積する。

溝ＳＤ3b369（第49・63図）　調査地の南側（14－Ｋ～Ｑ区）で検出した溝である。東西方向に直線的に伸び、ＳＤ3b368の手前で北側に折れる。南北方向に延びる範囲は大部分をＳＤ3b368によって削平され、東肩部のみを検出した。溝の両端は確認できなかった。規模は、幅0.6～1.2m、深さ0.2～0.3mで、検出長は南北方向で1.0m、東西方向で28.0mを測る。東西方向の主軸はほぼ真東を向く。溝の底部は平坦で、断面逆台形を呈する。埋土は褐色や黒褐色の細粒砂である。



第63図　第３面遺構実測図（13）

（6）井戸

井戸ＳＥ1b211（第50・64図）　調査地の中央（9・10－Ｋ・Ｌ区）で検出した石組井戸である。掘形の東側を上層遺構によって一部削平される。掘形の平面は円形を呈し、規模は直径2.2m、深さ2.4mを測る。検出面から約0.6mで石組みを確認した。石組みは0.1～0.4m大の自然石を円形に組み上げ、内径1.1m、深さ1.8mを測る。石組み内には褐色や黒褐色のシルト混じる粗粒砂やシルト混じる中粒砂が堆積する。

井戸ＳＥ1b219（第49・65図）　調査地の中央付近（８－Ｌ区）で検出した石組井戸である。第２面で検出したＳＸ1b391の東側で検出した。掘形の平面は円形を呈し、規模は直径2.3m、深さは2.1mを測る。掘形の上層には18世紀以降の桟瓦を含む瓦が堆積しており、石組みは掘形底部に一部残存していた。石組みは0.2～0.3m大の自然石を円形に組み上げ、内径1.0m、深さは0.8mを測る。石組み内の底部には暗褐色の礫層が堆積する。

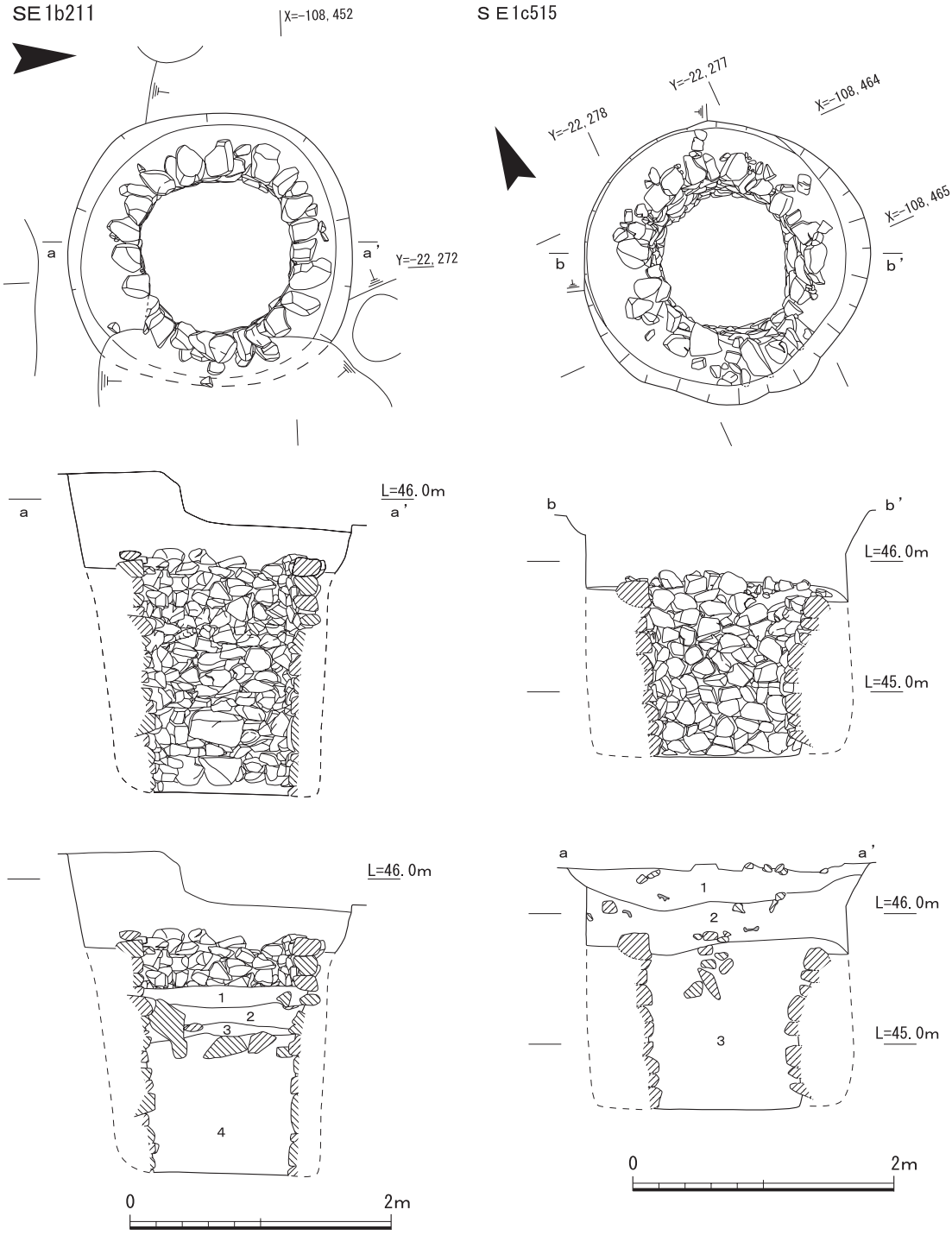
井戸ＳＥ1c515（第49・64図）　調査地の南側中央付近（12・13－Ｌ・Ｍ区）で検出した石組井戸である。ＳＤ3b369の北側に位置する。掘形の平面は円形を呈し、規模は直径2.1m、深さ2.0mを測る。石組みは円形で、0.1～0.2mの自然石を積み上げる。東側の石組みは中央付近がやや膨らむ。内径は1.0m、深さ1.4mを測る。石組み内の埋土は黒褐色の極細砂で、底部付近はシルト質が強くなる。掘形上層には黒褐色や暗褐色の極細砂が堆積する。

井戸ＳＥ2b476　（第50・65図）　調査地の南東（14・15－Ｇ・Ｈ区）で検出した石組井戸である。堀Ｂの南端付近に位置し、上層を堀Ｂによって大きく削平される。掘形の平面は円形を呈し、規模は直径2.3mを測る。石組みは0.2～0.4m大の石を円形に組み上げ、内径は1.8mを測る。石組みの南東部は崩れており、確認できなかった。石組み内には0.2～0.5m大の石が大量に落ち込む。崩落した石組みとも考えられるが、石組みに使用される石より一回り大きいものが多く、井戸埋没時に廃棄されたとみられる。崩落する危険性があったため、深さ0.9mまでを掘削し、図化作業を行った。調査終了時に重機によって検出面より3.5mまで掘削を行い底部を確認した。その結果、石組み内には底部まで、0.5m大の石が充填されることが分かった。石組み上層の埋土は、暗褐色や黒褐色の極細粒砂である。

（7）集石遺構

集石遺構ＳＸ1a201（第49・66図）　調査地の北側（４－Ｌ区）で検出した集石遺構である。堀Ａの南側肩部に位置する。掘形の平面は東西に長い不定形を呈し、長軸1.46m、短軸0.6m、深さ0.06～0.14mを測る。埋土は、上層が褐灰色のシルト混じる細粒砂、下層が暗褐色のシルト混じる極細粒砂で、上層に0.06～0.12mの石を充填する。

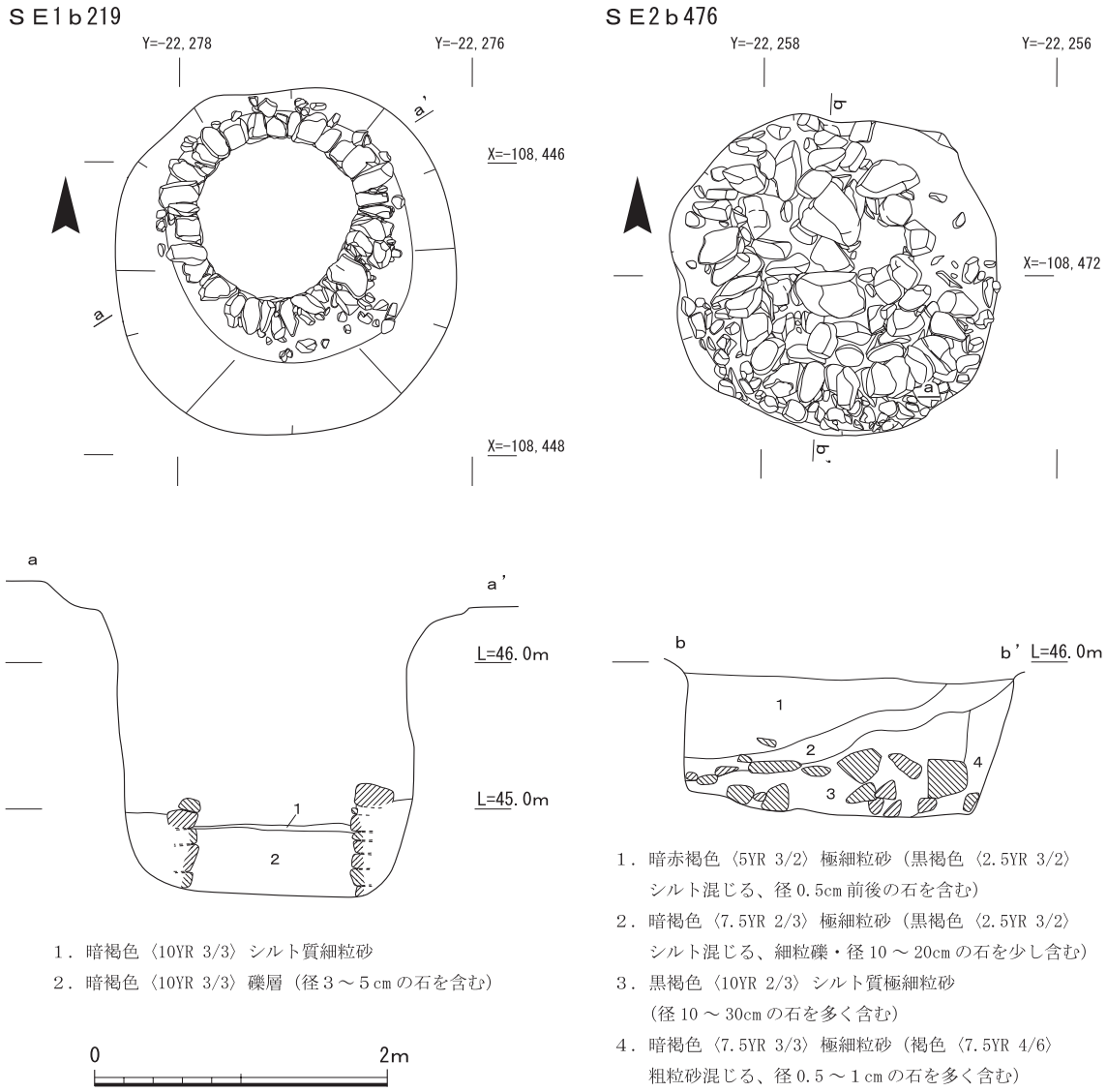
集石遺構ＳＸ2a254（第50・66図）　調査地の北東（５・６－Ｈ・Ｉ区）で検出した集石遺構である。堀Ｂの西側に位置する。堀Ｂによって東側を削平される。掘形の平面は東西に長い長方形で、東側がやや南に広がる。規模は南北2.2m、東西4.0m、深さは0.8mを測る。全面に0.04～0.2m大の石を充填する。石の大きさは下層が0.1～0.2m大で比較的大きなものが多く、上層は0.1m以下と小ぶりになる。埋土は下層が上層に比べて粒子が細かく上層が黒褐色のシルト含む細粒砂



1．暗褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂含むシルト
（径0.1～1㎝の石を少し含む））
2．褐色〈7.5YR 4/3〉シルト混じる粗粒砂
（径0.5～0.1㎝の石を含む）
3．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト含む粗粒砂
（径0.5～2㎝の石を多く含む）
4．暗褐色〈10YR 3/3〉中粒砂混じるシルト
（径0.5～5㎝の石を多く含む）

1．暗褐色〈10YR3/3〉極細粒砂
（径0.2㎝～10㎝の石を含む）
2．黒褐色〈10YR3/2〉極細粒砂
（径0.2㎝～12㎝の石・土師器皿・瓦含む）
3．黒褐色〈10YR2/2〉シルト質極細粒砂
（径0.2㎝～14㎝の石を含む）

第64図　第３面遺構実測図(14)



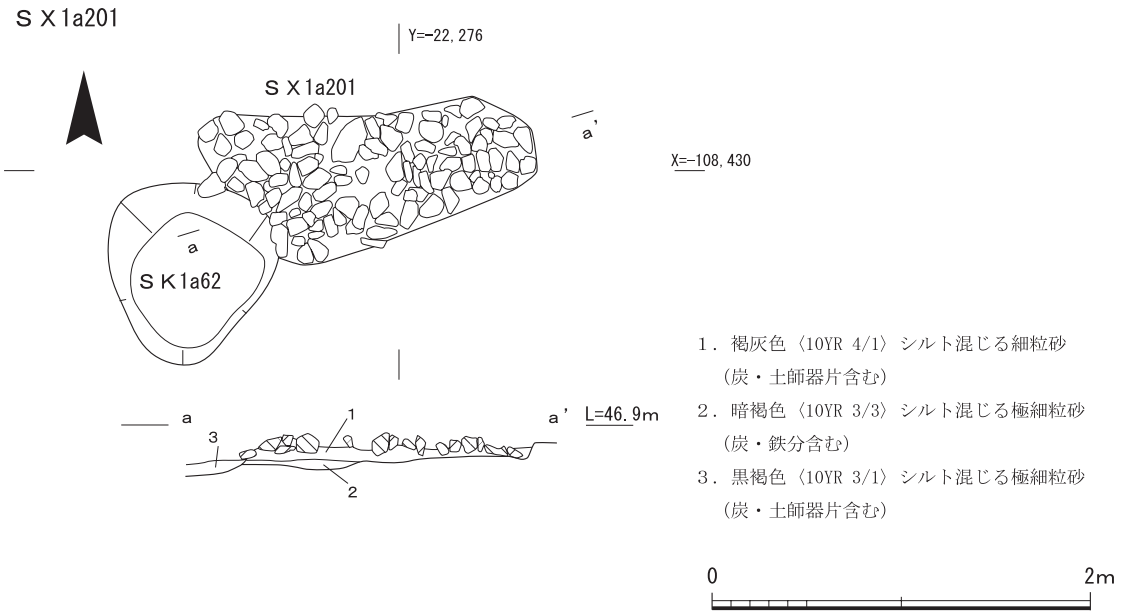
第65図　第３面遺構実測図(15)

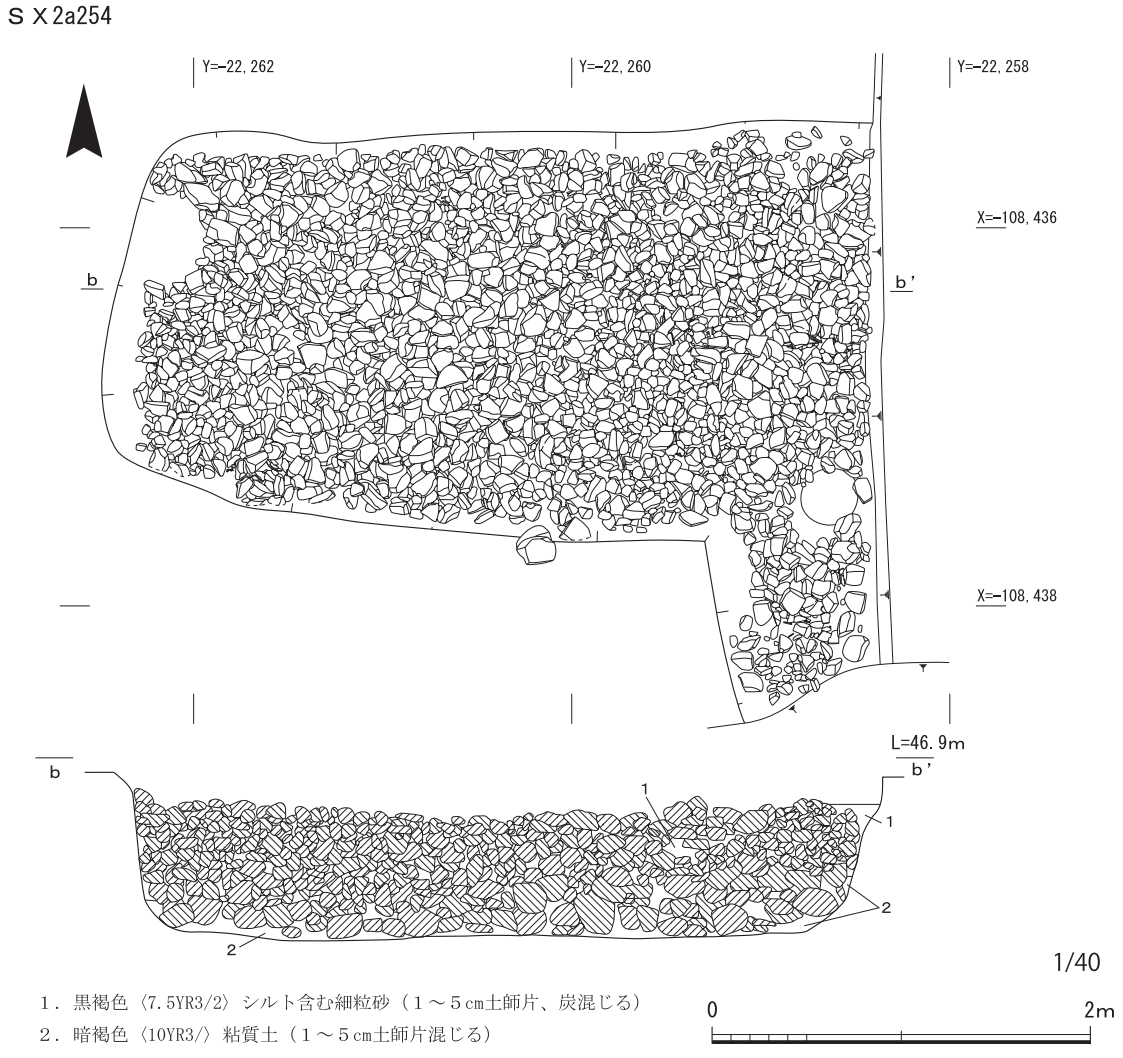
で、下層が暗褐色のシルト質細粒砂である。

集石遺構ＳＫ2a316（第50・67図）　調査地の東側中央付近（９－Ｉ・Ｊ区）で検出した。掘形の平面は長方形を呈し、規模は南北2.7～2.9m、東西5.0mを測る。埋土は上層から下層に向かって、粒子が徐々に細かくなり、上層がにぶい黄褐色の粗粒砂、中層が暗褐色や黒褐色・暗オリーブ褐色の中粒砂や粗粒砂混じるシルトなど、下層は灰黄褐色や黒褐色のシルト質細粒砂である。５～７層は0.1～0.28m大の石を多く含む。石は掘形の北東側に集中する。

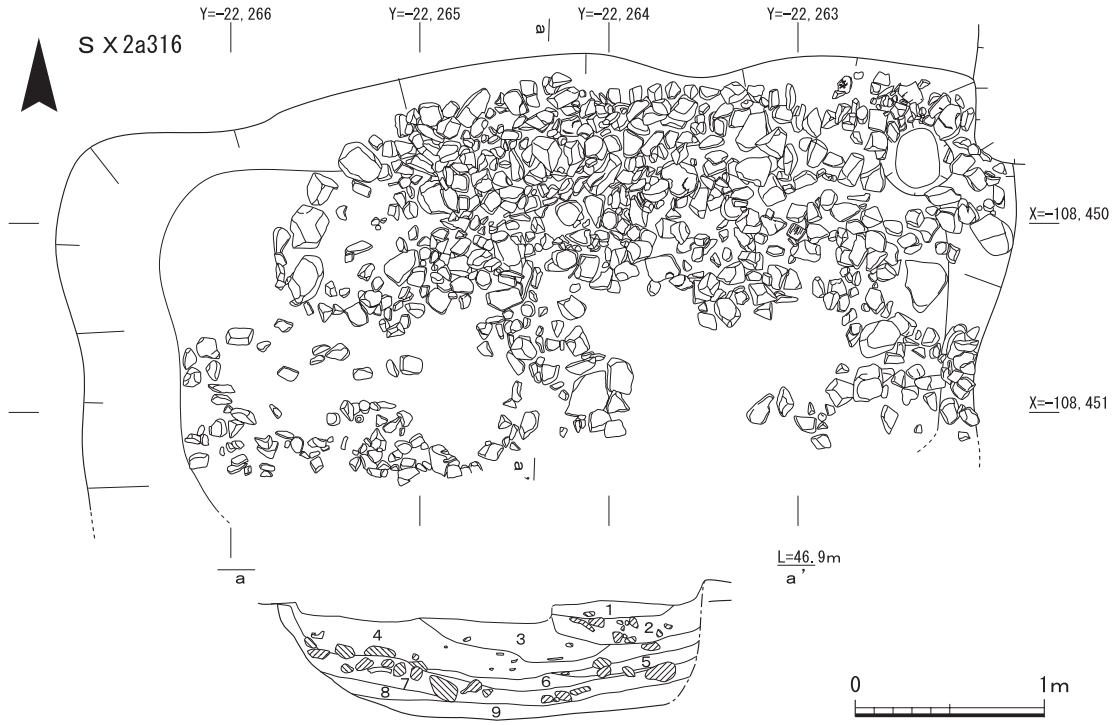
集石遺構ＳＸ2a472（第50・67図）　調査地の北東部（７－Ｇ区）で検出した集石遺構である。後述するＳＸ2a515の東側に位置する。掘形の平面は南北に長い楕円形を呈し、その規模は南北1.1m、東西0.6m、深さ0.7mを測る。掘形内には0.1～0.2m大の石を充填する。

集石遺構ＳＸ2a515（第50・67図）　調査地の北東部（７－Ｇ区）で検出した集石遺構である。堀Ｂの東側に位置する。掘形の平面は南北に長い隅丸の長方形を呈し、その規模は南北1.6m、東西1.0m、深さ0.7mを測る。全面に0.05～0.1m大の自然石が含まれる。埋土は黒褐色のシルト質極細粒砂と粘土である。

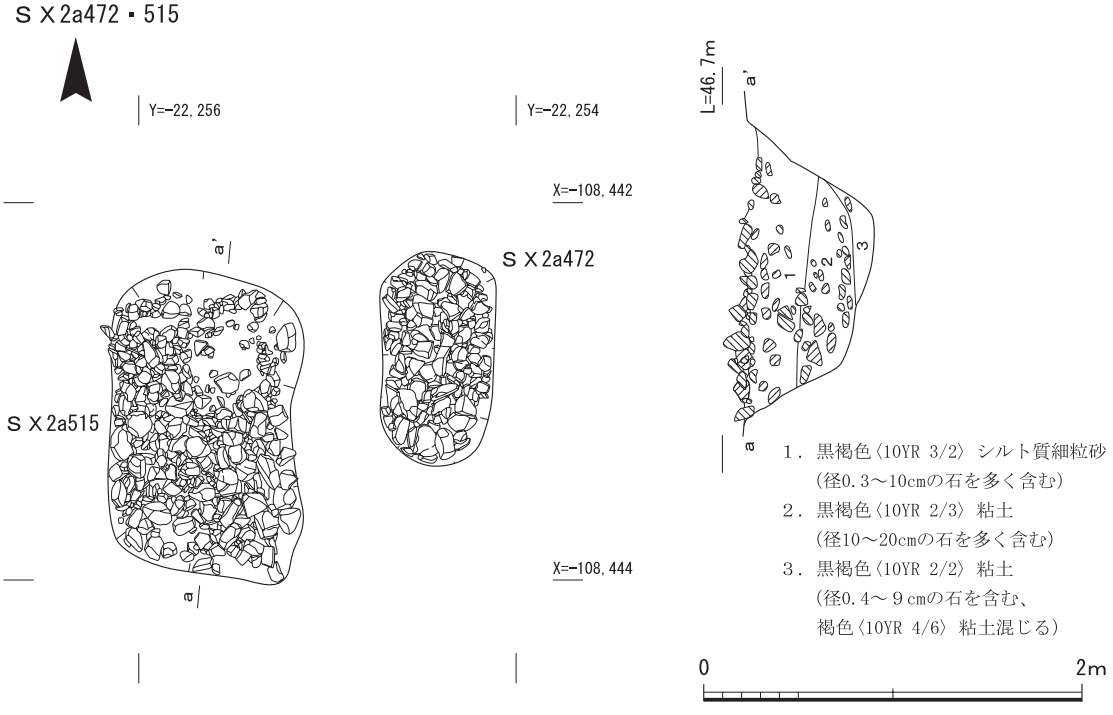




第66図　第３面遺構実測図(16)



1．にぶい黄褐色〈10YR 5/3〉粗粒砂（径５～ 10cm の石を多く含む）
2．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉粗粒砂（径 10 ～ 20cm の石を含む）
3．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（径１cm 前後の石・土師器細片混じる）
4．黒褐色〈2.5Y 3/2〉中粒砂混じる細粒砂（径１cm 前後の石・土師器片混じる）
5．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉粗粒砂混じるシルト（径 10cm 前後の石混じる）
6．黒褐色〈2.5Y 3/2〉中粒砂混じるシルト（径 0.5 ～１cm の石・土師器細片混じる）
7．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト質細粒砂（瓦・土師器片・炭混じる）
8．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質細粒砂（土師器細片少し混じる）に褐色〈10YR4/4〉シルト質細粒砂がブロック状に入る
9．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質細粒砂（土師器細片・炭混じる）ににぶい黄褐色〈10YR5/4〉シルト質細粒砂がブロック状に入る



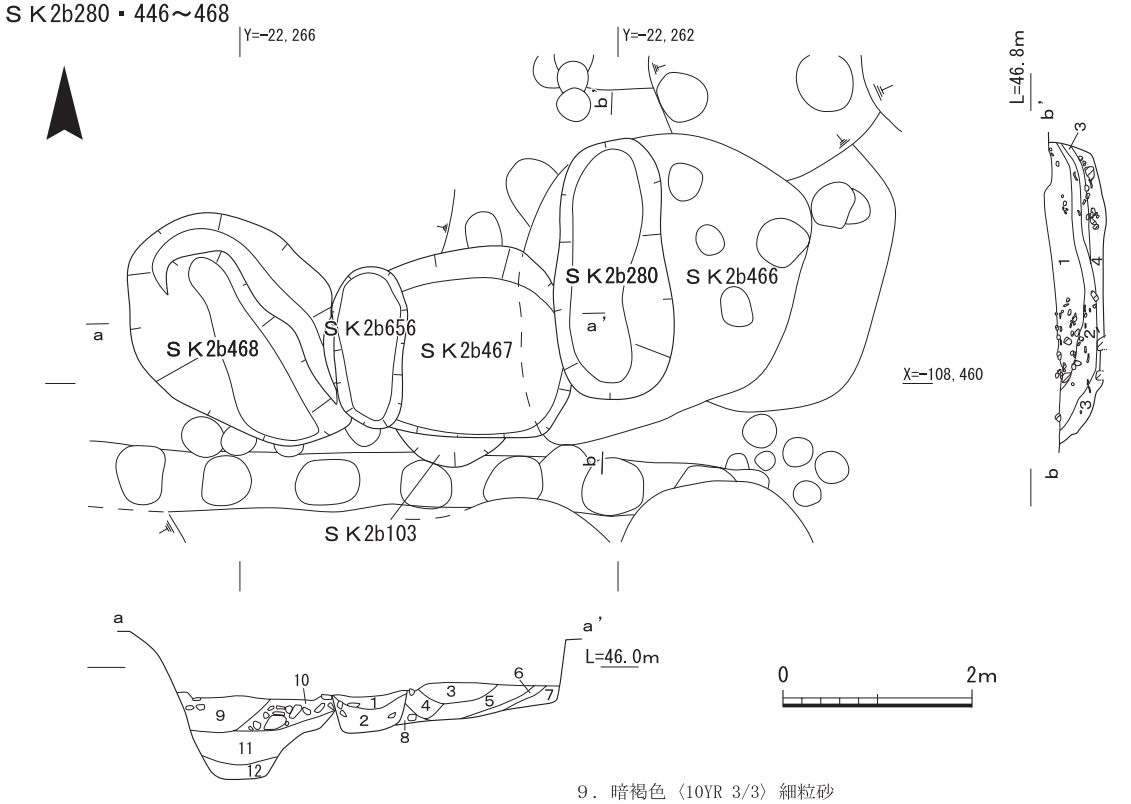
1．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質細粒砂
（径0.3～10cmの石を多く含む）
2．黒褐色〈10YR 2/3〉粘土
（径10～20cmの石を多く含む）
3．黒褐色〈10YR 2/2〉粘土
（径0.4～９cmの石を含む、
褐色〈10YR 4/6〉粘土混じる）

第67図　第３面遺構実測図(17)

（８）土坑

土坑ＳＫ1a62（第49・66図）　調査地の北側（４－Ｌ区）で検出した土坑である。ＳＸ1a201の西側に位置する。掘形の平面は不定形を呈し、長軸0.96m、短軸0.88m、深さ0.1mを測る。埋土は炭化物を含む黒褐色のシルト混じる極細粒砂である。

土坑ＳＫ1a125（第49・69図）　調査地の北側（５－M区）で検出した土坑である。掘形の平面は南北に長い長方形を呈し、規模は南北1.64m、東西1.06mを測る。埋土は、暗褐色・暗オリーブ褐色・黒褐色のシルト質極細粒砂や、細粒砂含むシルトである。土師器皿・瓦質土器などが出



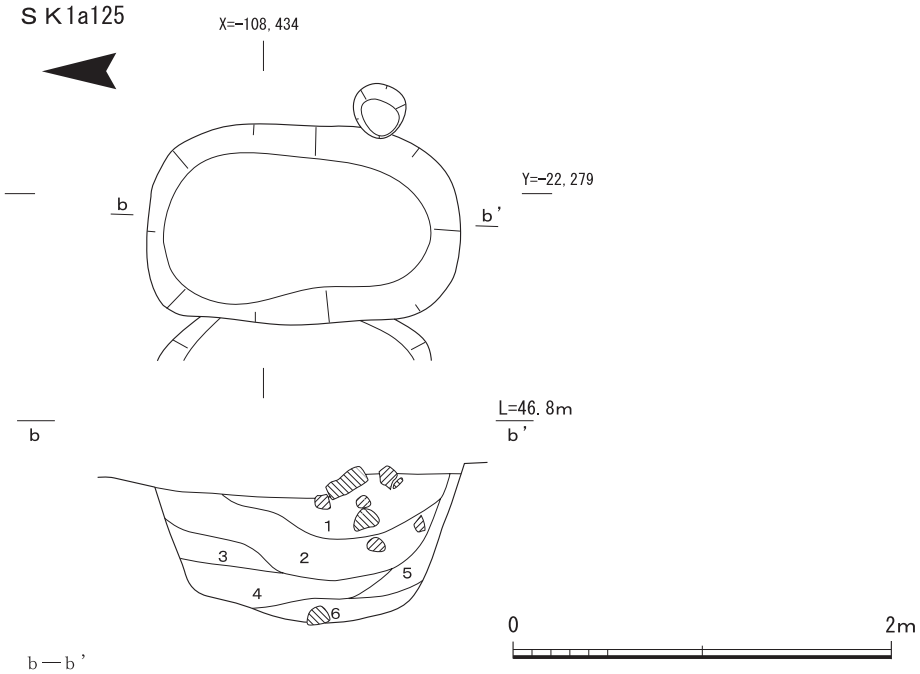
ａ－ａ’

1．黒褐色〈7.5YR 3/2〉細粒砂
（炭・土器片含む、径３～13cmの石混じる）
2．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉細粒砂
（炭・土器片含む、径５～10cmの石混じる）
3．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂
（炭・土器片含む、径３～10cmの石混じる）
4．にぶい黄褐色〈10YR 5/3〉細粒砂
（土器片含む、径４～９cmの石混じる）
5．灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂
（土器片多く含む、炭少し含む、径３～10cmの石混じる）
6．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂
（土器片含む、径１～3cmの石混じる）
7．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
（土器片・炭含む、径１～４cmの石混じる）
8．オリーブ褐色〈2.5Y 4/3〉細粒砂
（土器片含む、径４～11cmの石混じる）
9．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
（土器片・炭多く含む、径１～12cmの石混じる）
10．黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂
（瓦片含む、径10～30cmの石混じる）
11．暗褐色〈10YR 3/4〉極細粒砂
（土器片含む、径３～６cmの石混じる）
12．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂
〈土器片・炭少量混じる、径９cm前後の石混じる〉

ｂ－ｂ’

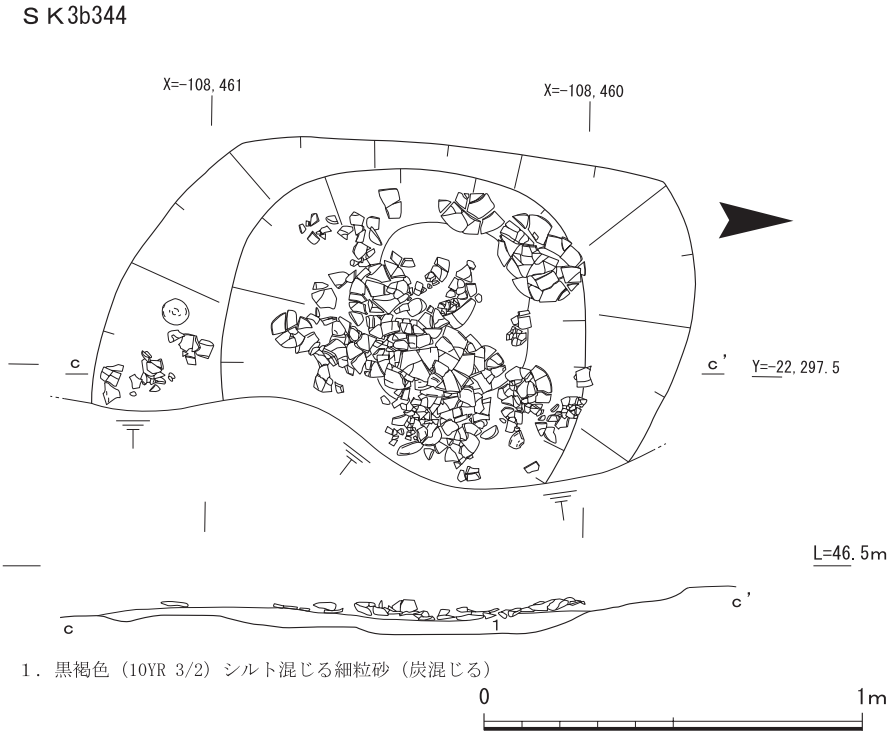
1．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉極細粒砂
（径0.5～５cmの石を多く含む）
2．暗褐色〈10YR 3/4〉シルト質極細粒砂（土師皿片・炭混じる）
3．黒褐色〈10YR 3/4〉極細粒砂
（瓦片・土師皿片・焼土片少し混じる）
4．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質極細粒砂（径５～13cmの石含む、
土師皿片・焼土片（橙色〈5YR 6/6〉）少し混じる）
5．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉極細粒砂質シルト

第68図　第３面遺構実測図（18）



b－b'

1．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト質極細粒砂（土師器片多く含む）
2．暗褐色〈7.5YR 3/3〉シルト質極細粒砂（径0.5cmの石を多く含む）
3．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉シルト質極細粒砂
4．黒褐色〈10YR 2/3〉細粒砂含むシルト
5．暗褐色〈10YR 3/3〉礫含むシルト（炭多く含む）
6．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂含むシルト（径10～20cmの石を多く含む）



1．黒褐色（10YR 3/2）シルト混じる細粒砂（炭混じる）

第69図　第３面遺構実測図(19)

土した。14世紀後半の遺構とみられる。

土坑ＳＫ1c494（第49図）　調査地の南側中央付近（14－Ｌ区）で検出した土坑である。掘形の平面は歪んだ円形を呈し、規模は長軸0.55m、短軸0.47m、深さ0.15mを測る。埋土は黒褐色の細砂である。

土坑ＳＫ2b280（第50・68図）　調査地の南東（11・12－Ｈ・Ｉ区）で検出した土坑である。ＳＫ2b467を削平して掘り込まれる。掘形の平面は南北に長い楕円形を呈し、その規模は南北2.8m、東西1.2m、深さ0.3mを測る。埋土は暗オリーブ褐色の極細粒砂である。遺物は土師器皿が出土した。

土坑ＳＫ2b397（第50図）　調査地の南東側（13－Ｇ区）で検出した土坑である。堀Ｂの東側に位置する。北側は別の遺構によって削平される。掘形の平面は円形を呈するとみられ、規模は長軸0.9m以上、短軸0.9m、深さ0.12mを測る。埋土は暗灰黄色や灰黄褐色のシルト含む極細粒砂である。完形品を含む土師器皿が出土した。

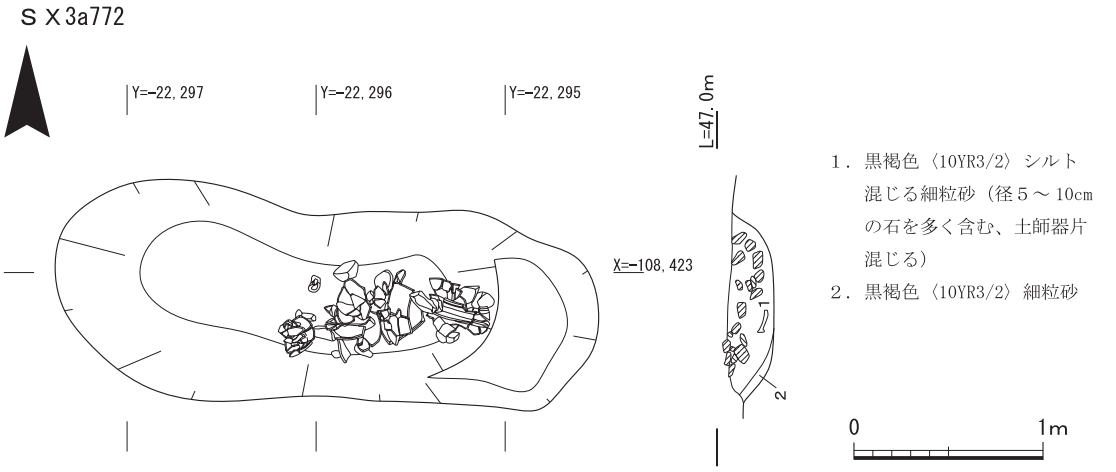
土坑ＳＫ2b467（第50・68図）　調査地の南東（11・12－Ｉ区）で検出した土坑である。ＳＫ2b280の西側に位置する。掘形の平面は東側が広がる楕円形を呈する。その規模は、南北2.0m、東西2.6mを測る。遺物は土師器皿が出土した。14世紀後半頃の遺構と考えられる。

土坑ＳＫ2b468（第50・68図）　調査地の南東（11・12－Ｉ・Ｊ区）で検出した土坑である。東端がＳＫ2b656によって削平される埋土は暗褐色の細粒砂と黒褐色の極細粒砂で、埋土中には0.01～0.3cm大の石が多く含まれる。

土坑ＳＫ2b499（第50図）　調査地の南東（11－Ｉ区）で検出した土坑である。掘形の南側をＳＫ2b280によって削平され、輪郭は不明瞭であった。検出した掘形の平面は不定形で、規模は南北2.2m、東西2.0mを測る。

土坑ＳＫ3a310（第49図）　調査地の北西隅（２－Ｔ区）で検出した土坑である。東西を上層遺構によって削平される。検出した掘形は南北0.7m、東西0.48m以上、深さ0.2mを測る。埋土は暗褐色の極細粒砂である。

土坑ＳＫ3a404（第49図）　調査地の北西（５－Ｑ・Ｒ区）で検出した土坑である。上層のＳＸ



第70図　第３面遺構実測図(20)

3a192の南側に位置する。検出した掘形規模は、南北1.04m、東西0.66m以上、深さ0.1mを測る。

土坑ＳＫ3a470（第49図）　調査地の南側中央付近（７・８－Ｑ区）で検出した土坑である。上層で検出した南北土坑群の西側に位置する。平面は方形を呈するとみられ、規模は南北1.7m、東西1.5m、深さ0.15mを測る。

土坑ＳＫ3a772（第49・70図）　調査地の北側西寄り（２－Ｑ区）で検出した土坑である。堀Ａの北側に位置する。掘形の平面は東西に長い楕円形を呈し、長軸2.9m、短軸1.0m、深さ0.25mを測る。土坑底部東側から、瓦質土器の羽釜が出土した。

土坑ＳＫ3b344（第49・69図）　調査地の南西（11・12－Ｑ区）で検出した土坑である。３ｂ地区の東側に位置する。東側を後世の攪乱によって削平される。掘形の平面は方形を呈するとみられ、その規模は南北1.5m、東西0.9m以上、深さ0.1mを測る。埋土は黒褐色の細粒砂である。上面から完形品を含む土師皿が大量に出土した。

（綾部侑真）

５）第４面の遺構

第４面はおよそ平安時代末～鎌倉時代（12世紀初頭～14世紀前葉）の遺構面である。柱穴･石敷･溝・土坑などを検出した。調査地の北側で検出した東西方向の溝は、鷹司小路に伴うものと考えられる。出土遺物は、土師器・須恵器・瓦器・緑釉陶器・灰釉陶器・陶磁器・瓦などである。

（１）柱穴列

柱穴列ＳＡ3a872（第71・74図）　調査地の北西端（２－Ｒ～Ｔ区）で検出した４間（8.8m）の東西方向の柱穴列である。柱間距離はＳＰ3a872・892間が2.5m、そのほかは2.1mを測る。各柱穴は上層遺構による削平を受け、平面は不明瞭なものが多いが円形ないし隅丸方形を呈するとみられる。規模は、直径0.6～0.7m、深さ0.3～0.5mを測る。埋土は黒褐色シルト質極細粒砂で、柱痕は確認できなかった。ＳＰ3a872は掘形底部に0.2m大の石が平らな面を上に向けて据えられており、礎板石の可能性が考えられる。

柱穴列ＳＡ3b582（第71・75図）　調査地の南西（12－Ｒ区）で検出した３間（2.9m）以上の東西方向の柱穴列である。柱間距離はＳＰ3b622・623間で0.9m、それ以外は1.0mを測る。柱穴の掘形の平面はＳＰ3b622が隅丸方形を呈し、ＳＰ3b582・583・623は歪んだ円形を呈する。規模は、ＳＰ3b622が１辺0.3m、そのほかは直径0.3～0.35mを測り、深さは0.1～0.3mを測る。埋土は1.0cm大の石を含む暗褐色の細粒砂である。

（２）柱穴

柱穴ＳＰ3a510（第71図）　調査地の北西（６－Ｓ区）で検出した柱穴である。掘形の平面は歪んだ隅丸方形を呈し、南北0.66m、東西0.48m、深さ0.4mを測る。埋土は黒褐色シルト質極細粒砂である。遺物は、土師器皿・白磁椀などが出土した。

柱穴ＳＰ3a674（第71図）　調査地の西側中央付近（９－Ｔ区）で検出した柱穴である。掘形の平面は楕円形を呈し、規模は長軸0.67m、短軸0.4m、深さ0.4mを測る。埋土は黒褐色の細粒砂

である。遺物は、土師器皿が出土した。

柱穴ＳＰ3a800（第71図）　調査地の西側中央付近（７－Ｓ区）で検出した柱穴である。掘形は平面円形を呈し、規模は直径0.3m、深さ0.4mを測る。遺物は土師皿・白磁椀が出土した。

柱穴ＳＰ3a908（第71図）　調査地の北側中央寄り（２－Ｏ区）で検出した柱穴である。掘形の平面は円形を呈し、規模は直径0.2m、深さ0.1mを測る。

（３）礫敷

礫敷ＳＸ3a806（第71・73図）　調査地の北西隅（１・２－Ｒ・Ｓ区）で検出した礫敷である。部分的に石が剝脱し、不定形に広がる。全体の範囲は南北3.1m、東西4.6mを測り、南側と東側は調査地外へと広がる。後述する東西溝ＳＤ3a822・868・890埋没後に敷設される。厚さ0.04mで0.01～0.03m大の石を密に敷き詰める。表面が固く締まることから、路面の可能性が考えられる。ＳＤ3a868・890間では礫敷の直下は、黒色のシルトが混じる極細粒砂の基盤層になる。

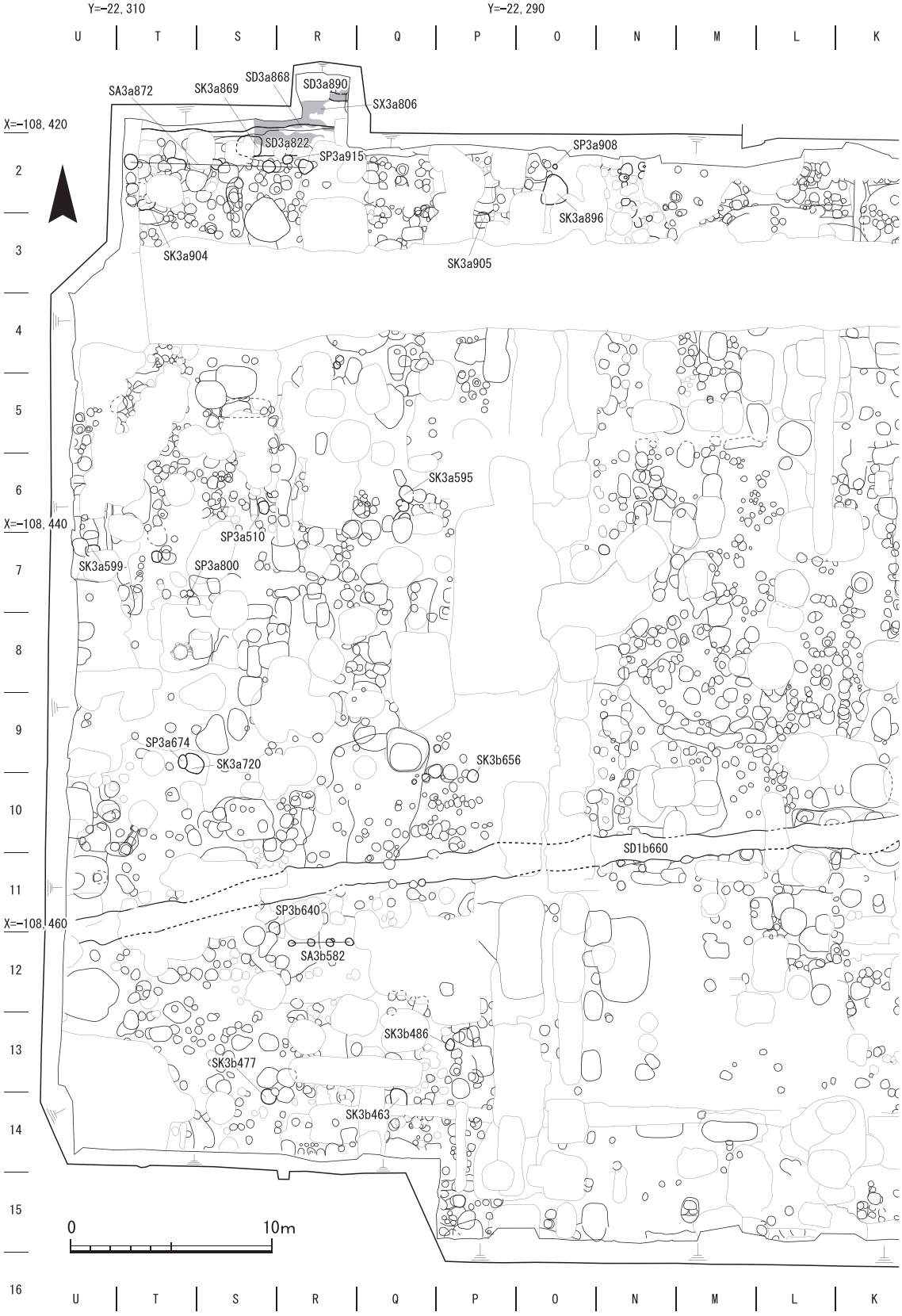
（４）溝

溝ＳＤ1b660（第71・72・76・77図）　調査地南側の地山直上（10～12－Ｄ～Ｕ区）で検出した。調査地の東端から南へやや弧を描きながら西へ延びる東西方向の溝である。調査地を横断しており、東西の両端はそれぞれ調査地外へと延びる。その規模は幅0.1～0.17m、深さ0.25m前後で、総検出長は70.5mを測る。溝の底は平坦で、断面は逆台形に近い形状を呈する。埋土は暗褐色のシルトが混じる極細粒砂で、全面にわたってほぼ均質な埋土である。遺物は出土しておらず、正確な遺構の時期は不明であるが、遺構の切り合い関係から、今回の調査で検出した遺構の中で最も古くなると考えられる。

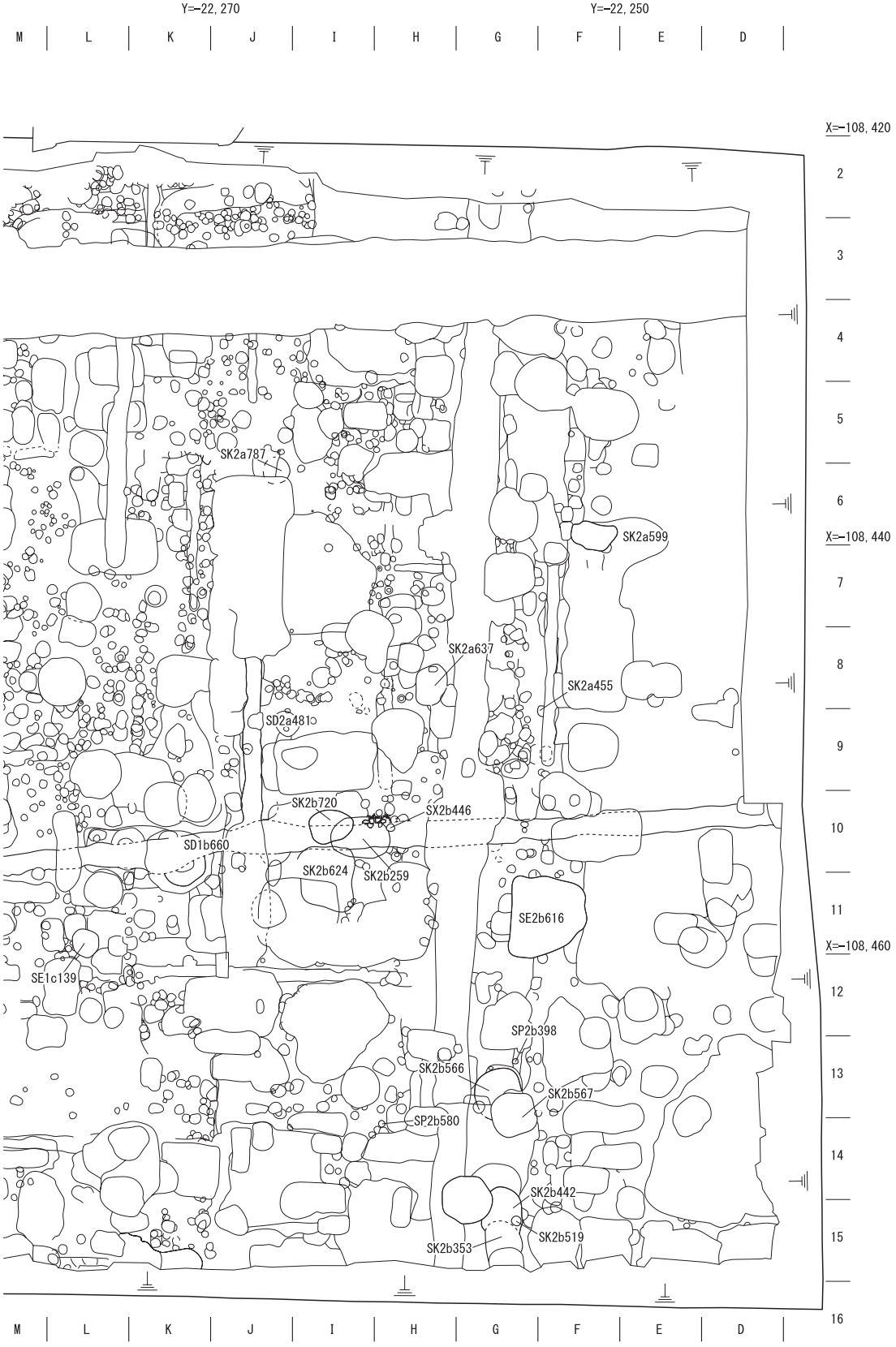
溝ＳＤ2a481（第72・78図）　調査地中央よりやや東側（８～10－Ｊ区）で検出した溝である。南北方向の溝で、北端を後世の攪乱、南端は第３面のＳＤ2b522によって削平される。規模は、幅0.8～1.3m、深さ0.4mで、検出長は8.8mを測る。主軸方向はほぼ真北を向く。埋土は黒褐色シルト質極細粒砂である。Ｘ＝－108,448～－108,452間では、埋土が大きく２層に分かれており、東側に位置する上層の埋土から多くの土師器皿が出土した。下層も同一の溝とみられ、一度掘り直されたと考えられる。出土した遺物は完形品を多く含み、一括で廃棄されたと考えられる。遺構時期は12世紀初頭頃と推定される。

溝ＳＤ3a822（第73・74図）　調査地の北西端（２－Ｒ・Ｓ区）で検出した東西方向の溝である。ＳＸ3a806の直下で検出した。上層遺構に削平され、南側肩部は不明瞭で、東西の両端は確認できなかった。３ａ地区の西壁でも確認しており、調査地外へと延びるとみられる。規模は、検出長6.0m、幅1.0～1.2m、深さ0.25～0.4mを測る。主軸は東に対して２°北に振る。埋土は灰黄褐色細粒砂や暗褐色細粒砂などである。ＳＫ3a869付近の北側肩部から、八稜鏡の破片が出土した。

溝ＳＤ3a868（第73・74図）　調査地の北西端（２－Ｒ・Ｓ区）で検出した東西方向の溝である。ＳＤ3a882と重複して検出した。北側肩部を検出したものの、南側肩部は確認できなかった。東西の両端は調査地外へと延びる。検出長は9.2m、幅1.5m以上、深さ0.1mを測る。埋土は黒褐色シルトで、遺構周囲の基盤層に近い。



第71図　第４面全体平面図（１）

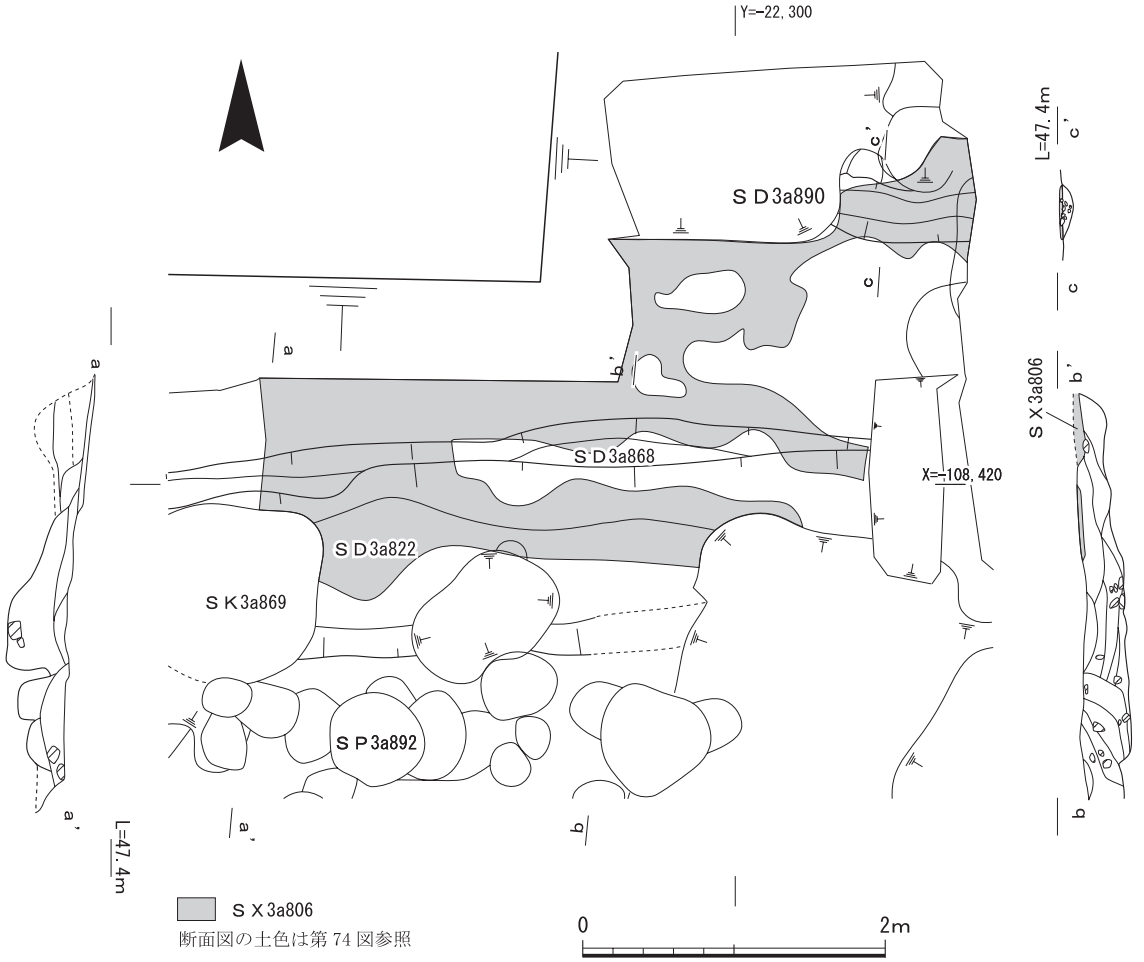


第72図　第４面全体平面図（２）

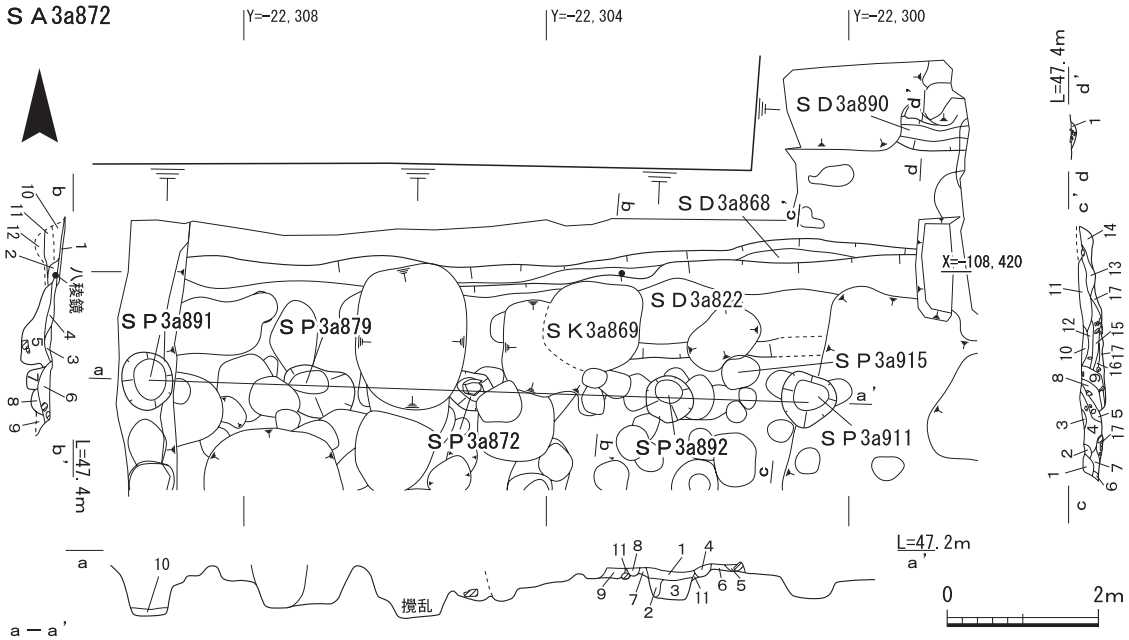
溝ＳＤ3a890（第73・74図）　調査地の北西端（１－Ｒ区）で検出した東西方向の溝である。ＳＤ3a868の北側3.0mに位置する。西側を攪乱によって削平され、東側は調査地外へ延びる。検出長は0.9m、幅0.4m、深さ0.1mを測る。埋土は黒褐色細粒砂で、0.02～0.05mの石を多く含む。埋土中の石は上層に多く堆積し、ＳＸ3a806を造成した際に埋められたと考えられる。南側のＳＤ3a822との芯々間距離は約2.0mを測る。

（５）井戸

井戸ＳＥ2b616（第72・79図）　調査地の南東（11－Ｆ・Ｇ区）で検出した素掘りの井戸である。掘形の平面は歪んだ方形を呈する。規模は南北2.4～4.0m、東西3.6m、深さは3.5mを測る。埋土は大きく３層に分かれる。第１層は第79図15層より上層で、灰黄褐色の極細粒砂（２層）・暗褐色の極細粒砂（５層）・黒褐色のシルトが混じる極細粒砂（13層）などがレンズ状に堆積する。第１層の下半には５～20cm大の石を多く含む。第２層は16～31層があたり、上層は黒褐色礫層や暗褐色のシルトが混じる極細粒砂などがレンズ状に堆積する。下層は不定方向に堆積し、上層と比較して、粒子が大きくなる。第３層は32層より下層が相当する。湧水のため断面図の作成は実施できなかったが、32層より底部までは５～10cm大の礫が堆積する。浄水のためと考えられる。井戸枠は確認されなかった。遺物は、土師器・須恵器・瓦器椀・輸入陶磁器・瓦などが出土した。遺構時期は12世紀前半と推定される。



第73図　第４面遺構実測図（１）



ａ－ａ’

1．黒褐色〈10Y 2/3〉極細粒砂（土が一部酸化する）
2．黒褐色〈10Y 2/3〉シルト質極細粒砂
（径１～２㎝の石を多く含む、土が一部酸化する）
3．黒褐色〈10Y 2/3〉シルト質極細粒砂
4．黒褐色〈2.5Y 3/2〉シルト質極細粒砂
5．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉極細粒砂
6．黒褐色〈10Y 3/2〉シルト質細粒砂
7．暗褐色〈10Y 3/4〉細粒砂
8．暗褐色〈10Y 3/3〉シルト質極細粒砂
9．黒褐色〈10Y 3/2〉極細粒砂
10．黒褐色〈10Y 2/3〉シルト質極細粒砂
11．褐色〈10Y 4/6〉シルト質極細粒砂

ｂ－ｂ’

1．暗褐色〈10YR 3/3〉礫層（径５㎝前後の石を含む）
2．黒褐色〈10YR 2/2〉シルト混じる細粒砂
（径５㎝前後の石を含む、溝ＳＤ868）
3．灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂
（土師器片・炭混じる、溝ＳＤ822埋土）
4．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（径５～８㎝の石を含む、
土師器片・炭少し混じる、溝ＳＤ822埋土）
5．灰黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂（径５～10㎝の石を含む、
土師器片・炭少し混じる、ＳＫ869埋土）
6．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂（径５～10㎝の石を含む、
土師器片・炭混じる）
7．黒褐色〈10YR 3/1〉シルト混じる細粒砂
（径１㎝前後の石を少し含む、土師器片混じる）
8．黒褐色〈10YR 3/1〉シルト混じる極細粒砂
（径５㎝前後の石を含む、土師器片・炭混じる）
9．灰黄褐色〈10YR 4/2〉極細粒砂
（径５㎝前後の石を含む、土師器片混じる）
10．黒色〈10YR 2/1〉シルト混じる極細粒砂
11．黒褐色〈10YR 2/2〉極細粒砂（径３～５㎝の石を含む）
12．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（径３～７㎝の石を多く含む）

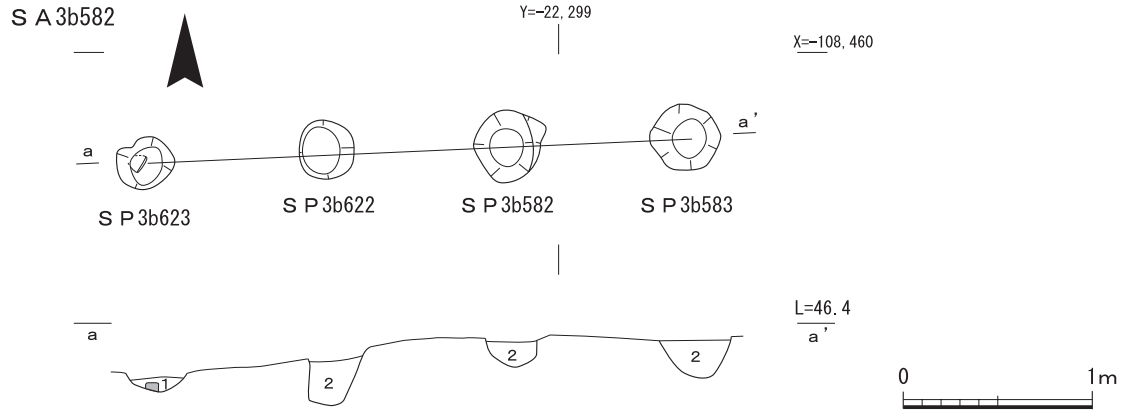
ｃ－ｃ’

1．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂混じる細粒砂
（土器片混じる、径５～７㎝の石を含む）
2．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂混じる細粒砂（土器片混じる）
3．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂
4．黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂（土器片・炭混じる）
5．黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂（径２～５㎝の石を含む、
土器片混じる）
6．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂混じる極細粒砂（砕礫混じる）
7．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉極細粒砂（土器片混じる）
8．黒褐色〈10YR 2/3〉極細粒砂混じるシルト
（土器片・炭混じる、径６㎝前後の石を含む）
9．暗オリーブ褐色〈2.5Y 3/3〉極細粒砂混じるシルト
（土器片混じる、径５～７㎝の石を含む）
10．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂混じる極細粒砂
（礫・土器片混じる、ＳＤ3a822埋土）
11．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂～砕礫混極細粒砂
（礫多く含む、土器片混じる、ＳＤ3a822埋土）
12．黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂
（径６㎝前後の石を含む、ＳＤ3a822埋土）
13．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト
（径２～３㎝の石を含む、礫多く含む、ＳＤ3a822埋土）
14．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト
（土器片少し混じる、ＳＤ3a868埋土）
15．暗褐色〈10YR 3/4〉極細粒砂（径４～８㎝の石を含む）
16．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂（径３～６㎝の石を含む）
17．褐色〈10YR 4/4〉極細粒砂（径５～10㎝の石を多く含む）

ｄ－ｄ’

1．黒褐色〈10YR 2/3〉細粒砂（径２～５㎝の石を含む）

第74図　第４面遺構実測図（２）



1．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂（土色変化により黄橙色〈10YR 7/8〉混じる、径１cm前後の石混じる）
2．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂（径１cm前後の石混じる、土師器片混じる）

第75図　第４面遺構実測図（３）

（６）石列

石列ＳＸ2b446（第72・80図）　調査地東側中央付近（10－Ｈ・Ｉ区）で検出した。６個の石が平らな面を上に向けて置かれる。それぞれの石は不定形な形状を呈し、規模は１辺0.2～0.3mを測る。北側に４基、南側に２基の石を配するが、規則性は認められない。６基の石の北側には0.1～0.14m大の石が東西方向に一列に並ぶ。南北方向の断ち割りでは、石の下層でわずかに土質の変化がみられ、掘形を伴っていたとみられ、北側の石は裏込めの可能性が考えられる。遺物は出土していない。

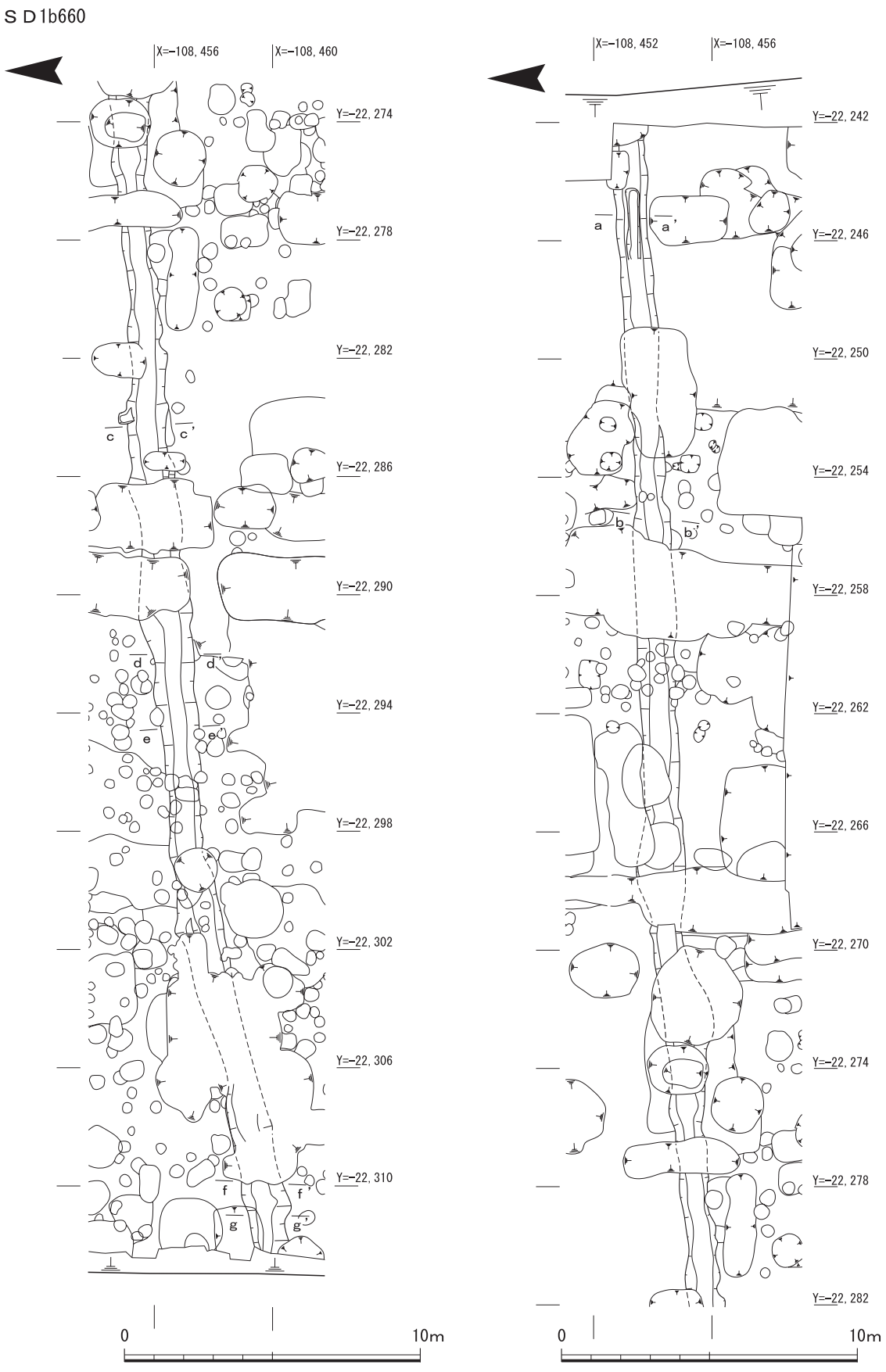
（７）土坑

土坑ＳＫ2a787（第72図）　調査地の北東（６－Ｊ区）で検出した土坑である。西側と南側を攪乱によって削平される。平面は円形を呈するとみられ、規模は直軸0.6m、深さ0.2mを測る。

土坑ＳＫ2b259（第72・80図）　調査地の東側中央（10－Ｉ・Ｈ区）で検出した土坑である。ＳＸ2b446の南側上層に位置する。平面は東西に長い楕円形を呈するとみられ、規模は東西2.2m、南北1.6m、深さ0.1mを測る。掘形内上面からは南北約1.5m、東西約1.8mの範囲に完形品を含む土師器皿がまとまって出土した。埋土は鈍い黄褐色や暗オリーブ褐色暗褐色の極細粒砂である。遺構時期は13世紀前半頃と推定される。

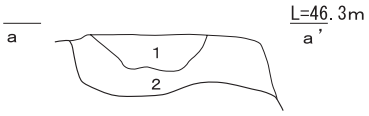
土坑ＳＫ2b442（第72・81図）　調査地の南西南壁付近（15－Ｇ区）で検出した土坑である。第３面で検出した堀Ｂの東側に位置する。平面は楕円形を呈するとみられ、南北0.8m以上、東西0.8m、深さ0.6mを測る。埋土は黒褐色極細粒砂を基本とし、層によってシルトを含む。土坑中央付近からは完形品を含む土師器皿がまとまって出土した。遺構の年代は13世紀前半頃と推定される。

土坑ＳＫ2b566（第72図）　調査地の南東（13－Ｇ区）で検出した土坑である。南側を攪乱によって削平される。平面は方形を呈するとみられ、規模は南北1.8m、東西2.2m、深さ0.3mを測る。遺物は完形品を含む土師器皿、青磁皿などが出土した。

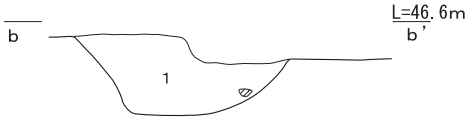


第76図　第４面遺構実測図（４）

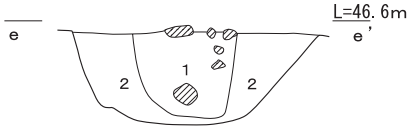
ＳＤ1b660断面



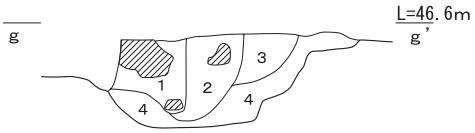
1．灰黄色〈2.5Y 6/2〉極細粒砂
（径１cm前後の石を含む）
2．黄褐色〈2.5Y 5/3〉シルト混じる極細粒砂
（径１cm前後の石を含む）



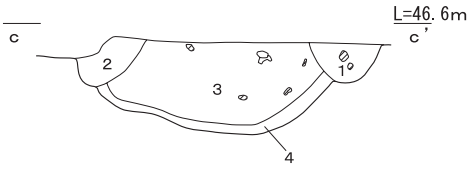
1．暗褐色〈10YR 3/4〉シルト質極細粒砂



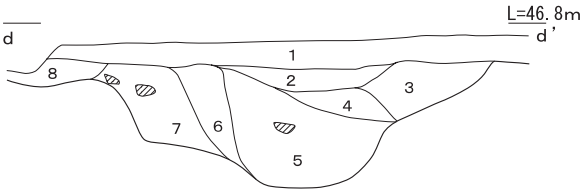
1．黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂
（径１～10cmの石を多く含む）室町15ｃ以降の溝
2．黒褐色〈10YR 3/1〉粗粒砂混じる細粒砂
（径２cm前後の石を含む）



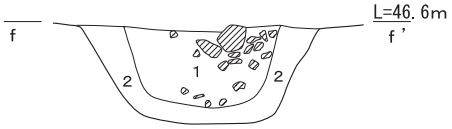
1．黒褐色〈10YR 2/2〉シルト混じる粗粒砂
（径５cm前後の石を含む）
2．黒褐色〈10YR 2/3〉シルト混じる細粒砂
（径２cm前後の石を含む）
3．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径５cm前後の石を含む・ＳＤ1b660埋土）
4．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる粗粒砂
（径２cm前後の石を含む、
土師器片混じる・ＳＤ1b660埋土）



1．黄灰色〈2.5Y 4/1〉シルト混じる極細粒砂（土師器片混じる）
2．灰黄褐色〈10YR 4/2〉粗粒砂混じる細粒砂
（径0.5cm前後の石を含む）
3．黒褐色〈7.5Y 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径２～３cmの石を含む・ＳＤ1b660埋土）
4．黒褐色〈10YR 2/2〉シルト混じる極細粒砂
（やや粗粒砂混じる・ＳＤ1b660埋土）

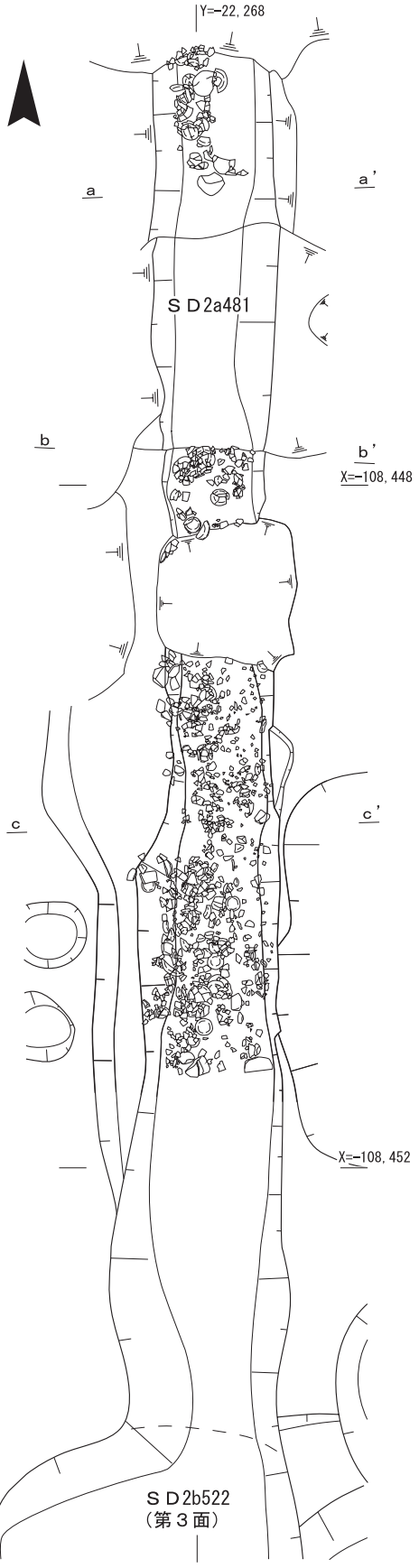


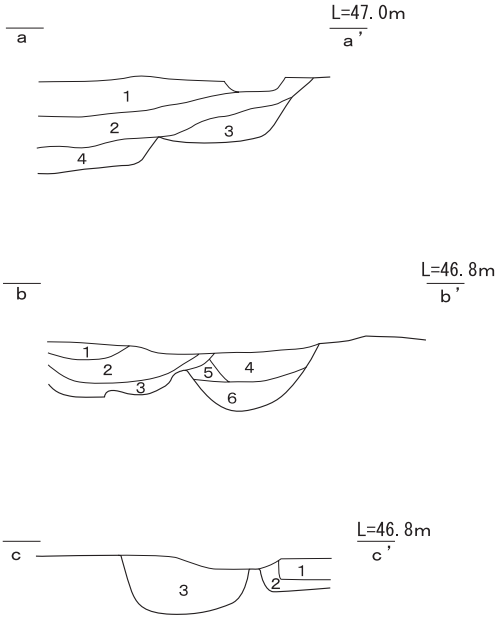
1．黒褐色〈10YR 2/3〉細粒砂
（径１～10cmの石を含む、土師器片混じる）
2．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径１～３cmの石を含む、土師器片混じる）
3．黒褐色〈10YR 2/2〉シルト混じる極細粒砂
（径１～３cm前後の石を含む、炭混じる）
4．黒褐色〈10YR 2/2〉シルト混じる極細粒砂
（径１～３cmの石を含む、土師器片混じる）
5．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト混じる極細粒砂
（径５～10cmの石を含む・ＳＤ1b660埋土）
6．黒褐色〈10YR 2/3〉シルト混じる極細粒砂
（径１cm前後の石を含む、土師器片混じる・ＳＤ1b660埋土）
7．暗褐色〈10YR 3/4〉シルト混じる極細粒砂
（径５～10cmの石を含む・ＳＤ1b660埋土）
8．暗褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径５cm前後の石を含む）



1．黄褐色〈10YR 4/2〉細粒砂
（径１～10cmの石を多く含む）室町15ｃ以降の溝
2．黒褐色〈10YR 3/1〉粗粒砂混じる細粒砂
（径２cm前後の石を含む）

第77図　第４面遺構実測図（５）





a－a'

1．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂（径１～２cmの石含む）
2．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質混じる極細粒砂
（径５～10cmの石を多く含む）
3．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質混じる極細粒砂
（土師皿多く含む・ＳＤ2a481埋土）
4．暗褐色〈10YR 3/3〉細礫混じる細粒砂

b－b'

1．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂混じるシルト質細粒砂
（土師器片と径８cm前後の石が少し混じる）
2．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂混じる細粒砂
（褐色〈10YR 4/4〉土ブロック状に入る）
3．黒褐色〈10YR 3/2〉粗粒砂混じるシルト質細粒砂
（土師器片少し混じる）
4．黒褐色〈7.5YR 3/2〉粗粒砂混じるシルト質細粒砂
（炭含む、土師器片多く含む・ＳＤ2a481埋土）
5．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質細粒砂
（炭・土師器片少し混じる・ＳＤ2a481埋土）
6．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂混じるシルト質細粒砂
（炭少し混じる、径２cm前後の石少し混じる・ＳＤ2a481埋土）

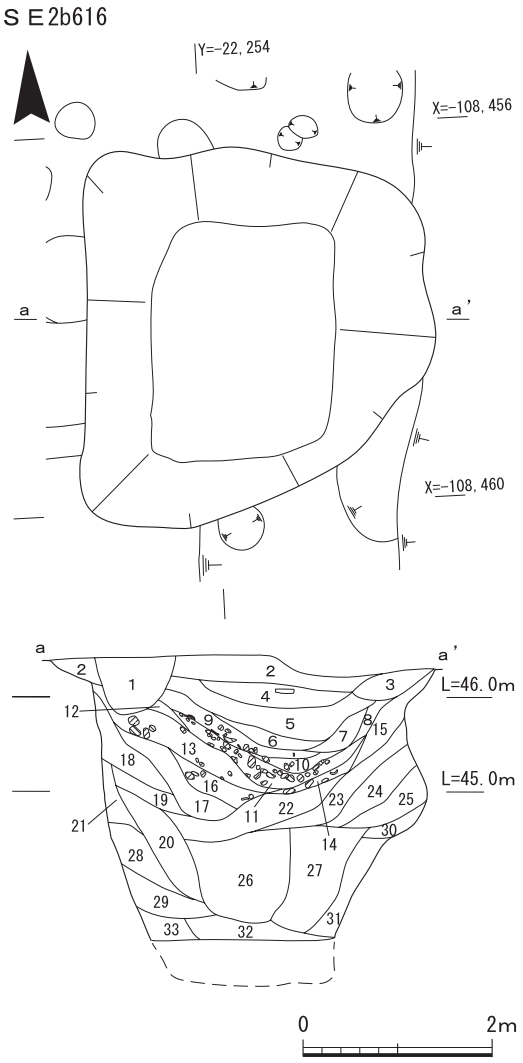
c－c'

1．黒褐色〈10YR 2/3〉細粒砂
（土器片・炭混じる）
2．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質細粒砂
（土器片混じる）
3．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト質細粒砂
（土器片・炭混じる・ＳＤ2a481埋土）

0　1m

第78図　第４面遺構実測図（６）

土坑ＳＫ2b624（第72図）　調査地の東側中央よりやや南（10・11－Ⅰ区）で検出した土坑である。掘形の平面は歪んだ方形を呈する。その規模は、南北3.0m、東西2.6m、深さ0.5mを測る。埋土は黒褐色や暗褐色の極細粒砂を基本とし、層位によって細礫やシルトを含む。



1．黒褐色〈10YR 3/2〉細礫混じる極細粒砂
（径0.5～5cmの石多く含む）
2．灰黄褐色〈10YR 4/2〉極細粒砂（径0.5～3cmの石を含む）
3．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉細～極細粒砂
（径0.5～10cmの石を含む）
4．黒褐色〈10YR 3/2〉極細粒砂
（径5～8cmの石を含む、土師器片多く含む）
5．暗褐色〈10YR 3/3〉極細粒砂
（径1～3cmの石を含む、土師器片・炭を多く含む）
6．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径1～3cmの石を少し含む）
7．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径1～3cmの石・土師器片少し含む）
8．灰黄褐色〈10YR 4/2〉シルト混じる極細粒砂
（径1～5cmの石含む）
9．黒褐色〈10YR 2/2〉シルト混じる極細粒砂
（径10～20cmの石を含む）
10．黒褐色〈10YR 2/3〉シルト混じる極細粒砂
（径5～8cmの石を少し含む）
11．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径5～20cmの石を多く含む）
12．黒褐色〈10YR 2/2〉極細粒砂
13．黒褐色〈10YR 2/2〉シルト混じる極細粒砂～細粒砂
（径5～20cmの石を含む）
14．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径10cm前後の石・炭・焼土多く含む）
15．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト混じる極細粒砂
16．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径10cm前後の石を少し含む）
17．黒褐色〈10YR 2/3〉シルト混じる極細粒砂
（径5～7cmの石少量含む）
18．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径1～3cmの石を少し含む）
19．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径0.5～2cmの石を含む）
20．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト混じる極細粒砂
（径0.5～2cmの石を含む、炭・灰が混じる）
21．黒褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径3cm前後の石を含む）
22．黒褐色〈10YR 3/2〉礫層
（径5～15cmの石を含む）
23．暗褐色〈10YR 3/3〉シルト混じる極細粒砂
（径1～5cmの石を含む）
24．暗褐色〈10YR 3/2〉シルト混じる極細粒砂
（径0.5～2cmの石を多く含む）
25．にぶい黄褐色〈10YR 4/3〉シルト混じる極細粒砂
（径1～2cmの石を少し含む）
26．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
（やや粘質、径3～10cmの石を含む）
27．暗褐色〈10YR 3/4〉細粒砂
（径5～15cmの石を多く含む）
28．黒褐色〈10YR 3/2〉細粒砂
29．黒褐色〈7.5YR 3/2〉細粒砂（径5～10cmの石を含む）
30．暗褐色〈10YR 3/3〉粗粒砂混じる細粒砂
31．黒褐色〈10YR 3/2〉砂礫
32．暗褐色〈10YR 3/4〉シルト質細粒砂
（径5～10cmの石を多く含む）
33．暗褐色〈10YR 3/3〉細粒砂
（やや粘質、径10cm前後の石を多く含む）

第79図　第４面遺構実測図（７）

土坑ＳＫ2b720（第72・81図）　調査地の東側中央よりやや南（10－Ⅰ区）で検出した土坑である。上層を後世の遺構によって大きく削平される。掘形の平面は不定形を呈し、規模は南北1.3～1.6m、東西2.1m、深さ0.3mを測る。掘形の底の東側から完形品を含む土師器皿、山茶椀などが出土した。遺構年代は12世紀後半と考えられる。

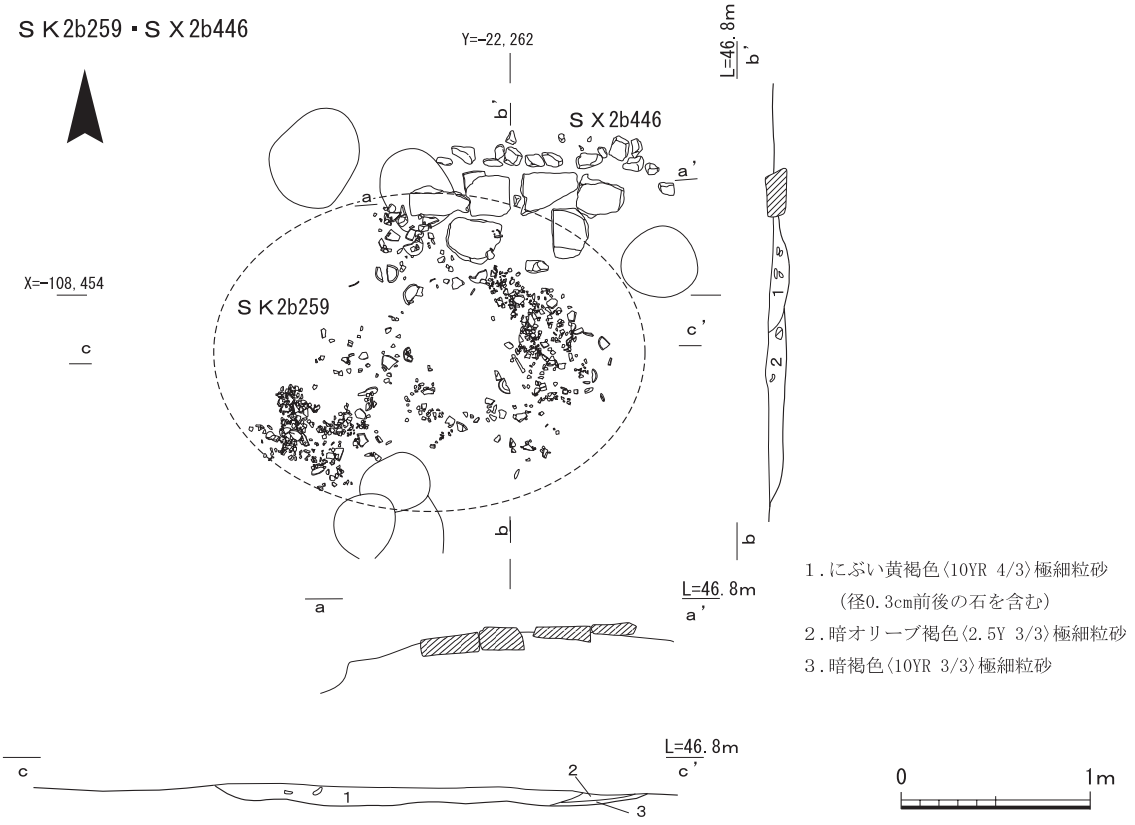
土坑ＳＫ595（第71図）　調査地の北西（６－Ｑ区）で検出した土坑である。平面は円形を呈し、規模は直径0.4m、深さ0.28mを測る。

土坑ＳＫ3a599（第71図）　調査地の西端中央寄り（７－Ｕ区）で検出した土坑である。南側と西側を後世の攪乱によって削平される。平面は方形を呈するとみられ、規模は南北0.3m、東西0.6m、深さ0.2mを測る。

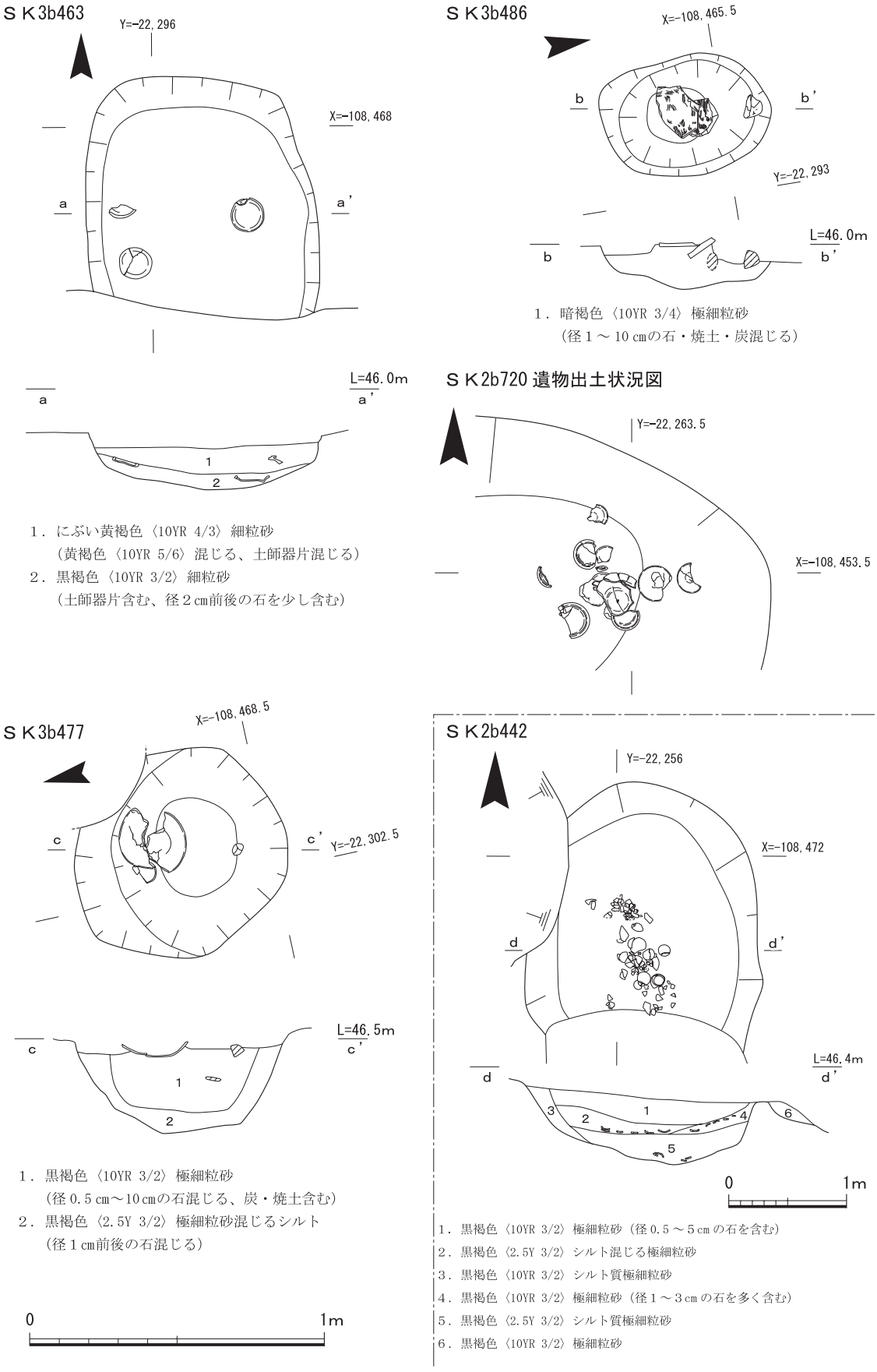
土坑ＳＫ3a869（第71図）　調査地の北西隅（２－Ｓ区）で検出した隅丸方形の土坑である。中央から南西部にかけて第２面の土坑によって削平されていた。規模は、一辺約1.1m、深さ約0.3mを測る。

土坑ＳＫ3a896（第71図）　調査地の北側中央寄り（２－Ｏ区）で検出した土坑である。南東部と南西部を土坑と後世の攪乱で削平される。掘形の平面は不定形を呈し、規模は、南北1.5m、東西1.25m、深さ約0.3mを測る。

土坑ＳＫ3a904（第71図）　調査地北西隅（２－Ｔ区）で検出した。北側を井戸や柱穴によって削平されていた。規模は、径約0.8m、深さ約0.15mを測る。



第80図　第４面遺構実測図（８）



第81図　第４面遺構実測図（９）

土坑ＳＫ3a905（第71図）　調査地北西部（３－Ｐ区）で検出した。南側を土坑によって削平されていた。規模は、径約0.7m、深さ約0.2mを測る。

土坑ＳＫ3b463（第71・81図）　調査地南西の南壁付近（14－Ｑ区）で検出した土坑である。南側を第３面のＳＤ3b369によって削平される。掘形の平面は長方形を呈するとみられ、規模は南北0.8m、東西0.78m、深さ0.2mを測る。埋土は上層ににぶい黄褐色細粒砂、下層に黒褐色細粒砂が堆積する。遺物は完形品を含む土師器皿が出土した。

土坑ＳＫ3b477（第71・81図）　調査地南西（13・14－Ｓ区）で検出した土坑である。北東を後世の攪乱によって削平される。掘形の平面は円形を呈し、規模は径0.7m、深さ0.35mを測る。埋土は黒褐色極細粒砂で、掘形の底部はシルト質が強くなる。埋土上層から土師器皿・鉢が出土した。

土坑ＳＫ3b486（第71･81図）　調査地南西（13－Ｔ区）で検出した。掘形の平面は楕円形を呈し、規模は長軸0.6m、短軸0.4mを測る。埋土は暗褐色極細粒砂である。掘形中央から須恵器甕が出土した。

（綾部侑真）

６．遺 物

１）江戸時代末期から明治時代（第１面）の土器・陶磁器

ＳＥ3b01（第82図１・２）　１は磁器椀蓋である。上面に褐釉を施す。産地は不明であるが、18世紀末以降のものとみられる。２は肥前系の色絵磁器椀である。外面に竹文及び花文を描く。高めかつ大きめの高台をもち、体部は直線的に斜め上方に立ち上がる。いわゆる広東椀である。18世紀末から19世紀のものとみられる。

ＳＤ3b02（第82図３～12）　３は土師器皿である。底部と口縁部の境に圏線がめぐっており、17世紀以降のものとみられる。４は土師器皿で、口縁部に煤の付着があり、灯明皿である。16世紀後半頃のものか。５は陶器灯明皿で、京信楽系のものとみられる。19世紀頃のものとみられる。６は京信楽系の陶器土瓶蓋である。上面に鉄絵で花文を描く。獅子等の摘みをもつものとみられる。19世紀頃のものとみられる。７は陶器蓋で、京信楽系のものとみられる。落し蓋形で、土瓶もしくは急須に伴うものか。上面に半透明の白濁釉を施す。19世紀頃のものとみられる。８は肥前系の染付磁器椀で、18世紀後半から19世紀にかけてのものとみられる。見込みは盛り上がり気味で、中央に栄螺文を描く。外面にも栄螺もしくは雲状の文様を描く。線描き主体の絵付けである。９は白磁鉢と考えられる容器で、産地は不明である。器胎は、腰部が厚く底部は薄く削り込まれる。19世紀以降のものとみられる。10は肥前系の染付磁器皿で、見込みに手描きの五弁花文を描く。18世紀後半以降のものとみられる。11は環状の五徳で、京都系の陶器とみられる。口縁部に瓶掛をもつ。体部には花形の通風孔があり、その間に菊花形のスタンプ文を施す。12は湊焼の陶器擂鉢である。18世紀後半以降のものとみられる。

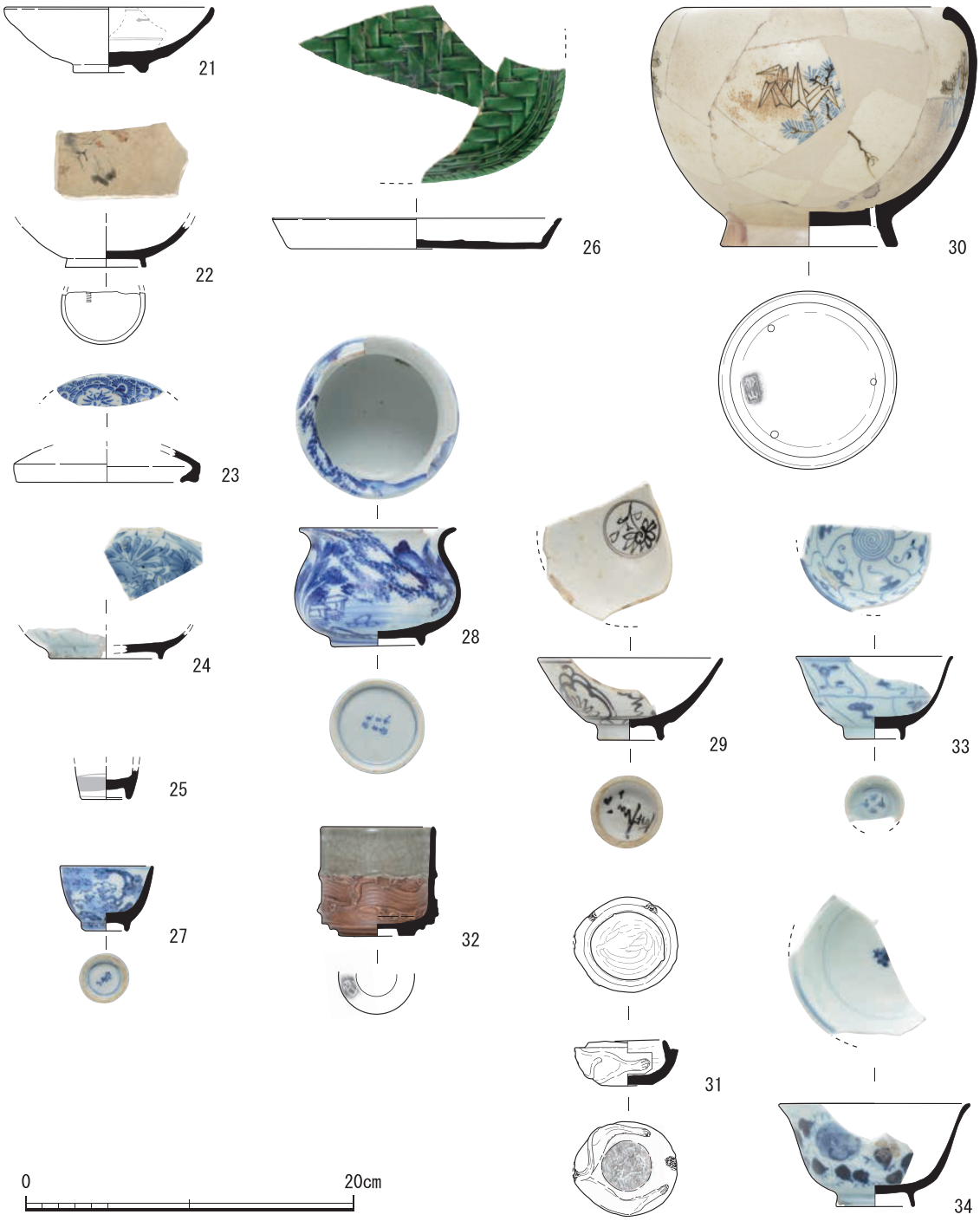
ＳＫ3b05（第82図13～19）　13はヨーロッパ産の陶器皿で、イギリス製とみられる。銅板転写の藍絵皿で、風景文を描く。19世紀のものとみられる。14は肥前系の染付磁器皿で、大皿である。内面に花唐草文を描く。18世紀末から19世紀にかけてのものとみられる。15は肥前系の染付磁器鉢で、焼継の痕跡が残る。外面には西洋人文を描き、見込みには唐子文を描く。18世紀末から19世紀にかけてのものとみられる。16は京都系の染付磁器小椀で、高台内に「六兵衛」銘がある。外面に「家」字とみられるものを描き、内面には墨弾き技法を用いた花文を描く。清水六兵衛窯関係のものとみられる。17は青花磁器椀で、中国清代のものとみられる。内面には渦文を中心に花文を描き、外面にも花文を描く。呉須の発色は鮮やかであるが、絵付けは滲み気味である。高台は太めである。18世紀後半以降のものとみられる。18は青花磁器匙で、中国清代のものとみられる。いわゆる散蓮華である。内面には花文を描き、端部を呉須で縁取る。18世紀後半以降のものとみられる。19は青花磁器急須蓋で、中国清代のものとみられる。丸い摘みを付す。上面には雲文を描く。内面に「大明成化年製」銘をもつ。18世紀後半以降のものとみられる。

柱穴・包含層ほか（第82・83図20～34）　20は京都系の陶器椀とみられる。外面上部に「□寫眞株式会社」の文字が鉄釉で書かれる。19世紀のものとみられる。第１面精査中に出土した。21は肥前系の染付磁器皿である。見込みは、重ね焼きのために、釉を蛇の目状に掻き取る。ＳＰ1b88から出土した。22は肥前系の陶器椀である。内面には山水文を描く。いわゆる京焼風肥前陶器で

第82図　第１面出土遺物実測図（１）

ある。高台内に印銘がある。17世紀後半のものである。ＳＰ1b97から出土した。

23は染付磁器蓋で、段重に伴うものである。甲盛の形状である。型紙印判による施文で、瀬戸系のものとみられる。19世紀頃のものである。24は青花磁器皿である。高台には砂粒が付着する。見込みには密に花文を描いており、外面の文様は芙蓉手の磁器に類似する。中国の17世紀頃のものとみられる。25は肥前系の琉璃釉磁器小瓶で、いわゆる御神酒徳利である。19世紀のものとみられる。以上３点はＳＰ1b87から出土した。



第83図　第１面出土遺物実測図（２）

26は珉平焼の陶器皿である。型押しにより、笊形に成形する。緑色釉を施す。19世紀のものとみられる。ＳＰ3a11から出土した。

27は京都系の染付磁器小椀である。外面には松竹梅樹文を描く。高台内に「道八」銘がある。仁阿弥道八窯関係のものである。28は京都系の染付磁器で、広口の壺形である。煎茶に伴うこぼしとして使用されたものか。外面及び口縁部に山水文を描く。高台内に「大日本周平造」の銘をもつ。尾形周平窯関係のものである。29は京都系の鉄絵磁器椀である。外面及び見込みに花文を描く。高台内に「六兵衛造」の銘がある。清水六兵衛窯関係のものである。30は京都系の陶器風炉である。外面に青釉及び鉄釉で若松文、折鶴文を描く。高台内に「帯山」の印銘があり、帯山与平衛窯関係のものとみられる。31は京都系の陶器香合の身である。焼成は堅緻で色調も須恵器に似る。外面に猿などの動物の尾と後脚部の浮文がある。動物を象った香合とみられる。底部に瓢形の印銘があるが、不明瞭であり判読できない。ＳＫ1b221から出土した。

32は相馬焼の陶器椀で、高台畳付に「相馬㋥」の丸印銘がある。内面及び外面上半部に青磁釉、外面下半部に鉄釉を施す。また、外面鉄釉施釉部分には流水に松の浮文を施す。

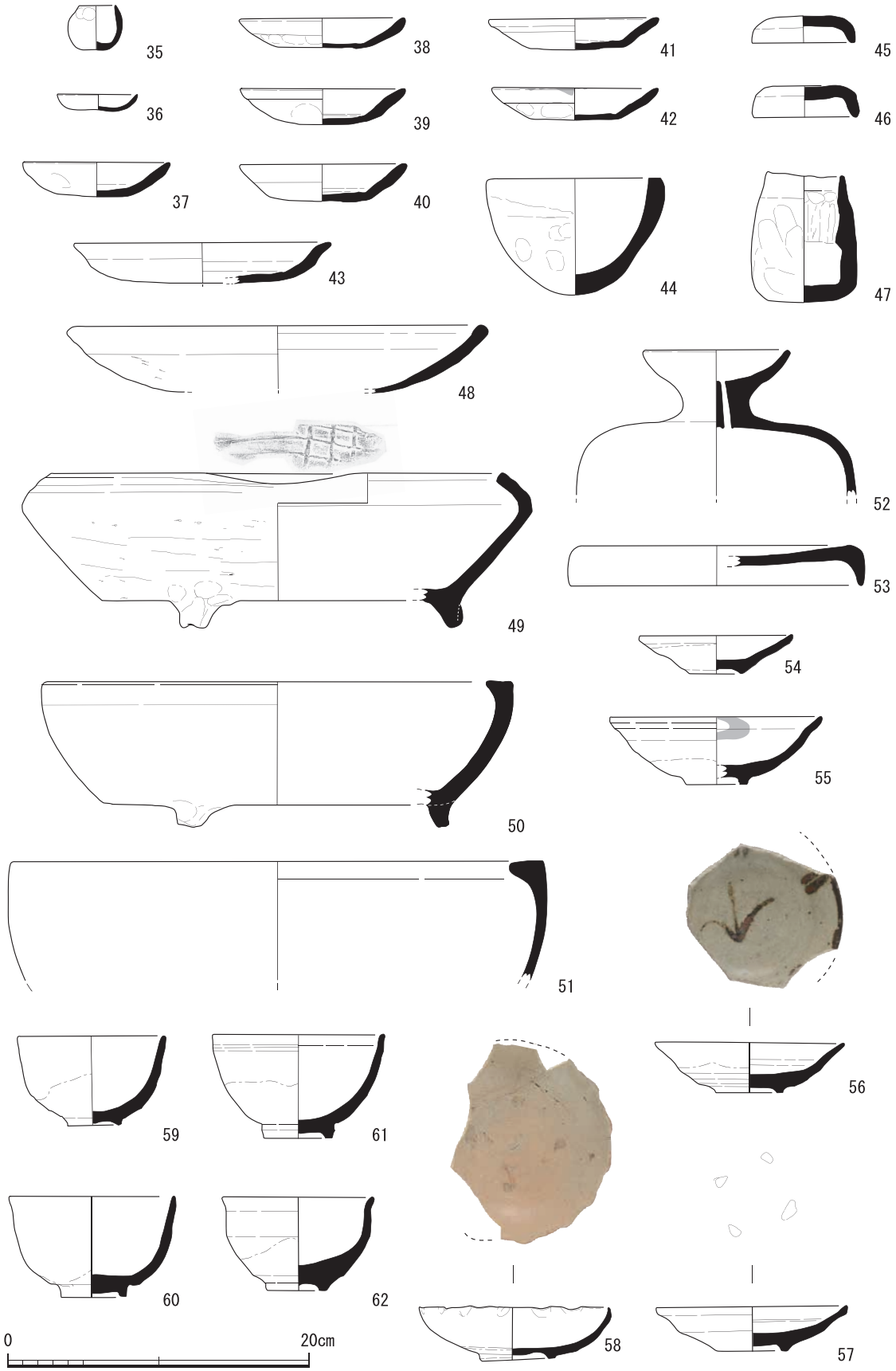
33は青花磁器椀で、端反の形状を呈する。内外面に霊芝文を描く。高台内に銘があるが、内容は不明である。中国清代の18世紀後半以降のものとみられる。第１面精査中に出土した。34は青花磁器椀で、端反の形状を呈する。外面に牡丹唐草文、内面見込みに花文を描く。中国清代の18世紀後半以降のものとみられる。ＳＥ3a110から出土した。

（引原茂治）

２）安土・桃山～江戸時代前半（第２面）の土器・陶磁器

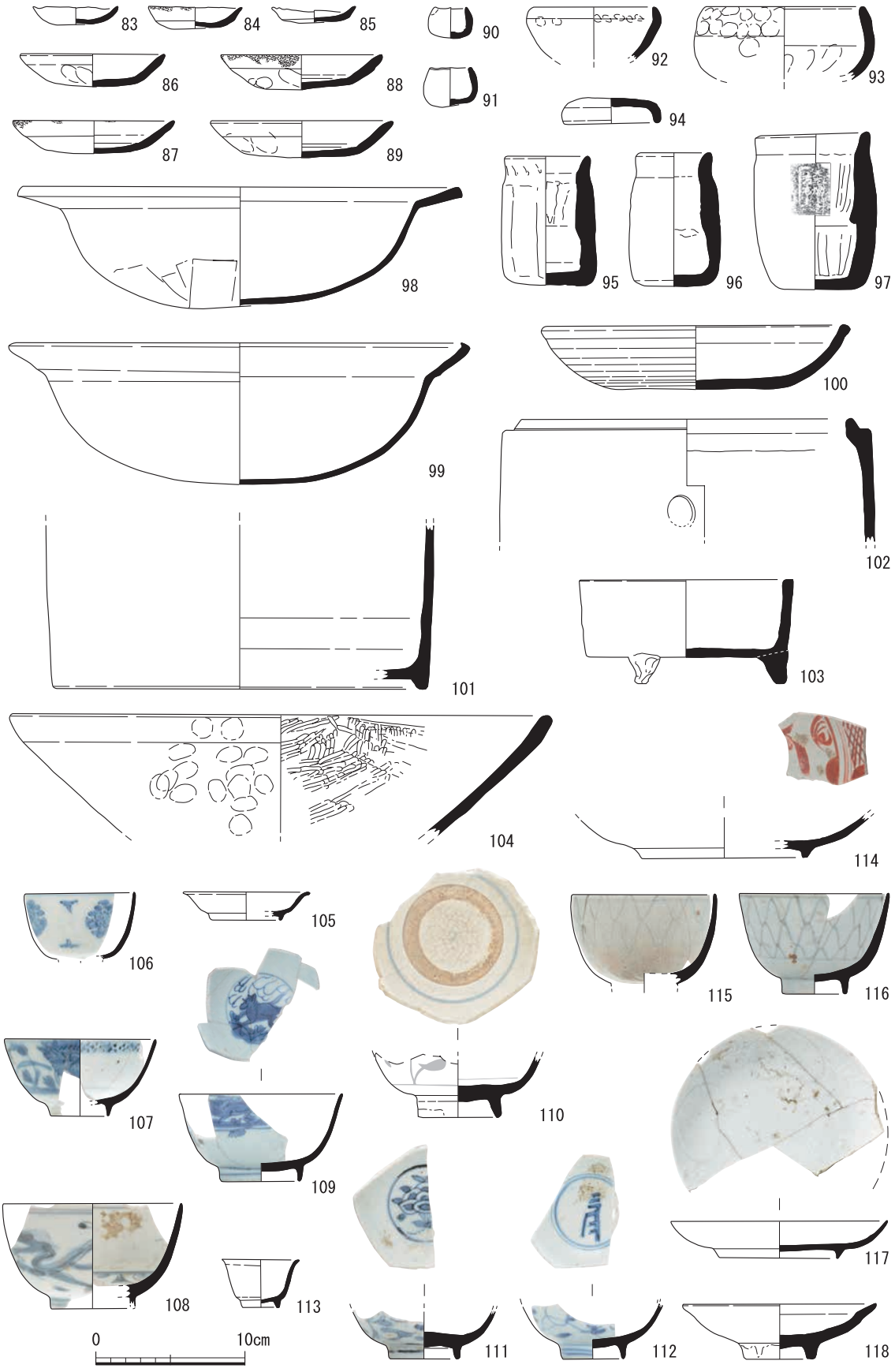
ＳＫ1b152（第84・85図35～82）　35は土師器小壺で、いわゆる「つぼつぼ」である。36～43は土師器皿である。38～43は内面底部と体部の境界付近に明瞭な圏線がめぐる。44は土師器丸底小鉢である。体部外面をユビオサエ、口縁部はナデで調整し、口縁端部はヘラ切りで面をつくる。内面はていねいに磨かれ黒色化している。45・46は焼塩壺の蓋である。47は焼塩壺の身である。体部外面に指頭圧痕が残る。48は、土師器の盤である。体部外面をヘラケズリ、口縁部をナデで調整する。49は土師器灰器である。口縁部は内湾し、端部に面をつくる。50～53は瓦質土器である。50・51は火鉢である。平面円形で口縁部は内側に向かって拡張し、上方に面をつくる。52は瓦灯である。灯明受部の中央には直径0.2cmに穿孔する。53は蓋である。54～62は肥前系陶器である。54～58は皿である。55・56は口縁部内面に鉄絵を施す絵唐津である。56は見込みに草花文を描く。58は輪花皿である。57・58は見込みに胎土目跡が４か所につく。59～62は椀である。59は低い高台がつき、灰黄色の釉薬を施す。60は竹節高台で外面体部中位まで鉄釉を施す。62は口縁部が外反し体部中位から底部にかけて器壁が厚くなる。釉薬は黄褐色を呈する。

63～75は瀬戸美濃系陶器である。63・64は椀である。63の長石釉の椀で、口径に対して径の小さな高台がつく。65は皿である。66は青織部皿である。見込みに鉄絵による花文を描き、口縁部に銅緑釉を施す。67～72は長石釉の皿である。68は高台が平高台になる。70は菊皿である。70・71は志野織部の皿である。内面に圏線と草花文を描く。73は志野の盤である。見込みに鉄絵を施



第84図　第２面出土遺物実測図（１）

第85図　第２面出土遺物実測図（２）



第86図　第２面出土遺物実測図（３）

す。74は志野の角向付である。外面に草花文を描く。75は茶入である。肩部の張る「肩衝」タイプで、外面腰部付近まで鉄釉を施す。76は備前焼の盤である。内外面を回転ナデ調整し、底部をヘラ切りする。外面底部に「－」状の窯印をヘラ描きする。77・78は陶器壺である。瀬戸美濃系のものとみられる。タタキ成形し、内面には同心円状の当て具痕が残る。内外面に褐釉を施す。77は体部下半を欠損する。肩部に突帯状の稜をもつ。口縁部は外側に折り曲げ、断面方形を呈する。78は体部を欠損する。底部は扁平で、露胎である。

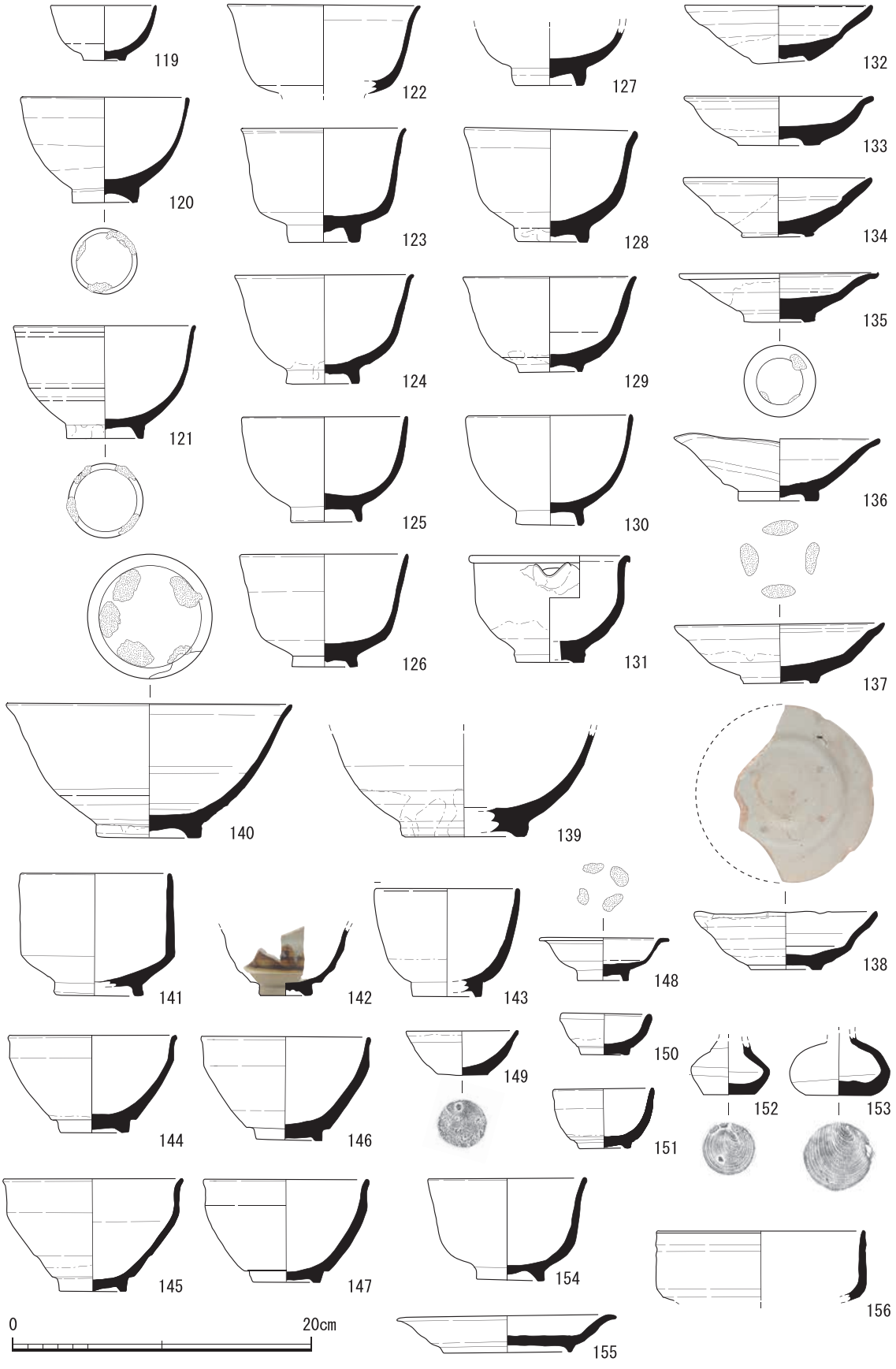
79～82は輸入陶磁器である。79・80は青花磁器椀である。いずれも体部外面に唐草文を描く。79は、見込みに１本の染付圏線とその内側に牡丹文を描く。81は高台径18.0cmを測る青花磁器皿である。見込みに鹿と植物を描く。82は赤絵磁器皿である。見込みに葡萄と栗鼠を描く。彩色は不明瞭である。

ＳＫ1b479（第86～90図83～185）83～89は土師器皿である。87・88は口縁部に煤が付着する。90・91は土師器小壺で、いわゆる「つぼつぼ」である。92・94は土師器鉢である。ユビオサエで成形し、口縁部をヨコナデする。92は底部が小さく、体部は外側に開き口縁部が内湾する。93は腰が張り、体部は内傾する。94は焼塩壺蓋である。95～97は焼塩壺の身である。97は外面に「天下一堺ミなと藤左衛門」の印刻をもつ。また、２か所に墨書が確認できるが、判読できない。98・99は土師器焙烙である。98は口縁部が肥厚し、直線的に外側に開く。99は口縁部が内湾し、端部をわずかに内側へつまみ出し端部に面をつくる。100は施釉土師器の鉢である。外面下半を回転ヘラケズリ、口縁部と内面を回転ナデ調整する。胎土は橙色を呈し、全面に薄く鉄釉を施す。101～104は瓦質土器である。101・102は風炉である。外面に横方向のミガキを施す。103は浅鉢である。平面は円形である。104は鉢である。体部外面をユビオサエ、口縁部をヨコナデで調整する。内面は斜め方向のヘラミガキを施す。

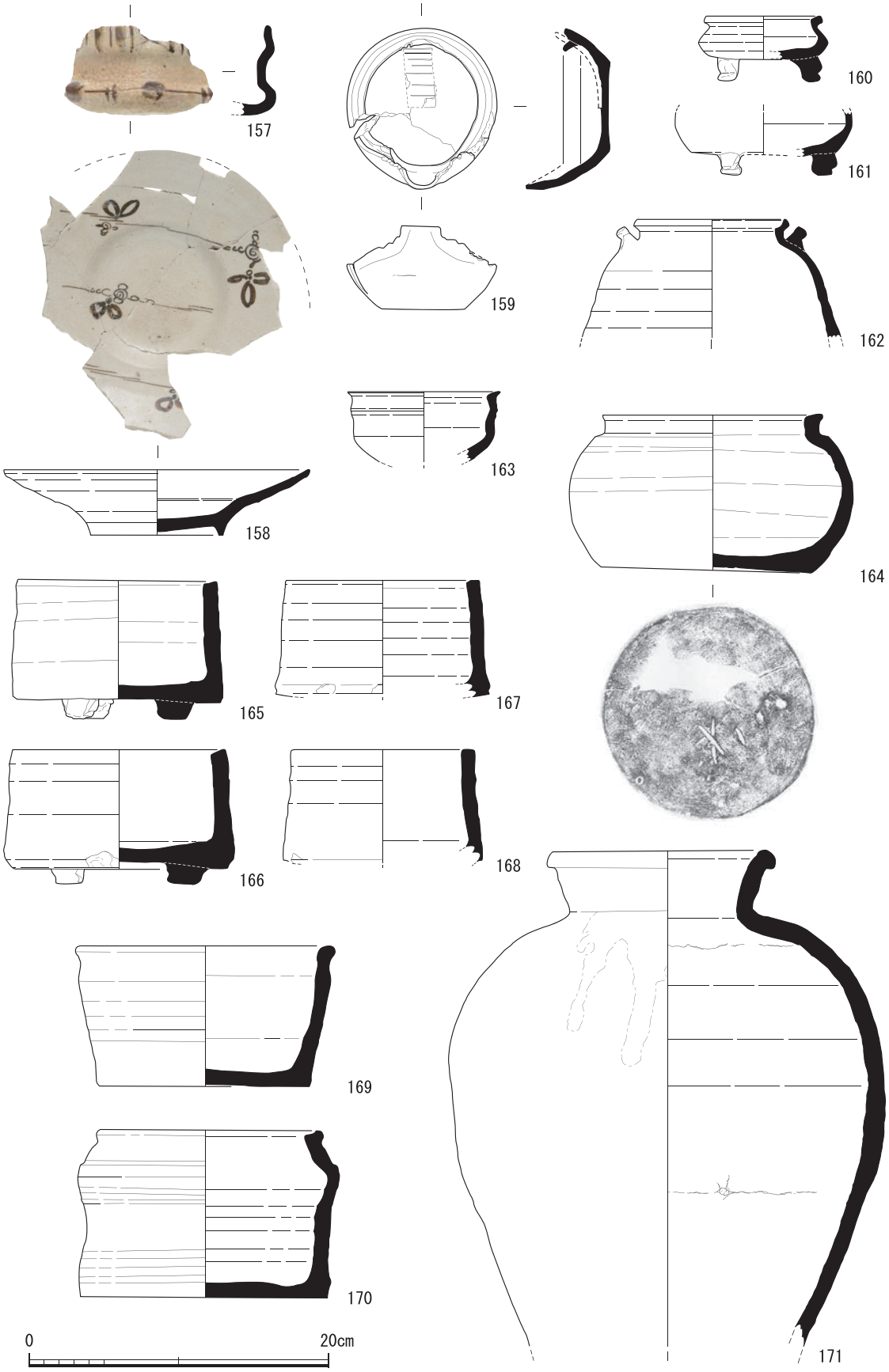
105～114は輸入陶磁器である。105は白磁皿である。106～112は青花磁器椀である。106は外面に意匠化した草花文を描く。107は外面に草花文、内面口縁部に幾何学文を描く。108は外面に龍を描く。109は外面と内面底部に馬を描き､内面体部には印刻文をもつ。110は底部の器壁が厚く、やや高い高台がつく。釉は乳白色を呈し、細かな貫入が入る。高台内と内面底部を蛇の目状に釉剝ぎする。外面に草花文、内面底部に１本の染付圏線と、中央に「ｃ」字状の文様を描く。111は外面に唐草文、見込みに１本の圏線とその内側に花文を描く。112は外面に唐草文、見込みに２本の圏線とその内側に「寿」を描く。113は白磁小杯である。114は赤絵磁器皿である。内面底部に草花文、口縁部に幾何学文を描く。

115･116は肥前系磁器椀である。外面に１重の網目文を施す。17世紀半ば頃のものとみられる。117は白磁皿である。内面側縁部に桃形の文様を印刻する。肥前系の製品と考えられる。色絵の下地の可能性もある。118は肥前系青磁皿である。口縁部は外反し、内面に緩やかな稜をつくる。高台脇まで施釉し、内面底部を蛇の目状に釉剝ぎする。

119～139は肥前系陶器である。119は小椀である。腰部付近まで灰釉を施す。120～130は椀である。120はわずかに口縁部が肥厚する。高台には３か所に砂が付着する。121は器壁が薄く、口

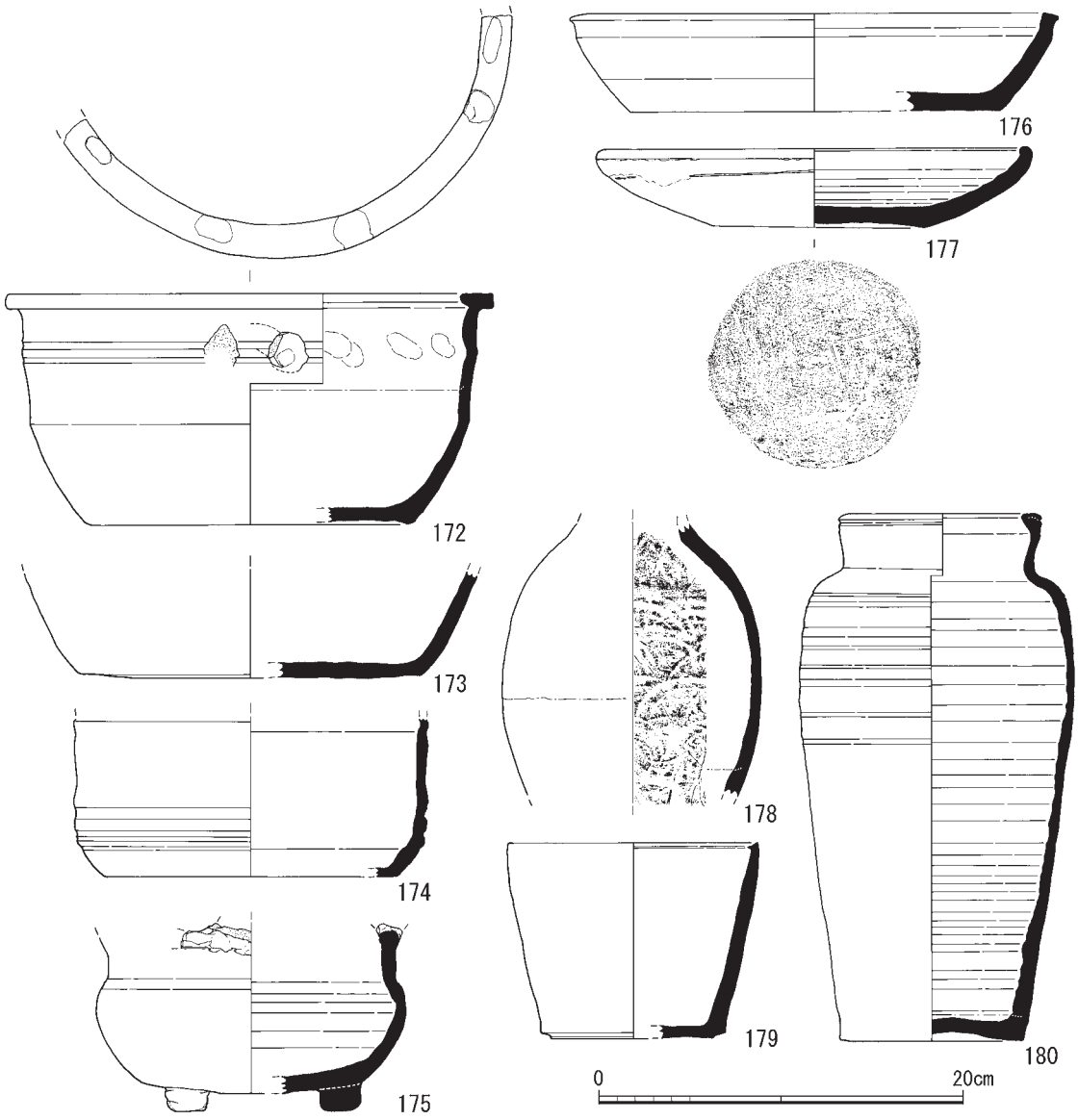


第87図　第２面出土遺物実測図（４）

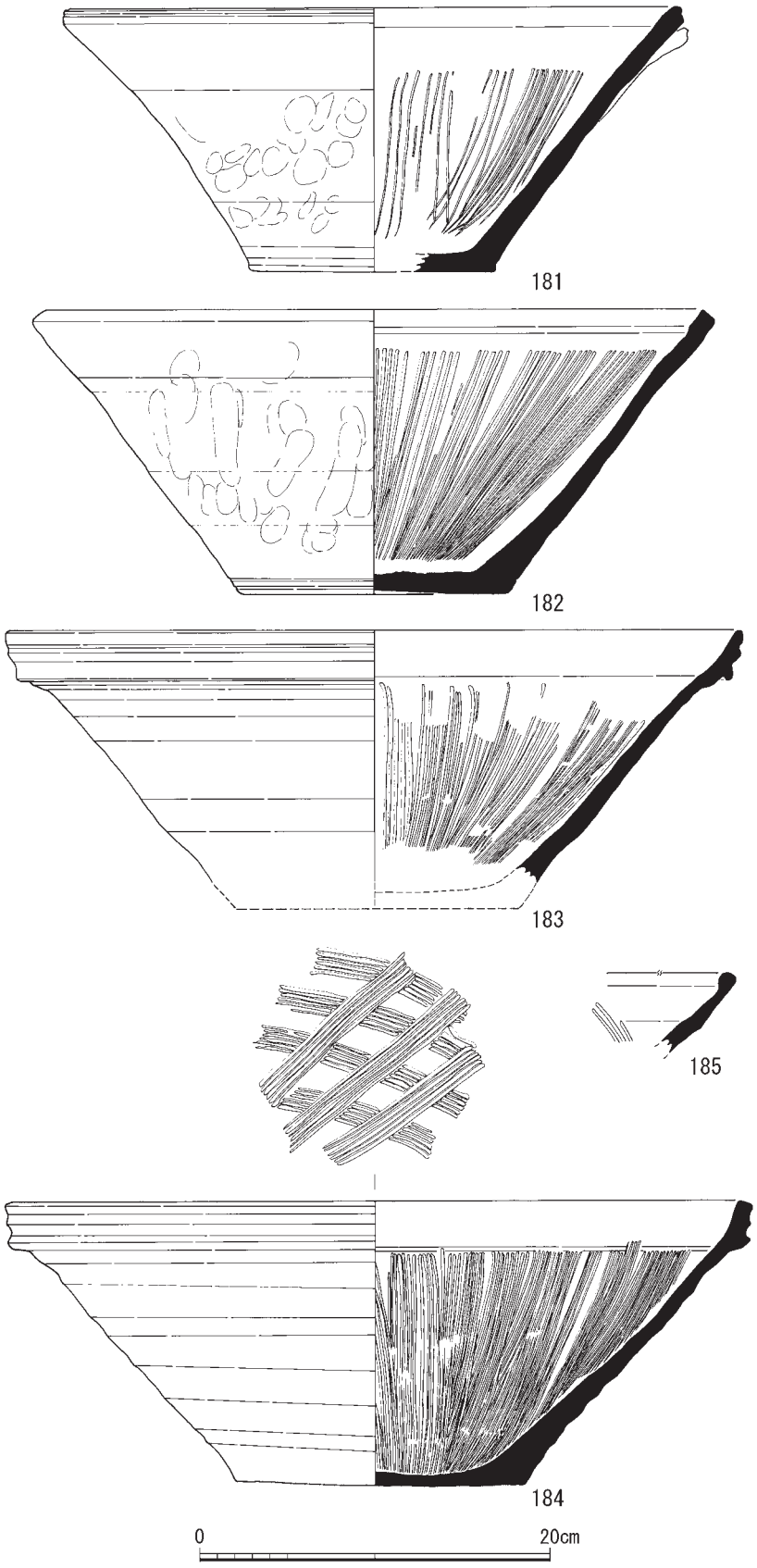


第88図　第２面出土遺物実測図（５）

縁部が外反する。全面に施釉し、高台には３か所に砂が付着する。120・121は朝鮮半島製のものの可能性が考えられる。125・130は全面に艶のある明褐色の釉を施す。127は、腰が張る椀形を呈し、高台は竹節高台になる。131は片口である。体部が腰部から直角に立ち上がり、口縁部を外側に折り返す。高台は竹節高台である。132～138は皿である。132の底部は高台の削り出しが浅く、碁笥底状になる。133は器壁が厚く、内面底部と体部の境界に稜をつくる。138は輪花皿である。139は鉢である。口縁部を欠損する。140は朝鮮半島製の白磁椀である。大ぶりの椀で、体部は外側に開き、口縁部は外反する。見込みに砂目の痕跡が５か所に残る。釉薬は乳白色を呈する。141は肥前系陶器椀である。腰が張り、体部は直線的で腰部からやや内傾気味に立ち上がる。高台に0.2～0.3cm大の石が付着する。高取の製品とみられる。142は萩焼の椀である。18世紀以降のものとみられ、上層の遺物が混入した可能性がある。143～162は瀬戸美濃系陶器である。143は椀である。外面は腰部まで鉄釉を施す。144～147は、天目椀である。148は皿である。体部



第89図　第２面出土遺物実測図（６）



第90図　第２面出土遺物実測図（７）

第91図　第２面出土遺物実測図（８）

は直線的で、口縁部を水平に外反させ上方に面をつくる。高い高台がつき、見込みに砂目の痕跡が４か所残る。149～151は小杯である。149は底部が平坦で、糸切りする。内面に灰釉を施す。152・153は小壺である。腰が張り、底部を糸切りする。肩部より上を欠損するが、頸部の長い鶴首になるとみられる。154は椀である。体部内外面に長石釉を施し、細かな貫入が入る。155は志野皿である。156は志野向付である。157は志野織部向付である。外面に鉄絵を施す。158は志野織部皿である。体部が立ち上がりの角度から中位付近で大きく外側へ開き内面に稜をつくる。

159は灯火具である。舌部を欠損するが、内面に貼り付け痕が残る。外面に灰釉を施す。160・161は香炉である。脚はそれぞれ１か所に残存するが、その位置から三足に復元される。160は腰が張り、口縁部は外反する。いずれも内外面ともに鉄釉を施す。162は壺である。胴部は肩部に向かって窄まり、肩部の上方に耳を貼り付ける。口縁部は一度外反させ上方へ折り返す。内外面に褐釉を施す。163は陶器である。底部を欠損し器形は不明であるが、香炉と考えられる。２次焼成を受け、黒色化しており釉がただれる。全面に施釉していたとみられ、瀬戸美濃系の製品と考えられる。164は備前焼の広口壺である。底部に「×・－」状の窯印をヘラ描きする。165～168は脚付の建水である。内外面を回転ナデで調整し、腰部に２か所の指痕が残る。底部は糸切りで、３か所に足を貼り付ける。全面に薄く鉄釉を施す。信楽の製品とみられる。169は信楽焼の建水である。口縁部は強い回転ナデにより外反気味になる。170は信楽焼広口壺である。建水とみられる。体部は「て」の字に屈曲し、肩部に段をもつ。171は信楽焼壺である。頸部は外側に開きながら立ち上がり、口縁端部は外側に折り返して玉縁になる。肩部に自然釉がかかる。

172～180は焼締陶器の一群である。172・173は鉢である。いずれもタタキ成形で、内面に円形の当て具痕が残る。全面に褐色釉を施す。肥前系もしくは東南アジアの製品とみられる。172は双耳鉢である。口縁部は外側へ折り返した後、もう一度内側へ折り返し、断面四角形を呈する。口縁部上面には貝目跡が残る。外面胴部中位には鈍い稜線をつくり、体部外面上部には２条の沈線がめぐる。沈線上に上向きの耳を貼りつける。173は口縁部を欠損する。174～177は備前焼である。174は鉢である。口縁部を欠損する。腰部から胴部が直立的に立ち上がる。腰部には２条の明瞭な沈線がめぐる。175は脚付きの壺である。口縁部はその多くを欠損するが、波状になるとみられる。肩部から頸部が直立気味に立ち上がる。176は鉢である。口縁部は端部に面をつくる。177は盤である。口縁部は内湾する。底部に窯印をヘラ描きする。178は肥前系陶器の瓶である。タタキ成形で、内面に円形の当て具痕が残る。179はヴェトナム陶器の鉢である。精錬された粘質の胎土で、白色粒砂が混じる。体部は直線的に延び、口縁端部を内側につまみ出す。底部は低い平高台状になる。180はヴェトナム陶器長胴瓶である。口縁端部は内側に肥厚し、上方に面をつくる。胴部中位付近から肩部にかけてと、口縁部外面上端に沈線を施す。粘質の胎土で、浅黄橙色と褐色が層状になる。白色粒砂が混じるが、179と比較して含有量は少なく、また粒子も細かい。

181～185は擂鉢である。181・182は丹波焼である。181は片口がつく。口縁端部はやや丸みを帯びる。４条１単位の擂り目をもつ。182の口縁端部は面をつくり、断面方形を呈する。６条１

単位の擂り目をもつ。183・184は信楽焼である。口縁部は外側に肥厚し、２条の強いヨコナデを施す。擂り目は183が５本１単位、184が８本１単位である。184は見込みに６本１単位とする擂り目が、４組と３組がそれぞれ同一方向を向き交差する。185は信楽・伊賀系の擂鉢とみられる。斜行気味の擂り目をもつ。口縁端部を内側に折り返して内面口縁部を玉縁状にする。

（綾部侑真）

ＳＫ1b203（第91～93図186～226）　186～194は土師器皿である。186～188は小型のもので径5.5～5.9cm、189～194は径10.5～10.9cmの中型のものである。中型の皿の内面底部と口縁部の境には圏線があり、17世紀頃のものとみられる。195は土師器小壺で、いわゆる「つぼつぼ」である。196～198は土師器焼塩壺の身である。筒形の器形で、口縁部がややすぼまる。199・200は土師器

第92図　第２面出土遺物実測図（９）

鍋である。丸く立ち上がった胴部から口縁部が屈曲して鍔状に広がる。201は瓦質土器羽釜である。口縁部が直立して高めに立ち上がり、肩部には二方向に半円形の環座をもつ。扁平気味の茶釜の形状を呈する。

202は青花磁器小椀である。内面に花文を描く。端反の椀形で、幅広の低めの高台をもつ。203は青花磁器椀で、見込みに花文を描く。高台は細く高めである。204は青花磁器椀で見込みに唐人文を描く。高台内に角印銘を描く。饅頭心であり、16世紀末頃のものとみられる。205は青花磁器椀で、外面に唐草文、見込みに花文を描く。206は青花磁器皿で、底部は碁笥底状になる。外面には芙蓉手の外面に類する文様を描き、内面には花文等を描く。

207は肥前系青磁鉢で、波佐見窯の製品とみられる。内面には片切彫りと線彫りで花文や葉文を表す。三足を伴う。208は肥前系の染付磁器椀で、器形は天目形である。外面に鉄釉を施し、内面は染付である。内面見込みには菊花文を描き、その周囲に松葉文をめぐらす。17世紀中葉頃のものとみられる。209は肥前系の陶器椀で、口縁部を歪ませたいわゆる沓茶椀である。外面高台付近以外に鉄釉を施し、見込みには大きめの円刻がある。210・211は肥前系の陶器皿で、それぞれ見込みに４個の胎土目跡が残る。16世紀末～17世紀初頭頃のものである。

212～214は瀬戸美濃系陶器の天目椀である。体部は斜め上方に直線的に立ち上がり、口縁部は屈曲して高めにほぼ直立する。このような形状から、17世紀前半頃のものとみられる。215は瀬戸美濃系陶器の黒織部沓茶椀である。鉄釉を掛け分けして、掛け外し部分に波状の間垣文とみられる文様を鉄絵で描く。焼成はかなり堅緻である。216・217は瀬戸美濃系陶器の青織部平向付である。216は三角形状、217は重ね扇形の平面形である。底部には半環状の脚を三か所に貼り付ける。それぞれ、両端部に織部釉（銅緑釉）を施釉し、中央の掛け外し部分に鉄絵を描く。216は間垣に蔓草文を、217は抽象化した植物文を描く。17世紀初頭頃のものとみられる。218は瀬戸美濃系陶器の志野小椀である。筒状の形状で、口縁部が外反する。底部は浅く削り込む。外面には草文を、見込みには花文を、口縁端部には唐草状文を鉄絵で描く。219は瀬戸美濃系陶器の志野鉢である。平面形は円形であるが、高台は方形の貼り付けである。底部から緩やかに斜め上方に体部が立ち上がり、口縁部は内側に屈曲する。内面には二重の圏線をめぐらせ、栄螺状文や鋸歯文、渦文などを鉄絵で描く。220は瀬戸美濃系陶器の志野椀である。筒状の椀形である。高台は口径に比してやや小さく高めである。外面には桧垣文などを鉄絵で描く。茶椀として生産されたものである。以上の志野陶は西暦1600年前後のものとみられる。

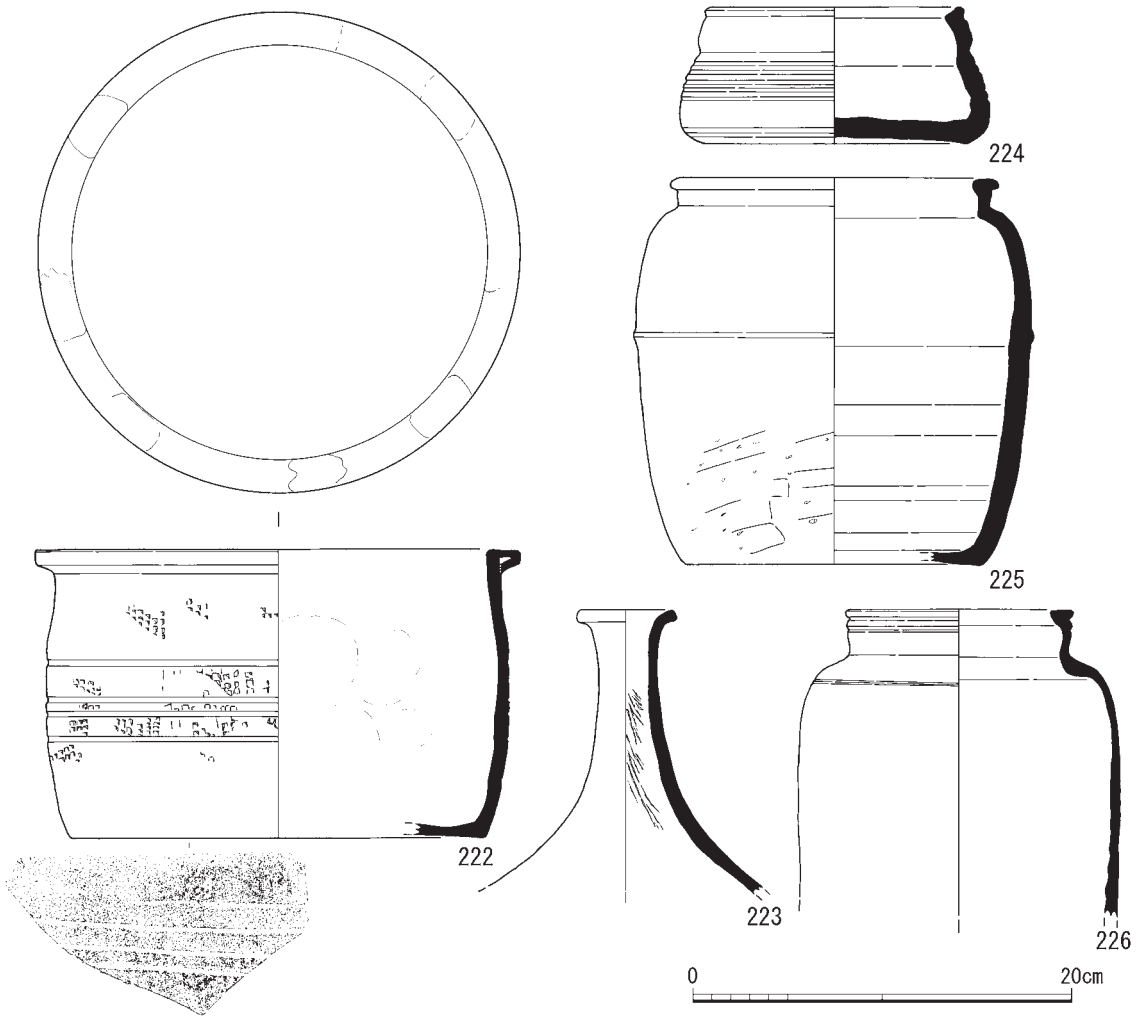
221は京都系の陶器皿である。結文形に型成形し、三足を貼り付ける。内面には赤や緑の顔料で蔓草文を上絵付する。軟質の陶器である。土中での経年変化により、文様などが劣化しているのが惜しまれるが、京焼の早期の製品であり、貴重な資料といえる。いわゆる「古清水」と呼ばれる陶器である。

222は焼締陶器の鉢である。外面は格子タタキ後ナデ調整で、胴部中央に四条の沈線がめぐる。口縁端部は折り返して平坦になっており、貝目跡が残る。肥前系の陶器もしくは朝鮮半島系の陶器とみられる。223は焼締陶器瓶である。頸部が細く長い。口縁端部は外反して丸く終わる。備

前系の陶器とみられる。224は焼締陶器の鉢である。胴部は内傾して立ち上がり、上部でくびれる。くびれ部分の下に櫛描きの沈線文がめぐる。口縁端部は内傾した平面となる。南蛮陶器を模倣した備前系の陶器とみられ、底部に扇形の窯印がある。茶道具の建水とみられる。225は焼締陶器壺である。胴部は嚢形で、中央上部寄りに稜がめぐる。口縁端部は左右に延びる。丹波系の陶器とみられる。226はヴェトナム産の長胴壺である。胴部はほぼ直立する。口縁部はほぼ直立して立ち上がり、端部付近でくびれ、端部は平面である。胎土は緻密である。この形態の壺は、切溜花入として茶道具として用いられているものがある。

ＳＫ1c261（第94図227・228）　227・228は瀬戸美濃系陶器の青織部平向付である。それぞれ同形・同文である。平面形は、四角の一角を蹴込ませた鈎形である。底部には半環状の脚を三か所に貼り付ける。両端部に織部釉を施し、中央の掛け外し部分に梅樹文を鉄絵で描く。17世紀初頭頃のものとみられる。下層から出土した。

ＳＫ1c263（第94図229）　229は青花磁器皿である。口縁部が鍔状に広がる中国製の大皿で、器胎は薄い。いわゆる芙蓉手である。見込みの幾何学的な文様は、肥前磁器の古九谷手に通じる

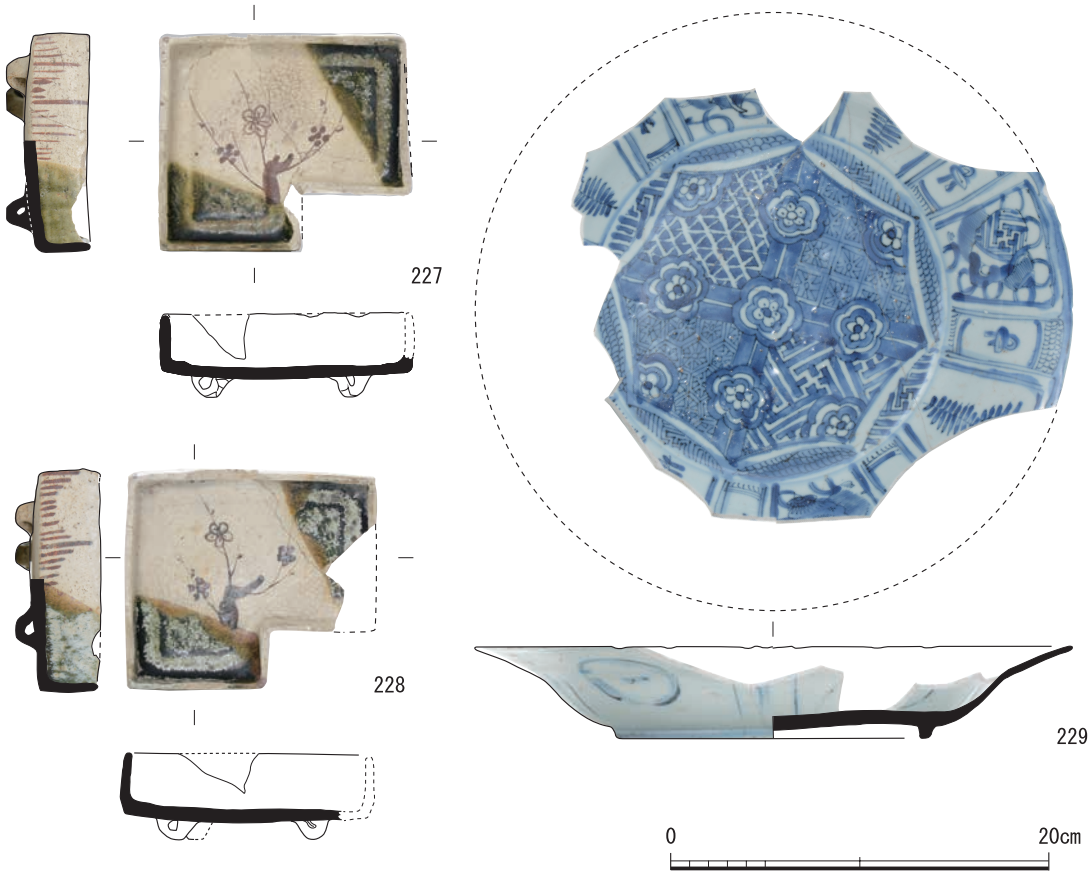


第93図　第２面出土遺物実測図(10)

ものがあり、肥前磁器に影響を与えたものとみられる。17世紀初頭頃のものとみられる。３層から出土した。

攪乱1b43・ＳＫ1c09・10・1b203-3（第95図230～233）　230～233は南北土坑群から出土した焼締陶器の桶形容器である。大きさに相異はあるが、器形は基本的にほぼ同様である。筒形の胴部上に狭い肩部があり、口縁部がほぼ直立して立ち上がる。あるいは被せ蓋が伴うものともみられる。胴部と肩部の境に小さめの横耳が四方に付く。底部は、232のように、かなり盛り上がっているものと考えられる。いわゆる上底である。焼き締めはやや甘く、器胎はやや粗である。国産ではないと考えられるが、産地については不明である。器の大きさに比して器壁は薄めであり、朝鮮半島製の可能性は考えられるが、彼の地での類例は不明である。大阪市にも出土例があることをご教示いただいた。いずれにしても、この容器は、何らかの交易品の容器として搬入されたものとみられる。230・233は攪乱1b43から、231はＳＫ1c09・10から、232はＳＫ1b203-3から出土した。

ＳＥ2a57（第96図234・235）　234は焼締陶器系の桶形容器である。筒形の胴部で上部がややすぼまる。口縁部は外反させて、さらに内側に折りたたみ、端部を肥厚させる。底部はほぼ平坦とみられる。内外面に褐釉を施す。焼成は堅緻である。胴部の上部に太く大きい横耳を付す。胴部上部及び中央部と下部に沈線がめぐる。内面には同心円タタキ痕がみられる。胎土や器形などか



第94図　第２面出土遺物実測図(11)

ら、国産ではないものと考えられる。横耳の形状や釉調などからタイ産の可能性が考えられるが、産地は不明である。何らかの交易品の容器として搬入されたものとみられる。

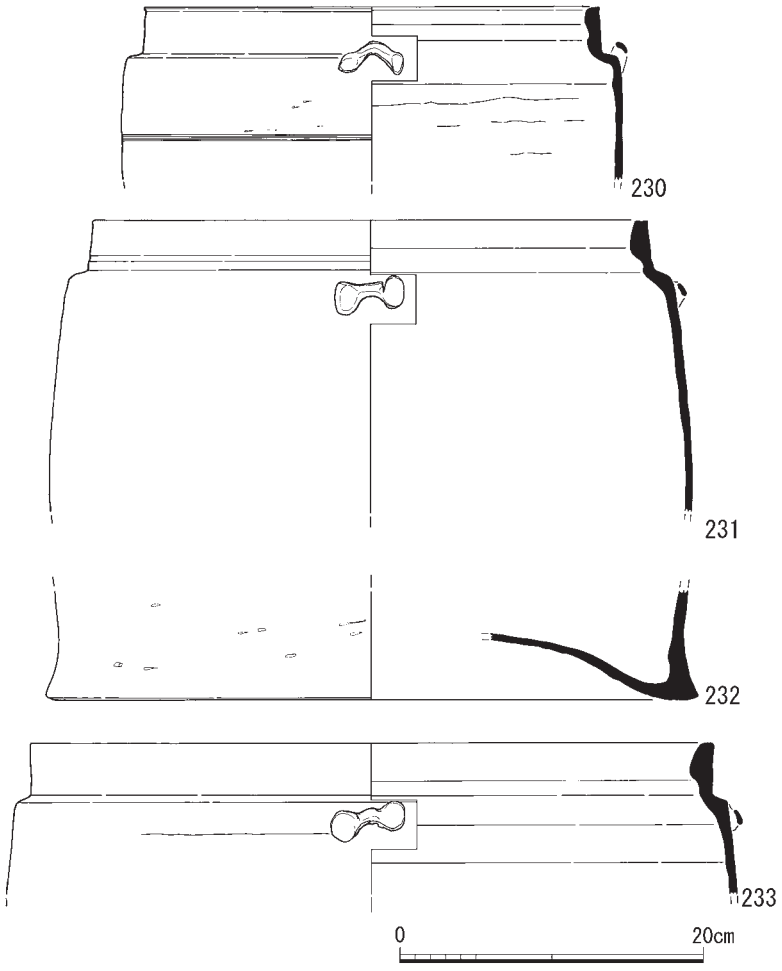
235は焼締陶器の桶形容器である。230～233の桶形容器と同様の器形や胎土である。容器の全容がわかる資料である。何らかの交易品の容器として搬入されたものとみられる。

ＳＥ3b129（第97図237～243）　237～241は土師器皿である。237は径5.2cmの小型のもの、238～241は径9.8～11.6cmの中型のものである。16世紀後半頃のものとみられる。

242・243は肥前系の陶器皿である。内面に鉄釉で草文などを描いており、いわゆる絵唐津である。口縁端部をユビオサエして平面形を輪花状にする。243には胎土目跡が残る。16世紀末から17世紀初頭頃のものとみられる。

ＳＫ2b290（第97図244～251）　244～247は土師器皿である。244～246は径10.7～11.6cmの中型のもの、247は径13.5cmのやや大型のものである。16世紀後半頃のものとみられる。248は土師器焼塩壺の身である。筒状の器形で、口縁部がややすぼまる。249は瓦質土器の平仄の一部とみられる。被せ蓋を伴うものである。

250は肥前系の陶器小瓶である。外面に菖蒲文などの草花文を鉄釉で描いており、いわゆる絵

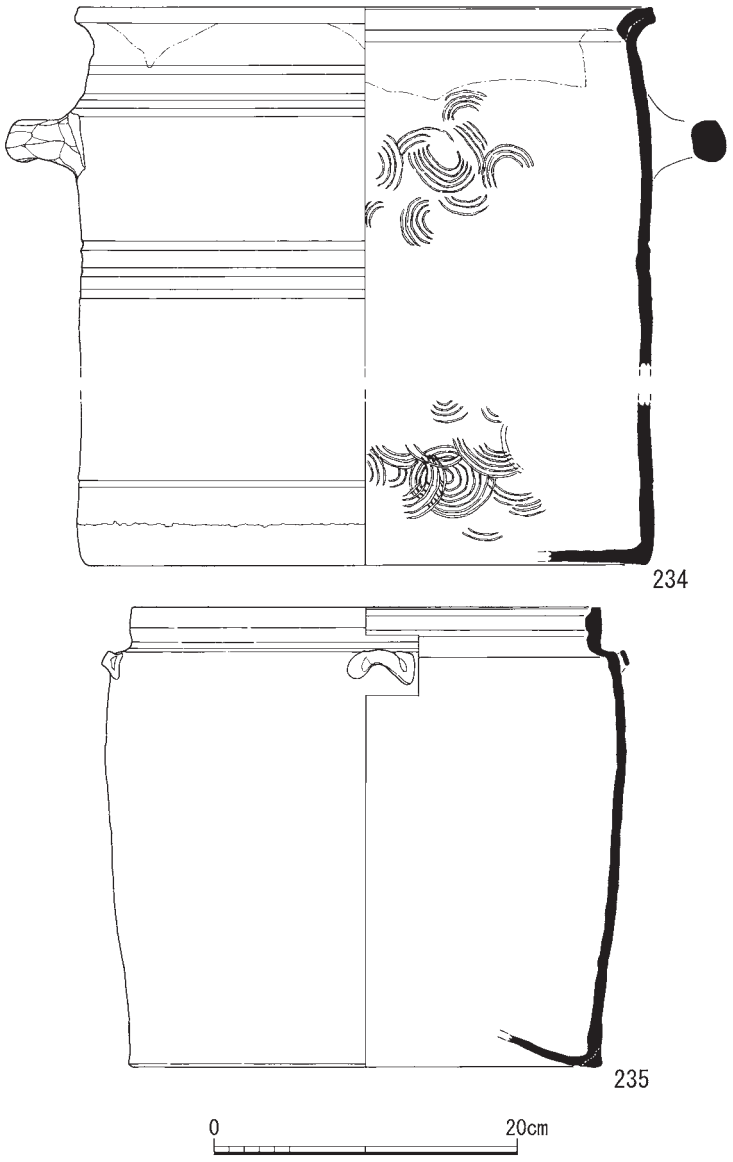


第95図　第２面出土遺物実測図(12)

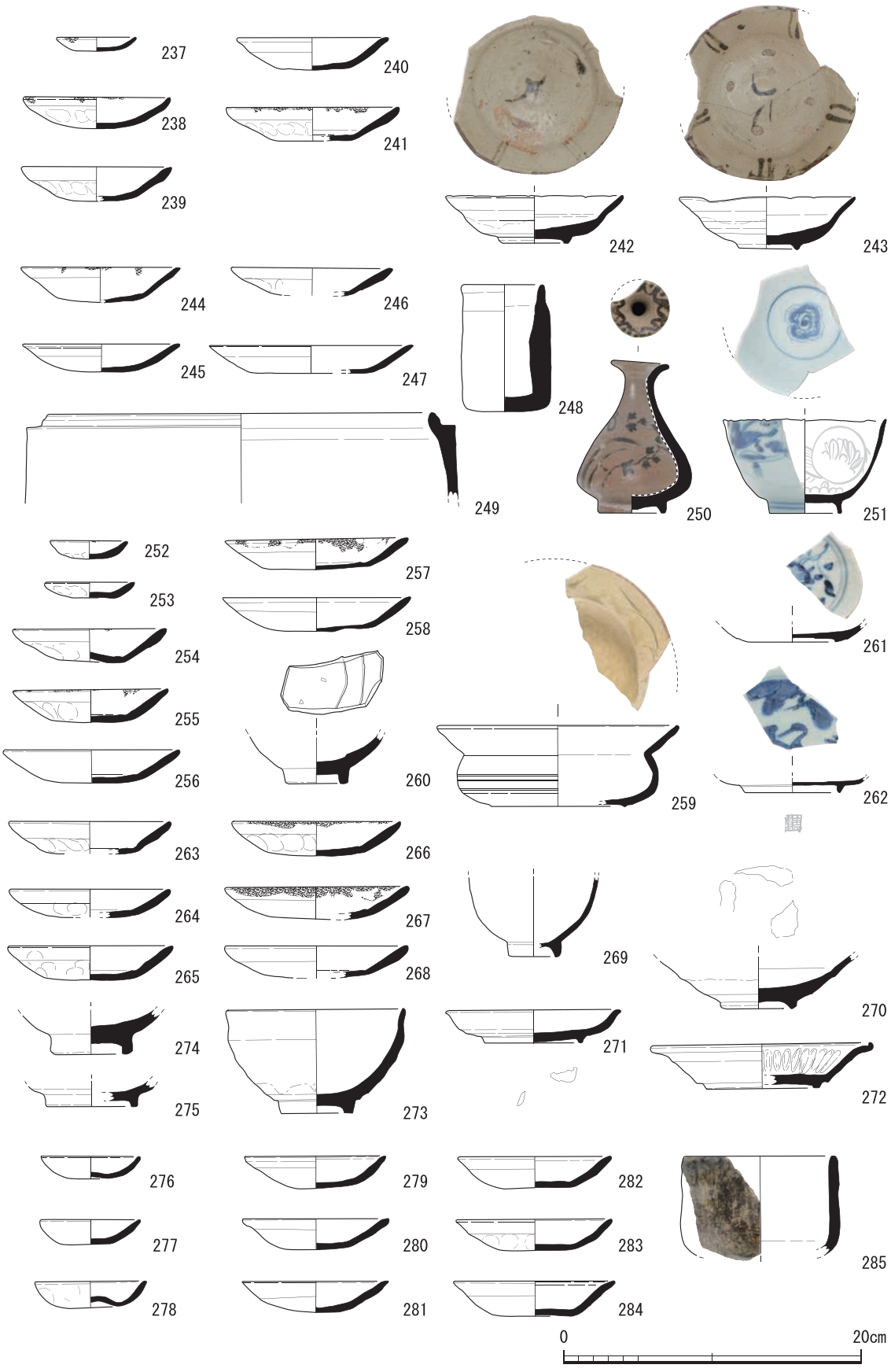
唐津である。口縁端部にも花弁状の文様を描く。16世紀末から17世紀初頭頃のものとみられる。251は青花磁器椀である。口縁端部を輪花形に成形する。外面上半部に草花文、見込みに花文を描く。内面側縁部には円花文や花弁文などを印刻する。中国景徳鎮系のものとみられる。

ＳＫ2b173（第97図252～262）　252～258は土師器皿である。252・253は径5.5cm前後の小型のもの、254～255は径10.2～11.7cmの中型のもの、256･257は径12.5cm前後のやや大型のものである。16世紀後半から17世紀にかけてのものである。259は瀬戸美濃系陶器の黄瀬戸鉢である。扁平な壺形を呈する。口縁部に線刻で草文を表す。16世紀末から17世紀初頭頃のものとみられる。

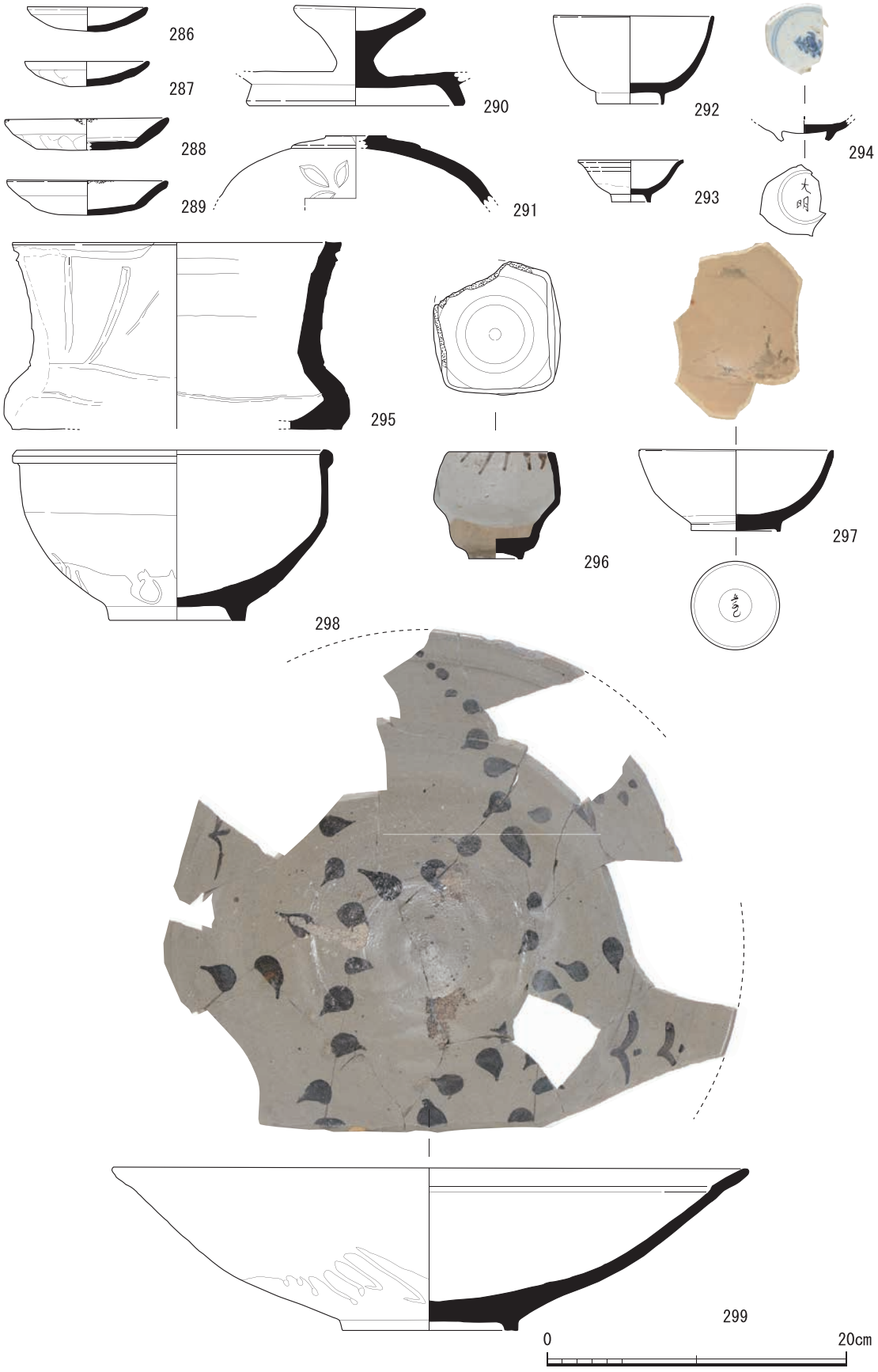
260は中国製の白磁椀である。見込みに円刻をもち、目跡が残る。内面側縁部に花文などを型押しする。261は青花磁器皿である。底部は碁笥底で、その内側をさらに蛇の目状に削る。見込みに花文を描く。262は青花磁器皿である。器胎は薄手である。見込みに鶴文を描く。高台に砂粒が付着する。高台内に角銘を描く。断面に漆継の痕跡が残る。景徳鎮系のものとみられる。



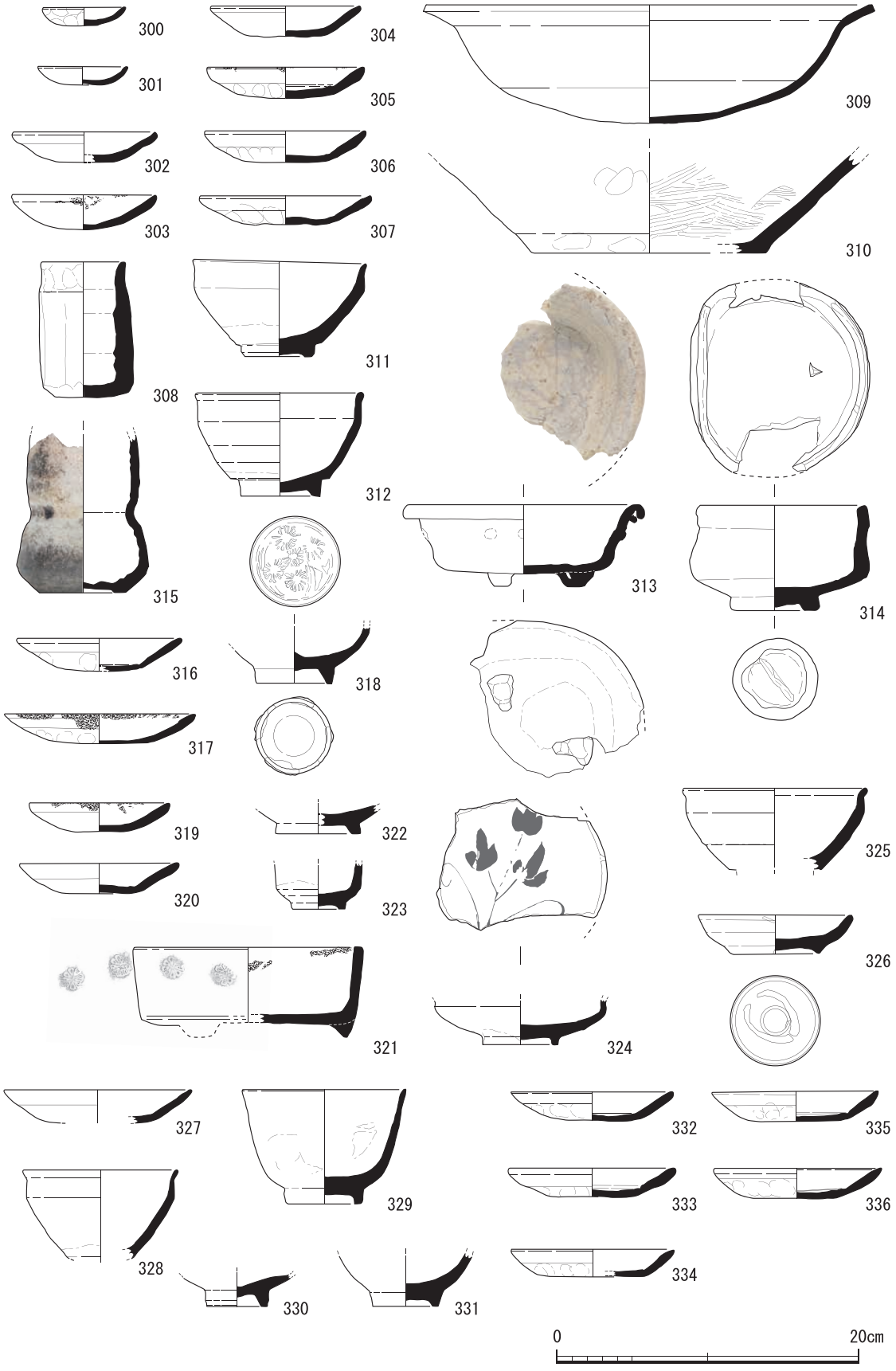
第96図　第２面出土遺物実測図(13)



第97図　第２面出土遺物実測図(14)



第98図　第２面出土遺物実測図(15)



第99図　第２面出土遺物実測図(16)

ＳＫ3b32（第97図263～275）　263～268は土師器皿である。径10.7～12.2cmの中型のものである。16世紀末から17世紀にかけてのものとみられる。269は肥前系陶器椀とみられる。高台際を削り込んでおり、竹節高台状になる。270は肥前系の陶器皿である。見込みに砂目の痕跡が残る。271は瀬戸美濃系陶器の志野皿である。口縁端部がわずかに外反する。無文である。272は瀬戸美濃系陶器の灰釉皿である。口縁部をほぼ水平に折り返し、端部をわずかにつまみ上げる。内面側縁部を菊花状に削る。16世紀末頃のものとみられる。273は瀬戸美濃系陶器の天目椀である。体部がやや丸味をもっており、16世紀末から17世紀初頭頃のものとみられる。274・275は中国製の青磁椀である。274は見込みが無釉である。15世紀頃のものか。

ＳＫ3a450（第97図276～285）　276～284は土師器皿である。丸みをもった器形のもの（276・277）、底部が盛り上がるもの（278）、平坦な底部から口縁部が斜め上方に立ち上がるもの（279～284）がある。282～284は径10.4～10.8cmの中型のものである。16世紀後半頃のものとみられる。

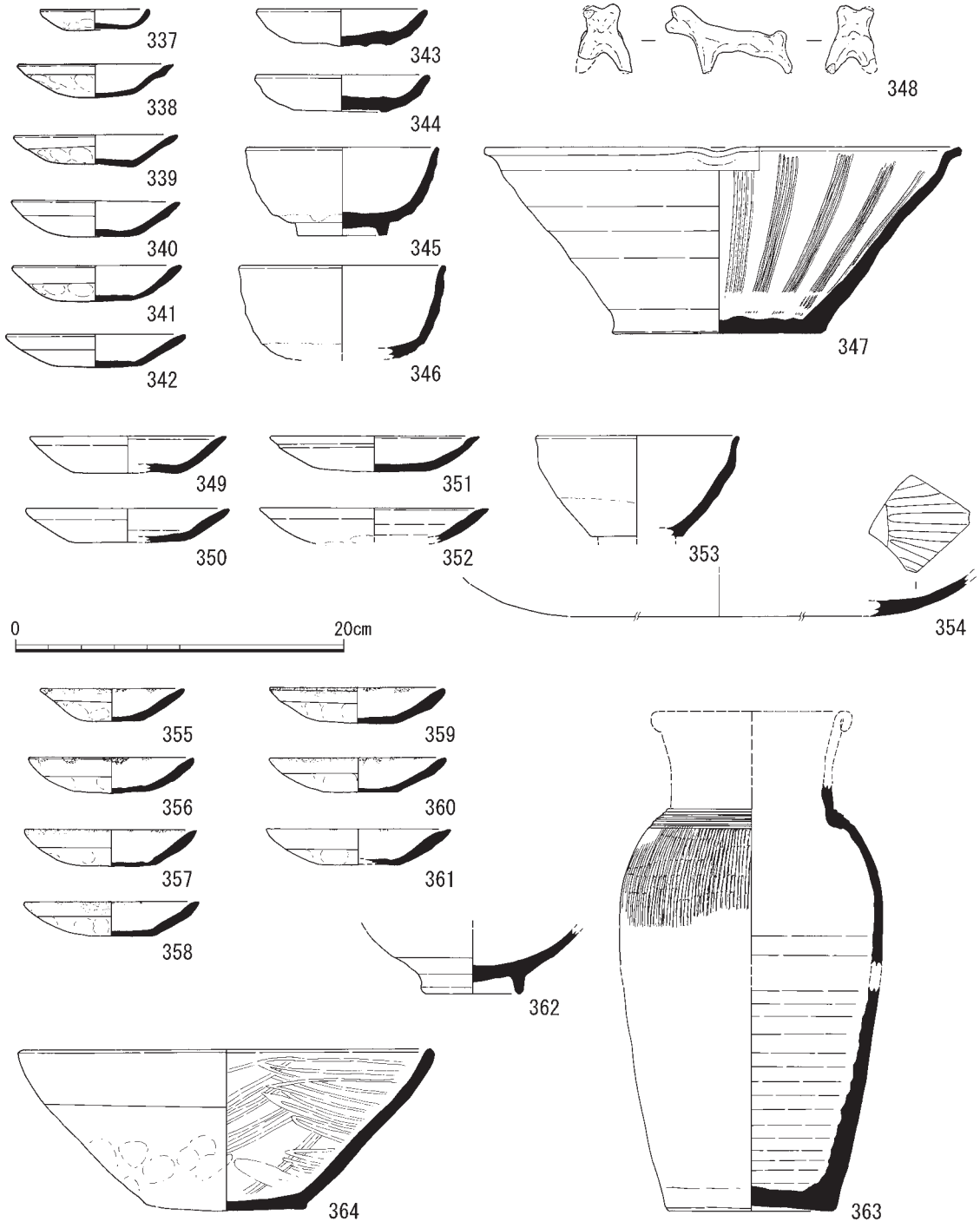
285は京都系の軟質陶器椀である。半筒状の形状とみられる。成形は手捻りである。黒褐色釉を施すが、低火度焼成のため、土中での経年変化で銀化している。胎土は聚楽土とみられ、いわゆる広義の「楽焼」である。つまり、この器は「黒楽茶椀」と言える。なお、この椀については、当代楽吉左衛門氏及びご家族からご教示をいただいた。

ＳＫ3a139（第98図286～299）　286～289は土師器皿である。286・287は径８cm前後のやや小型のもの、288・289は径10.8cm前後の中型のものである。17世紀のものとみられる。290は土師器平仄である。灯明皿を置く脚台が残る。291は土師器蓋とみられる。平仄などの灯火具に伴うものか。木葉形の透かしをもつ。

292は肥前系の白磁椀である。器胎は薄手に成形されており、17世紀後半のものである。293は中国製の白磁小椀である。口縁端部が外反する。294は青花磁器椀である。高台は内傾気味である。見込みに花文を描き、高台内に「大明」の書き銘をもつ。295は肥前系の陶器水指である。高取産とみられる。胴部を歪ませており、ヘラ彫りなど、大胆な作為がうかがえる茶道具である。296は肥前系の陶器筒向付である。鉄釉で施文しており、いわゆる絵唐津である。筒形に丸くロクロ整形した後、上半部を方形に歪ませて成形する。懐石用の器である。17世紀前期のものである。297は肥前系の陶器椀である。内面には呉須で山水文を描き、高台内に「清水」の印銘をもつ。いわゆる京焼系肥前陶器で、17世紀後半のものである。298は肥前系の陶器鉢である。片口の可能性もある。高台際と口縁端部以外に鉄釉を施す。17世紀中葉頃のものである。299は肥前系の陶器大皿である。内面に簡略化した蔓草文や飛雁文を鉄釉で描く、いわゆる絵唐津である。高台に砂目跡が残る。17世紀初頭前後のものである。

ＳＫ3b204（第99図300～315）　300～307は土師器皿である。300・301は径5.5cm前後の小型のもの、302～307は径9.5～11.3cmの中型のものである。17世紀のものか。308は土師器焼塩壺の身である。筒形の器形で、口縁部がややすぼまる。309は土師器鍋である。丸く立ち上がった胴部から口縁部が屈曲して鍔状に広がる。310は瓦質土器鉢である。内面はていねいにミガキ調整される。外面にはユビオサエの痕跡が残る。

311・312は瀬戸美濃系陶器の天目椀である。311は、やや厚手の器胎や高台の形状から、16世紀末から17世紀初頭頃のものとみられる。312は、薄手で直線的な胴部の立ち上がりや、高めに直立する口縁部の形状などから、17世紀のものとみられる。313は瀬戸美濃系陶器の志野向付である。平面形は方形状とみられる。見込みには鉄絵で草花文を描いているが、長石釉が厚く、明瞭ではない。外面に円形浮文をもつ。底部には半環状の脚を貼り付ける。314は瀬戸美濃系陶器の黒織部沓茶椀である。鉄釉の掛け外し部分に蕨手文や幾何学文を描く。高台内に一文字のヘラ



第100図　第２面出土遺物実測図(17)

彫りがある。17世紀初頭から前期頃のものである。315は信楽系もしくは伊賀系の陶器花入である。瓢形の器形である。被熱のためか、釉調はくすんでいる。

ＳＫ3b141（第99図316～318） 316・317は土師器皿である。径11cm前後の中型のものである。底部と口縁部の境に圏線があり、17世紀のものとみられる。318は肥前系の陶器椀である。見込みに１＋４個の印花文がある。印花文は白土で象嵌される。17世紀前半のものである。

ＳＫ3b85（第99図319～326） 319・320は土師器皿である。径10cm前後の中型のものである。321は瓦質土器香炉である。外面に花文を押印する。

322は中国製の白磁椀である。やや太めの高台をもつ。323は肥前系の陶器小椀である。筒状の器形である。324は肥前系の陶器鉢である。内面に鉄絵で草花文を描く。いわゆる絵唐津である。16世紀末から17世紀初頭頃のものである。325は瀬戸美濃系陶器の天目椀である。16世紀末頃のものとみられる。326は瀬戸美濃系陶器の灰釉丸皿である。高台内重ね焼きのための道具の痕跡が残る。16世紀後半のものとみられる。

ＳＫ3b327（第99図327～331） 327は土師器皿である。径12.4cmを測る。328は瀬戸美濃系陶器の天目椀である。口径に比して器高が高めであり、17世紀のものとみられる。329～331は肥前系の陶器椀である。329は体部が外開き気味に立ち上がる。高台畳付にも施釉する。330は高台が竹節状である。331は高台畳付にも施釉する。これらの肥前系の陶器椀は17世紀前半頃のものとみられる。

ＳＫ3b384（第99図332～336） 332～336は土師器皿である。口径は10.9～11.1cmである。底部と口縁部の境に圏線をもつもので、17世紀のものである。

ＳＫ1a55（第100図337～348） 337～342は土師器皿である。337は径6.9cmのやや小型のもの、338～342は径9.4～10.6cmの中型のものである。343・344は瀬戸美濃系陶器の灰釉丸皿である。見込みは重ね焼きのために無釉となる。高台内には窯道具の痕跡が残る。16世紀後半頃のものとみられる。345は瀬戸美濃系陶器の灰釉丸椀である。16世紀後半頃のものとみられる。346は瀬戸美濃系陶器の鉄釉丸椀である。16世紀後半頃のものか。347は信楽系の陶器擂鉢である。内面には櫛状工具で５本単位の擂り目を引く。16世紀後半頃のものとみられる。348は土師質の犬形土製品である。

ＳＸ1a107（第100図349～354） 349～352は土師器皿である。径12.0～14.0cmのやや大型のものである。353は瀬戸美濃系陶器の天目椀である。体部が直線的に立ち上がっており、口径に対する器高が高めであり、17世紀のものとみられる。354は中国製の青磁皿である。内面側縁部を細い花弁状に削り込む。15世紀頃のものか。

ＳＫ3a192（第100図355～361） 355～361は土師器皿である。355は径8.8cmのやや小型のもの、356～361は径10.0～11.2cmの中型のものである。16世紀後半頃のものとみられる。

ＳＸ3a200（第100図362・363） 362は中国製の青磁椀である。細く高めの高台をもつ。363はヴェトナム産の焼締陶器壺である。長胴壺である。頸部は残存していないが、類例を参照すると、長めになるとみられる。肩部に縄簾文をもつ。16世紀から17世紀にかけての南蛮貿易の交易品の

容器とみられる。

ＳＸ3a202（第100図364）　364は瓦質土器の鉢である。平坦な底部から体部が斜め上方に立ち上がる。口縁部は湾曲気味になり、口縁端部は丸く終わる。内面はミガキ調整、外面にはユビオサエの痕跡が残る。

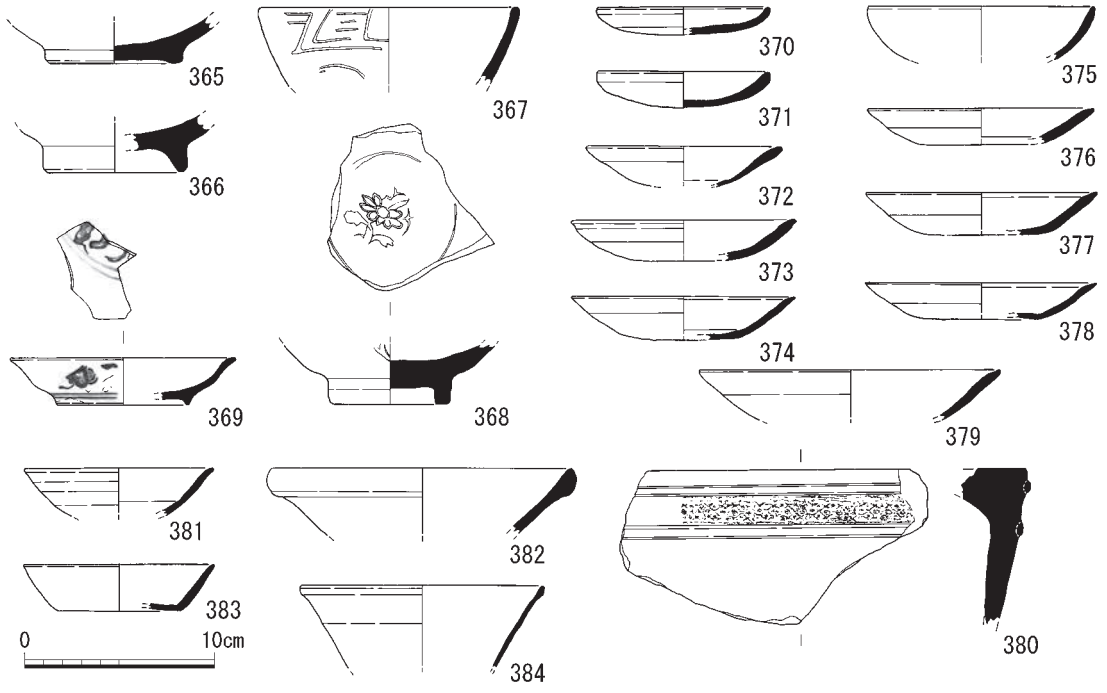
（引原茂治）

３）室町時代（第３面）の土器

堀Ａ（第101図365～384）　365～369は堀Ａ堆積土の第１層にあたる砂礫層から出土した遺物である。いずれも輸入陶磁器である。365・366は白磁椀である。367は青磁椀である。口縁部外面に雷文を施す。368は青磁椀の底部である。見込みに草花文を印刻する。全面に施釉し、高台内を蛇の目に釉剝ぎする。369は青花磁器皿である。体部外面に草花文を描く。

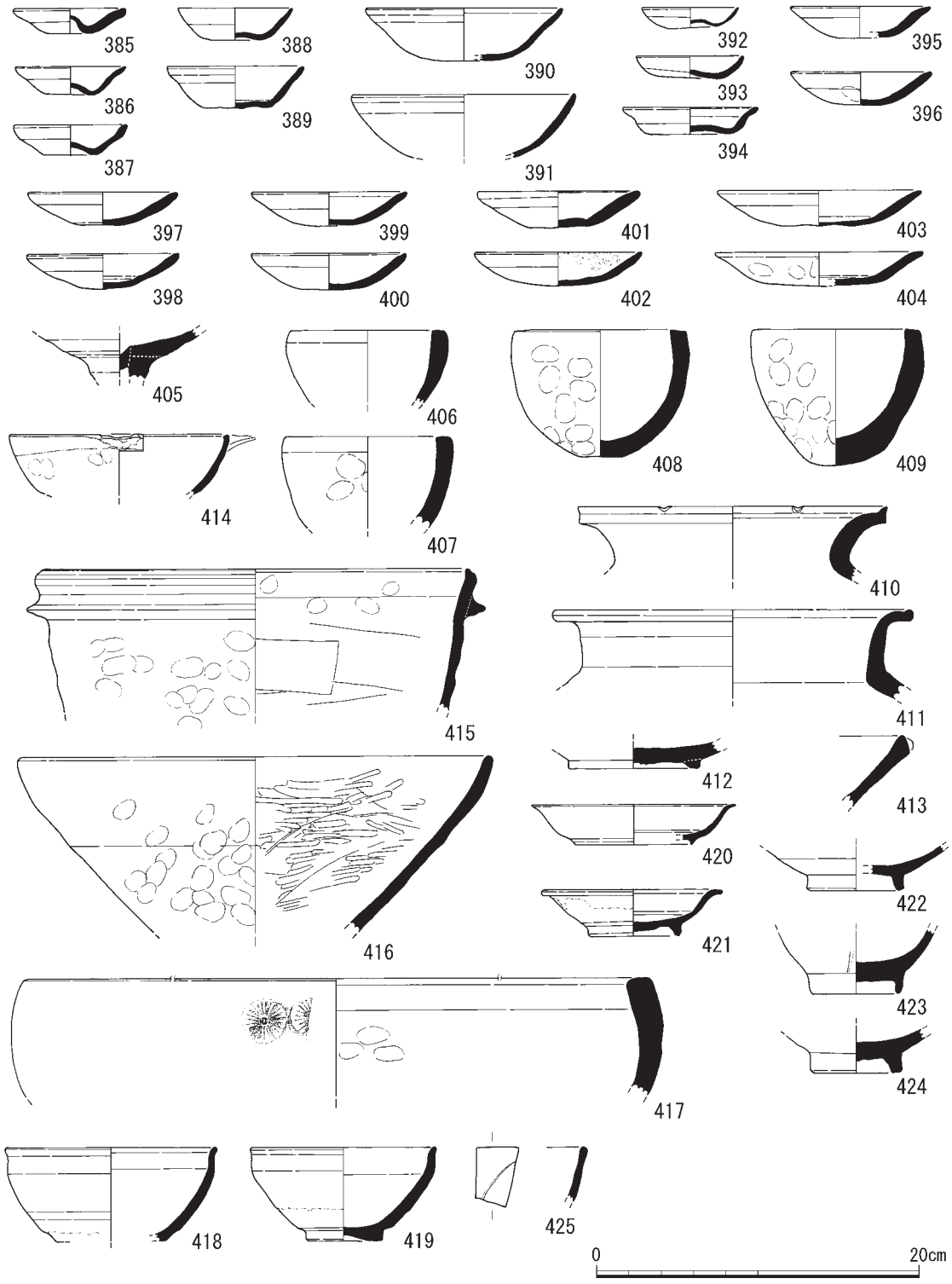
370～384は堆積土第２層にあたる粘土層から出土した遺物である。370～379は土師器皿である。370・371など時代の古いものが混じるが、16世紀第４四半期頃のものとみられる。380は瓦質土器浅鉢である。平面方形で、口縁部を内側に拡張し、上方に面をつくる。口縁部外面には２条の突帯を貼り付けし、その内側に襷文を押印する。381・382は中国製白磁椀である。381の口縁部はわずかに外反し、外面はヨコナデが強く残る。内面は体部と底部の境界に沈線がめぐる。382は白磁Ⅳ類椀である。口縁部を折り返し玉縁になる。383は中国製白磁皿である。口縁端部の釉を掻き取る口禿の皿である。384は陶器で、椀とみられる。器壁は薄く体部はわずかに外反する。口縁端部は肥厚し、玉縁状になる。胎土は精良である。

堀Ｂ（第102・103図385～429）　385～404は土師器皿である。385～387はいわゆる「へそ皿」である。405は土師器高杯である。脚部と口縁部を欠損する。406～409は土師器丸底小鉢である。



第101図　第３面出土遺物実測図（１）

外面をユビオサエ調整し、口縁端部をヘラ切りする。内面はていねいに磨かれる。内面は黒色化し、外面底部付近に煤が付着する。410は須恵器の甕である。口縁端を上方につまみ上げ、外側に面をつくる。内面はヨコナデし、頸部外面はタタキ後、ナデ消す。東播系の製品と考えられる。口縁端部には、角材状の工具を斜め方向から押し当てたような逆三角形の窪みが１か所認められ

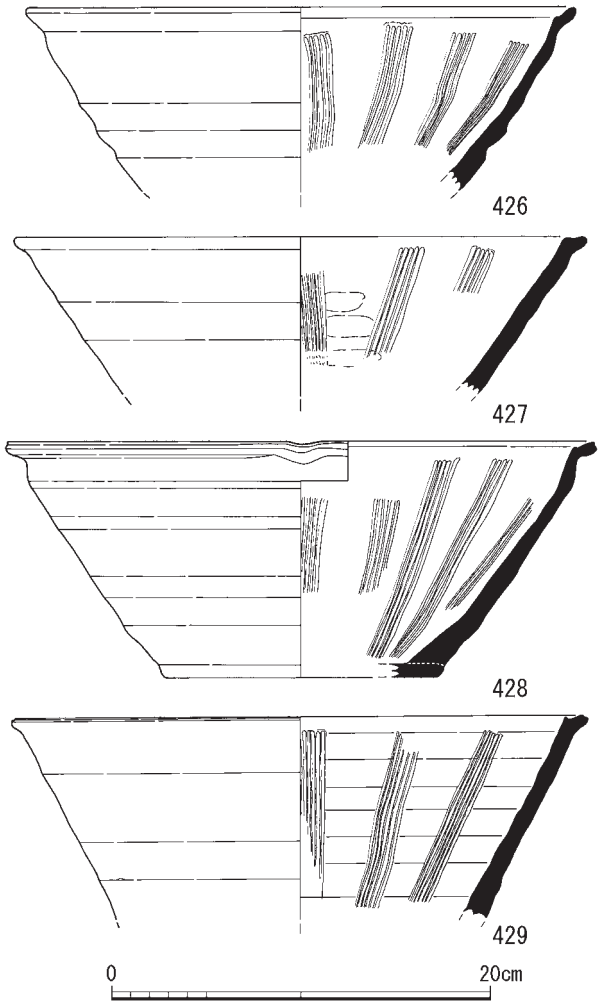


第102図　第３面出土遺物実測図（２）

る。411は須恵器甕である。頸部が直線的に上方に立ち上がり、口縁部が外に開く。口縁端部は内側に折り返す。412は山茶椀である。口縁部を欠損する。413は東播系須恵器鉢である。口縁端部は断面三角形を呈する。414は瓦質土器の鍋である。注口が付く。415は瓦質土器羽釜である。口縁端部を内側上方につまみ上げる。416は瓦質土器鉢である。外面をユビオサエ・ナデ、内面に斜め方向のヘラミガキを施す。417は瓦質土器浅鉢である。外面口縁部付近に花文のスタンプを押印する。418・419は瀬戸美濃系陶器天目椀である。

420～425は輸入陶磁器である。420は青花磁器皿である。内面口縁端部に１本、見込みに２本の染付圏線がめぐる。高台内は露胎である。421は白磁皿である。高台内は露胎で、見込みを円形に釉剝ぎする。422～424は白磁椀である。口縁部を欠損する。422の釉薬は光沢がある。425は青磁蓮弁文椀である。426～429は陶器擂鉢である。いずれも信楽焼である。426～428は５条１単位の擂り目をもち、16世紀前葉から中葉の様相を呈する。429は６条１単位の擂り目をもち、16世紀末の様相を呈する。

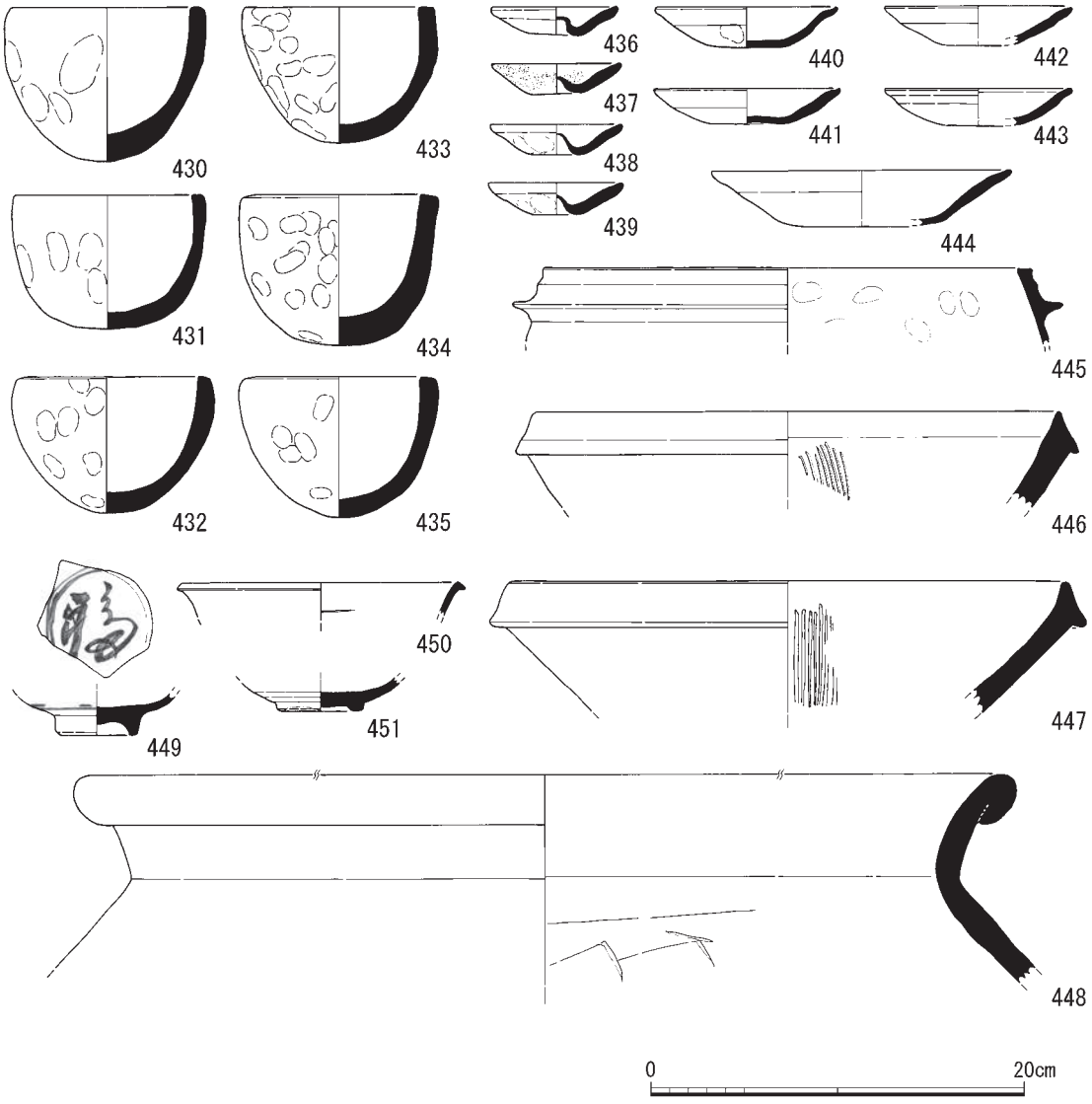
ＳＫ2b414（第104図430～435）　430～435は土師器丸底小鉢である。外面はユビオサエで成形



第103図　第３面出土遺物実測図（３）

する。口縁端部はヘラケズリし、面をつくる。内面はていねいに磨かれる。内面は黒色化し、口縁端部に煤が付着する。

ＳＫ2a427（第104図436～451） 436～444は土師器皿である。436～439は底部を押し上げるいわゆる「へそ皿」である。口径は6.6～7.4cmを測る。440～443は口径10.0cm前後、444は口径16.0cmを測る。445は瓦質土器羽釜である。体部は内傾し、口縁部に２段の強いヨコナデを施す。446・447は備前焼擂鉢である。446は、口縁部を下方に拡張し、断面三角形を呈する。447の口縁部はやや内湾する。448は備前焼甕である。口縁部は折り返して玉縁になり、肩部付近まで自然釉がかかる。体部外面と口縁部をヨコナデし、体部内面にヘラケズリを施す。449～451は輸入陶磁器である。449は青花磁器椀である。高台脇に２本の染付圏線を描き、見込みに２本の染付圏線とその中に「福」字を描く。450･451は白磁椀である。451は､口縁部が外反する端反椀である。底部のみが残存する。高台は低く、抉り込みになる。これらの土器は15世紀後半頃のものとみられる。

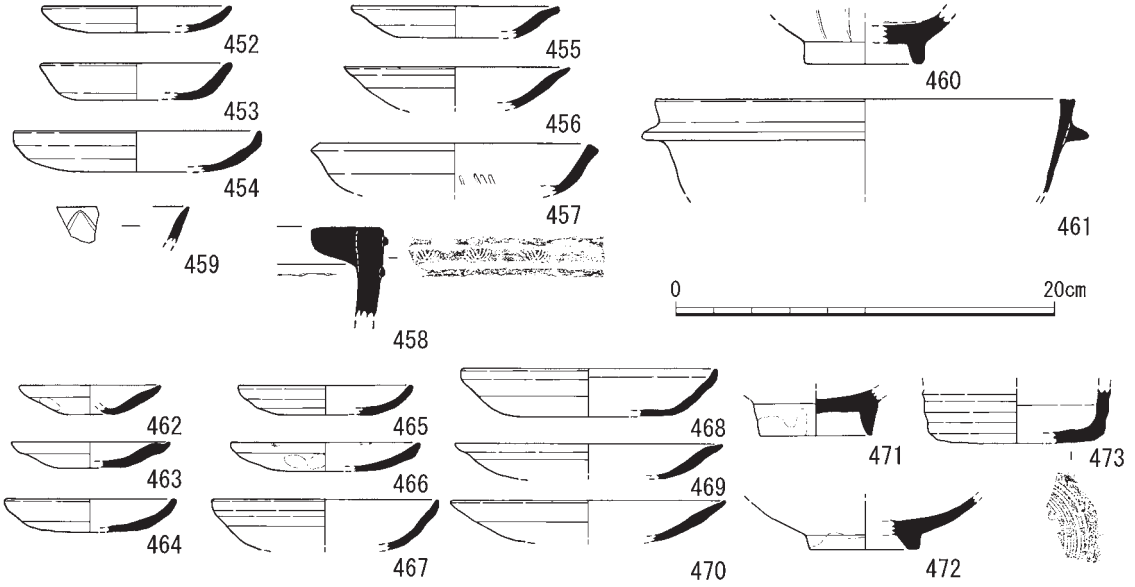


第104図　第３面出土遺物実測図（４）

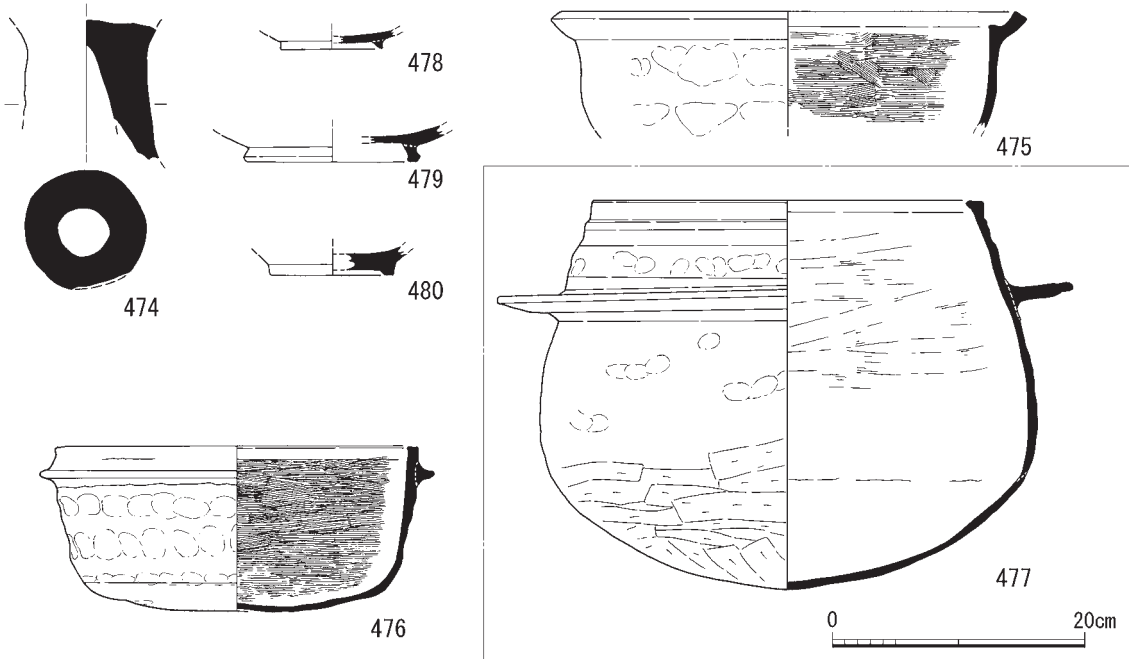
ＳＡ1b341（第105図452～459）　452～456は土師器皿である。457は古瀬戸卸皿である。458は、瓦質土器浅鉢である。平面方形で、口縁端部は内側に延び、上方に面をつくる。口縁部外面に２条の突帯が付き、その内側に花文のスタンプを押印する。459は、中国製青磁蓮弁文椀である。

ＳＥ1b219（第105図460・461）　460は、中国製青磁蓮弁文椀である。461は、瓦質土器羽釜である。

ＳＤ2b522（第105図462～473）　462～470は土師器皿である。471・472は中国製白磁椀である。



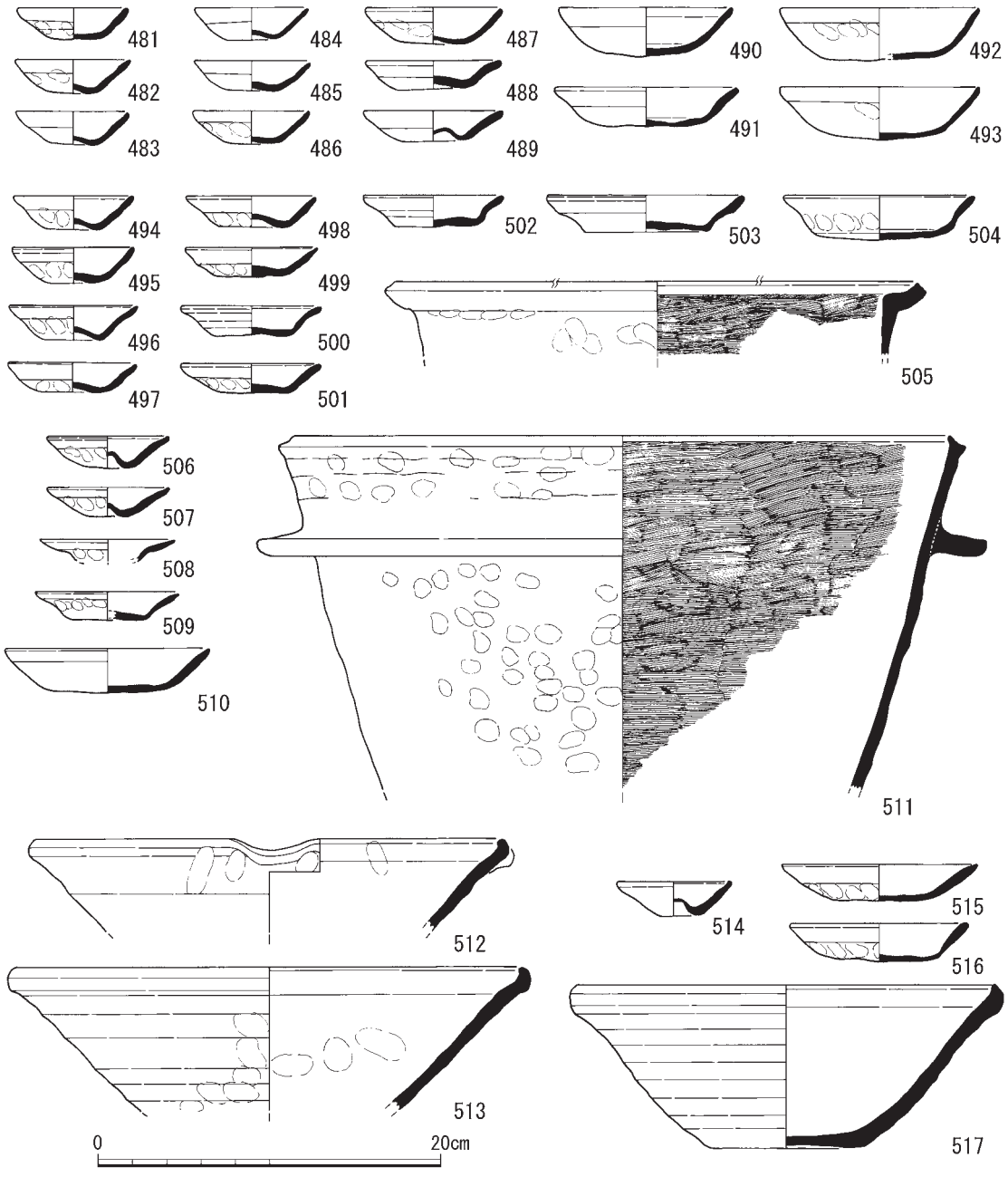
第105図　第３面出土遺物実測図（５）



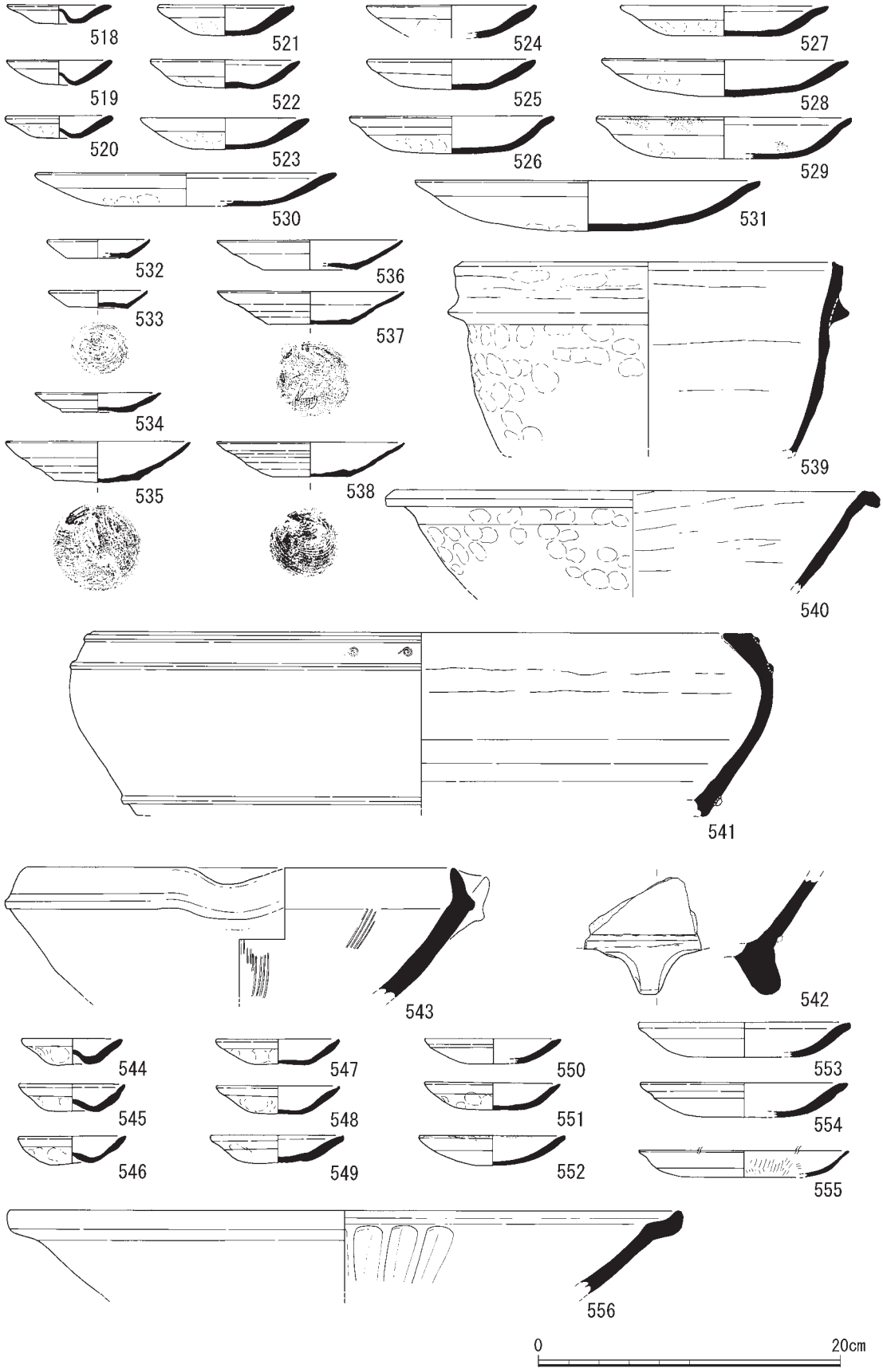
第106図　第３面出土遺物実測図（６）

472は底部から体部が外側へ大きく開く。473は瀬戸美濃系陶器の底部である。底部は糸切りし、外面に灰釉を施す。

ＳＫ3a772（第106図474～480）　474は土師器高杯の脚部である。475～477は瓦質土器である。475は鍋である。口縁部は外側に折り曲げる。外面はユビオサエ・ナデ、内面はハケで調整する。口縁部と体部外面に煤が付着する。476・477は羽釜である。476は、平底で体部は直立気味に立ち上がる。口縁直下に幅の狭い鍔が付く。体部外面をユビオサエ、体部内面をハケで調整する。477は丸底で、体部は内傾する。口縁部外面にヨコナデにより段をつくる。外面底部と内面をハケで調整し、体部上方に幅の広い鍔を貼り付けする。478・479は灰釉陶器椀である。480は中国



第107図　第３面出土遺物実測図（７）



第108図　第３面出土遺物実測図（８）

製白磁Ⅳ類椀である。

ＳＫ2a516（第107図481～493）　481～493は土師器皿である。481～489は口径6.3～8.0cm、490～493は口径10.1～11.6cmを測る。

ＳＫ1a125（第107図494～505）　494～504は土師器皿である。494～502は口径7.0～8.0cm、503・504は口径11cm前後である。505は瓦質土器鍋である。体部外面はユビオサエ・ナデ、内面はハケで調整する。口縁部はヨコナデする。口縁部は外側に折り返し、やや内湾する。15世紀中頃のものである。

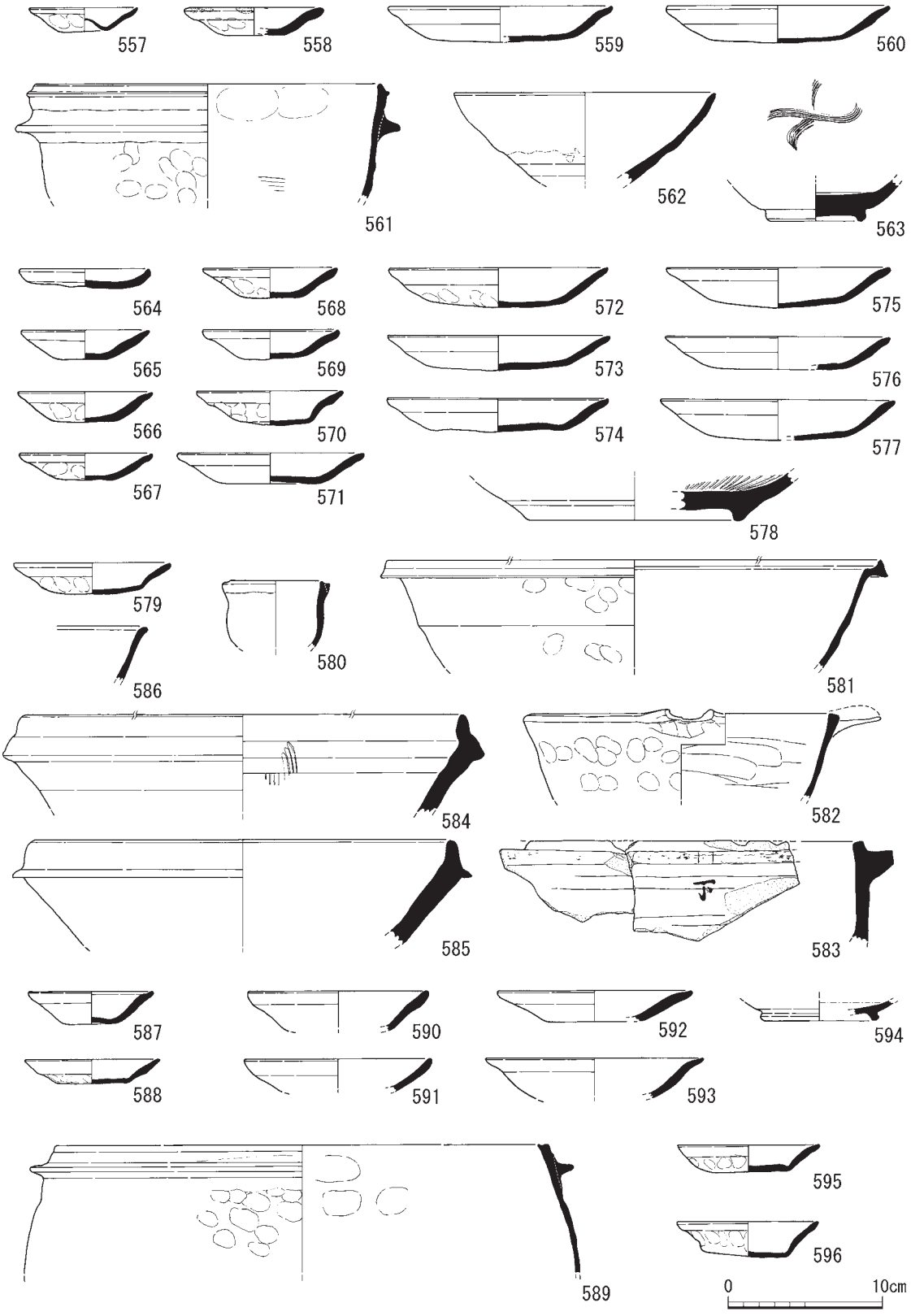
ＳＫ2a655（第107図506～513）　506～510は土師器皿である。511は瓦質土器羽釜である。体部は外側に開き、断面方形の鍔をやや下向きに貼り付ける。口縁端部はヨコナデにより、凹状になる。外面は口縁部をヨコナデ、体部をユビオサエで成形する。内面には細かなハケメを施す。512・513は東播系須恵器鉢である。体部は直線的で、口縁部は内側に巻き込み玉縁状になる。13世紀後半頃のものである。

ＳＫ3a91（第107図514～517）　514～516は土師器皿である。514はいわゆる「へそ皿」である。517は東播系須恵器片口鉢である。体部はやや丸みを帯び、口縁部はわずかに上下に拡張する。13世紀前半頃のものである。

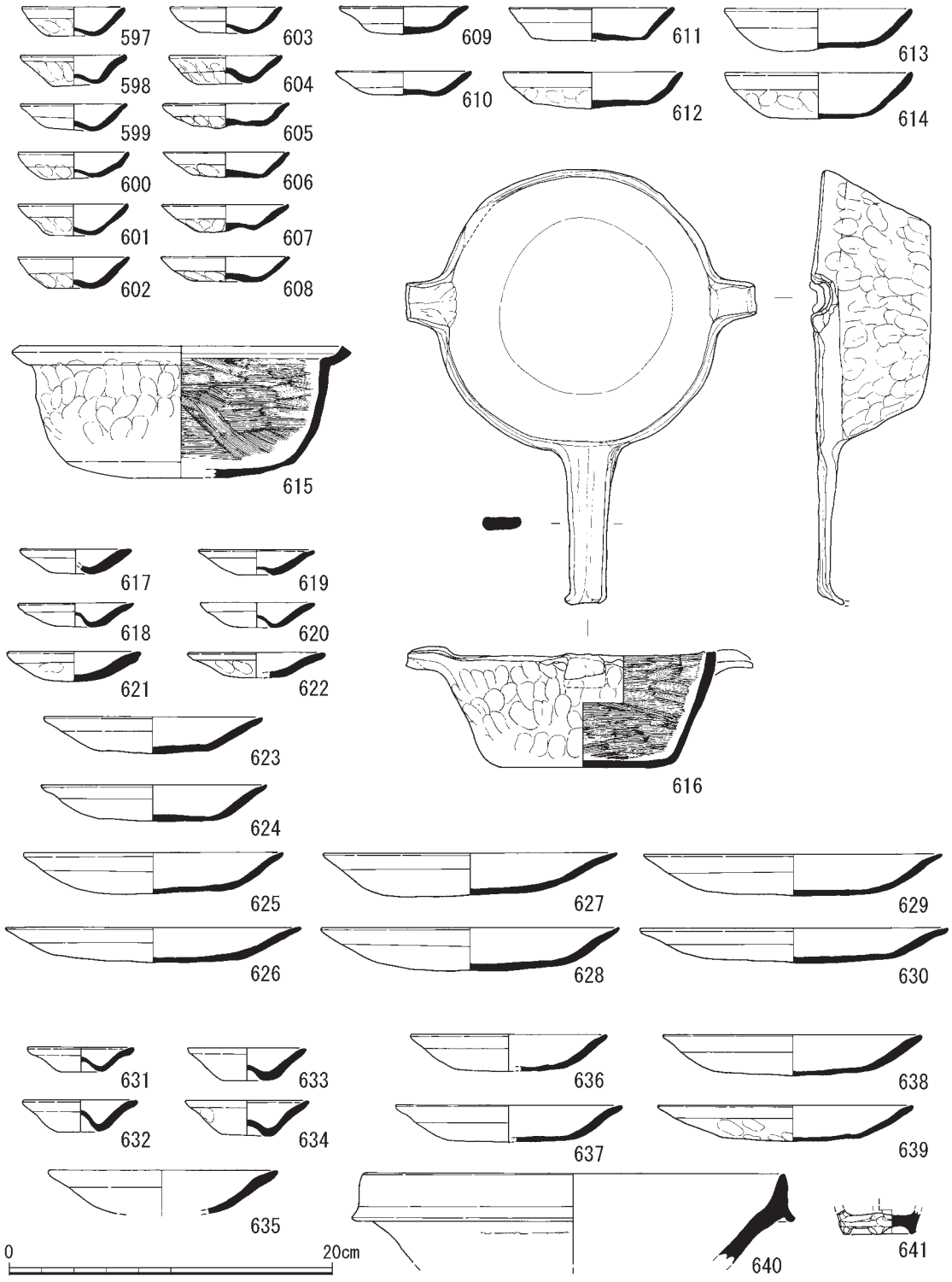
ＳＫ2a716（第108図518～543）　518～538は土師器皿である。518～520はいわゆる「へそ皿」である。口径は6.8cm前後である。529は口縁部外面と、底部内面に煤が付着する。530・531は大型の皿で口径20cm以上になる。532～538はロクロ成形し、底部を糸切りする土師器皿である。器壁は薄く、回転ナデによる凹凸が明瞭に残る。白色の精良な胎土で、大内氏関連遺跡で出土する土師器皿の特徴と一致する。大内Ⅲ期にあたるとみられる(注2)。539・540は瓦質土器である。539は羽釜である。体部外面はユビオサエ、口縁部をヨコナデで調整し、内面は不定方向のナデを施す。鍔は断面三角形で、やや下を向く。540は鍋である。体部外面をユビオサエ、内面をナデで調整する。口縁部は外側に折り曲げ、やや肥厚する。体部外面に煤が付着する。541は瓦質土器浅鉢である。平面円形で、腰部付近に１条、口縁部に２条の突帯を貼り付ける。口縁部の突帯の内側には渦巻文のスタンプを押印する。口縁部は肥厚し、上方に面をつくる。外面にミガキを施す。542は瓦質土器浅鉢の脚部である。腰部付近に１条突帯を貼り付けた痕跡が残る。541と同一個体の可能性が考えられる。543は備前焼の擂鉢である。10条１組の擂り目をもつ。

ＳＫ2a705（第108図544～556）　544～554は土師器皿である。544～546は「へそ皿」である。口径は6.6～7.1cmを測る。555は瓦器皿である。器壁は薄く、口縁部はやや外反する。口縁部をヨコナデし、内面には不定方向の櫛目を施す。556は中国製青磁盤である。内面側縁部を花弁状にする。

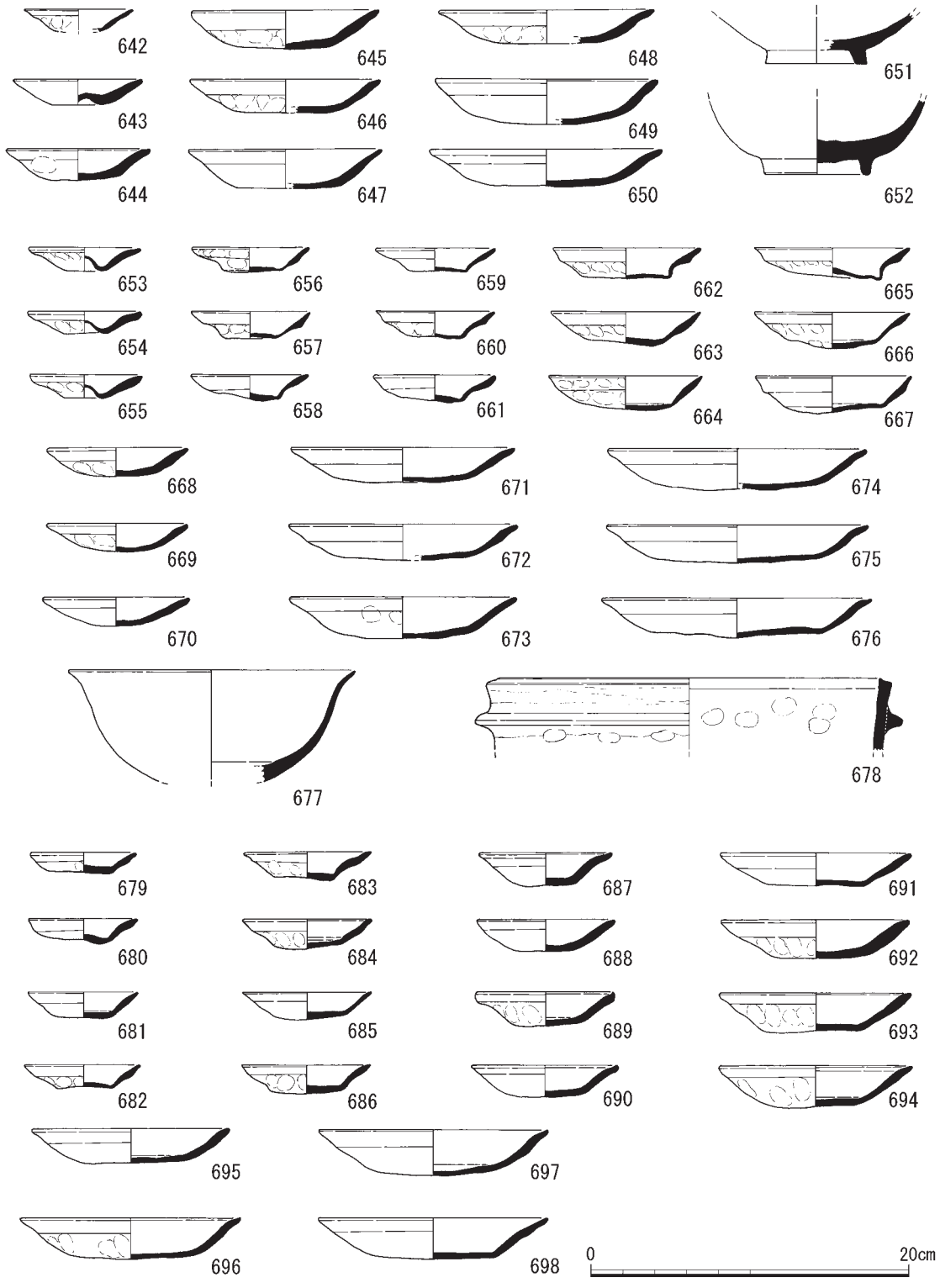
ＳＫ2b468（第109図557～563）　557～560は土師器皿である。561は瓦質土器羽釜である。体部外面はユビオサエ、内面はユビオサエ・ナデ、口縁部をヨコナデで調整する。562は古瀬戸椀である。内面と体部外面中位付近まで灰釉を施す。563は中国製青磁椀である。低い高台が付き、見込みに櫛目文を施す。



第109図　第３面出土遺物実測図（９）



第110図　第３面出土遺物実測図(10)



第111図　第３面出土遺物実測図(11)

ＳＫ2a499（第109図564～578）　564～577は土師器皿である。564は口縁端部が断面三角形を呈する。古い様相を呈し、混ざり込みと考えられる。578は中国製青磁盤である。内面に放射状にヘラ描きし、高台は碁笥底状になる。全面に施釉し、高台内を蛇の目状に釉剝ぎする。

ＳＸ2a515（第109図579～586）　579は土師器皿である。580～582は瓦質土器である。580は、口縁部に断面三角形を呈する狭い鍔を貼り付けしており、羽釜のミニチュアと考えられる。体部は内外面共にユビオサエ・ナデで調整する。581は鍋である。口縁部は外側に折り曲げた後、上方に拡張し、口縁端部は断面三角形を呈する。582は把手付鍋である。583は瓦質土器深鉢とみられる。平面方形を呈するとみられ、口縁部直下に断面方形の鍔を貼り付ける。鍔の下部に「下」と朱書する。584･585は備前焼の擂鉢である。擂り目が摩滅している。586は中国製青磁椀である。口縁部がわずかに外反する。

ＳＫ2a442（第109図587～589）　587・588は土師器皿である。589は瓦質土器羽釜である。体部外面はユビオサエ、内面はナデ、口縁部はヨコナデで調整する。体部は内傾し、口縁部付近に幅の狭い鍔を貼り付けする。

ＳＫ2a550（第109図590～594）　590～593は土師器皿である。594は灰釉系陶器の椀である。

ＳＫ3a310（第109図595・596）　595・596は土師器皿である。

ＳＫ1a192（第110図597～616）　597～614は土師器皿である。597～604はいわゆる「へそ皿」である。底部の指頭圧は弱く、体部は外反する。615は瓦質土器鍋である。口縁部をヨコナデし、下部はユビオサエで成形する。体部内面には細かなハケメを施す。口縁部は外側に折り曲げ、口縁端部に面をつくる。外面と内面底部には煤が付着する。616は瓦質土器鍋である。把手を１か所、注口を２か所に貼り付ける。外面は体部をユビオサエで成形し口縁部をヨコナデする。内面にはハケを施す。14世紀後半頃のものである。

ＳＫ3b344（第110図617～630）　617～630は土師器皿である。617～621はいわゆる「へそ皿」である。口径7.0cm前後である。625～630は口径15.0cm以上の大皿で、口縁部が外反する。

ＳＫ3a404（第110図631～635）　631～635は土師器皿である。631～634はいわゆる「へそ皿」である。口径6.6～7.6cmを測る。

ＳＫ2b397（第110図636～641）　636～639は、土師器皿である。640は備前焼擂鉢である。口縁部は上方と下方に拡張する。15世紀中ごろのものである。641は中国製青磁である。全面に施釉する。灯明の火皿を置く灯台とみられる。茶道具の「夜学蓋置」として転用されたものと考えられる。体部に４か所の透かしを入れ、底部は４か所に足をつけるとみられる。

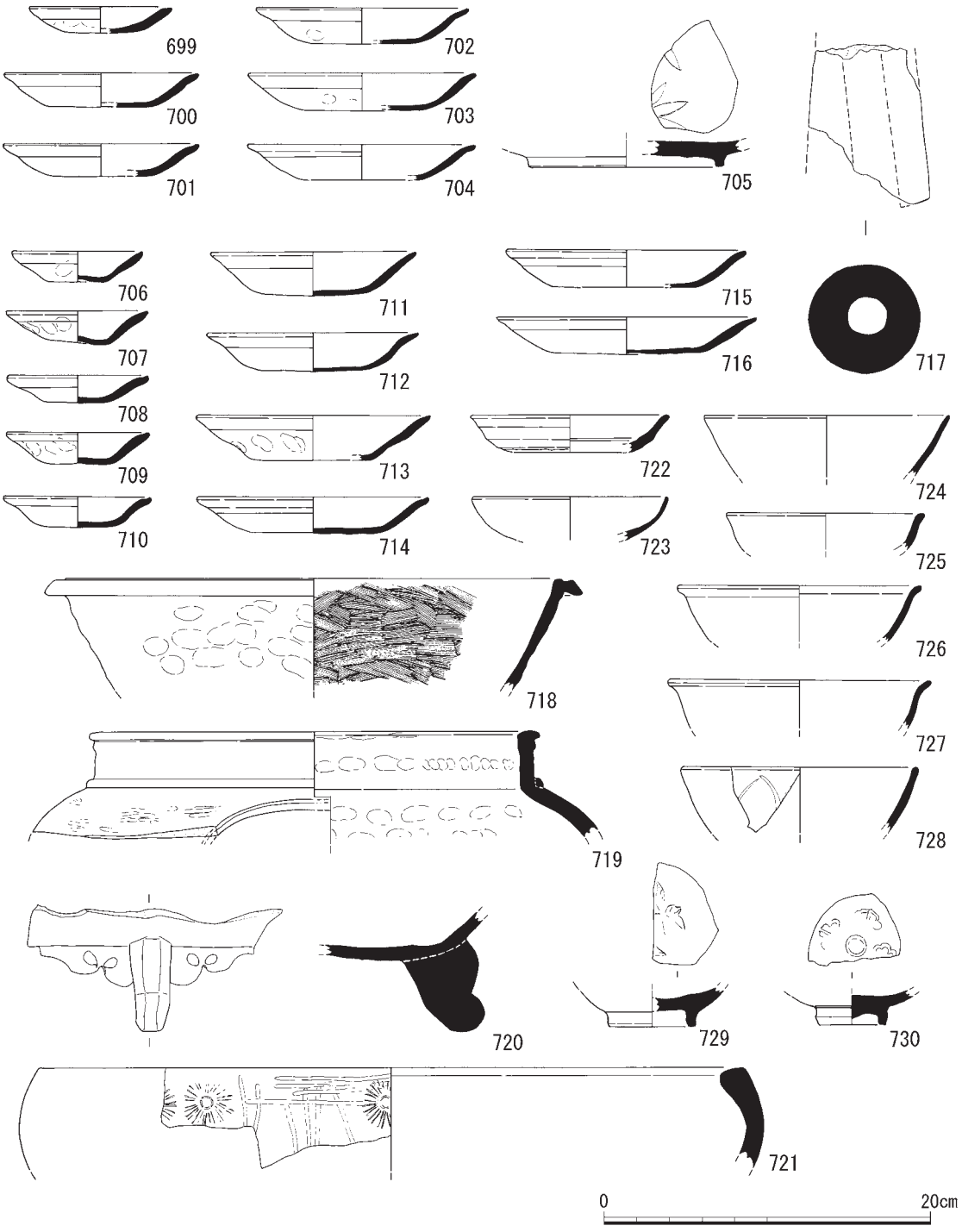
ＳＸ2a254（第111図642～652）　642～650は土師器皿である。651は中国製白磁椀である。口縁部を欠損する。652は中国製青磁椀である。口縁部を欠損する。無文で、高台内は露胎である。

ＳＫ2b280（第111図653～678）　653～676は土師器皿である。653～655はいわゆる「へそ皿」で、口径7.0cm前後である。656～661は、口径7.0～7.5cm、662～667は口径9.5cm前後、668～670は9.0cm前後、671～676は14.0～16.8cmを測る。677は中国製白磁椀である。口縁部が外反する。678は瓦質土器羽釜である。断面方形の狭い鍔を貼り付けする。

ＳＫ2a343（第111図679～698）　679～698は土師器皿である。679～686は口径6.6～8.0cm、687～690は口径8.2～9.0cm、691～695は口径12.0cm前後、696～698は口径14.0cm前後である。

ＳＫ2b103（第112図699～705）　699～704は土師器皿である。705は中国製青磁皿である。底部内面に劃花文を描く。全面に施釉し、高台内を蛇の目状に釉剝ぎする。

ＳＫ2b467（第112図706～730）　706～716は土師器皿である。706～710は口径7.9～9.0cm、711・712は12.5cm前後、713～716は口径14.1～15.9cmである。717は土師器高杯の脚部である。



第112図　第３面出土遺物実測図（12）

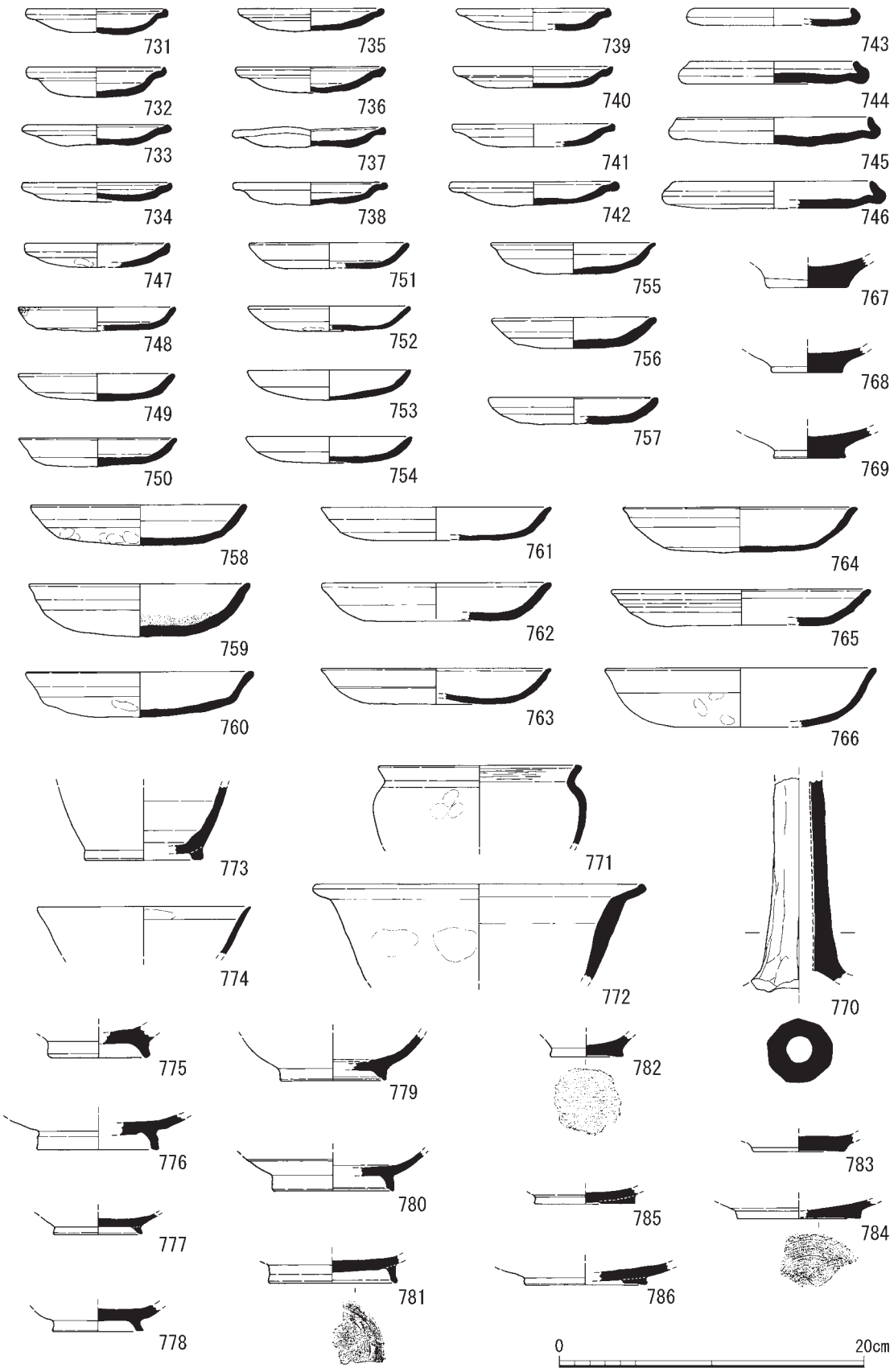
718は瓦質土器鍋である。口縁部を外側下方に折り返す。体部外面をユビオサエ、内面をハケで調整する。口縁部上面はヨコナデにより沈線状の凹みをもつ。719～721は瓦質土器である。719は風炉である。720は浅鉢の脚部である。721は浅鉢である。平面円形の浅鉢で、体部は内湾する。口縁部は内側に肥大し、端部に面をつくる。外面は花文のスタンプを押印した後に、口縁部を横方向、体部を縦方向のヘラミガキを施す。722･723は中国製白磁皿である。722は体部が外反する。723は器壁が薄く、体部が内湾する。釉は白濁色を呈し、細かな貫入が入る。724は中国製白磁椀である。体部は直線的で、口縁部はそのまま終わる。725は中国製青磁皿である。口縁部が外反する。726～730は中国製青磁椀である。726・727は無文の端反椀である。728は蓮弁文椀である。729・730は見込みに花文を印刻する。729は高台内が露胎である。730は釉薬がやや白みがかる。高台接地面と高台内が露胎である。（綾部侑真）

４）平安時代から鎌倉時代（第４面）の土器

ＳＥ2b616（第114～116図731～843）　731～772は土師器である。731～766は皿である。731～742は口縁部がヨコナデによって屈曲するいわゆる「て」の字の皿である。屈曲は緩やかである。743～746はいわゆる「コースター」状の皿である。747は口縁端部が断面三角形を呈する。765・766は大型の皿で口径17.0cm以上になる。767～769は白色土器皿である。いずれも口縁部を欠損する。底部を糸切りする。770は高杯の脚部である。断面八角形を呈する。771は広口壺である。短頸の壺で、体部をユビオサエ成形し、口縁部をヨコナデする。772は甕である。口縁部は外側に折り曲げ、器壁は薄くなる。内外面をユビオサエ・ナデで調整する。

773～786は緑釉陶器である。773は壺である。外面はヘラケズリを施し、内面はヨコナデする。高台は、貼り付けによる輪高台である。774～786は椀である。774は底部を欠損する。口縁部内面に重ね焼きした際の粘土が貼り付く。775～778の高台は、貼り付けによる輪高台である。776は最も大きく高台径は7.8cmを測る。779～781は貼り付けによる輪高台で、高台端部内側に段がつく。781は高台内に糸切り痕が明瞭に残る。782は小型の椀である。底部は平高台で糸切り痕が残る。783・784は削り出しによる平高台である。785・786は貼り付けによる蛇の目高台である。

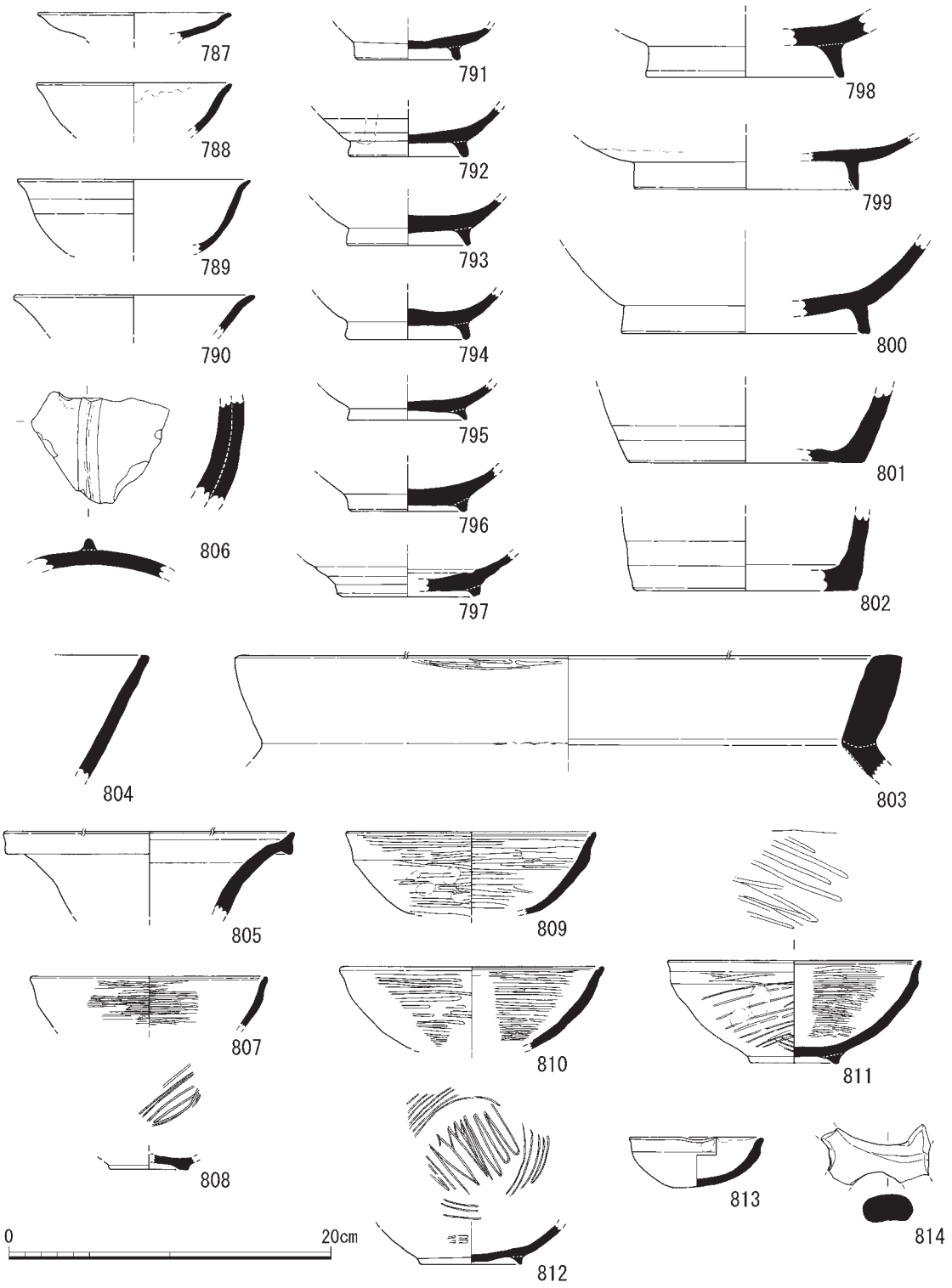
787～806は灰釉陶器である。787は口縁部を外側に折る段皿である。788～800は、椀である。788～790は底部を欠損する。788・789の体部は内湾し、口縁部を外反させる。790の体部は直線的である。791～800は底部のみが残存する。いずれも高台は貼り付けによる輪高台である。791～797は高台径が6.3～8.2cmである。795・796は高台が低くなり、断面は方形を呈する。798～800は高台径12.0cm以上になる。801・802は壺の底部である。内外面を回転ナデで調整する。底部は平坦で、802の体部は直立気味に立ち上がる。803は甕の口縁部である。口縁部は外側に開き、端部に面をつくる。口縁部の器壁は体部よりも厚くなる。回転ナデ・ヘラケズリで調整する。804は鉢である。内外面ともに回転ナデで調整し、体部は直線的で、口縁端部に断面方形を呈する。805は壺である。頸部は外反し、口縁端部は上方・下方に拡張する。内外面共に回転ナデで調整する。806は四足壺である。胴部のみが残存する。内面を回転ナデ、外面をヘラケズリで調整し、



第113図　第４面出土遺物実測図（１）

外面に縦方向の突帯を貼り付ける。

807・808は黒色土器椀である。いずれも内外面ともに黒色化したＢ類である。807は内外面に密なヘラミガキを施す。808は内面底部にジグザグ状の暗文を施す。809～812は瓦器椀である。809～811は樟葉型瓦器椀である。口縁端部に１条の沈線がめぐる。809・810は内外面に密なヘラ

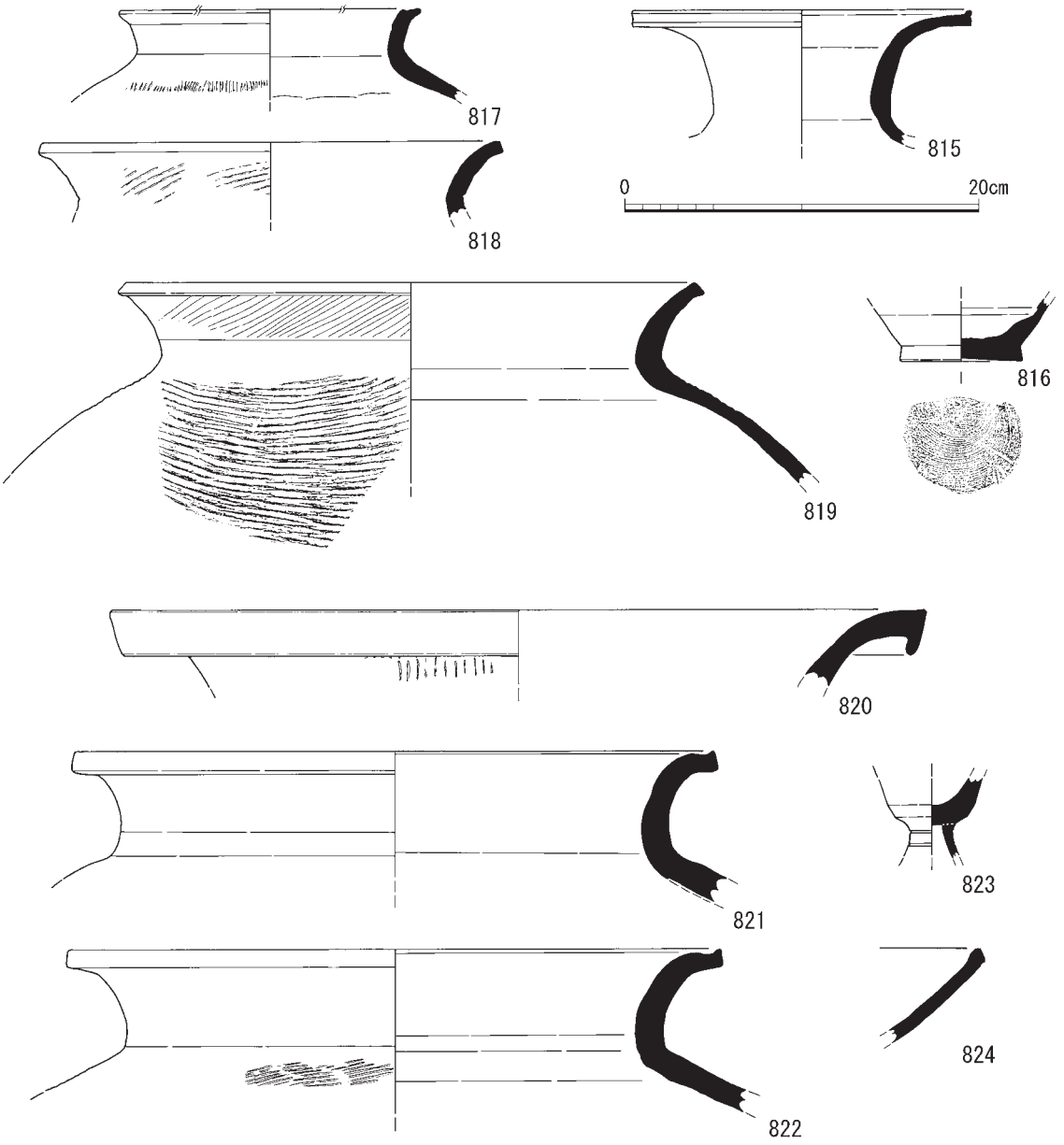


第114図　第４面出土遺物実測図（２）

ミガキを施す。811は外面に斜め方向のヘラミガキ、内面底部にはジグザグ状暗文を施す。812は内面底部にジグザグ状暗文を施す。

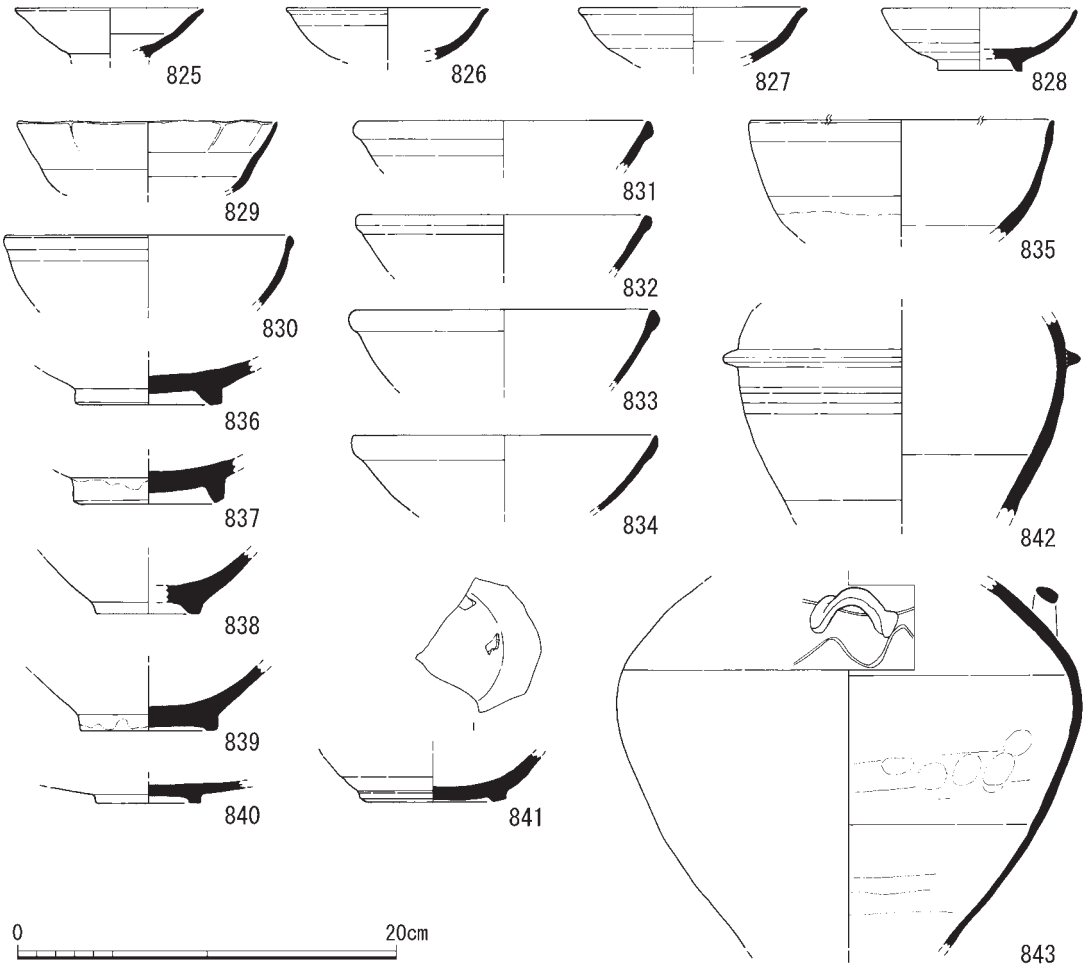
813は土師質の取鍋である。ユビオサエで成形し、内面と口縁部をヨコナデする。器壁は厚く、口縁部は外反する。ユビオサエにより1か所に注口をつくる。内容物は付着していない。814は土馬である。体部のみが残存する。

815～824は須恵器である。815は壺口縁部である。口縁部は外方に開く。口縁端面には上方に向かって立ち上がる形状をしている。頸部は不定方向のナデを施す。自然釉が一部認められ、黒色を呈している。胎土が細微であり、白い筋状の土の流れが認められる。816は壺底部と考えられる。底部外面は糸切りにより、切り離しを行っている。内面はナデで、底部と体部の境で厚み



第115図　第４面出土遺物実測図（３）

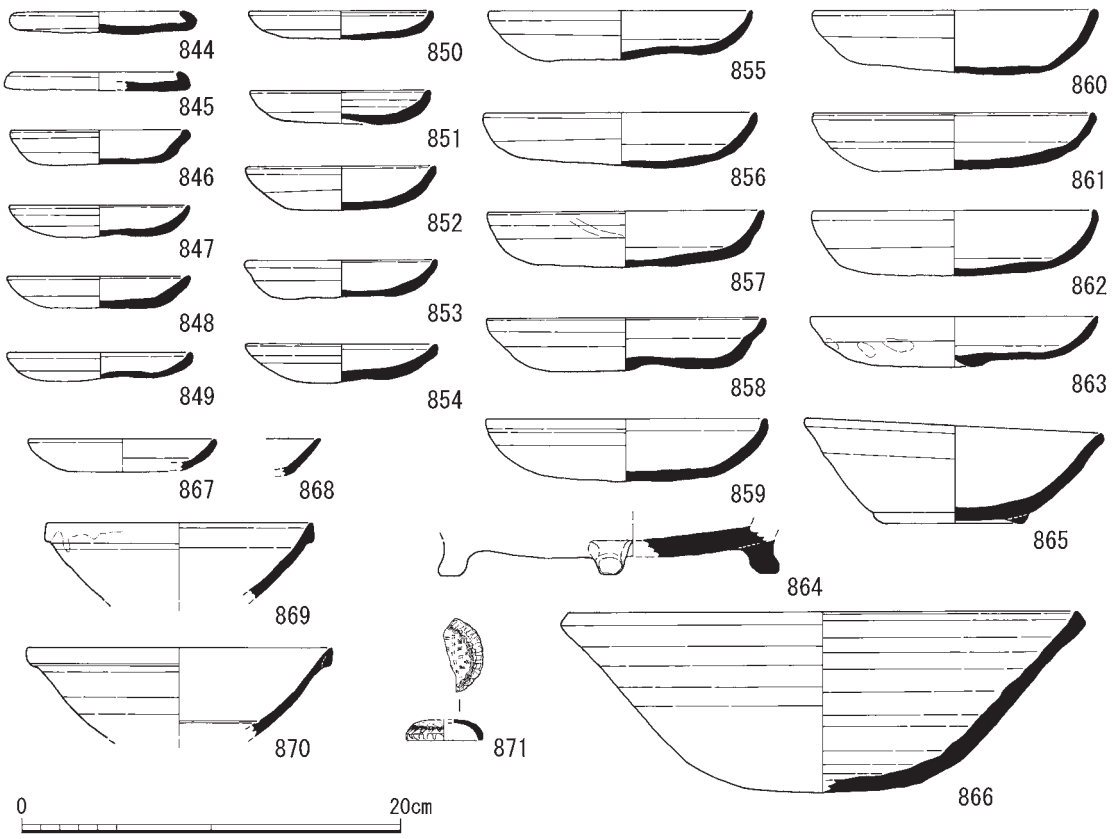
を変えている。胎土は815と同じく、細微である。同一個体の可能性もある。東海系の製品と考えられる。817は須恵器甕口縁部である。口縁部は上外方に開く。口縁は強いつまみで稜線を作り出す。肩部上方にはユビオサエ痕が残る。体部外面にはタタキ、内面には同心円文の当て具痕が残る。胎土は粗く、黒色粒を含む。818から822は東播系須恵器甕の口縁部である。頸部はタタキを施し、その後、外反させている。またタタキ後に回転ナデを施す。819の肩部には横方向のタタキが施されるが、内面には同心円文の当て具痕は認められない。820の口縁端部は下方に拡張する。胎土はやや粗く、１mm大の砂粒が混ざる。821、822の口縁端部は上方へ拡張が弱いながら認められる。821の頸部には横方向のタタキの痕跡が薄く認められることからタタキを施し、その後、外反させているものと考えられる。肩部外面には斜め方向のタタキが認められるが、内面は剝離している。822は頸部をナデ調整する。タタキをナデにより、完全に消していると考えられる。肩部外面には斜め方向のタタキを施す。内面はケズリで仕上げる。823は脚の付く須恵器である。底部から脚部の一部が残存しており、正確な器形は不明である。外面はナデによりていねいに仕上げる。脚部には２条の沈線がめぐる。824は東播系須恵器鉢である。口縁端部は下方にやや拡張される。内外面ともにナデ調整を施す。



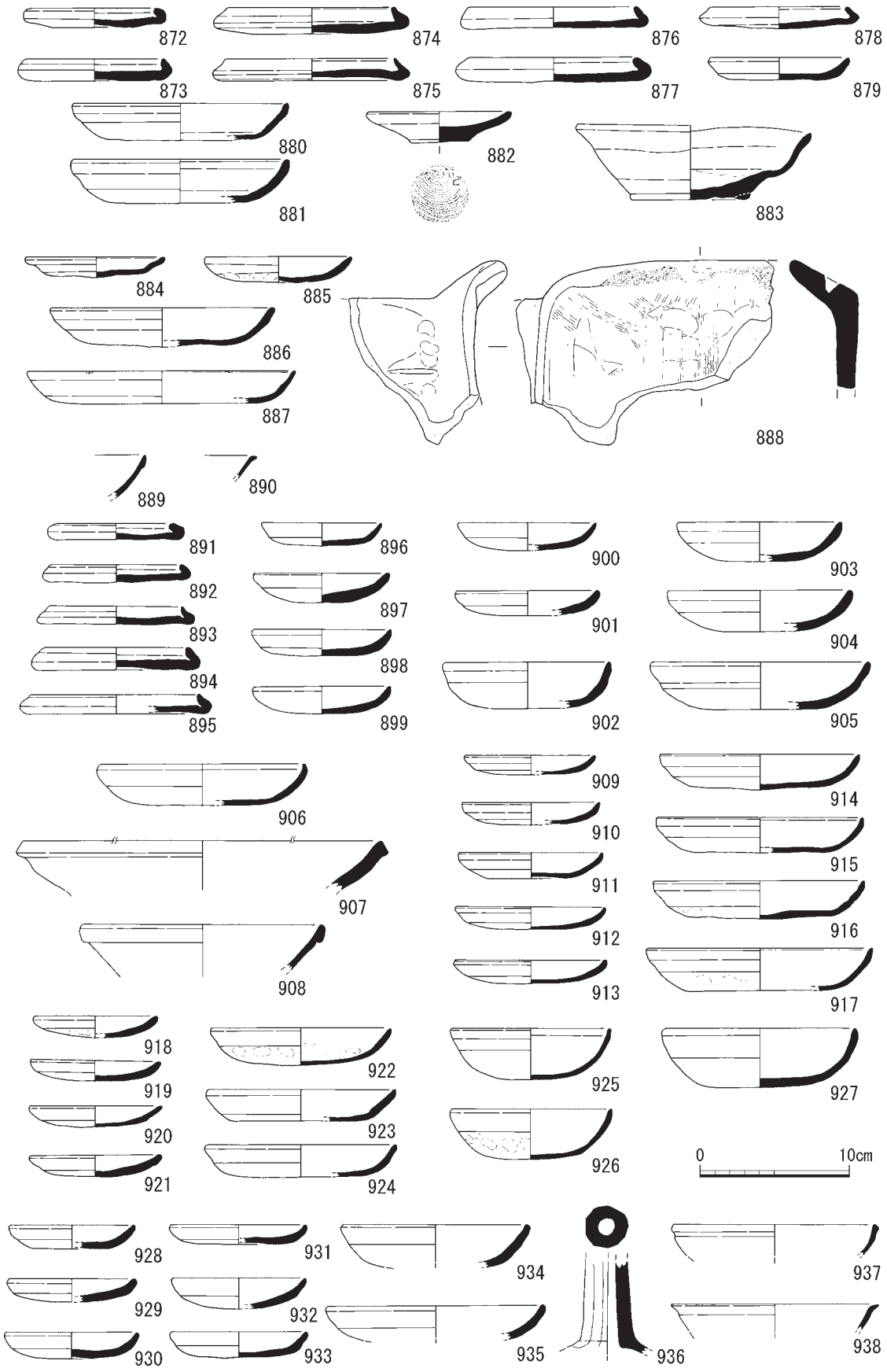
第116図　第４面出土遺物実測図（４）

825～843は輸入陶磁器である。825～829は白磁皿である。825は内面体部中央に沈線がめぐり、口縁部は外反する。826は、内湾する体部と外反する口縁部をもつ。827は、体部は内湾し、回転ナデにより鈍い稜線がつく。口縁部は外反する。828は、体部は内湾し、口縁部はそのままで終わる。断面方形の低い高台がつく。829は体部が中位付近でわずかに屈曲し、口縁が輪花になる。830～835は白磁椀である。830は白磁Ⅱ類椀である。体部は丸みを帯び、口縁は小さな玉縁になる。831～834は白磁Ⅳ類椀である。834の口縁部は薄い玉縁になる。835は体部が内湾し、口縁部はそのまま終わる。体部下位には施釉されない。836～839は白磁椀の底部である。840は白磁皿の底部とみられる。体部は底部からほぼ平行に外へ開く。841は青磁椀の底部である。釉は灰オリーブ色を呈し、体部下位まで施釉する。見込みには２か所に重ね焼きの目跡が残る。越州窯系の製品とみられる。842は陶器の壺である。内外面は回転ナデで調整する。肩部よりやや下側に、下向きの鍔を貼り付ける。無釉で、胎土は灰黄色を呈する。843は青磁壺である。大きく肩の張る形状で、内外面を回転ナデ調整する。胴部と肩部を貼り付けて成形しており、内面肩部と胴部には接続の際の圧痕が残る。肩部よりやや上方にヘラ描きで緩やかな波状文を施し、その上から上向きの横耳を貼り付ける。耳は１か所残存する。胎土は灰黄色で、黒色粒子を多く含みざらついている。釉薬は外面にのみ施し、灰オリーブ色を呈する。越州窯系のものと考えられる。

ＳＤ2a481（第117図844～871）　844～863は土師器皿である。844･845はいわゆる「コースター」



第117図　第４面出土遺物実測図（５）



第118図　第４面出土遺物実測図（６）

状である。口径12.0cm前後である。846～854は口径9.2～9.8cmの小皿である。855～863は口径13.7～15.1cmを測る。口縁端部がやや内湾するもの（855・856・858・859・861・862）と、直口のもの（857・860・863）がある。864は土師器の盤である。底部内面をナデ、底部はヘラ切り後ナデ調整する。底部は円形で、脚がつく。三足盤とみられる。865は山茶椀である。内外面を回転ナデで調整し、口縁部は外反する。高台は低く断面三角形を呈し、モミ痕が残る。866は東播系須恵器の鉢である。内外面を回転ナデで調整する。底部はやや丸みを帯び、口縁端部はわずかに上方に拡張する。12世紀中頃のものである。867～870は中国製白磁である。867・868は皿である。867は、内面の体部と底部の境に圏線がめぐる。体部は内湾し、口縁部はそのまま終わる。868の体部は直線的に延びる。869・870は椀である。いずれも白磁Ⅳ類椀である。口縁部を折り返し大きめの玉縁となる。870は内面の体部と底部の境付近に沈線がめぐる。871は中国製青白磁の合子蓋である。

ＳＫ2b720（第118図872～883）　872～881は土師器皿である。872～878はいわゆる「コースター」状である。872・873・878は口径9.0cm前後、874～877は口径11.0cm前後である。880・881はユビオサエ成形し、口縁部をヨコナデ調整する。882は白色土器皿である。内外面をヨコナデで調整し、底部を糸切りする。883は山茶椀である。焼き歪みが大きく、形はいびつである。内外面を回転ナデで調整する。低い高台を貼り付けし、モミ痕が残る。

ＳＫ3a896（第118図884～888）　884～887は土師器皿である。884は「て」の字の皿である。体部の屈曲は不明瞭である。887は口径17.8cmの大型のもので、口縁端部にわずかに煤が付着する。888は土師質の竈である。焚口とひさしが残存する。外面はハケ・ナデ、内面をハケで調整する。ひさしと焚口に煤が付着する。

ＳＫ2b259（第118図889～905）　889・890は白磁椀である。口縁部のみが残存する。889は、白磁Ⅱ類椀である。体部が内湾し、口縁部は折り返し小さめの玉縁を作る。890は、白磁Ⅴ類椀である。口縁部が外反する。891～905は土師器皿である。891～895は「コースター」状で、891～894は口径7.6～9.5cm、895は口径11.0cmである。

ＳＰ3a510（第118図906～908）　906は土師器皿である。907は東播系須恵器鉢である。内外面を回転ナデで調整する。口縁端部を下方に拡張する。908は白磁Ⅳ類椀である。口縁部を折り返し、玉縁になる。

ＳＫ2a787（第118図909～917）　909～917は土師器皿である。909～913は口径10.2cm以下、914～917は口径13.0cm以上である。

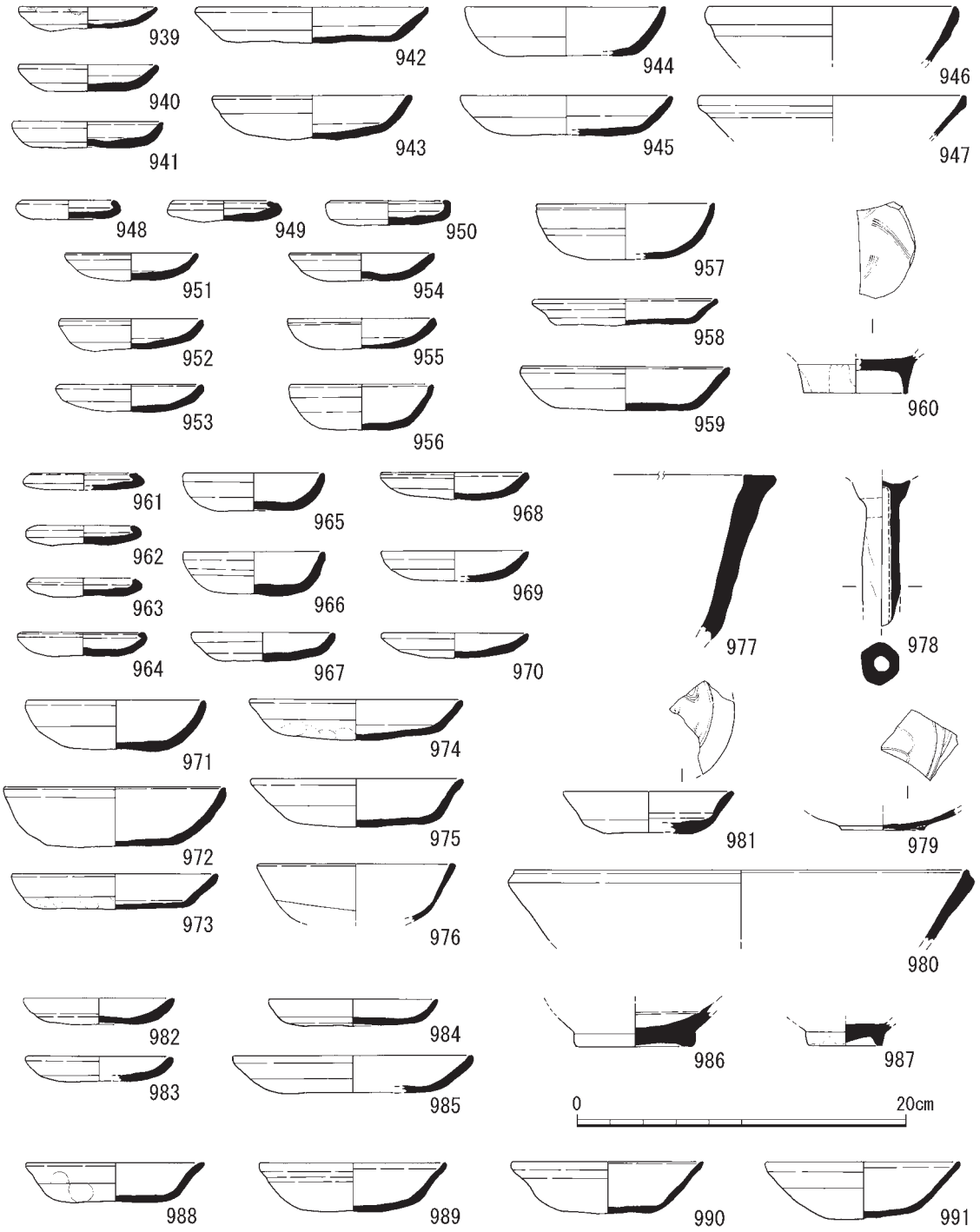
ＳＫ2b519（第118図918～927）　918～927は土師器皿である。925～927は器高3.5cm～4.0cmの深手のもので丸底を呈する。

ＳＫ2a455（第118図928～938）　928～935は土師器皿である。928～933は口径8.3～9.1cm、934・935は口径12.4・12.5cmを測る。936は土師器高杯である。外面をヘラケズリ調整し、中空になる。937は白磁Ⅱ類椀とみられる。体部が内湾し、口縁部は折り返して小さな玉縁となる。938は白磁Ⅴ類椀である。口縁部が外反する。

ＳＫ2b353（第119図939～947）　939～945は土師器皿である。946・947は白磁椀である。いずれも白磁Ⅳ類椀である。口縁部を折り返し玉縁になる。

ＳＫ2b442（第119図948～960）　948～959は土師器皿である。948～950は「コースター」状である。小型のものが中心で、口径5.5～7.6cmを測る。960は白磁椀である。底部のみが残存する。白磁Ⅴ類椀で、高台は露胎し、内面底部に櫛目文を施す。

ＳＫ2b566（第119図961～981）　961～975は土師器皿である。961～964はいわゆる「コースタ



第119図　第４面出土遺物実測図（７）

ー」状である。小型のもので口径5.6～6.8cmを測る。976は瓦器椀である。内外面を回転ナデで調整する。体部外面に1条のヘラ描き沈線がめぐる。977は土師器鉢である。外面をユビオサエ、口縁部と内面をヨコナデで調整する。口縁部は外側に拡張し、上方に面をつくる。978は土師器高杯である。979は瓦器椀である。高台は低く、内面底部に連結輪状暗文を施す。980は東播系須恵器鉢である。口縁端部を上方に拡張する。981は中国製白磁皿である。内面底部に櫛目文を施す。

ＳＫ2b567（第119図982～987）　982～985は土師器皿である。986・987は白磁椀の底部である。987は、内面底部を蛇の目状に釉剝ぎする。

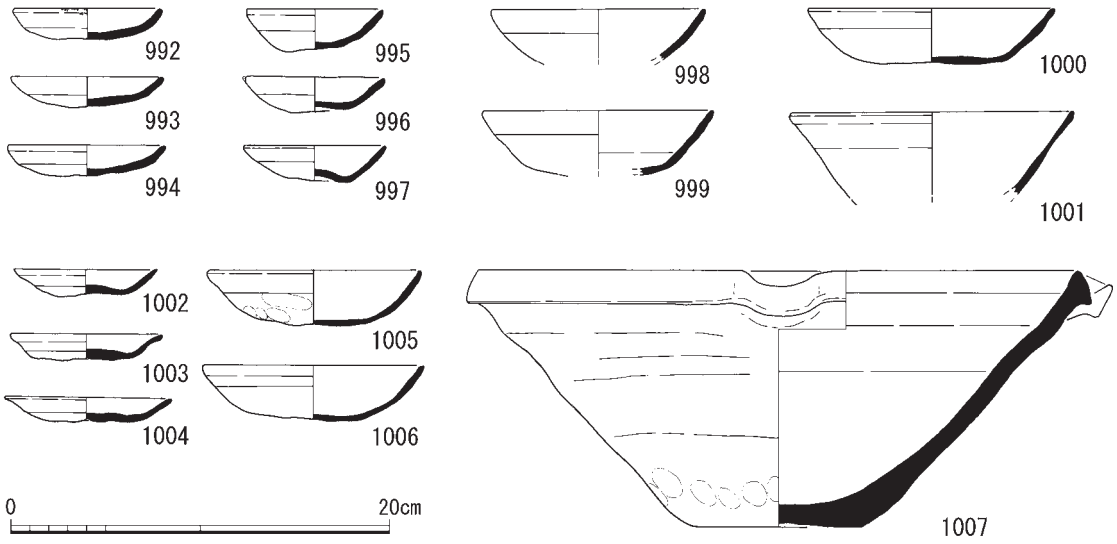
ＳＰ3a674（第119図988～991）　988～991は土師器皿である。口径は10.8～11.8cmで、体部は外反気味に立ち上がる。

ＳＫ2a599（第120図992～1001）　992～997・999・1000は土師器皿である。998は白磁皿である。1001は陶器の椀である。口縁部はわずかに肥厚し玉縁状になる。胎土は精良で、黒色粒子をわずかに含む。口縁部と内面に灰釉がかかる。

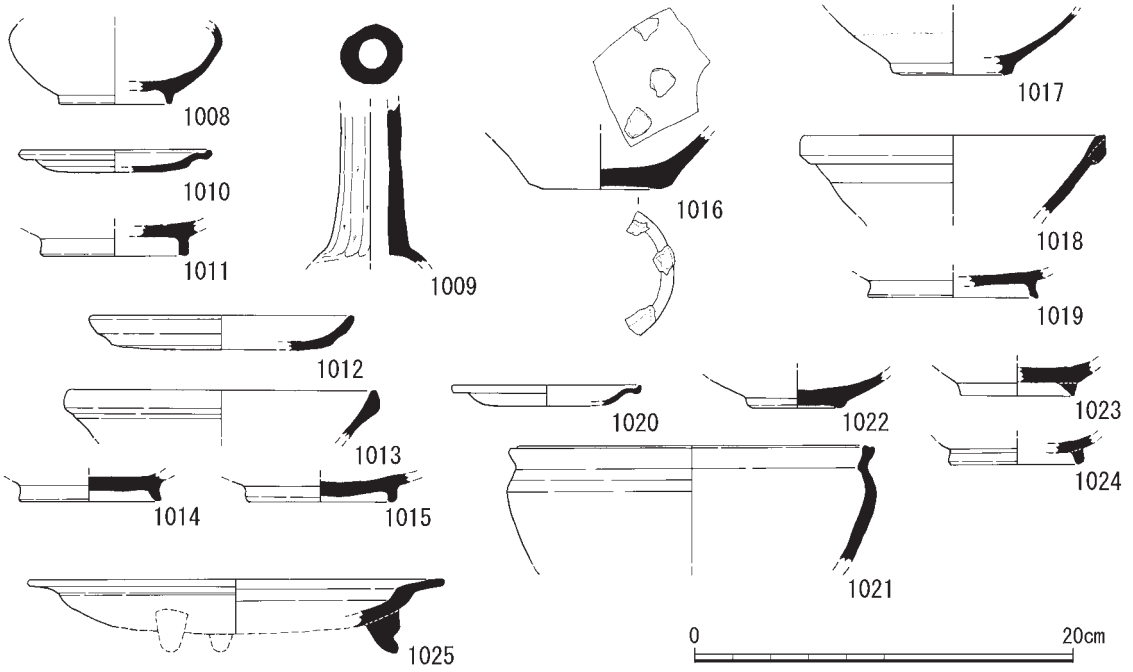
ＳＫ3a720（第120図1002～1007）　1002～1006は土師器皿である。1002～1004は口径7.5～8.7cm、1005・1006は口径11.5cmである。1007は東播系須恵器の片口鉢である。口縁部は下方に拡張し、断面三角形を呈する。

柱穴・包含層（第121図1008～1025）　第4面で検出した柱穴などから出土した遺物を掲載する。各遺構からの遺物出土量が少なく、遺物番号に従って報告する。

1008は第4面精査中に出土した中国製白磁瓶である。1009はＳＫ3a595から出土した土師器高杯の脚部である。1010・1011はＳＫ3a599から出土した。1010は土師器皿である。体部が湾曲するいわゆる「て」の字状の皿である。1011は緑釉陶器椀の底部である。高台は貼り付けによる輪高台である。1012～1015はＳＰ3a800から出土した。1012は土師器皿である。1013は白磁Ⅳ類椀である。口縁部は折り返して大きめの玉縁状にする。1014・1015は緑釉陶器椀の底部である。高



第120図　第4面出土遺物実測図（8）



第121図　第４面出土遺物実測図（９）

台は貼り付けによる輪高台である。1016は、ＳＸ3a806から出土した中国製青磁椀である。外面の底部から体部が立ち上がる部分をヘラケズリし、面をつくる。底部内外面に重ね焼きの目跡が残る。越州窯系のものとみられる。1017はＳＫ3a869から出土した白磁椀の底部である。1018は第４面精査中に出土した白磁椀である。口縁部を折り返して玉縁状にする。1019はＳＰ3a879から出土した緑釉陶器椀の底部である。1020～1022はＳＰ3a892から出土した。1020は土師器皿である。いわゆる「て」の字状で口径9.8cmを測る。1021は須恵器の鉢である。口縁部は、肩部からやや内湾しながら外側へ開く。口縁端部は凹状の沈線がめぐる。内外面ともにロクロナデで調整する。1022は白磁椀の底部である。1023・1024はＳＰ3a915から出土した。1023は緑釉陶器椀の底部である。高台は貼り付けの輪高台である。1024は灰釉陶器椀の底部である。1025はＳＫ1c298から出土した緑釉陶器三足盤である。10世紀中頃のものとみられる。

（綾部侑真）

５）その他の遺物

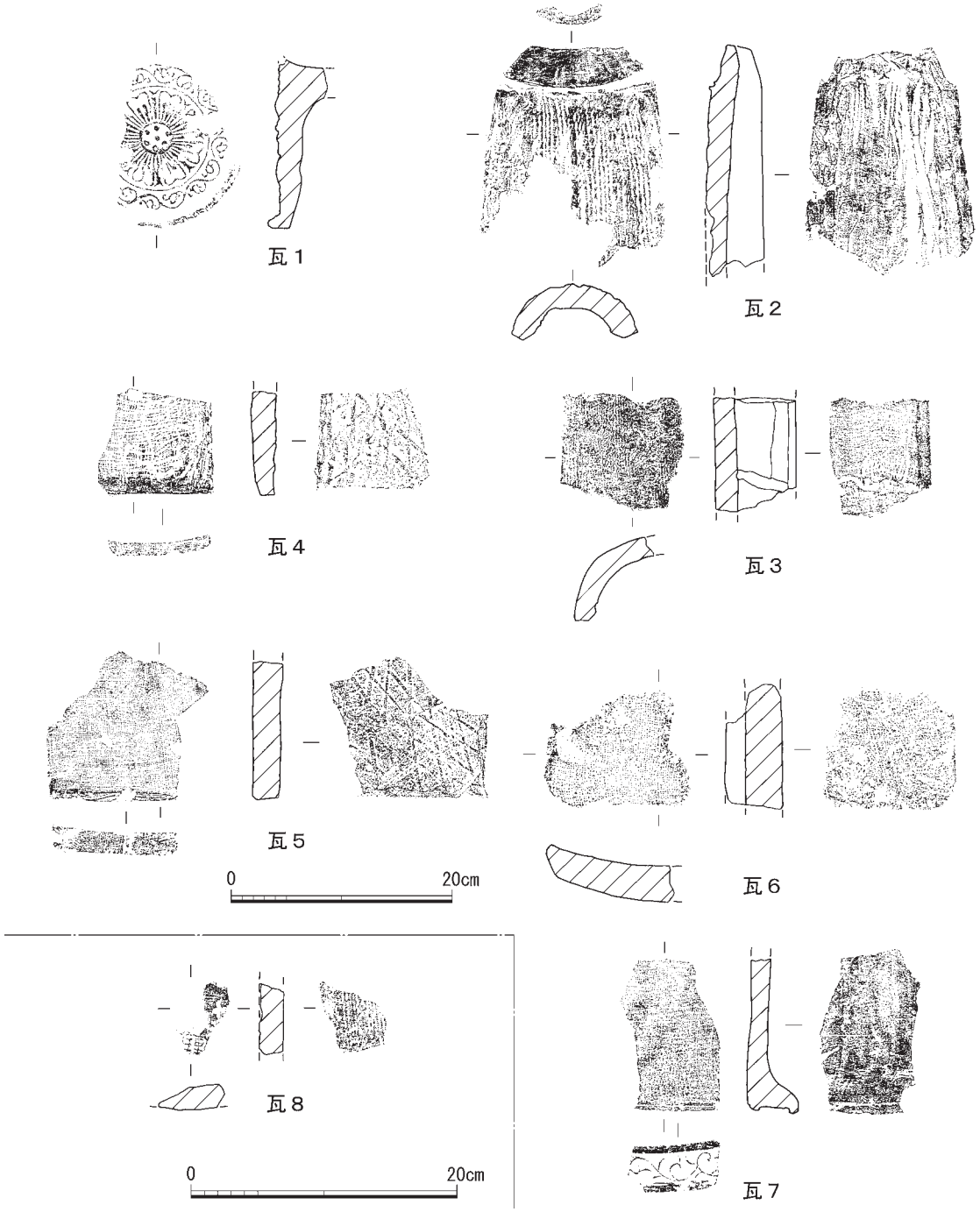
（１）瓦（第122～126図瓦１～42）

瓦１は複弁八葉蓮華文軒丸瓦である。中房には１＋６の蓮子を持つ。蓮華文の周囲を圏線と唐草文がめぐる。讃岐産の平安時代後期の瓦である。瓦２は丸瓦で、凸面に粗い縄タタキ痕、凹面に布目痕が残る。瓦３は丸瓦で、凸面にやや細かい縄タタキ痕、凹面に粗い布目痕が残る。瓦４は平瓦で、凹面によじれた布目痕、凸面に斜格子タタキ痕が残る。瓦５は平瓦で、凹面に布目痕、凸面に斜格子タタキ痕が残る。瓦６は平瓦で、凹面に粗い布目痕、凸面は縄タタキ後ナデ調整とみられる。厚さや形状から、軒瓦の可能性も考えられる。以上６点は第４面ＳＥ2b616から出土した。

瓦７は唐草文軒平瓦である。瓦当面のモチーフは繊細な唐草文である。凹面には布目痕が残り、凸面はナデ調整される。山城産の平安時代後期の瓦である。第４面ＳＫ2a445から出土した。

瓦８は平瓦片とみられる。凸面には縄タタキ痕が残る。凹面は剝離しており、布目の有無は不明であるが、「理」の陽銘を押印する。平安宮民部省跡などから出土しており、民部省修理職に関連する瓦とみられる。1ｂ地区第３面精査中に出土した。

瓦９は巴文軒丸瓦で、文様の凸部に箔押しした金箔瓦である。第２面ＳＰ2b140から出土した。



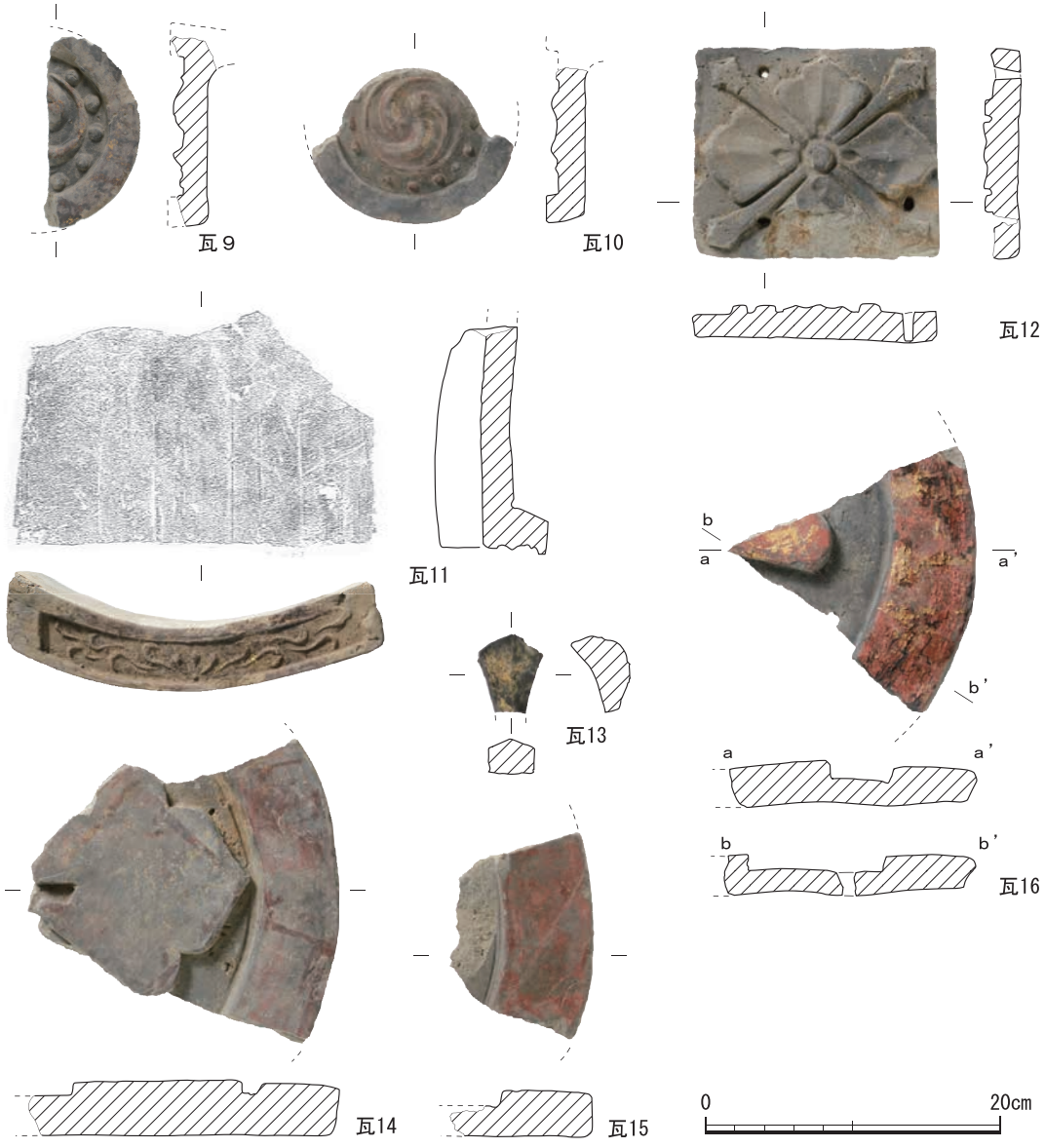
第122図　瓦実測図（１）

瓦10も瓦９と同様の金箔軒丸瓦である。第３面堀Ｂから出土した。瓦11は唐草文軒平瓦で、文様の凸部に箔押した金箔瓦である。第２面ＳＫ2a33から出土した。

瓦12は剣花菱文方形飾瓦で、取付用の釘穴を三方にもつ。金箔は確認できないが、他の方形飾瓦の例からみて、金箔瓦であった可能性が考えられる。第２面ＳＫ2b173から出土した。瓦13は剣形の金箔瓦で、剣花菱文や剣片喰文などの文様の飾瓦の一部とみられる。第２面ＳＰ1c146から出土した。

瓦14は花菱文円形飾瓦の一部である。金箔瓦である。下地は朱漆である。第２面ＳＫ1b137から出土した。瓦15は円形飾瓦の一部である。金箔瓦で、下地の漆は朱漆である。２ａ地区第２面精査中に出土した。第２面精査中に出土した。瓦16は花菱文円形飾瓦の一部である。金箔瓦で、下地の漆は朱漆である。１ｂ地区断ち割りから出土した。

瓦17～20は巴文軒丸瓦で、文様の凸部に箔押しした金箔瓦である。瓦21は桐文方形飾瓦で、文



第123図　瓦実測図（２）

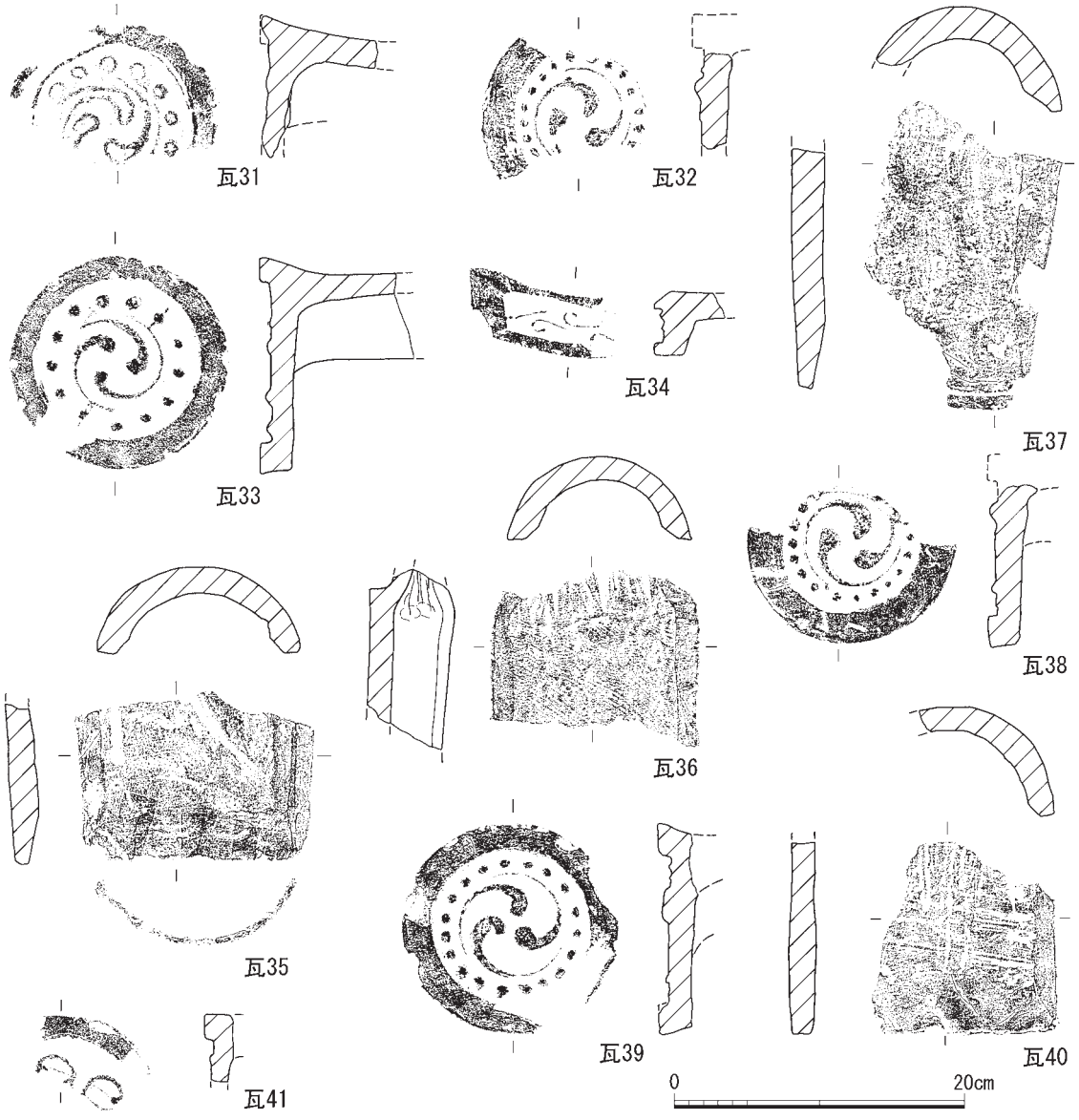
第124図　瓦実測図（３）

様の凸部に箔押しした金箔瓦である。四方に方形の釘穴をもつ。瓦22は蔓状の唐草文の方形飾瓦である。文様の凸部に箔押しした金箔瓦である。複数枚で桐唐草などのモチーフを構成していたものと考えられる。以上６点は第２面ＳＰ2a17から出土した。

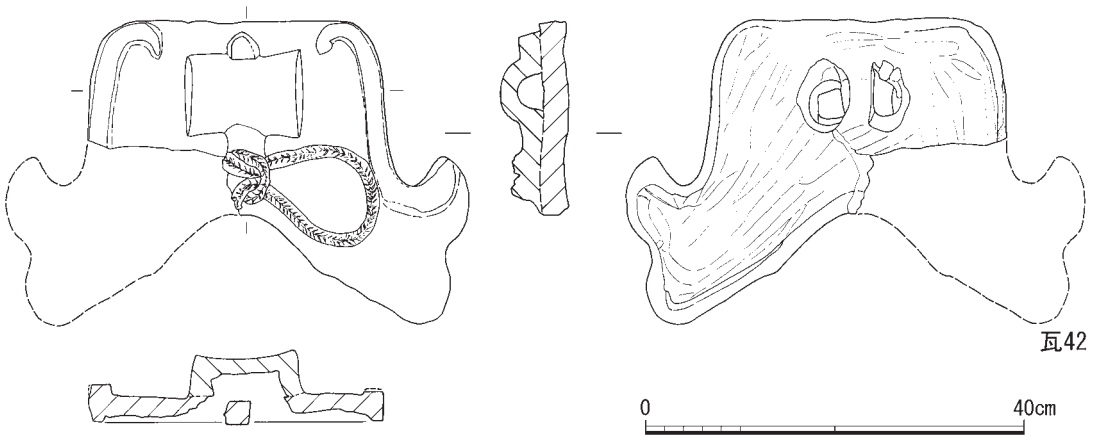
瓦23は巴文軒丸瓦である。珠文はややまばらにめぐる。瓦24は唐草文軒平瓦で、瓦当面の下半を欠失する。以上２点は第２面ＳＫ2a18から出土した。

瓦25は巴文軒丸瓦で、やや小振りであり、巴文周囲の珠文をもたない。筒状の可能性もあり、鬼瓦もしくは鳥衾の一部とも考えられる。金箔瓦である。瓦26は巴文軒丸瓦で、わずかに金箔が残存しており、金箔瓦である。大小の珠文が交互にめぐる。以上２点は第２面ＳＸ2a230から出土した。

瓦27は巴文軒丸瓦である。珠文はやや小振りである。28は唐草文軒平瓦である。以上２点は第２面ＳＰ1c152から出土した。



第125図　瓦実測図（４）



第126図　瓦実測図（５）

瓦29は巴文軒丸瓦で、巴文はやや細く、珠文はやや大振りである。瓦30は唐草文軒平瓦である。凸凹面ともにナデ調整である。以上２点は第２面ＳＫ1b479から出土した。

瓦31～33は巴文軒丸瓦である。瓦31は珠文は大振りで、まばらにめぐる。瓦32は珠文が密にめぐる。瓦33はやや大振りの珠文がまばらにめぐる。瓦34は唐草文軒平瓦で、蕨手状の蔓文が上下交互に展開する。瓦35は丸瓦で、凸面はナデ調整である。コビキ痕跡は明瞭ではないが、コビキＢとみられる。瓦36は丸瓦で、凸面はナデ調整である。コビキＡの瓦である。瓦37は丸瓦で、凸面はナデ調整である。コビキＢの瓦とみられる。以上７点は第２面ＳＫ1a57 から出土した。

瓦38・39は巴文軒丸瓦である。38は周縁部はやや太く、珠文は密にめぐる。瓦39は珠文がやや密にめぐる。瓦40は丸瓦で、凸面はナデ調整である。コビキＢの瓦である。以上３点は第２面ＳＫ1a51から出土した。

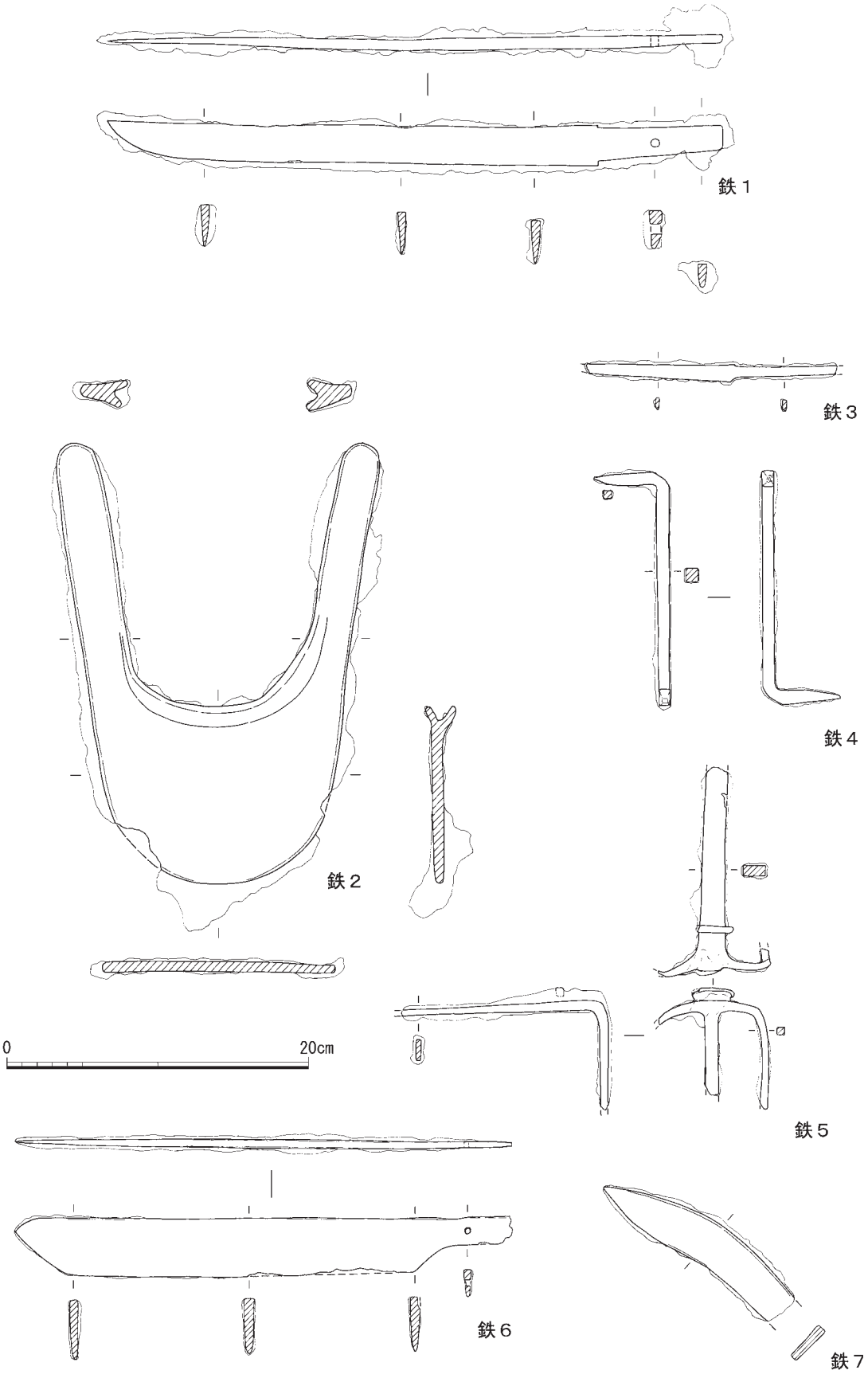
瓦41は軒丸瓦で、瓦当のモチーフは三つ葉葵文とみられる。蕨手状の葉文の基部と葉脈の一部が観察される。第１面ＳＫ3b05から出土した。

瓦42は鬼瓦である。木槌文を付す。木槌部分の裏面は瓦を固定するために空洞状になる。第２面ＳＡ2a661から出土した。

（引原茂治）

（２）鉄製品（第127図鉄１～７）

鉄１は第２面ＳＫ3b147から出土した刀である。刃の長さが32.4cmで、峰の厚さは0.7cmである。反りはほとんどなく直刀である。刃区は3.0cm、棟区は0.2cmを測る。茎は8.3cmで、中央付近に目釘穴をもつ。目釘穴は直径0.6cmである。茎尻は方形である。鉄２は第２面ＳＫ3b147から出土した鋤先である。「U」字形の刃先で、内側は風呂を差し込むように二股になり、断面は凹形を呈する。鉄３は第２面ＳＫ2a276から出土した刀子である。切先と茎の先端を欠損する。刃の長さは9.9cm以上、茎は6.9cm以上を測る。茎が長く、小柄とみられる。鉄４は第２面精査中に出土した鏃である。両脚部がねじれた位置にある手違鏃で、断面は方形を呈する。鉄５は第２面ＳＫ1b203から出土した鍬である。三つ又のスキグワである。１本の茎から３本の鍬先に分かれ

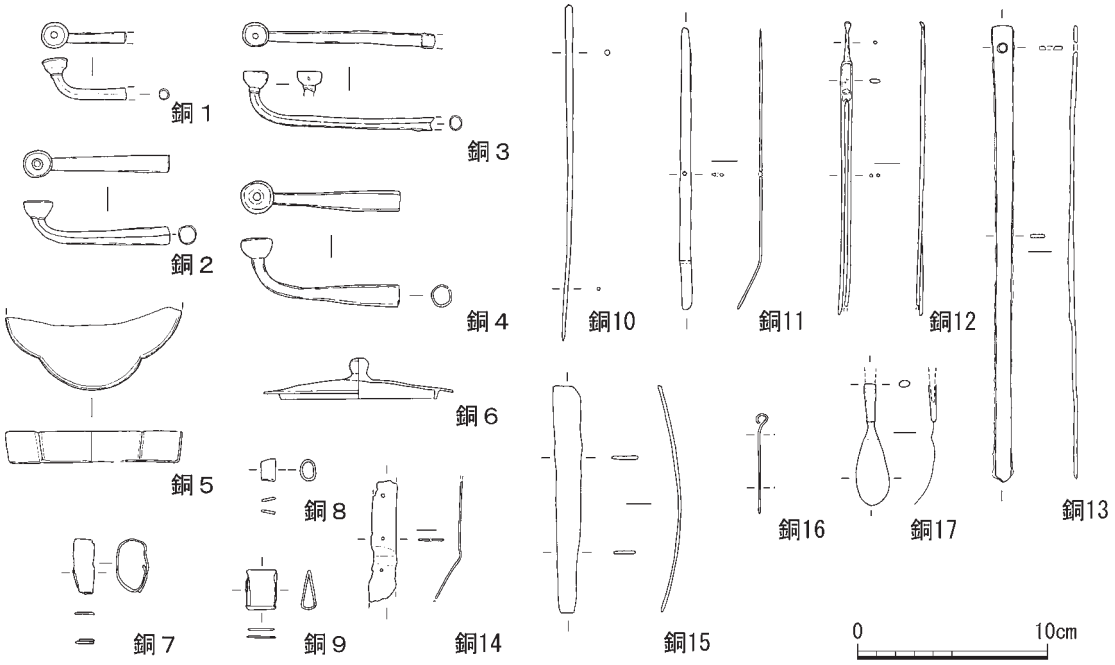


第127図　鉄製品実測図

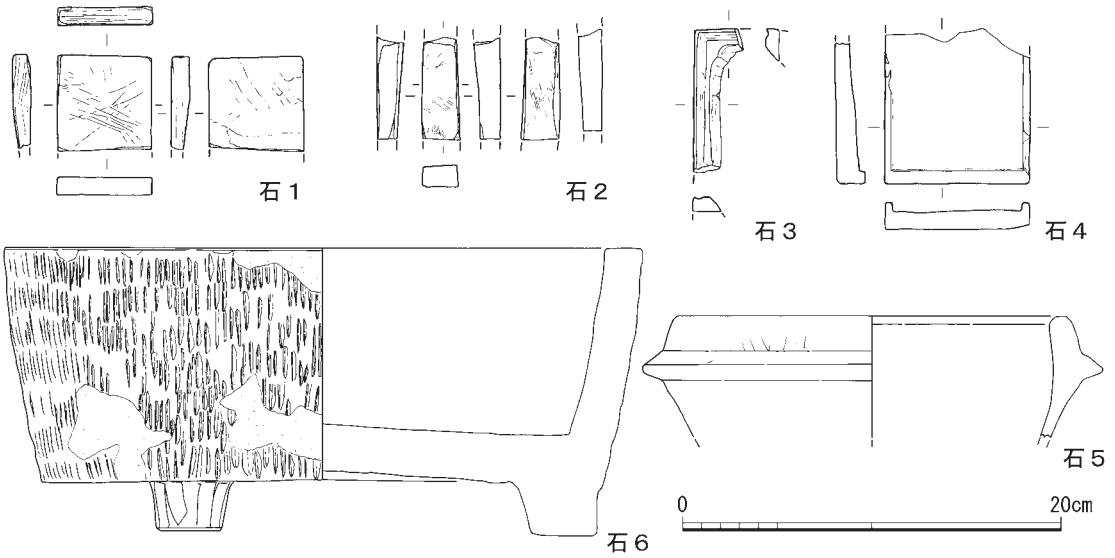
る。首部に板状の金属が付着するが、鍬に伴うものかは不明である。鉄６は第２面ＳＫ1c09から出土した包丁である。切先と茎の先端を欠損する。鉄７は第２面ＳＫ1b152から出土した板状の製品である。湾曲しており、先端が尖り、断面は長方形を呈する。鎌の可能性が考えられる。

（３）銅製品（第128図銅１～17）

銅１～銅４は煙管雁首である。銅１・銅２は第２面ＳＫ1b203、銅３は第２面精査中、銅４は第２面ＳＫ1b479からそれぞれ出土した。銅２は、火皿内部と胴部側面に金箔を貼る。銅３は、胴部が長く、火皿の吸口側を直径２mmで穿孔する。銅５は、第２面ＳＫ1b203から出土した青

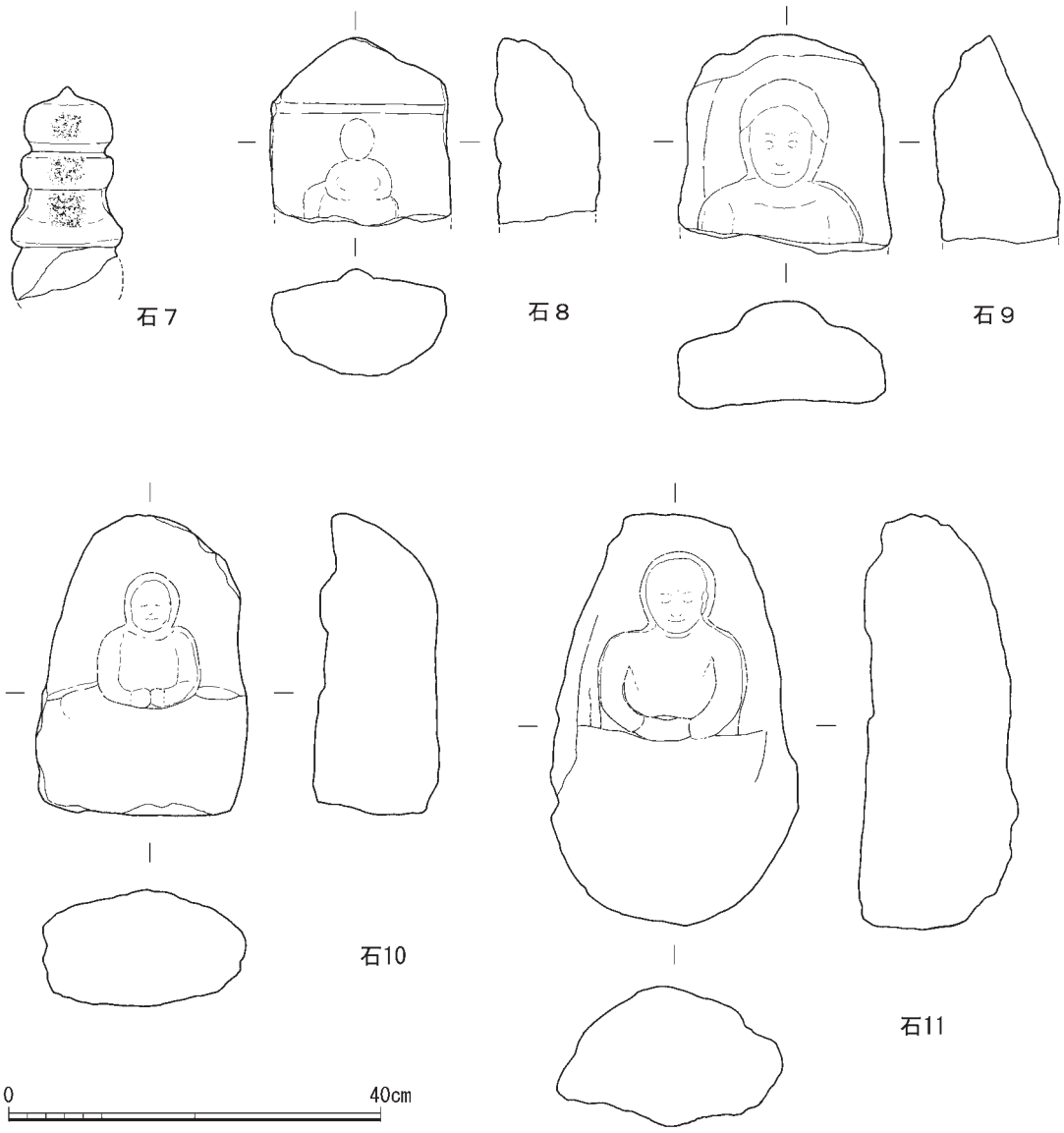


第128図　青銅製品実測図



第129図　石製品実測図

銅製の皿もしくは蓋とみられる。平面は４弁の輪花状を呈する。銅６は、第２面ＳＫ3a127から出土した蓋である。銅７は、第２面ＳＫ1b203から出土した。板状の製品を環状にする。銅８は第２面ＳＫ1b203から出土した。環状の製品で両端径はそれぞれ、2.3cm、2.0cmを測る。煙管の肩部とみられる。銅９は第３面ＳＫ2b711から出土した鏃である。幅は2.1cmで、短刀に使用されたとみられる。銅10は第２面ＳＫ1b203から出土した火箸である。完形で全長17.8cmを測る。銅11は、第２面ＳＫ3a191から出土した板状の製品である。全長は14.9cmを測り、中央に直径２mmで穿孔する。銅12は第２面精査中に出土した簪である。二股で、頭部に耳掻きがつく。胴部に梅が彫られる。銅13は第２面ＳＫ1c263から出土した板状の製品である。先端は欠損しており、頭部に直径５mmで穿孔する。銅14は第２面ＳＫ1b203から出土した板状の製品である。「く」の字に屈曲する。３か所に直径２mm程度で穿孔され、そのうち２か所は屈曲線を中心に線対称に位置する。銅15は第２面ＳＫ1b479から出土した板状の製品である。銅16は第２面ＳＫ1b203か



第130図　石造物実測図

ら出土した銅線である。片方の端部を環状にする。銅17は第２面ＳＰ1c48から出土した匙である。匙部と首部を溶接する。首部は柄を差し込むために環状になる。

（４）石製品（第129図石１～６）

石１は第２面ＳＫ1b479から出土した砥石である。扁平な直方体を呈し、残存する５面全てに使用痕が残る。石２は第２面ＳＫ1b152から出土した砥石である。表裏２面に使用痕が残る。石３は第３面ＳＫ2b259から出土した硯である。硯面を欠損する。残存する硯頭角は93°を測り、平面は台形を呈するとみられ、内面を入角にする。石４は堀Ｂから出土した硯である。平面は長方形を呈する。石５は堀Ｂから出土した滑石製の石鍋である。石６は第２面ＳＸ3a200から出土した笏谷石製の火鉢である。平面円形で、体部外面には縦方向の鑿痕が残る。鑿痕の１つの単位は0.2cm程度である。口縁端部の一部に煤が付着する。

（５）石造物（第130図石７～11）

石７は、第２面ＳＫ2b301から出土した一石五輪塔である。水輪の一部と地輪を欠損する。前面に東方発心門の種字を刻む。石８は、第２面ＳＸ2a79から出土した石仏である。頂部は三角形を呈し、板碑形を呈する。体部を頂部に対して１段彫り下げ、中央に像を浮彫りする。像は摩滅により顔は不明瞭である。座像で定印を結ぶ。石９は、第３面ＳＫ2a187から出土した石仏である。像の腕より下部を欠損する。石10は、第２面ＳＫ2a241から出土した石仏である。石11は第２面ＳＫ3b147から出土した石仏である。石10・11いずれも定印を結ぶ座像を浮き彫りする。像の足より下は摩滅し、像の形状は不明であるが、もともと彫り出していない可能性がある。

（綾部侑真）

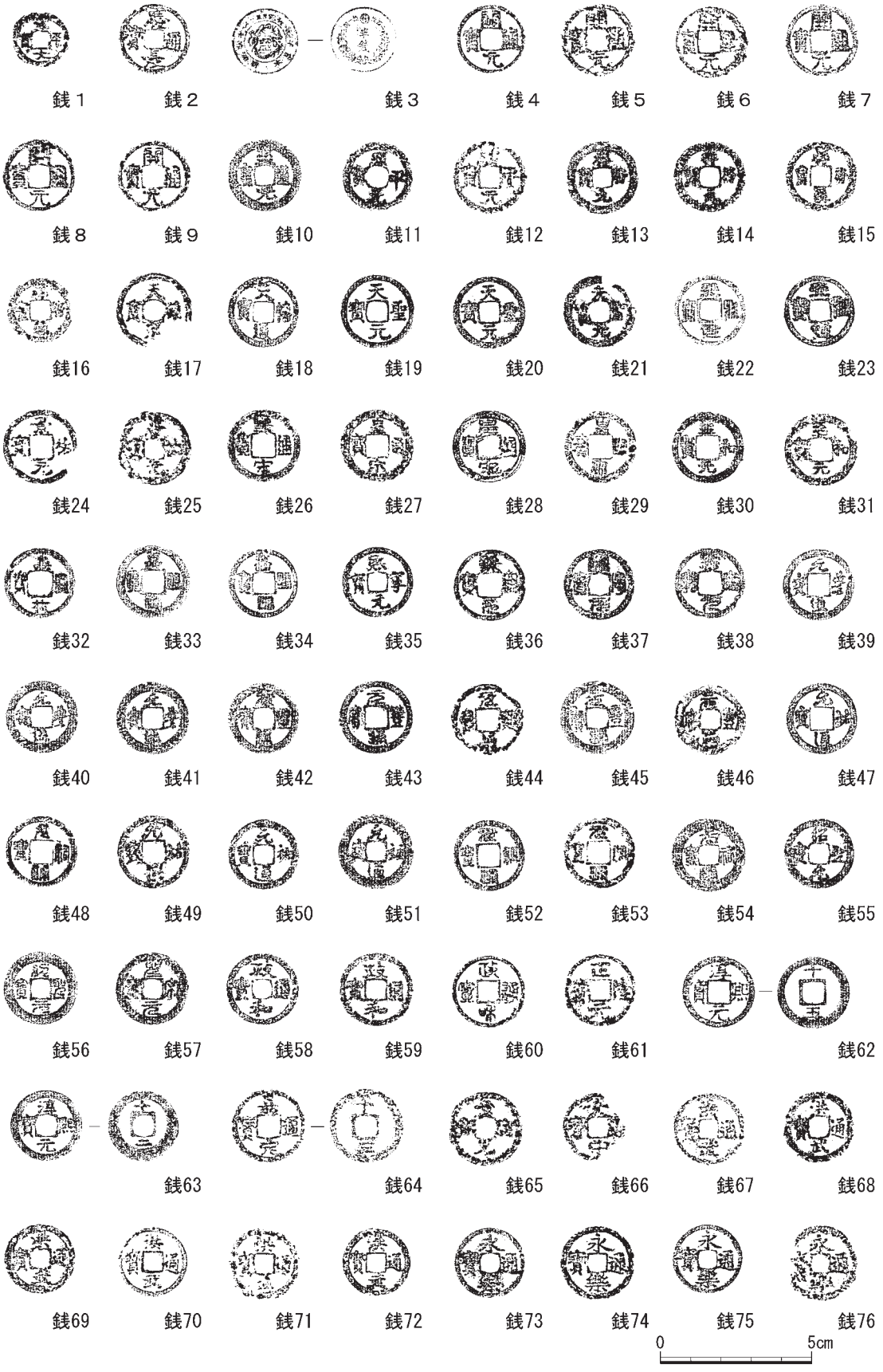
（６）銭貨（第131図銭１～76）

今回の調査では、銭貨が多数出土した。日本のものと中国のものが含まれる。江戸時代に鋳造され、広く流通した寛永通寶以外では、中国の北宋銭が多い。

日本の銭貨　銭１は寛平大寶で、初鋳年は890年である。奈良時代から平安時代にかけて鋳造された国産銭貨である皇朝銭の一種である。銭２は慶長通寶である。慶長年間（1596～1615年）に鋳造された銭貨である。銭３は半銭銅貨で、明治年間の鋳造である。発行年は、錆化により不明である。銭面に「二百枚換一圓」とある。

中国の銭貨　銭４～９は唐銭の開元通寶である。初鋳は621年である。このうち、銭７は背面に「宣」字と上向きの三日月形を鋳出しており、いわゆる「紀地銭」で、845年に鋳造されたものとみられる。

銭10～60は北宋銭である。銭10は至道元寶で、995年初鋳である。真書である。銭11・12は咸平元寶で、998年初鋳である。真書である。銭13・14は祥符元寶で、1008年初鋳である。真書である。銭15・16は祥符通寶で、1008年初鋳である。真書である。銭17・18は天禧通寶で、1017年初鋳である。ともに真書である。銭19～23は天聖元寶で、1023年初鋳である。銭19～21は真書、銭22・23は篆書である。銭24・25は景祐元寶で、1034年初鋳である。ともに真書である。銭26～29は皇宋通寶で、1038年初鋳である。銭26・27は真書、銭28・29は篆書である。銭30・31は至和


銭１
銭２
銭３
銭４
銭５
銭６
銭７
銭８
銭９
銭10
銭11
銭12
銭13
銭14
銭15
銭16
銭17
銭18
銭19
銭20
銭21
銭22
銭23
銭24
銭25
銭26
銭27
銭28
銭29
銭30
銭31
銭32
銭33
銭34
銭35
銭36
銭37
銭38
銭39
銭40
銭41
銭42
銭43
銭44
銭45
銭46
銭47
銭48
銭49
銭50
銭51
銭52
銭53
銭54
銭55
銭56
銭57
銭58
銭59
銭60
銭61
銭62
銭63
銭64
銭65
銭66
銭67
銭68
銭69
銭70
銭71
銭72
銭73
銭74
銭75
銭76
0
5cm

第131図　銭貨実測図

元寶で、1054年初鋳である。ともに真書である。銭32～34は嘉祐通寶で、1056年初鋳である。銭32は真書、銭33・34は篆書である。銭35～38は熙寧元寶で、1068年初鋳である。銭35は真書、銭36～38は篆書である。銭39～46は元豊通寶で、1078年初鋳である。北宋銭のうちでも出土数が多い。銭39～41は行書、銭42～46は篆書である。銭47～54は元祐通寶で、1078年初鋳である。出土数は多い。銭47～51は行書、銭52～54は篆書である。銭55･56は紹聖元寶で、1094年初鋳である。銭55は行書、銭56は篆書である。銭57は聖宋元寶で、1101年初鋳である。篆書である。銭58～60は政和通寶で、1111年初鋳である。銭58・59は真書、銭60は篆書である。

銭61は金の正隆元寶で、1157年初鋳である。真書である。銭62～64は南宋銭である。銭62・63は淳熙元寶で、1174年初鋳である。背面に漢数字をもつ「南宋番銭」である。銭62は「十五」、銭63は「十二」の数字を持つ。ともに真書である。銭64は嘉定通寶で、1208年初鋳である。背面に漢数字をもつ「南宋番銭」である。「十三」の数字をもつ。真書である。銭65は西夏銭の光定元寶で、1211年初鋳とされる。真書である。

銭66～76は明銭である。銭66は大中通寶で、1361年初鋳である。この銭貨は、朱元璋が、明王朝建国(1368年)以前に、地方政権の呉を興した時に鋳造したものである。銭67～72は洪武通寶で、1368年初鋳である。銭73～76は永樂通寶で、1408年初鋳である。

中国の銭貨では、上記の通り、北宋銭の出土が多い。北宋銭では、元豊通寶、元祐通寶が多く出土している。皇宋通寶、熙寧元寶がそれに次ぐ。いずれも、遺跡からの出土が多い銭貨である。明銭でも、出土例が多い洪武通寶や永樂通寶が多く含まれる。出土割合が少ないとされる南宋銭も一定量出土している。金や西夏の銭貨が含まれているのも注目される。

(引原茂治)

７．ま と め

今回の調査で検出した遺構は、第１面～第４面を合わせて約5,000基を数える。まとめとして調査地の遺構の変遷について概観する。また、主要な遺構については別項にて記載を行う。

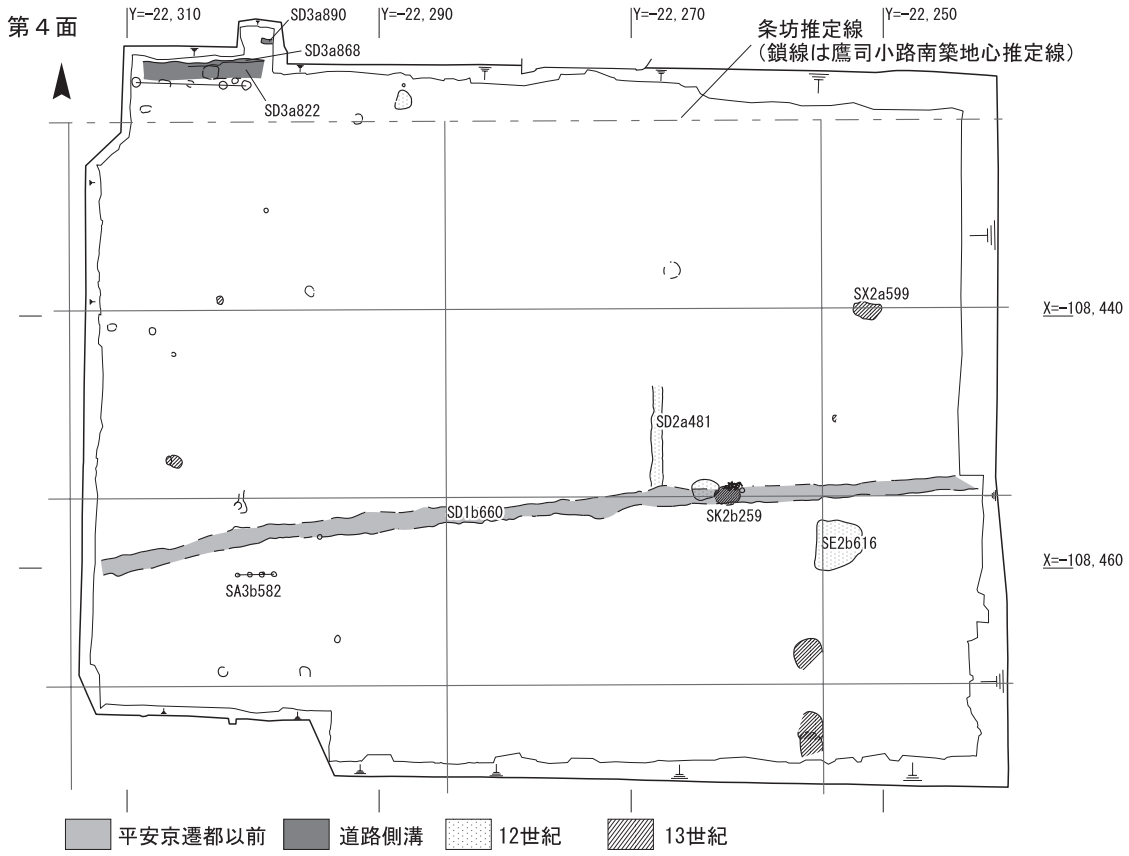
１)遺構の変遷について

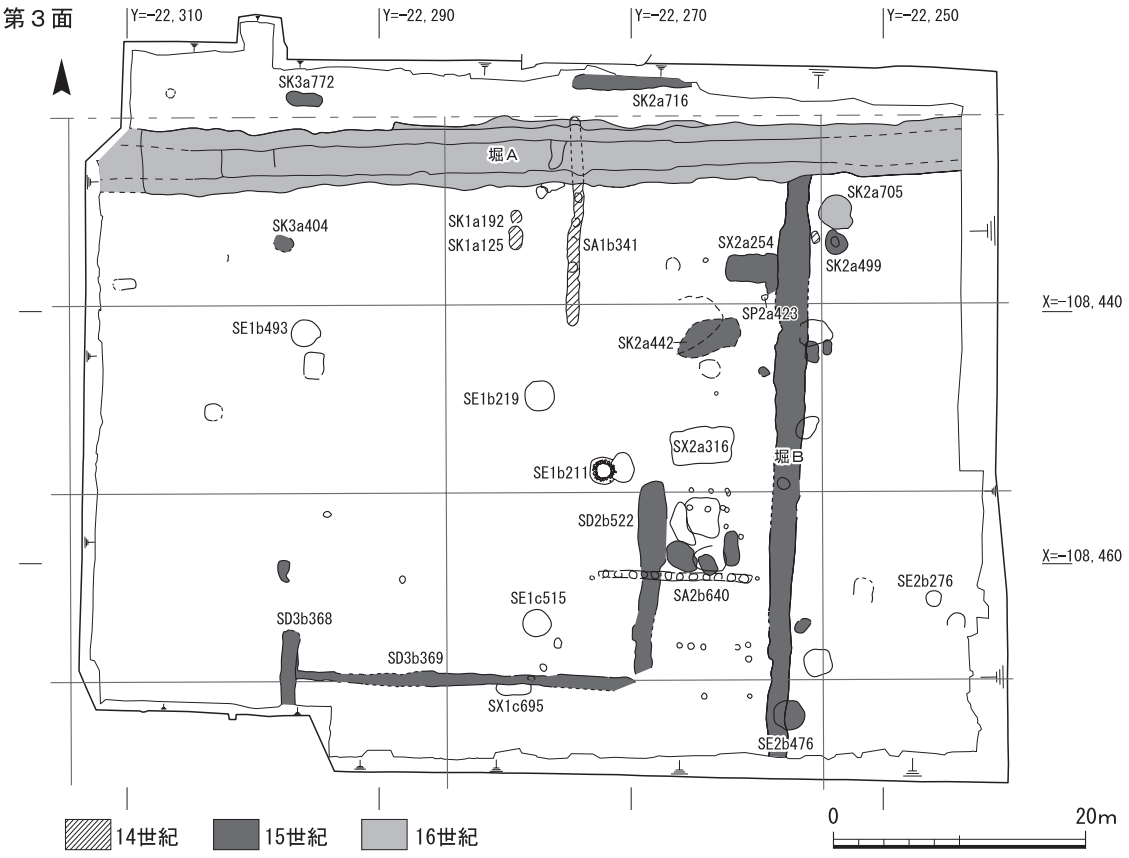
①平安京遷都以前

平安京遷都以前の遺物包含層及び遺構は確認できなかった。遺物は古墳時代の須恵器片を１点確認している。今回検出したもっとも古い遺構は、ＳＤ1b660である。遺構時期は、遺構の重複関係から平安時代後期以前に比定される。東西方向の溝の東側は四行八門の北二門・三門の境界におよそ重複するが、西側は緩やかに南へ向かって湾曲しており、四行八門に規制されるとは言い難い。また、埋土に遺物を含まず土壌化していることから、遺構の時期は遷都以前に遡る可能性も考えられる。

②平安～鎌倉時代

平安時代前期と考えられる東西溝ＳＤ3a822・868が存在する。溝の輪郭が不明瞭なため検討する必要があるものの、条坊推定線から考えるとＳＤ3a822・868は鷹司小路の南側溝にあたる可能





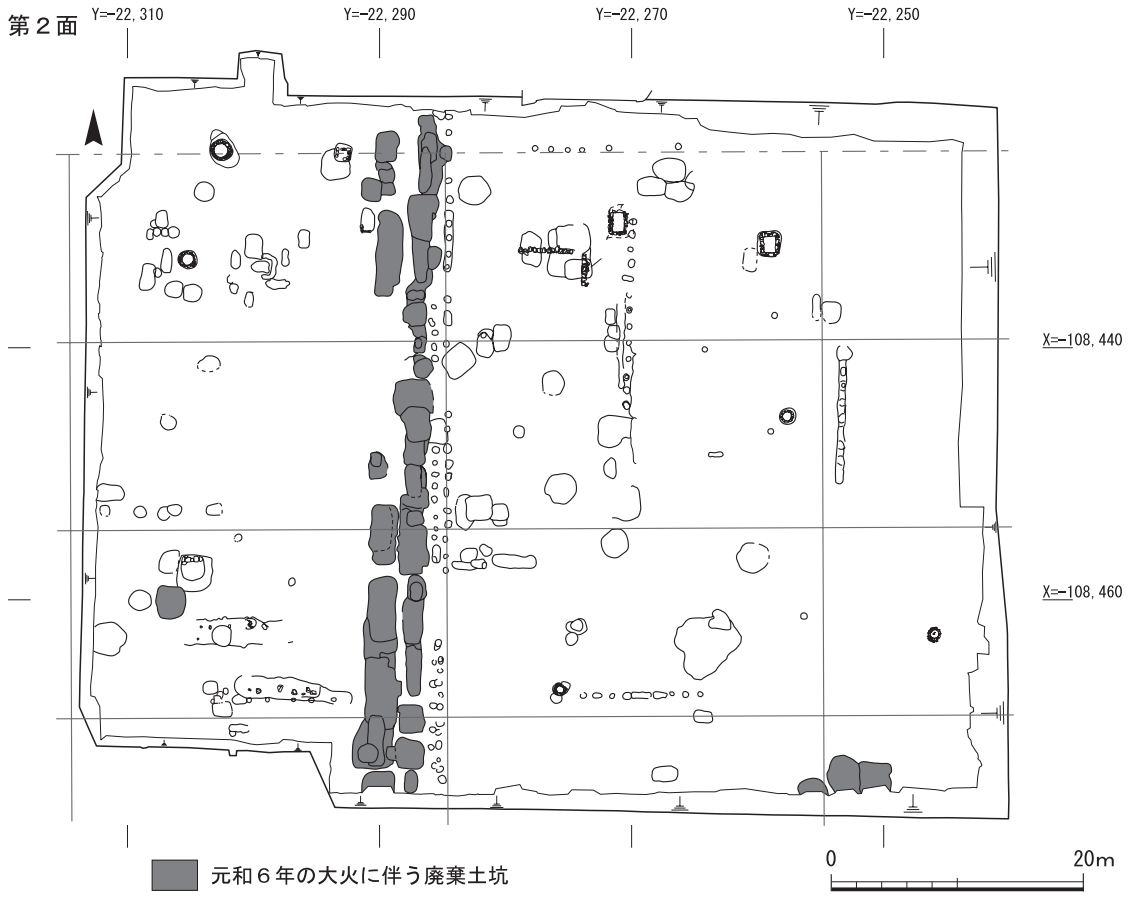
第132図　遺構変遷図（１）

性が高い。この側溝は出土した遺跡から12世紀後半には埋没するとみられる。そのほかの地区では、遷都当初の遺構は確認できなかったが、調査地南側の左京一条三坊三町に位置する修理職を示す、「理」字の陽銘が押印された瓦（瓦８）が出土している。

11世紀ごろから遺物が散見されるようになり、11世紀末頃から12世紀にかけては徐々に遺構が増加し始める。ＳＥ2b616は一括性の高い遺物が出土しており、埋没時期は12世紀前半である。輸入陶磁器が多く出土しているほか、讃岐系の軒丸瓦も出土しており、この時期の隆盛がうかがえる。12世紀後半から13世紀後半にかけて遺構が増え始め、このころに調査地の盛期をみることができる。遺物では、12世紀代では白磁を主体とする貿易陶磁器が多数出土するのに対し、13世紀以降になると貿易陶磁器の出土量は極めて少なくなる。特に青磁はその傾向が顕著であり、15世紀頃になると出土量がわずかに増えるが、13～14世紀の青磁は極めて少ない。大幅な貿易陶磁器の出土量の減少は、13世紀頃に居住する住人の階層が変化したことが想定される。

③室町～戦国時代

14世紀代は、調査地の北側に遺構のまとまりがみられる。調査地中央にはＳＡ1b341が位置する。布掘りの塀跡とみられ、敷地境界を示すと考えられる。ＳＡ1b341の西側周辺には14世紀の遺構がまとまって確認できるが、調査地全体でこの時期の井戸はみつかっておらず、土地利用は



第133図　遺構変遷図（２）

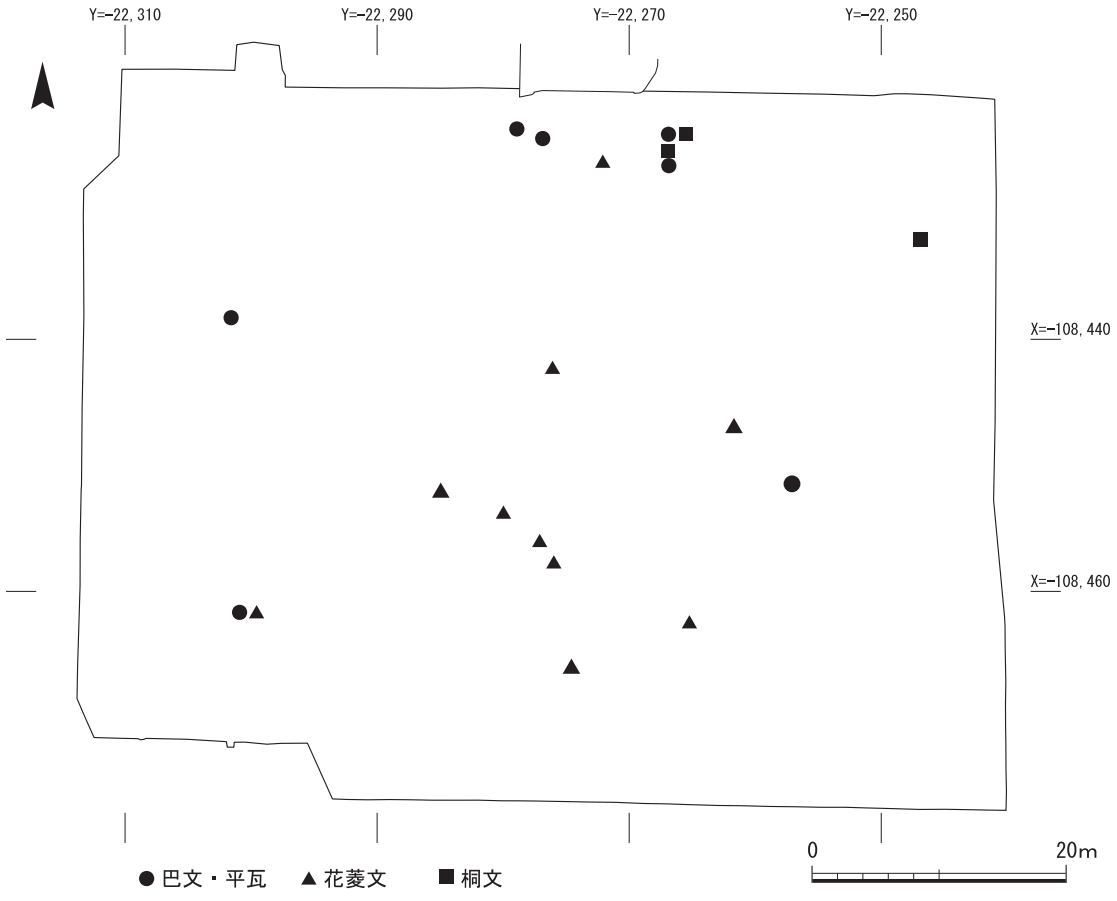
希薄であったと考えられる。

15世紀になると、調査地全体に遺構が広がり、遺物の出土量も増加する。井戸は４基を確認した。井戸は、調査地全体に分布しており、それぞれの井戸が互いに20m程度離れて位置している。溝はＳＤ3b369・2b522は同時期とみられ、方形の区画が想定される。また、ＳＤ3b369は、およそ四行八門の北三門と四門の境界にあたり、平安時代の四行八門制の地割りを踏襲している可能性が考えられる。

15世紀以降には東西方向の堀Ａ、南北方向の堀Ｂが出現する。正確な掘削時期は不明であるが、堀Ｂが堀Ａに先行して掘られたようである。堀Ｂから出土した遺物は、おおむね15世紀末頃の様相を呈し、このころには埋没していたと考えられる。堀Ａの埋没時期は16世紀後半とみられ、堀が機能していたと考えられる16世紀前半の遺構は希薄である。堀Ａについては後述するが、堀Ａは南に対して防御していると考えられ、防御区画の外側にあたる堀より南側の調査地一体では住民の居住が定着していなかったことが推定される。

④戦国時代～江戸時代初頭（16世紀後半～17世紀前半）

16世紀後半からは再び遺構数が増加する。織田信長による上京焼討後、新町通の発展に伴って、調査地周辺の開発が進んだと考えられる。16世紀末には、天下統一を成し遂げた豊臣秀吉によっ



第134図　金箔瓦出土地点分布図

て、豊臣政権の京都政庁とも言える聚楽第が平安宮内裏の故地に造営される。京都の市街地を囲む城壁である御土居が築かれ、市街地が再編される。今回の調査地周辺は、聚楽第と内裏の間にあたる。これまでの調査でも金箔瓦などが多数出土しており、大名や有力武家の屋敷地となっていたものと考えられている。

今回の調査では、大名屋敷を示す直接的な遺構は確認できなかった。遺物としては、金箔瓦が28点出土しており、大名屋敷跡地の可能性を傍証する。その中でも、花菱文及び剣花菱文の飾り瓦が出土したことは、当地に屋敷を構えた大名を探る上で、大きな手掛かりになるものと考えられる。また、これらの家紋瓦は調査地全体に分布しており（第134図）、調査地は１つの屋敷地であった可能性が考えられる。このころには堀Ａはすでに埋没しており、金箔瓦を含むＳＰ2a17が堀Ａの北側に位置することから、屋敷範囲は堀Ａを超え、現在の下長者町通まで北側に拡張されたとみられる。

秀吉は関白職を甥の秀次に譲り、聚楽第も秀次に与えられるが、やがて不和となり、秀次は秀吉に自害を命じられる。秀次の死後、聚楽第は秀吉によって徹底的に破却される。それに伴い、大名屋敷も秀吉の居城がある伏見へ移転する。

その後、17世紀初頭の調査地周辺には、富裕な町衆が居住していたものとみられる。17世紀初頭頃から中葉頃には南北土坑群が掘られる。土坑群から出土した遺物は、おおよそ16世紀末から17世紀初頭の様相を呈している。土坑の埋土に炭を多く含むことから、元和６（1620）年の大火後の廃棄土坑と考えられる。同一の遺物組成・堆積状況を示す土坑が上京遺跡・室町殿の調査[注3]や、西側に隣接する府庁福利厚生棟建設に伴う調査[注4]でも確認されている。

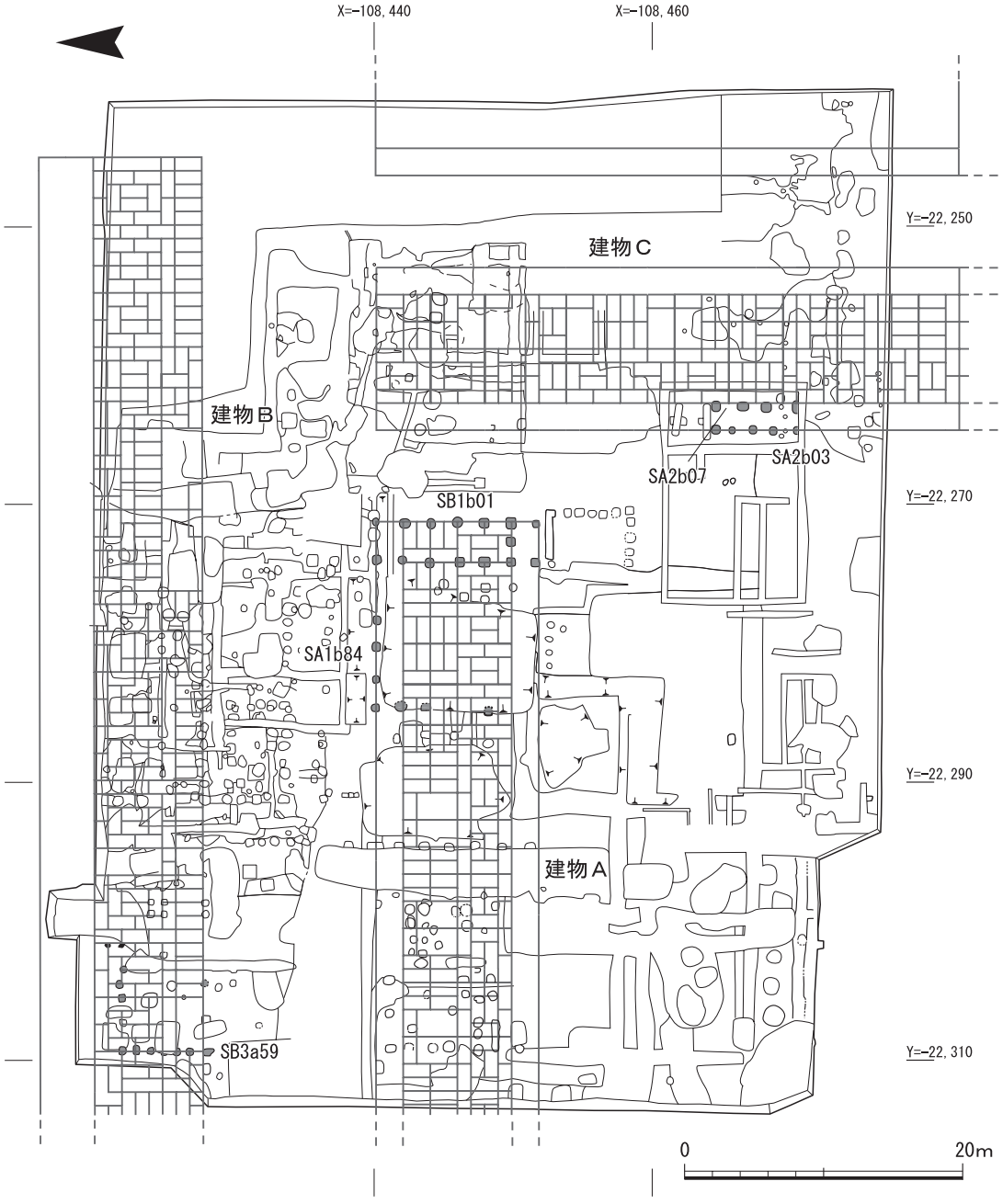
土坑群からは、瀬戸美濃系陶器や肥前系陶器のなどの国産陶磁器以外に輸入陶磁器も多数出土した。輸入陶磁器には中国製磁器のほかに、朝鮮や東南アジア系の陶器も含まれる。食器や茶道具として用いられたとみられるものもあるが、何らかの交易品の容器としてもたらされた可能性のあるものも含まれる。ヴェトナム産の長胴壺や産地不明の桶形容器などである。長胴壺は、茶道具の花入れとして見立てられたものもあるが、今回出土したものは、そのような器か否かは不明である。いずれにしても、容器としてもたらされたものとみられ、この地に居住した町衆の実像を考える上で、示唆的である。いわゆる南蛮貿易に関係した町衆の居宅兼店舗であった可能性も考えられる。

17世紀初頭には、調査地西側に黄褐色粘土を盛り土して整地を行っている。整地層は、土坑群の西側でのみ確認しており、土坑群が敷地境を示すと考えられる。また、土坑東端は四行八門の西二行・三行の境界にあたり、四行八門制を意識して町割りが行われたとみられる。また、廃棄土坑と考えられる土坑群が設けられていることから、その付近は屋敷裏であったと考えられる。西洞院通に面した西側が表であったものとも考えられる。土坑群の東側に、土坑と並行して掘られた柱穴列は、敷地境に設けられた塀である可能性がある。17世紀後半には、この西側の範囲において再び黄褐色の粘土で整地が行われる。これら２層の整地層の間には焼土や炭が含まれており、火災後の復興に伴う整地と考えられる。

⑤江戸時代末期

本調査地は、文久２(1862)年から建設着手された京都守護職上屋敷北東部にあたる。慶応３(1867)年に京都守護職が廃止されるまで約４年間、京都の治安維持を務めていた。京都府庁敷地内の発掘調査はこれまで３回実施されているが、京都守護職上屋敷に伴うとされる遺構を確認したのは本調査が初めてである。

この京都守護職上屋敷については、江戸時代初期から代々京都大工頭を務めた中井家には京都



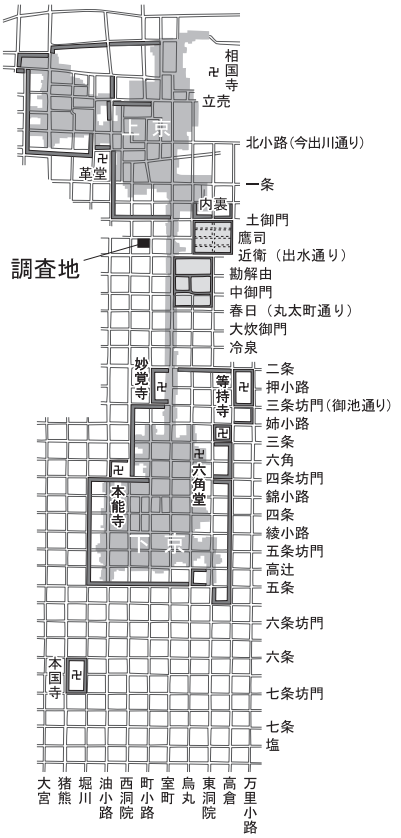
第135図　上屋敷建物復原図

守護職指図として図面が保管されていた(第２図)。中心施設となる建物だけでなく、周囲に配置された長屋の畳間や土間の位置が細かく記載されている。長屋の建物は二階建てであり、二階部分の図面は省略されている。また、完成に至るまで繰り返し改築されたといわれている。上屋敷廃絶後にも明治６(1873)年に新築された京都中学校の建物があり、同じような礎石据付穴も用いられている。

絵図で記載されている上屋敷の敷地と、現在の府庁域の形状がほぼ合致することから、絵図と現在の京都府庁域を重ね、調査地に該当すると思われる建物に検討をつけた。

今回の調査で復原した２棟(ＳＢ1b01・ＳＢ3a59)の建物のうちＳＢ1b01は、京都中学校の建物との重複関係のない場所で発見されている。京都守護職指図を用いて建物１の礎石据付穴を手掛かりに全体の復原を試みたい。

ＳＢ1b01は残りがよく、空間に比べ柱が多く立っていたことがわかる。また、礎石建物に復原でき二階建て建築を支える基礎として十分役をなすと考えられる。南北に長い間取りで長屋建築の一角と考えられる。第135図は、検出した礎石据付穴の中心間距離を勘案し、京都の大工が京間の寸法一間1.97mを用いて屋敷全体を作ったと想定して復原したものである。ＳＢ1b01は御殿北側の長屋(建物Ａ)部分にあたり、柱割も六畳二間の居住空間に南北に塀がある構造をしている。この部分を定点に考えると、ＳＡ1b84や調査地西側で検出した礎石据付穴は同じ建物に伴うと考えられる。ただ、調査地西側においては明らかに建物復原と合わないものもあり、別の建物や改築に伴う礎石据付穴の可能性がある。

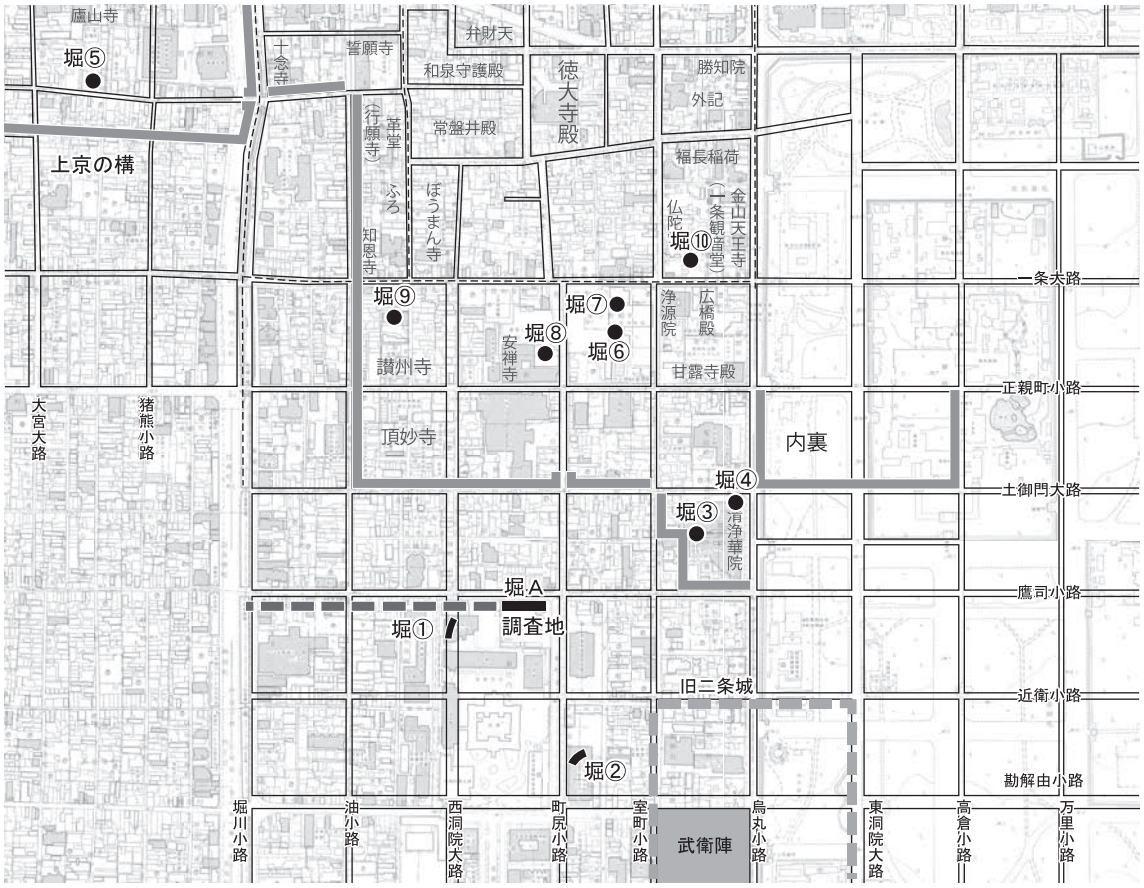


第136図　惣構概略図
(高橋康夫『海の「京都」―日本琉球都市史研究』から一部トレース・加筆した。)

ＳＢ3a59は屋敷地北側の長屋(建物Ｂ)の一部になると思われ、絵図と一致する部分もあるが、同軸線上に位置する柱の本数が多いなど、遺構の解説で述べたように改築と考えられる礎石据付穴も認められる。また、ＳＢ3a59の周囲で検出した礎石据付穴は、建物復原と正確に重ならないが、同じ建物Ｂに伴う可能性が考えられる。

調査地東側のＳＡ2b03・ＳＡ2b07もまた一体となり、南北棟の長屋(建物Ｃ)の一部であると考えられる。

調査区南端で検出したＳＤ3b02・ＳＥ3b301は、復原した建物Ａの南端から約29m南に位置し、絵図中央に描かれた塀で囲まれた御殿区域内にあたると考えられる。SD3b02は位置関係から御殿北側に位置する「局部屋」と記載された東西建物に伴う溝と想定できるが、絵図には



第137図 「上京の構え跡概略図」（『京都府中世城館跡調査報告書　第３冊』に加筆）

付表３　調査地周辺堀一覧表

堀番号	深さ（m）	幅（m）	方向	報告書
①	1.7	3.5	湾曲気味に南北に延びる	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター（1991）「平安京左京一条三坊二町・西洞院大路」（『京都府遺跡調査概報』第 45 冊）
②	約 1.4	5	斜方向	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター（1994）「平安京跡・旧二条城跡」（『京都府遺跡調査概報』第 59 冊）
	約 2.2	6 ～ 7	南北方向から北端でクランク状になる	
③	1.5	2.5	Ｌ字形	（財）京都市埋蔵文化財研究所（1989）「平安京左京一条三坊１」（『昭和 61 年度京都市埋蔵文化財調査概要』）
④	2.3	4.5	南北	（財）京都市埋蔵文化財研究所（1996）「平安京左京一条三坊」（『平成５年度京都市埋蔵文化財調査概要』）
⑤	1.55	1.3 ～ 2.2	南北	（財）京都市埋蔵文化財研究所（2011）「上京遺跡」（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』2011-2）
⑥	3.4	5.5 ～ 7.7	東西	（財）京都市埋蔵文化財研究所（1993）「平安京左京北辺三坊」（『昭和 63 年度京都市埋蔵文化財調査概要』）
⑦	1.5	約 10	南北方向から北で西に折れる	（財）京都市埋蔵文化財研究所（2002）「平安京左京北辺三坊四町」（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報』2002-9）
⑧		1.5	南北	（財）京都市埋蔵文化財研究所（1991）「平安京左京北辺三坊」（『昭和 62 年度京都市埋蔵文化財調査概要』）
⑨	1.6 ～ 2.47	3.0 ～ 4.55	Ｌ字形	（財）京都市埋蔵文化財研究所（1991）「平安京左京北辺二坊」（『昭和 62 年度京都市埋蔵文化財調査概要』）
	1.8	2.1	斜方向	

描かれていない。ＳＥ3b01も同様に絵図には描かれていないが、上屋敷と同時期の遺物も出土していることから、同時期の遺構とした。

以上、中井家京都守護職指図と検出遺構の対比を試みた。増改築と考えられる痕跡や京都中学校の基礎との混在や攪乱による遺構の欠損によって整合しない部分もあるが、存続時期の短い京都守護職上屋敷の貴重な情報を得ることができた。完成から５年程度で廃された施設であるが、その間幾度と改築したことは当時の政治情勢に伴うもので、幕府存続危機の臨場感をうかがわせるものである。

２）遺構について

（１）堀Ａ

戦国時代の京都は、上京と下京の市街地が「惣構」と呼ばれる防御施設に囲まれる。これまで高橋康夫氏をはじめとして、発掘調査成果や文献・絵画史料などから、「惣構」の復原がなされている（第136図）。これまでの発掘調査によって、調査地周辺でも構に伴うと考えられる堀が検出されている（第137図）。

堀③～⑨は上京惣構に伴う堀、堀①・②は町を囲ったと考えられている堀である。堀①・②は道路に規制されずに掘られており、湾曲する点が特徴である。堀③～⑨のうち、堀③は上京惣構の外郭を形成する防御施設、そのほかは邸宅や町割りの区画に伴うものと考えられている。堀Ａの規模をこれらの堀と比較すると、その規模は幅・深さともに最大規模であることがわかる。また、鷹司小路に沿い直線的に掘られることから、堀①・②とは異なる性格のものであると考えられる。また、その堆積状況は北側からの一方向の土砂流入による埋没課程を示すことから、堀の北側に土塁が想定でき、北側の防御のために掘られた可能性が高い。

山本雅和氏は洛中で検出された堀を３つの形式に分類しており、また排土量から堀の比較を行っている[注5]。その分類に当てはめると、堀Ａは町組全体を囲った堀Ｂ型式に分類される。また、堀Ａの１ｍの長さ分の排土量は約13㎥になり、下京惣構と想定されている平安京左京五条四坊二町で検出された幅6.5m、深さ2.0m、排土量約12㎥の堀と同規模かそれ以上の大きさであることがわかる。

以上のことから、堀Ａは上京の市街地の防御を目的として掘られた上京惣構に伴う堀の可能性が高いと考えられる。堀Ａは調査地を横断して検出し、堀の東西端は不明であるが、調査地の南西に位置する平安京左京一条三坊二町の調査（第137図堀①）では、堀Ａに接続するような堀はみつかっておらず、西側は西洞院大路を越えて延びると想定される。

従来の研究では、調査地の町尻小路・西洞院大路間において上京惣構の南限は土御門大路に想定されている。一町分南にあたる鷹司小路で大規模な堀を検出したことは、今後戦国時代の上京復原研究において貴重な成果といえる。

また、堀Ａは鷹司小路の南側に掘られており、小路を内包する位置関係にあることも、上京惣構と従来道路との関係を考える上で注目すべき点である。なお、『後法興院記』の明応８年（1499）

10月10日条に「爲要害京中堀事従京兆加下知云々、家門舊跡邊鷹司ヲ東西ヘ至堀河ニ可掘也云々、」とある(注6)。堀Ａが『後法興院記』にある「要害」のために掘られた堀と同じものであるかは今後の検討が必要であるが、位置が符合することは興味深い。

（２）鷹司小路について

現在、調査地の北側を通る下長者町通の南端は平安京左京一条三坊二町の築地推定線より約6.0m北側に位置しており、ある時期に道路が北側へ移動したとみられる。先述したようにＳＤ3a822・868が鷹司小路南側溝にあたると考えられる。12世紀前半の遺構と捉えられるが、ＳＤ3a822・868以降、道路に伴う遺構は確認できていない。堀Ａに土塁が伴うと想定すると、土塁規模は堀幅とおおむね揃うとみられる。堀ＡとＳＤ3a822の距離は4.2mで推定堀幅６ｍより短いことから、少なくとも堀が機能していたとみられる16世紀には道路は北側に移動していた可能性が考えられる。17世紀前半の南北土坑群は調査地北側に広がることから、北側に移動した道路は位置を違えることなく、現在まで踏襲されていると考えられる。

（綾部侑真・引原茂治・中川和哉・田原葉月）

注１　石田志朗「京都盆地北部の扇状地－平安京遷都時の京都の地勢－」（『古代文化』第34巻第12号　（財）古代学協会）　1982

注２　中井敦史「領国支配と土師器－山口･小田原を中心に－」（『日本中世土師器の研究』中央公論美術出版）　2011

注３　尾藤徳行･小檜山一良「上京遺跡･室町殿跡」（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　2013－８』（公財）京都市埋蔵文化財研究所）　2013

注４　引原茂治「平安京左京一条三坊二町・西洞院大路」（『京都府遺跡調査概報』第45冊　（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター）　1991

注５　山本雅和「中世京都の堀について」（『研究紀要』第２号　（財）京都市埋蔵文化財研究所）　1996

注６　竹内理三編「後法興院記」三（『續史料大成』第７巻　臨川書店）　1967

＜参考文献＞

石崎善久「上京遺跡（上京構え跡）」（京都府教育庁指導部文化財保護課編『京都府中世城館跡調査報告書』第３冊　－山城編１－　京都府教育委員会）　2014

上原真人「摂関・院政期の京都における讃岐系軒瓦の動向」（龍谷　壽・山中章編『平安京とその時代』思文閣出版）　2009

馬瀬智光「山城地域の城館」（京都府教育庁指導部文化財保護課編『京都府中世城館跡調査報告書』第４冊　－山城編１－　京都府教育委員会）　2014

小川望「出土遺物から見る江戸の「タバコ」（『江戸文化の考古学』江戸遺跡研究会編　吉川弘文館）　2000

小畑弘己「博多30－博多遺跡群第60次発掘調査報告書－」（『福岡市埋蔵文化財調査報告集』第285集　福岡市教育委員会）　1992

小森俊寛『京から出土する土器の編年的研究－日本律令的土器様式の成立と展開、７世紀～19世紀－』（有）京都編集工房　2005

下中邦彦『京都市の地名』日本歴史地名大系第27集　平凡社　1979
高橋康夫『京都中世都市史研究』思文閣出版　1983
高橋康夫『海の「京都」―日本琉球都市史研究』京都大学学術出版会　2015
「守護職上屋鋪絵図」（谷直樹編『大工中井家建築指図集』思文閣出版）　2003
谷田有史「江戸時代のたばこ」（『江戸文化の考古学』江戸遺跡研究会編　吉川弘文館）　2000
續伸一郎「堺環濠都市遺跡出土の貿易陶磁（１）－出土陶器の分類を中心として」（『貿易陶磁研究』No.10　貿易陶磁研究会）　1990
中尾芳治ほか『大阪城跡　Ⅲ』（財）大阪市文化財協会　1998
永島暉臣慎ほか『堂島蔵屋敷跡―1998年度大阪第５地方合同庁舎建設に伴う福島１丁目所在遺跡発掘調査報告書－』（財）大阪市文化財協会　1999
西森正晃ほか「三条せと物や町－桃山茶陶－　附　第33回　京都市指定・登録文化財」『京都市文化財ブックス』第30集　京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課　2016
畑中英二「近世信楽における陶器生産」（『湖国21世紀記念事業・陶芸の森解説10周年記念　研究集会「近世信楽焼をめぐって」報告書』滋賀県立陶芸の森）　2002
水野和雄「日本石硯考－出土品を中心として－」（『考古学雑誌』第70巻　第４号　日本考古学協会）　1985
山田邦和『京都都市史の研究』吉川弘文館　2009
（財）古代学協会ほか編『平安京提要』角川書店　1994
山本信夫ほか「大宰府条坊跡ＸＶ　陶磁器分類編」（『大宰府の文化財』第29集　大宰府教育委員会）　2000
江戸遺跡研究会編『図説江戸考古学研究辞典』柏書房　2001
九州近世陶磁学会『九州陶磁の編年　九州近世陶磁学会10周年記念』　2000
京都市『京都の歴史３　近世の胎動』京都市史編さん所　1968
京都市『京都の歴史４　桃山の開花』京都市史編さん所　1971
京都市『京都の歴史７　維新の激動』京都市史編さん所　1974
瀬戸市『瀬戸市史　陶磁史編６』瀬戸市史料編纂委員会　1998
中世土器研究会編『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社　1995
中世土器研究会編「東播系須恵器（２）」『第33回中世土器研究会』（研究会資料）　2014
中世土器研究会編「貿易陶磁器研究の現状と土器研究」『第35回中世土器研究会』（研究会資料）　2017

付表４　土器観察表

〈凡例〉
・口径欄の記号　（　）；復元径
・器高欄の記号　（　）；残存高
・小数点第２位を四捨五入、第１位で表示
・－；該当部位なし　・/；測定不能

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
1	磁器	蓋	ＳＥ3b01	9.8	2.6	－	4/12	密	内)灰オリーブ(5Y6/2) 外)暗褐(10YR3/3)			つまみ砂付着
2	色絵	椀	ＳＥ3b01	(8.9)	4.6	4.5	3/12	密	白(N8/0)		肥前系	伊万里
3	土師器	皿	ＳＤ3b02	(12.8)	(2.2)	－	3/12	密	橙(5YR7/6)		在地	
4	土師器	皿	ＳＤ3b02	9.6	2.2	－	6/12	密	にぶい橙色(5YR7/4)		在地	灯明皿
5	陶器	皿	ＳＤ3b02	10.6	2.4	－	9/12	密	灰白(2.5Y8/1)		京信楽系	灯明皿、見込みに胎土目跡
6	陶器	蓋	ＳＤ3b02	8.9	(2.8)	－	ほぼ完形	密	橙(5YR6/6)	灰白(2.5Y8/2)	京信楽系	
7	陶器	蓋	ＳＤ3b02	7.6	1.6	－	ほぼ完形	密	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	京信楽系	
8	磁器	椀	ＳＤ3b02	－	(1.4)	(4.2)	底)7/12	緻密	白(N9/0)		肥前系	
9	白磁	鉢	ＳＤ3b02	－	(4.1)	5.0	底)5/12	密	灰白(N8/0)	橙(7.5YR6/6)		
10	染付	皿	ＳＤ3b02	－	(1.5)	3.9	底)完形	密	白(N9/0)		肥前系	
11	陶器	五徳	ＳＤ3b02	(14.0)	8.5	(17.5)	3/12	やや粗	淡黄(2.5Y8/4)		京都系	
12	陶器	擂鉢	ＳＤ3b02	(35.6)	(8.1)	－	2/12	密	暗赤褐(5YR3/2)	褐灰(5YR4/1)	堺	湊焼
13	陶器	皿	ＳＫ3b05	(26.0)	1.4	(14.0)	1/12以下	密	白(N9/0)	青	英国	
14	染付	皿	ＳＫ3b05	－	(4.2)	(20.2)	底)4/12	精良	白(N9/0)	青(藍)	肥前系	伊万里
15	染付	鉢	ＳＫ3b05	－	(6.6)	11.3	底)7/12	精良	明緑灰(7.5GY8/1)		肥前系	
16	染付	椀	ＳＫ3b05	6.9	2.8	2.7	3/12	密	白(N9/0)		京都系	高台内「六兵衛」銘
17	青花	椀	ＳＫ3b05	－	(1.6)	(3.0)	底)完形	密	白(N9/0)		中国(清)	
18	青花	匙	ＳＫ3b05	長)/短)5.0	1.7	－	/	密	白(N9/0)		中国(清)	散蓮華
19	青花	蓋	ＳＫ3b05	5.4	2.4	－	11/12	密	白(N9/0)		中国(清)	「大明成化年製」銘
20	陶器	椀	第１面精査(７～10－Ｑ区)	6.0	5.1	3.0	6/12	密	灰白(2.5Y8/1)		京都系	「□寫眞株式会社」
21	染付	皿	ＳＰ1b88	(12.6)	4.0	4.4	1/12以下	精良	灰白(7.5YR8/2)	灰白(5GY8/1)	肥前系	
22	陶器	椀	ＳＰ1b97	－	(2.8)	5.0	底)6/12	密	灰白(2.5Y8/2)	淡黄(2.5Y8/3)	肥前系	高台内刻印あり
23	染付	蓋	ＳＰ1b87	(11.0)	(2.0)	－	2/12	精良	白(N8/0)	白・青	瀬戸系	
24	青花	皿	ＳＰ1b87	－	(1.7)	(7.0)	底)2/12	精良	白(N8/0)	白・青	中国か	高台砂付着
25	磁器	瓶	ＳＰ1b87	－	(2.0)	3.1	底)完形	精良	白	白・朱	肥前系	
26	陶器	皿	ＳＰ3a11	長)17.6 短)14.0	1.9	－	2/12	密	灰白(2.5Y8/2)	緑		珉平焼
27	染付	小椀	第１面精査	5.6	4.0	2.6	7/12	精良	白(N9/0)		京都系	高台内「道八」銘
28	染付	壺	１ａ地区攪乱	9.4	7.3	5.4	7/12	精良	白(N9/0)		京都系	高台内「大日本周半造」銘
29	磁器	椀	第１面精査	(11.2)	5.1	3.9	2/12	精良	白(N9/0)	絵付け)黒褐(10YR3/1)	京都系	高台内「六兵衛造」銘

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
30	陶器	風炉	1a地区攪乱	16.0	14.7	10.6	5/12	密	灰白(5Y8/2)	灰白(5Y8/2)	京都系	高台刻印「帯山」、3か所穿孔
31	陶器	香合	SK1b221	4.6	(2.8)	3.0	ほぼ完形	密	灰(5Y4/1)		京都系	瓢箪形印銘
32	陶器	椀	第1面精査	6.8	6.8	4.6	9/12	精良	灰白(2.5Y8/1)	褐(7.5YR4/4)・オリーブ灰(2.5GY5/1)		高台「相馬㋑」印銘
33	青花	椀	第1面精査(4－R区)	(9.4)	5.1	3.4	2/12	密	白(N9/0)		中国(清)	
34	青花	椀	SE3a110	(11.6)	6.3	(4.6)	2/12	密	白(N9/0)		中国(清)	
35	土師器	小壺	SK1b152	2.3	3.0	－	完形	密	灰白(2.5Y8/2)		在地	
36	土師器	皿	SK1b152	5.3	1.2	－	ほぼ完形	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
37	土師器	皿	SK1b152	9.7	2.3	－	9/12	密	内)にぶい黄橙(10YR6/3) 外)にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
38	土師器	皿	SK1b152	10.9	2.1	－	完形	密	浅黄橙(7.5YR8/3)		在地	灯明皿
39	土師器	皿	SK1b152	11.0	2.4	－	ほぼ完形	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
40	土師器	皿	SK1b152	11.1	2.5	－	完形	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
41	土師器	皿	SK1b152	11.3	2.1	－	完形	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
42	土師器	皿	SK1b152	10.9	2.2	－	7/12	密	浅黄橙(7.5YR8/3)		在地	灯明皿
43	土師器	皿	SK1b152	(17.2)	(2.7)	－	3/12	密	にぶい橙(7.5YR7/3)		在地	
44	土師器	丸底小鉢	SK1b152	10.8	7.8	－	ほぼ完形	密	灰(5Y4/1～5Y6/1)		在地	
45	土師器	塩壺蓋	SK1b152	6.7	1.8	－	11/12	密	橙(5YR6/6)		在地	
46	土師器	塩壺蓋	SK1b152	6.9	2.1	－	11/12	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
47	土師器	塩壺	SK1b152	4.9	8.7	－	完形	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
48	土師器	盤	SK1b152	(27.5)	(4.4)	－	3/12	密	橙(5YR6/6)		在地	
49	土師器	灰器	SK1b152	(30.0)	10.3	－	3/12	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
50	瓦質土器	火鉢	SK1b152	(31.5)	9.7	－	2/12	密	内)黄灰(2.5Y5/1) 外)黄灰(2.5Y4/1)			
51	瓦質土器	火鉢	SK1b152	(34.0)	(7.9)	－	3/12	やや密	にぶい黄橙(10YR7/3)			
52	瓦質土器	瓦灯	SK1b152	(9.2)	(9.7)	－	3/12	密	灰白(10YR8/2)			
53	瓦質土器	蓋	SK1b152	19.3	2.7	－	4/12	やや粗	黄灰(2.5Y4/1)			
54	陶器	皿	SK1b152	(10.8)	2.6	3.6	3/12	密	にぶい橙(7.5YR6/4)	灰黄褐(10YR5/2)	肥前系	唐津
55	陶器	皿	SK1b152	14.0	4.5	4.1	6/12	密	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/2)	肥前系	唐津
56	陶器	皿	SK1b152	(12.4)	3.3	4.5	2/12	密	にぶい黄橙(10YR6/3)	灰オリーブ(5Y5/2)	肥前系	唐津
57	陶器	皿	SK1b152	12.8	3.0	4.8	7/12	密	灰赤(2.5YR5/3)	灰オリーブ(5Y6/2)・暗赤灰(2.5YR3/1)	肥前系	唐津、見込みに目跡
58	陶器	皿	SK1b152	12.6	3.6	5.0	6/12	密	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰黄(2.5Y7/2)	肥前系	唐津

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
59	陶器	椀	ＳＫ1b152	9.9	6.0	3.6	8/12	密	にぶい黄橙(10YR6/3)	灰黄(2.5Y6/2)	肥前系	唐津
60	陶器	椀	ＳＫ1b152	10.8	6.8	4.4	10./12	密	灰白(2.5Y8/1)	オリーブ黒(5Y2/2)	肥前系	唐津
61	陶器	椀	ＳＫ1b152	11.4	6.9	4.6	6/12	密	明黄褐(10YR7/6)	にぶい黄褐(10YR4/3)	肥前系	唐津
62	陶器	椀	ＳＫ1b152	10.0	6.2	4.0	5/12	密	橙(5YR7/6)	黄褐(2.5Y5/4)	肥前系	唐津
63	陶器	椀	ＳＫ1b152	9.9	5.3	3.3	8/12	密	灰白(2.5Y8/1)	灰白(10Y8/1)	瀬戸・美濃系	
64	陶器	椀	ＳＫ1b152	11.1	5.8	4.4	7/12	密	灰白(5Y8/1)	オリーブ黄(5Y6/4)	瀬戸・美濃系	
65	陶器	皿	ＳＫ1b152	10.0	3.9	4.2	8/12	密	灰白(2.5Y8/2)	浅黄(5Y7/4)・オリーブ褐(2.5Y4/4)	瀬戸・美濃系	
66	陶器	皿	ＳＫ1b152	14.1	3.2	7.2	7/12	密		灰白(2.5Y8/2)	瀬戸・美濃系	青織部
67	陶器	皿	ＳＫ1b152	12.0	2.7	7.2	6/12	密	灰白(5Y8/2)	灰白(2.5Y8/2)	瀬戸・美濃系	志野
68	陶器	皿	ＳＫ1b152	13.2	2.5	7.9	5/12	密	灰白(10YR8/1)	灰白(2.5Y8/2)	瀬戸・美濃系	志野
69	陶器	皿	ＳＫ1b152	12.3	2.8	7.9	6/12	密	灰白(2.5Y8/1)	灰白(5Y8/2)	瀬戸・美濃系	志野
70	陶器	皿	ＳＫ1b152	13.0	2.7	7.3	8/12	密		灰白(2.5Y8/2)	瀬戸・美濃系	菊皿
71	陶器	皿	ＳＫ1b152	12.2	3.1	7.0	6/12	密	灰白(2.5Y8/2)	淡黄(2.5Y8/3)	瀬戸・美濃系	志野
72	陶器	皿	ＳＫ1b152	11.8	3.1	7.0	4/12	密	浅黄橙(10YR8/3)	灰白(2.5Y8/1)	瀬戸・美濃系	志野
73	陶器	盤	ＳＫ1b152	(28.1)	(5.8)	(23.2)	2/12	密	淡黄(2.5Y8/4)	灰白(2.5Y8/2)・灰(N6/1)	瀬戸・美濃系	志野
74	陶器	向付	ＳＫ1b152	8.7	(6.9)	－	10/12	密		灰白(10YR8/1)	瀬戸・美濃系	志野
75	陶器	茶入	ＳＫ1b152	最大径)6.8	(5.5)	－	/	密	橙(7.5YR7/6)	暗褐(7.5YR3/3)	瀬戸・美濃系	
76	陶器	盤	ＳＫ1b152	(23.6)	6.2	18.4	2/12	やや粗	明赤褐(2.5YR5/6)		備前	底部ヘラ記号
77	陶器	壺	ＳＫ1b152	12.5	(6.0)	－	5/12	密	褐灰(10YR6/1)	内)黒(2.5Y2/1) 外)暗褐(7.5YR3/3)	瀬戸・美濃系か	
78	陶器	壺	ＳＫ1b152	－	(8.8)	(14.6)	底)3/12	密	褐灰(10YR5/1)	黒(10YR2/1)	瀬戸・美濃系か	
79	青花	椀	ＳＫ1b152	－	(3.2)	4.4	底)完形	密	白(N9/0)		中国	高台砂付着
80	青花	椀	ＳＫ1b152	10.8	(4.4)	－	7/12	精良	灰白(5Y8/1)		中国	
81	青花	皿	ＳＫ1b152	－	(2.4)	18.0	2/12	密	浅黄橙(10YR8/3)	灰黄(2.5Y7/2)	中国	高台砂付着
82	赤絵	皿	ＳＫ1b152	(13.8)	3.2	8.9	1/12	精良	白(N9/0)		中国	色絵、高台砂付着
83	土師器	皿	ＳＫ1b479	5.6	1.2	－	完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
84	土師器	皿	ＳＫ1b479	6.7	1.5	－	完形	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
85	土師器	皿	ＳＫ1b479	5.5	1.0	－	ほぼ完形	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
86	土師器	皿	ＳＫ1b479	9.6	2.2	－	ほぼ完形	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
87	土師器	皿	ＳＫ1b479	10.7	2.2	－	11/12	密	橙(5YR6/6)		在地	
88	土師器	皿	ＳＫ1b479	10.7	2.4	－	完形	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
89	土師器	皿	ＳＫ1b479	12.0	2.5	－	4/12	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
90	土師器	小壺	ＳＫ1b479	2.0	2.1	－	11/12	密	淡黄(2.5Y8/3)		在地	
91	土師器	小壺	ＳＫ1b479	2.6	2.7	－	完形	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
92	土師器	鉢	ＳＫ1b479	8.1	(3.5)	－	3/12	やや密	内)暗灰黄(2.5Y5/2) 外)灰黄(2.5Y7/2)		在地	
93	土師器	鉢	ＳＫ1b479	10.1	(4.9)	－	2/12	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
94	土師器	塩壺蓋	ＳＫ1b479	6.1	1.7	－	完形	やや密	橙(5YR6/6)			
95	土師器	塩壺	ＳＫ1b479	5.4	8.7	－	ほぼ完形	やや粗	橙(5YR6/6)			
96	土師器	塩壺	ＳＫ1b479	4.7	9.0	－	8/12	やや粗	橙(5YR7/6)			
97	土師器	塩壺	ＳＫ1b479	7.2	10.5	－	8/12	やや粗	橙(5YR6/6)			体部に刻印「天下一堺ミなと藤左衛門」、２か所墨書あり
98	土師器	焙烙	ＳＫ1b479	29.2	8.2	－	5/12	密	内)にぶい黄橙(10YR7/4) 外)灰黄褐(10YR6/2)		在地	
99	土師器	焙烙	ＳＫ1b479	29.8	9.5	－	9/12	密	黄橙(10YR8/6)		在地	内面煤あり
100	土師器	鉢	ＳＫ1b479	20.0	4.3	－	5/12	密	橙(7.5YR7/6)	赤黒(2.5YR2/1)	在地	
101	瓦質土器	風炉	ＳＫ1b479	－	(11.0)	24.8	底)8/12	密	黒(N2/0)			
102	瓦質土器	風炉	ＳＫ1b479	(22.0)	(8.3)	－	2/12	密	黒(N2/0)			穴１か所
103	瓦質土器	浅鉢	ＳＫ1b479	13.8	(7.0)	13.5	4/12	密	内)灰白(2.5Y8/2) 外)暗灰(N3/0)			脚は3つか
104	瓦質土器	鉢	ＳＫ1b479	(36.0)	(8.0)	－	1/12	密	暗灰(N3/0)			
105	白磁	皿	ＳＫ1b479	8.3	1.9	4.6	3/12	密	白(N9/0)	白(N9/0)(やや青みがかっている)	中国	高台砂付着
106	青花	椀	ＳＫ1b479	7.3	(4.5)	－	4/12	精良	白(N9/0)		中国	
107	青花	椀	ＳＫ1b479	(10.0)	5.2	3.9	3/12	精良	白(N9/0)		中国	
108	青花	椀	ＳＫ1b479	(11.9)	(6.9)	5.7	1/12	密	白(N9/0)		中国	
109	青花	椀	ＳＫ1b479	(10.9)	5.9	5.2	1/12以下	密	灰白(N8/0)		中国	
110	青花	椀	ＳＫ1b479	－	(3.9)	5.2	底)完形	密	灰白(7.5Y8/1)	灰白(7.5Y8/1)	中国	
111	青花	椀	ＳＫ1b479	－	(3.2)	4.6	7/12	精良	灰白(N8/0)		中国	
112	青花	椀	ＳＫ1b479	－	(3.6)	4.0	底)12/12	精良	灰白(N8/0)		中国	
113	白磁	小杯	ＳＫ1b479	5.2	3.3	2.4	ほぼ完形	密	白(N9/0)		中国	内面に漆
114	赤絵	皿	ＳＫ1b479	－	(2.6)	10.5	2/12	密	灰(10Y5/1)	灰白(10YR8/1)・赤(10YR4/6)	中国	
115	染付	椀	ＳＫ1b479	9.5	(6.1)	－	7/12	密	灰白(N8/0)	明緑灰(7.5GY8/1)	肥前系	

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
116	染付	椀	SK1b479	10.0	6.8	4.1	9/12	密	灰白(N8/0)	明緑灰(7.5GY8/1)	肥前系	高台砂付着
117	白磁	皿	SK1b479	14.5	2.5	7.9	7/12	密	灰白(N8/0)	灰白(N8/0)	肥前系	高台砂付着
118	青磁	皿	SK1b479	12.8	3.8	4.8	5/12	密	浅黄橙(10YR8/3)	明緑灰(10GY7/1)	肥前系	
119	陶器	小椀	SK1b479	7.0	3.8	2.8	3/12	密	淡黄(2.5Y7/3)	灰オリーブ(7.5Y6/2)～灰オリーブ(7.5Y4/2)	肥前系	見込みに砂目跡
120	磁器	椀	SK1b479	11.1	3.4	4.4	9/12	精良	灰白(5Y7/1)	明緑灰(7.5GY7/1)	肥前系	李朝、高台砂付着３か所
121	陶器	椀	SK1b479	12.2	7.6	5.2	2/12	密	灰白(7.5YR8/2)	灰白(5Y7/1)	肥前系	高台砂付着３か所
122	陶器	椀	SK1b479	12.9	(6.0)	－	2/12	精良	灰白(7.5Y6/1)	灰白(7.5Y7/1)	肥前系	
123	陶器	椀	SK1b479	(10.0)	7.7	4.7	3/12	密	灰白(5Y7/1)	灰白(5Y7/1)	肥前系	唐津か半島、高台砂付着３か所
124	陶器	椀	SK1b479	10.0	7.4	4.4	4/12	密	橙(7.5YR6/6)	灰白(10Y7/1)	肥前系	唐津
125	陶器	椀	SK1b479	11.0	7.1	4.6	7/12	密	浅黄橙(10YR8/4)	褐(7.5YR4/6)	肥前系	唐津
126	陶器	椀	SK1b479	11.0	7.6	4.4	5/12	密	橙(7.5YR7/6)	にぶい橙(5YR6/4)	肥前系	唐津
127	陶器	椀	SK1b479	－	(4.9)	4.6	底)完形	精良	灰(7.5Y6/1)	灰白(7.5Y7/1)	肥前系	李朝、見込みに砂目跡
128	陶器	椀	SK1b479	11.4	7.5	5.0	11/12	密	にぶい赤褐(5YR5/4)	明オリーブ灰(5GY7/1)	肥前系	唐津
129	陶器	椀	SK1b479	(11.6)	6.4	4.3	7/12	密	にぶい黄橙(10YR6/4)	明オリーブ灰(2.5GY7/1)	肥前系	唐津
130	陶器	椀	SK1b479	(10.9)	7.5	4.0	5/12	密	にぶい黄橙(10YR7/3)	明褐(7.5YR5/6)	肥前系	唐津、高台砂付着
131	陶器	片口	SK1b479	10.8	7.2	4.5	4/12	密	にぶい橙(5YR6/4)	暗灰黄(2.5Y5/2)	肥前系	唐津、見込みに砂目跡
132	陶器	皿	SK1b479	12.6	3.9	3.9	11/12	密	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰黄(2.5Y6/2)	肥前系	唐津
133	陶器	皿	SK1b479	12.6	3.3	5.4	5/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	肥前系	唐津
134	陶器	皿	SK1b479	12.6	4.0	5.0	6/12	密	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	肥前系	唐津
135	陶器	皿	SK1b479	(13.4)	3.3	4.8	3/12	密	褐(7.5YR4/3)	灰オリーブ(5Y5/2)	肥前系	唐津、高台砂付着
136	陶器	皿	SK1b479	13.8	4.6	5.4	7/12	密	橙(7.5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)～橙(7.5YR6/6)	肥前系	唐津
137	陶器	皿	SK1b479	(14.0)	4.0	5.0	5/12	密	橙(7.5YR7/6)	灰黄褐(10YR6/2)	肥前系	唐津
138	陶器	皿	SK1b479	12.2	3.9	4.8	6/12	密	橙(7.5YR7/6)	明オリーブ灰(2.5GY7/1)	肥前系	唐津、見込みに胎土目跡
139	陶器	鉢	SK1b479	－	(7.0)	8.0	底)8.0	密	灰黄(2.5Y7/2)	オリーブ灰(10Y5/2)	肥前系	唐津
140	白磁	椀	SK1b479	19.1	9.0	6.9	3/12	密	淡黄(2.5Y8/3)	灰白(5Y8/2)	朝鮮	高台砂付着５か所
141	陶器	椀	SK1b479	9.9	8.3	5.3	5/12	密	灰白(10YR7/1)	オリーブ灰(10Y5/2)	肥前系	高取、高台砂付着

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
142	陶器	椀	SK1b479	−	(4.6)	3.4	底)6/12	密	灰黄(2.5Y7/2)	灰白(5Y8/1)	萩	
143	陶器	椀	SK1b479	9.6	7.8	4.6	5/12	密	灰白(2.5Y8/1)	褐(7.5YR4/4)	瀬戸・美濃系	鉄釉椀
144	陶器	椀	SK1b479	11.2	6.7	4.6	7/12	密	淡黄(2.5Y8/3)	黒(10YR2/1)～褐(10YR4/6)	瀬戸・美濃系	天目椀
145	陶器	椀	SK1b479	12.0	7.6	4.6	6/12	密	淡黄(2.5Y8/3)	褐(7.5YR4/4)	瀬戸・美濃系	天目椀
146	陶器	椀	SK1b479	11.3	7.0	4.5	9/12	密	灰白(10YR8/2)	褐(7.5YR4/3)・黒褐(7.5YR3/1)	瀬戸・美濃系	天目椀
147	陶器	椀	SK1b479	11.0	6.9	4.7	4/12	密	淡黄(2.5Y8/3)	黒(10YR2/1)～褐(10YR4/4)	瀬戸・美濃系	天目椀
148	陶器	皿	SK1b479	8.6	2.9	3.4	底)完形	密	灰白(10YR8/1)	灰白(7.5Y7/1)	瀬戸・美濃系	高台目跡4か所
149	陶器	小杯	SK1b479	7.6	3.0	3.4	5/12	密	にぶい黄橙(10YR6/4)	灰白(5Y7/2)	瀬戸・美濃系	底部糸切り、砂目跡3か所
150	陶器	小杯	SK1b479	5.8	2.8	3.3	10/12	密	淡黄(2.5Y8/3)	黒褐(7.5YR2/2)	瀬戸・美濃系	美濃
151	陶器	小杯	SK1b479	(6.6)	4.0	3.3	3/12	密	灰白(2.5Y8/2)	灰白(2.5Y8/1)	瀬戸・美濃系	志野
152	陶器	小壺	SK1b479	−	(3.7)	3.4	底)完形	密	灰白(2.5Y8/1)	浅黄(5Y7/4)	瀬戸・美濃系	底部糸切り
153	陶器	小壺	SK1b479	−	(4.0)	4.4	底)完形	密	灰白(10YR8/1)	黒褐(7.5YR3/2)	瀬戸・美濃系	底部糸切り
154	陶器	椀	SK1b479	10.6	6.9	4.6	10/12	密	灰白(2.5Y8/2)	灰白(2.5Y8/1)	瀬戸・美濃系	志野
155	陶器	皿	SK1b479	(14.8)	2.5	8.6	5/12	密	灰白(2.5Y8/1)	淡黄(2.5Y8/3)	瀬戸・美濃系	志野
156	陶器	向付	SK1b479	(13.8)	(4.8)	−	1/12以下	密	褐灰(7.5YR6/1)	浅黄(7.5Y7/3)	瀬戸・美濃系	志野
157	陶器	向付	SK1b479	−	6.0	−	1/12以下	密	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR3/4)	瀬戸・美濃系	志野織部
158	陶器	皿	SK1b473	(20.4)	4.9	8.8	3/12	密	灰白(5Y7/1)	灰白(2.5Y7/1)	瀬戸・美濃系	志野織部
159	陶器	灯火具	SK1b479	7.5	3.1～5.6	5.7	10/12	密	灰白(10YR8/2)	暗オリーブ(5Y4/3)	瀬戸・美濃系	
160	陶器	香炉	SK1b479	(7.5)	4.4	−	2/12	密	灰(5Y6/1)	褐(7.5YR4/4)	瀬戸・美濃系	脚3か所砂付着
161	陶器	香炉	SK1b479	−	(4.2)	−	/	密	褐灰(10YR6/1)	暗褐(10YR3/4)	瀬戸・美濃系	脚3か所砂付着
162	陶器	壺	SK1b479	(10.0)	(7.8)	−	4/12	密	灰白(10YR8/1)	黒(7.5YR2/1)～にぶい褐(7.5YR5/4)	瀬戸・美濃系	
163	陶器	香炉か	SK1b479	10.2	(4.7)	−	4/12	密	灰白(N7/0)		瀬戸・美濃系	二次焼成受ける
164	陶器	広口壺	SK1b479	14.6	15.6	14.0	ほぼ完形	密	極暗赤褐(2.5YR2/2)～明赤褐(2.5YR5/6)		備前	ヘラ記号あり
165	陶器	建水	SK1b479	13.0	9.3	7.5	11/12	密	にぶい赤褐(5YR4/3)		信楽	

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
166	陶器	建水	ＳＫ1b479	13.2	9.0	14.5	5/12	密	にぶい赤褐(5YR5/4)		信楽	
167	陶器	建水	ＳＫ1b479	13.0	(7.8)	14.7	5/12	密	暗赤褐(5YR3/2)		信楽	
168	陶器	建水か	ＳＫ1b479	(12.2)	(7.6)	－	3/12	密	暗赤褐(10YR3/3)		信楽	
169	陶器	建水	ＳＫ1b479	16.4	9.4	14.0	5/12	密	橙(5YR7/6)		信楽	
170	陶器	建水か	ＳＫ1b479	14.6	11.3	16.5	ほぼ完形	密	内)赤褐(5YR4/8) 外)暗赤褐(5YR3/4)		信楽	
171	陶器	壺	ＳＫ1b479	14.0	(33.1)	－	8/12	密	内)浅黄橙(10YR8/3) 外)浅黄橙(10YR8/3)～黄褐(10YR5/8)		信楽	
172	陶器	双耳鉢	ＳＫ1b479	26.6	12.7	17.6	5/12	密	灰白(2.5Y7/1)	黄褐(2.5Y5/6)・暗褐(10YR3/4)	肥前系又は東南アジア	底部砂付着
173	陶器	鉢	ＳＫ1b479	－	(6.0)	18.6	底)5/12	やや粗	灰白(2.5Y7/1)	内)暗オリーブ灰(2.5GY4/1)・暗褐(7.5YR3/3) 外)灰褐(5YR5/2)		
174	陶器	鉢	ＳＫ1b479	－	(8.7)	(16.3)	底)1/12	粗	にぶい褐(7.5YR6/3)	灰黄褐(7.5YR4/2)	備前	
175	陶器	壺	ＳＫ1b479	－	(9.4)	－	6/12	密	暗赤褐(5YR3/3)		備前	底部糸切り
176	陶器	鉢	ＳＫ1b479	(26.0)	5.4	20.2	1/12	密	にぶい褐(7.5YR5/4)		備前	
177	陶器	盤	ＳＫ1b479	22.0	4.4	11.5	12/12	密	灰赤(2.5YR4/2)		備前	ヘラ記号あり
178	陶器	瓶	ＳＫ1b479	－	(15.0)	－	/	密	灰白(5Y7/1)	オリーブ黒(5Y3/1)・暗褐(10YR3/3)	肥前系	唐津
179	陶器	鉢	ＳＫ1b479	(13.6)	10.8	10.2	3/12	密		暗赤褐(5YR4/3)	ヴェトナム	
180	陶器	長胴瓶	ＳＫ1b479	10.3	29.0	10.0	6/12	密	内)灰黄(2.5Y6/2) 外)暗灰黄(2.5Y5/2)		ヴェトナム	
181	陶器	擂鉢	ＳＫ1b479	(35.0)	15.2	14.0	1/12	密	橙(2.5YR6/6)～にぶい赤褐(2.5YR5/4)		丹波	
182	陶器	擂鉢	ＳＫ1b479	(37.6)	16.3	15.0	3/12	精良	灰白(10YR7/1)	褐(7.5YR4/4)	丹波	
183	陶器	擂鉢	ＳＫ1b479	(41.6)	(14.5)	－	2/12	やや密	赤褐(5YR4/6)		信楽	
184	陶器	擂鉢	ＳＫ1b479	42.3	16.3	16.4	7/12	密	口縁部)暗赤褐(5YR3/4) 体部)にぶい橙(5YR6/4～にぶい黄橙10YR6/3)		信楽	
185	陶器	擂鉢	ＳＫ1b479	－	(4.6)	－	/	密	灰(N6/0)	褐(7.5YR4/4)		
186	土師器	皿	ＳＫ1b203-3	5.5	1.1	－	ほぼ完形	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
187	土師器	皿	ＳＫ1b203-3	5.2	1.3	－	ほぼ完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
188	土師器	皿	ＳＫ1b203-3	6.0	1.1	－	7/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
189	土師器	皿	SK 1b203-3	10.4	2.1	−	4/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
190	土師器	皿	SK 1b203-3	11.0	1.9	−	7/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
191	土師器	皿	SK 1b203-3	11.0	2.3	−	6/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	煤付着
192	土師器	皿	SK 1b203-3	11.0	2.2	−	5/12	密	にぶい橙(7.5YR7/3)		在地	
193	土師器	皿	SK 1b203-3	11.2	2.4	−	6/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	煤付着
194	土師器	皿	SK 1b203-4	10.8	2.3	−	完形	密	橙(7.5YR7/6)		在地	灯明皿
195	土師器	小壺	SK 1b203-4	2.2	2.4	2.5	完形	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
196	土師器	塩壺	SK 1b203-4	5.1	7.8	5.0	ほぼ完形	密	橙(7.5YR6/6)			内)布目痕 外)面取り
197	土師器	塩壺	SK 1b203-4	5.0	7.6	5.3	ほぼ完形	密	内)にぶい橙(5YR7/4) 外)橙(5YR6/6)			内)布目痕 外)面取り
198	土師器	塩壺	SK 1b203-4	5.2	8.1	5.5	ほぼ完形	密	橙(2.5YR6/6)			内)布目痕 外)面取り
199	土師器	鍋	SK 1b203-2・3	28.6	(7.3)	−	6/12	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
200	土師器	鍋	SK 1b203-3	29.6	(7.8)	−	5/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	外面ほぼ全体に煤付着
201	瓦質土器	羽釜	SK1b203	13.6	14.5	17.2	10/12	密	黒			
202	青花	小椀	SK1b203	(9.2)	3.4	4.0	7/12	精良	白(N9/0)		中国	
203	青花	椀	SK 1b203-3	−	(3.3)	4.1	底)9/12	精良	灰白(N8/0)		中国	
204	青花	椀	SK 1b203-3	−	(2.9)	4.8	底)6/12	精良	灰白(N8/0)		中国	
205	青花	椀	SK 1b203-3	11.4	5.3	4.7	4/12	精良	白(N9/0)		中国	
206	青花	皿	SK 1b203-3	−	(2.1)	(6.0)	底)3/12	精良	灰白(N8/0)		中国	碁笥底
207	青磁	鉢	SK1b203	18.9	6.3	6.1	7/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)	オリーブ灰(10Y6/2)	肥前系	波佐見
208	染付	椀	SK1b203	(11.1)	6.7	4.1	9/12	精良	灰白(10YR8/2)		肥前系	内面染付、外面鉄釉
209	陶器	沓茶椀	SK 1b203-3・4	8.8～10.5	8.9	5.4	4/12	やや粗	にぶい黄橙(10YR6/4)	黒褐(2.5Y3/1)	肥前系	
210	陶器	皿	SK 1b203-4	11.2	3.1～3.6	4.6	6/12	良	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄(2.5Y7/3)	肥前系	見込みに胎土目跡４か所
211	陶器	皿	SK 1b203-4	(12.3)	3.5	4.7	3/12	密	明赤褐(5YR5/6)	灰オリーブ(5Y5/2)	肥前系	見込みに胎土目跡４か所
212	陶器	椀	SK 1b203-4	10.8	6.9	4.3	6/12	密	灰白(2.5Y8/2)	にぶい赤褐(5YR5/4)～黒(N2/0)の斑	瀬戸・美濃系	天目椀

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
213	陶器	椀	SK1b203-4	11.0	6.2	3.7	6/12	密	淡黄(2.5Y8/3)	黒(7.5YR7/1)	瀬戸・美濃系	天目椀
214	陶器	椀	SK1b203	11.0	6.7	4.7	6/12	やや密	明黄褐(10YR7/6)	黒褐(5YR2/1)	瀬戸・美濃系	天目椀
215	陶器	沓茶椀	SK1b203	11.3	7.3	6.1	8/12	密	灰白(2.5Y8/1)	黒(10YR2/1)・灰白(5Y7/1)	瀬戸・美濃系	黒織部
216	陶器	平向付	SK1b203	(13.1)	5.2	6.4	10/12	密	クリーム		瀬戸・美濃系	青織部
217	陶器	平向付	SK1b203	11.7	4.7	6.9	11/12	密	灰白(2.5Y8/2)	灰白(2.5Y8/2)オリーブ灰(10Y4/2)	瀬戸・美濃系	織部、脚3か所
218	陶器	小椀	SK1b203	6.7	3.7	4.4	ほぼ完形	密	灰白(10YR8/2)	灰白(2.5Y8/1)	瀬戸・美濃系	志野鉄絵
219	陶器	鉢	SK1b203	(16.8)	5.0	6.3	5/12	密	灰白(10YR8/2)		瀬戸・美濃系	志野鉄絵
220	陶器	椀	SK1b203	(12.8)	(10.9)	5.6	11/12	密	灰白(10YR8/2)	灰白(2.5Y8/1)	瀬戸・美濃系	志野
221	陶器	皿	SK1b203	幅)19.5	3.8	奥行)13.2	ほぼ完形	密	灰白(10YR8/1)	浅黄橙(10YR8/3)	京都系	古清水
222	陶器	鉢	SK1b203-3・4	(25.6)	15.3	(21.9)	2/12	密	褐(7.5YR4/3)		肥前系か朝鮮系	
223	陶器	瓶	SK1b203-3	4.8	(15.0)	−	12/12(口径)	良	内)にぶい黄橙(10YR7/3) 外)にぶい赤褐(5YR4/4)		備前系	
224	陶器	鉢	SK1b203	(13.0)	(7.3)	−	6/12	密	暗赤褐(5YR3/3)		備前系	建水か
225	陶器	壺	SK1b203-3・4	(16.0)	20.5	15.6	1/12以下	やや密	灰黄褐色(10YR6/2)	灰褐(7.5YR4/2)	丹波系	
226	陶器	長胴壺	SK1b203	11.8	(16.3)	−	7/12	密	灰(N5/0)		ヴェトナム	
227	陶器	平向付	SK1c261	幅)横12.9縦11.1	4.5	/	11/12	密	淡黄(2.5Y8/3)	灰白(2.5Y8/2)オリーブ灰(10Y4/2)(深緑)	瀬戸・美濃系	青織部
228	陶器	平向付	SK1c261	幅)横12.5縦11.1	4.6	/	10/12	密	淡黄(2.5Y8/3)	灰白(2.5Y8/2)オリーブ灰(10Y4/2)(深緑)	瀬戸・美濃系	青織部
229	青花	皿	SK1c263	(31.4)	4.9	16.0	2/12	精良	灰白(N8/0)		中国	
230	陶器	桶形容器	攪乱1b43	29.8	(11.5)	−	4/12	密	橙(5YR6/6)	暗赤褐(2.5YR3/2)	不明	
231	陶器	桶形容器	SK1c152	36.5	(21.5)	−	5/12	密	橙(7.5YR6/6)・灰(N6/0)	黒褐(5YR3/1)	不明	
232	陶器	桶形容器	SK1b203-3	−	(8.3)	(42.8)	2/12	密	褐灰(10YR5/1)	褐灰(5YR4/1)	不明	
233	陶器	桶形容器	攪乱1b43	(44.8)	(10.0)	−	2/12	やや粗	灰黄褐(10YR4/2)		不明	
234	陶器	桶形容器	SE2a57	38.0	34.5	37.2	3/12	密	灰黄褐(10YR5/2)	暗オリーブ(5Y4/4)	タイか	
235	陶器	桶形容器	SE3a57	31.0	30.2	30.2	7/12	密	橙(7.5YR6/6)	暗灰黄(2.5Y4/2)	不明	
236	欠番											

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
237	土師器	皿	ＳＥ3b129	5.3	0.9	－	7/12	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	灯明皿
238	土師器	皿	ＳＥ3b129	9.8	2.1	－	6/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	灯明皿
239	土師器	皿	ＳＥ3b129	9.8	2.3	－	4/12	密	橙(5YR7/6)		在地	
240	土師器	皿	ＳＥ3b129	(10.0)	2.2	－	3/12	密	橙(5YR7/6)		在地	
241	土師器	皿	ＳＥ3b129	11.5	2.3	－	5/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	灯明皿
242	陶器	皿	ＳＥ3b129	11.9	3.2	4.5	5/12	やや密	灰黄(2.5Y7/2)	灰オリーブ(5Y6/2)	肥前系	絵唐津、口縁輪花、見込みに胎土目跡
243	陶器	皿	ＳＥ3b129	11.8	3.5	4.0	7/12	やや密	灰黄(2.5Y7/2)	灰黄(2.5Y6/2)	肥前系	絵唐津、見込みに胎土目跡４か所
244	土師器	皿	ＳＫ2b290	10.7	2.4	－	5/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	灯明皿
245	土師器	皿	ＳＫ2b290	(9.8)	1.9	－	3/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
246	土師器	皿	ＳＫ2b290	(10.8)	1.9	－	2/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
247	土師器	皿	ＳＫ2b290	(13.6)	1.9	－	2/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
248	土師器	塩壺	ＳＫ2b290	5.2	8.6	5.8	完形	密	橙(2.5YR7/6)			
249	瓦質土器	平瓦	ＳＫ2b290	(25.4)	(6.5)	－	2/12	密	灰(Ｎ4/0)			
250	陶器	小瓶	ＳＫ2b290	3.7	10.2	4.4	10/12	密	灰黄褐(10YR6/2)	灰黄褐(10YR5/2)	肥前系	唐津
251	青花	椀	ＳＫ2b290	(10.8)	6.3	4.9	2/12	精良	白(N9/0)		中国	内面印刻
252	土師器	皿	ＳＫ2b173	5.2	1.2	－	完形	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
253	土師器	皿	ＳＫ2b173	5.9	1.1	－	10/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
254	土師器	皿	ＳＫ2b173	10.2	2.4	－	ほぼ完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	灯明皿
255	土師器	皿	ＳＫ2b173	10.4	2.3	－	11/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	灯明皿
256	土師器	皿	ＳＫ2b173	11.8	2.3	－	4/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
257	土師器	皿	ＳＫ2b173	12.3	2.2	－	完形	密	橙(7.5YR7/6)		在地	灯明皿
258	土師器	皿	ＳＫ2b173	12.7	2.3	－	9/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
259	陶器	鉢	ＳＫ2b173	(16.0)	(5.5)	－	2/12	密	浅黄(2.5Y8/3)	淡黄(7.5Y8/3)・浅黄(7.5Y7/3)	瀬戸・美濃系	黄瀬戸
260	白磁	椀	ＳＫ2b173	－	(3.2)	4.2	底)7/12	精良	白(N9/0)	灰白(5GY8/1)	中国	
261	青花	皿	ＳＫ2b173	－	(1.3)	(8.0)	底)3/12	精良	灰白(N9/0)	灰白(7.5Y8/0)	中国	
262	青花	皿	ＳＫ2b173	－	(1.1)	6.5	5/12	精良	灰白(N8/0)	明緑灰(7.5GY8/1)	中国	高台砂付着
263	土師器	皿	ＳＫ3b32	10.7	2.2	－	4/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
264	土師器	皿	ＳＫ3b32	10.7	2.0	－	6/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
265	土師器	皿	ＳＫ3b32	11.0	2.4	－	6/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
266	土師器	皿	ＳＫ3b32	11.2	2.4	－	7/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	灯明皿
267	土師器	皿	ＳＫ3b32	12.2	2.3	－	9/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	灯明皿
268	土師器	皿	ＳＫ3b32	12.2	2.2	－	7/12	密	にぶい黄橙(10YR7/2)		在地	内外全面に煤付着
269	陶器	椀	ＳＫ3b32	－	(5.4)	3.5	底)ほぼ完存	密	灰白(2.5Y8/2)	灰白(2.5Y8/2)	肥前系	
270	陶器	皿	ＳＫ3b32	－	(3.6)	4.4	底)完存	密	にぶい橙(7.5YR7/3)	灰白(10YR7/1)	肥前系	見込みに砂目跡３か所

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
271	陶器	皿	ＳＫ3b32	(11.3)	2.3	6.4	3/12	密	灰白(10YR8/2)	灰白(2.5Y8/2)	瀬戸・美濃系	高台粘土付着、志野
272	陶器	皿	ＳＫ3b32	(14.6)	3.0	7.6	2/12	密	明褐灰(7.5YR7/1)	にぶい黄(2.5Y6/4)	瀬戸・美濃系	灰釉
273	陶器	椀	ＳＫ3b32	(11.9)	7.1	4.8	2/12	密	灰白(10YR8/2)	黒褐(5YR2/1)	瀬戸・美濃系	天目椀
274	青磁	椀	ＳＫ3b32	－	(3.0)	4.8	底)4/12	密	灰白(2.5Y7/1)	オリーブ灰(2.5GY6/1)	中国	
275	青磁	椀	ＳＫ3b32	－	(1.8)	6.0	底)4/12	密	灰白(10Y7/1)	灰白(5Y7/1)	中国	
276	土師器	皿	ＳＫ3a450	6.8	1.5	－	完形	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
277	土師器	皿	ＳＫ3a450	6.6	1.7	－	ほぼ完形	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
278	土師器	皿	ＳＫ3a450	7.4	1.8	－	ほぼ完形	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
279	土師器	皿	ＳＫ3a450	9.4	2.2	－	完形	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
280	土師器	皿	ＳＫ3a450	9.4	2.2	－	完形	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
281	土師器	皿	ＳＫ3a450	9.8	2.1	－	完形	密	浅黄橙(7.5YR8/3)		在地	
282	土師器	皿	ＳＫ3a450	10.2	2.2	－	完形	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
283	土師器	皿	ＳＫ3a450	10.2	2.2	－	完形	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
284	土師器	皿	ＳＫ3a450	10.6	2.3	－	完形	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
285	軟質陶器	椀	ＳＫ3c30・450	(9.9)	(6.7)	－	1/12	密	褐灰(10YR4/1)～赤褐(5YR4/6)	黒(7.54Y2/1)	京都系	楽焼
286	土師器	皿	ＳＫ3a139	8.0	1.6	－	ほぼ完形	密	灰白(10YR8/2)		在地	
287	土師器	皿	ＳＫ3a139	8.4	1.7	－	9/12	密	浅黄橙(7.5YR8/3)		在地	
288	土師器	皿	ＳＫ3a139	10.8	2.1	－	5/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	灯明皿
289	土師器	皿	ＳＫ3a139	10.8	2.3	－	ほぼ完形	密	橙(7.5YR7/6)		在地	灯明皿
290	土師器	平仄	ＳＫ3a139	14.2	6.6	－	4/12	密	橙(7.5YR7/6)			
291	土師器	灯火具	ＳＫ3a139	－	(4.1)	－	/	密	橙(7.5YR7/6)		在地	蓋
292	白磁	椀	ＳＫ3a139	10.6	5.9	4.5	6/12	密	灰白(5Y8/1)	灰白(2.5GY8/1)	肥前系	
293	白磁	小椀	ＳＫ3a139	7.0	2.8	2.6	5/12	密	灰白(2.5GY8/1)	灰白(N8/0)	中国	
294	青花	椀	ＳＫ3a139	－	(1.4)	3.3	底)6/12	密	明緑灰(7.5GY8/1)		中国	高台内「大明」銘、高台砂付着
295	陶器	水指	ＳＫ3a139	(21.0)	(12.5)	(22.0)	(1/12)	密	灰白(10YR7/1)	灰白(2.5Y8/2)・明褐灰(7.5YR7/1)・灰褐(7.5YR4/2)	肥前系	高取
296	陶器	筒向付	ＳＫ3a139	6.8	7.2	3.6	7/12	密	灰白(2.5Y7/1)	灰白(7.5Y7/1)	肥前系	絵唐津
297	陶器	椀	ＳＫ3a139	(12.8)	5.4	5.9	1/12以下	密	淡黄(2.5Y8/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	肥前系	高台内「清水」銘
298	陶器	鉢	ＳＫ3a139	20.2	11.4	－	7/12	密	にぶい赤橙(10R6/4)	暗赤褐(5YR3/2)	肥前系	
299	陶器	皿	ＳＫ3a139	(42.2)	10.9	11.8	1/12	密	にぶい黄橙(10YR6/4)		肥前系	絵唐津、高台砂付着
300	土師器	皿	ＳＫ3b204	5.4	1.3	－	完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
301	土師器	皿	ＳＫ3b204	5.8	1.2	－	完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
302	土師器	皿	ＳＫ3b204	9.4	2.0	－	5/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
303	土師器	皿	ＳＫ3b204	9.5	2.3	－	8/12	密	黒褐(10YR3/1)		在地	灯明皿
304	土師器	皿	ＳＫ3b204	9.6	2.1	－	3/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
305	土師器	皿	SK3b204	(10.4)	2.1	−	2/12	密	褐灰(10YR4/1)		在地	灯明皿
306	土師器	皿	SK3b204	10.6	2.1	−	2/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
307	土師器	皿	SK3b204	11.2	2.0	−	4/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
308	土師器	塩壺	SK3b204	5.4	9.0	6.0	ほぼ完形	密	橙(2.5YR6/8)			
309	土師器	鍋	SK3b204	29.6	7.8	−	4/12	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	煤付着
310	瓦質土器	鉢	SK3b204	−	(6.0)	(13.4)	底)3/12	密	暗灰(N3/0)			
311	陶器	椀	SK3b204	11.5	6.5	4.9	5/12	密	淡黄(2.5Y8/3)	暗赤褐(5YR3/6)	瀬戸・美濃系	天目椀
312	陶器	椀	SK3b204	(10.9)	6.9	5.3	2/12	密	淡黄(2.5Y8/3)	暗赤褐(5YR3/4)	瀬戸・美濃系	天目椀
313	陶器	向付	SK3b204	(15.4)	5.5	−	3/12	密	灰白(2.5Y7/1)	灰白(2.5Y8/1)	瀬戸・美濃系	志野
314	陶器	沓掛茶椀	SK3b204	10.9	7.0	5.9	7/12	密	灰白(2.5Y8/1)	灰白(2.5Y8/1)・黒(2.5Y2/1)	瀬戸・美濃系	織部　底部ヘラ記号あり
315	陶器	花入れ	SK3b204	−	(10.5)	5.8	6/12	密	暗灰(N3/0)	灰白(10YR8/1)		
316	土師器	皿	SK3b141	10.8	2.2	−	5/12	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
317	土師器	皿	SK3b141	12.6	2.0	−	11/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	灯明皿
318	陶器	椀	SK3b141	−	(3.8)	5.0	底)完形	密	灰(5Y4/1)		肥前系	高台に砂目跡４か所
319	土師器	皿	SK3b85	9.2	2.0	−	4/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	灯明皿
320	土師器	皿	SK3b85	10.5	2.0	−	ほぼ完形	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
321	瓦質土器	香炉	SK3b85	(15.0)	(6.0)	−	3/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)			外面型スタンプ(花文)
322	白磁	椀	SK3b85	−	(1.9)	5.6	底)6/12	密	灰白(N8/0)	灰白(7.5Y7/1)	中国	
323	陶器	小椀	SK3b85	−	(3.1)	3.6	底)完形	密	橙(7.5YR7/6)	灰黄褐(10YR6/2)	肥前系	唐津
324	陶器	鉢	SK3b85	−	(3.0)	5.0	底)完形	密	にぶい赤褐(5YR5/4)	灰(5Y4/1)	肥前系	絵唐津
325	陶器	椀	SK3b85	12.0	(5.4)	−	4/12	密	灰白(10YR8/2)	極暗褐(7.5YR2/3)	瀬戸・美濃系	天目椀
326	陶器	皿	SK3b85	10.1	2.6	6.0	ほぼ完形	密	灰白(7.5Y8/2)	灰オリーブ(7.5Y5/3)	瀬戸・美濃系	灰釉
327	土師器	皿	SK3b327	(12.4)	(2.2)	−	3/12	密	褐灰(7.5YR4/1)		在地	
328	陶器	椀	SK3b327	(10.2)	(5.9)	−	2/12	密	灰白(10YR8/1)	暗褐(7.5YR3/4)	瀬戸・美濃系	天目椀
329	陶器	椀	SK3b327	(10.8)	7.6	5.1	3/12	密	にぶい橙(7.5YR7/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	肥前系	唐津
330	陶器	椀	SK3b327	−	(2.2)	4.0	底)完形	密	灰白(2.5Y8/2)	黄灰(2.5Y7/2)	肥前系	唐津
331	陶器	椀	SK3b327	−	(3.5)	4.4	底)10/12	密	にぶい赤褐(2.5YR5/4)	黄灰(2.5Y6/1)	肥前系	唐津
332	土師器	皿	SK3b384	10.7	2.0	−	9/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
333	土師器	皿	SK3b384	10.8	2.0	−	4/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
335	土師器	皿	SK3b384	11.0	2.0	−	完形	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
336	土師器	皿	SK3b384	11.1	2.0	−	11/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
337	土師器	皿	SK1a55	6.7	1.4	−	10/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
338	土師器	皿	ＳＫ1a55	9.4	2.1	－	11/12	密	内)にぶい黄橙(10YR7/3) 外)褐灰(10YR5/1)		在地	
339	土師器	皿	ＳＫ1a55	9.9	2.0	－	8/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
340	土師器	皿	ＳＫ1a55	10.1	2.3	－	11/12	密	褐灰(10YR5/1)		在地	
341	土師器	皿	ＳＫ1a55	10.2	2.3	－	8/12	密	にぶい橙(7.5YR7/3)		在地	
342	土師器	皿	ＳＫ1a55	10.7	2.1	－	11/12	密	浅黄橙(7.5YR8/3)		在地	
343	陶器	皿	ＳＫ1a55	10.1	2.3	5.7	7/12	密	灰白(10YR8/2)		瀬戸・美濃	高台内にトチンの痕跡
344	陶器	皿	ＳＫ1a55	10.4	2.3	5.7	ほぼ完形	密	灰褐(7.5YR6/2)	浅黄(5Y7/3)	瀬戸・美濃	高台内にトチンの痕跡
345	陶器	椀	ＳＫ1a55	11.5	5.4	5.4	6/12	密	灰白(10YR8/2)	灰白(7.5Y8/1)	瀬戸・美濃系	灰釉
346	陶器	椀	ＳＫ1a55	(12.2)	(5.7)	－	3/12	密	灰黄(2.5Y7/2)	極暗褐(7.5YR2/3)	瀬戸・美濃系	鉄釉
347	陶器	擂鉢	ＳＫ1a55	28.6	11.4	12.6	9/12	粗	赤褐(2.5YR4/6)		信楽系	
348	土製品	犬形土製品	ＳＫ1a55	長)7.7	(4.2)	幅)3.5	一部欠	やや密	にぶい黄橙(10YR7/3)			
349	土師器	皿	ＳＸ1a107	(12.0)	(2.3)	－	1/12	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
350	土師器	皿	ＳＸ1a107	(12.4)	(2.1)	－	3/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
351	土師器	皿	ＳＸ1a107	12.8	2.2	－	11/12	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
352	土師器	皿	ＳＸ1a107	14.0	(2.1)	－	4/12	密	にぶい黄橙(10YR7/2)		在地	
353	陶器	椀	ＳＸ1a107	(12.2)	(6.3)	－	2/12	密	灰白(10YR8/2)	暗褐(7.5YR3/3)	瀬戸・美濃系	天目椀
354	青磁	皿	ＳＸ1a107	－	/	－	1/12以下	密	灰白(N8/0)	明オリーブ灰(2.5GY7/1)	中国	
355	土師器	皿	ＳＫ3a192	8.8	2.0	－	完形	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	灯明皿
356	土師器	皿	ＳＫ3a192	10.0	2.2	－	6/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	灯明皿
357	土師器	皿	ＳＫ3a192	10.5	2.3	－	完形	密	浅黄橙(7.5YR8/3)		在地	灯明皿
358	土師器	皿	ＳＫ3a192	10.6	2.1	－	ほぼ完形	密	灰白(10YR8/2)		在地	灯明皿
359	土師器	皿	ＳＫ3a192	10.6	2.3	－	完形	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	灯明皿
360	土師器	皿	ＳＫ3a192	10.7	2.1	－	9/12	密	淡黄(2.5Y8/3)		在地	灯明皿
361	土師器	皿	ＳＫ3a192	(11.2)	(2.2)	－	4/12	密	にぶい橙(7.5YR7/3)		在地	灯明皿
362	青磁	椀	ＳＸ3a200	－	(4.0)	5.7	底)11/12	密	灰白(N8/0)	明緑灰(10GY7/1)よりやや濃い	中国	
363	陶器	長胴壺	ＳＸ3a200	－	(26.0)	10.0	底)6/12	密	灰黄褐(10YR4/2)	暗褐(7.5YR3/3)	ヴェトナム	
364	瓦質土器	鉢	ＳＸ3a202	24.6	9.9	9.9	8/12	密	灰(N5/0)			
365	白磁	椀	堀Ａ	－	(2.5)	(7.2)	底)2/12	密	灰白(7.5Y8/1)	灰白(7.5Y7/2)	中国	
366	白磁	椀	堀Ａ	－	(3.1)	(7.6)	底)2/12	密	灰白(5Y8/1)		中国	
367	青磁	椀	堀Ａ	(13.4)	(4.2)	－	2/12	密	灰白(7.5Y7/1)	オリーブ灰(10Y6/2)	中国	
368	青磁	椀	堀Ａ	－	(3.2)	(6.5)	底)11/12	密	灰白(N8/0)	オリーブ灰(10Y6/2)	中国	
369	青花	皿	堀Ａ	(11.8)	2.5	(7.1)	1/12以下	密	灰白(5Y8/1)	明オリーブ灰(5GY7/1)	中国	

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
370	土師器	皿	堀A	(9.0)	1.5	−	2/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
371	土師器	皿	堀A	(9.0)	1.9	−	3/12	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
372	土師器	皿	堀A	(10.0)	(2.4)	−	2/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
373	土師器	皿	堀A	(10.2)	(2.4)	−	2/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
374	土師器	皿	堀A	11.8	2.3	−	4/12	密	灰白(5Y8/2)		在地	
375	土師器	皿	堀A	(12.4)	(2.7)	−	1/12	密	灰白(2.5Y8/1)		在地	
376	土師器	皿	堀A	(12.4)	(2.3)	−	3/12	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
377	土師器	皿	堀A	(12.2)	2.3	−	3/12	密	にぶい黄橙(10YR7/2)		在地	
378	土師器	皿	堀A	12.2	1.9	−	4/12	密	にぶい黄橙(10YR7/2)		在地	
379	土師器	皿	堀A	(15.0)	(2.5)	−	1/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
380	瓦質土器	浅鉢	堀A	長)(13.7)	(8.4)	−	/	やや密	灰(N4/0)			
381	白磁	椀	堀A	(10.0)	(2.5)	−	1/12	密	灰白(5Y7/1)	灰白(7.5Y8/1)	中国	
382	白磁	椀	堀A	(16.0)	(3.9)	−	1/12	密	灰白(5Y8/1)		中国	
383	白磁	皿	堀A	(10.3)	2.6	(6.8)	2/12	密	灰白(10Y7/1)		中国	
384	陶器	椀	堀A	(13.0)	(4.8)	−	2/12	密	灰白(10Y8/1)			
385	土師器	皿	堀B	(6.8)	1.6	−	3/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
386	土師器	皿	堀B	6.8	1.8	−	ほぼ完形	密	灰白(10YR8/2)		在地	
387	土師器	皿	堀B	7.0	1.9	−	4/12	密	浅黄橙(7.5YR8/3)		在地	
388	土師器	皿	堀B	(7.0)	2.0	−	2/12	密	灰白(10YR8/1)		在地	
389	土師器	皿	堀B	(8.5)	2.6	−	3/12	密	灰白(7.5YR8/2)		在地	
390	土師器	皿	堀B	12.1	(3.2)	−	5/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
391	土師器	皿	堀B	16.4	(3.9)	−	4/12	密	淡黄(2.5Y8/3)		在地	
392	土師器	皿	堀B	5.9	1.2	−	完形	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
393	土師器	皿	堀B	6.6	1.5	−	9/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
394	土師器	皿	堀B	(8.3)	1.4	−	3/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
395	土師器	皿	堀B	8.6	1.9	−	6/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
396	土師器	皿	堀B	8.6	2.1	−	7/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
397	土師器	皿	堀B	9.3	2.1	−	6/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
398	土師器	皿	堀B	9.4	2.2	−	4/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
399	土師器	皿	堀B	9.6	2.1	−	7/12	密	にぶい黄橙(10YR7/2)		在地	
400	土師器	皿	堀B	9.8	2.3	−	4/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
401	土師器	皿	堀B	10.0	2.3	−	5/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	灯明皿
402	土師器	皿	堀B	10.2	2.1	−	6/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	灯明皿
403	土師器	皿	堀B	12.6	2.5	−	4/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
404	土師器	皿	堀B	13.0	2.1		2/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
405	土師器	高杯	堀B	−	(2.7)	−	/	密	灰白(10YR8/2)		在地	
406	土師器	丸底小鉢	堀B	9.4	(4.5)	−	4/12	密	内)灰(5Y6/1)外)橙(7.5YR7/6)		在地	
407	土師器	丸底小鉢	堀B	(10.0)	(5.7)	−	1/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
408	土師器	丸底小鉢	堀B	(10.6)	7.9	−	2/12	密	内)灰(5Y5/1)外)にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
409	土師器	丸底小鉢	堀B	10.4	8.5	−	ほぼ完形	密	内)黄灰(2.5Y5/1) 外)橙(5YR7/6)		在地	
410	須恵器	甕	堀B	(19.0)	(4.6)	−	1/12	密	灰(N5/0)			
411	須恵器	甕	堀B	(22.0)	(5.6)	−	2/12	密	褐灰(10YR6/1)			
412	陶器	山茶椀	堀B	−	(1.5)	8.0	底)6/12	やや粗	灰黄(2.5Y6/2)			
413	須恵器	鉢	堀B	/	(4.4)	−	1/12以下	密	黒(N2/0)～灰(N5/0)		東播系	
414	瓦質土器	鍋	堀B	(13.5)	(3.7)	−	3/12	やや密	灰白(N8/0)～灰(5Y5/1)			
415	瓦質土器	羽釜	堀B	(26.0)	(8.8)	−	2/12	密	内)にぶい黄橙(10YR6/4) 外)にぶい黄橙(10YR6/3)			
416	瓦質土器	鉢	堀B	(29.0)	(11.0)	−	2/12	密	暗灰(N3/0)			
417	瓦質土器	浅鉢	堀B	(28.4)	(7.3)	−	1/12以下	密	灰(N5/0)			
418	陶器	椀	堀B	(12.9)	5.9	−	2/12	密	浅黄橙(7.5YR8/3)	黒褐(7.5YR3/1)	瀬戸・美濃系	天目椀
419	陶器	椀	堀B	11.2	5.9	4.7	6/12	密	淡黄(2.5Y8/3)	暗褐(7.5YR3/3)	瀬戸・美濃系	天目椀
420	青花	皿	堀B	(12.6)	2.5	7.2	1/12	精良	灰黄(2.5Y7/2)	明緑灰(5GY7/1)	中国	
421	白磁	皿	堀B	(11.0)	2.9	5.8	3/12	密	浅黄橙(10YR8/3)	灰白(10Y8/2)	中国	
422	白磁	椀	堀B	−	(2.8)	6.0	底)5/12	精良	灰白(N8/0)	灰白(5Y8/1)	中国	
423	白磁	椀	堀B	−	(4.0)	5.6	底)4/12	精良	にぶい橙(5YR6/4)	オリーブ灰(10Y6/2)	中国	
424	白磁	椀	堀B	−	(2.7)	5.7	底)5.7	密	灰白(10YR7/1)	オリーブ灰(2.5GY6/1)	中国	
425	青磁	椀	堀B	/	(3.4)	−	1/12以下	精良	灰(N6/0)	灰オリーブ(7.5Y5/2)	中国	
426	陶器	擂鉢	堀B	(28.6)	(9.8)	−	3/12	密	橙(5YR6/8)		信楽	
427	陶器	擂鉢	堀B	29.7	(8.4)	−	1/12	やや密	明赤褐(5YR5/6)		信楽	
428	陶器	擂鉢	堀B	(31.0)	(12.5)	−	3/12	密	橙(7.5YR7/6)		信楽	
429	陶器	擂鉢	堀B	(30.0)	(10.7)	−	2/12	やや粗	橙(2.5YR6/6)		信楽	
430	土師器	丸底小鉢	SK2b414	9.1～10.3	8.2	−	7/12	密	内)黄灰(2.5Y5/1) 外)浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	口縁端部ヘラ切り
431	土師器	丸底小鉢	SK2b414	8.9～10.1	7.2	−	9/12	密	内)暗灰(N3/0) 外)浅黄橙(10YR8/4)～橙(7.5YR7/6)		在地	口縁端部ヘラ切り
432	土師器	丸底小鉢	SK2b414	9.2	7.4	−	4/12	密	内)褐灰(10YR5/1) 外)にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	口縁端部ヘラ切り
433	土師器	丸底小鉢	SK2b414	8.5～10.0	7.4	−	完形	密	内)浅黄橙(7.5YR8/4) 外)黄灰(2.5Y5/1)		在地	口縁端部ヘラ切り
434	土師器	丸底小鉢	SK2b414	8.9	8.1	−	8/12	密	内)灰(5Y5/1) 外)にぶい橙(7.5YR6/4)		在地	口縁端部ヘラ切り
435	土師器	丸底小鉢	SK2b414	8.8	7.6	=	9/12	密	内)灰(5Y5/1) 外)にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	口縁端部ヘラ切り

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
436	土師器	皿	SK2a427	6.6	1.6	−	ほぼ完形	密	暗灰(N3/0)		在地	
437	土師器	皿	SK2a427	6.9	1.7	−	9/12	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	灯明皿
438	土師器	皿	SK2a427	7.0	1.7	−	4/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
439	土師器	皿	SK2a427	7.0	1.8	−	ほぼ完形	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
440	土師器	皿	SK2a427	9.6	2.2	−	6/12	密	浅黄橙(7.5YR8/6)		在地	
441	土師器	皿	SK2a427	9.8	1.9	−	4/12	密	浅黄橙(7.5YR8/6)		在地	
442	土師器	皿	SK2a427	(10.0)	(2.1)	−	3/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
443	土師器	皿	SK2a427	(10.0)	(2.0)	−	2/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
444	土師器	皿	SK2a427	16.0	3.0	−	4/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
445	瓦質土器	羽釜	SK2a427	(26.0)	(3.9)	−	2/12	密	内)灰白(7.5Y8/1) 外)黒(N2/0)			
446	陶器	擂鉢	SK2a427	(27.8)	(4.5)	−	1/12	やや粗	灰黄褐(10YR4/2)		備前	
447	陶器	擂鉢	SK2a427	(29.8)	(7.0)	−	1/12	やや粗	内)暗灰黄(2.5Y5/2) 外)にぶい褐(7.5YR5/3)		備前	
448	陶器	甕	SK2a427	(48.8)	(11.2)	−	1/12以下	やや粗	黄灰(2.5Y4/1)	灰黄褐(10YR4/2)	備前	
449	青花	椀	SK2a427	−	(2.3)	4.4	底)完形	精良	明緑灰(5G7/1)		中国	
450	白磁	椀	SK2a427	(14.8)	(1.8)	−	/	精良	灰白(2.5Y8/1)	灰黄(2.5Y7/2)	中国	
451	白磁	椀	SK2a427	−	(1.5)	4.4	底)ほぼ完形	密	白(N9/0)	灰白(2.5Y8/2)	中国	
452	土師器	皿	SA1b341	(10.0)	(1.5)	−	2/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
453	土師器	皿	SA1b341	(10.0)	(2.0)	−	1/12以下	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
454	土師器	皿	SA1b341	(13.0)	(2.2)	−	1/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
455	土師器	皿	SA1b341	(10.8)	(1.7)	−	2/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
456	土師器	皿	SA1b341	(11.9)	(2.3)	−	1/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
457	陶器	卸皿	SA1b341	(14.2)	(2.7)	−	1/12以下	密	灰黄(2.5Y7/2)	灰白(5Y7/2)	瀬戸・美濃系	
458	瓦質土器	浅鉢	SA1b341	/	(5.6)	−	/	密	暗灰(N3/0)			外面スタンプ(花文)
459	青磁	椀	SA1b341	/	(2.0)	−	1/12以下	精良	灰(N6/0)	オリーブ灰(5GY6/1)	中国	
460	青磁	椀	SE1b219	−	(2.7)	(6.2)	底)3/12	密	灰白(N8/0)	オリーブ灰(10Y6/2)	中国	
461	瓦質土器	羽釜	SE1b219	口径)(21.4)最大径)(23.6)	(5.0)	−	1/12	密	灰(N4/0)			
462	土師器	皿	SD2b522	(7.4)	1.6	−	3/12	密	内)にぶい橙(7.5YR7/4) 外)浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
463	土師器	皿	SD2b522	(8.3)	(1.9)	−	2/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
464	土師器	皿	SD2b522	(8.6)	(1.8)	−	2/12	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
465	土師器	皿	SD2b522	(9.0)	(1.6)	−	2/12	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
466	土師器	皿	SD2b522	(9.8)	(1.6)	−	2/12	密	浅黄橙(7.5YR8/6)		在地	灯明皿
467	土師器	皿	SD2b522	(11.8)	(2.7)	−	1/12	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
468	土師器	皿	ＳＤ2b522	(13.4)	(2.6)	－	2/12	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
469	土師器	皿	ＳＤ2b522	(14.0)	(1.9)	－	1/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
470	土師器	皿	ＳＤ2b522	(14.3)	(2.2)	－	2/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
471	白磁	椀	ＳＤ2b522	－	(2.5)	(6.0)	底)3/12	密	灰白(5Y7/1)	灰白(10Y7/1)	中国	
472	白磁	椀	ＳＤ2b522	－	(2.5)	(5.8)	底)3/12	密	灰白(10Y8/1)		中国	
473	陶器	香炉か	ＳＤ2b522	－	(3.0)	(7.5)	底)2/12	密	灰黄(2.5Y7/2)	オリーブ灰(10Y6/2)より明るい	瀬戸・美濃系	
474	土師器	高杯	ＳＫ3a772	－	(7.5)	－	/	密	灰白(10YR8/2)		在地	脚部のみ
475	瓦質土器	鍋	ＳＫ3a772	(24.0)	(6.2)	－	2/12	密	にぶい黄橙(10YR7/2)			
476	瓦質土器	羽釜	ＳＫ3a772	18.1	8.8	－	6/12	やや粗	内)灰(N5/0) 外)灰白(5Y8/1)			
477	瓦質土器	羽釜	ＳＫ3a772	口径)(31.0) 最大径)(46.0)	(28.9)	－	1/12	密	内)暗灰(N3/0)～灰黄(2.5Y7/2) 外)暗灰(N3/0)			
478	灰釉陶器	椀	ＳＫ3a772	－	(1.1)	5.4	底)5/12	精良	白(N9/0)			
479	灰釉陶器	椀	ＳＫ3a772	－	(2.0)	(9.4)	底)2/12	密	灰白(N7/0)			
480	白磁	椀	ＳＫ3a772	－	(1.5)	6.5	底)5/12	精良	灰白(N8/0)よりこい	灰白(5Y7/1)より薄い	中国	
481	土師器	皿	ＳＫ2a516	6.3	1.8	－	完形	密	灰白(7.5YR8/2)		在地	
482	土師器	皿	ＳＫ2a516	6.6	2.1	－	完形	密	灰白(2.5Y8/2)		在地	
483	土師器	皿	ＳＫ2a516	6.6	1.9	－	ほぼ完形	密	灰白(2.5Y8/2)		在地	
484	土師器	皿	ＳＫ2a516	6.7	1.8	－	完形	密	灰白(10YR8/1)		在地	
485	土師器	皿	ＳＫ2a516	6.7	1.9	－	ほぼ完形	密	灰白(10YR8/2)		在地	
486	土師器	皿	ＳＫ2a516	6.8	2.0	－	完形	密	灰白(7.5YR8/1)		在地	
487	土師器	皿	ＳＫ2a516	7.8	2.1	－	完形	密	灰白(10YR8/2)		在地	
488	土師器	皿	ＳＫ2a516	7.8	1.7	－	ほぼ完形	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
489	土師器	皿	ＳＫ2a516	8.0	1.8	－	完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
490	土師器	皿	ＳＫ2a516	10.1	2.8	－	10/12	密	灰白(2.5Y8/2)		在地	
491	土師器	皿	ＳＫ2a516	10.4	2.3	－	5/12	密	橙7.5YR7/6)		在地	
492	土師器	皿	ＳＫ2a516	(11.5)	3.0	－	3/12	密	灰白(7.5YR8/1)		在地	
493	土師器	皿	ＳＫ2a516	11.6	3.1	－	9/12	密	灰白(10YR8/1)		在地	
494	土師器	皿	ＳＫ1a125	7.0	2.0	－	完形	密	灰白(10YR8/2)		在地	
495	土師器	皿	ＳＫ1a125	7.0	2.1	－	5/12	密	浅黄橙(7.5YR8/3)～浅黄(2.5Y8/3)		在地	
496	土師器	皿	ＳＫ1a125	7.4	2.0	－	10/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
497	土師器	皿	ＳＫ1a125	7.4	1.7	－	完形	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
498	土師器	皿	ＳＫ1a125	7.6	1.8	－	完形	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
499	土師器	皿	ＳＫ1a125	7.6	1.7	－	ほぼ完形	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
500	土師器	皿	ＳＫ1a125	8.0	1.8	－	ほぼ完形	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
501	土師器	皿	ＳＫ1a125	8.0	1.7	－	完形	密	橙(5YR6/6)		在地	
502	土師器	皿	ＳＫ1a125	8.0	1.8	－	完形	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
503	土師器	皿	ＳＫ1a125	11.4	2.1	－	8/12	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
504	土師器	皿	SK1a125	11.0	2.6	−	完形	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
505	瓦質土器	鍋	SK1a125	(30.4)	(4.3)	−	3/12	密	暗灰(N3/0)			
506	土師器	皿	SK2a655	7.0	1.8	−	完形	やや密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
507	土師器	皿	SK2a655	7.0	1.7	−	6/12	やや密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
508	土師器	皿	SK2a655	(7.8)	(1.3)	−	3/12	やや密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
509	土師器	皿	SK2a655	8.3	1.6	−	4/12	やや粗	橙(7.5YR7/6)		在地	
510	土師器	皿	SK2a655	11.9	2.6	−	4/12	やや密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
511	瓦質土器	羽釜	SK2a655	(38.2)	(20.6)	−	2/12	やや粗	暗灰(N3/0)			
512	須恵器	鉢	SK2a655	(27.2)	(7.5)	−	2/12	密	灰白(2.5Y7/1)		東播系	片口
513	須恵器	鉢	SK2a655	(29.7)	(8.4)	−	2/12	密	灰黄(2.5Y7/2)		東播系	
514	土師器	皿	SK3a91	6.6	2.1	−	ほぼ完形	やや密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
515	土師器	皿	SK3a91	11.4	2.1	−	4/12	密	内)灰白(7.5YR8/2) 外)にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
516	土師器	皿	SK3a91	10.3	2.3	−	ほぼ完形	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
517	須恵器	鉢	SK3a91	24.4	9.6	−	4/12	密	灰白(2.5Y8/1)		東播系	
518	土師器	皿	SK2a716	6.7	1.3	−	5/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4〜8/6)		在地	
519	土師器	皿	SK2a716	6.8	1.7	−	5/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
520	土師器	皿	SK2a716	6.8	1.5	−	完形	密	浅黄橙(7.5YR8/4)〜橙(7.5YR7/6)		在地	
521	土師器	皿	SK2a716	8.8	2.1	−	8/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
522	土師器	皿	SK2a716	9.8	1.9	−	9/12	密	浅黄橙(7.5YR8/3〜8/4)		在地	
523	土師器	皿	SK2a716	11.0	2.1	−	完形	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
524	土師器	皿	SK2a716	11.1	(2.3)	−	6/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
525	土師器	皿	SK2a716	11.0	2.1	−	4/12	密	浅黄橙(7.5YR8/6)		在地	
526	土師器	皿	SK2a716	(13.4)	2.5	−	3/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
527	土師器	皿	SK2a716	13.6	2.1	−	5/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
528	土師器	皿	SK2a716	16.1	2.5	−	5/12	密	灰白(7.5YR8/1)〜浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
529	土師器	皿	SK2a716	17.0	(2.8)	−	4/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	煤付着
530	土師器	皿	SK2a716	(20.0)	(2.2)	−	2/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
531	土師器	皿	SK2a716	(22.7)	3.4	−	1/12	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
532	土師器	皿	SK2b716	6.7	1.3	−	2/12	密	灰白(2.5Y8/2)		周防	
533	土師器	皿	SK2b716	6.6	1.1	(4.0)	6/12	密	灰白(2.5Y8/2)		周防	
534	土師器	皿	SK2b716	8.3	1.2	−	3/12	やや密	灰白(2.5Y8/2)		周防	
535	土師器	皿	SK2b716	12.2	2.8	5.7	5/12	密	灰白(2.5Y8/2)		周防	
536	土師器	皿	SK2b716	12.2	2.0	−	3/12	密	灰白(2.5Y8/2)		周防	
537	土師器	皿	SK2b716	(12.3)	2.2	5.2	1/12以下	やや密	灰白(2.5Y8/2)		周防	
538	土師器	皿	SK2b716	12.4	2.3	4.8	1/12	やや密	灰白(2.5Y8/2)		周防	
539	瓦質土器	羽釜	SK2a716	(24.6)	(12.8)	−	3/12	やや密	内)灰黄(2.5Y7/2) 外)黒(N2/0)			
540	瓦質土器	鍋	SK2a716	31.6	(6.6)	−	2/12	やや密	内)黄灰(2.5Y4/1) 外)灰黄(2.5Y6/2)			
541	瓦質土器	浅鉢	SK2a716	(43.6)	(12.1)	−	3/12	やや密	灰(5Y4/1)			外面スタンプ(渦巻文)

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
542	瓦質土器	浅鉢	ＳＫ2a716	－	(7.2)	－	不明	やや密	灰(5Y4/1)			541と同一か
543	陶器	擂鉢	ＳＫ2a716	(28.1)	(8.6)	－	1/12	やや粗	にぶい赤褐(2.5YR5/4)		備前	
544	土師器	皿	ＳＫ2a705	6.6	1.8	－	9/12	密	浅黄橙(7.5YR8/6)		在地	
545	土師器	皿	ＳＫ2a705	7.0	1.8	－	8/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
546	土師器	皿	ＳＫ2a705	7.1	2.0	－	10/12	密	浅黄橙(7.5YR8/6)		在地	
547	土師器	皿	ＳＫ2a705	8.2	1.7	－	6/12	密	灰白(7.5YR8/2)～淡橙(5YR8/4)		在地	
548	土師器	皿	ＳＫ2a705	8.2	1.8	－	ほぼ完形	密	灰白(7.5YR8/2)		在地	
549	土師器	皿	ＳＫ2a705	8.7	1.9	－	8/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
550	土師器	皿	ＳＫ2a705	9.0	1.7	－	6/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
551	土師器	皿	ＳＫ2a705	9.0	1.8	－	10/12	密	浅黄橙(7.5YR8/3)		在地	
552	土師器	皿	ＳＫ2a705	9.6	2.0	－	4/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
553	土師器	皿	ＳＫ2a705	(13.8)	(2.3)	－	6/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
554	土師器	皿	ＳＫ2a705	(13.6)	(2.3)	－	3/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
555	瓦器	皿	ＳＫ2a705	(14.0)	(1.8)	－	1/12以下	密	灰(N4/0～7/0)			
556	青磁	盤	ＳＫ2a705	(44.0)	(5.6)	－	1/12以下	精良	灰白(N8/0)	オリーブ灰(10Y6/2)	中国	
557	土師器	皿	ＳＫ2b468	7.0	1.6	－	9/12	密	浅黄橙(7.5YR8/3)		在地	
558	土師器	皿	ＳＫ2b468	8.4	1.8	－	6/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	煤付着
559	土師器	皿	ＳＫ2b468	14.4	2.3	－	5/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
560	土師器	皿	ＳＫ2b468	14.4	2.4	－	4/12	密	浅黄橙(7.5YR8/3)		在地	
561	瓦質土器	羽釜	ＳＫ2b468	(22.3)	(7.5)	－	1/12	密	灰白(2.5Y8/2)・黄灰(2.5Y4/1)			
562	陶器	椀	ＳＫ2b468	(15.8)	(5.7)	－	2/12	密	灰白(2.5Y7/1)	灰オリーブ(5Y6/2)	瀬戸・美濃系	
563	青磁	椀	ＳＫ2b468	－	(2.7)	6.4	底)5/12	密	灰白(2.5Y8/1)	灰オリーブ(5Y6/2)	中国	
564	土師器	皿	ＳＫ2a499	8.3	1.3	－	5/12	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
565	土師器	皿	ＳＫ2a499	8.3	2.0	－	11/12	密	浅黄橙(7.5YR8/6)		在地	
566	土師器	皿	ＳＫ2a499	9.0	1.9	－	11/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
567	土師器	皿	ＳＫ2a499	8.6	(1.8)	－	ほぼ完形	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
568	土師器	皿	ＳＫ2a499	8.7	2.0	－	ほぼ完形	密	浅黄橙(7.5YR8/6)		在地	
569	土師器	皿	ＳＫ2a499	8.8	1.9	－	ほぼ完形	密	浅黄橙(7.5YR8/6)		在地	
570	土師器	皿	ＳＫ2a499	9.4	2.3	－	ほぼ完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
571	土師器	皿	ＳＫ2a499	12.0	2.0	－	5/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
572	土師器	皿	ＳＫ2a499	14.2	2.5	－	9/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
573	土師器	皿	ＳＫ2a499	14.4	2.3	－	8/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
574	土師器	皿	ＳＫ2a499	14.4	2.1	－	5/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
575	土師器	皿	ＳＫ2a499	14.5	2.7	－	4/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
576	土師器	皿	ＳＫ2a499	14.6	(2.2)	－	4/12	密	橙(7.5YR7/4)		在地	
577	土師器	皿	ＳＫ2a499	15.2	(2.7)	－	4/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
578	青磁	盤	ＳＫ2a499	－	3.1	(13.6)	底)2/12	密	灰白(10Y8/1)	オリーブ灰(10Y6/2)	中国	高台内蛇の目に釉剝ぎ
579	土師器	皿	ＳＸ2a515	(10.2)	2.0	－	3/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
580	瓦質土器	ミニチュア土器	ＳＸ2a515	(6.5)	(4.4)	－	3/12	密	灰(5Y4/1)			羽釜
581	瓦質土器	鍋	ＳＸ2a515	(32.0)	(7.0)	－	1/12	密	灰白(10YR8/1)			

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
582	瓦質土器	把手付鍋	ＳＸ2a515	(19.9)	(5.6)	－	2/12	密	内)灰黄(2.5Y7/2) 外)暗灰(N3/0)			
583	瓦質土器	深鉢	ＳＸ2a515	/	(6.5)	－	/	やや密	灰黄(2.5Y7/2)	オリーブ黒(5Y3/1)		鍔下に朱書「下」
584	陶器	擂鉢	ＳＸ2a515	(32.2)	(6.3)	－	1/12以下	やや粗	灰赤(10R4/2)	灰赤(10R4/2)	備前	
585	陶器	擂鉢	ＳＸ2a515	(27.0)	(7.3)	－	2/12	密	赤褐(5YR4/6)	赤褐(5YR4/6)	備前	
586	青磁	椀	ＳＸ2a515	/	(3.4)	－	1/12以下	密	灰白(5YR8/1)	明緑灰(7.5GY7/1)	中国	
587	土師器	皿	ＳＫ2a442	8.0	2.2	－	ほぼ完形	密	灰白(10YR8/2)		在地	
588	土師器	皿	ＳＫ2a442	8.6	1.6	－	7/12	密	にぶい橙(7.5YR7/3)		在地	
589	瓦質土器	羽釜	ＳＫ2a442	口径)(32.0)最大径)(35.3)	(8.3)	－	1/12以下	密	内)灰黄(2.5Y7/2) 外)暗灰(N3/0)			
590	土師器	皿	ＳＫ2a550	(11.6)	(2.6)	－	1/12	密	浅黄橙(7.5YR8/6)		在地	
591	土師器	皿	ＳＫ2a550	(12.0)	(2.1)	－	1/12	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
592	土師器	皿	ＳＫ2a550	(12.6)	(2.0)	－	1/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
593	土師器	皿	ＳＫ2a550	(14.0)	(2.7)	－	1/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
594	灰釉陶器	椀	ＳＫ2a550	－	(1.3)	(7.8)	底)1/12	密	明褐灰(7.5YR7/1)	灰黄(2.5Y7/2)		
595	土師器	皿	ＳＫ3a310	9.2	1.9	－	完形	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
596	土師器	皿	ＳＫ3a310	9.0	2.4	－	8/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
597	土師器	皿	ＳＫ1a192	6.2	1.8	－	ほぼ完形	密	灰白(10YR8/2)		在地	
598	土師器	皿	ＳＫ1a192	6.4	2.0	－	7/12	密	灰白(10YR8/1)		在地	
599	土師器	皿	ＳＫ1a192	6.5	1.7	－	ほぼ完形	密	灰白(7.5YR8/2)		在地	
601	土師器	皿	ＳＫ1a192	6.7	2.0	－	ほぼ完形	密	灰白(7.5YR8/2)		在地	
602	土師器	皿	ＳＫ1a192	6.8	2.0	－	ほぼ完形	密	灰白(7.5YR8/2)		在地	
603	土師器	皿	ＳＫ1a192	6.8	1.7	－	完形	密	灰白(7.5YR8/2)		在地	
604	土師器	皿	ＳＫ1a192	6.8	1.8	－	完形	密	灰白(7.5YR8/2)		在地	
605	土師器	皿	ＳＫ1a192	7.7	1.6	－	ほぼ完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
606	土師器	皿	ＳＫ1a192	7.7	1.7	－	完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
607	土師器	皿	ＳＫ1a192	7.8	1.8	－	ほぼ完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
608	土師器	皿	ＳＫ1a192	7.8	1.6	－	ほぼ完形	密	橙(5YR7/6)		在地	
609	土師器	皿	ＳＫ1a192	7.9	1.8	－	11/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
610	土師器	皿	ＳＫ1a192	8.3	1.6	－	完形	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
611	土師器	皿	ＳＫ1a192	10.2	2.1	－	11/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
612	土師器	皿	ＳＫ1a192	11.0	2.3	－	ほぼ完形	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
613	土師器	皿	ＳＫ1a192	11.4	2.7	－	5/12	密	灰白(7.5YR8/2)		在地	
614	土師器	皿	ＳＫ1a192	11.5	2.9	－	6/12	密	浅黄橙(7.5YR8/3)		在地	
615	瓦質土器	鍋	ＳＫ1a192	20.0	8.2	－	10/12	密	灰白(N7/0)～暗灰(N3/0)			煤付着
616	瓦質土器	両口片手鍋	ＳＫ1a192	17.6	7.4	－	ほぼ完形	密	灰白(5Y8/1)～暗灰(N4/0)			
617	土師器	皿	ＳＫ3b344	6.8	1.6	－	11/12	密	淡橙(5YR8/4)		在地	
618	土師器	皿	ＳＫ3b344	7.0	1.6	－	8/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
621	土師器	皿	ＳＫ3b344	8.1	2.0	－	1/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
619	土師器	皿	ＳＫ3b344	7.0	1.6	－	7/12	密	内)浅黄橙(7.5YR8/4) 外)橙(7.5YR7/6)		在地	
620	土師器	皿	ＳＫ3b344	7.0	1.6	－	完形	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
622	土師器	皿	ＳＫ3b344	8.4	(1.6)	－	6/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
623	土師器	皿	ＳＫ3b344	13.4	2.3	－	5/12	密	橙(5YR7/6)		在地	
624	土師器	皿	ＳＫ3b344	13.9	2.3	－	5/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
625	土師器	皿	ＳＫ3b344	16.0	2.6	－	10/12	密	橙(5YR7/6)		在地	
626	土師器	皿	ＳＫ3b344	18.0	2.3	－	6/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
627	土師器	皿	ＳＫ3b344	18.0	2.7	－	7/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
628	土師器	皿	ＳＫ3b344	18.3	2.7	－	ほぼ完形	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
629	土師器	皿	ＳＫ3b344	18.4	2.6	－	ほぼ完形	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
630	土師器	皿	ＳＫ3b344	18.9	2.2	－	4/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
631	土師器	皿	ＳＫ3a404	6.6	1.6	－	6/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
632	土師器	皿	ＳＫ3a404	7.0	2.0	－	完形	密	灰白(10YR8/2)		在地	
633	土師器	皿	ＳＫ3a404	7.2	2.0	－	8/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
634	土師器	皿	ＳＫ3a404	7.6	2.2	－	完形	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
635	土師器	皿	ＳＫ3a404	(14.1)	(2.7)	－	3/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
636	土師器	皿	ＳＫ2b397	12.0	2.3	－	4/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
637	土師器	皿	ＳＫ2b397	(13.9)	2.3	－	2/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
638	土師器	皿	ＳＫ2b397	15.9	2.6	－	ほぼ完形	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
639	土師器	皿	ＳＫ2b397	14.8	2.3	－	ほぼ完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
640	陶器	擂鉢	ＳＫ2b397	口径)25.9 最大径)27.5	5.6	－	1/12	密	褐灰(10YR4/1)		備前	
641	青磁	灯台	ＳＫ2b397	－	(1.4)	4.5	底)6/12	密	灰白(N8/0)	明緑灰(10GY8/1)	中国	夜学蓋置
642	土師器	皿	ＳＸ2a254	6.6	(1.4)	－	11/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
643	土師器	皿	ＳＸ2a254	(8.0)	1.2	－	2/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
644	土師器	皿	ＳＸ2a254	9.0	2.0	－	完形	密	浅黄橙(7.5YR8/3)		在地	
645	土師器	皿	ＳＸ2a254	11.6	2.5	－	9/12	密	浅黄橙(7.5YR8/6)		在地	
646	土師器	皿	ＳＸ2a254	11.8	(2.1)	－	5/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
647	土師器	皿	ＳＸ2a254	12.2	3.5	－	4/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
648	土師器	皿	ＳＸ2a254	(13.4)	(2.2)	－	3/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
649	土師器	皿	ＳＸ2a254	14.0	(2.8)	－	6/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)・灰白(7.5YR8/1)		在地	
650	土師器	皿	ＳＸ2a254	(14.6)	2.3	－	2/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
651	白磁	椀	ＳＸ2a254	－	(3.2)	6.4	4/12	精良	灰白(5Y8/1)	灰白(10Y8/1)	中国	
652	青磁	椀	ＳＸ2a254	－	(4.6)	(6.6)	6/12	密	灰白(2.5Y7/1)	灰白(10Y7/2)	中国	無文
653	土師器	皿	ＳＫ2b280	6.9	1.5	－	11/12	やや密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
654	土師器	皿	ＳＫ2b280	6.9	1.5	－	完形	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
655	土師器	皿	ＳＫ2b280	7.0	1.6	－	完形	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
656	土師器	皿	ＳＫ2b280	7.3	1.8	－	10/12	密	にぶい橙(7.5YR7/3)		在地	
657	土師器	皿	ＳＫ2b280	7.4	1.7	－	ほぼ完形	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
658	土師器	皿	SK2b280	7.4	1.7	−	11/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
659	土師器	皿	SK2b280	7.4	1.6	−	11/12	密	にぶい褐(7.5YR6/3)		在地	
660	土師器	皿	SK2b280	7.4	1.8	−	11/12	密	にぶい橙(7.5YR7/3)		在地	
661	土師器	皿	SK2b280	7.5	1.8	−	完形	密	にぶい橙(7.5YR7/3)		在地	
662	土師器	皿	SK2b280	9.2	1.9	−	9/12	やや密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
663	土師器	皿	SK2b280	9.4	2.2	−	ほぼ完形	やや密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
664	土師器	皿	SK2b280	9.6	2.2	−	ほぼ完形	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
665	土師器	皿	SK2b280	9.8	2.1	−	11/12	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
666	土師器	皿	SK2b280	9.8	2.3	−	完形	やや密	にぶい黄橙(10YR6/3)		在地	
667	土師器	皿	SK2b280	9.8	2.4	−	完形	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
668	土師器	皿	SK2b280	8.6	1.8	−	完形	密	にぶい橙(5YR7/4)		在地	
669	土師器	皿	SK2b280	8.7	1.8	−	完形	密	にぶい黄橙(10YR7/2)		在地	
670	土師器	皿	SK2b280	9.0	1.8	−	5/12	密	浅黄橙(7.5YR8/3)		在地	
671	土師器	皿	SK2b280	14.0	2.2	−	5/12	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
672	土師器	皿	SK2b280	14.2	2.3	−	5/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
673	土師器	皿	SK2b280	14.2	2.6	−	5/12	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
674	土師器	皿	SK2b280	(16.1)	2.6	−	3/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
675	土師器	皿	SK2b280	16.3	2.5	−	8/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
676	土師器	皿	SK2b280	16.8	2.5	−	2/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
677	白磁	椀	SK2b280	(18.0)	(7.0)	−	1/12	密	灰白(5Y7/1)	灰白(7.5Y7/1)	中国	
678	瓦質土器	羽釜	SK2b280	(24.0)	(4.5)	−	2/12	密	黒(7.5Y2/1)			
679	土師器	皿	SK2a343	6.6	1.6	−	11/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
680	土師器	皿	SK2a343	6.8	1.6	−	完形	密	にぶい橙(7.5YR7/3)		在地	
681	土師器	皿	SK2a343	6.8	1.6	−	ほぼ完形	密	橙(5YR7/6)		在地	
682	土師器	皿	SK2a343	6.6	1.6	−	11/12	密	にぶい橙(7.5YR7/3)		在地	
683	土師器	皿	SK2a343	7.8	1.8	−	完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
684	土師器	皿	SK2a343	8.0	1.9	−	完形	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
685	土師器	皿	SK2a343	8.0	1.7	−	完形	密	橙(5YR7/6)		在地	
686	土師器	皿	SK2a343	8.0	1.8	−	ほぼ完形	密	にぶい橙(5YR7/4)		在地	
687	土師器	皿	SK2a343	8.2	2.1	−	ほぼ完形	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
688	土師器	皿	SK2a343	8.6	2.0	−	完形	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
689	土師器	皿	SK2a343	8.6	2.1	−	完形	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
690	土師器	皿	SK2a343	9.0	2.0	−	完形	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
691	土師器	皿	SK2a343	12.0	2.0	−	完形	密	浅黄橙(7.5YR8/6)		在地	
692	土師器	皿	SK2a343	11.8	2.4	−	ほぼ完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
693	土師器	皿	ＳＫ2a343	12.0	2.4	－	完形	密	浅黄橙(7.5YR8/6)		在地	
694	土師器	皿	ＳＫ2a343	12.2	2.7	－	ほぼ完形	密	黄橙(7.5YR7/8)		在地	
695	土師器	皿	ＳＫ2a343	12.4	2.2	－	ほぼ完形	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
696	土師器	皿	ＳＫ2a343	13.8	2.6	－	ほぼ完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
697	土師器	皿	ＳＫ2a343	14.4	2.9	－	8/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
698	土師器	皿	ＳＫ2a343	14.6	2.6	－	10/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
699	土師器	皿	ＳＫ2b103	8.7	1.6	－	5/12	やや密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
700	土師器	皿	ＳＫ2b103	(11.8)	2.1	－	2/12	やや密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
701	土師器	皿	ＳＫ2b103	(11.8)	2.0	－	3/12	やや密	灰白(10YR8/1)		在地	
702	土師器	皿	ＳＫ2b103	(12.8)	2.2	－	2/12	やや密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
703	土師器	皿	ＳＫ2b103	(13.7)	2.3	－	1/12	やや密	灰白(2.5Y8/2)		在地	
704	土師器	皿	ＳＫ2b103	(13.8)	2.2	－	1/12	やや密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
705	青磁	皿	ＳＫ2b103	－	(1.7)	(12.0)	底)2/12	密	灰白(N8/0)	オリーブ灰(10Y7/2)	中国	
706	土師器	皿	ＳＫ2b467	7.9	1.9	－	6/12	密	灰白(2.5Y8/2)		在地	
707	土師器	皿	ＳＫ2b467	8.6	2.1	－	7/12	密	明黄褐(10YR7/6)		在地	
708	土師器	皿	ＳＫ2b467	8.6	1.7	－	11/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
709	土師器	皿	ＳＫ2b467	8.7	2.0	－	10/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
710	土師器	皿	ＳＫ2b467	9.0	1.9	－	6/12	密	灰白(7.5YR8/2)		在地	
711	土師器	皿	ＳＫ2b467	(11.5)	2.7	－	3/12	密	浅黄橙(10YR8/3)～灰白(10YR8/1)		在地	
712	土師器	皿	ＳＫ2b467	(12.8)	2.5	－	3/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
713	土師器	皿	ＳＫ2b467	(14.2)	2.8	－	3/12	密	内)灰白(10YR8/2) 外)浅黄橙(10YR8/4)		在地	
714	土師器	皿	ＳＫ2b467	14.1	2.3	－	7/12	密	橙(7.5Y7/6)		在地	
715	土師器	皿	ＳＫ2b467	14.6	2.3	－	5/12	密	浅黄(2.5Y7/3)		在地	
716	土師器	皿	ＳＫ2b467	(15.9)	2.3	－	2/12	密	黄灰(2.5Y5/1)		在地	
717	土師器	高杯	ＳＫ2b467	－	(9.8)	－	/	やや粗	にぶい黄橙(10YR7/3)			脚部のみ
718	瓦質土器	鍋	ＳＫ2b467	(30.9)	(6.9)	－	2/12	密	灰白(5Y7/1)			
719	瓦質土器	風炉	ＳＫ2b467	26.1	(6.1)	－	4/12	密	内)灰白(10YR8/2) 外)暗灰(N3/0)			
720	瓦質土器	浅鉢	ＳＫ2b467	幅)15.7	(7.4)	/	/	密	灰(N4/0)			脚部のみ
721	瓦質土器	浅鉢	ＳＫ2b467	(42.8)	(6.2)	－	2/12	密	灰(N4/0) 一部)淡黄(2.5Y8/3)			外面スタンプ(花文)
722	白磁	皿	ＳＫ2b467	(12.0)	(2.3)	－	2/12	精良	灰白(2.5Y7/1)	灰白(5Y7/1)	中国	
723	白磁	皿	ＳＫ2b467	(11.8)	(2.7)	－	1/12	やや密	灰黄(2.5Y7/2)	灰白(5Y8/1)	中国	
724	白磁	椀	ＳＫ2b467	(15.0)	(3.8)	－	1/12	精良	灰白(7.5Y7/2)		中国	
725	青磁	皿	ＳＫ2b467	(12.0)	(2.3)	－	2/12	密	灰白(2.5GY8/1)	明緑灰(7.5GY7/1)	中国	
726	青磁	椀	ＳＫ2b467	(14.7)	(3.5)	－	2/12	密	灰白(7.5Y7/1)	灰白(7.5Y6/1)	中国	無文
727	青磁	椀	ＳＫ2b467・280	(15.8)	(3.0)	－	1/12	密	灰白(7.5Y7/1)	明緑灰(10GY7/1)	中国	無文
728	青磁	椀	ＳＫ2b467	(14.3)	(4.1)	－	3/12	精良	灰白色(N8/0)	オリーブ灰(10Y6/2)	中国	蓮弁文

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
729	青磁	椀	ＳＫ2b467	－	(2.4)	5.4	底)6/12	精良	灰白色(N8/0)	明オリーブ(2.5GY)より濃い	中国	草花文印刻
730	青磁	椀	ＳＫ2b467	－	(2.1)	(4.2)	底)3/12	精良	灰(N6/0)	灰白(10Y7/1)	中国	花文印刻
731	土師器	皿	ＳＥ2b616	9.0	1.8	－	完形	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
732	土師器	皿	ＳＥ2b616	(9.0)	2.0	－	3/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
733	土師器	皿	ＳＥ2b616	9.5	1.4	－	4/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
734	土師器	皿	ＳＥ2b616	9.6	1.2	－	4/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
735	土師器	皿	ＳＥ2b616	9.6	1.5	－	5/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
736	土師器	皿	ＳＥ2b616	9.6	1.7	－	4/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
737	土師器	皿	ＳＥ2b616	9.8	1.0	－	8/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
738	土師器	皿	ＳＥ2b616	9.8	1.5	－	8/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
739	土師器	皿	ＳＥ2b616	10.0	(1.5)	－	8/12	密	灰白(10YR8/1)		在地	
740	土師器	皿	ＳＥ2b616	10.4	1.4	－	6/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
741	土師器	皿	ＳＥ2b616	(10.4)	(1.5)	－	5/12	密	灰白(5YR8/2)		在地	
742	土師器	皿	ＳＥ2b616	(11.0)	1.6	－	3/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
743	土師器	皿	ＳＥ2b616	10.2	1.2	－	4/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
744	土師器	皿	ＳＥ2b616	(10.8)	1.5	－	3/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
745	土師器	皿	ＳＥ2b616	13.6	1.9	－	5/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
746	土師器	皿	ＳＥ2b616	(12.8)	1.8	－	3/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
747	土師器	皿	ＳＥ2b616	9.2	1.6	－	6/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
748	土師器	皿	ＳＥ2b616	(10.2)	1.6	－	3/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
749	土師器	皿	ＳＥ2b616	10.2	1.8	－	7/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
750	土師器	皿	ＳＥ2b616	10.2	1.9	－	10/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
751	土師器	皿	ＳＥ2b616	(10.4)	1.7	－	3/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
752	土師器	皿	ＳＥ2b616	(10.5)	1.7	－	3/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
753	土師器	皿	ＳＥ2b616	10.6	2.0	－	5/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
754	土師器	皿	ＳＥ2b616	10.8	1.7	－	5/12	密	灰白(2.5Y8/2)		在地	
755	土師器	皿	ＳＥ2b616	10.8	2.1	－	5/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
756	土師器	皿	ＳＥ2b616	10.8	2.0	－	9/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
757	土師器	皿	ＳＥ2b616	11.0	(1.7)	－	4/12	密	にぶい橙(7.5YR7/3)		在地	
758	土師器	皿	ＳＥ2b616	13.8	2.7	－	6/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
759	土師器	皿	ＳＥ2b616	14.5	3.6	－	8/12	密	黄橙(10YR7/3)		在地	
760	土師器	皿	ＳＥ2b616	14.6	2.5	－	7/12	密	橙(5YR7/6)		在地	
761	土師器	皿	ＳＥ2b616	(15.0)	2.2	－	3/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
762	土師器	皿	ＳＥ2b616	(15.0)	(2.0)	－	3/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
763	土師器	皿	ＳＥ2b616	15.0	2.3	－	4/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
764	土師器	皿	ＳＥ2b616	15.2	3.0	－	6/12	密	明黄褐(10YR7/6)		在地	
765	土師器	皿	ＳＥ2b616	(17.0)	(2.3)	－	1/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
766	土師器	皿	ＳＥ2b616	(17.6)	3.9	－	3/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
767	白色土器	皿	ＳＥ2b616	－	(2.0)	5.4	底)完形	密	灰白(7.5YR8/1)			底部糸切り

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
768	白色土器	皿	SE2b616	−	(1.7)	4.6	底)完形	やや粗	灰白(2.5Y8/1)			底部糸切り
769	白色土器	皿	SE2b616	−	(2.0)	4.8	底)ほぼ完形	密	灰白(2.5Y8/1)			底部糸切り
770	土師器	高杯	SE2b616	−	(14.1)	−	/	密	灰白(7.5YR8/1)		在地	脚部のみ
771	土師器	広口壺	SE2b616	(13.0)	(5.2)	−	2/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
772	土師器	甕	SE2b616	(21.4)	(6.4)	−	1/12以下	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
773	緑釉陶器	壺	SE2b616	−	(4.8)	7.6	底)4/12	やや密	にぶい黄橙(10YR7/3)	オリーブ灰(10Y5/2)より明るい緑		
774	緑釉陶器	椀	SE2b616	(14.0)	(3.2)	−	1/12	密	にぶい黄橙(10YR7/4)	オリーブ灰(10Y5/2)		
775	緑釉陶器	椀	SE2b616	−	(2.1)	6.2	4/12	密	灰白(2.5Y8/2)	淡緑色		
776	緑釉陶器	椀	SE2b616	−	(2.3)	(7.8)	底)1/12	密	灰(5Y5/1)	緑		
777	緑釉陶器	椀	SE2b616	−	(1.1)	5.8	底)6/12	密	浅黄(2.5Y7/3)	オリーブ灰(10Y5/2)より明るい緑		
778	緑釉陶器	椀	SE2b616	−	(1.8)	(5.8)	底)2/12	緻密	灰(5Y5/1)	緑		
779	緑釉陶器	椀	SE2b616	−	(3.1)	(6.8)	底)1/12以下	やや密	浅黄橙(7.5YR8/4)	オリーブ灰(10Y4/2)		
780	緑釉陶器	椀	SE2b616	−	(2.6)	(7.8)	底)1/12	密	灰(10Y6/1)	オリーブ灰(10Y5/2)		
781	緑釉陶器	椀	SE2b616	−	(1.8)	(8.2)	底)1/12	密	黄灰(2.5Y5/1)	オリーブ灰(10Y3/2)		
782	緑釉陶器	椀	SE2b616	−	(1.4)	4.6	底)ほぼ完形	密	にぶい黄橙(10YR7/3)	灰オリーブ(7.5Y5/3)		
783	緑釉陶器	椀	SE2b616	−	(1.1)	6.0	底)完形	密	灰白(2.5Y8/2)	灰白(10Y7/2)		
784	緑釉陶器	椀	SE2b616	−	(1.2)	(7.9)	底)3/12	密	灰(N5/0)	暗オリーブ灰(2.5GY4/1)		
785	緑釉陶器	椀	SE2b616	−	(1.2)	(6.5)	底)3/12	密	灰(7.5Y5/1)	灰オリーブ(7.5Y6/2)		
786	緑釉陶器	椀	SE2b616	−	(1.5)	(7.8)	底)3/12	密	灰白(5Y8/1)	浅黄(7.5Y7/3)		
787	灰釉陶器	段皿	SE2b616	(11.7)	(1.7)	−	1/12	密	灰白(N8/0)			
788	灰釉陶器	椀	SE2b616	(9.8)	(2.6)	−	1/12以下	密	灰白(N8/0)	灰白(7.5Y7/1)		
789	灰釉陶器	椀	SE2b616	(14.4)	(4.6)	−	2/12	密	灰白(2.5Y8/1)			
790	灰釉陶器	椀	SE2b616	(14.6)	(2.4)	−	1/12	密	灰黄褐(10YR6/2)			
791	灰釉陶器	椀	SE2b616	−	(2.1)	6.3	底)完形	密	灰白(2.5Y7/1)			
792	灰釉陶器	椀	SE2b616	−	(3.1)	7.5	底)7/12	密	灰黄(2.5Y7/2)			
793	灰釉陶器	椀	SE2b616	−	(3.0)	7.7	底)ほぼ完形	密	灰白(2.5Y7/1)			
794	灰釉陶器	椀	SE2b616	−	(2.9)	7.3	5/12	密	灰白(2.5Y8/1)			

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
795	灰釉陶器	椀	ＳＥ2b616	－	(2.2)	7.2	10/12	密	灰白(10Y7/1)	褐灰(10YR5/1)		
796	灰釉陶器	椀	ＳＥ2b616	－	(2.7)	7.9	底)11/12	密	にぶい黄橙(10YR7/2)			
797	灰釉陶器	椀	ＳＥ2b616	－	(2.7)	8.2	底)5/12	密	灰白(N8/0)	灰オリーブ(7.5Y5/2)		高台砂付着
798	灰釉陶器	椀	ＳＥ2b616	－	(4.0)	(12.2)	底)1/12以下	密	灰白(5Y7/1)			
799	灰釉陶器	椀	ＳＥ2b616	－	(3.3)	(13.8)	底)1/12以下	やや密	灰白(2.5Y7/1)	灰オリーブ(7.5Y6/2)		
800	灰釉陶器	椀	ＳＥ2b616	－	(5.8)	(15.3)	底)3/12	密	灰白(2.5Y8/1)			
801	灰釉陶器	壺	ＳＥ2b616	－	(4.6)	(14.4)	底)2/12	密	灰白(2.5Y7/1)			
802	灰釉陶器	壺	ＳＥ2b616	－	(4.8)	(13.4)	底)2/12	密	灰白(N8/0)	灰(5Y6/1)		
803	灰釉陶器	甕	ＳＥ2b616	(41.2)	(6.5)	－	1/12以下	密	灰白(5Y8/1)			
804	灰釉陶器	鉢	ＳＥ2b616	/	(7.7)	－	1/12	密	灰黄(2.5Y7/2)			
805	灰釉陶器	壺	ＳＥ2b616	(18.0)	(5.2)	－	1/12以下	密	灰白(2.5Y7/1)			
806	灰釉陶器	四足壺	ＳＥ2b616	長)(7.0)	幅)(8.5)	厚)0.8～1.0	/	密	灰白(10YR7/1)			胴部のみ
807	黒色土器	椀	ＳＥ2b616	(14.6)	(3.2)	－	1/12以下	密	黒(7.5Y2/1)			Ｂ類
808	黒色土器	椀	ＳＥ2b616	－	(0.9)	(5.0)	底)3/12	密	灰(N4/0)			Ｂ類
809	瓦器	椀	ＳＥ2b616	15.4	(5.2)	－	4/12	密	灰(5Y5/1)			
810	瓦器	椀	ＳＥ2b616	(16.3)	(5.1)	－	1/12	密	灰(5Y5/1)			
811	瓦器	椀	ＳＥ2b616	(15.6)	6.4	－	3/12	密	黄灰(2.5Y5/1)			
812	瓦器	椀	ＳＥ2b616	－	(2.5)	6.3	底)完形	密	灰(N5/0)			
813	土製品	取鍋	ＳＥ2b616	8.3	3.1	－	完形	密	にぶい黄橙(10YR7/4)			
814	土製品	土馬	ＳＥ2b616	長)(6.8)	(3.5)	幅)(1.7)	一部欠	密	浅黄橙(10YR7/6)～橙(5YR7/6)			体部のみ
815	須恵器	壺	ＳＥ2b616	19.0	7.7	－	4/12	密	褐灰(10YR6/1)～暗灰(N3/0)			
816	須恵器	壺	ＳＥ2b616	－	(3.5)	6.8	底)8/12	密	暗灰(N3/0)			底部糸切り
817	須恵器	甕	ＳＥ2b616	(17.0)	(5.2)	－	1/12以下	密	灰白(2.5Y7/1)			
818	須恵器	甕	ＳＥ2b616	(25.8)	(4.3)	－	1/12	密	灰白(10YR7/1)		東播系	
819	須恵器	甕	ＳＥ2b616	(32.0)	(11.4)	－	3/12	密	黄灰(2.5Y6/1)		東播系	
820	須恵器	甕	ＳＥ2b616	(45.6)	(5.8)	－	1/12	やや粗	灰白(N4/0)		東播系	
821	須恵器	甕	ＳＥ2b616	(36.0)	(7.2)	－	2/12	密	黄灰(2.5Y6/1)		東播系	
822	須恵器	甕	ＳＥ2b616	(16.8)	(9.3)	－	1/12	やや密	灰白(5Y7/1)		東播系	
823	須恵器	不明	ＳＥ2b616	最大径)5.6	(4.4)	－	/	密	灰白(10YR7/1)	灰オリーブ(5Y5/2)		
824	須恵器	鉢	ＳＥ2b616	/	(6.8)	－	1/12以下	密	黄灰(2.5Y6/1)		東播系	
825	白磁	皿	ＳＥ2b616	(9.9)	(2.7)	－	1/12	緻密	灰白(N8/0)	灰白(5Y8/2～7/2)	中国	
826	白磁	皿	ＳＥ2b616	(10.6)	(2.7)	－	1/12	密	灰白((2.5Y7/1)	明オリーブ灰(2.5GY7/1)	中国	
827	白磁	皿	ＳＥ2b616	(12.0)	(3.0)	－	1/12	緻密	灰白(7.5Y8/1)	灰白(0.5Y7/1)より薄い	中国	

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
828	白磁	皿	ＳＥ2b616	(10.2)	3.2	4.5	3/12	密	灰白(2.5Y7/1)	明オリーブ灰(2.5GY7/1)	中国	
829	白磁	皿	ＳＥ2b616	(13.7)	(3.7)	−	1/12以下	密	灰白(2.5Y8/1)	灰白(7.5Y8/1)	中国	
830	白磁	椀	ＳＥ2b616	(15.0)	(3.7)	−	1/12	密	灰白(5Y8/1)		中国	
831	白磁	椀	ＳＥ2b616	(15.2)	(2.4)	−	2/12	密	灰白(2.5GY8/1)		中国	
832	白磁	椀	ＳＥ2b616	(15.0)	(3.0)	−	1/12	密	灰白(7.5Y7/1)		中国	
833	白磁	椀	ＳＥ2b616	(15.8)	(4.0)	−	1/12	密	灰白(2.5Y8/1)	灰白(7.5Y7/2)	中国	
834	白磁	椀	ＳＥ2b616	(15.9)	(4.0)	−	1/12以下	堅緻	灰白(10Y8/1)	灰白(5Y7/1)	中国	
835	白磁	椀	ＳＥ2b616	(16.0)	(6.1)	−	1/12以下	密	灰白(5Y8/1)	灰白(7.5Y8/1)	中国	
836	白磁	椀	ＳＥ2b616	−	(2.4)	7.2	底)5/12	密	灰白(2.5Y8/2)		中国	
837	白磁	椀	ＳＥ2b616	−	(2.4)	(7.0)	底)1/12	緻密	白(N9/0)	灰白(10Y8/1)	中国	
838	白磁	椀	ＳＥ2b616	−	(3.0)	5.4	底)4/12	精良	灰白(N8/0)	灰白(5Y7/1)	中国	
839	白磁	椀	ＳＥ2b616	−	(3.5)	6.9	底)6/12	密	灰白(N8/0)	灰白(5Y8/1)	中国	
840	白磁	皿か	ＳＥ2b616	−	(1.2)	5.0	底)4/12	密	灰白(7.5Y8/1)		中国	
841	青磁	椀	ＳＥ2b616	−	(2.6)	(7.8)	3/12	密		灰オリーブ(5Y6/2)	中国(越州窯)	
842	陶器	壺	ＳＥ2b616	最大径)(18.9)	(10.2)	−	/	密	灰黄(10YR5/2)～灰褐(7.5YR4/2)	表面)褐灰(10YR4/1)	中国か	
843	青磁	壺	ＳＥ2b616	−	(19.5)	−	体)2/12	密	灰黄(2.5Y6/2)	灰オリーブ(7.5Y5/3)	中国(越州窯)	耳１か所残存
844	土師器	皿	ＳＤ2a481	8.5	1.1	−	完形	密	灰白(7.5YR8/2)		在地	
845	土師器	皿	ＳＤ2a481	9.0	1.0	−	7/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
846	土師器	皿	ＳＤ2a481	9.2	1.9	−	ほぼ完形	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
847	土師器	皿	ＳＤ2a481	9.6	1.7	−	ほぼ完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
848	土師器	皿	ＳＤ2a481	9.6	1.7	−	完形	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
849	土師器	皿	ＳＤ2a481	9.6	1.7	−	ほぼ完形	密	橙(5YR6/8)		在地	
850	土師器	皿	ＳＤ2a481	9.6	1.5	−	完形	密	にぶい橙(7.5YR7/3)		在地	
851	土師器	皿	ＳＤ2a481	9.6	1.8	−	完形	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
852	土師器	皿	ＳＤ2a481	9.8	2.4	−	完形	密	にぶい橙(5YR7/4)		在地	
853	土師器	皿	ＳＤ2a481	10.0	2.1	−	ほぼ完形	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
854	土師器	皿	ＳＤ2a481	10.0	2.1	−	ほぼ完形	密	灰白(5YR8/1)		在地	
855	土師器	皿	ＳＤ2a481	13.7	2.7	−	ほぼ完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
856	土師器	皿	ＳＤ2a481	14.2	2.9	−	ほぼ完形	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
857	土師器	皿	ＳＤ2a481	14.4	3.0	−	ほぼ完形	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
858	土師器	皿	ＳＤ2a481	14.6	2.9	−	10/12	密	にぶい橙(7.5YR7/3)		在地	
859	土師器	皿	ＳＤ2a481	14.7	3.3	−	完形	密	灰白(7.5YR8/2)		在地	
860	土師器	皿	ＳＤ2a481	14.7	3.4	−	8/12	やや粗	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
861	土師器	皿	ＳＤ2a481	14.8	3.1	−	ほぼ完形	密	淡橙(5YR8/4)		在地	
862	土師器	皿	ＳＤ2a481	14.9	3.5	−	10/12	密	にぶい橙(7.5YR7/3)		在地	
863	土師器	皿	ＳＤ2a481	15.1	2.7	−	ほぼ完形	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
864	土師器	盤	ＳＤ2a481	−	(2.5)	−	底)5/12	密	浅黄橙(7.5YR8/3)		在地	脚２か所残存
865	陶器	山茶椀	ＳＤ2a481	15.6	5.2	7.2	ほぼ完形	密	灰白(10YR7/1)			

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
866	須恵器	鉢	ＳＤ2a481	(26.7)	9.6	－	3/12	やや粗	灰(N5/0)		東播系	
867	白磁	皿	ＳＤ2a481	(9.8)	(1.7)	－	2/12	精良	灰白(5Y7/1)	灰オリーブ(5Y6/2)	中国	
868	白磁	皿	ＳＤ2a481	/	(2.0)	－	1/12以下	精良	灰白(N8/0)	灰白(5Y7/2)より薄い	中国	
869	白磁	椀	ＳＤ2a481	(14.0)	(4.1)	－	3/12	精良	灰白(7.5Y7/1)	灰白(2.5Y8/1)	中国	
870	白磁	椀	ＳＤ2a481	(16.0)	(4.7)	－	3/12	精良	灰白(N8/0)	灰白(5Y8/2)よりやや黄色	中国	
871	青白磁	合子蓋	ＳＤ2a481	4.0	1.1	－	6/12	精良	白(N9/0)	明緑灰(7.5GY8/1)	中国	
872	土師器	皿	ＳＫ2b720	8.5	1.3	－	8/12	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
873	土師器	皿	ＳＫ2b720	9.2	1.5	－	5/12	密	灰白(2.5Y8/2)		在地	
874	土師器	皿	ＳＫ2b720	11.0	1.8	－	8/12	密	灰白(7.5YR8/1)		在地	
875	土師器	皿	ＳＫ2b720	11.2	1.5	－	10/12	密	灰白(7.5YR8/1)		在地	
876	土師器	皿	ＳＫ2b720	11.3	1.5	－	7/12	密	淡黄(2.5Y8/3)		在地	
877	土師器	皿	ＳＫ2b720	11.2	1.7	－	4/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
878	土師器	皿	ＳＫ2b720	9.0	1.5	－	6/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
879	土師器	皿	ＳＫ2b720	(9.2)	1.5	－	3/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
880	土師器	皿	ＳＫ2b720	14.3	(2.5)	－	2/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
881	土師器	皿	ＳＫ2b720	(14.4)	2.9	－	2/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
882	白色土器	皿	ＳＫ2b720	9.5	2.1	4.1	10/12	密	淡黄(2.5Y8/3)			底部糸切り
883	陶器	山茶椀	ＳＫ2b720	15.7	5.1	8.0	7/12	密	灰白(5Y8/1)	灰オリーブ(7.5Y6/2)		
884	土師器	皿	ＳＫ3a896	9.2	1.8	－	7/12	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
885	土師器	皿	ＳＫ3a896	9.8	1.8	－	ほぼ完形	密	浅黄(2.5Y7/3)		在地	
886	土師器	皿	ＳＫ3a896	(15.0)	(2.6)	－	2/12	やや密	にぶい黄橙(10YR7/2)		在地	
887	土師器	皿	ＳＫ3a896	(17.8)	(2.2)	－	1/12	密	浅黄橙(7.5YR8/3)～灰白(10YR8/2)		在地	口縁煤付着
888	土師質	竈	ＳＫ3a896	最大長)(17.3)	(12.4)	厚)1.1～2.5	/	密	内)灰褐(7.5YR4/2)外)にぶい橙(7.5YR7/4)・橙(2.5YR6/6)		在地	焚口煤付着
889	白磁	椀	ＳＫ2b259	/	(3.0)	－	/	密	灰白(2.5GY8/1)	灰白(2.5GY8/1)	中国	
890	白磁	椀	ＳＫ2b259	/	(1.6)	－	/	密	灰白(5Y8/1)	灰白(2.5GY8/1)	中国	
891	土師器	皿	ＳＫ2b259	7.6	1.1	－	6/12	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
892	土師器	皿	ＳＫ2b259	8.8	1.3	－	8/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
893	土師器	皿	ＳＫ2b259	8.9	1.3	－	9/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
894	土師器	皿	ＳＫ2b259	9.5	(1.6)	－	7/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
895	土師器	皿	ＳＫ2b259	11.0	(1.3)	－	6/12	密	にぶい黄橙(10YR7/2)		在地	
896	土師器	皿	ＳＫ2b259	(8.0)	(1.6)	－	1/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
897	土師器	皿	ＳＫ2b259	2.0	2.0	－	5/12	密	浅黄橙(7.5YR8/6)		在地	
898	土師器	皿	ＳＫ2b259	9.2	1.8	－	5/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
899	土師器	皿	ＳＫ2b259	9.2	1.9	－	4/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
900	土師器	皿	ＳＫ2b259	9.2	1.9	－	4/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
901	土師器	皿	ＳＫ2b259	9.4	(1.7)	－	6/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
902	土師器	皿	ＳＫ2b259	(11.0)	(3.1)	－	2/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
903	土師器	皿	ＳＫ2b259	(11.0)	(3.7)	－	1/12	密	浅黄橙(7.5YR8/4)		在地	
904	土師器	皿	ＳＫ2b259	(12.0)	(2.8)	－	2/12	密	浅黄橙(7.5YR8/3)		在地	
905	土師器	皿	ＳＫ2b259	14.5	(3.2)	－	4/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
906	土師器	皿	ＳＰ3a510	(13.5)	2.8	－	3/12	密	淡橙(5YR8/3)		在地	
907	須恵器	鉢	ＳＰ3a510	(23.9)	(3.3)	－	1/12以下	やや密	黄灰(2.5Y6/1)		東播系	
908	白磁	椀	ＳＰ3a510	(15.9)	(3.1)	－	1/12	密	灰白(2.5Y8/2)	灰白(2.5Y7/1)より薄い	中国	
909	土師器	皿	ＳＫ2a787	8.8	1.3	－	4/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
910	土師器	皿	ＳＫ2a787	9.2	1.5	－	5/12	密	橙(7.5YR7/6)		在地	
911	土師器	皿	ＳＫ2a787	9.6	1.8	－	5/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
912	土師器	皿	ＳＫ2a787	(10.0)	1.5	－	3/12	密	淡黄(2.5Y8/3)		在地	
913	土師器	皿	ＳＫ2a787	10.2	1.6	－	4/12	密	灰白(2.5Y8/2)		在地	
914	土師器	皿	ＳＫ2a787	(13.4)	2.4	－	3/12	密	灰白(2.5Y8/2)		在地	
915	土師器	皿	ＳＫ2a787	(13.8)	2.4	－	1/12	密	灰白(2.5Y8/2)		在地	
916	土師器	皿	ＳＫ2a787	14.2	2.6	－	9/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
917	土師器	皿	ＳＫ2a787	(15.0)	2.9	－	3/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
918	土師器	皿	ＳＫ2b519	8.2	1.5	－	ほぼ完形	やや粗	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
919	土師器	皿	ＳＫ2b519	8.7	1.4	－	完形	やや粗	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
920	土師器	皿	ＳＫ2b519	8.8	1.4	－	完形	やや粗	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
921	土師器	皿	ＳＫ2b519	8.8	1.6	－	完形	やや粗	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
922	土師器	皿	ＳＫ2b519	12.0	2.6	－	10/12	やや密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
923	土師器	皿	ＳＫ2b519	12.6	2.1	－	9/12	やや粗	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
924	土師器	皿	ＳＫ2b519	12.6	2.2	－	5/12	やや密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
925	土師器	椀	ＳＫ2b519	10.6	3.5	－	完形	やや密	灰白(10YR8/2)		在地	
926	土師器	椀	ＳＫ2b519	10.8	3.4	－	11/12	やや密	灰白(10YR8/2)		在地	
927	土師器	椀	ＳＫ2b519	12.8	4.0	－	ほぼ完形	やや密	灰白(2.5Y8/2)		在地	
928	土師器	皿	ＳＫ2a455	8.3	1.6	－	4/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
929	土師器	皿	ＳＫ2a455	8.4	1.6	－	4/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
930	土師器	皿	ＳＫ2a455	8.8	1.8	－	7/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
931	土師器	皿	ＳＫ2a455	8.9	1.4	－	4/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
932	土師器	皿	ＳＫ2a455	(8.9)	(2.1)	－	2/12	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
933	土師器	皿	ＳＫ2a455	9.1	1.8	－	4/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
934	土師器	皿	ＳＫ2a455	(12.4)	(2.9)	－	3/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
935	土師器	皿	SK2a455	(14.5)	(2.4)	−	3/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
936	土師器	高杯	SK2a455	−	(6.2)	−	/	やや粗	灰白(2.5Y8/2)		在地	脚部のみ
937	白磁	椀	SK2a455	(13.6)	(2.1)	−	1/12	密	灰白(5Y7/2)	灰白(5Y7/2)	中国	
938	白磁	椀	SK2a455	(13.9)	(1.8)	−	1/12	密	灰白(5Y8/1)	灰オリーブ(7.5Y6/2)	中国	
939	土師器	皿	SK2b353	8.3	1.5	−	11/12	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
940	土師器	皿	SK2b353	8.4	1.7	−	5/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
941	土師器	皿	SK2b353	9.0	1.6	−	7/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
942	土師器	皿	SK2b353	(14.0)	(2.3)	−	1/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
943	土師器	皿	SK2b353	(12.0)	(2.7)	−	2/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
944	土師器	皿	SK2b353	(12.0)	(3.1)	−	3/12	密	灰白(7.5YR8/1)		在地	
945	土師器	皿	SK2b353	(12.8)	(2.4)	−	2/12	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
946	白磁	椀	SK2b353	(16.0)	(3.5)	−	1/12	密	灰白(2.5Y8/1)	灰白(5Y7/2)	中国	
947	白磁	椀	SK2b353	(16.0)	(2.5)	−	1/12	密	灰白(10Y8/1)	灰白(7.5Y7/1)	中国	
948	土師器	皿	SK2b442	5.5	1.2	−	完形	密	灰白(7.5YR8/2)		在地	
949	土師器	皿	SK2b442	6.6	1.3	−	9/12	密	灰白(7.5YR8/2)		在地	
950	土師器	皿	SK2b442	7.2	1.5	−	完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
951	土師器	皿	SK2b442	8.0	1.7	−	完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
952	土師器	皿	SK2b442	8.6	2.0	−	完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
953	土師器	皿	SK2b442	8.6	1.6	−	ほぼ完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
954	土師器	皿	SK2b442	8.8	1.7	−	4/12	密	にぶい黄橙(10YR6/4)		在地	
955	土師器	皿	SK2b442	8.8	1.9	−	ほぼ完形	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	
956	土師器	皿	SK2b442	8.6	2.8	−	ほぼ完形	密	灰白(2.5Y8/2)		在地	
957	土師器	皿	SK2b442	10.8	3.4	−	5/12	密	灰白(7.5Y8/2)		在地	
958	土師器	皿	SK2b442	(11.2)	1.6	−	3/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
959	土師器	皿	SK2b442	12.5	2.5	−	9/12	密	灰白(10YR8/1)		在地	
960	白磁	椀	SK2b442	−	(2.3)	(6.4)	3/12	密	灰白(5Y7/1)	灰白(5Y7/2)	中国	
961	土師器	皿	SK2b566	5.6	1.0	−	7/12	密	灰白(2.5Y8/2)		在地	
962	土師器	皿	SK2b566	5.6	1.2	−	完形	密	灰白(7.5YR8/1)		在地	
963	土師器	皿	SK2b566	6.0	1.2	−	ほぼ完形	密	灰白(7.5YR8/1)		在地	
964	土師器	皿	SK2b566	6.8	1.5	−	5/12	密	灰白(2.5Y8/2)		在地	
965	土師器	皿	SK2b566	8.4	2.3	−	完形	密	灰白(10YR8/2)		在地	
966	土師器	皿	SK2b566	8.4	2.7	−	8/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
967	土師器	皿	SK2b566	8.6	1.7	−	9/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
968	土師器	皿	SK2b566	8.8	1.7	−	完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
969	土師器	皿	SK2b566	8.9	(1.9)	−	11/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
970	土師器	皿	SK2b566	8.9	1.5	−	ほぼ完形	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
971	土師器	皿	SK2b566	10.6	3.1	−	7/12	密	灰白(7.5YR8/1)		在地	
972	土師器	皿	SK2b566	13.4	3.6	−	7/12	密	灰白(7.5YR8/2)		在地	
973	土師器	皿	SK2b566	12.4	2.2	−	8/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
974	土師器	皿	ＳＫ2b566	12.8	2.5	－	10/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
975	土師器	皿	ＳＫ2b566	12.8	3.0	－	11/12	密	にぶい橙(7.5YR6/4)		在地	
976	瓦器	椀	ＳＫ2b566	11.6	3.6	－	5/12	密	灰白(5Y8/1)			
977	土師器	鉢	ＳＫ2b566	／	(10.0)	－	／	密	にぶい橙(7.5YR6/4)		在地	
978	土師器	高杯	ＳＫ2b566	－	(9.1)	－	／	密	灰白(10YR8/1)		在地	脚部のみ
979	瓦器	椀	ＳＫ2b566	－	(1.3)	(5.0)	底)3/12	密	灰(N4/0)			
980	須恵器	鉢	ＳＫ2b566	(27.4)	(4.5)	－	1/12	やや密	灰(N4/0)		東播系	
981	白磁	皿	ＳＫ2b566	(10.2)	(2.6)	－	2/12	密	灰白(2.5Y7/1)	灰白(10Y7/1)	中国	
982	土師器	皿	ＳＫ2b567	9.0	1.6	－	4/12	密	にぶい橙(5YR7/4)		在地	
983	土師器	皿	ＳＫ2b567	8.8	(1.6)	－	4/12	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
984	土師器	皿	ＳＫ2b567	10.2	1.6	－	6/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
985	土師器	皿	ＳＫ2b567	(14.4)	2.4	－	3./12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
986	白磁	椀	ＳＫ2b567	－	(2.7)	7.0	底)完形	密	灰白(2.5Y7/1)	灰白(7.5Y7/2)	中国	
987	白磁	椀	ＳＫ2b567	－	(1.5)	4.5	底)完形	密	灰白(N8/1)	灰白(5GY8/1)	中国	
988	土師器	皿	ＳＰ3a674	10.8	2.4	－	ほぼ完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
989	土師器	皿	ＳＰ3a674	11.2	3.0	－	ほぼ完形	密	灰白(7.5YR8/1)		在地	
990	土師器	皿	ＳＰ3a674	11.6	3.2	－	11/12	密	灰白(7.5YR8/1)		在地	
991	土師器	皿	ＳＰ3a674	11.8	3.5	－	ほぼ完形	密	灰白(10YR8/2)		在地	
992	土師器	皿	ＳＫ2a599	7.7	1.7	－	ほぼ完形	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	
993	土師器	皿	ＳＫ2a599	8.0	1.6	－	完形	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
994	土師器	皿	ＳＫ2a599	8.2	1.7	－	ほぼ完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
995	土師器	皿	ＳＫ2a599	7.2	2.3	－	ほぼ完形	密	灰白(10YR8/2)		在地	
996	土師器	皿	ＳＫ2a599	7.4	2.0	－	ほぼ完形	密	灰白(10YR8/2)		在地	
997	土師器	皿	ＳＫ2a599	7.4	2.0	－	5/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
998	白磁	皿	ＳＫ2a599	11.2	2.8	－	4/12	密	灰白(10YR8/2)		中国	
999	土師器	皿	ＳＫ2a599	12.0	3.3	－	6/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
1000	土師器	皿	ＳＫ2a599	13.0	3.0	－	9/12	密	灰白(7.5YR8/2)		在地	
1001	陶器	椀	ＳＫ2a599	(14.8)	(4.5)	－	3/12	密	灰白(5Y7/1)			
1002	土師器	皿	ＳＫ3a720	7.5	1.4	－	完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
1003	土師器	皿	ＳＫ3a720	7.9	1.4	－	ほぼ完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
1004	土師器	皿	ＳＫ3a720	8.7	1.5	－	完形	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
1005	土師器	皿	ＳＫ3a720	11.5	(3.0)	－	11/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
1006	土師器	皿	ＳＫ3a720	11.5	2.9	－	完形	密	灰白(10YR8/1)		在地	
1007	須恵器	片口鉢	ＳＫ3a720	(30.6)	13.6	－	3/12	やや粗	灰(N4/0)		東播系	
1008	白磁	瓶	第４面精査(４－Ｓ・Ｔ区)	－	(4.3)	6.0	底)5/12	密	白(N9/0)		中国	
1009	土師器	高杯	ＳＫ3a595	－	(8.3)	－	／	やや密	淡黄(2.5Y8/2)		在地	脚部のみ
1010	土師器	皿	ＳＫ3a599	(9.8)	(1.2)	－	3/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
1011	緑釉陶器	椀	ＳＫ3a599	－	(1.4)	(7.5)	底)3/12	密	灰白(10YR8/2)	灰白(10Y7/2)より緑		

報告番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部(素地)	釉薬		
1012	土師器	皿	ＳＰ3a800	(13.6)	(1.9)	−	2/12	密	灰白(10YR8/2)		在地	
1013	白磁	椀	ＳＰ3a800	(16.0)	(2.6)	−	1/12	密	灰白(N8/0)	灰色(2.5Y7/1)より薄い	中国	
1014	緑釉陶器	椀	ＳＰ3a800	−	(1.5)	(7.4)	底)2/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)	オリーブ黒(7.5Y3/2)		
1015	緑釉陶器	椀	ＳＰ3a800	−	(1.5)	(9.6)	底)3/12	密	灰色(10YR8/1)	薄緑		
1016	青磁	椀	ＳＸ3a806	−	(2.9)	7.6	底)4/12	精良	灰白(2.5Y8/1)	灰白(5Y7/2)	中国	
1017	白磁	椀	ＳＫ3a869	−	(2.1)	(6.0)	底)1/12	密	白(N9/0)		中国	
1018	白磁	椀	第4面精査(2−Ｓ区)	15.2	(4.2)	−	4/12	精良	灰白(5Y7/2)		中国	
1019	緑釉陶器	椀	ＳＰ3a879	−	(1.5)	7.8	底)4/12	密	青灰(5PB5/1)	暗オリーブ灰(5GY4/1)		
1020	土師器	皿	ＳＰ3a892	(9.8)	(1.1)	−	1/12以下	密	淡橙(5YR8/3)		在地	
1021	須恵器	鉢	ＳＰ3a892	(18.4)	(6.3)	−	1/12	密	黄灰(2.5Y6/1)			
1022	白磁	椀	ＳＰ3a892	−	(2.9)	5.3	底)7/12	密	灰白(8N/0)	灰白(5Y7/1)	中国	
1023	緑釉陶器	椀	ＳＰ3a915	−	(2.3)	(6.0)	底)2/12	密	橙(5YR7/8)	オリーブ灰(10Y5/2)		
1024	灰釉陶器	椀	ＳＰ3a915	−	(1.5)	(7.2)	底)3/12	密	灰白(10YR7/1)			
1025	緑釉陶器	三足盤	ＳＫ1c298	(10.8)	3.9	/	1/12以下	密	灰白(10Y6/1)	灰白(10Y7/2)		

付表５　瓦観察表

〈凡例〉
・小数点第２位を四捨五入、第１位で表示
・－；該当なし・/；測定不能

報告番号	種類	文様	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調	調整・備考
				長さ	幅・径	厚さ				
瓦１	軒丸	複弁八葉蓮華	ＳＥ2b616	(4.1)	(15.4)	2.3	/	密	浅黄(2.5Y7/4)	讃岐産
瓦２	丸	－	ＳＥ2b616	(21.5)	12.5	2.2	/	密	灰(N4/0)～灰白(N7/0)	凹面)布目、凸面)縄タタキ
瓦３	丸	－	ＳＫ2b616	(11.5)	(7.2)	2.0	/	やや粗	黒褐(7.5YR3/1)	凹面)布目、凸面)縄タタキ
瓦４	平	－	ＳＥ2b616	(9.8)	(10.5)	2.0	/	密	灰黄褐(10YR5/2)～黒褐(2.5Y3/1)	凹面)布目、凸面)斜格子タタキ
瓦５	平	－	ＳＥ2b616	(11.9)	(15.4)	2.6	/	やや粗	灰(7.5Y5/1)	凹面)布目、凸面)斜格子タタキ
瓦６	平	－	ＳＥ2b616	(12.2)	(13.1)	3.4	/	粗	灰白(2.5Y7/1)～灰(N4/0)	凹面)布目、凸面)縄タタキ、ナデ
瓦７	軒平	唐草	ＳＫ2a455	(11.6)	(7.0)	1.4	/	密	灰(N5/0)	山城産、凹面)布目、凸面)ナデ
瓦８	平	－	第３面精査	(6.2)	(5.9)	1.9	/	密	灰(Ｎ4/0)	「理」陽銘、凸面)縄タタキ
瓦９	軒丸	巴	ＳＰ2b140	－	(6.5)	1.6	/	密	黒褐(10YR3/1)	金箔、朱漆
瓦10	軒丸	巴	堀B	－	(13.9)	1.9	/	密	オリーブ黒(5Y3/1)	金箔、朱漆
瓦11	軒平	唐草	ＳＫ2a33	(16.4)	25.0	4.2	/	密	灰(Ｎ4/0)	金箔、漆
瓦12	方形飾	剣花菱	ＳＫ2b173	14.3	16.6	1.6～2.5	11/12	密	灰(Ｎ4/0)	
瓦13	飾	剣	ＳＰ1c146	(5.2)	2.1～4.4	4.0	/	密	暗灰(N3/0)	金箔
瓦14	飾	花菱	ＳＫ1b137	(20.8)	(21.3)	3.8	/	密	灰(N4/0)	金箔、朱漆
瓦15	円形飾	－	第２面精査（２・３－Ｋ区）	(9.6)	48.0	2.0～3.1	/	密	灰(Ｎ4/0)	金箔、朱漆
瓦16	円形飾	花菱	断ち割り	(18.0)	(17.0)	1.5～2.8	/	密	灰(N4/0)	金箔、朱漆
瓦17	軒丸	巴	ＳＰ2a17	(7.0)	(14.0)	1.6	/	密	黒褐(2.5Y3/1)	金箔
瓦18	軒丸	巴	ＳＰ2a17	(3.7)	(9.5)	1.2～2.0	/	密	暗灰(N3/0)	金箔
瓦19	軒丸	巴	ＳＰ2a17	(4.0)	14.2	1.9～3.5	/	密	にぶい黄褐(10YR4/3)	金箔
瓦20	軒丸	巴	ＳＰ2a17	(11.5)	13.5	1.1	/	密	黒色(N2/0)	金箔
瓦21	方形飾	五三の桐	ＳＰ2a17	15.1	16.6	1.6～2.4	9/12	密	黄灰(2.5Y4/1)	金箔
瓦22	飾	唐草	ＳＰ2a17	(16.9)	(14.0)	2.9	/	密	灰(N5/0)	金箔、朱漆
瓦23	軒丸	巴	ＳＫ2a18	－	(9.2)	1.9～3.1	/	密	黄灰(2.5Y4/1)	
瓦24	軒平	唐草	ＳＫ2a18	(17.9)	(11.7)	1.9	/	やや粗	灰(N4/0)	
瓦25	軒丸	巴	ＳＸ2a230	(4.2)	11.3	1.6	/	やや粗	灰(7.5Y4/1)	金箔、朱漆
瓦26	軒丸	巴	ＳＸ2a230	(8.7)	(17.0)	1.9	/	密	黄灰(2.5Y4/1)	金箔
瓦27	軒丸	巴	ＳＫ1c09・10	－	(15.2)	1.4～2.2	/	密	灰(Ｎ3/0)	
瓦28	軒平	唐草	ＳＫ1c09・10	(5.0)	(13.0)	1.9～2.7	/	密	灰(Ｎ4/0)	金箔
瓦29	軒丸	巴	ＳＫ1b479	(2.4)	(10.3)	1.4～2.9	/	やや粗	灰黄(2.5Y7/2)	
瓦30	軒平	唐草	ＳＫ1b479	(10.6)	(13.1)	1.5～3.8	/	やや粗	暗灰(N3/0)	
瓦31	軒丸	巴	ＳＫ1a57	(8.0)	15.0	1.3	/	やや粗	灰(N4/0)	
瓦32	軒丸	巴	ＳＫ1a57	－	(12.0)	1.7	/	密	灰(N4/0)	
瓦33	軒丸	巴	ＳＫ1a57	(9.3)	14.9	1.6～2.2	/	密	暗灰(N3/0)	
瓦34	軒平	唐草	ＳＫ1a57	(8.7)	(10.5)	3.6	/	密	暗灰(N3/0)	

報告番号	種類	文様	出土地点	法量(cm)			残存率	胎土	色調	調整・備考
				長さ	幅・径	厚さ				
瓦35	丸	－	ＳＫ1a57	(11.7)	(13.7)	1.9	/	密	灰(N4/0)	コビキＢ
瓦36	丸	－	ＳＫ1a57	(12.6)	12.9	1.6	/	やや粗	灰(N4/0)	コビキＡ
瓦37	丸	－	ＳＫ1a57	(19.0)	(12.9)	2.2	/	やや粗	灰(N5/0)～灰(4/0)	コビキＢ
瓦38	軒丸	巴	ＳＫ1a51	－	14.3	1.6～2.7	/	密	暗灰(N3/0)	
瓦39	軒丸	巴	ＳＫ1a51	－	14.6	1.2～2.4	/	密	灰(N5/0)	コビキＢ
瓦40	丸	－	ＳＫ1a51	(14.0)	(11.0)	2.0	/	やや粗	灰(N5/0)	
瓦41	軒丸	三つ葉葵	ＳＫ3b05	－	4.6	1.1～2.0	/	密	灰(N4/0)	
瓦42	鬼	木槌	ＳＡ2a661	(32.0)	(20.5)	7.1	/	密	暗灰(N3/0)	

付表６　鉄・銅製品観察表

〈凡例〉
・小数点第２位を四捨五入、第１位で表示

報告番号	種類	材質	出土地点	法量(cm)			備考
				長さ	幅	厚さ	
鉄１	刀	鉄	ＳＫ3b147	40.7	2.2	0.7	
鉄２	鋤	鉄	ＳＫ3b147	32.3	a)16.8　b)3.8 c)3.3　d)14.0	9.5	
鉄３	刀子	鉄	ＳＫ2a276	(16.8)	1.1	0.3	
鉄４	鏃	鉄	第２面精査(14・15－Ｊ・Ｋ区)	16.0	5.1	0.9	
鉄５	鍬	鉄	ＳＫ1b203	(13.9)	取っ手幅)2.2	0.6	
鉄６	包丁	鉄	ＳＫ1c09	(33.0)	3.8	0.6	
鉄７	不明	鉄	ＳＫ1b152	(14.5)	2.8	0.7	
銅１	煙管	銅	ＳＫ1b203	(4.4)	0.6	0.1	雁首
銅２	煙管	銅	ＳＫ1b203	7.7	0.9	0.1	雁首
銅３	煙管	銅	第２面精査(７－Ｓ区)	(10.1)	0.6	0.1	雁首
銅４	煙管	銅	ＳＫ1b479	8.4	1.0	0.1	雁首
銅５	皿か蓋	銅	ＳＫ1b203	(9.3)	(4.4)	0.1	
銅６	蓋	銅	ＳＫ3a127	径)10.0	高)2.2	0.1	
銅７	環状製品	銅	ＳＫ1b203	(1.1)	2.8	0.1	
銅８	煙管か	銅	ＳＫ1b203	0.7	1.2	0.1	
銅９	柄元鑞	銅	ＳＫ2b711	(1.6)	2.1	0.8	
銅10	火箸	銅	ＳＫ1b203	17.8	0.2～0.3	0.4	
銅11	板状製品	銅	ＳＫ3a191	(14.9)	0.6	0.2	
銅12	簪	銅	第２面精査	15.5	0.2～0.6	0.2	
銅13	板状製品	銅	ＳＫ1c263	(24.3)	0.9～1.2	0.2～0.3	
銅14	板状製品	銅	ＳＫ1b203	(6.4)	(1.3)	0.1	
銅15	板状製品	銅	ＳＫ1b479	12.0	1.2～1.4	0.2	
銅16	銅線	銅	ＳＫ1b203	5.4	0.7	0.1	
銅17	匙	銅	ＳＰ1c48	(6.4)	1.7～6.0	0.1	

付表７　石製品観察表

〈凡例〉
・小数点第２位を四捨五入、第１位で表示
・－；該当なし

報告番号	種類	石材	出土地点	法量(cm)			色調	備考(数値はcm)
				長さ・高さ	幅・径	厚さ・奥行		
石１	砥石	頁岩	ＳＫ1b479	(5.1)	5.0	0.9		
石２	砥石	頁岩	ＳＫ1b152	(5.4)	2.1	1.0～1.4	淡黄(2.5Y8/4)	
石３	硯	頁岩	ＳＫ2ｂ259	(7.6)	(2.3)	0.8		
石４	硯	頁岩	堀B	1.5	7.5	刷り面)1.0	灰(N5/0)	
石５	石鍋	滑石	堀B	(6.5)	24.3	－	黄灰(2.5Y5/1)	
石６	火鉢	笏谷石	ＳＸ3a200	(33.4)	15.2	29.5	灰白(7.5Y7/1)	脚３か所
石７	一石五輪塔	閃緑岩	ＳＫ2b301	(22.9)	9.5～12.0	－		空：7.0、風：4.0、火：6.2、水：(5.8)
石８	石仏	花崗岩	ＳＸ2a79	(20.8)	19.1	11.3		仏高：(11.6)、仏奥行：0.9
石９	石仏	花崗岩	ＳＫ2a187	(23.7)	22.9	13.4		仏高：(13.8)、仏奥行：2.4
石10	石仏	花崗岩	ＳＫ2a241	32.5	23.0	13.7		仏高：25.4、仏奥行：2.5
石11	石仏	花崗岩	ＳＫ3b147	(44.4)	(17.2)	15.3		仏高：21.0、仏奥行：2.4

付表８　銭貨観察表

〈凡例〉
・小数点第２位を四捨五入、第１位で表示（厚さは小数点第３位を四捨五入、第２位で表示）
・／；未測定

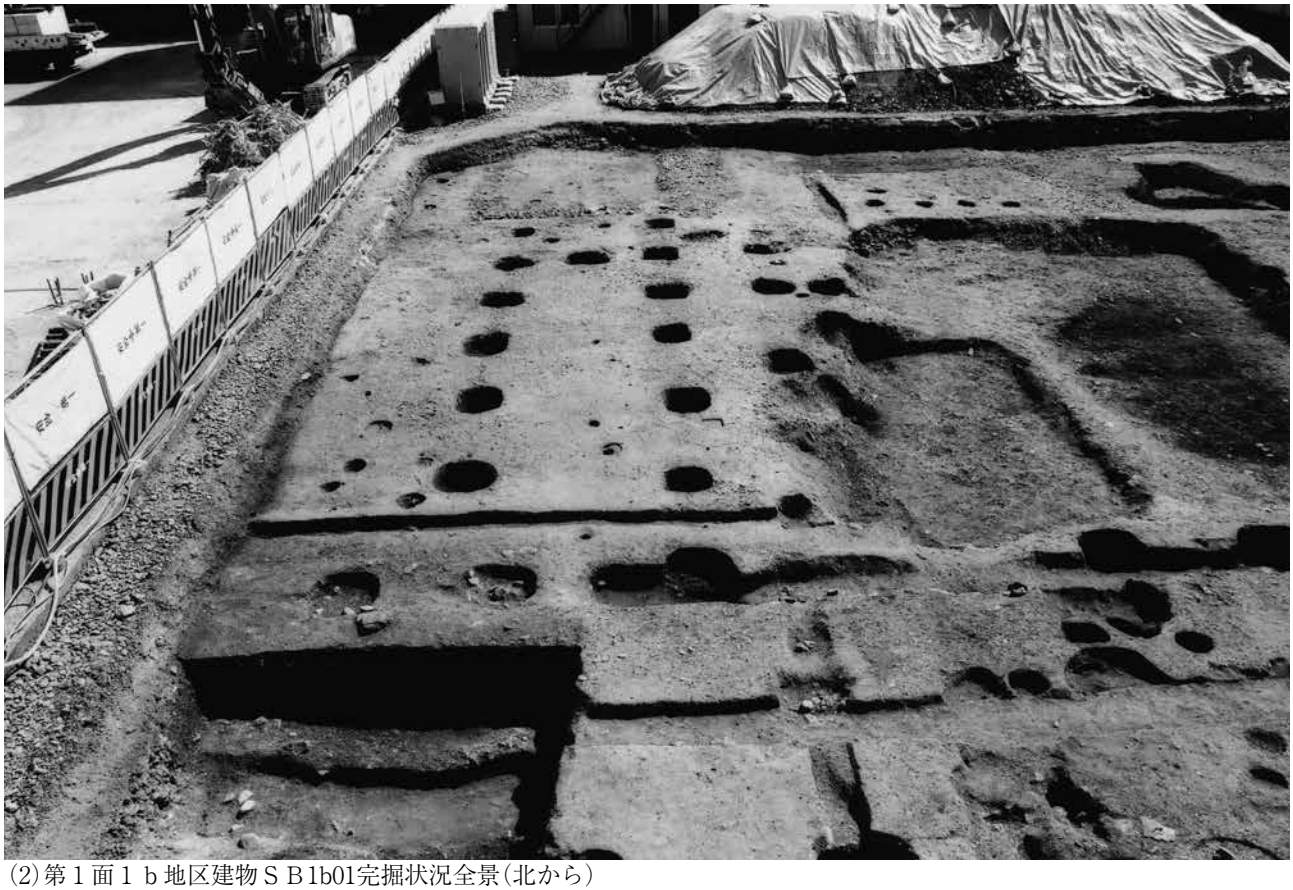
報告番号	遺構面	出土地点	銭貨名	国	初鋳年	径(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
銭１	３	ＳＤ2b522	寛平大寶	日本	890年	1.9	0.15	1.8	
銭２	２	ＳＫ1c210	慶長通寶	日本	慶長年間	2.3	0.13	2.2	
銭３	１	精査(３－Ｌ区)	半銭	日本	明治	2.2	0.13	3.5	
銭４	３	精査(11－Ｉ区)	開元通寶	唐	845年	2.3	0.12	2.4	
銭５	２	ＳＫ1a55	開元通寶	唐	845年	2.4	／	／	４枚固着
銭６	２	ＳＫ3b85	開元通寶	唐	845年	2.5	0.15	3.1	
銭７	４	ＳＫ1c695	開元通寶	唐	845年	2.4	0.12	2.9	背宣、上月
銭８	２	ＳＫ3b32	開元通寶	南唐	960年	2.4	0.10	2.5	真書
銭９	４	ＳＫ1c695	開元通寶	南唐	960年	2.4	0.12	2..2	
銭10	４	ＳＫ1c695	至道元寶	北宋	995年	2.5	0.12	3.3	真書
銭11	３	ＳＫ3b86	咸平元寶	北宋	998年	2.4	0.10	2.9	真書
銭12	２	ＳＫ1c09・10	咸平元寶	北宋	998年	2.5	0.11	2.7	真書
銭13	３	ＳＫ3b86	祥符元寶	北宋	1008年	2.5	0.10	2.8	真書
銭14	４	ＳＰ3b640	祥符元寶	北宋	1008年	2.4	0.10	2.4	真書
銭15	４	ＳＰ2b398	祥符通寶	北宋	1008年	2.4	0.11	2.6	真書
銭16	２	ＳＫ3b32	祥符通寶	北宋	1008年	2.2	0.09	1.6	真書
銭17	２	ＳＫ1a55	天禧通寶	北宋	1017年	2.5	0.10	2.4	真書
銭18	２	ＳＫ1c09・10	天禧通寶	北宋	1017年	2.4	0.12	3.4	真書
銭19	２	ＳＫ3b32	天聖元寶	北宋	1023年	2.5	／	／	真書 ２枚固着
銭20	２	ＳＫ3ｂ85	天聖元寶	北宋	1023年	2.4	0.14	3.6	真書
銭21	１	精査	天聖元寶	北宋	1023年	2.4	0.10	2.5	真書
銭22	２	ＳＫ1a55	天聖元寶	北宋	1023年	2.4	0.12	3.0	篆書
銭23	２	ＳＫ1b203-3	天聖元寶	北宋	1023年	／	／	4.3	篆書
銭24	３	精査(５－Ｈ区)	景祐元寶	北宋	1034年	2.5	0.13	2.4	真書
銭25	２	ＳＫ1c263	景祐元寶	北宋	1034年	2.4	0.12	3.6	真書
銭26	２	ＳＫ3b85	皇宋通寶	北宋	1038年	2.5	0.12	3.0	真書
銭27	４	ＳＰ2b580	皇宋通寶	北宋	1038年	2.5	0.12	3.0	真書
銭28	２	ＳＫ1c155	皇宋通寶	北宋	1038年	2.5	0.14	3.6	篆書
銭29	２	ＳＫ3b85	皇宋通寶	北宋	1038年	2.5	0.09	1.9	篆書

報告番号	遺構面	出土地点	銭貨名	国	初鋳年	径(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
銭30	2	ＳＫ2b251	至和元寶	北宋	1054年	2.4	0.11	2.7	真書
銭31	4	ＳＫ3b656	至和元寶	北宋	1054年	2.5	0.12	2.8	真書
銭32	2	ＳＫ3b85	嘉祐通寶	北宋	1056年	2.4	0.12	3.0	真書
銭33	2	ＳＫ1b203-3	嘉祐通寶	北宋	1056年	2.5	0.11	2.7	篆書
銭34	2	ＳＫ1c155	嘉祐通寶	北宋	1056年	2.3	0.14	4.1	篆書
銭35	2	ＳＫ3b32	熙寧元寶	北宋	1068年	2.4	0.13	3.5	真書
銭36	2	ＳＫ3a272	熙寧元寶	北宋	1068年	2.4	0.11	2.6	篆書
銭37	2	ＳＫ1b203-3	熙寧元寶	北宋	1068年	2.4	0.13	3.5	篆書
銭38	2	ＳＫ3b364	熙寧元寶	北宋	1068年	2.4	0.12	3.1	篆書
銭39	2	ＳＸ3a64	元豊通寶	北宋	1078年	2.4	0.13	3.5	行書
銭40	2	ＳＫ3b32	元豊通寶	北宋	1078年	2.4	0.11	2.9	行書
銭41	2	ＳＫ3b32	元豊通寶	北宋	1078年	2.4	0.12	2.9	行書
銭42	4	ＳＫ1c695	元豊通寶	北宋	1078年	2.4	0.12	3.0	篆書
銭43	2	ＳＫ1b203-3	元豊通寶	北宋	1078年	2.5	0.11	2.8	篆書 折二銭
銭44	2	ＳＫ1c263	元豊通寶	日本	1078年	2.4	0.11	3.1	篆書
銭45	2	ＳＫ3b85	元豊通寶	北宋	1078年	2.5	0.11	2.5	篆書
銭46	2	ＳＫ1c175	元豊通寶	北宋	1078年	2.4	0.12	2.6	篆書
銭47	2	ＳＫ1b203-3	元祐通寶	北宋	1078年	2.4	0.15	4.2	行書
銭48	2	ＳＫ2b251	元祐通寶	北宋	1078年	2.4	0.10	2.6	行書
銭49	4	ＳＥ1c139	元祐通寶	北宋	1078年	2.4	0.14	2.9	行書
銭50	2	ＳＫ3b79	元祐通寶	北宋	1078年	2.3	0.11	2.1	行書
銭51	2	ＳＫ1c155	元祐通寶	北宋	1078年	2.5	0.14	2.6	行書
銭52	2	ＳＫ3b32	元祐通寶	北宋	1078年	2.4	0.13	3.4	篆書
銭53	2	ＳＫ3b85	元祐通寶	北宋	1078年	2.4	0.11	2.9	篆書
銭54	3	精査（５－Ｈ区）	元祐通寶	北宋	1078年	2.5	0.12	2.5	篆書
銭55	3	ＳＫ2a655	紹聖元寶	北宋	1094年	2.5	0.12	2.5	行書
銭56	3	ＳＰ2b431	紹聖元寶	北宋	1094年	2.4	0.14	3.3	篆書
銭57	3	ＳＫ3a91	聖宋元寶	北宋	1101年	2.4	0.10	2.5	篆書
銭58	2	ＳＫ1b203-4	政和通寶	北宋	1111年	2.4	0.10	1.9	真書
銭59	2	ＳＫ2b173	政和通寶	北宋	1111年	2.5	0.12	2.9	真書
銭60	2	ＳＫ1b436	政和通寶	北宋	1111年	2.4	0.13	2.9	篆書
銭61	2	ＳＫ1c09・10	正隆元寶	金	1157年	2.4	0.12	3.3	真書
銭62	2	ＳＫ3b63	淳熙元寶	南宋	1174年	2.4	0.13	3.0	真書 背十五
銭63	2	ＳＫ3b32	淳熙元寶	南宋	1174年	2.4	0.12	2.9	真書 背十二
銭64	4	ＳＫ2a637	嘉定通寶	南宋	1208年	2.6	0.12	2.5	真書 背十三
銭65	3	ＳＫ3b86	光定元寶	西夏	1211年	2.5	0.15	3.9	真書
銭66	2	ＳＫ3a265	大中通寶	明	1361年	2.4	0.14	1.6	
銭67	2	ＳＫ1a104	洪武通寶	明	1368年	2.4	0.15	2.9	
銭68	3	ＳＰ1c387	洪武通寶	明	1368年	2.4	0.11	2.7	
銭69	2	ＳＫ3a88	洪武通寶	明	1368年	2.4	0.15	3.3	
銭70	2	ＳＫ1b479	洪武通寶	明	1368年	2.3	0.19	3.5	
銭71	2	ＳＫ2b168	洪武通寶	明	1368年	2.4	0.14	2.8	
銭72	2	ＳＫ2b173	洪武通寶	明	1368年	2.3	0.13	2.5	
銭73	2	ＳＫ3b85	永楽通寶	明	1408年	2.4	0.09	1.8	
銭74	4	精査	永楽通寶	明	1408年	2.5	0.14	3.4	
銭75	2	ＳＫ3b85	永楽通寶	明	1408年	2.3	0.10	1.8	
銭76	3	ＳＫ2b410	永楽通寶	明	1408年	2.5	0.17	2.6	

図　　版

図版第1　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第１面１ｂ地区建物ＳＢ1b01全景(北から)



(2)第１面１ｂ地区建物ＳＢ1b01完掘状況全景(北から)

図版第2　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第１面３ｂ地区礎石据付穴群全景(東から)

(2)第１面３ｂ地区溝ＳＤ3b02全景(東から)

図版第3　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第１面２ｂ地区礎石据付穴列ＳＡ2b03・06全景(北から)

(2)第１面２ｂ地区礎石据付穴ＳＡ2b03・06全景(東から)

図版第4　平安京跡(左京一条三坊二町)

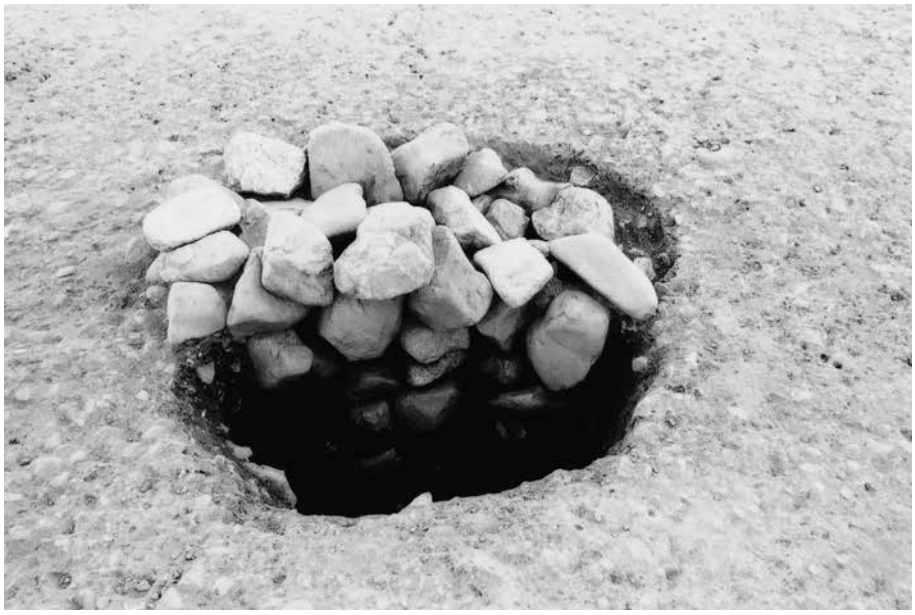
(1)第１面３ａ地区ＳＢ3a59全景
（南東から）

(2)第１面１ａ地区上屋敷全景
（東から）

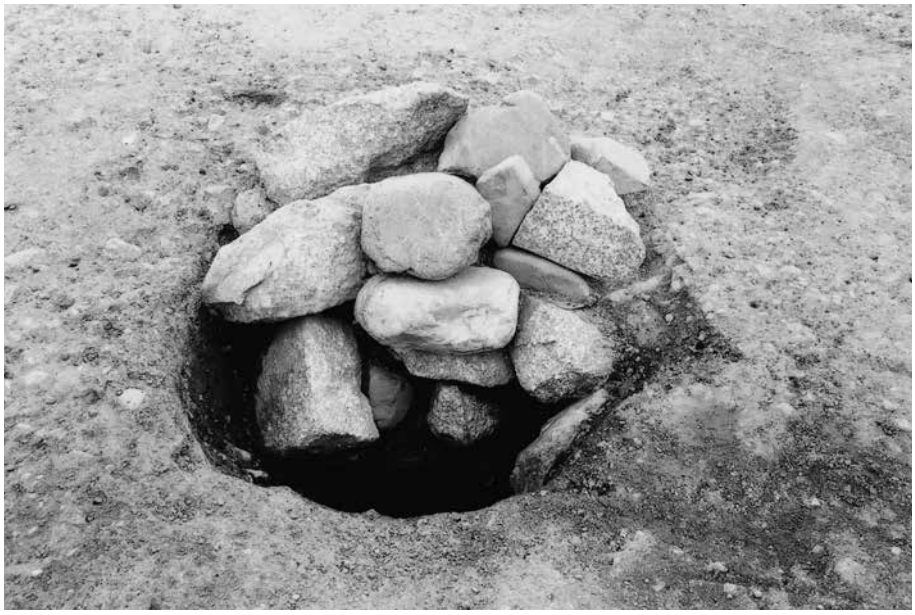
(3)第１面２ａ地区上屋敷全景
（北から）

図版第5　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第１面礎石据付穴ＳＰ1b69
（西から）



（2）第１面礎石据付穴ＳＰ1b66
（西から）



（3）第１面礎石据付穴ＳＰ1b65
（西から）

（1）第１面礎石据付穴ＳＰ1b01
（西から）

（2）第１面礎石据付穴ＳＰ1b03
（西から）

（3）第１面礎石据付穴ＳＰ1b05
（西から）

図版第7　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第１面礎石据付穴ＳＰ1b06
（東から）

（2）第１面礎石据付穴ＳＰ1b07
（東から）

（3）第１面礎石据付穴ＳＰ1b88
（東から）

図版第8　平安京跡（左京一条三坊二町）

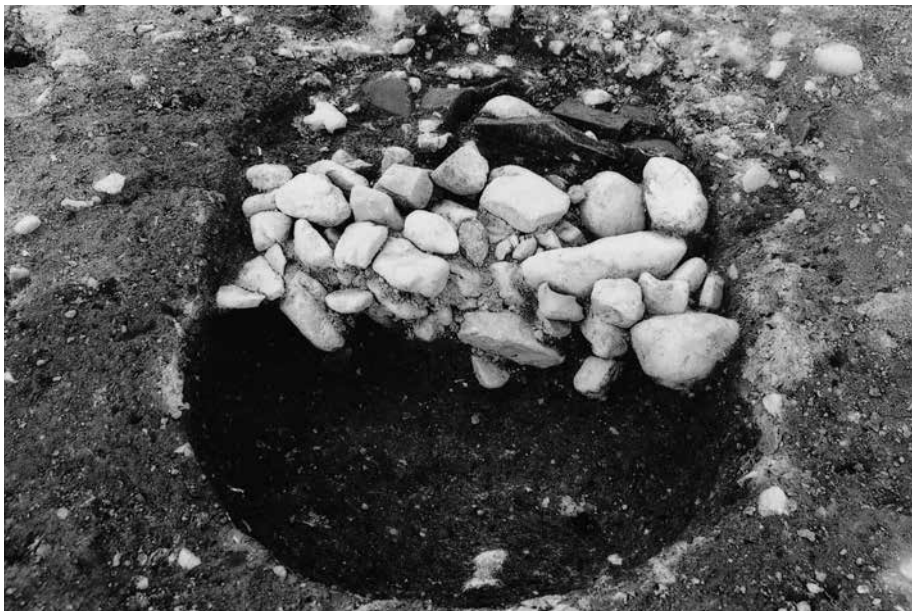
（1）第１面礎石据付穴ＳＰ1a13
（北から）

（2）第１面礎石据付穴ＳＰ2b07
（南から）

（3）第１面礎石据付穴ＳＰ2b03
（南から）

（1）第１面礎石据付穴ＳＰ3a65
（東から）

（2）第１面礎石据付穴ＳＰ3a63
（東から）



（3）第１面礎石据付穴ＳＰ3a60
（東から）

図版第10　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1) 1 b 地区東壁断面(北西から)

(2) 2 b 地区北壁断面(南西から)

図版第11　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1) ２ｂ地区北壁断面(南西から)

(2) １ｃ地区東壁断面(西から)

図版第12　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1) 1 c 地区南壁断面(北から)

(2) 1 c 地区南壁断面(北から)

図版第13　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1) 3 b 地区南壁断面(北東から)

(2) 3 a 地区西壁断面(東から)

図版第14　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第２面１ｂ地区全景(南から)

(2)第２面１ｂ地区全景(南東から)

図版第15　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第２面１ｂ地区全景(南西から)

(2)第２面３ａ地区全景(北から)

図版第16　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第２面柱穴列ＳＡ2a194（東から）

（2）第２面柱穴列ＳＡ2a661（南から）

図版第17　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第２面柱穴列ＳＡ2a37
（北から）

（2）第２面柱穴列ＳＡ2a37
（南東から）

（3）第２面柱穴列ＳＡ2a17
（西から）

図版第18　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第２面石列ＳＸ1a107・63(南西から)

(2)第２面石列ＳＸ1a107・63(西から)

図版第19　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第２面土坑ＳＫ1a57(南から)

(2)第２面土坑ＳＫ1a57(南東から)

(3)第２面土坑ＳＫ1a57・
石列ＳＸ1a107(南東から)

図版第20　平安京跡(左京一条三坊二町)

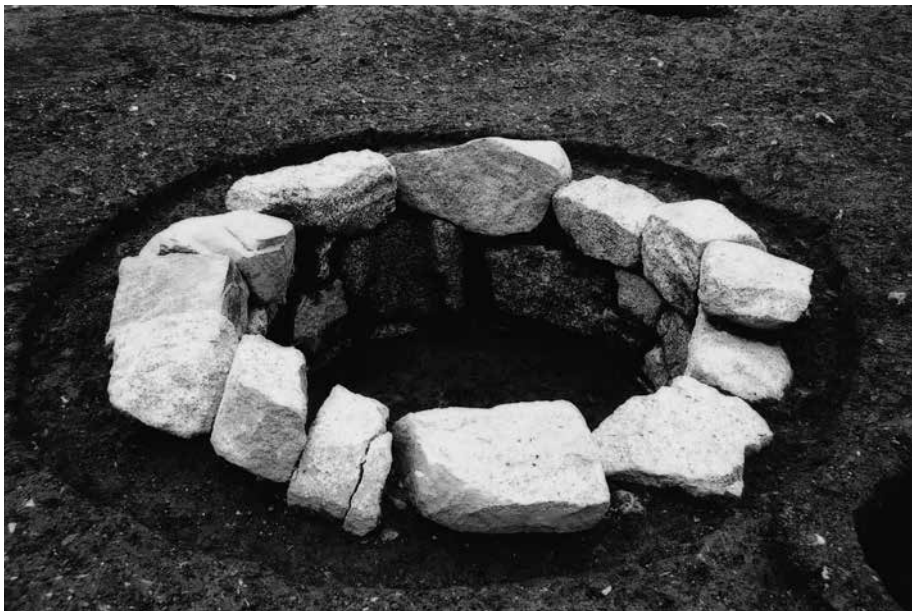
(1)第２面土坑ＳＫ1a51(南西から)

(2)第２面石列ＳＸ1a107
(南東から)

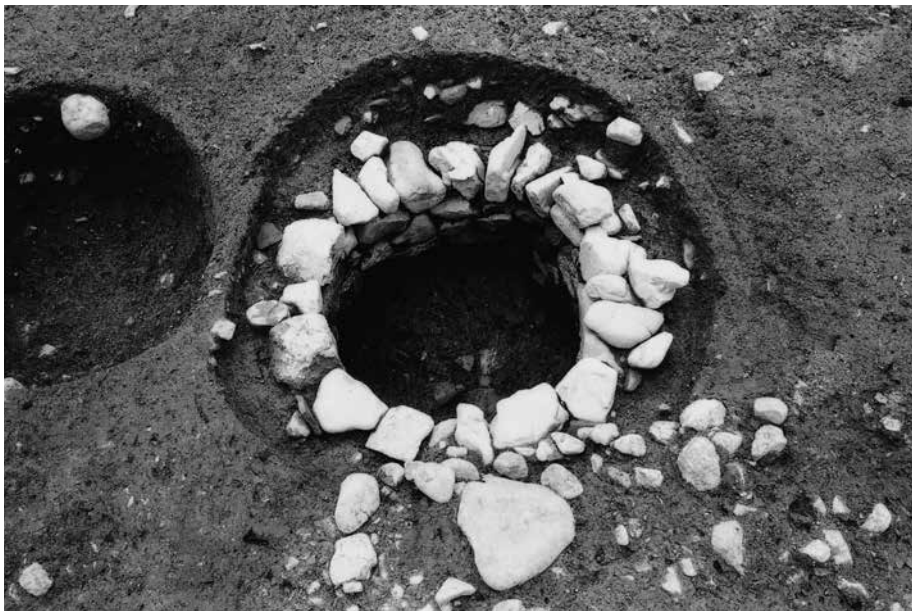
(3)第２面土坑ＳＫ1a57・
石列ＳＸ1a107(西から)

図版第21　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第２面井戸ＳＥ2a77半掘状況
（南東から）

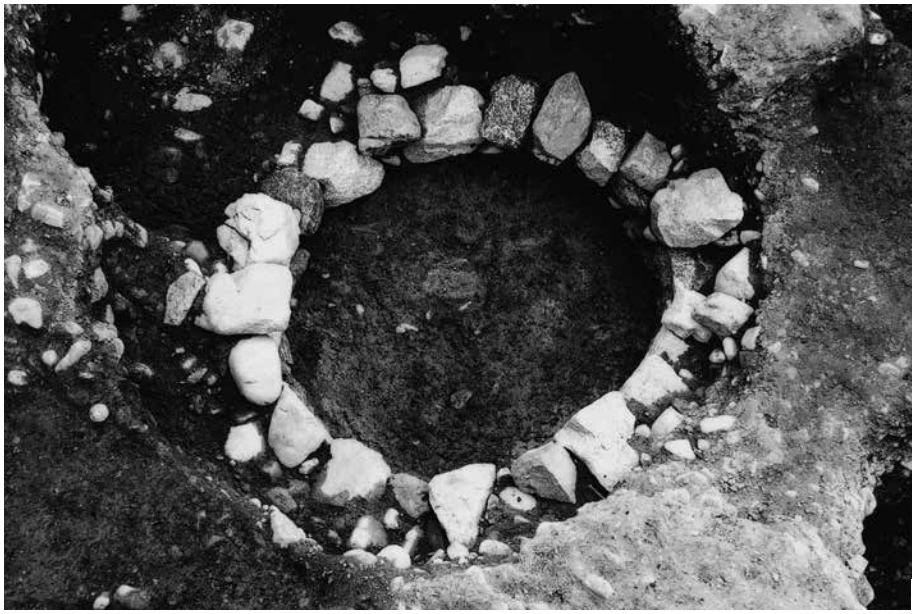


（2）第２面井戸ＳＥ2a77（北から）

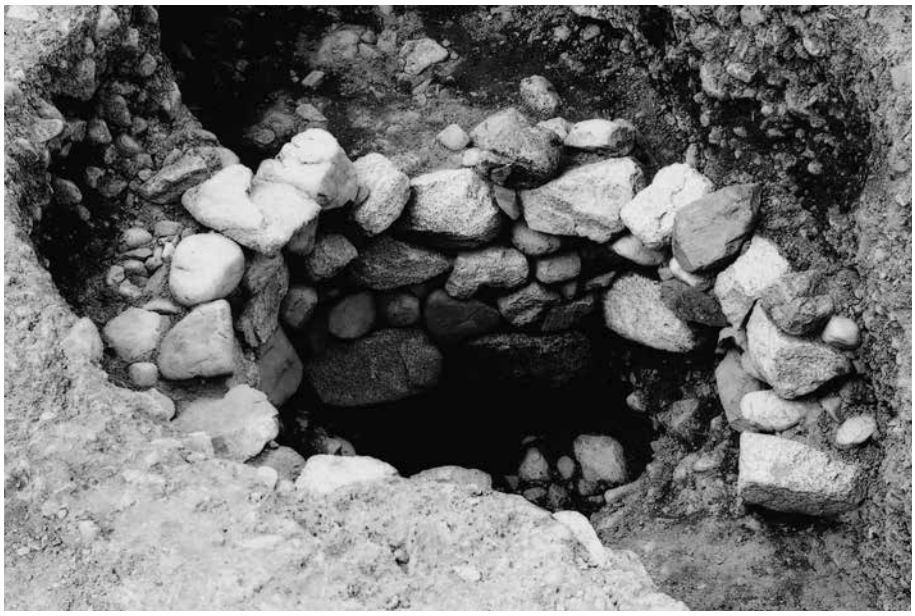


（3）第２面井戸ＳＥ2b276（北から）

図版第22　平安京跡(左京一条三坊二町)



(1)第２面井戸ＳＥ3b129(南から)



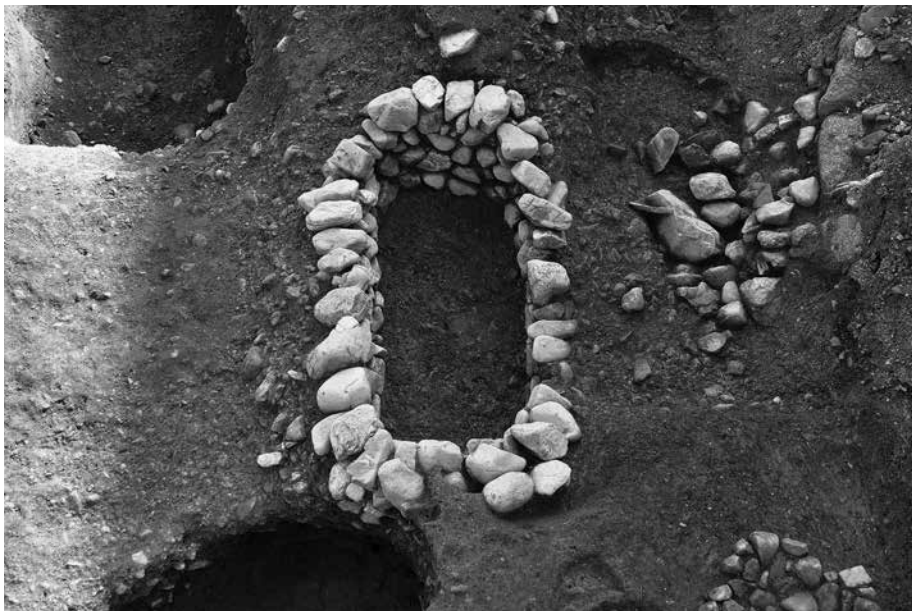
(2)第２面井戸ＳＥ3b129(南から)

(3)第２面井戸ＳＥ1b145(東から)

図版第23　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第２面石室ＳＫ2b302検出状況
（北から）

（2）第２面石室ＳＫ2b302
堆積状況（北から）



（3）第２面石室ＳＫ2b302（西から）

図版第24　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第２面井戸ＳＥ2a57半掘状況（北から）

（2）第２面井戸ＳＥ2a57（北から）

（3）第２面石室ＳＫ3b676（南から）

図版第25　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第２面石室ＳＫ3a268・272
半掘状況（西から）

（2）第２面石室ＳＫ3a268・272
（西から）

（3）第２面集石遺構ＳＸ3b55
（東から）

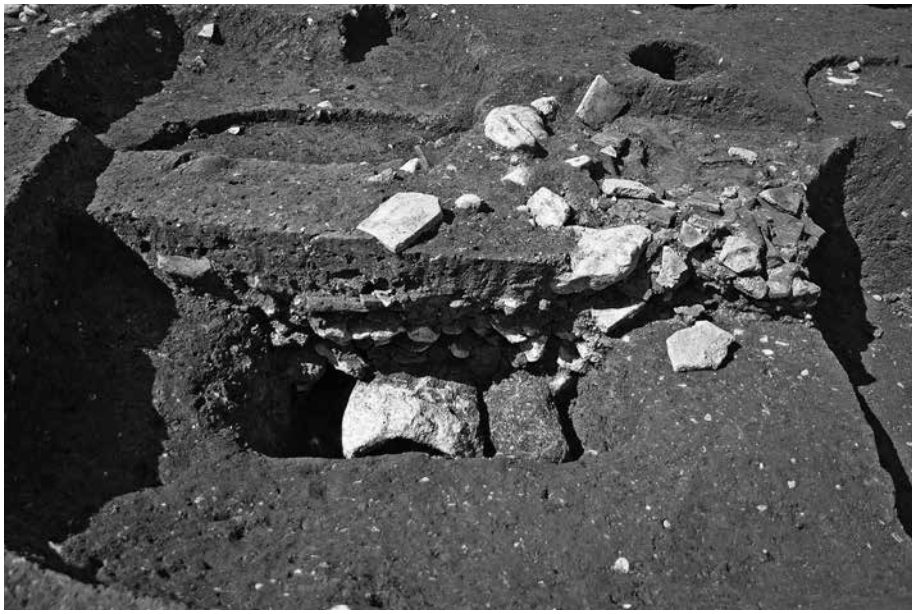
図版第26　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第２面集石遺構ＳＸ3b55
半掘状況(北から)

(2)第２面土坑ＳＫ3b26(北から)

(3)第２面土坑ＳＫ3b26半掘状況
(北から)

図版第27　平安京跡(左京一条三坊二町)



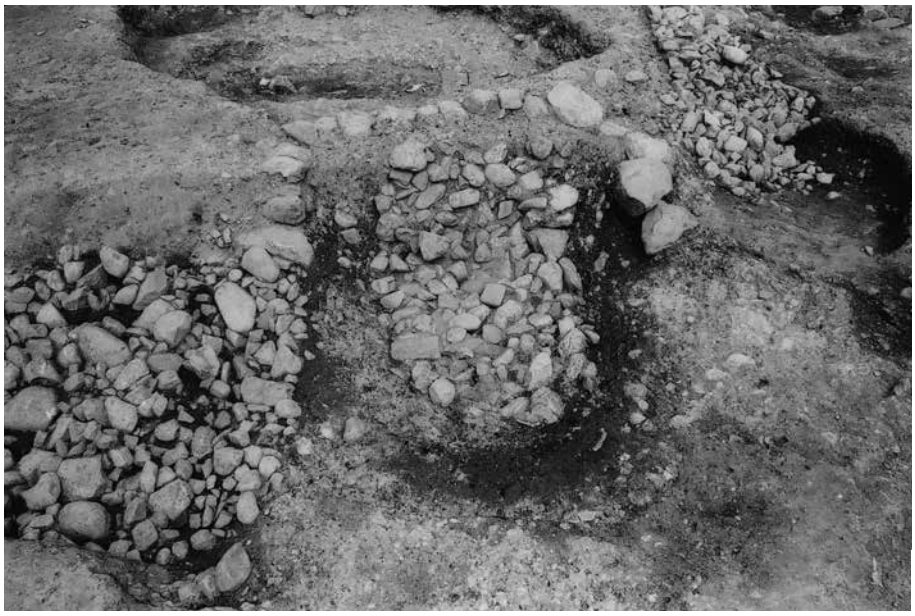
(1)第２面土坑ＳＫ2a157・241堆積状況(東から)

(2)第２面土坑ＳＫ2a157断面(東から)

(3)第２面土坑ＳＫ2a157(東から)

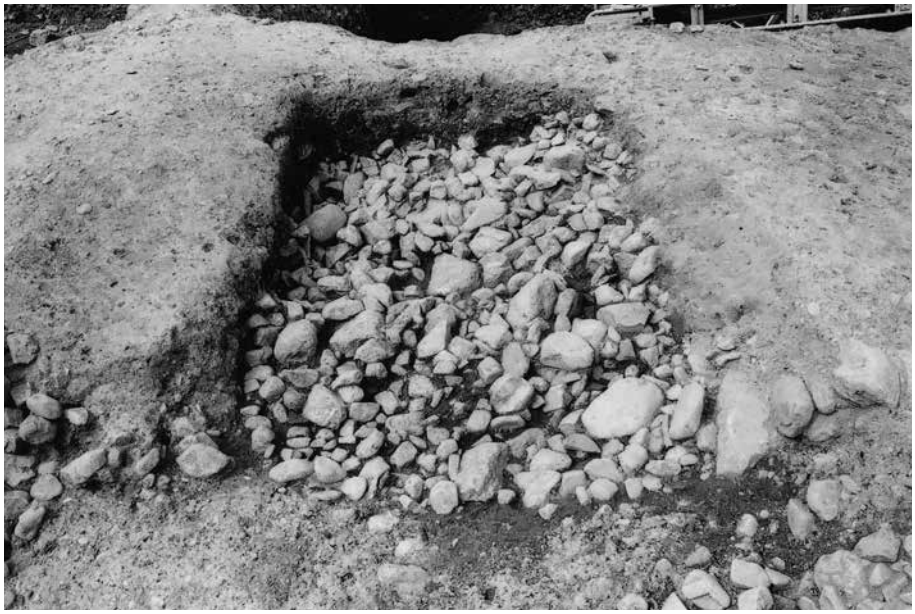
図版第28　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第２面集石遺構ＳＸ3a165・198～200・202、石室ＳＫ3a201、土坑ＳＫ3a192(南から)

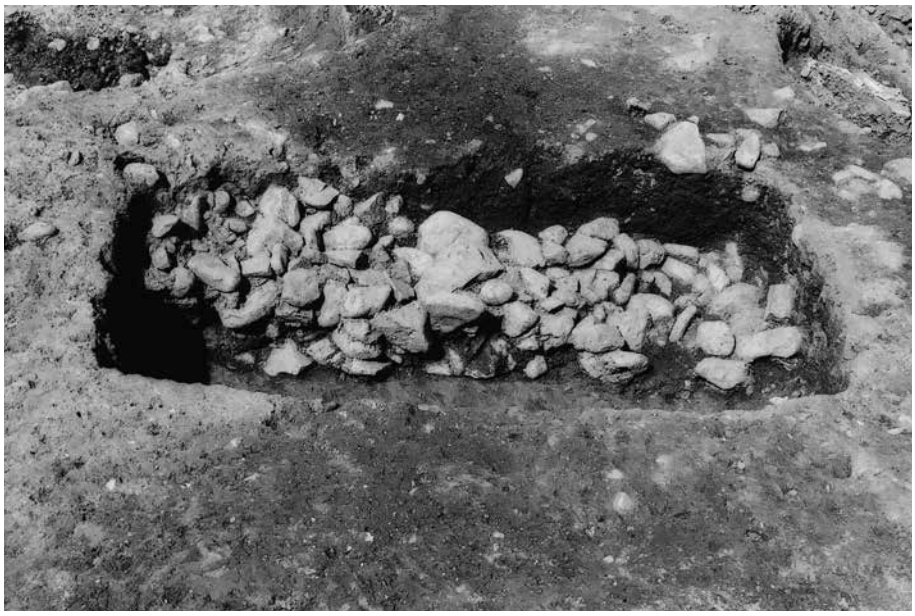


(2)第２面集石遺構ＳＸ3a199、石室ＳＫ3a201(西から)

(3)第２面集石遺構ＳＸ3a199、石室ＳＫ3a201(北から)



（1）第２面集石遺構ＳＸ3a200
（南から）



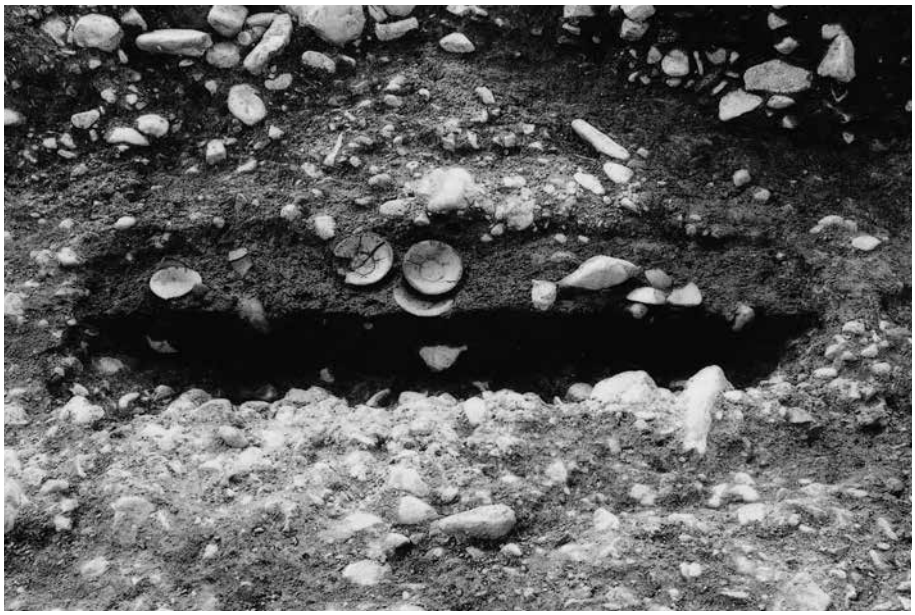
（2）第２面集石遺構ＳＸ3a202
半掘状況（西から）

（3）第２面集石遺構ＳＸ3a198
（西から）

図版第30　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第２面集石遺構ＳＸ3a165
(南から)

(2)第２面土坑ＳＫ3a192(北から)



(3)第２面土坑ＳＫ3a192半掘状況
(東から)

図版第31　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第２面土坑ＳＫ3a192完掘状況（北から）

（2）第２面土坑ＳＫ1b187（北から）

（3）第２面土坑ＳＫ1b188（北から）

図版第32　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第２面土坑ＳＫ2b369断面
（南西から）

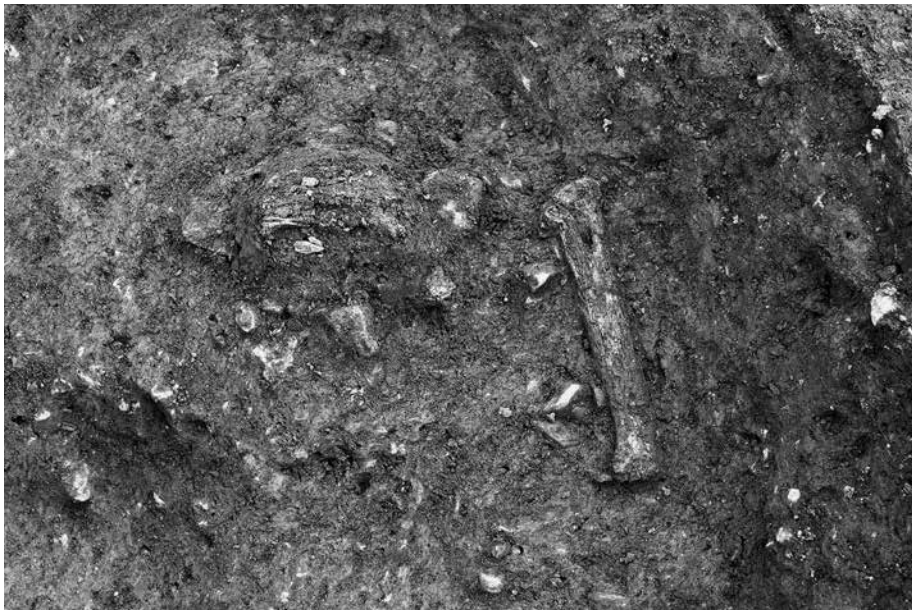
(2)第２面土坑ＳＫ2b369断面
（西から）

(3)第２面土坑ＳＫ2b369完掘状況
（西から）

図版第33　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第２面集石遺構ＳＸ1b391
（北から）

（2）第２面土坑ＳＫ2b311（北から）

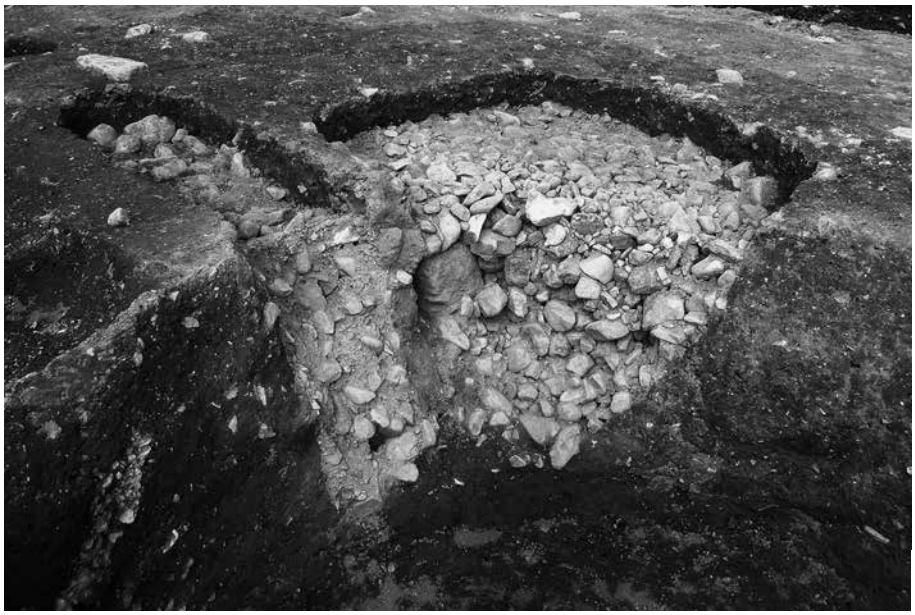


（3）第２面土坑ＳＫ2b311獣骨出土
状況（北から）

図版第34　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第２面土坑ＳＫ2b280
遺物出土状況(東から)

(2)第２面土坑ＳＫ2b339(西から)



(3)第２面集石遺構ＳＸ2a230・231
(南西から)

図版第35　平安京跡（左京一条三坊二町）

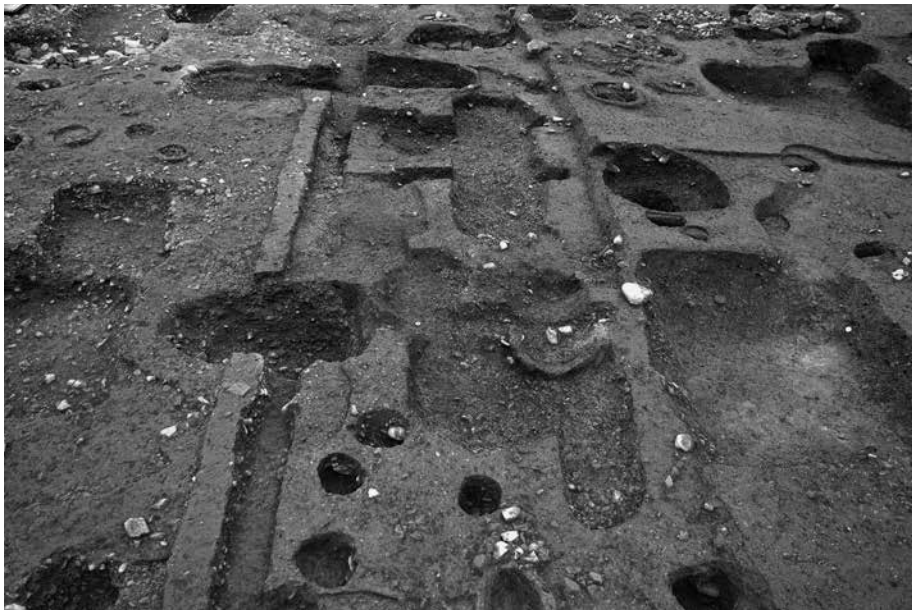
（1）第２面土坑ＳＫ3a450遺物出土状況（北から）

（2）第２面柱穴ＳＰ2a17遺物出土状況（南東から）

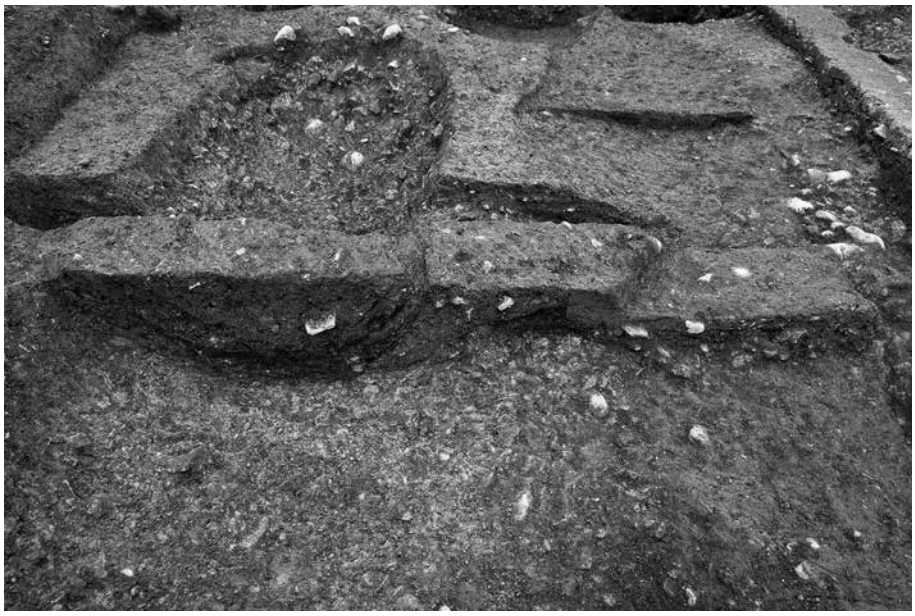
（1）第２面土坑ＳＫ1c13遺物出土状況（西から）

（2）第２面土坑ＳＫ1c13遺物出土状況（北から）

図版第37　平安京跡(左京一条三坊二町)



(1)第２面土坑ＳＫ1b436・481・493・494(西から)



(2)第２面土坑ＳＫ1b436断面(東から)

(3)第２面土坑ＳＫ1b460断面(南から)

図版第38　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第２面土坑ＳＫ1b481
遺物出土状況（東から）

（2）第２面土坑ＳＫ1b481
遺物出土状況（東から）

（3）第２面土坑ＳＫ1b494遺物出土
状況（西から）

図版第39　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第２面土坑ＳＫ1a55(北から)

(2)第２面土坑ＳＫ1a55
遺物出土状況(北から)

(3)第２面土坑ＳＫ1b151(西から)

図版第40　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第２面土坑ＳＫ1b151
遺物出土状況（西から）

（2）第２面土坑ＳＫ2b173断面
（南西から）

（3）第２面土坑ＳＫ2b173断面
（北から）

図版第41　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第２面石室ＳＫ1c34、
土坑ＳＫ1c126（南から）

（2）第２面石室ＳＫ1c34遺物出土
状況（東から）

（3）第２面土坑ＳＫ1c126遺物出土
状況（東から）

図版第42　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第２面土坑ＳＫ3b32半掘状況
(西から)

(2)第２面土坑ＳＫ3b32半掘状況
(南東から)

(3)第２面土坑ＳＫ3b32石材出土
状況(南東から)

図版第43　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第２面土坑ＳＫ3b32（西から）

（2）第２面土坑ＳＫ3b32断面
（東から）

（3）第２面土坑ＳＫ3b32完掘状況
（西から）

図版第44　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第２面土坑ＳＫ3b85
断ち割り断面(南東から)

(2)第２面土坑ＳＫ3b85
(東から)

(3)第２面土坑ＳＫ3b147
鉄製品出土状況(南から)

図版第45　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第２面土坑ＳＫ3b147
鉄製品出土状況（南から）

（2）第２面集石遺構ＳＸ3b128
（西から）

（3）第２面集石遺構ＳＸ3b128
半掘状況（東から）

図版第46　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第２面１ｃ地区南北土坑群全景（北から）

（2）第２面南北土坑ＳＫ203－３・4断面（北西から）

図版第47　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第２面南北土坑ＳＫ203－3・4断面(北西から)

(2)第２面南北土坑ＳＫ1c20断面(南西から)

(1)第２面南北土坑ＳＫ1b152・479断面(北から)

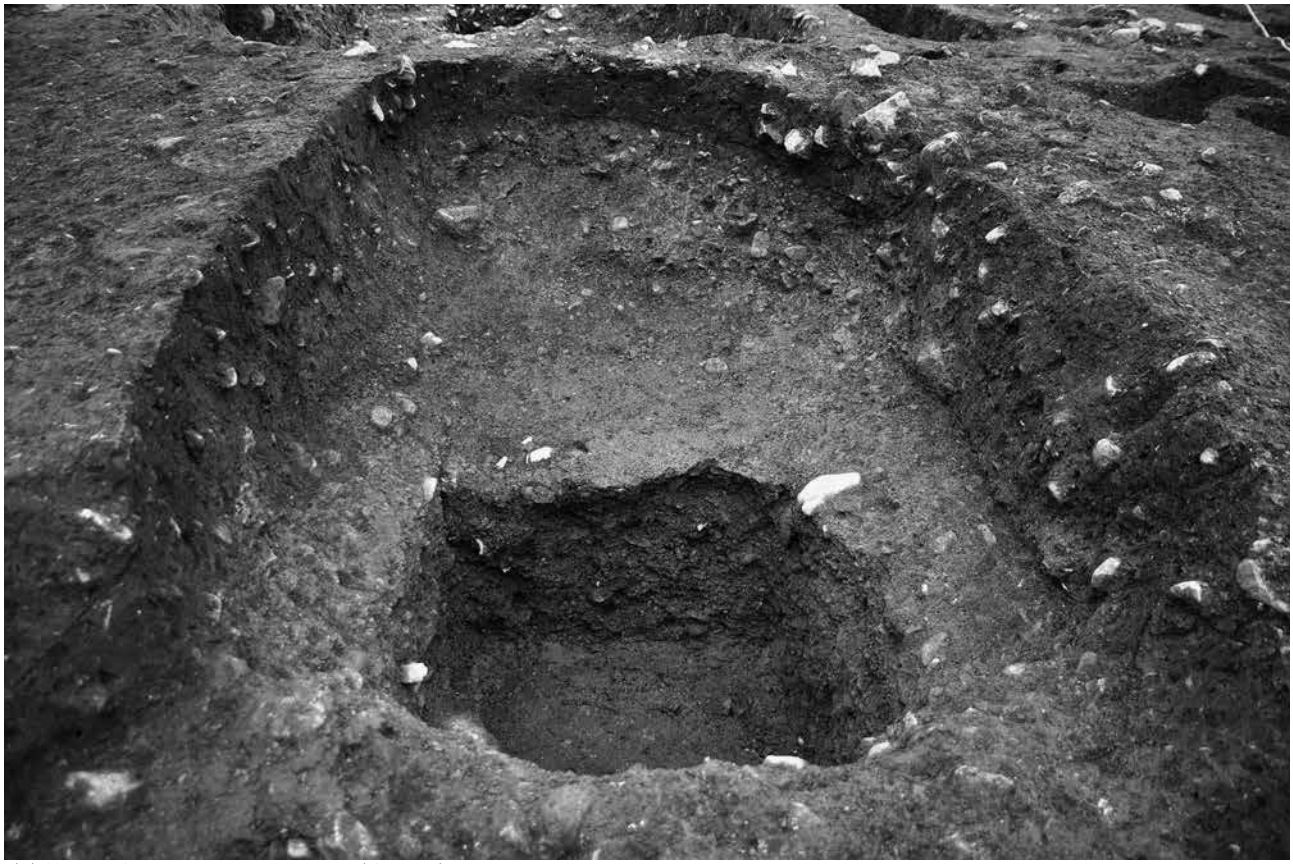
(2)第２面南北土坑ＳＫ1c155・261断面(北東から)

図版第49　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第２面南北土坑ＳＫ1b479（北から）

（2）第２面南北土坑ＳＫ1c175断面（北から）

図版第50　平安京跡（左京一条三坊二町）



（1）第２面南北土坑ＳＫ1c08断面（南から）

（2）第２面南北土坑ＳＫ1c08（南から）

図版第51　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第２面土坑ＳＫ2b288 ～ 290（北西から）

（2）第２面土坑ＳＫ2b288断面（北から）

（1）第２面土坑ＳＫ2b289断面（北から）

（2）第２面土坑ＳＫ2b290断面（北から）

図版第53　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第３面調査地北側全景（南西から）

（2）第３面調査地北側全景（西から）

図版第54　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第３面堀Ａ全景（東から）

（2）第３面堀Ａ全景（西から）

図版第55　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第３面堀Ａ　ａ－ａ’断面(東から)

(2)第３面堀Ａ　ｃ－ｃ’断面(東から)

図版第56　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第３面堀Ａ　ａ－ａ’断面下部(東から)

(2)第３面堀Ａ　ｂ－ｂ’断面(東から)

図版第57　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第３面堀Ａ全景（東から）

（2）第３面堀Ａ（東から）

図版第58　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第３面堀Ｂ北側（南から）

（2）第３面堀Ｂ北側完掘状況（北から）

図版第59　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第３面堀Ｂ　ｉ－ｉ’断面(北から)

(2)第３面堀Ｂ　ｈ－ｈ’断面(南から)

図版第60　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第３面１ｃ・２ｂ地区全景(北東から)

(2)第３面１ｃ・２ｂ地区全景(北西から)

図版第61　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第３面３ａ・３ｂ地区全景(南から)

(2)第３面１ｃ・２ｂ地区全景(北西から)

図版第62　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第３面３ａ全景(北から)

(2)第３面３ａ全景(西から)

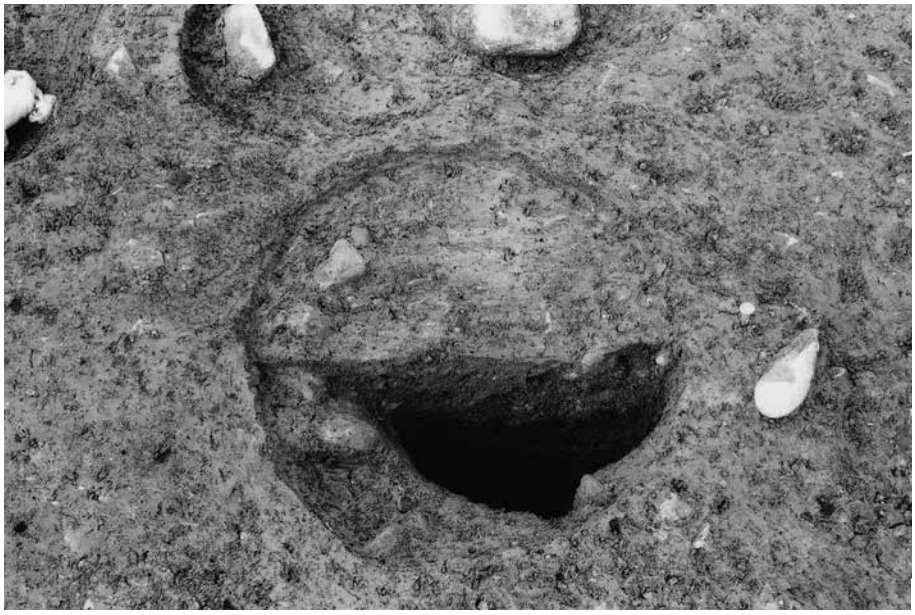
図版第63　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第３面建物ＳＢ2b206（北西から）

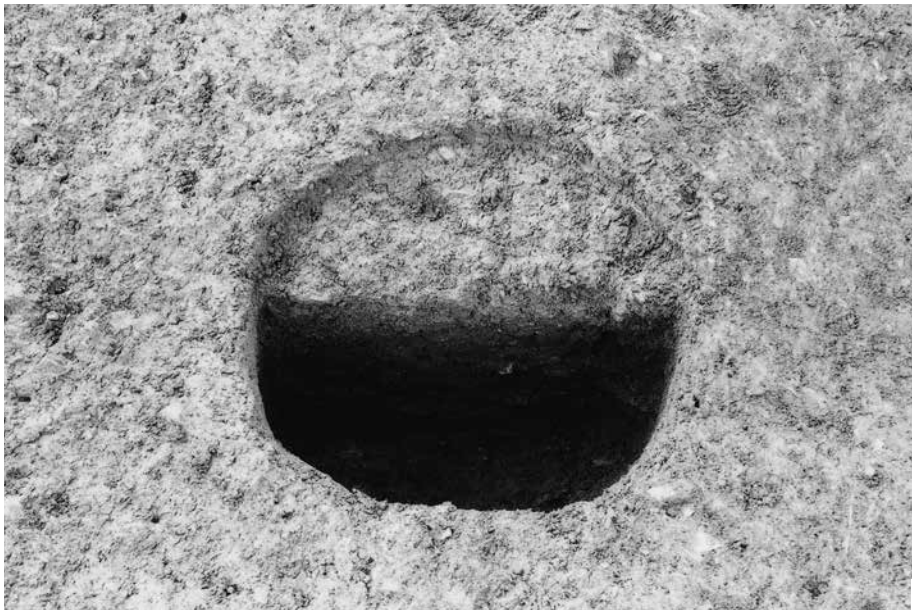
（2）第３面建物ＳＢ2b206（東から）

図版第64　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第３面柱穴ＳＰ2b211（南から）



（2）第３面柱穴ＳＰ2b210（南から）

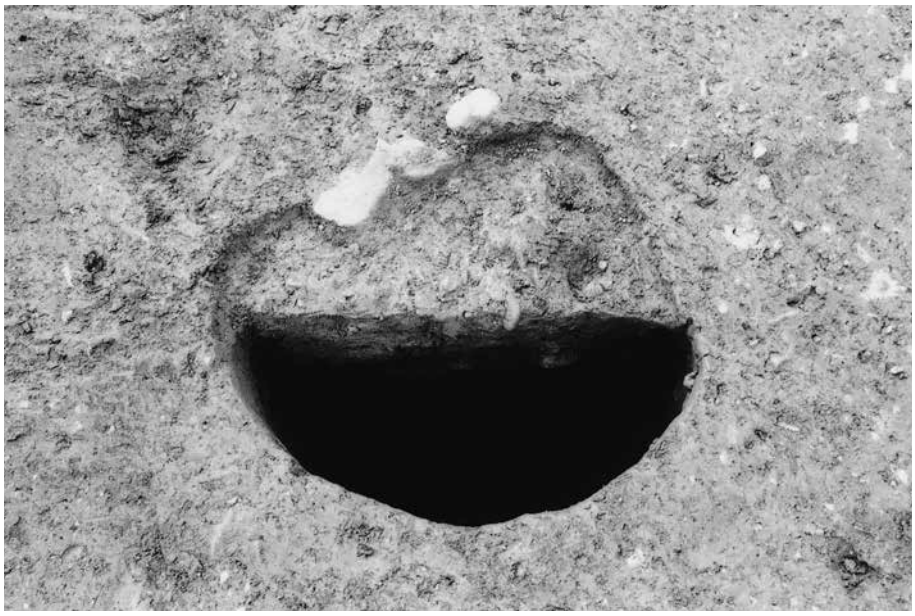


（3）第３面柱穴ＳＰ2b212（南から）

図版第65　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第３面柱穴ＳＰ2b209
（南東から）

（2）第３面柱穴ＳＰ2b208（東から）



（3）第３面柱穴ＳＰ2b207（東から）

図版第66　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第３面柱穴列ＳＡ1c341（南から）

（2）第３面柱穴列ＳＡ2b640（西から）

図版第67　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第３面柱穴列ＳＡ1b341
半掘状況（南西から）

（2）第３面柱穴列ＳＡ1b341
半掘状況（西から）

（3）第３面柱穴列ＳＡ1b341
断面（西から）

図版第68　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第３面柱穴列ＳＡ1b341
断面（南から）

（2）第３面柱穴列ＳＡ1b341
断面（南から）

（3）第３面柱穴列ＳＡ1b341
（南から）

図版第69　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第３面柱穴列ＳＡ1b341
断面（北から）

（2）第３面柱穴列ＳＡ1b341
（南から）

（3）第３面柱穴列ＳＡ1b341全景
（南から）

図版第70　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第３・４面２ｂ地区柱穴群(南東から)

(2)第３・４面２ｂ地区柱穴群(北から)

図版第71　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第３面溝ＳＤ3b369(東から)

(2)第３面溝ＳＤ3b369断面(東から)

図版第72　平安京跡(左京一条三坊二町)

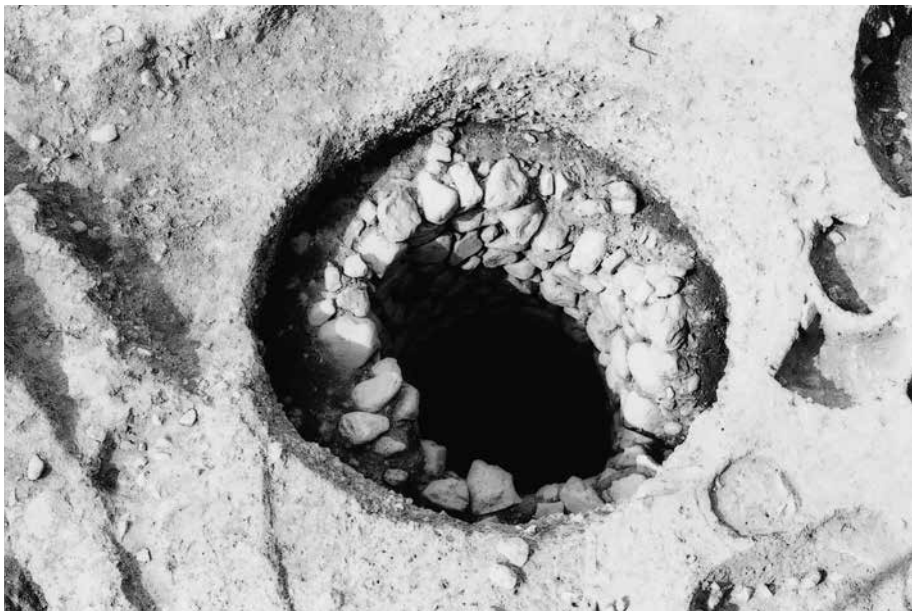
(1)第３面溝ＳＤ2b522(北から)

(2)第３面溝ＳＤ2b522、柱穴列ＳＡ2b640(西から)

図版第73　平安京跡（左京一条三坊二町）

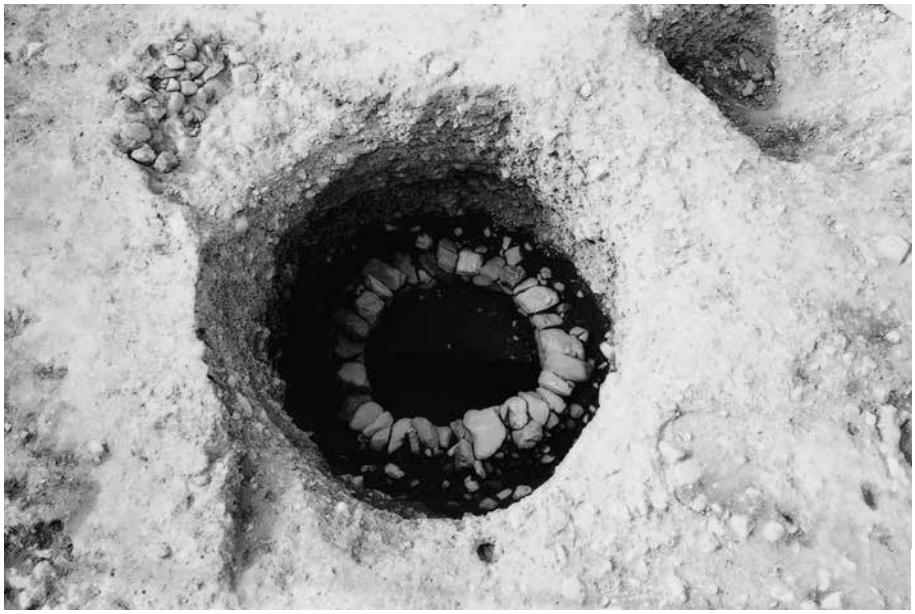
（1）第３面溝ＳＤ2b522断面
（北東から）

（2）第３面溝ＳＤ2b522断面
（北東から）

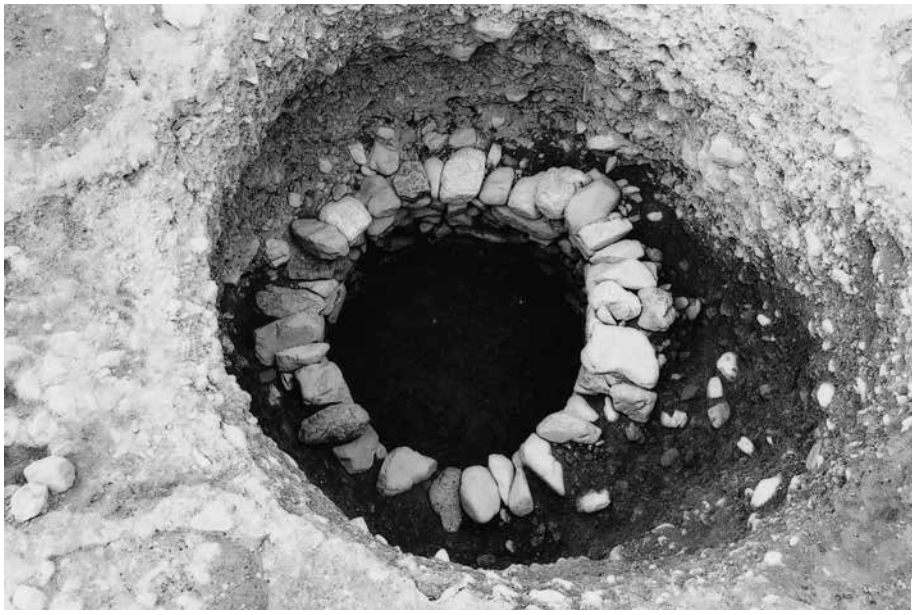


（3）第３面井戸ＳＥ1c515（南から）

図版第74　平安京跡(左京一条三坊二町)



(1)第３面井戸ＳＥ1b219
（南東から）

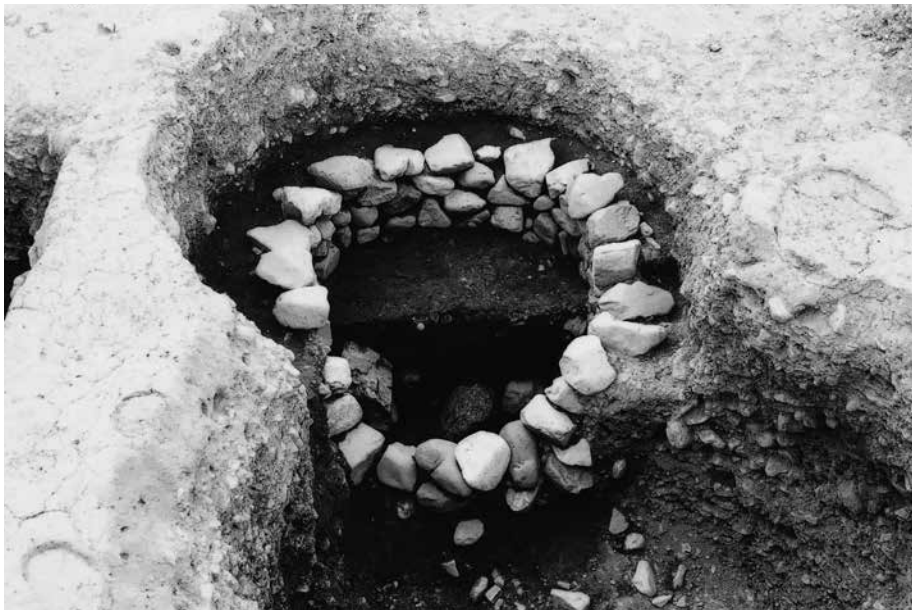


(2)第３面井戸ＳＥ1b219(東から)

(3)第３面井戸ＳＥ1b219
断ち割り状況(南東から)

図版第75　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第３面井戸ＳＥ1b211半掘状況
（北西から）

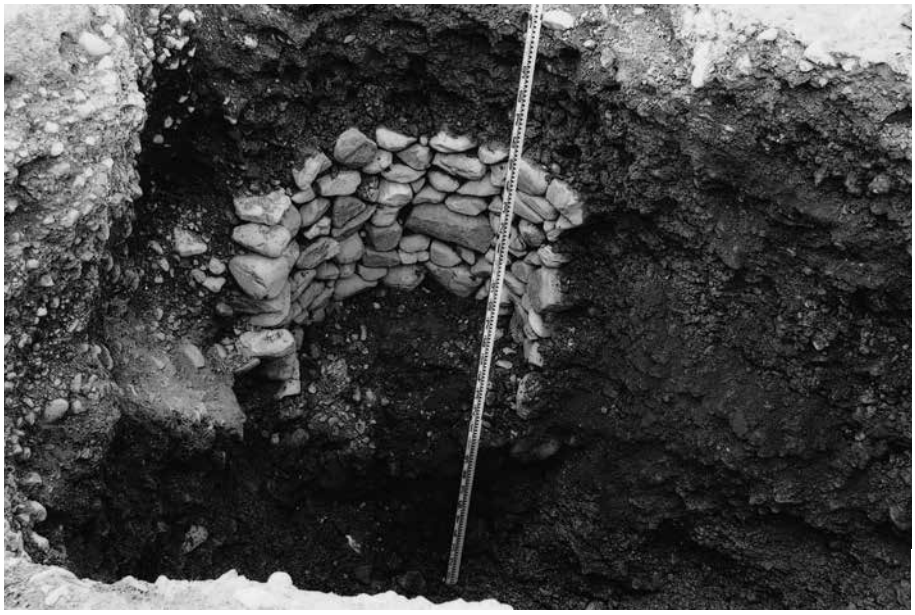


（2）第３面井戸ＳＥ1b211半掘状況
（東から）

（3）第３面井戸ＳＥ1b211（東から）

図版第76　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第３面井戸ＳＥ1b211（東から）



（2）第３面井戸ＳＥ1b211
断ち割り断面（東から）

（3）第３面井戸ＳＥ2b476（西から）

図版第77　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第３面井戸ＳＥ3a493
半掘状況（西から）

（2）第３面井戸ＳＥ3a493
（南西から）

（3）第３面井戸ＳＥ3a493（北から）

図版第78　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第３面集石遺構ＳＸ2a472・515
(北東から)

(2)第３面集石遺構ＳＸ2a515
(東から)

(3)第３面集石遺構ＳＸ2a515
半掘状況(東から)

図版第79　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第３面集石遺構ＳＸ2a472
（北東から）

（2）第３面集石遺構ＳＸ2a472
断面（東から）

（3）第３面集石遺構ＳＸ2a425
断ち割り状況（北から）

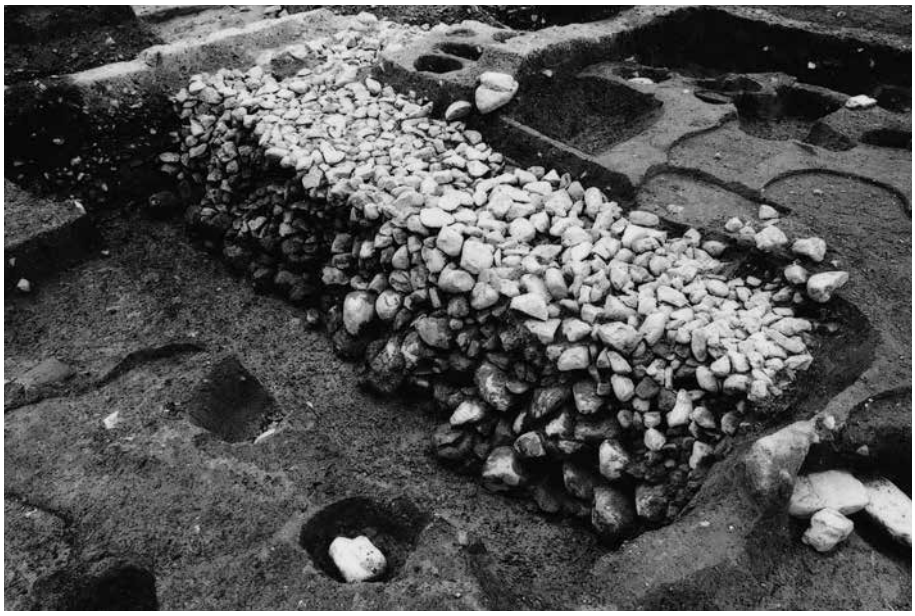
図版第80　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第３面集石遺構ＳＸ2a254
検出状況（北東から）

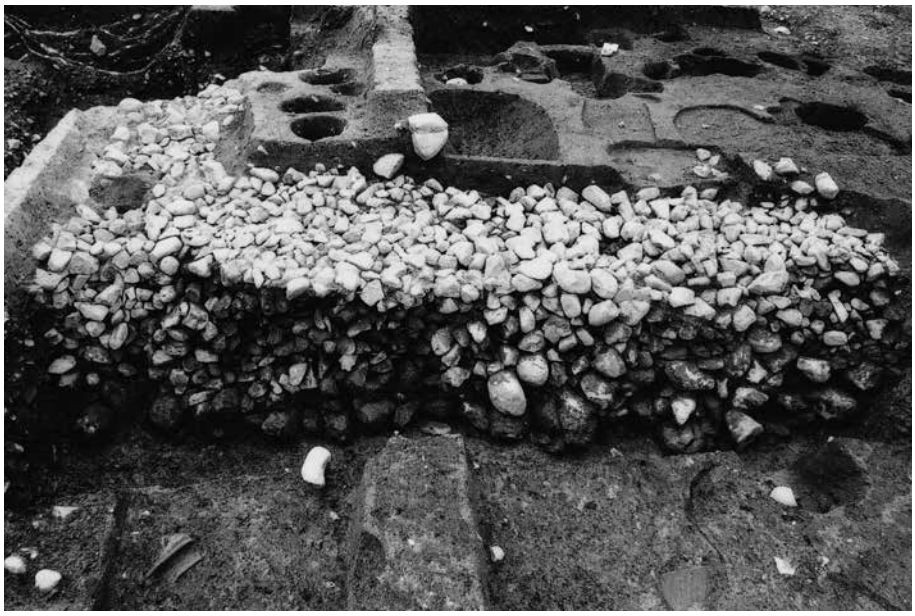
（2）第３面集石遺構ＳＸ2a254
検出状況（北から）

（3）第３面集石遺構ＳＸ2a254
検出状況（北西から）

（1）第３面集石遺構ＳＸ2a254
（北から）



（2）第３面集石遺構ＳＸ2a254
半掘状況（北西から）



（3）第３面集石遺構ＳＸ2a254
半掘状況（北から）

図版第82　平安京跡（左京一条三坊二町）

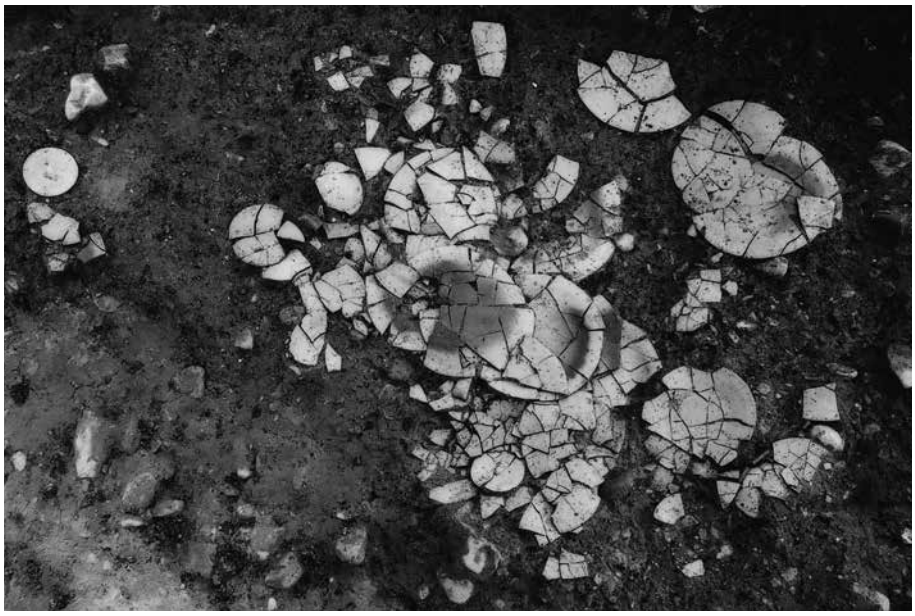
（1）第３面土坑ＳＫ2b280断面
（東から）

（2）第３面土坑ＳＫ2b280
遺物出土状況（東から）

（3）第３面土坑ＳＫ2b397
遺物出土状況（南東から）

図版第83　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第３面土坑ＳＫ3b344
遺物出土状況（東から）



（2）第３面土坑ＳＫ3b344
遺物出土状況（東から）

（3）第３面土坑ＳＫ2b414（南から）

図版第84　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第３面土坑ＳＫ1a62（南から）

（2）第３面土坑ＳＫ2a716（北西から）

（1）第４面土坑ＳＫ3a772
遺物出土状況（西から）

（2）第４面土坑ＳＫ3a772
遺物出土状況（西から）

（3）第４面土坑ＳＫ3a772
遺物出土状況（東から）

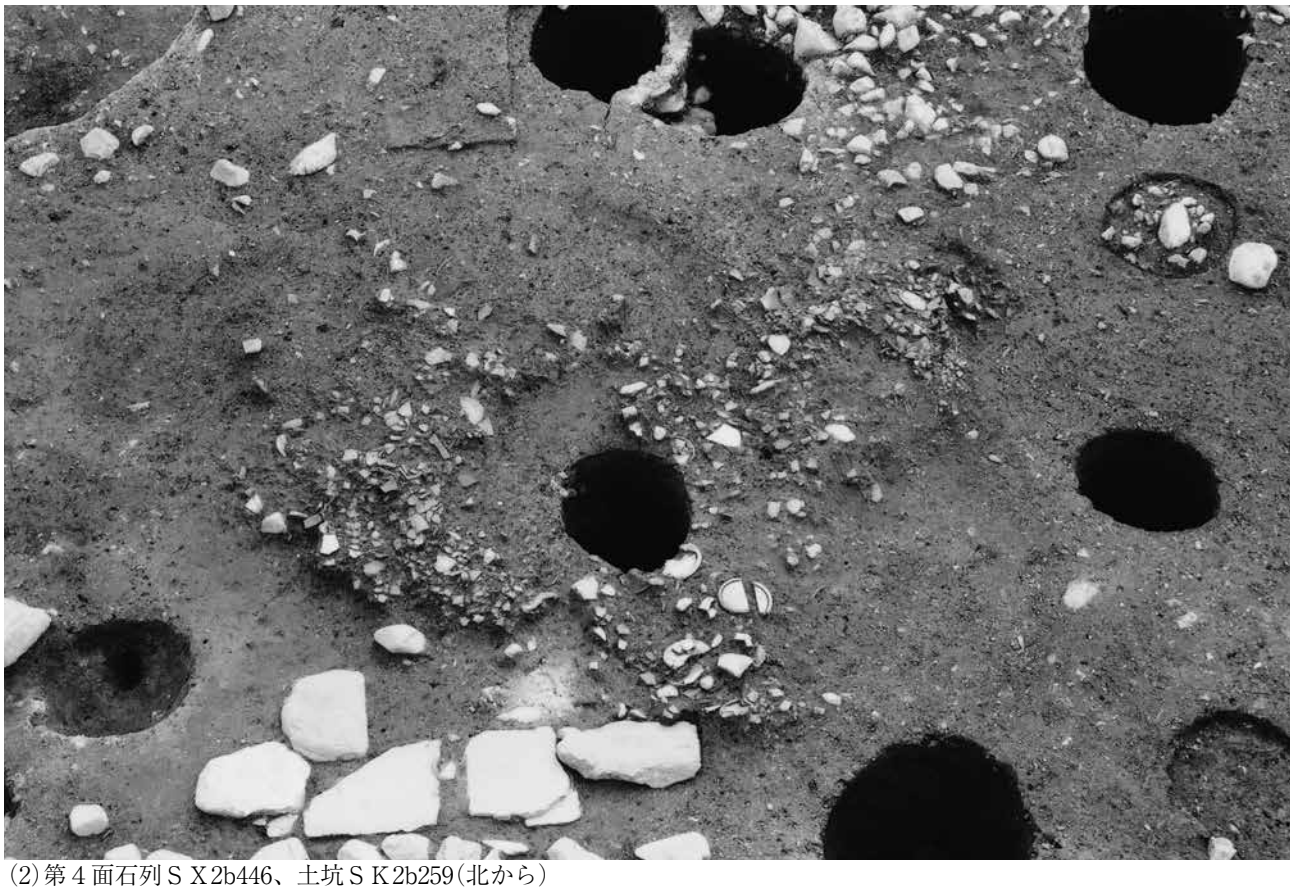
図版第86　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第４面溝ＳＤ1b660全景（西から）

（2）第４面１ｃ地区及び溝ＳＤ1b660全景（北から）

図版第87　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第４面石列ＳＸ2b446、土坑ＳＫ2b259（北から）



（2）第４面石列ＳＸ2b446、土坑ＳＫ2b259（北から）

図版第88　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第４面石列ＳＸ2b446
（南西から）

(2)第４面石列ＳＸ2b446(西から)

(3)第４面石列ＳＸ2b446(西から)

(1)第４面土坑ＳＫ2b259堆積状況(南東から)

(2)第４面土坑ＳＫ2b259堆積状況(北東から)

（1）第４面溝ＳＤ2a481遺物出土状況（南から）

（2）第４面溝ＳＤ2a481（南から）

図版第91　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第４面溝ＳＤ2a481断面
（北から）

（2）第４面溝ＳＤ2a481断面
（北から）

（3）第４面溝ＳＤ2a481
遺物出土状況（北から）

図版第92　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第４面溝ＳＤ2a481
遺物出土状況（北から）

（2）第４面溝ＳＤ2a481
遺物出土状況（西から）

（3）第４面溝ＳＤ2a481断面
（北から）

(1)第４面３ｂ地区溝ＳＤ1b660(東から)

(2)第４面３ｂ地区溝ＳＤ1b660(北から)

図版第94　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第４面２ｂ地区溝ＳＤ1b660(東から)

(2)第４面２ｂ地区溝ＳＤ1b660(西から)

図版第95　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第４面溝ＳＤ1b660断面（東から）

（2）第４面溝ＳＤ1b660断面（東から）

図版第96　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第４面溝ＳＤ1b660断面
（東から）

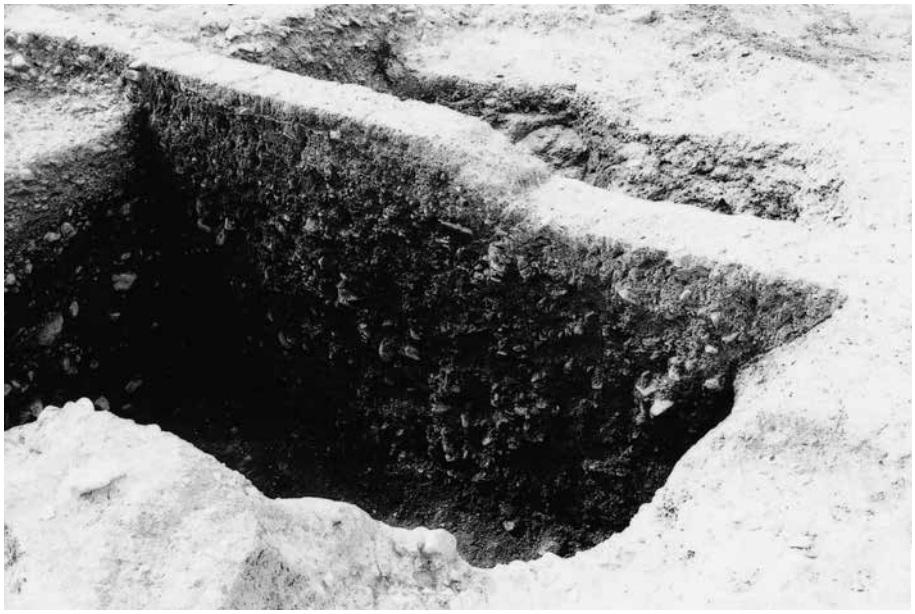
(2)第４面溝ＳＤ1b660断面
（東から）

(3)第４面溝ＳＤ1b660断面
（西から）

（1）第４面井戸ＳＥ2b616（北東から）

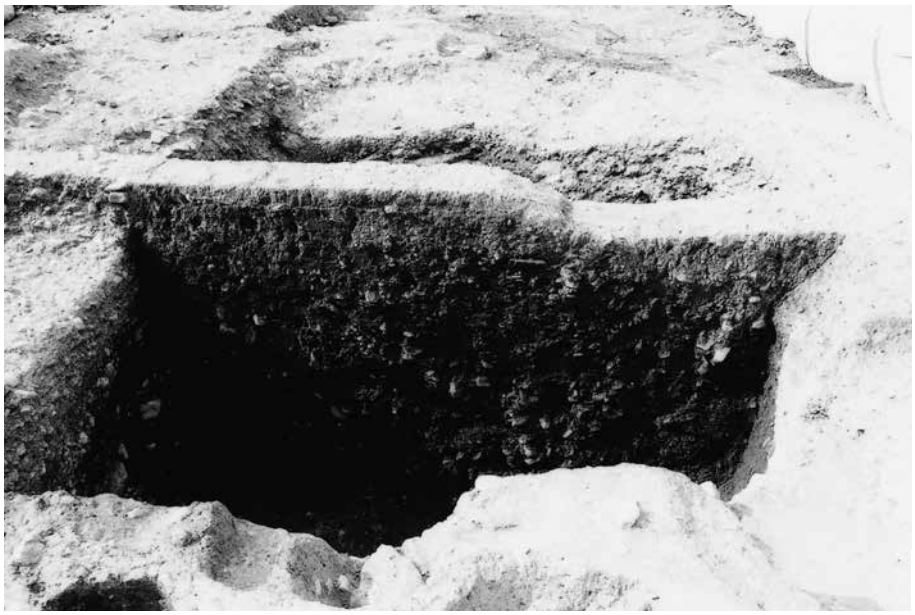
（2）第４面井戸ＳＥ2b616（南から）

図版第98　平安京跡（左京一条三坊二町）



（1）第４面井戸ＳＥ2b616断面
（南東から）

（2）第４面井戸ＳＥ2b616断面
（北西から）



（3）第４面井戸ＳＥ2b616下層断面
（南から）

図版第99　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第４面土坑ＳＫ3b463遺物出土状況（南から）

（2）第４面土坑ＳＫ3b463断面（南から）

（3）第４面土坑ＳＫ3b486断面（南から）

図版第100　平安京跡(左京一条三坊二町)

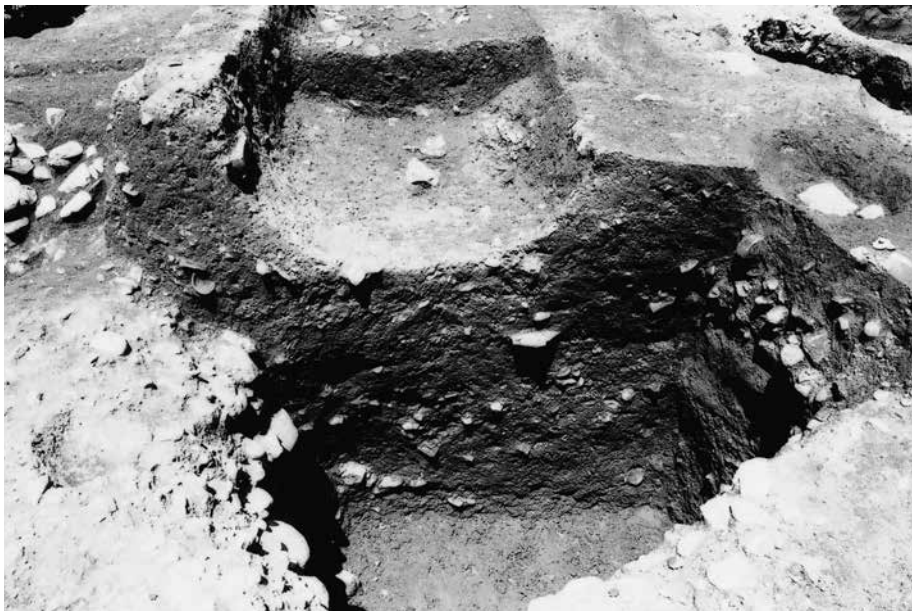
(1)第４面土坑ＳＫ2b442(北から)

(2)第４面土坑ＳＫ2b442遺物出土状況(南から)

(3)第４面土坑ＳＫ2b442遺物出土状況(西から)

図版第101　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第４面土坑ＳＫ2b442(西から)



(2)第４面土坑ＳＫ2b567(南から)

(3)第４面土坑ＳＫ2b567(北から)

図版第102　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第４面土坑ＳＫ2b720
遺物出土状況(南東から)

(2)第４面土坑ＳＫ2b720
遺物出土状況(北西から)

(3)第４面土坑ＳＫ2b720
遺物出土状況(北から)

図版第103　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第４面土坑ＳＫ2b566
遺物出土状況（西から）

（2）第４面土坑ＳＫ2b566
遺物出土状況（南から）

（3）第４面土坑ＳＫ2b566（南から）

図版第104　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第４面３ａ地区全景（東から）

（2）第４面柱穴列ＳＡ3a872（西から）

図版第105　平安京跡（左京一条三坊二町）

（1）第４面３ａ地区北西部（南西から）

（2）第４面溝ＳＤ3a822断面（北西から）

図版第106　平安京跡(左京一条三坊二町)

(1)第４面溝ＳＤ3a868断面(南西から)

(2)第４面溝ＳＤ3a868・890(東から)

図版第107　平安京跡（左京一条三坊二町）

41

38

36

45

53

47

52

44

65

60

61

59

64

出土遺物 1

図版第108　平安京跡（左京一条三坊二町）

49

99

140

128

141

164

159

171

165

出土遺物２

図版第109　平安京跡（左京一条三坊二町）

170

179

172

177

172

177

180

178

出土遺物３

図版第110　平安京跡(左京一条三坊二町)

181

184

186

194

211

210

212

214

209

314

224

201

出土遺物 4

図版第111　平安京跡(左京一条三坊二町)

298

362

235

石 6

295

222

226

出土遺物５

図版第112　平安京跡（左京一条三坊二町）

533

634

502

638

989

737

759

859

861

535

632

498

639

991

738

760

764

853

出土遺物６

図版第113　平安京跡(左京一条三坊二町)

852

844

865

476

477

842

847

745

811

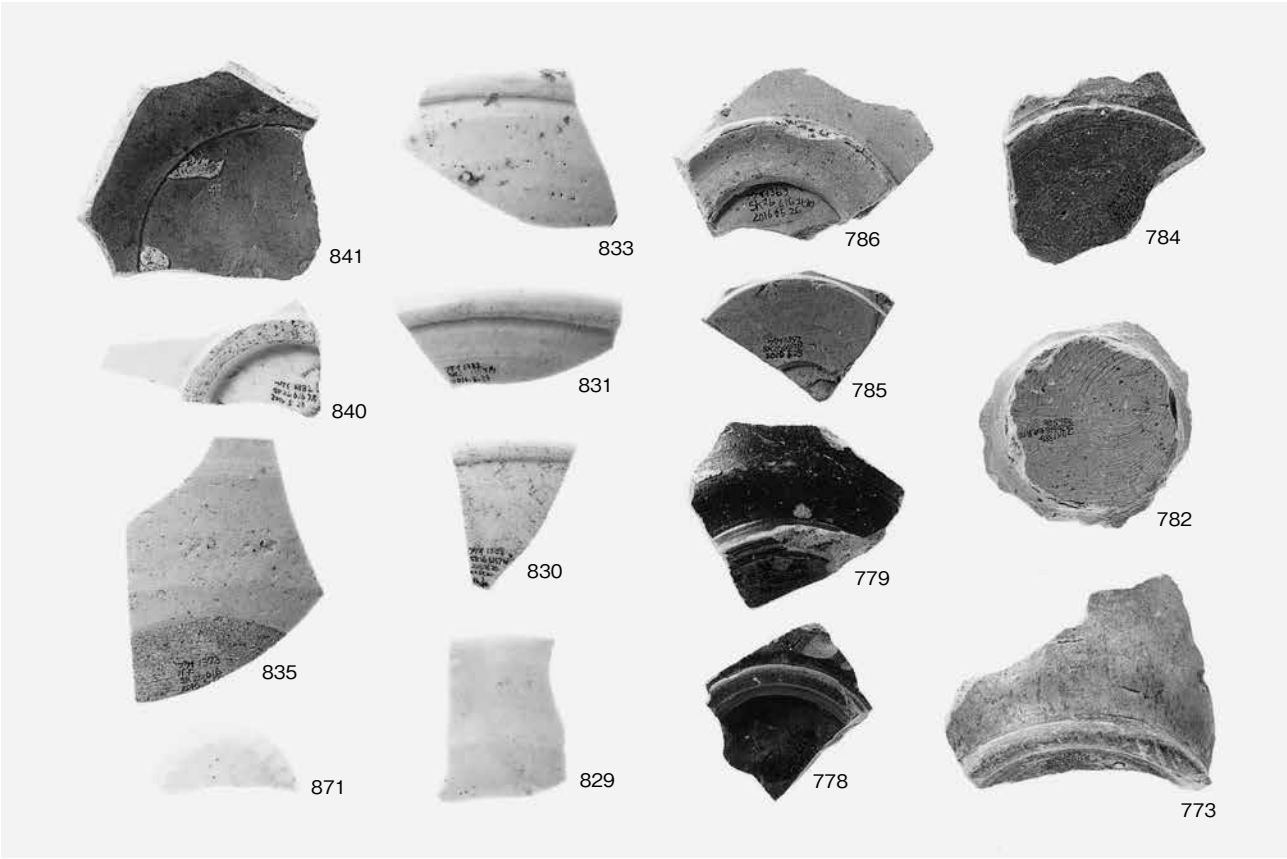
616

806

843

出土遺物７

図版第114　平安京跡(左京一条三坊二町)



(1)出土遺物８

(2)出土遺物９

報告書抄録

ふりがな	きょうとふいせきちょうさほうこくしゅう
書名	京都府遺跡調査報告集
副書名	
巻次	第176冊
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第176冊
編著者名	中川和哉・引原茂治・岡﨑研一・綾部侑真・田原葉月
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002　京都府向日市寺戸町南垣内40番の３　　Tel. 075(933) 3877
発行年月日	西暦2018年３月30日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		㎡	
へいあんきょうあと（さきょうさんじょうさんぼうにちょう） 平安京跡（左京一条三坊二町）	きょうとしかみぎょうくしもちょうじゃどおりしんまちにしいるやぶのうちちょう 京都市上京区下長者町新町西入藪ノ内町 42 番地	26102	170 242	35° 01′ 20″	135° 45′ 22″	20150903 ～ 20160317 20160404 ～ 20170106	2,200 3,360	建物建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京跡	都城	平安～江戸	礎石建物・柱穴・溝・堀・土坑・石室・井戸	土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・黒色土器・瓦器・輸入陶磁器・国産陶磁器・瓦・金箔瓦・銭貨・銅製品・鉄製品・石製品	

所収遺跡名	要約
平安京跡	調査地は平安京の一条三坊二町にあたり、北側に鷹司小路が敷設されていた地点である。調査では、鷹司小路の南側溝の一部とみられる溝を検出した。このほか、平安時代の遺構としては、12世紀前半頃の井戸などを検出した。中世の遺構では、戦国時代の上京の街を守る構の堀を検出した。ほぼ正方位に沿って東西に直線的に延びる。北側には土塁があったと考えられ、調査地は、ほとんどが構の外側であったとみられる。中世の大規模な構の実態を示す重要な遺構と言える。近世初頭には、豊臣秀吉が造営した聚楽第に伴う大名屋敷地となっていたものとみられ、金箔瓦が出土している。江戸時代初期には上級町衆の宅地となっていたと考えられる。廃棄土坑と考えられる土坑群からは、瀬戸美濃系陶器や肥前系陶器などの茶道具とみられる陶器が多数出土している。輸入陶磁器も出土しており、中国製磁器のほかに、朝鮮やヴェトナムなどのものも含まれる。交易品の容器とみられるものもあり、この地に住んだ町衆の性格を物語るものとも言えよう。江戸時代末には京都守護職となった松平容保の会津藩上屋敷地となる。長屋と考えられる礎石建物を検出した。以上のように、平安時代から近世に至るまでの土地利用の状況がわかる、重要な調査事例である。

京都府遺跡調査報告集 第176冊

平成30年３月30日

発行　公益財団法人
京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002　向日市寺戸町南垣内40番の３
Tel (075)933-3877(代)　Fax (075)922-1189
http://www.kyotofu-maibun.or.jp

印刷　三星商事印刷株式会社
〒604-0093　京都市中京区新町通竹屋町下ル
Tel　(075)256-0961　Fax　(075)231-7141